

森町

# 三次郎川右岸遺跡

—北海道縦貫自動車道（七飯～長万部）埋蔵文化財発掘調査報告書—

平成18年度

財団法人 北海道埋蔵文化財センター

森町

# 三次郎川右岸遺跡

—北海道縦貫自動車道（七飯～長万部）埋蔵文化財発掘調査報告書—

平成18年度

財団法人 北海道埋蔵文化財センター





三次郎川右岸遺跡周辺の地形（空中写真）  
（この写真は財団法人日本地図センター発行の空中写真に加筆して掲載したものである。）

カラー図版 2



1 遺跡の立地（北西から）



2 調査風景（北西から）



1 遺跡遠景（北西から）



2 2004年度調査区完掘状況（南から）

カラー図版 4



II

III

IV

V

VII・VI

VIII 1

VIII 2

4 基本層序 ①斜面最上部 (N-32区)(北西から)



1 S-2 確認状況 (南から)



2 S-2 確認状況 (北西から)





1 H-14完掘状況 (南西から)



2 P-72土層断面 (南西から)



1 F-1・9土層断面（北西から）



2 P-75埋甕（東から）



石製品



## 例 言

1. 本書は日本道路公団北海道支社が行う北海道縦貫自動車道（七飯～長万部）建設工事に伴い、財団法人北海道埋蔵文化財センターが平成15・16年度に実施した森町三次郎川右岸遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 平成15・16年度の調査、平成15～17年度の整理事業を第2調査部第3調査課が担当した。
3. 本書の執筆は、各章・節について担当の調査員がそれぞれ行い、文末に文責者名を記している。全体の編集は末光正卓、大泰司統が行った。
4. 遺構については、図面・土層・表を末光が整理し、統括した。遺物は土器類を大泰司、石器類を末光が担当した。
5. 遺物等の現場での一次整理および台帳管理は大泰司が担当した。
6. 発掘調査での写真撮影は各担当の調査員が行った。遺物の写真撮影と焼付けは末光が行った。
7. フローテーション試料については大泰司が担当し、分析依頼をした。
8. 各種分析、同定は下記に依頼した。
  - 動物遺存体／焼骨同定（東京国立博物館 金子浩昌）
  - 植物遺存体／炭化種子同定（札幌国際大学 椿坂恭代）
  - 炭化物／放射性炭素年代測定（パレオ・ラボAMS年代測定グループ）
10. 石器類の石材鑑定は末光が行った。
11. 遺物・記録類は整理および報告書作成後、森町教育委員会が保管する。
12. 調査にあたっては下記の諸機関および諸氏にご協力、ご指導頂いた。

北海道教育庁文化課、森町教育委員会、八雲町教育委員会、長万部町教育委員会、八雲町郷土資料館：三浦孝一・柴田信一、札幌国際大学・椿坂恭代、北海道開拓記念館：平川善洋・山田悟郎・石代啓視・鈴木琢也、北海道北方博物館交流協会：野村 崇、函館市教育委員会：田原良信・野村祐一・阿部千春・福田祐二・長谷部一弘・佐藤智雄、厚沢部町教育委員会：石井淳平、七飯町教育委員会：山田 央、函館市埋蔵文化財調査団：佐藤一夫、小林 貢・輪島慎二・坪井睦美・荻野幸男、今金町教育委員会：寺崎康史、上磯町教育委員会：森 靖裕、上ノ国町教育委員会：松崎水穂・斉藤邦典・塚田直哉、木古内町教育委員会：菅野文二・木本 豊・三上英則・大谷内愛史、知内町教育委員会：松本征八・高橋豊彦、松前町教育委員会：久保 泰・前田正憲・谷岡康孝・天方直仁、伊達市教育委員会：大島直行・青野友哉、苫小牧市博物館：赤石慎三、札幌市埋蔵文化財センター：上野秀一・羽賀憲二・仙庭伸久・石井 淳、石狩市教育委員会：石橋孝夫・工藤義衛、青森県埋蔵文化財調査センター：鈴木克彦、成田滋彦、茅野嘉雄、青森市教育委員会：遠藤正夫・児玉大成、青森大学：葛西 勲、八戸市教育委員会：村木 淳、東北町教育委員会：古屋敷則雄、七ヶ浜町歴史資料館：川村 正、陸前高田市立博物館：佐藤正彦、大船渡市立博物館：水見淳哉、東京国立博物館：金子浩昌、札幌市在住：田部 淳、大沼忠春、中村賢太郎

## 記号等の説明

1. 遺構については、次のように略号を付した。

竪穴式住居跡：H 土坑・柱穴：P 焼土：F 柱穴状の小土坑：SP  
礫集中・配石遺構：S フレイク・チップの集中：FC

2. 実測図・拓影図の縮尺は、次のとおりであり、スケールを付している。

遺構 1：40 復元土器 1：3 破片土器 1：3 土製品 1：3  
剥片石器 1：2 磨製石器 1：2 礫石器 1：3 大型の礫石器 1：4  
石製品 1：2

3. 図中の方位は真北を示し、磁北はこれよりも約 $8^{\circ}30'$ 西偏する。また、アルファベットを付したグリッドラインは真北より $47^{\circ}46'40''$ 西偏する。

4. 遺構の規模を表す計測値に関しては、次の要領で表記した。一部、破壊されているもの等は、現存長を（丸括弧）でくくり示した。

「確認面の長径×短径／床面・坑底面の長径×短径／最大深（m）」

焼土等の平面的な遺構は次のように表記した。

「長径×短径／最大厚（m）」

柱穴等の平面形態がほぼ円形を呈し、小規模なものは、次のように表記した。

「確認面の直径（長径×短径）／最大深（m）」

5. 土層は、基本層序についてはローマ数字、遺構の覆土等の部分的な層位については、アラビア数字で表記した。

6. 「表」類は、IV章の後ろにまとめて掲載した。

# 目 次

カラー版	目次
例言	目次
記号等の説明	目次
目次	目次
挿表	目次
図版	目次

## I 章 調査の概要

1	調査要項	1
2	調査体制	1
3	調査に到る経緯	2
4	調査概要	3
(1)	発掘区の設定	3
(2)	調査の方法	4
(3)	遺跡の土層	8
(4)	整理の方法	9
(5)	遺物の分類	14
	土器類	14
	石器類	15
(6)	遺物と記録類の保管	16
(7)	調査結果の概要	17

## II 章 遺跡の位置と環境

1	遺跡の位置と周辺の地形	20
2	周辺の遺跡	21

## III 章 遺構と遺物

1	遺構の事実記載	25
(1)	概要	25
(2)	住居	29
(3)	土坑	71
(4)	焼土	134
(5)	柱穴状の小土坑	143
(6)	集石（礫集中と配石遺構）	146
(7)	遺物の集中出土（Ⅶ群土器の出土・フレイクチップ集中）	152
2	遺構の出土遺物	154
(1)	土器類	154
(2)	石器類	197

## IV 章 包含層出土の遺物

1	土器類	229
2	石器類	288

## 一 覧 表

## V 章 自然科学的分析

1	森町三次郎川右岸遺跡の動物遺存体 -特記事項- P-81覆土中位出土のイノシシ	369
2	森町三次郎川右岸遺跡から出土した炭化植物	375
3	森町三次郎川右岸遺跡 縄文時代の焼土F-3の放射性炭素年代測定	382

## VI 章 成果と課題

1	フラスコ状土坑の層位についての考察	387
2	三次郎川右岸遺跡出土の土器	392

引用参考文献	目次
写真図版	目次
抄 録	目次

# 挿 図 目 次

## I 章

図 I-1	遺跡の位置	5
図 I-2	遺跡周辺の地形と調査区	6
図 I-3	発掘区設定図	7
図 I-4	基本層序柱状図及び土層断面実測位置図	10
図 I-5	土層断面図(1)	11
図 I-6	土層断面図(2)	12
図 I-7	土層断面図(3)	13

## II 章

図 II-1	周辺の遺跡	22
--------	-------	----

## III 章

図 III-1	遺構配置図	27
図 III-2	P~T-40~42区掘り上げ土	28
図 III-3	H-1(1)	32
図 III-4	H-1(2)	33
図 III-5	H-2	34
図 III-6	H-3・4(1)	36
図 III-7	H-3・4(2)	37
図 III-8	H-3・4(3)	38
図 III-9	H-5(1)	40
図 III-10	H-5(2)	41
図 III-11	H-6	42
図 III-12	H-7	43
図 III-13	H-8(1)	44
図 III-14	H-8(2)	45
図 III-15	H-9(1)	48
図 III-16	H-9(2)	49
図 III-17	H-10	50
図 III-18	H-11	51
図 III-19	H-12	52
図 III-20	H-14(1)	54
図 III-21	H-14(2)	55
図 III-22	H-14(3)	56
図 III-23	H-15	57
図 III-24	H-16(1)	58
図 III-25	H-16(2)	59
図 III-26	H-16(3)	60
図 III-27	H-17	62
図 III-28	H-18	64
図 III-29	H-19(1)	66
図 III-30	H-19(2)	67

図 III-31	H-19(3)	68
図 III-32	H-19(4)	69
図 III-33	H-20	70
図 III-34	P-1・2・3	73
図 III-35	P-4・5	74
図 III-36	P-6・7・8	76
図 III-37	P-9・11	78
図 III-38	P-10・19・12	82
図 III-39	P-13・14・15	83
図 III-40	P-16・17(1)	84
図 III-41	P-17(2)	85
図 III-42	P-18・20・21	87
図 III-43	P-22・23・24・25	89
図 III-44	P-26	91
図 III-45	P-27・29	93
図 III-46	P-28・30	94
図 III-47	P-31・34	96
図 III-48	P-32・F-11・P-33	97
図 III-49	P-35・36・37	99
図 III-50	P-38・40・41	101
図 III-51	P-39・42・43	102
図 III-52	P-44・46	104
図 III-53	P-47・48	106
図 III-54	P-49・51	108
図 III-55	P-50・53・54・55	109
図 III-56	P-56・57・58	111
図 III-57	P-59・61・62	113
図 III-58	P-63・65・66	115
図 III-59	P-67	116
図 III-60	P-68・69	117
図 III-61	P-70・71	119
図 III-62	P-72	120
図 III-63	P-73・75・78	123
図 III-64	P-74・76	124
図 III-65	P-77	125
図 III-66	P-79・82	128
図 III-67	P-80・83	129
図 III-68	P-81・86	131
図 III-69	P-84・87	132
図 III-70	P-85	133
図 III-71	F-1・9・2・3	138
図 III-72	F-4・5・6・7・8	139

図Ⅲ-73	F-10・12・13・14・15・16 ……142	図Ⅲ-100	土坑出土土器類(2) P-17・20・23・28……………177
図Ⅲ-74	S P(1) ……144	図Ⅲ-101	土坑出土土器類(3) P-26・30・31・33・34……………179
図Ⅲ-75	S P(2) ……145	図Ⅲ-102	土坑出土土器類(4) P-29・36……………180
図Ⅲ-76	S-1 ……147	図Ⅲ-103	土坑出土土器類(5) P-38・44・47……………181
図Ⅲ-77	S-2 ……148	図Ⅲ-104	土坑出土土器類(6) P-48・49・51・61・62・63…183
図Ⅲ-78	S-4・5(1) ……149	図Ⅲ-105	土坑出土土器類(7) P-68・71……………184
図Ⅲ-79	S-4・5(2)・3・6 ……151	図Ⅲ-106	土坑出土土器類(8) P-67・72・73……………186
図Ⅲ-80	O-40・41区土器出土状況 ……152	図Ⅲ-107	土坑出土土器類(9)/P-76…187
図Ⅲ-81	FC-1 ……153	図Ⅲ-108	土坑出土土器類00 P-74・75・77……………188
図Ⅲ-82	住居跡出土土器類(1)/H-1・2 ……………155	図Ⅲ-109	土坑出土土器類01 P-79・81……………189
図Ⅲ-83	住居跡出土土器類(2)/H-3・4 ……………156	図Ⅲ-110	土坑出土土器類02/P-80…190
図Ⅲ-84	住居跡出土土器類(3)/H-5 ……157	図Ⅲ-111	土坑出土土器類03 P-83・84・85……………192
図Ⅲ-85	住居跡出土土器類(4) H-6・7(1) ……160	図Ⅲ-112	土坑出土土器類04 P-86・集石・配石・柱穴状の小 土坑出土土器類……………193
図Ⅲ-86	住居跡出土土器類(5) H-7(2)・8(1) ……161	図Ⅲ-113	焼土出土土器類(1) F-1(1)・F-5 ……194
図Ⅲ-87	住居跡出土土器類(6)/H-8(2)・ H-9(1) ……161	図Ⅲ-114	焼土出土土器類(2) F-1(2)・F-3・7・15…195
図Ⅲ-88	住居跡出土土器類(7)/H-9(2)・ H-10 ……163	図Ⅲ-115	遺物の集中出土のⅦ群土器…196
図Ⅲ-89	住居跡出土土器類(8)/H-11 ……164	図Ⅲ-116	住居跡出土剥片石器群(1) H-1・2・3 ……198
図Ⅲ-90	住居跡出土土器類(9) H-14(1) ……165	図Ⅲ-117	住居跡出土剥片石器群(2) H-4・5・8・9 ……199
図Ⅲ-91	住居跡出土土器類00 H-14(2) ……166	図Ⅲ-118	住居跡出土剥片石器群(3) H-12・14・15・16・17…200
図Ⅲ-92	住居跡出土土器類01 H-15・16(1) ……168	図Ⅲ-119	住居跡出土剥片石器群(4) H-17・18・19・20…201
図Ⅲ-93	住居跡出土土器類02/H-16(2)・ H-17(1) ……169	図Ⅲ-120	土坑出土剥片石器群(1) P-3・6・12・14・26・38…202
図Ⅲ-94	住居跡出土土器類03 H-17(2)・H-18(1) ……170	図Ⅲ-121	土坑出土剥片石器群(2) P-39・44・48・51・59・71・79・ 80・81……………204
図Ⅲ-95	住居跡出土土器類04 H-18(2)・H-19(1) ……171		
図Ⅲ-96	住居跡出土土器類05 H-19(2) ……172		
図Ⅲ-97	住居跡出土土器類06 H-19(3) ……173		
図Ⅲ-98	住居跡出土土器類07 H-19(4) ……174		
図Ⅲ-99	土坑出土土器類(1) P-2・4・11・12・16 ……176		

図Ⅲ-122	焼土及びフレイク・チップ集中出土剥片石器群 F-1・7・8・FC-1……………205
図Ⅲ-123	住居跡出土磨製石器群 H-7・8・10・12・14・17・18・24……………207
図Ⅲ-124	住居跡出土礫石器群(1) H-1・3・4……………208
図Ⅲ-125	住居跡出土礫石器群(2) H-4……………209
図Ⅲ-126	住居跡出土礫石器群(3) H-5・8……………210
図Ⅲ-127	住居跡出土礫石器群(4) H-8……………211
図Ⅲ-128	住居跡出土礫石器群(5) H-8・10・11・12・14……………212
図Ⅲ-129	住居跡及び土坑出土礫石器群 H-16・19・P-11・16……………213
図Ⅲ-130	土坑出土礫石器群(1) P-17・20・23・26……………215
図Ⅲ-131	土坑出土礫石器群(2) P-26・30・31・32……………216
図Ⅲ-132	土坑出土礫石器群(3) P-32・33……………217
図Ⅲ-133	土坑出土礫石器群(4) P-42・46・53……………218
図Ⅲ-134	土坑出土礫石器群(5) P-69・77・79・83……………219
図Ⅲ-135	土坑及びフレイク・チップ集中出土礫石器群 P-85・FC-1……………220
図Ⅲ-136	住居跡出土礫石器群(大型)(1) H-9・12・14……………221
図Ⅲ-137	住居跡出土礫石器群(大型)(2) H-16……………223
図Ⅲ-138	住居跡及び土坑出土礫石器群(大型)／H-17・18・P-37……………224
図Ⅲ-139	土坑及び配石遺構出土礫石器群(大型) P-71・77・79・S-2……………225
図Ⅲ-140	配石遺構及びフレイク・チップ集中出土礫石器群(大型) F-1・S-2・FC-1……………226

図Ⅲ-141	遺構出土石製品 H-7・14・P-80……………227
<b>IV章</b>	
図IV-1	包含層出土土器類分布図(1)……………230
図IV-2	包含層出土土器類分布図(2)……………231
図IV-3	包含層出土土器(1)／Ⅱ群b類(1) ……………233
図IV-4	包含層出土土器(2)／Ⅱ群b類(2) ……………234
図IV-5	包含層出土土器(3)／Ⅱ群b類(3) ……………235
図IV-6	包含層出土土器(4)／Ⅲ群a類(1) ……………236
図IV-7	包含層出土土器(5)／Ⅲ群a類(2) ……………237
図IV-8	包含層出土土器(6)／Ⅲ群a類(3) ……………238
図IV-9	包含層出土土器(7)／Ⅲ群a類(4) ……………239
図IV-10	包含層出土土器(8)／Ⅲ群a類(5) ……………241
図IV-11	包含層出土土器(9) Ⅲ群a類(6)……………242
図IV-12	包含層出土土器00 Ⅲ群a類(7)……………243
図IV-13	包含層出土土器01 Ⅲ群a類(8)……………244
図IV-14	包含層出土土器02 Ⅲ群a類(9)……………245
図IV-15	包含層出土土器03 Ⅲ群a類00……………246
図IV-16	包含層出土土器04 Ⅲ群b-1類(1)……………248
図IV-17	包含層出土土器05 Ⅲ群b-1類(2)……………249
図IV-18	包含層出土土器06 Ⅲ群b-1類(3)……………250
図IV-19	包含層出土土器07 Ⅲ群b類(1)……………252
図IV-20	包含層出土土器08 Ⅲ群b類(2)……………253
図IV-21	包含層出土土器09 Ⅳ群a類(1)……………255

图IV-22	包含層出土土器20	
	IV群 a類(2)	256
图IV-23	包含層出土土器21	
	IV群 a類(3)	257
图IV-24	包含層出土土器22	
	IV群 a類(4)	258
图IV-25	包含層出土土器23	
	IV群 a類(5)	259
图IV-26	包含層出土土器24	
	IV群 a類(6)	260
图IV-27	包含層出土土器25	
	IV群 a類(7)	261
图IV-28	包含層出土土器26	
	IV群 a類(8)	262
图IV-29	包含層出土土器27	
	IV群 a類(9)	263
图IV-30	包含層出土土器28	
	IV群 a類(10)	264
图IV-31	包含層出土土器29	
	IV群 a類(11)	265
图IV-32	包含層出土土器30	
	IV群 a類(12)	266
图IV-33	包含層出土土器31	
	IV群 a類(13)	267
图IV-34	包含層出土土器32	
	IV群 a類(14)	269
图IV-35	包含層出土土器33	
	IV群 a類(15)	270
图IV-36	包含層出土土器34	
	IV群 a類(16)	271
图IV-37	包含層出土土器35	
	IV群 a類(17)	272
图IV-38	包含層出土土器36	
	IV群 a類(18)	273
图IV-39	包含層出土土器37	
	IV群 a類(19)	274
图IV-40	包含層出土土器38	
	IV群 a類(20)	275
图IV-41	包含層出土土器39	
	IV群 a類(21)	276
图IV-42	包含層出土土器40	
	IV群 a類(22)	277
图IV-43	包含層出土土器41	
	IV群 a類(23)	278

图IV-44	包含層出土土器42	
	IV群 a類(24)	279
图IV-45	包含層出土土器43	
	IV群 a類(25)·IV群 b類	280
图IV-46	包含層出土土器44/VI群(1)	282
图IV-47	包含層出土土器45/VI群(2)	283
图IV-48	包含層出土土器46/VI群(3)	284
图IV-49	包含層出土土器47/VI群(4)	285
图IV-50	包含層出土土器48/VI群(5)	286
图IV-51	包含層出土土製品49	
	III~VI群	287
图IV-52	包含層出土石器類分布图(1)	290
图IV-53	包含層出土石器類分布图(2)	291
图IV-54	包含層出土石器類分布图(3)	292
图IV-55	包含層出土石器類分布图(4)	293
图IV-56	包含層出土剥片石器群(1)	297
图IV-57	包含層出土剥片石器群(2)	298
图IV-58	包含層出土剥片石器群(3)	300
图IV-59	包含層出土剥片石器群(4)	301
图IV-60	包含層出土剥片石器群(5)	302
图IV-61	包含層出土剥片石器群(6)	303
图IV-62	包含層出土剥片石器群(7)	304
图IV-63	包含層出土磨製石器群(1)	306
图IV-64	包含層出土磨製石器群(2)	307
图IV-65	包含層出土礫石器群(1)	308
图IV-66	包含層出土礫石器群(2)	309
图IV-67	包含層出土礫石器群(3)	310
图IV-68	包含層出土礫石器群(4)	312
图IV-69	包含層出土礫石器群(5)	313
图IV-70	包含層出土礫石器群(6)	314
图IV-71	包含層出土礫石器群(7)	315
图IV-72	包含層出土礫石器群(8)	316
图IV-73	包含層出土礫石器群(9)	317
图IV-74	包含層出土礫石器群(大型)(1)	318
图IV-75	包含層出土礫石器群(大型)(2)	319
图IV-76	包含層出土石製品(1)	320
图IV-77	包含層出土石製品(2)	321
<b>V章</b>		
图V-1	曆年校正結果	383

# 目 次

## I 章

- 表 I-1 基本層序一覧表 ..... 9  
表 I-2 出土遺物点数一覧表 ..... 19

## II 章

- 表 II-1 森町内の遺跡一覧 ..... 23  
表 II-2 八雲町内の遺跡一覧 ..... 23

## IV 章

- 表 IV-1 岩石分類体系表 ..... 295

### 一覽表

#### (遺構)

- 表 1 住居跡一覧表 ..... 322  
表 2 住居跡付風遺構一覧表 ..... 323  
表 3 土坑一覧表 ..... 324  
表 4 焼土一覧表 ..... 326  
表 5 小土坑一覧表 ..... 326  
表 6 礫集中・配石遺構一覧表 ..... 326  
表 7 フレイク・チップ集中一覧表 ..... 326

#### (遺構出土遺物)

##### ・点数表

- 表 8 住居跡出土石器類点数表 ..... 327  
表 9 土坑出土石器類点数表 ..... 327  
表 10 焼土出土石器類点数表 ..... 328  
表 11 小土坑出土石器類点数表 ..... 328  
表 12 礫集中・配石遺構出土石器類点数表 ..... 328  
表 13 フレイク・チップ集中出土石器類点数表 ..... 328  
表 14 住居跡出土石器類点数表 ..... 329  
表 15 土坑出土石器類点数表 ..... 330  
表 16 焼土出土石器類点数表 ..... 333  
表 17 小土坑出土石器類点数表 ..... 333  
表 18 礫集中・配石遺構出土石器類点数表 ..... 333  
表 19 フレイク・チップ集中出土石器類点数表 ..... 333

##### ・観察表、接合表

- 表 20 遺構出土石器類観察表 ..... 334

- 表 21 遺構出土剥片石器群観察表 ..... 343  
表 22 遺構出土磨製石器群観察表 ..... 344  
表 23 遺構出土礫石器群観察表 ..... 344  
表 24 遺構出土石器製品観察表 ..... 345  
表 25 フレイク・チップ集中接合表 ..... 345  
表 26 遺構出土自然礫観察表 ..... 346  
表 27 S-2 出土自然礫観察表 ..... 347

#### (包含層・遺構出土遺物)

##### ・点数表

- 表 28 石器類点数表 ..... 348  
(包含層出土遺物)

##### ・点数表

- 表 29 包含層出土石器類点数表 ..... 349

##### ・観察表

- 表 30 包含層出土石器類観察表 ..... 350  
表 31 包含層出土剥片石器群観察表 ..... 364  
表 32 包含層出土磨製石器群観察表 ..... 366  
表 33 包含層出土礫石器群観察表 ..... 366  
表 34 包含層出土石器製品観察表 ..... 368

## V 章

- 表 V-1 森町三次郎川右岸遺跡動物遺存体同定結果 ..... 372  
表 V-2 森町三次郎川右岸遺跡時期別動物遺存体種類別出土状況(時期別のサンプル一覧と動物遺存体種類別同定結果) ..... 373  
表 V-3 森町三次郎川右岸遺跡炭化種子出土表 ..... 379  
表 V-4 測定試料及び処理 ..... 383  
表 V-5 放射性炭素年代測定及び暦年校正の結果 ..... 383  
表 V-6 森町三次郎川右岸遺跡フローテーションサンプル一覧 ..... 384

## VI 章

- 表 VI-1 P-72 覆土・包含層対比表 ..... 391



# 写真図版目次

## カラー図版

- 1 三次郎川右岸遺跡周辺の地形  
(空中写真)
- 2-1 遺跡の立地(北西から)
- 2-2 調査風景(北西から)
- 3-1 遺跡遠景(北西から)
- 3-2 2004年度調査区完掘状況(南から)
- 4 基本層序 ①斜面最上部(N-32区)  
(北西から)
- 5-1 S-2確認状況(南から)
- 5-2 S-2確認状況(北西から)
- 6-1 H-14完掘状況(南西から)
- 6-2 P-72土層断面(南西から)
- 7-1 F-1・9土層断面(北西から)
- 7-2 P-75埋壘(東から)
- 8 石製品

## V章

- 図版V-1 P-81出土イノシシ臼歯片
- 図版V-2 炭化種子1(1~14)
- 図版V-3 炭化種子2(15~17)

## 写真図版

- 1 森町石倉・濁川地区周辺の地形  
(空中写真)
- 2-1 調査状況1(南西から)
- 2-2 調査状況2(南から)
- 3-1 斜面部土層断面及び調査状況(西から)
- 3-2 包含層遺物出土状況1(西から)
- 3-3 調査状況3(北から)
- 3-4 包含層遺物出土状況2(西から)
- 3-5 包含層VII群土器出土状況(南から)
- 3-6 包含層VI群土器出土状況(北から)
- 4-1 H-1土層断面(西から)
- 4-2 H-1遺物出土状況(東から)
- 5-1 H-1確認状況(北から)
- 5-2 H-1埋壘(北西から)
- 5-3 H-1完掘状況(西から)
- 6-1 H-2土層断面1(南西から)
- 6-2 H-2土層断面2(北西から)
- 6-3 H-2完掘状況(南から)
- 7-1 H-3土層断面(東から)
- 7-2 H-3遺物出土状況(南から)
- 7-3 H-3炭化材・壘土確認状況(東から)
- 8-1 H-3・4土層断面(南から)
- 8-2 H-4遺物出土状況(北西から)
- 8-3 H-4土層断面(西から)
- 8-4 H-4北海道式石冠出土状況(東から)

- 9-1 H-5土層断面(南西から)
- 9-2 H-5遺物出土状況(南東から)
- 9-3 H-5埋壘確認状況(北から)
- 9-4 H-5埋壘土層断面(南西から)
- 10-1 H-6土層断面(南東から)
- 10-2 H-6完掘状況(東から)
- 11-1 H-7土層断面(西から)
- 11-2 H-7完掘状況(西から)
- 12-1 H-8土層断面1(南東から)
- 12-2 H-8土層断面2(東から)
- 12-3 H-8完掘状況(北西から)
- 13-1 H-9土層断面(南から)
- 13-2 H-9遺物出土状況(北西から)
- 13-3 H-9完掘状況(南西から)
- 14-1 H-10土層断面(南西から)
- 14-2 H-10完掘状況(東から)
- 15-1 H-11土層断面(南から)
- 15-2 H-11遺物出土状況(南から)
- 15-3 H-11完掘状況(北から)
- 16-1 H-12土層断面(東から)
- 16-2 H-12完掘状況(東から)
- 17-1 H-14調査状況(北東から)
- 17-2 H-14土層断面及び遺物出土状況  
(東から)
- 17-3 H-14土層断面及び調査状況(南から)
- 18-1 H-14完掘状況1(北から)
- 18-2 H-14完掘状況2(南から)
- 19-1 H-15土層断面(西から)
- 19-2 H-15遺物出土状況(南東から)
- 20-1 H-16確認状況(南から)
- 20-2 H-16調査完了状況(南西から)
- 21-1 H-16遺物出土状況(北西から)
- 21-2 H-16土器出土状況(南から)
- 21-3 H-16土層断面(南東から)
- 21-4 H-16柱穴HP-2(南東から)
- 21-5 H-16柱穴HP-3(南西から)
- 22-1 H-17遺物出土状況(南東から)
- 22-2 H-17石組炉HF-1及び土器出土状況  
(南から)
- 22-3 H-17石組炉HF-1(南西から)
- 23-1 H-18土層断面(南東から)
- 23-2 H-18石組炉HF-1(南西から)
- 24-1 H-19確認状況(南西から)
- 24-2 H-19土層断面1(東から)
- 24-3 H-19土層断面2(南東から)
- 25-1 H-19炭化材確認状況(北東から)
- 25-2 H-20土層断面(東から)
- 26-1 P-1遺物出土状況(西から)
- 26-2 P-2土層断面(南から)
- 26-3 P-3遺物出土状況(東から)
- 26-4 P-4土層断面(南から)

- 26-5 P-5土層断面(東から)
- 26-6 P-6遺物出土状況(東から)
- 27-1 P-7完掘状況(北から)
- 27-2 P-8土層断面(北東から)
- 27-3 P-9完掘及び掘り上げ土層断面(南西から)
- 27-4 P-10・19完掘状況(南西から)
- 27-5 P-11土層断面(北から)
- 27-6 P-12遺物出土状況(南から)
- 28-1 P-13完掘状況(北から)
- 28-2 P-14完掘状況(西から)
- 28-3 P-15完掘状況(南から)
- 28-4 P-16遺物出土状況(東から)
- 28-5 P-17遺物出土状況(北から)
- 28-6 P-18土層断面(南から)
- 29-1 P-20遺物出土状況(南から)
- 29-2 P-21完掘状況(西から)
- 29-3 P-22完掘状況(南から)
- 29-4 P-23遺物出土状況(東から)
- 29-5 P-24遺物出土状況(西から)
- 29-6 P-25土層断面(東から)
- 30-1 P-26遺物出土状況(南から)
- 30-2 P-27土層断面(南から)
- 30-3 P-28完掘状況(南から)
- 30-4 P-29遺物出土状況(西から)
- 30-5 P-30土層断面(南から)
- 30-6 P-31遺物出土状況(東から)
- 31-1 P-32・F-11土層断面(南西から)
- 31-2 P-33遺物出土状況(北西から)
- 31-3 P-34土層断面(南東から)
- 31-4 P-35完掘状況(北から)
- 31-5 P-36完掘状況(西から)
- 31-6 P-37土層断面(北から)
- 32-1 P-38遺物出土状況(北西から)
- 32-2 P-39土層断面(南西から)
- 32-3 P-40完掘状況(南から)
- 32-4 P-41遺物出土状況(西から)
- 32-5 P-42遺物出土状況(南から)
- 32-6 P-43土層断面(南から)
- 33-1 P-44遺物出土状況(西から)
- 33-2 P-46土層断面(東から)
- 33-3 P-47土層断面(東から)
- 33-4 P-48遺物出土状況(西から)
- 33-5 P-49完掘状況(南から)
- 33-6 P-50土層断面(南から)
- 34-1 P-51土層断面(西から)
- 34-2 P-53遺物出土状況(西から)
- 34-3 P-54土層断面(西から)
- 34-4 P-55土層断面(南西から)
- 34-5 P-56完掘状況(南から)
- 34-6 P-57土層断面(南西から)
- 35-1 P-58土層断面(南西から)
- 35-2 P-59土層断面(南西から)
- 35-3 P-61遺物出土状況(南西から)
- 35-4 P-62土層断面(北から)
- 35-5 P-63遺物出土状況(北から)
- 35-6 P-65完掘状況(南から)
- 36-1 P-66土層断面(東から)
- 36-2 P-67遺物出土状況(北から)
- 36-3 P-68遺物出土状況(北から)
- 36-4 P-69完掘状況(南東から)
- 36-5 P-70完掘状況(南西から)
- 36-6 P-71遺物出土状況(北東から)
- 37-1 P-72完掘状況(北西から)
- 37-2 P-73遺物出土状況(南西から)
- 37-3 P-74遺物出土状況(東から)
- 37-4 P-76遺物出土状況(北から)
- 37-5 P-77遺物出土状況(北西から)
- 37-6 P-78完掘状況(南東から)
- 38-1 P-79遺物出土状況(南から)
- 38-2 P-80遺物出土状況(西から)
- 38-3 P-81土層断面(南から)
- 38-4 P-82土層断面(南から)
- 38-5 P-83土層断面(東から)
- 38-6 P-84遺物出土状況(南から)
- 39-1 P-85土層断面(東から)
- 39-2 P-86完掘状況(北から)
- 39-3 P-87完掘状況(南東から)
- 39-4 S P-15(南から)
- 39-5 S-1石組確認状況(南から)
- 39-6 S-1下部土坑遺物出土状況(南東から)
- 40-1 S-2確認状況・部分拡大(南西から)
- 40-2 S-2確認状況・拡張部分(南東から)
- 40-3 S-3確認状況(西から)
- 40-4 S-6確認状況(南から)
- 40-5 S-4・5確認状況(南西から)
- 41-1 H-1出土復元土器(図Ⅲ-82・H-1-1)
- 41-2 H-1出土復元土器(図Ⅲ-82・H-1-2)
- 41-3 H-1出土復元土器(図Ⅲ-82・H-1-3)
- 41-4 H-2出土復元土器(図Ⅲ-82・H-2-1)
- 41-5 H-1出土復元土器(図Ⅲ-82・H-1-4)
- 42-1 H-5出土復元土器(図Ⅲ-84・H-5-1)
- 42-2 H-5出土復元土器(図Ⅲ-84・H-5-2)
- 42-3 H-6出土復元土器(図Ⅲ-85・H-6-1)
- 42-4 H-7出土復元土器(図Ⅲ-85・H-7-1)
- 43-1 H-7出土復元土器(図Ⅲ-85・H-7-2)

- 43-2 H-7 出土復元土器  
(圖Ⅲ-85·H-7-3)
- 43-3 H-7 出土復元土器  
(圖Ⅲ-86·H-7-6)
- 43-4 H-8 出土復元土器  
(圖Ⅲ-86·H-8-1)
- 44-1 H-8 出土復元土器  
(圖Ⅲ-86·H-8-2)
- 44-2 H-8 出土復元土器  
(圖Ⅲ-86·H-8-3)
- 44-3 H-9 出土復元土器  
(圖Ⅲ-87·H-9-1)
- 44-4 H-9 出土復元土器  
(圖Ⅲ-87·H-9-2)
- 45-1 H-10 出土復元土器  
(圖Ⅲ-88·H-10-1)
- 45-2 H-11 出土復元土器  
(圖Ⅲ-89·H-11-1)
- 45-3 H-11 出土復元土器  
(圖Ⅲ-89·H-11-3)
- 45-4 H-11 出土復元土器  
(圖Ⅲ-89·H-11-6)
- 45-5 H-11 出土復元土器  
(圖Ⅲ-89·H-11-2)
- 46-1 H-11 出土復元土器  
(圖Ⅲ-89·H-11-7)
- 46-2 H-14 出土復元土器  
(圖Ⅲ-90·H-14-1)
- 46-3 H-14 出土復元土器  
(圖Ⅲ-90·H-14-2)
- 46-4 H-14 出土復元土器  
(圖Ⅲ-90·H-14-3)
- 46-5 H-14 出土復元土器  
(圖Ⅲ-90·H-14-5)
- 46-6 H-14 出土復元土器  
(圖Ⅲ-90·H-14-6)
- 47-1 H-14 出土復元土器  
(圖Ⅲ-90·H-14-4)
- 47-2 H-14 出土復元土器  
(圖Ⅲ-90·H-14-7)
- 47-3 H-15 出土復元土器  
(圖Ⅲ-92·H-15-1)
- 47-4 H-16 出土復元土器  
(圖Ⅲ-92·H-16-1)
- 48-1 H-16 出土復元土器  
(圖Ⅲ-92·H-16-2)
- 48-2 H-16 出土復元土器  
(圖Ⅲ-93·H-16-4)
- 48-3 H-16 出土復元土器  
(圖Ⅲ-93·H-16-5)
- 48-4 H-17 出土復元土器  
(圖Ⅲ-93·H-17-1)
- 49-1 H-17 出土復元土器  
(圖Ⅲ-93·H-17-2)
- 49-2 H-17 出土復元土器  
(圖Ⅲ-94·H-17-5)
- 49-3 H-18 出土復元土器  
(圖Ⅲ-94·H-18-1)
- 49-4 H-18 出土復元土器  
(圖Ⅲ-94·H-18-2)
- 50-1 H-18 出土復元土器  
(圖Ⅲ-94·H-18-3)
- 50-2 H-18 出土復元土器  
(圖Ⅲ-94·H-18-4)
- 50-3 H-18 出土復元土器  
(圖Ⅲ-95·H-18-5)
- 50-4 H-19 出土復元土器  
(圖Ⅲ-95·H-19-1)
- 51-1 H-19 出土復元土器  
(圖Ⅲ-95·H-19-2)
- 51-2 H-19 出土復元土器  
(圖Ⅲ-96·H-19-3)
- 51-3 H-19 出土復元土器  
(圖Ⅲ-96·H-19-5)
- 51-4 H-19 出土復元土器  
(圖Ⅲ-96·H-19-6)
- 51-5 H-19 出土復元土器  
(圖Ⅲ-96·H-19-4)
- 52-1 H-19 出土復元土器  
(圖Ⅲ-96·H-19-7)
- 52-2 H-19 出土復元土器  
(圖Ⅲ-96·H-19-8)
- 52-3 H-19 出土復元土器  
(圖Ⅲ-97·H-19-9)
- 52-4 H-19 出土復元土器  
(圖Ⅲ-98·H-19-13)
- 53-1 H-19 出土復元土器  
(圖Ⅲ-98·H-19-14)
- 53-2 H-19 出土復元土器  
(圖Ⅲ-98·H-19-15)
- 53-3 P-4 出土復元土器  
(圖Ⅲ-99·P-4-1)
- 53-4 P-16 出土復元土器  
(圖Ⅲ-99·P-16-1)
- 54-1 P-17 出土復元土器  
(圖Ⅲ-100·P-17-1)
- 54-2 P-23 出土復元土器  
(圖Ⅲ-100·P-23-1)
- 54-3 P-31 出土復元土器  
(圖Ⅲ-101·P-31-3)
- 54-4 P-29 出土復元土器  
(圖Ⅲ-102·P-29-1)
- 55-1 P-29 出土復元土器  
(圖Ⅲ-102·P-29-3)
- 55-2 P-38 出土復元土器  
(圖Ⅲ-103·P-38-1)
- 55-3 P-44 出土復元土器  
(圖Ⅲ-103·P-44-1)

- 55-4 P-47出土復元土器  
(図Ⅲ-103・P-47-2)
- 55-5 P-44出土復元土器  
(図Ⅲ-103・P-44-2)
- 56-1 P-44出土復元土器  
(図Ⅲ-103・P-44-3)
- 56-2 P-51出土復元土器  
(図Ⅲ-104・P-51-2)
- 56-3 P-51出土復元土器  
(図Ⅲ-104・P-51-1)
- 56-4 P-71出土復元土器  
(図Ⅲ-105・P-71-2)
- 56-5 P-63出土復元土器  
(図Ⅲ-104・P-63-1)
- 57-1 P-71出土復元土器  
(図Ⅲ-105・P-71-1)
- 57-2 P-71出土復元土器  
(図Ⅲ-105・P-71-3)
- 57-3 P-77出土復元土器  
(図Ⅲ-108・P-77-1)
- 57-4 P-73出土復元土器  
(図Ⅲ-106・P-73-7)
- 57-5 P-77出土復元土器  
(図Ⅲ-108・P-77-2)
- 58-1 P-76出土復元土器  
(図Ⅲ-107・P-76-2)
- 58-2 P-75出土復元土器  
(図Ⅲ-108・P-75-1)
- 58-3 P-76出土復元土器  
(図Ⅲ-107・P-76-3)
- 59-1 P-79出土復元土器  
(図Ⅲ-109・P-79-1)
- 59-2 P-81出土復元土器  
(図Ⅲ-109・P-81-3)
- 59-3 P-80出土復元土器  
(図Ⅲ-110・P-80-1)
- 59-4 P-80出土復元土器  
(図Ⅲ-110・P-80-4)
- 60-1 P-80出土復元土器  
(図Ⅲ-110・P-80-7)
- 60-2 P-86出土復元土器  
(図Ⅲ-112・P-86-1)
- 60-3 P-84出土復元土器  
(図Ⅲ-111・P-84-1)
- 60-4 P-85出土復元土器  
(図Ⅲ-111・P-85-1)
- 60-5 S-2出土復元土器  
(図Ⅲ-112・S-2-1)
- 61-1 F-1出土復元土器  
(図Ⅲ-113・F-1-1)
- 61-2 F-1出土復元土器  
(図Ⅲ-114・F-1-9)
- 61-3 F-3出土復元土器  
(図Ⅲ-114・F-3-1)
- 61-4 F-7出土復元土器  
(図Ⅲ-114・F-7-1)
- 62-1 F-1出土復元土器  
(図Ⅲ-113・F-1-7)
- 62-2 O-40・41区出土土器  
(図Ⅲ-115・遺物集中-1)
- 62-3 F-3出土復元土器  
(図Ⅲ-114・F-3-2)
- 62-4 H-11・P-38出土土製品(図Ⅲ-89・  
H-11-5、図Ⅲ-103・P-38-3)
- 63 H-1・2・3・4出土破片土器  
(図Ⅲ-82・83)
- 64 H-5出土破片土器(図Ⅲ-84)
- 65 H-7・8・11出土破片土器  
(図Ⅲ-85~87・89)
- 66 H-9・10出土破片土器(図Ⅲ-88)
- 67 H-14出土破片土器  
(図Ⅲ-91-1~13)
- 68 H-14出土破片土器  
(図Ⅲ-91-14~21)
- 69 H-15・16・17・18出土破片土器  
(図Ⅲ-92・93・95)
- 70 H-19出土破片土器(Ⅲ-97・98)
- 71 P-2・11・12・16・17出土破片土器  
(図Ⅲ-99・100)
- 72 P-20・26出土破片土器  
(図Ⅲ-100・101)
- 73 P-28・29・30・31・33・34・36出土  
破片土器(図Ⅲ-100~103)
- 74 P-38・44・47・48・49・51出土破片  
土器(図Ⅲ-103・104)
- 75 P-61・62・67・68・71・72出土破片  
土器(図Ⅲ-104~106)
- 76 P-73・74・76出土破片土器  
(図Ⅲ-106~108)
- 77 P-77・79・81・82出土破片土器  
(図Ⅲ-108・109)
- 78 P-79・80・83出土破片土器  
(図Ⅲ-109~111)
- 79 P-84・85・86出土破片土器  
(図Ⅲ-111・112)
- 80 S-1・S P-1・F-1  
(図Ⅲ-112・113)
- 81 F-1・5・7・15出土破片土器  
(図Ⅲ-113・114)
- 82 住居跡出土剥片石器群  
(図Ⅲ-116-1~117-20)
- 83 住居跡出土剥片石器群  
(図Ⅲ-118-21~119-43)
- 84 土坑出土剥片石器群  
(図Ⅲ-120-44~121-67)
- 85-1 焼土及びフレイク・チップ集中出土剥  
片石器群(図Ⅲ-122-68~74)

- 85-2 F C-1 (H-42-b区出土) スクレイバー (図Ⅲ-122-75)
- 85-3 F C-1 接合資料 (図Ⅲ-122-76)
- 86 住居跡出土磨製石器群 (図Ⅲ-123-1~9)
- 87 住居跡出土礫石器群 (図Ⅲ-124-1~125-8)
- 88 住居跡出土礫石器群 (図Ⅲ-125-9~127-16)
- 89 住居跡出土礫石器群 (図Ⅲ-127-17~128-20・22~24)
- 90 住居跡出土礫石器群 (図Ⅲ-128-21・25~129-29)
- 91 土坑出土礫石器群 (図Ⅲ-129-30~131-37)
- 92 土坑出土礫石器群 (図Ⅲ-131-38~132-45)
- 93 土坑出土礫石器群 (図Ⅲ-133-46~134-53)
- 94-1 土坑及びフレイク・チップ集中出土礫石器群 (図Ⅲ-134-54~135-59)
- 94-2 H-9 出土礫石器群 (図Ⅲ-136-1)
- 95-1 H-12 出土礫石器群 (図Ⅲ-136-2)
- 95-2 H-14 出土礫石器群 (図Ⅲ-136-3)
- 95-3 H-14 出土礫石器群 (図Ⅲ-136-4)
- 95-4 H-14 出土礫石器群 (図Ⅲ-136-5)
- 96-1 H-16 出土礫石器群 (図Ⅲ-137-6)
- 96-2 H-16 出土礫石器群 (図Ⅲ-137-7)
- 96-3 H-16 出土礫石器群 (図Ⅲ-137-8)
- 96-4 H-17 出土礫石器群 (図Ⅲ-138-9)
- 97-1 H-18 出土礫石器群 (図Ⅲ-138-10)
- 97-2 H-18 出土礫石器群 (図Ⅲ-138-11)
- 97-3 P-37 出土礫石器群 (図Ⅲ-138-12)
- 97-4 P-71 出土礫石器群 (図Ⅲ-139-13)
- 98-1 P-77 出土礫石器群 (図Ⅲ-139-14)
- 98-2 P-77 出土礫石器群 (図Ⅲ-139-15)
- 98-3 P-77 出土礫石器群 (図Ⅲ-139-16)
- 98-4 P-79 出土礫石器群 (図Ⅲ-139-17)
- 99-1 S-2 出土礫石器群 (図Ⅲ-139-18)
- 99-2 S-2 出土礫石器群 (図Ⅲ-140-19)
- 99-3 F-1 出土礫石器群 (図Ⅲ-140-20)
- 99-4 F C-1 出土礫石器群 (図Ⅲ-140-21)
- 100-1 遺構出土石製品 (図Ⅲ-141-1~4・6)
- 100-2 H-14 出土石製品 (表面) (図Ⅲ-141-5)
- 100-3 H-14 出土石製品 (側面)
- 101-1 包含層出土Ⅱ群 b 類復元土器 (図Ⅳ-3-1)
- 101-2 包含層出土Ⅱ群 b 類復元土器 (図Ⅳ-3-2)
- 101-3 包含層出土Ⅲ群 a 類復元土器 (図Ⅳ-6-1)
- 101-4 包含層出土Ⅲ群 a 類復元土器 (図Ⅳ-6-3)
- 102-1 包含層出土Ⅲ群 a 類復元土器 (図Ⅳ-6-4)
- 102-2 包含層出土Ⅲ群 a 類復元土器 (図Ⅳ-6-2)
- 102-3 包含層出土Ⅲ群 a 類復元土器 (図Ⅳ-6-5)
- 102-4 包含層出土Ⅲ群 a 類復元土器 (図Ⅳ-7-7)
- 102-5 包含層出土Ⅲ群 a 類復元土器 (図Ⅳ-6-6)
- 103-1 包含層出土Ⅲ群 a 類復元土器 (図Ⅳ-7-8)
- 103-2 包含層出土Ⅲ群 a 類復元土器 (図Ⅳ-7-9)
- 103-3 包含層出土Ⅲ群 a 類復元土器 (図Ⅳ-8-10)
- 103-4 包含層出土Ⅲ群 a 類復元土器 (図Ⅳ-8-11)
- 104-1 包含層出土Ⅲ群 a 類復元土器 (図Ⅳ-8-12)
- 104-2 包含層出土Ⅲ群 a 類復元土器 (図Ⅳ-8-13)
- 104-3 包含層出土Ⅲ群 a 類復元土器 (図Ⅳ-8-14)
- 104-4 包含層出土Ⅲ群 a 類復元土器 (図Ⅳ-9-15)
- 105-1 包含層出土Ⅲ群 a 類復元土器 (図Ⅳ-9-16)
- 105-2 包含層出土Ⅲ群 a 類復元土器 (図Ⅳ-9-17)
- 105-3 包含層出土Ⅲ群 a 類復元土器 (図Ⅳ-9-18)
- 105-4 包含層出土Ⅲ群 a 類復元土器 (図Ⅳ-9-19)
- 106-1 包含層出土Ⅲ群 a 類復元土器 (図Ⅳ-9-20)
- 106-2 包含層出土Ⅲ群 a 類復元土器 (図Ⅳ-9-21)
- 106-3 包含層出土Ⅲ群 a 類復元土器 (図Ⅳ-9-22)
- 106-4 包含層出土Ⅲ群 b-1 類復元土器 (図Ⅳ-16-1)
- 107-1 包含層出土Ⅲ群 b-1 類復元土器 (図Ⅳ-16-2)
- 107-2 包含層出土Ⅲ群 b-1 類復元土器 (図Ⅳ-16-3)
- 107-3 包含層出土Ⅲ群 b-1 類復元土器 (図Ⅳ-16-4)
- 107-4 包含層出土Ⅲ群 b-1 類復元土器 (図Ⅳ-16-5)
- 108-1 包含層出土Ⅲ群 b 類復元土器 (図Ⅳ-19-1)

- 108-2 包含層出土Ⅲ群b類復元土器  
(圖IV-19-2)
- 108-3 包含層出土Ⅲ群b類復元土器  
(圖IV-19-3)
- 108-4 包含層出土Ⅲ群b類復元土器  
(圖IV-19-4)
- 109-1 包含層出土Ⅲ群b類復元土器  
(圖IV-19-5)
- 109-2 包含層出土Ⅳ群a類復元土器  
(圖IV-21-1)
- 109-3 包含層出土Ⅲ群b類復元土器  
(圖IV-19-6)
- 109-4 包含層出土Ⅳ群a類復元土器  
(圖IV-22-8)
- 109-5 包含層出土Ⅳ群a類復元土器  
(圖IV-21-2)
- 110-1 包含層出土Ⅳ群a類復元土器  
(圖IV-21-3)
- 110-2 包含層出土Ⅳ群a類復元土器  
(圖IV-21-4)
- 110-3 包含層出土Ⅳ群a類復元土器  
(圖IV-21-5)
- 110-4 包含層出土Ⅳ群a類復元土器  
(圖IV-21-6)
- 111-1 包含層出土Ⅳ群a類復元土器  
(圖IV-22-7)
- 111-2 包含層出土Ⅳ群a類復元土器  
(圖IV-23-10)
- 111-3 包含層出土Ⅳ群a類復元土器  
(圖IV-24-12)
- 111-4 包含層出土Ⅳ群a類復元土器  
(圖IV-23-9)
- 111-5 包含層出土Ⅳ群a類復元土器  
(圖IV-24-14)
- 112-1 包含層出土Ⅳ群a類復元土器  
(圖IV-24-11)
- 112-2 包含層出土Ⅳ群a類復元土器  
(圖IV-24-15)
- 112-3 包含層出土Ⅳ群a類復元土器  
(圖IV-25-17)
- 112-4 包含層出土Ⅳ群a類復元土器  
(圖IV-24-13)
- 112-5 包含層出土Ⅳ群a類復元土器  
(圖IV-25-21)
- 113-1 包含層出土Ⅳ群a類復元土器  
(圖IV-25-16)
- 113-2 包含層出土Ⅳ群a類復元土器  
(圖IV-25-18)
- 113-3 包含層出土Ⅳ群a類復元土器  
(圖IV-25-19)
- 113-4 包含層出土Ⅳ群a類復元土器  
(圖IV-25-20)
- 114-1 包含層出土Ⅳ群a類復元土器  
(圖IV-26-22)
- 114-2 包含層出土Ⅳ群a類復元土器  
(圖IV-26-23)
- 114-3 包含層出土Ⅳ群a類復元土器  
(圖IV-27-24)
- 114-4 包含層出土Ⅳ群a類復元土器  
(圖IV-27-25)
- 115-1 包含層出土Ⅳ群a類復元土器  
(圖IV-28-26)
- 115-2 包含層出土Ⅳ群a類復元土器  
(圖IV-28-27)
- 115-3 包含層出土Ⅳ群a類復元土器  
(圖IV-28-28)
- 115-4 包含層出土Ⅳ群a類復元土器  
(圖IV-29-31)
- 115-5 包含層出土Ⅳ群a類復元土器  
(圖IV-28-29)
- 116-1 包含層出土Ⅳ群a類復元土器  
(圖IV-29-30)
- 116-2 包含層出土Ⅳ群a類復元土器  
(圖IV-29-32)
- 116-3 包含層出土Ⅳ群a類復元土器  
(圖IV-29-33)
- 116-4 包含層出土Ⅳ群a類復元土器  
(圖IV-29-34)
- 116-5 包含層出土Ⅳ群a類復元土器  
(圖IV-29-35)
- 117-1 包含層出土Ⅳ群a類復元土器  
(圖IV-29-36)
- 117-2 包含層出土Ⅳ群a類復元土器  
(圖IV-30-38)
- 117-3 包含層出土Ⅳ群a類復元土器  
(圖IV-29-37)
- 117-4 包含層出土Ⅳ群a類復元土器  
(圖IV-30-39)
- 117-5 包含層出土Ⅳ群a類復元土器  
(圖IV-30-40)
- 118-1 包含層出土Ⅳ群a類復元土器  
(圖IV-30-41)
- 118-2 包含層出土Ⅳ群a類復元土器  
(圖IV-30-42)
- 118-3 包含層出土Ⅳ群a類復元土器  
(圖IV-30-43)
- 118-4 包含層出土Ⅳ群a類復元土器  
(圖IV-31-44)
- 118-5 包含層出土Ⅳ群a類復元土器  
(圖IV-31-46)
- 119-1 包含層出土Ⅳ群a類復元土器  
(圖IV-31-45)
- 119-2 包含層出土Ⅳ群a類復元土器  
(圖IV-31-47)
- 119-3 包含層出土Ⅳ群a類復元土器  
(圖IV-31-48)
- 119-4 包含層出土Ⅳ群a類復元土器  
(圖IV-31-49)

- 120-1 包含層出土IV群 a 類復元土器  
(圖IV-31-50)
- 120-2 包含層出土IV群 a 類復元土器  
(圖IV-32-52)
- 120-3 包含層出土IV群 a 類復元土器  
(圖IV-31-51)
- 120-4 包含層出土IV群 a 類復元土器  
(圖IV-32-53)
- 120-5 包含層出土IV群 a 類復元土器  
(圖IV-33-55)
- 121-1 包含層出土IV群 a 類復元土器  
(圖IV-32-54)
- 121-2 包含層出土IV群 a 類復元土器  
(圖IV-33-57)
- 121-3 包含層出土IV群 a 類復元土器  
(圖IV-33-56)
- 121-4 包含層出土IV群 a 類復元土器  
(圖IV-33-59)
- 121-5 包含層出土IV群 a 類復元土器  
(圖IV-33-58)
- 122-1 包含層出土IV群 a 類復元土器  
(圖IV-33-60)
- 122-2 包含層出土IV群 a 類復元土器  
(圖IV-33-61)
- 122-3 包含層出土IV群 a 類復元土器  
(圖IV-33-62)
- 122-4 包含層出土VI群復元土器  
(圖IV-46-1)
- 123-1 包含層出土VI群復元土器  
(圖IV-46-2)
- 123-2 包含層出土VI群復元土器  
(圖IV-46-4)
- 123-3 包含層出土VI群復元土器  
(圖IV-46-5)
- 123-4 包含層出土VI群復元土器  
(圖IV-46-3)
- 123-5 包含層出土VI群復元土器  
(圖IV-46-7)
- 124-1 包含層出土VI群復元土器  
(圖IV-46-6)
- 124-2 包含層出土VI群復元土器  
(圖IV-47-11)
- 124-3 包含層出土VI群復元土器  
(圖IV-47-12)
- 124-4 包含層出土VI群復元土器  
(圖IV-46-8)
- 124-5 包含層出土VI群復元土器  
(圖IV-47-14)
- 125-1 包含層出土VI群復元土器  
(圖IV-46-9)
- 125-2 包含層出土VI群復元土器  
(圖IV-47-10)
- 125-3 包含層出土VI群復元土器  
(圖IV-47-13)
- 125-4 包含層出土VI群復元土器  
(圖IV-47-15)
- 126-1 包含層出土VI群復元土器  
(圖IV-47-16)
- 126-2 包含層出土VI群復元土器  
(圖IV-48-17)
- 126-3 包含層出土再生土製品  
(圖IV-51-16~23)
- 127 包含層出土II群 b 類破片土器  
(圖IV-3-3~4-7)
- 128 包含層出土II群 b 類破片土器  
(圖IV-4-8~13)
- 129 包含層出土II群 b 類破片土器  
(圖IV-4-14~5-16)
- 130 包含層出土II群 b 類破片土器  
(圖IV-5-17~20)
- 131 包含層出土III群 a 類破片土器  
(圖IV-10-23~27·29)
- 132 包含層出土III群 a 類破片土器  
(圖IV-10-28·30~11-31)
- 133 包含層出土III群 a 類破片土器  
(圖IV-11-32~34)
- 134 包含層出土III群 a 類破片土器  
(圖IV-11-35~12-42)
- 135 包含層出土III群 a 類破片土器  
(圖IV-12-43~47)
- 136 包含層出土III群 a 類破片土器  
(圖IV-12-48、13-49)
- 137 包含層出土III群 a 類破片土器  
(圖IV-13-50~53)
- 138 包含層出土III群 a 類破片土器  
(圖IV-13-54~56、14-58)
- 139 包含層出土III群 a 類破片土器  
(圖IV-14-57·59·60·62)
- 140 包含層出土III群 a 類破片土器  
(圖IV-15-63)
- 141 包含層出土III群 a 類破片土器  
(圖IV-14-61)
- 142 包含層出土III群 a 類破片土器  
(圖IV-15-64~68)
- 143 包含層出土III群 b-1 類破片土器  
(圖IV-17-6·7、18-10)
- 144 包含層出土III群 b-1 類破片土器  
(圖IV-17-8·9、18-11·14)
- 145 包含層出土III群 b-1 類破片土器  
(圖IV-18-12·13·15·16)
- 146 包含層出土III群 b-1 類破片土器  
(圖IV-18-17~20)
- 147 包含層出土III群 b 類破片土器  
(圖IV-19-7~20-12·13·15)
- 148 包含層出土III群 b 類破片土器  
(圖IV-20-14·16·18)
- 149 包含層出土III群 b 類破片土器  
(圖IV-20-17·19~23)

- 150 包含層出土IV群 a 類破片土器  
(圖IV-34-63~69)
- 151 包含層出土IV群 a 類破片土器  
(圖IV-34-70)
- 152 包含層出土IV群 a 類破片土器  
(圖IV-35-71~75)
- 153 包含層出土IV群 a 類破片土器  
(圖IV-35-76~36-81)
- 154 包含層出土IV群 a 類破片土器  
(圖IV-36-82~36-90)
- 155 包含層出土IV群 a 類破片土器  
(圖IV-37-91~93)
- 156 包含層出土IV群 a 類破片土器  
(圖IV-37-94~38-98)
- 157 包含層出土IV群 a 類破片土器  
(圖IV-38-99~103)
- 158 包含層出土IV群 a 類破片土器  
(圖IV-39-104、40-106~108)
- 159 包含層出土IV群 a 類破片土器  
(圖IV-39-105、40-109·110)
- 160 包含層出土IV群 a 類破片土器  
(圖IV-40-111~114)
- 161 包含層出土IV群 a 類破片土器  
(圖IV-41-115~118)
- 162 包含層出土IV群 a 類破片土器  
(圖IV-41-119·120、42-122·123·  
125·126)
- 163 包含層出土IV群 a 類破片土器  
(圖IV-41-121、42-124·127)
- 164 包含層出土IV群 a 類破片土器 (圖IV-  
42-128、43-130~133·135~137)
- 165 包含層出土IV群 a 類破片土器  
(圖IV-42-129、44-139~141)
- 166 包含層出土IV群 a 類破片土器  
(圖IV-43-134、44-142~147)
- 167 包含層出土IV群 a 類破片土器 (圖IV-  
43-138、44-149、45-151~153)
- 168 包含層出土IV群 a 類·b 類破片土器  
(圖IV-44-148、43-154)
- 169 包含層出土IV群 a 類破片土器  
(圖IV-43-150)
- 170 包含層出土VI群破片土器  
(圖IV-48-18~24)
- 171 包含層出土VI群破片土器  
(圖IV-48-25~28)
- 172 包含層出土VI群破片土器  
(圖IV-49-29·31、50-32)
- 173 包含層出土VI群破片土器  
(圖IV-49-30、50-34·36)
- 174 包含層出土VI群破片土器  
(圖IV-50-33·35·37)
- 175 包含層出土土製品 (圖IV-51-1~15)
- 176 包含層出土剝片石器群  
(圖IV-56-1~30)
- 177 包含層出土剝片石器群  
(圖IV-57-31~58-50)
- 178 包含層出土剝片石器群  
(圖IV-59-51~61-71)
- 179 包含層出土剝片石器群  
(圖IV-61-72~62-93)
- 180 包含層出土磨製石器群  
(圖IV-63-1~64-13)
- 181 包含層出土礫石器群  
(圖IV-65-1~7)
- 182 包含層出土礫石器群  
(圖IV-65-8~66-14)
- 183 包含層出土礫石器群  
(圖IV-66-15~21)
- 184 包含層出土礫石器群  
(圖IV-66-22~67-29)
- 185 包含層出土礫石器群  
(圖IV-67-30~68-37)
- 186 包含層出土礫石器群  
(圖IV-68-38~45)
- 187 包含層出土礫石器群  
(圖IV-69-46~53)
- 188 包含層出土礫石器群  
(圖IV-69-54~70-61)
- 189 包含層出土礫石器群  
(圖IV-70-62~71-69)
- 190 包含層出土礫石器群  
(圖IV-72-70~77)
- 191 包含層出土礫石器群  
(圖IV-73-78~84)
- 192-1 包含層出土礫石器群 (圖IV-73-85)
- 192-2 包含層出土礫石器群 (圖IV-73-86)
- 192-3 包含層出土礫石器群 (圖IV-74-1)
- 192-4 包含層出土礫石器群 (圖IV-74-2)
- 193-1 包含層出土礫石器群 (圖IV-74-3)
- 193-2 包含層出土礫石器群 (圖IV-74-4)
- 193-3 包含層出土礫石器群 (圖IV-74-5)
- 193-4 包含層出土礫石器群 (圖IV-75-6)
- 194-1 包含層出土礫石器群 (圖IV-75-7)
- 194-2 包含層出土石製品 (圖IV-77-12)
- 194-3 包含層出土石製品 (圖IV-77-18·19)
- 195 包含層出土石製品 (圖IV-76-1~11)
- 196 包含層出土石製品 (圖IV-77-13~17)



# I 調査の概要

## 1 調査要項

遺 跡 名：三次郎川右岸遺跡（北海道教育委員会登録番号 B-15-37）

事 業 名：北海道縦貫自動車道（七飯～長万部）埋蔵文化財発掘調査

委 託 者：日本道路公団北海道支社

所 在 地：茅部郡森町字石倉町516ほか

調査面積：4,450㎡（平成15年度：2,600㎡、平成16年度：1,850㎡）

発掘期間：平成15年7月14日～10月28日

平成16年5月6日～7月28日

整理期間：平成15年10月29日～平成15年3月31日（平成15年度分一次整理）

平成16年8月2日～平成16年3月31日（平成15・16年度分二次整理）

平成17年4月1日～平成17年3月31日（平成15・16年度分二次整理）

## 2 調査体制

財団法人北海道埋蔵文化財センター

（平成15年度）

理 事 長	森 重 楯 一
専 務 理 事	宮 崎 勝
常 務 理 事	畑 宏 明
総 務 部 長	下 村 一 久
第2調査部長	西 田 茂
第4調査課課長	熊 谷 仁 志（発掘担当者）
主 査	鎌 田 望（発掘担当者）
主 任	田 中 哲 郎（発掘担当者）
主 任	新 家 水 奈
主 任	大 泰 司 統

（平成16年度）

理 事 長	森 重 楯 一
専 務 理 事	宮 崎 勝
常 務 理 事	佐 藤 俊 和
総 務 部 長	佐 藤 英 一
第2調査部長	西 田 茂
第3調査課課長	熊 谷 仁 志（発掘担当者）
主 任	末 光 正 卓（発掘担当者）
主 任	大 泰 司 統（発掘担当者）

(平成17年度)

理事 長	森 重 橋 一
専務 理事	宮 崎 勝
常務 理事	佐 藤 俊 和
総務 部長	牧 野 義 則
第2 調査部長	西 田 茂
第3 調査課課長	熊 谷 仁 志 (発掘担当者)
主 任	末 光 正 卓 (発掘担当者)
主 任	大 泰 司 統 (発掘担当者)

### 3 調査に至る経緯

北海道縦貫自動車道は七飯町を基点に室蘭市・札幌市を經由し名寄市へ至る総延長488kmの自動車専用道路である。道南における建設計画は昭和47年に基本計画決定、平成元年に七飯町～長万部間の整備計画決定、平成5年に七飯町～長万部間の工事施工命令が出された。

このうち七飯～長万部間の路線内の埋蔵文化財について、日本道路公団札幌建設局（当時）から北海道教育委員会（以下、道教委と略）に事前協議がなされた。事前協議を受けた道教委は平成2年4月から所在確認調査を実施している。北海道縦貫自動車道にかかわる森町内の埋蔵文化財発掘調査は平成13年度から始まり、日本道路公団北海道支社（当時 現在：東日本高速道路株式会社北海道支社以下、道路公団と略）から当センターと森町が各々受託している。

森町石倉地区の所在確認調査は、道教委により平成2年4月・平成8年4月・平成12年11月に実施された。しかし、これらの所在確認調査では、三次郎川右岸の河岸段丘上の石倉4遺跡・石倉5遺跡や対岸の三次郎川左岸遺跡の所在は確認されたが、三次郎右岸遺跡の所在は確認されていない。

平成15年度に、石倉地区の石倉1遺跡、石倉3遺跡、石倉4遺跡、石倉5遺跡と三次郎川左岸遺跡の発掘調査が計画され、同年4月に当センターと道路公団函館工事事務所との現地打ち合わせ・現地確認を実施した。現地打ち合わせ終了後、当センター職員が現地確認のため石倉3遺跡から三次郎川左岸遺跡を踏査した際、三次郎川の右岸に隣接する工事用道路の法面から数点の土器・フレイクを採取した。道教委にこれを報告した。これを受け同年6月に三次郎川の右岸の所在確認調査を実施することとなった。また、三次郎川左岸遺跡についても範囲確認のための所在確認調査が追加された。

所在確認調査は予定通り、同6月に実施され、その結果、三次郎川右岸からは多量の遺物と共に遺構が確認され、三次郎川右岸遺跡と呼称されることとなった。また、三次郎川左岸からも遺物が出土し、三次郎川左岸遺跡の範囲の変更が行われた。

このような試掘調査の結果をもとに道路公団と道教委の協議が行われ、工事計画の変更が不可能なため発掘調査を行うことになった。

平成15年度当初計画では、石倉地区は石倉1遺跡、石倉3遺跡、石倉5遺跡と三次郎川左岸遺跡の発掘調査を行う予定であった。

道路公団は、石倉地区では、三次郎川左岸遺跡～石倉3遺跡に通じる工事用道路の建設・三次郎川のカルバート工事・三次郎川を渡る仮橋の建設を最優先とした。しかし、当センターによる平成15年度の調査がすでに開始されていたこと、三次郎川右岸遺跡が多くの遺構・大量の遺物が予想されることなどから、三次郎川右岸遺跡・三次郎川左岸遺跡の調査を平成15年度中に終了させることは困難で

あるとし、道教委の指導で道路公団・センターとの調整が行われた。

その結果、平成15年度は、石倉3遺跡・石倉5遺跡・三次郎川右岸遺跡・三次郎川左岸遺跡の発掘調査を実施し、石倉5遺跡・三次郎川右岸遺跡・三次郎川左岸遺跡については工用道路の計画範囲・カルバート工事範囲を終了させ、残りを平成16年度に実施することとした。

三次郎川右岸遺跡の調査は、石倉5遺跡と三次郎川左岸遺跡とともに7月から開始され、予想通り縄文時代から統縄文時代にかけて多くの遺構を検出するとともに多量の遺物が出土した。そして、調査面積は、工用道路路線の設計変更に伴い、範囲が追加され、2,600㎡を調査し終了した。

平成16年5月に、前年度調査地の東側の隣接部分1850㎡の調査を開始し、同8月に、2ヵ年にわたる三次郎川右岸遺跡の現地調査が終了した。平成16・17年度に二次整理を実施し、平成18年度に報告書（本書）を刊行した。（熊谷仁志）

## 4 調査概要

### (1) 発掘区の設定

三次郎川右岸遺跡の調査は、平成15年度開始の際、三次郎川左岸遺跡、石倉5遺跡と同時並行しておこなわれることとなり、また、3遺跡が近接していることから発掘区の設定はすべてを網羅するものとした。

北海道縦貫自動車道工用地内の道路センターSTA. 469+00（石倉5遺跡所在）と、STA. 470+00（三次郎右岸遺跡所在）と結んだ線を基準に4m四方の方眼で設定した。道路センターを通るラインを基軸のMラインとし、それに平行するラインにアルファベット小文字、大文字の順で名称を付けた。基軸の南西方向にL、K、J・・・z、y・・・、北東方向にはN、O、P・・・となる。また、基軸に直交するラインには、STA. 470+00地点が「45」となるよう、縦貫自動車道起点側（函館側）から北西方向に、アラビア数字を付け表示している。発掘区画の名称は南西側交点の「アルファベット・アラビア数字」で表記し、「M-45区」ようになる。また、4m方眼の一発掘区を4分割し、反時計回りにa、b、c、dの小発掘区を設定している。本文・表中において、単独の発掘区画の場合、紙面上の都合により、遺構名との区別からアルファベットと数字の間にハイフンは入れず、かつ「区」を省略し、「M45」のように略記する場合もある。

なお、今回の発掘区設定は、函館側からの距離表示となる縦貫自動車道工事平面図を基にしていることから、山側が図の上方となっている。そのため、図版上では通常の配置と逆転し、北側が下を向くことになる。

調査杭の打設およびそれに関する測量は、測量会社に委託しておこなった。その測量にあたっては、以下の2級基準点を基にしている。なお、座標値は世界測地系座標第XI系である。

- ・標識番号H-45：森町字石倉町610-23所在 X=-204378.440, Y=17522.086
  - ・標識番号H-46：森町字石倉町610-17所在 X=-204941.997, Y=17573.478
  - ・標識番号H-47：森町字石倉町610-11所在 X=-204082.662, Y=17211.117
- 測量の結果、調査区設定の基準点とした道路センターの座標値および緯度、経度は、
- ・STA. 469+00（「M-20区」）：X=-204220.933 Y=17856.625  
北緯42° 09' 41" 東経140° 27' 58"
  - ・STA. 470+00（「M-45区」）：X=-204153.733 Y=17782.571  
北緯42° 09' 42" 東経140° 27' 55"

である。なお、基軸のライン（南東-北西方向）は真北に対して、47° 46' 40" 西側に傾いている。

また、水準点測量については、標識番号H-46（標高47.064m）を基準点としておこなっている。

（田中哲郎）

## （2）調査の方法

調査範囲は三次郎川によって形成された右岸側の段丘面にある。調査範囲は大きく標高38～43mほどの段丘斜面と、43～45mほどの平坦面で構成される。平坦面には三次郎川の屈曲した流路痕跡が明瞭に残り、高低少なくとも2段の平坦面によって構成される。その高低差は上流側に顕著で、最大1m程度ある。流路痕跡はC字状に三次郎川側に開口する形となり、A～Eライン間とH～Nライン間が該当する。この流路痕跡間は三次郎川の浸食を逃れ、古い高位の平坦面を残すことになる。工事工程に従い、平坦面の縁辺を平成15年度に調査し、平坦面北東側（N～T-32～44区・Q-32～45区・R～T-32～46区）を平成16年度に調査した（図Ⅲ-1）。三次郎川から離れるにしたがって遺構・遺物の出現頻度は低くなる。

試掘調査の結果をもとに、調査予定範囲全てを通常発掘調査範囲とした。ただし、B・C-46～48区に相当する部分について、工事用道路に関連する橋脚工事の際、当初の調査範囲外ではあるが、遺物の出土が予想された。そこで、遺物の回収作業を行った。急斜面であったため、黒色土部分を重機によって掘削し、その土について遺物採取を行った。また、調査区内の川に面した急斜面については、極力人力による調査を行い、遺物を発掘区別に取り上げたが、足場を確保する作業の工程上、K-46・47区については、やむなくふたつの発掘区をまとめて取り上げる結果となった。同じくO・P-48区についても、湧水等により、ふたつの発掘区をまとめての取り上げとなった。その作業時に、O～Q-49区について、遺物の出土があった。当初の調査区外ではあるが、工事により包含層部分を損失する場所であったため、O・P-48区と同じ作業手順の通り、3つの発掘区をまとめて遺物取り上げを行なうものとした。

包含層調査に先行し重機により表土、火山灰（Ko-d）を除去した。一部、抜根による土層の攪乱が見られたが、遺物包含層は良好に残存していることがわかった。

調査は主に平成15年度については、石倉3遺跡調査終了に伴い鎌田・新家が調査を開始し、田中・大泰司が石倉1遺跡の調査を計画変更によって打ち切り、それに続いた。平成16年度については末光・大泰司が担当した。

包含層調査については、Ⅲ・Ⅴ・Ⅵ層を遺物包含層とし、発掘区ごとに遺物の多寡、土層の変化を見極めながら、必要に応じてジョレン、移植こて、竹べらなどを用いた人力による手掘り作業により掘り下げた。

遺構調査については、包含層調査時に土層の変化により遺構の可能性がある場所を探した。その場所について、その平面長軸と短軸を想定し、土層観察用のベルトを残して掘り下げ、遺構かどうかについての確認作業、調査を行った。

包含層出土の遺物は、発掘区および層単位での取り上げを行った。ただし平成15年度の調査については、発掘区を4分割した小発掘区による取り上げを主として行った。そのことにより、遺物の出土状況を把握、確認したため、平成16年度の調査については、発掘区による取り上げのみをとした。平成15年度、16年度共に、まとめて出土した遺物については図面に出土位置を記録し、取り上げた。

遺構出土の遺物の取り上げについては、遺構上部の自然堆積層（Ⅲ層・Ⅴ層に相当）に包含されていたものについては、遺構および層位を記録して取り上げた。覆土、床面または坑底面出土の遺物は、



図 I - 1 遺跡の位置

図面、台帳等に出土位置を記録し、遺構単位で連続番号を付けて取上げた。ただし、調査の都合により覆土から出土した遺物の一部は、層位による一括取上げを行っている。(大泰司 統)

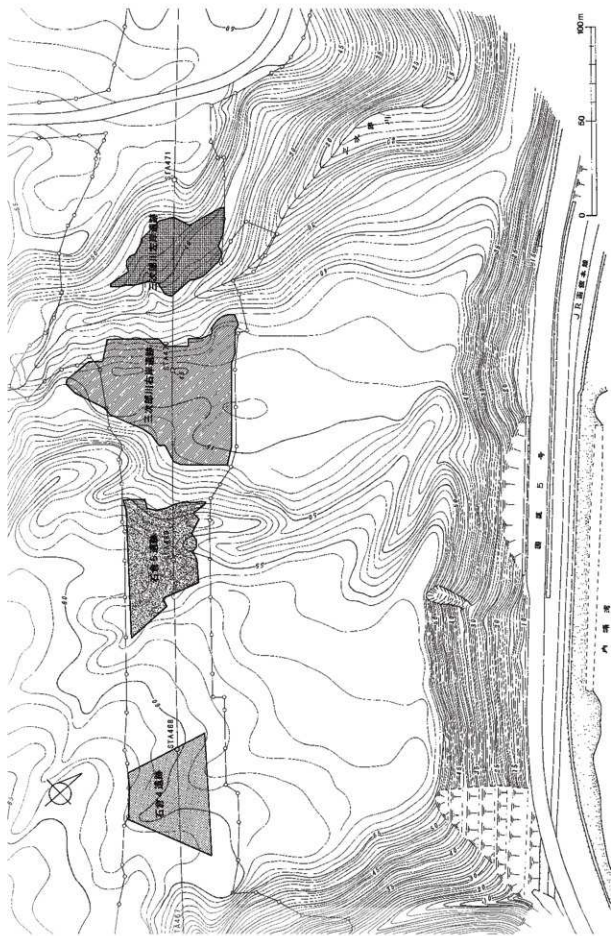


図 I - 2 遺跡周辺の地形と調査区

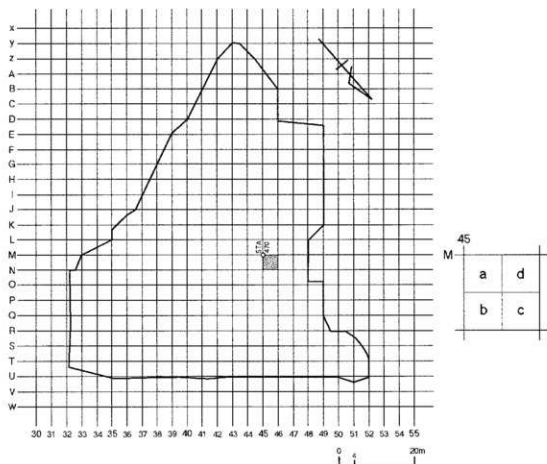
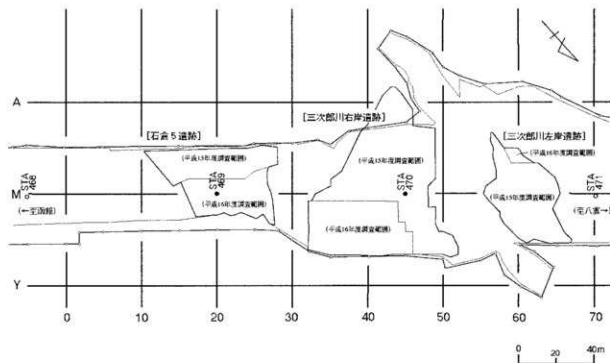


図 I - 3 発掘区設定図

### (3) 基本層序 (図 I-4~7 表 I-1 カラー図版 4)

遺跡の基本層序は、周辺に位置する遺跡の過去の調査事例等を参考に設定された、2003年度の基準について、2004年度にこれの不備や矛盾点の改善を行った。

2003年度は、45ライン・Bライン・Mラインが実測され、本報告書では縮尺約1/80で、2004年度は、地形ごとに選定した場所 (①斜面最上部、②斜面部、③平坦部) を記録し、縮尺約1/40でそれぞれ掲載した。

#### 1) 基本層序各層の概要

##### ・ I 層：現地表土層

現在の地表土である。1640年以降に形成された層で、考古学的な遺物等を含まない。また、II層の堆積が厚い部分では、下位に、にぶい褐色を呈する細粒の土層が認められ、これはII層に関連する降下火山灰層である可能性があるが、便宜的にI層とした。

##### ・ II 層：駒ヶ岳 d 降下軽石層 (Ko-d)

1640年に噴火した駒ヶ岳の火山噴出物層で、構成物の粒径の違い等から、三つの層に分層され、これらはフォールユニットを示していると考えられる。さらにI層の下位の火山灰層を含めると四つの層から構成されることとなる。下位の黒色土層 (III層) の上面において、遺構の凹み等に厚く堆積している部分も認められた。

##### ・ III 層：黒色土層

下位に部分的に認められる白頭山苦小牧火山灰層 (IV層) が存在することによってのみ、V層と区別できる上位の黒色土層である。IV層が存在しない部分では高さで便宜的に区別した。

##### ・ IV 層：白頭山苦小牧火山灰層 (B-Tm)

約1,000年前 (10世紀) に堆積したとされる白頭山苦小牧火山灰層である。部分的に認められる薄い層で、色調から二つに分層した。白色に近いものをIV 1層とし、褐色の色調を呈するものをIV 2層とした。本来的な色調に近いものは前者であると考えられる。II層同様に、遺構の凹み等に落ち込むように堆積している部分も認められた。

##### ・ V 層：黒色土層

上位のIV層により、III層と分層される下位の黒色土層である。Va、Vb層の二つに分けられるとされるが、その違いは断面における極わずかな色調のみであり、明確に識別することは困難である。2004年度の調査では、包含層調査において、V層という層位名称に掘り下げた回数を組み合わせて、遺物を取り上げた。

##### ・ VI 層：漸移層

上位の黒色土層と下位のVIII層との間に位置する層で、VII層と混在する部分も認められた。

##### ・ VII 層：駒ヶ岳 g 降下軽石層 (Ko-g)

約6,000年前に降下した駒ヶ岳の火山噴出物層である。部分的に認められる層で、赤色の色調を呈し、軽石に含まれる鉱物等はII層に類似する。

##### ・ VIII 層：地山層

色調や礫の混入等により、二つに分層した。

##### ・ VIII 1 層：黄褐色ローム層

粒度区分上の礫を含有しない層。存在しない部分も認められる。

##### ・ VIII 2 層：濁川火砕流堆積物層 (Ng) ・ 水成堆積物層 ・ 石倉層

安山岩や軽石等を含有し、約12,000年前、濁川カルデラ起源の火砕流の堆積により形成された層で



ある。三次郎川近くでは、間層として砂層がみられ、含有礫の丸みが著しくなることが観察される。このような様相を示す部分は、水成の二次堆積層であると考えられる。ⅧB層は地質学では「石倉層」と呼称されて広く認識されている層で、この地域の第三紀系の地層を厚く覆っている。

## 2) 土層断面図の説明

### ・斜面最上部 (N-32区)

厚く堆積するⅡ層の下位には、Ⅲ層がみられ、その下位にはⅣ2層が堆積する。本来の色調を呈すると考えられるⅣ1層は部分的に認められる。Ⅴ層の下位は、Ⅵ、Ⅶ層、そしてこれらが混在する状態の層が認められる。

### ・斜面部 (P・Q-34・35区)

この部分では、Ⅳ層の堆積が認められない。

### ・平坦部 (R-39区)

Ⅲ層の下位にはⅣ2層が認められる。土層断面図の左側部分は、Ⅵ層が上下に二つ認められるが、これは、上位が黒色、下位が黄色の色調を呈する状況を分層して表記したためである。(末光正卓)

表 I-1 基本層序一覧表

層名	細分層	名称	厚層 (m)	境界	砂・粘土・シルト (長径2mm未満)				礫 (長径2mm以上)				備考			
					野外土性	色調 色名	7分級法	粘着性	堅密度	種類	混入割合 割合 (%)	形状		風化の程度		
Ⅰ層		現地表土層	平均 15	崩壊 不安	堆積土	暗褐色	HYR3/3	弱~中	軟~堅					森林表土?		
		火山灰層	平均 5	崩壊 明瞭	堆積土 ~ 凝結土	白~褐色	7JYR3/4	弱	軟					混入なし	Ke-d?	
Ⅱ層		上位	約10m 中位	粘結 明瞭	砂土	黄褐色	HYR3/4		すこぶ る	0%	最大 10mm 程度	角 ~ 角 礫	未風化	細粒 中粒粒		
		下位	約10m 下位	粘結 明瞭	砂土	灰白色	HYR8/2		すこぶ る	0%				細粒		
*構成物の粒徑から三つに分層					*粘結の火山灰 (火山砂) 主体 凝結土・凝石				*凝石:角閃石・輝石・カンラン石・石英・長石を含む				[Ka-d]			
Ⅲ層		黒色土層	平均 15	崩壊 不安	堆積土	黒色	HYR1/8	強	堅					混入なし		
Ⅳ層		Ⅳ1層	最大 3	粘結 明瞭	堆積土	白~黄褐色	HYR4/3		中	軟				混入なし	本来の色調に近い部分?	
		Ⅳ2層	最大 4	粘結 明瞭	堆積土	白~黄褐色	7JYR3/4								混入なし	Ⅳ1層の現出時に上位に多くみられる [B-Tm]
*部分的に堆積																
Ⅴ層		Va層	平均 11	崩壊 不安	堆積土	黒色	HYR1/8	強	堅					混入なし	遺物散り上げ層位にV a層、V層1・2回目 遺物散り上げ層位に V層3回目に	
		Vb層	平均 5	崩壊 不安	堆積土	黒色	HYR1/8	強	堅						混入なし	遺物散り上げ層位に V層3回目に
*主体的な遺物包含層: Va層はVb層に比べ明るくやや黄味がかって見えることで、分層される。																
Ⅵ層		凝結層	3~ 12m	崩壊 不安	凝結土	(凝結する物質色)		強	堅					混入なし	V1・V層の凝結した状態に表層する部分のみ V1・V2・V3・V4・V5	
Ⅶ層		Ⅶa層	約10m 下位	粘結 明瞭	砂堆土	明褐色 ~ 白~黄褐色	7JYR3/4 ~ 5YR3/4		中	すこぶ る	凝石 3%以下 粘石色調 明黄褐色	最大5mm 程度以下	円 礫	角 礫	混入なし	[Ka-g]
		Ⅶb層	約10m 上位	粘結 明瞭	砂堆土	明褐色 ~ 白~黄褐色	7JYR3/4 ~ 5YR3/4		中	すこぶ る	明黄褐色	最大5mm 程度以下	円 礫	角 礫	混入なし	[Ka-g]
Ⅷ層	Ⅷ1層	黄褐色ローム層	約10m	明瞭	凝結土	白~黄褐色	HYR 4/3		強	すこぶ る				混入なし	Ⅷ2層凝結層?堆積も られない部分あり	
		火山灰堆積物層 (約1000年程度下)	*	*	凝結土	白~黄褐色	HYR 4/3		強	すこぶ る	凝石 10%程度 火山岩 凝結土 龍天山岩	平均5mm程度 平均3mm程度	円 礫 角 礫 角 礫	混入なし 半風化 半風化 未風化	[No] [石倉層] 水成・凝結堆積物層	
	Ⅷ2層	砂層 (部分的な凝結)	平均 10m	明瞭	砂土・砂堆土	白~黄褐色	HYR 4/3		弱	すこぶ る	凝石 20%程度 火山岩	最大10mm	円 礫 角 礫	混入なし 半風化		
		砂層 (部分的な凝結)	平均 10m	明瞭	砂土・砂堆土	白~黄褐色	HYR 4/3		弱	すこぶ る	凝石 20%程度 火山岩	最大10mm	円 礫 角 礫	混入なし 半風化		

## (4) 整理の方法

現地では野外作業と並行して遺物の水洗、分類、遺物台帳作成、注記作業を行った。注記は小片や微細なものを除いた遺物に、遺跡名略号 (SU)・遺構名または発掘区・遺物番号・層位名を記入した。また、堅穴住居の炉や焼土と判断した土壌についてはフローテーション作業を行っている。平成15年度の冬の整理作業では注記作業を主体とする一次整理作業を行った。平成16・17年度の整理作業においては、遺物の2次整理を行った。

2次整理について、土器は接合作業を行い、その結果、残存率の高いものを復元・図化した。立体

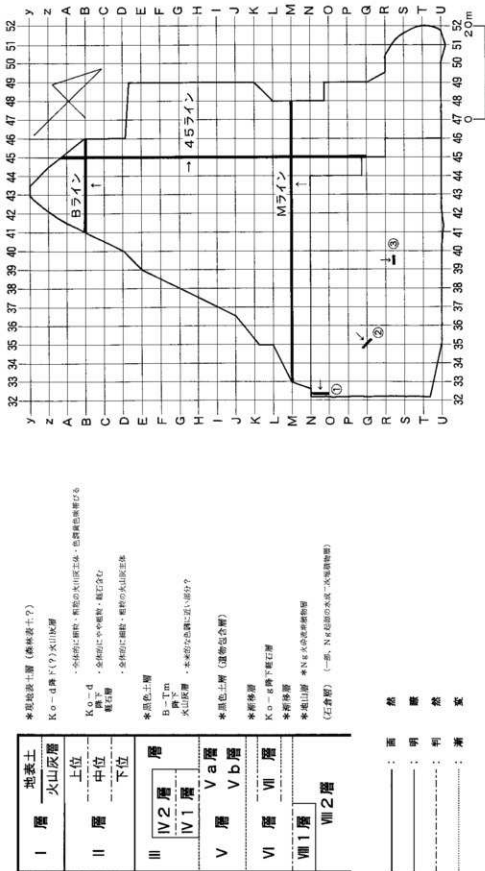


図 I-4 基本層序柱状図及び土層断面実測位置図

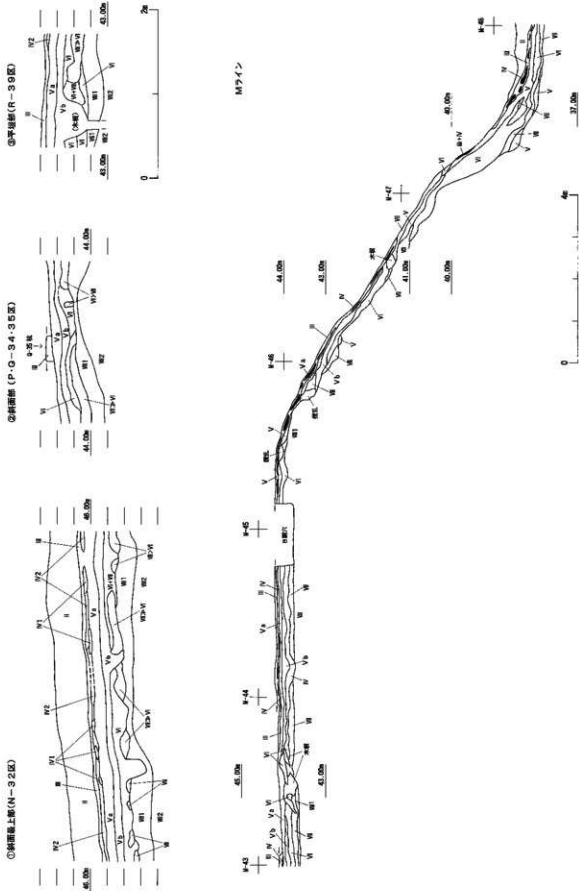


図 I-5 土層断面図(1)

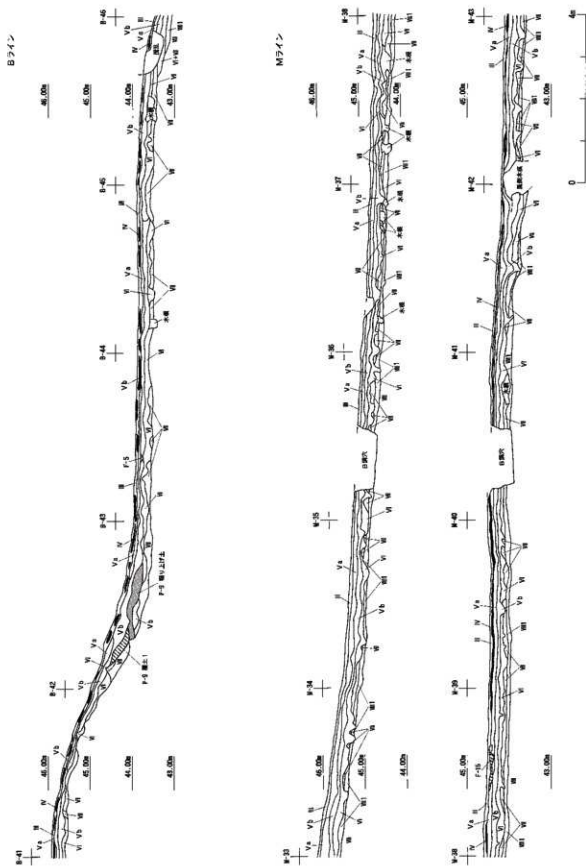


図 I-6 土層断面図(2)

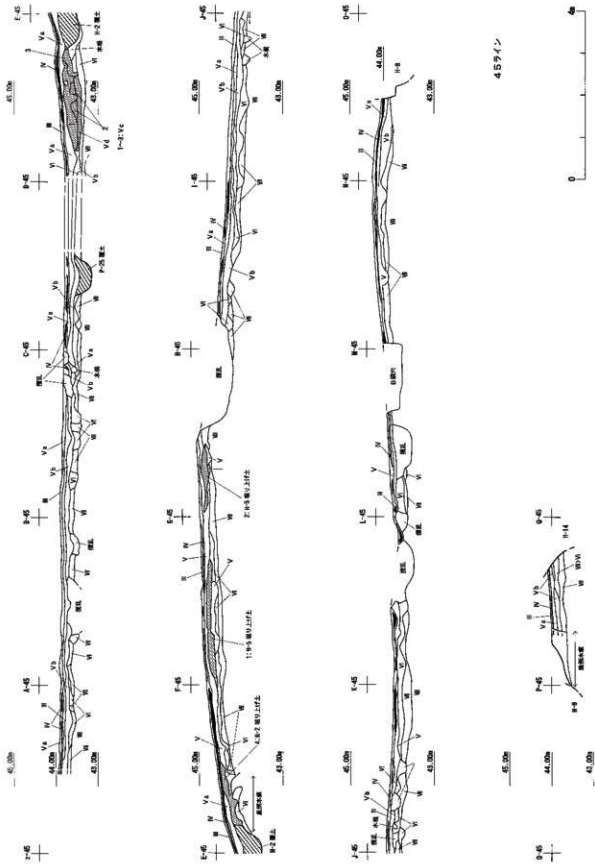


図 I-7 土層断面図(3)

的な加飾を持つ等、拓影図で表現しきれない特徴を持つものを主として実測図化した。また破片資料については、遺跡の时期的特徴を反映しているものを拓影図化した。その中で遺構出土土器については、遺構そのものの時期および、埋没過程において特徴的な状況を示しているものを中心として選んだ。接合作業終了後、一次整理段階では判断しきれないあるいは誤認した土器分類を訂正した後、集計し、分布状況を調べた。図化した土器は写真撮影を行った。(大泰司)

土器類は原則として注記を行っていないが、一部、接合作業を行う目的で注記した礫石器群や、作業目的は不明であるが、注記されている2003年度出土の遺物もある。

はじめに、遺跡における土器類出土のあり方を把握するために、遺物台帳等の一次整理作業の成果をもとに集計作業を行い、「出土点数表」や「出土分布図」を作成し掲載した。

掲載する土器は、遺構出土のものは、出土層位を勘察し、定型的な石器で残存状態が良好なものを、包含層出土のものは、残存状態がほぼ完形のものを中心に選び出した。これらは報告書掲載を目的とした記録として「実測図」を作成し「写真」を撮影した。また、掲載遺物はすべて観察表を作成した。礫集中や配石遺構等を構成する自然礫等については、自然礫についての観察表を掲載した。これらのうち、大型のものが多いS-2出土の自然礫については、発掘現場にて個々を観察・撮影(35ネガカラー)し、礫は現場に廃棄した。(末光)

## (5) 遺物の分類

### 土器類

土器分類は、財団法人北海道埋蔵文化財センターの慣例に倣い、時期を反映させた。便宜的に縄文時代早期をⅠ群、前期をⅡ群、中期をⅢ群、後期をⅣ群、晩期をⅤ群、続縄文時代をⅥ群、擦文時代をⅦ群と分類した。今回報告する調査区の資料には、Ⅱ群、Ⅲ群、Ⅳ群、Ⅵ群の土器がある。

そして、さらにより細かい時期区分を示す必要があるために、各群にアルファベットの小文字を組み合わせた。今回出土した土器に関しては、Ⅱ群・Ⅲ群については、前半をa類、後半をb類とした。Ⅳ群については前葉をa類、中葉をb類、後葉をc類としている。

Ⅲ群b類については、その初期段階の土器である榎林式のうち、見晴町式の直後あるいは並行するものについて胴部破片で識別不可能な場合があり、Ⅲ群b-1類を設けた。それにともないb類については「-1」、「-2」、「-3」を用いてさらに三期に細分した。

また観察表の分類の項目等、紙面の都合上「群」「類」を省略する場合がある。例えば「Ⅳ群a類」ならば「Ⅳa」と略して表記している。

Ⅰ群 縄文時代早期に属する土器群 (今回はいずれも出土していない)

a類 貝殻文が施されるもの

b類 縄文、捺糸文、絡条体圧痕文、組紐圧痕文、貼付文等の施されるもの

Ⅱ群 縄文時代前期に属する土器群

a類 縄文の施された丸底、尖底を特色とするもの。(今回は出土していない)

b類 円筒土器下層式土器に相当するもの。

Ⅲ群 縄文時代中期に属する土器群

a類 円筒土器上層式土器に相当、もしくはその系譜を引くと考えられるサイベ沢Ⅶ式、見晴町式に相当ないし並行するもの。識別の際、Ⅲ群b-1類の胴部破片も一部含む可能性がある。

b類 Ⅲ群a類を中期の前半として、後半に属するもの。榎林式以降の土器群である。

b-1類 榎林式のうち見晴町式直後のもの、その一部は見晴町式と並行する可能性がある。

b-2類 櫻林式のうち大安在B式に近い時期のものと、大安在B式に相当または並行するもの。

b-3類 ノダツII式、棟瓦台式に相当または並行するもの。

#### IV群 縄文時代後期に属する土器群

a類 天祐寺式、涌元式、鳥崎式、大津式、白坂3式、十腰内I式に相当ないしは並行するもの。

b類 ウサクマイC式、手稲式、鯉淵式、加曾利B式、に相当ないしは並行するもの。

c類 堂林式、三ツ谷式、湯の里3式に相当ないしは並行するもの。(今回は出土していない)

#### V群 縄文時代晩期に属する土器群 (今回はいずれも出土していない)

a類 大洞B式、大洞BC式に相当ないしは並行するもの。

b類 大洞C<sub>1</sub>式、大洞C<sub>2</sub>式に相当ないしは並行するもの。

c類 大洞A式、大洞A'式に相当ないしは並行するもの。

#### VI群 続縄文時代に属する土器群

(今回報告の範囲からは恵山式(アヨロ3式、ないしは南川IV群)土器・後北B式土器・後北C<sub>1</sub>式土器・聖山KII群と思われるもの・後北C<sub>2</sub>D式土器、が出土した)

#### VII群 擦文時代に属する土器群

土製品 土器を除いた土製の加工品。土器破片を利用した再生土製品が出土した。それらについてはまず素材となった土器をそれぞれ、土器分類にあてはめたのちに、抽出したため、別集計とした。(大泰司)

## 石器類

石器類は次の基準を用い、器種等に分類した。

### I：剥片石器群 (主に黒曜石、頁岩、めのう等を用い、剥片剥離により製作されるもの)

「石鏃」

「石槍・ナイフ」

「石錐」

「つまみ付きナイフ (石匙)」

「スクレイパー」

「両面調整石器」

「Uフレイク」：不定型な剥片素材に使用 (utilized) によると考えられる痕跡を有するもの

「Rフレイク」：不定型な剥片素材に加工 (retouch) と考えられる痕跡を有するもの

\*実際的には、両者を「U・Rフレイク」として一括し扱っている。

「ビエスエスキュー」：対縁に打撃角の低い剥離痕をもつ剥片。

「石核」

「フレイク・チップ (剥片・砕片)」

「原石」

### II：磨製石器群 (主に緑色泥岩、片岩、蛇紋岩等を用い、研磨により仕上げられるもの)

「磨製石斧」

「擦切残片」

「研磨石材」

「原石」

### Ⅲ：礫石器群

- 「扁平打製石器（すり石）」
- 「北海道式石冠（すり石）」
- 「すり石（その他）」
- 「たたき石」
- 「石鋸」
- 「石錘」
- 「砥石」
- 「台石・石皿・凹み石」

### Ⅳ：石製品

剥片剥離、研磨、敲打等により製作された、非実用品と判断したもの。

### Ⅴ：自然礫

石そのものに、加工や使用等の人為的な痕跡が認められないもの。

\* 上記Ⅰ～Ⅳの「器種」に該当するもので、未製品と判断されるものについては、器種名の後ろに「未製品」と付した。 (末光)

## (6) 遺物と記録類の保管

### (遺物)

土器類は、「報告書掲載」のものは、復元土器と拓影図化した破片資料に分けた。それぞれ「遺構出土」と「包含層出土」に分け、報告書掲載番号を記し、掲載順に収納した。復元土器はダンボール箱、拓影図化した破片はコンテナに収納した。また、掲載資料の接点がなく接合しなかったが、同一個体の可能性が高いものについて、掲載順にコンテナに収納した。「非掲載」遺物は、「遺構出土」のものは「遺構」ごとに分け、それぞれの台帳番号順に収納した。包含層遺物については、まず土器分類ごとに分け、次に接合状況が良好なものと接合しなかったものに分けた。そしてそれぞれを「アルファベットライン」順にコンテナに収納した。 (大泰司)

石器類は、単独でコンテナに収納する必要がある大型のもの以外は、以下のように分類・収納を行った。「報告書掲載」のものは、「遺構出土」と「包含層出土」に分け、報告書掲載番号を記し、掲載順にコンテナに収納した。「非掲載」遺物は、「遺構出土」のものは「遺構」及び「石器群大別」ごとに、「包含層出土」のものは「アルファベットライン」と「石器群大別」並びに「遺物種別」ごとにコンテナに収納した。

すべてのダンボール箱・コンテナには通し番号を付し、収納遺物の内容を一覧表で記した「遺物収納台帳」を作成した。フローテーション作業によって検出した資料も同様に扱った。

### (記録類)

写真は、年度（2003～2005年度）ごと及び作業（現場・整理）ごとに分け、さらにフィルムの種別ごとにアルバムに収納し、道立北海道埋蔵文化財センターで保管される。フィルムの種別には、リバーサル（6×7判・35mm判）、モノクロ（6×7判のみ）、及びネガ（35mm判）の4種類がある。このうち、ネガは原則として保存しないが、配石遺構S-2を構成する自然礫について、個々に撮影したフィルムについては、整理事業の写真として保存する。また、平成15年度の現場写真のリバーサル判については、フォトCD（Kodak digital science Photo CD master disc）が作成されていた。



**(図面類)**

図面類は、「遺構実測図」と「遺物実測図」に大きく分けられる。前者は、現場で作成した「原図」と、二次整理作業段階で原図に手を加えて作成した「素図」がある。後者は、いずれも二次整理段階で作成されたもので、作成対象遺物から「土器」、「石器類」に大別される。

上記に述べたそれぞれの種別ごとに、通し番号を付し、作成対象、縮尺、作成担当者等を明記し、これらを一覧表とした「図面台帳」とともに保存する。(末光)

**(7) 調査結果の概要****検出した遺構**

2年にわたる調査で検出した遺構の概要について述べる。

住居はすべて堅穴住居で、19軒検出した。平成15年度に12軒、平成16年度に7軒検出した。縄文時代中期の可能性があるもの14軒、後期前葉の可能性があるもの4軒である。H-13は欠番である。

土坑は83基検出した。平成15年度に60基、平成16年度については23基を検出した。P-71は焼失家屋を思わせる縄文時代中期中葉Ⅲ群b-1類の土坑である。規模が小さいため住居としては扱わなかった。縄文時代中期のものが27基、そのうち前半は10基、後半が2基、中葉頃のものが5基ある。後期前葉ないしは前半のものは28基ある。縄文時代中～後期の可能性があるものが20基。縄文時代前～後期の可能性があるものが2基。続縄文時代の可能性があるものが6基である。P-45・52・60・64は欠番である。他に縄文時代後期前葉の可能性がある柱穴状の小土坑(SP)を13基検出し、報告書では一項目設けた。SP-13・14は欠番である。焼土は16か所検出した。平成15年度については焼土15か所、平成16年度に1か所検出した。3か所が縄文時代中期以降のもので、他は続縄文時代のものである。集石は大小合わせて6基検出した。平成15年度にはフラスコ状土坑を伴う石組S-1を1基検出した。平成16年度については大型配石遺構S-2色を含めて、大小5基の集石を検出した。これらとは別に、平成15年度に、その場で母岩を打ち欠いた状況と思われる痕跡を検出した。フレイクの集中はいくつかあったが、特徴的なものであったため、FC-1と呼称して接合作業を行った。加えて、擦文土器が1点まとまって出土した。これについては時期と出土状況に特性があったためⅢ章に特記した。

**出土遺物**

調査区内では85,486点の遺物を取り上げた。取り上げ遺物の内訳は包含層からは69,666点、遺構から15,820点出土している。これにフローテーション時に得られた微細な土器片・石器片7,909点を加えると93,392点である。

土器は包含層から58,151点、遺構から7,331点出土している。出土した土器はⅣ群a類が最も多い。全体の62%を占める。遺構、包含層を問わずに分類ごとの集計を出すとしてⅡ群b類が1,638点。Ⅲ群a類が14,216点出土し、2番目に量が多い(22%)。そのうち見晴町式か榎林式か断定できなかったものが15点あった。Ⅲ群と分類した36点についてはⅢ群a類の可能性が強いが断定できなかったものである。Ⅲ群b類が5,939点である。そのうち榎林式の古手でb-1類としたⅢ群a類に近いものが3,384点、大安在B式に相当するb-2類としたものが55点、細分しなかったものが2,500点である。これらは主にⅢ群b-2類に並行するもので、榎林式中～新段階、および大安在B式に並行するが、型式名として大安在B式に合致するかどうか検討の余地を残すものである。一番多く出土したⅣ群a類が40,924点である。Ⅳ群b類の可能性のあるものが19点出土した。Ⅵ群は2,525点出土した。Ⅶ群はO・Q-40～42区から168点が出土した。同一個体がほぼ完形で出土した。土製品・ミニチュア土器・および特殊器形の一部については、土器破片として分類した後、底径2cm以下の深鉢形土器破片、特

殊器形破片、と判断したものを抜き出した。23個体(33破片)確認した。また別に、包含層の土器破片として分類した後、土器片を再加工したと考えられるものを再生土製品として抜き出した。可能性があるものが20点あった。

自然石を差し引いた石器類は13,623点出土した。包含層から10,817点、遺構から2,806点である。以下、遺構包含層を問わずに分類ごとの集計について述べる。石鏃188点、石槍又はナイフ17点、石錐13点、つまみ付きナイフ28点、スクレイパー320点、両面調整石器2点、U・Rフレイク345点、ビエスエスキュー14点、石核としたもの103点、フレイク・チップ10,764点、原石としたもの213点、磨製石斧66点、すり石のうち扁平打製石器260点、北海道式石冠161点、その他のすり石は61点、たたき石112点、石鋸1点、石錘37点(扁平打製石器未製品の可能性あり)、砥石37点、台石・石皿・凹み石の類が合わせて248点である。石製品が49点であった。定形的なものも含めて、すり石類の多さが際立つ。剥片石器ではスクレイパーが多い。石製品のうち特徴的なものとして三脚石器がある。

#### 遺構と遺物の分布

調査範囲は大きく標高38～43mほどの段丘斜面と、43～45mほどの平坦面で構成される。(図Ⅲ-1参照)平坦面には三次郎川の屈曲した流路痕跡が明瞭に残る。そのため平坦面は、さらに高低2段の平坦部がある。低位の平坦面を形成する流路痕跡は2か所ある。いずれもC字状に三次郎川側に開口する。「顕著な高低差(最大1m程度)がある上流側のA～E-43区より北西側部分」と「下流側のH～N-41区より北西側」である。この2か所流路痕跡間E～G-45区より南東側は三次郎川の浸食を逃れ、古い高位の平坦面を残すことになる。以上を踏まえて調査区を5区域に分けて、遺構と遺物の分布について述べる。

**上流側の流路痕跡(A～E-42区より北西側を中心として)：**低位な平坦面については、縄文時代の焼土群(F-1～9)が並ぶ。焼土群の下からは、縄文時代中期と思われる、大型礫が入った2基の土坑(P-16・17)等を検出した。斜面には住居跡H-2と土坑(P-8・9・10・19・28)が並ぶ。これは縄文時代中期中葉以後のものとした。掘り上げ土が低位平坦面の斜面裾部分に分布する。H-2の掘り上げ土については「Vc層」の名称を与えた。しかし、掘り上げ土すべてについて、どの遺構からのものかわからなかった。そして斜面の土坑群の性質が不明であったため、掘り上げ土層全体に対して、「Vc層」の名称を汎用出来なかった。調査区内において、後期前葉の土器は大津式が大半だが、この地区ではトリサキ式が目立つ。

**流路痕跡間の舌状に張り出す地形(E～G-45区の南東側を中心として)：**縄文時代中期の住居が3軒切り合う(H-1・3・4)。中期後半の埋燧炉を持つH-1が、切りあうH-3・4の中央をさらに掘り込む。H-3・4は中期前半の住居である。張り出す地形の先端には、別な中期後半の埋燧炉を持つH-5がある。その脇には完形の中期中葉榎林式土器と北海道式石冠が納められていたP-23やFC-1が位置する。このほかに特徴的な遺物出土状況として、P-33は北海道式石冠3点と扁平打製石器3点が、P-37には台石が、P-38は完形の前期前半円筒上層d式土器が出土した。舌状をした地形の付け根に並んでいたP-2・5は形状と覆土が類似しており、同用途の土坑の可能性はある。

**流路痕跡(H～N-41区の北西側を中心として)：**斜面部分H-40～44区において、縄文時代中期円筒下層c式のまとまった廃棄があった(H-11埋没後遺物を主とする)。連続する平坦部には縄文時代の焼土が直線的に3か所(F-12～14)並ぶ。この流路痕跡を取り囲むように分布する遺構がある。それは、中期中葉の埋燧炉を床面のほぼ中央に持つ住居跡(H-1・5・9)と、縄文時代の可能性がある土坑(P-24・27・29・65・66、類するものとしてはP-69)である。この一連の土



## II 遺跡の位置と環境

### 1 遺跡の位置と周辺の地形 (図 I-1・2、カラー図版1、図版1)

#### (1) 遺跡の位置

三次郎川右岸遺跡は、茅部郡森町字石倉地区、J R函館本線本石倉駅 (かつての本石倉信号所) からおよそ北西方向へ、直線距離約0.9kmのところに位置する。噴火湾 (内浦湾) に注ぐ三次郎川 (別名: 山野川 流路延長5.1km) の右岸、現地表での標高約40~50m付近の台地に立地する。この川の対岸、すなわち八雲町寄りには三次郎川左岸遺跡、その反対方向の南東側は石倉5遺跡と接する。

#### (2) 遺跡周辺の地形

森町~八雲町の市街地を結ぶ海岸線付近では、噴火湾沿いに狭小で平坦な低地部分があり、そこに、J R函館本線、国道5号線、そして、集落等がそれぞれ近接して存在しているのが特徴的である。三次郎川が噴火湾へと流れ込むところは、J R函館本線石倉駅のやや函館方面寄りの地点であり、特に低地部分が狭いところである。海際を線路と国道が所狭しと走り、その内陸部側では、噴火湾へと張り出す台地の崖が隣接している。台地の縁辺の標高は約30~50mで、海や低地との比高差は、その水平距離と比べて著しく大きい。この台地は、毛無山 (684.3m) や狗神岳 (899.4m) を有する渡島山地と呼ばれる内陸の山間部へと続いている。

三次郎川右岸遺跡が立地する地点は、噴火湾へと大きく張り出すこの台地の縁辺部にあたる。海までの直線距離は約250mで、海を0mとすると、その比高差はおおよそ40~50mとなる。遺跡が立地するこの台地の形成に関わる主体的な要因は、濁川カルデラ (火山) の活動による火山起源の堆積物と、三次郎川による浸食及び運搬・堆積作用が考えられる。濁川火山は、遺跡からおおよそ南方向へ約4kmに位置する濁川地区が位置するカルデラ盆地がその名残である。かつて濁川盆地が火山であった頃、遺跡の立地する場所は、濁川火山の裾野かその外縁の平地 (低地部) であったと推測される。近辺の火山により形成された岩石類 (毛無山安山岩・狗神岳火山角礫岩) や、堆積岩類 (訓縫層・八雲層・黒松内層) といった新第三系の地層に覆われていたと推測される。その後の約2~1万2千年前、濁川火山が大爆発を起こし、多量の火砕流堆積物が北西~北東側へと流れ出し新第三系の地層の上に厚く堆積した。この層は濁川火砕流 (軽石流) 堆積物 (Ng) あるいは「石倉層」と呼ばれている。特に盆地の北西~西側の山間部に位置する三岱地区付近は、周囲に比べて傾斜が緩やかな平地であることが、空中写真 (図版1) や地形図 (図 I-1) から判読でき、これは濁川火山の火砕流堆積物により形成された「火砕流台地」であると理解される。

濁川火山は、山体崩壊を伴う爆発とその他の地殻変動により、現在のようなカルデラ盆地 (濁川盆地) となった。盆地の北西~北東側の周囲には、坊主山 (376.7m) をはじめ、標高350mを超える頂を複数有する「カルデラ壁」が存在し、この「壁」は、盆地側では急な崖状、その反対方向では比較的緩やかな傾斜を呈しており、対照的である。

また、この台地は、三次郎川をはじめ、噴火湾に注ぐ河川により浸食作用を受けている。遺跡周辺では石倉層の堆積が厚いため下位の地層は確認できなかったが、三次郎川と接する台地縁辺の崖の断面では、「礫混じりの層」が認められ、これは三次郎川により運搬され堆積した、河川堆積物 (段丘堆積物?・氾濫原堆積物?) であろうと判断された。さらに、2003年度の調査区では、これよりも高

位置で、曲線的な流路跡と河岸段丘地形と認定しうる複数の段丘面も確認されている。

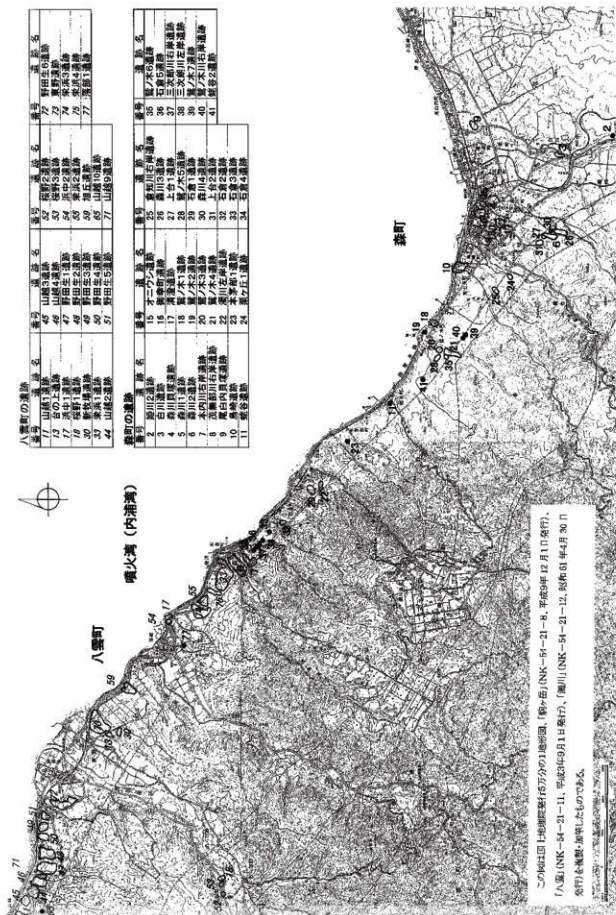
石倉層 (Ng) は、発掘調査といういわゆる「地山層」に相当し、本遺跡の調査においては「Ⅷ2層」と呼称した。粒径がまとまる砂層 (ラミナ) や、含有される岩石が円～極円礫状を呈する部分も広く認められ、このⅧ2層には、水成堆積層であると判断できる部分も存在する (1章4節 (3) 参照)。(末光)

### (3) 「石倉」および「三次郎川」の地名の由来

「石倉」地区は元名を「ショウシナイ」と呼ばれていた。それは、アイヌ語の「ショ」(滝・裸岩)、「ウン」(……のある所)、「ナイ」(川・沢)で、滝のある沢を意味し、現在の本石倉にそそぐ小川から得た名である。これが石倉と改称されたという。一説に、箱館戦争時、榎本軍の石倉三左衛門の名に由来するというものがある。しかし実際には、天明4(1784)年の『本藩紀略』には「イシクラ」、寛政3(1791)年菅江真澄の「えぞのでぶり」には「石倉」という地名がすでに登場している(竹内編 1987)。安政3(1856)年の記述である『竹四郎廻浦日記 巻の三十』には「石クラ」として「…此処も文化頃人家七軒有し由なるが当時四軒、人別三十二人有。…」との記述があり(松浦著・高倉編 1978)、『渡島日誌 巻の四』には同様の記述に苛敵誅求により人口が減ったとの解説が加えられている(松浦著・秋葉解読 1988)。「三次郎川」、「石倉」の名前の由来について、森町教育委員会、藤田 登氏にうかがったところ、幕末に森町周辺がニシン漁でにぎわったところ、和人が大勢移住してきた。そして居を構えた部落の所在地や川にその本人の名をつけた。大部分は現在名称が残っていない。「三次郎川」の名称はその頃に付けられた名称である。他に市街地の北西にある「万太郎川」もその例である。「石倉」という地名もその時代の頃に人名に由来して、付けられたものであろうとのことであった。

## 2 周辺の遺跡

旧・森町と砂原町が合併した平成17年4月1日は遺跡調査後であった。三次郎川右岸遺跡は森町内の北側・八雲町側にある(砂原町と反対側である)。ここでは、旧森町の範囲について遺跡を解説する。旧・森町地域については平成15年11月時点で、41か所の遺跡が記載されている。過去に調査が行われた主なものは、昭和27年から29年にかけて東京大学駒井和愛による尾白内貝塚の調査があり、縄文時代恵山式の土器、石器、骨角器が出土している。尾白内貝塚は昭和55年と平成4年に町教育委員会で調査が行われている。また、昭和30年代から40年代にかけては熊野喜蔵により、姫川1遺跡(旧姫川A遺跡)、姫川2遺跡、森川1遺跡などが調査され、縄文時代前期から中期が主体の遺跡であることが確認されている。昭和38年には函館博物館による森川貝塚の調査で、縄文時代前期の円筒下層式、縄文時代恵山式、擦文式の土器、陶磁器、鉄器、古銭などが出土した。その他、町教育委員会によって、昭和46年に姥谷遺跡、昭和49年に鳥崎遺跡、昭和51年にオニウシ遺跡、昭和59年・平成5年に御幸町遺跡などが調査され、おもに縄文時代中期から後期の様相が次第に明らかになっている。分布は、尾白内川中流域と七飯町との境界である宿野辺川流域に数ヶ所の遺跡がある他は、森町市街地から茂無部川にかけての海岸段丘上と内浦湾(噴火湾)にそそぐ河川沿いに集中している。この地域の時期は、縄文時代中期から後期のものが大半であるが、河川沿いの遺跡は、内陸部に向かって縄文時代後期を主体とするものが増加する傾向が見られる。縄文時代の遺跡は、森町市街地の低位の海岸段丘上に多い。図Ⅱ-1、表Ⅱ-1・2には三次郎川右岸遺跡が立地する森町北部の遺跡と位置





的に近い八雲町南部の遺跡を示している。

近年、北海道縦貫自動車道建設工事に伴う調査が増加し、町教育委員会とにより、鷲ノ木4遺跡、鷲ノ木5遺跡、栗ヶ丘1遺跡などが、当センターにより森川3遺跡、森川4遺跡、上台1遺跡、上台2遺跡、石倉1遺跡、石倉2遺跡、石倉3遺跡、倉知川右岸遺跡、三次郎右岸遺跡、三次郎左岸遺跡などが調査された。これらのうち、本書で報告する遺跡の周辺である、茂無部川から濁川に向かって北から順に7遺跡について概要を述べる(図I-2、図II-1)。三次郎川右岸遺跡に対して、三次郎川左岸遺跡は三次郎川をはさんですぐ対岸にある。石倉4遺跡・石倉5遺跡については三次郎川右岸に立地し、石倉5遺跡は当遺跡の一段上の段丘にあり隣接する。

**本内川右岸遺跡** 縄文時代中～後期の遺跡。遺構は中期の土坑3基で、縄文時代の円筒上層b式、ノダップⅡ式、後期前葉の折り返し口縁を持つ土器と、各種石器類が出土。

**三次郎川左岸遺跡** 縄文時代後期前葉を主体。土坑1基、焼土1ヶ所を検出。縄文時代の円筒下層式土器、後期前葉の土器、続縄文時代の恵山式土器と後北式土器などが出土。後期前葉の土器はタガ状の貼付帯を持つものが主。縄文地文のものは対岸の三次郎川右岸遺跡と同じく底部際まで縄文を施文。縄文地文のほか、網目状絡条体を持つタガ状の貼付帯を持つものもある。恵山式の復元個体は三次郎川右岸遺跡のものよりいくぶん古手である。

**石倉5遺跡** 縄文時代後期前葉を主体する。三次郎川の右岸高位段丘上から川に面する沢のある斜面にかけて立地する。土坑を2基検出。円筒下層式、トリサキ式、続縄文時代・恵山式土器などが出土した。報告書(2005)方向の円筒下層d式土器のうち、三次郎川右岸遺跡の図IV-4-11に類似する地文のものがある。恵山式の復元個体は三次郎川右岸遺跡のものよりいくぶん古手である。

**石倉4遺跡** 石倉5遺跡の南東側に隣接。Ⅲ層(三次郎川右岸と同じ土層区分)で焼土を検出。遺物は縄文時代円筒下層式、円筒上層式、中期後半の大安在B式土器などが出土。報告書(2005)図中の円筒下層d式土器に三次郎川右岸遺跡の図IV-5-18に類似する胴部破片がある。

**石倉3遺跡** 縄文時代後期前葉を主体。段丘の平坦面に土坑を伴う不定形な配石が検出された。

**石倉2遺跡** 縄文時代中期後半を主体とする急峻な尾根上の堅穴住居群。住居跡11軒、土坑9基、Tビット10基、焼土2ヶ所、土器集中4ヶ所、フレイク集中2ヶ所、礫集中1ヶ所を検出した。遺物は縄文時代椀形式土器のまとまった資料を主として中・晩期の土器などが出土。

**石倉1遺跡** 平成14年度から継続して調査・遺物整理を行っている。縄文時代中・後期を主体。坑口部に台石や大型礫をもつ土坑2基などが検出されている。遺物は縄文時代中期～後期初頭の土器をはじめ、各種石器類が出土している。  
(大泰司・鎌田 望)



## III 遺構

### 1 遺構の事実記載

#### (1) 概要

住居はすべて堅穴住居であり19軒検出した。土坑は83基、焼土は16か所、柱穴状の小土坑は13基、集石は大小合わせて6基検出した。フレイクの集中のうち特徴的なひとつをFC-1と呼称した。また、椽文土器が1点まとまって出土し、これについては時期と出土状況に特性があったためⅢ章に特記した。以下各種遺構についての概要、特徴的な掘り上げ土の検出状況について述べる。特にP~T-40~42区掘り上げ土(図Ⅲ-2)については調査経過を示す。

住居はすべて堅穴住居であり19軒検出した。高位の平坦面に立地するものが多い。縄文時代中期の可能性がある14軒(H-1~5・8・9・11・12・14~16・19・20)と、後期前葉の可能性がある、5軒(H-6・7・10・17・18)がある。特徴的なものとしては、中期前半のベンチ構造を持つ大型のH-8・14と壁際に溝が検出されたH-11・12、中期後半の埋燬炉を持つH-1・5・9、類似する平面形で中央に地焼炉を持つH-16・19(H-19は焼失家屋)、後期前葉の石組み炉を持つH-17・18がある。

縄文時代の土坑は中期のものが27基、そのうち中期前半は10基(P-2・5・6・13・14・33・37・38・49・63)、中期後半が2基(P-83・86)、中期中葉頃のもの5基(P-11・20・23・47・71)、中期の可能性がある10基(P-10・17・19・21・26・28・30・32・34・59)である。他に縄文時代の土坑としては、中~後期の可能性がある20基(P-1・3・7~9・16・18・22・25・35・36・40~43・46・54・69・72・78)。前~後期の可能性があるP-50・55。後期前葉ないし前半のものは28基(P-4・12・15・31・39・44・48・51・53・57・58・61・62・67・68・70・73~77・79~82・84・85・87)である。続縄文時代の土坑の可能性のあるものとして、深さは浅いがIV層(B-Tm)が落ち込んでいるものが5基(P-24・27・29・65・66)ある。またP-69は埋まり方がそれらと類似している。

形状的に特徴的な土坑としてフラスコ状土坑が12基(P-39・44・51・61・67・72・73・77・79・81・84・85)ある。また、P-71は焼失家屋を思わせたが、規模が小さく、土坑として扱った。

遺物の出土状況に特徴的なものとして、また縄文時代後期前葉の土器の埋納の可能性がある、小型の土坑P-75・76、榎林式土器が横倒して埋設してあったP-23を検出した。また、北海道式石冠3点および、扁平打製石器3点が出土したP-33、扁平打製石器1点と扁平打製石器未製品の可能性がある石錘1点が出土したP-42がある。ほかに、形状の違いがあるため、別項を設けた土坑として、柱穴状の小土坑がある。13基検出され、SPの名称を与えた。時期は不明だが、他遺跡の類例と、周辺の包含層遺物出土状況を合わせ見ると縄文時代後期の可能性がある。

焼土は16か所検出した。F-10・11・16の3か所が縄文時代のもので、他の13か所は続縄文時代の可能性が高い。続縄文時代の焼土は上流側の流路部分に多く分布しており、その土中からは現場確認時点でも、焼骨片が多量に観察できた。

「集石」・「配石」・「石組み」といった、礫の集中、配列は大小合わせて6基検出した。縄文時代後期前葉と思われる配石が4基(S-1・2・4・5)検出した。S-1はフラスコ状土坑を伴う石組である。S-2は大型の配石遺構である。扇形の弧の形状をした配列を確認したが、調査区外へ続く。石組炉S-4・5については大型住居・H-14が埋没する過程で設置されたものである。同じ土層からはIV群a類土器がまとまって出土した。S-3・6は縄文時代中~後期のものと考えられる。

上流側の流路痕跡（A～E-42区より北西側を中心として、Vc・Vd層の解説）：上流側の流路部分については、平坦面において、統縄文時代の焼土がまとまっていた他、縄文時代中期の大型礫を伴う土坑、P-16・17が存在する。P-8・9・10・19・28は明確な時期は不明であるが、縄文時代中期以降の斜面中腹～裾に掘られた土坑である。この地区について特徴的な、堅穴住居H-2下の斜面に堆積する掘り上げ土「Vc層」について記す（図Ⅲ-5）。三次郎川上流側の流路痕跡は、川に向かってC字状に開口している。高位平坦面と低位平坦面を結ぶ斜面の高低差は1mほどである。H-2調査時点でのメインセクション（45ライン）観察で、Ⅷ層に基本土層にはみられない黒色土が混在する土層が斜面下部に堆積することが確かめられた。また、土層観察のため部分的に残したDラインや44ラインのベルトでも「Vc層」様の掘り上げ土が観察され、低位平坦面北側斜面との地形転換点部分に広範に堆積することが確認できた。この層の先端はVb層中で収束し、その上下の黒色土層中には遺物が包含する。斜面上や高位平坦面に位置する遺構の掘り上げ土（P-8・9・10・19・28など）と想定されたが、この時点では包含層調査がかなり進んだ状況であり、近くに位置する遺構の掘り上げ土（H-2のVc層）であると判断したものもある。すべてについて、起因する遺構を明確に捉えることはできなかった。したがってメインセクション近くのD-44・45区でH-2の掘り上げ土を「Vc層」、H-2掘り上げ土下の黒色土を「Vd層」として遺物を取り上げるに留まった。いずれもH-2に関連する名称であり、この地区および遺跡全体を網羅した名称にはならなかった。便宜的名称「Vd層」は、遺構掘り上げ土下にある「Vb層下部」ということになる（図Ⅲ-40・41・P-17の項参照）。

段丘斜面下に堆積するVc層は、この堅穴を含め段丘斜面に位置する遺構掘り上げ土の可能性が高く、このVc層下の包含層「Vb層下部」からは中期前半の土器（図Ⅳ-7-8、図Ⅳ-11-32）が出土する。また、Vc層からはⅢb-1群土器（図Ⅲ-82-H-2-1）も出土していることから、この堅穴は縄文時代中期中葉（Ⅲ群b-1類土器の時期）以降のもので、これに近い時期の可能性がある。（田中）

**掘り上げ土（盛土）：P～T-40～42区掘り上げ土**（図Ⅲ-2）についての調査

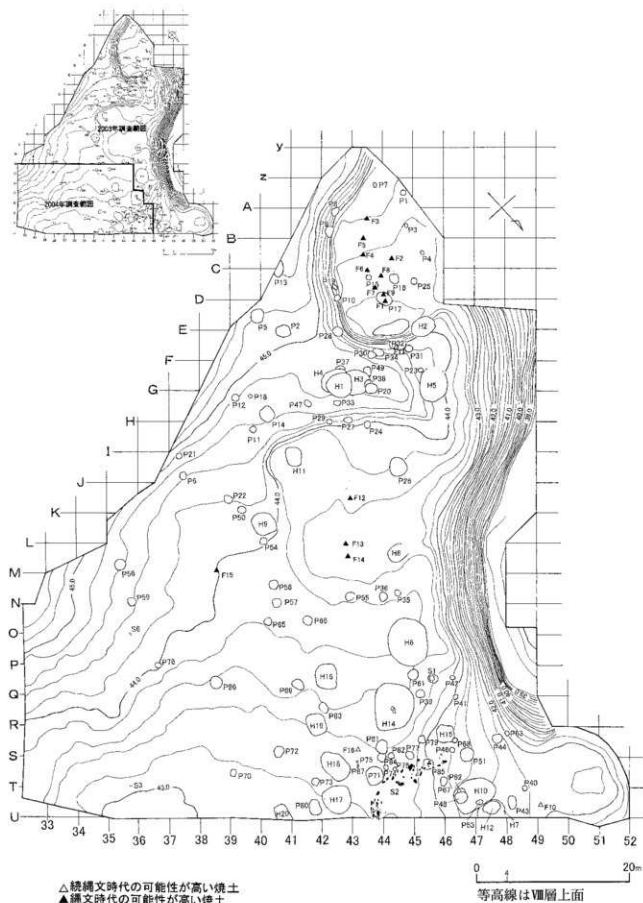
**位置・立地：**P～T-40～42区 確認面における標高43.60～44.10m付近の平坦面

**確認・調査：**包含層調査中、V層上面から2～3回（V2～V3）掘り下げた調査面で、色調が暗褐色を呈しV層と明確に異なる土や、Ⅷ層（Ng）の軽石及び炭化物が混在するものも認められた。V層中に位置する人為的に形成された盛土であろうと考え、土の分布範囲と高さを記録した。盛土は、一部分が開く円形、すなわち「C」字状を呈する部分が多くみられ、その中央部がゆるやかにくぼむ特徴が認められた。その後、調査を進らせていくと、その凹みは住居跡や土坑等であることが判明し、盛土は、これらの遺構を構築する時に生じた「掘り上げ土」であると考えられる。また、この部分以外にも掘り上げ土は存在していた可能性がある。

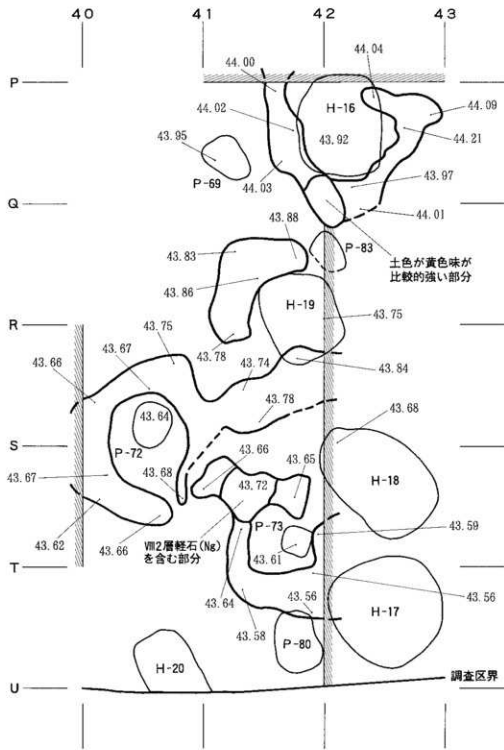
**掘り上げ土（盛土）：**掘り上げ土は、V層より下位の各自然層位が混在し構成される。主体的にみられるものを「a層」、Ⅷ層が混在し、黄色の色調を帯びるものを「b層」、そして、Ⅷ2層の軽石（Ng）を含むものを「c層」とした。後二者は、部分的に認められる層である。

**遺物出土状況：**土器、石器が多量に出土した。包含層調査の流れの中で、掘り上げ土の調査を行ったので、出土遺物は、出土地点は「グリッド名」を、層位は「掘り上げ土」と記録して取り上げ、包含層の遺物として扱った。

**時期：**これら掘り上げ土を、付随する遺構ごとに分類・特定できれば、詳細な時期を知ることは理屈上可能であるが、遺構が近接する部分では、その帰属を厳密に特定することはできない。概ね縄文時代中期～後期であると判断できる。（末光）



図III-1 遺構配置図



P~T-40~42区掘り上げ土			V a 下位~V b 層上面 平均的な層厚10~15cm程度							
断面図 番号	層位名称	主体層	混在層	砂・粘土・シルト (長径2cm未満)		礫 (長径2cm以上)		その他の混在物		備 考
				野外土性	全体割合(%)	種類	割合(%)	種類	割合(%)	
*	掘り上げ土	a層	V > VI > VII	粘壤土 (暗褐色)	中~強	塊	無	炭化物	少量	主体的な掘り上げ土
*		b層	V > VI   > VII + VII	粘壤土 (暗黄褐色)	中~強	塊	無	炭化物	少量	a層に比べ黄色調がひびる
*	c層	V > VI > VII + VII	粘壤土~砂壤土	中~強	塊	径20μm程度	10%	無	無	Ⅷ2層軽石混入

図Ⅲ-2 P~T-40~42区掘り上げ土

## (2) 住居

住居はすべて竅穴住居であり19軒検出した。高位の平坦面に立地するものが多い。縄文時代中期の可能性のあるH-1～5・8・9・11・12・14～16・19・20と、後期前葉の可能性のあるH-6・7・10・17・18である。

中期の前半と思われるものについてはベンチ構造を持つ大型のH-8・14と小型のH-20、壁際に溝が検出されたH-11・12が特徴的である。H-8・14は形状がよく似た住居が並んでおり、縄文時代中期前半の住居と考えられる。いずれも埋まりきる前の窪みにまとまったIV群a類土器の出土があった。H-14にはS-4・5といった後期前葉と考えられる、生活痕跡も存在する。H-11・12については、平面形が長楕円の浅い土坑が連続して溝を構成する。同様の溝はH-14のベンチ内側にも存在する。H-11が埋まりきった上部には円筒上層c式が複数個体まとまって廃棄されていた。中期後半と考えられるものは、埋壺炉を持つH-1・5・9、類似する平面形で中央に地焼炉を持つH-16・19が特徴的であり、H-15についても遺物出土状況からこの時期のものとして判断した。H-1・5・9は埋壺炉を床面のほぼ中央に持つものである。埋壺を持つ住居はちょうど流路痕跡を巡るような位置関係にある。H-1については切りあうH-3・4の中央をさらに掘り込んでいる。H-3・4は円筒上層b～d式の住居が切り合っている可能性がある。H-4床面から北海道式石冠が3点並んで出土している。H-19は焼失家屋である。H-2は土層断面により縄文時代中期以降のもので、掘り上げ土の排出があった可能性を持つ。

後期前葉の可能性のあるものとしては、掘り込みの浅いH-7・10、掘り込みが浅く石組み炉を持つH-17・18がある。また、これらの掘り込みの浅い住居は調査区の下流側に並んで確認されており分布域がまとまりを持つ。さらに調査区域外にひろがる可能性がある。

H-1 (図Ⅲ-3・4・82・116・124、表1・2・9・14、図版4・5)

位置・立地：F・G-42区 標高44.80～45.00mの平坦面

規模：3.38×3.18/3.00×2.78/0.64m

確認・調査：Ko-d除去後、Ⅲ層上面において直径3mほどの円形をした凹みを検出した。遺構を想定して土層観察用の土手を残して掘り下げた。床面を検出した段階で竅穴住居であることを確認した。通常、検出した凹みに比べて下の遺構掘り込みの規模に差はなかった。凹みの中央には鉄分が酸化したものか赤色化した土(覆土3層)が堆積していた。

覆土：覆土1・7層はⅣ層土が混じったV層土である。掘り上げ土の再流入、あるいは土葺き屋根の崩落といった可能性がある。7層は覆土1層に黒色土が混じったものである。7層は流入した時が1層と異なるものである。2・4・6層は1層と同じ性質のものとする。2層はⅣ層主体土であり壁面の崩落の可能性はある。先述の3層は酸化の原因は不明である。小粒径の小石が多く混在している。土中の鉄分が水による作用で酸化した可能性と、人が火を焚いた可能性があった。住居埋没後の人為的行為の可能性があった焼土HF-1として範囲を示した。5層はH-3のHF-1の焼土部分が流入したものである。掘り込み面はⅥ層の上面である。

形態：平面形が隅丸の五角形である。不整な形状で、船形を思わせる。床面はほぼ平坦である。

付属遺構：壁際、床面に斜めに柱が打ち込まれた痕跡がある。長軸をやや北側に振った直線上に3基の土壌が並ぶ。HP-13は船形をした形状の先端に位置する。暗褐色のしまりのない覆土であった。中央に近いところに2基が並ぶ。

HP-2としたものはⅢ群b-2類の深鉢が頸部から上と底部について打ち欠かれて埋設されてい

る。土器を取めるにあたり堅いⅧ層を無駄なく適切な大きさに掘り込む。内部の土はⅧ層主体の土に黒色土が微量に混じったものであり、上部は酸化して赤色化している。焼成によるものと考えられる。HP-1としたものは黒色土主体の覆土であり、流入の可能性がある。中央にはこの2基に加えて小型の土坑が3基ある。HP-3は酸化して赤色化した土が覆土である。

**遺物出土状況：**床面から大安在B式の埋甕炉（図Ⅲ-4-90・Ⅲ-82-1）が出土している。床面から、廃棄されたのか、埋甕と同時に思われる沈線文を持たない縄文地文の土器が2点出土している。いずれも小型である。ひとつは鉢型の器形で、片口を思わせる凹みを口縁部に持つ（図Ⅲ-4-69、Ⅲ-82-3）。もうひとつはミニチュアに近いもの（図Ⅲ-4-75、Ⅲ-82-2）である。

**時期：**出土遺物と形態から縄文時代中期中葉、Ⅲ群b-2類土器の時期と考えられる。（大泰司）

**フローテーション成果：**住居埋没直後の焼土HF-1の焼土部分および、埋甕炉として用いられていたHP-2埋設土器内部の土をフローテーション法にて処理した。その結果、HF-1について、焼骨片群、炭化種子を検出した。焼骨片はシカを主体とする獣骨に魚類の骨が混じる。獣骨には種類は不明だが、中型獣と鳥類の骨片が混じる。魚類の骨のうち種類が判ったものは鮭のみである。炭化種子はニワトコ属・ブドウ科・クリ属・クルミ属・同定不能のものである。加えて酸化したアカザ属・マタビ属が検出された。また、人工遺物として2点の焼成粘土塊を検出した。

土器の中の土については、焼骨片群、炭化種子を検出した。焼骨片は獣骨に魚類の骨が混じる。獣骨の種類は不明だが、中型獣または鳥類のものである。魚類の骨も種類不明である。炭化種子は同定不能のものに加え、種類不明の冬芽を1点検出した。（詳細はV章1・2）

H-2（図Ⅲ-5・82・116、表1・2・9・14、図版6）

**位置・立地：**D・E-44・45区 標高43.20~44.00mの南向き段丘斜面

**規模：**3.22×2.98/2.38×2.13/0.68m

**確認・調査：**各調査区の包含層調査が順次進んだ段階で、45ラインの基本土層の確認をしたところ、E-45坑を中心に黒色土の落ち込みが確認でき、遺構の存在が想定された。段丘斜面地であったこともありD-45区はかなり掘り下げた段階であったが、E-45区に汚れた黒色土の輪郭が弧状に残っていた。D・E-45区について再度精査をおこなった結果、褐色土の覆土の範囲が捉えられた。

順次土層観察をおこないながら掘り下げたところ、平坦な地盤面と壁の立ち上がりが確認でき、竪穴の規模から考え住居跡と判断した。竪穴床面では東側に堅くしめる範囲が確認できたほかは、焼土などはない。床面を掘り下げ確認に努めたが柱穴などの付属施設は検出できなかった。

遺構周辺の状況としては、竪穴下の斜面に掘り上げ土「Vc層」が堆積していた。住居より斜面下の低位平坦面は、三次郎川上流側の流路痕跡であり、川に向かってC字状に開口する。高位平坦面との比高差は1mほどある。H-2調査時点でのメインセクション（45ライン）観察で、基本土層にはみられないⅧ層に黒色土が混在する土層が斜面下部に堆積することが確かめた。この層の先端はVb層中で取束し、その上下の黒色土層中には遺物が包含する。メインセクション近くのD-44・45区では、H-2を意識し、掘り上げ土をVc層、その下位の黒色土をVd層として遺物を取り上げた。「Vd層」もH-2掘り上げ土下位の意味である。

この流路痕の低位平坦面の斜面裾側には、「Vc層」と類似した、掘り上げ土層が分布していた。その下にはやはり黒色土の遺物包含層がある。しかしH-2の場合と異なり、すべてについてその起因する遺構がわからず、その性格に共通項を定義できなかった。掘り上げ土を「Vc層」、その下位の黒色土を「Vd層」としてこの地区を網羅した名称として調査を行う予定であったが、できなかった。

Vd層は遺構掘り上げ土下にある「Vb層下部」ということになる。

**覆土：**上位が黒色土を主体とする（覆土1～3）。壁際には黒色土を主体とするもの（覆土4・5）と黒色土の混じりが少ない褐色～黄褐色土のもの（覆土6～9）がある。前者が堅穴南西側に厚く堆積し、片寄りをみせる。床面近くでは黒色土の薄層（覆土10）がみられ、部分的に黄褐色土（覆土11）がある。

**形態：**平面形は楕円形で、長軸に平行する壁は直線的で隅丸の長方形に近い。確認できた壁の立ち上がりは、斜面上方側が直立に近く、斜面下方側がやや開く形態である。

**付属施設：**明確なものは確認できなかった。

**遺物出土状況：**遺物は堅穴南側の床面から礫1点が出土したほかは、すべては覆土出土である。礫の近くで出土したメノウ製フレイク以外は、住居の壁近くで出土するものが多い。

**時期：**明確な時期を判断できる床面出土の遺物はない。ただし、上記のとおり段丘斜面下に堆積するVc層は、この堅穴を含め段丘斜面に位置する遺構掘り上げ土の可能性が強く、このVc層下の包含層「Vb層下部」からはⅢ群a類土器（図IV-7-8、図IV-11-32）が出土する。また、Vc層からはⅢ群b-1類土器（図Ⅲ-82-H-2-1）も出土していることから、この堅穴は縄文時代中期（Ⅲ群b-1類期）以降のもので、これに近い時期の可能性が強いと考えられる。（田中）

H-3（図Ⅲ-6・7・8・83・116・124、表1・2・9・14、図版7・8）

**位置・立地：**F・G-42・43区 標高44.80～45.00mの平坦面

**規模：**(2.42)×3.30/(2.08)×2.92/0.36m

**確認・調査：**H-1を調査終了後、VI層上位において、H-1が褐色土の落ち込みの中に構築されている事がわかった。大型の堅穴住居跡の中に入れ子状にH-1が構築されていたものと想定し、土層観察用の土手を残して掘り下げた。床面と壁面を検出した段階で褐色土の落ち込みは2軒の住居が切り合っていることが判明した。北西側をH-3、南西側をH-4とした。H-4はH-3より新しい。

**覆土：**覆土はⅧ層を主体として、黒色土が斑状に混じる。2層はやや砂質である。掘りあげ土が再流入したか、土葺き屋根が崩落した可能性がある。掘り込み面は検出面とほぼ同じか、より上である。覆土を面的に掘り下げたところ、焼土HF-2～5を検出した。またCa1～3とした炭化物のまとまりを3か所検出した。これらの焼土は南西に向かってなだらかに傾斜する床面に対して、5cm前後高いレベルで面的に広がる可能性が高い。炭化物も焼土形成時に関係する可能性があるが、土層観察用の断面部において、焼土と炭化物をひとつの面として観察できなかった。

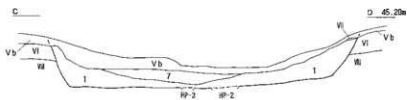
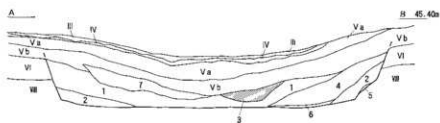
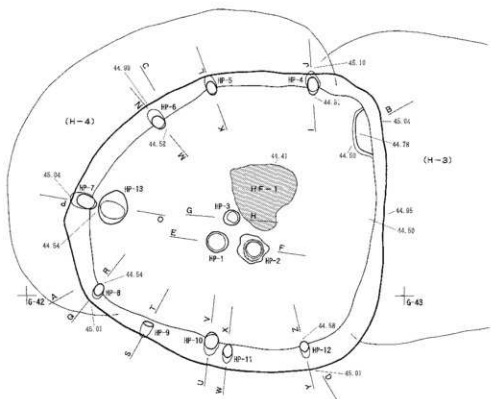
**形態：**残存する部分から判断すると、平面形が台形気味の隅丸方形と思われる。床面は平坦である。

**付属遺構：**残存する部分について、北西隅のHP-1と、北壁よりやや中央にあるHP-3が明瞭な柱穴として確認できた。HP-2・4については、HP-3と組み合わせると想定すると、地焼炉と考えられるHF-1を取り囲むような位置に配されている。

**遺物出土状況：**床面直上およびHP-2そして覆土1層の下部から扁平打製石器が1点ずつ、床面直上およびHP-4そして覆土1層の下部からそれぞれⅢ群a類土器が出土している覆土1層からは主に出土した土器はⅢ群a類土器である。図Ⅲ-8-22脇に図示されている土器はP-38に属する土器（図Ⅲ-103-1）である。

**時期：**遺物出土状況から、縄文時代中期前半と考える。H-1・4より古い。（大泰司）

**フローテーション成果：**住居に伴う地焼炉HF-1および、HF-1がH-1に流入したと考えられるH-1覆土5層の焼土部分、覆土中に面的に広がる焼土HF-3～5について、それぞれの焼土部分、

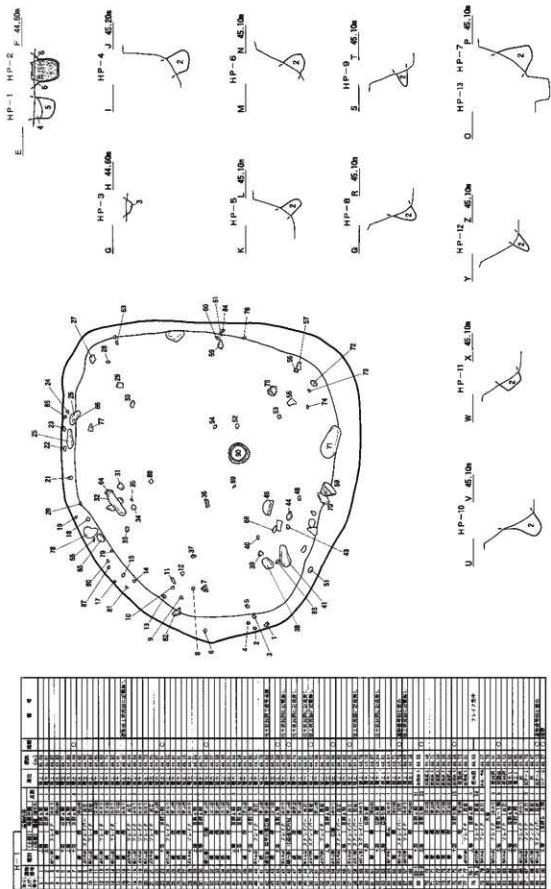


層位	層名	層厚	層色	層質	層理	層狀	層厚	層色	層質	層理	層狀	層厚	層色	層質	層理	層狀
1	砂	0.5	灰	中	粗	粗	0.5	灰	中	粗	粗	0.5	灰	中	粗	粗
2	砂	1.0	灰	中	粗	粗	1.0	灰	中	粗	粗	1.0	灰	中	粗	粗
3	砂	1.0	灰	中	粗	粗	1.0	灰	中	粗	粗	1.0	灰	中	粗	粗
4	砂	1.0	灰	中	粗	粗	1.0	灰	中	粗	粗	1.0	灰	中	粗	粗
5	砂	1.0	灰	中	粗	粗	1.0	灰	中	粗	粗	1.0	灰	中	粗	粗
6	砂	1.0	灰	中	粗	粗	1.0	灰	中	粗	粗	1.0	灰	中	粗	粗
7	砂	1.0	灰	中	粗	粗	1.0	灰	中	粗	粗	1.0	灰	中	粗	粗

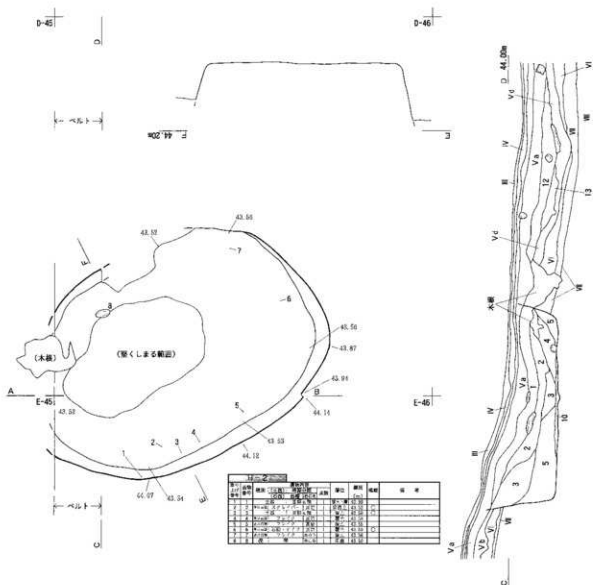


图 III-3 H-1(1)

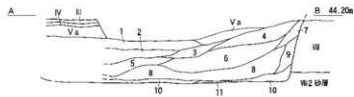




図III-4 H-1(2)



12月20日										
測点	標高 (20m)	緯度 (20m)	経度 (20m)	測点	標高 (20m)	緯度 (20m)	経度 (20m)	測点	標高 (20m)	
1	43.52	103°00'00"	35°00'00"	2	43.52	103°00'00"	35°00'00"	3	43.52	103°00'00"
4	43.54	103°00'00"	35°00'00"	5	43.54	103°00'00"	35°00'00"	6	43.54	103°00'00"
7	43.54	103°00'00"	35°00'00"	8	43.54	103°00'00"	35°00'00"	9	43.54	103°00'00"
10	43.54	103°00'00"	35°00'00"	11	43.54	103°00'00"	35°00'00"	12	43.54	103°00'00"



測点	標高 (20m)	緯度 (20m)	経度 (20m)	12月20日		12月21日		12月22日		備考
				測点	標高 (20m)	測点	標高 (20m)	測点	標高 (20m)	
1	43.52	103°00'00"	35°00'00"	2	43.52	103°00'00"	3	43.52	103°00'00"	
4	43.54	103°00'00"	35°00'00"	5	43.54	103°00'00"	6	43.54	103°00'00"	
7	43.54	103°00'00"	35°00'00"	8	43.54	103°00'00"	9	43.54	103°00'00"	
10	43.54	103°00'00"	35°00'00"	11	43.54	103°00'00"	12	43.54	103°00'00"	



図 III-5 H-2

およびそれらに伴うと考えられる炭化物Ca 1～3を周辺の土ごとあげたもの、これらをそれぞれフローテーション法にて処理した。その結果、HF-1・4・5 およびCa 1関連の資料から炭化種子の検出があった。HF-1からは同定不能のものを1点検出した。HF-4からは同定不能のものを2点検出した。HF-5からはクルミ属を2点検出した。Ca 1から炭化種子はクルミ属を19点検出した。(詳細はV章2)

H-4 (図Ⅲ-6・7・8・83・117・125、表1・2・9・14、図版8)

位置・立地：F-41・42区、G-42区 標高44.80～45.00mの平坦面

規模：3.88×(0.80)/3.44×(0.48)/0.26m

確認・調査：H-1を調査終了後、VI層上位において、H-1が褐色土の落ち込みの中に構築されている事がわかった。大型の竪穴住居跡の中に入れ子状にH-1が構築されていたものと想定して、土層観察用の土手を残して掘り下げた。床面と壁面を検出した段階で褐色土の落ち込みは2軒の住居が切り合っていることが明らかとなった。北西側をH-3、南西側をH-4とした。H-4はH-3より新しい。

覆土：覆土はV～VIII層が混じった土である。掘りあげ土が再流入したか、土葺き屋根が崩落した可能性がある。掘り込み面は検出面とほぼ同じか、より上である。

形態：残存する部分から判断すると、平面形が楕円形をした形状と思われる。床面はほぼ平坦であったと考える。

付属遺構：残存する部分について、HP-1～4が壁際に並ぶようにある。柱穴の可能性がある。

遺物出土状況：壁面に接して、扁平打製石器が1点(図Ⅲ-8-2・Ⅲ-125-7)、床面直上には3点の北海道式石冠(図Ⅲ-8-21・Ⅲ-125-10/Ⅲ-8-23・Ⅲ-125-9/Ⅲ-8-24)が並んでいた。覆土1層から出土した土器はⅢ群a類土器である。

時期：遺物出土状況から、縄文時代中期前半、Ⅲ群a類土器の時期と考えられる。H-1より古く、H-3より新しい。(大泰司)

H-5 (図Ⅲ-9・10・84・117・126、表1・2・9・14、図版9)

位置・立地：F・G-45・46区 標高43.80～44.60mの緩斜面

規模：(4.40)×3.48/(4.30)×3.34/0.96m

確認・調査：表土を除去した段階で長軸4mほどの凹みを検出した。風倒木が切り合っており、埋没途中の遺構かどうか判然としなかった。包含層調査がある程度進んだ段階で、遺構を想定して、土層観察用の土手を残して掘り下げた。床面を検出した段階で風倒木に南西端を壊された竪穴住居であることを確認した。

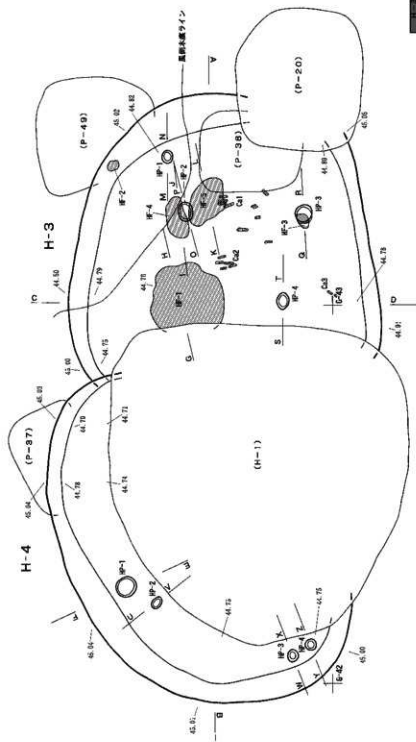
覆土：覆土1層はVb層主体の自然堆積である。6・8・9層はV～VIII層が混じった土である。掘りあげ土の流入ないしは、土葺き屋根が崩落した可能性がある。5層は酸化したマンガンや鉄分と思われる土が混ざり込んでいる。土層の堆積状況から6～10層の埋没後に水の作用によるものか、人為によって焼いたものかは判らなかった。分布範囲は明確に把握出来なかった。小石が多く混在しておりH-1においてHF-1としたものも同様の性質のものである。掘り込み面はVI層上面である。覆土中位出土、取り上げ番号26・27(図Ⅲ-84-2・3)などは覆土7層から出土したものである。

形態：残存する平面形から判断すると、楕円形をした竪穴住居を推定できる。床面はほぼ平坦である。壁は直立気味に立ち上がる。

F-4

F-43

F-42



図III-6 H-3・4(1)

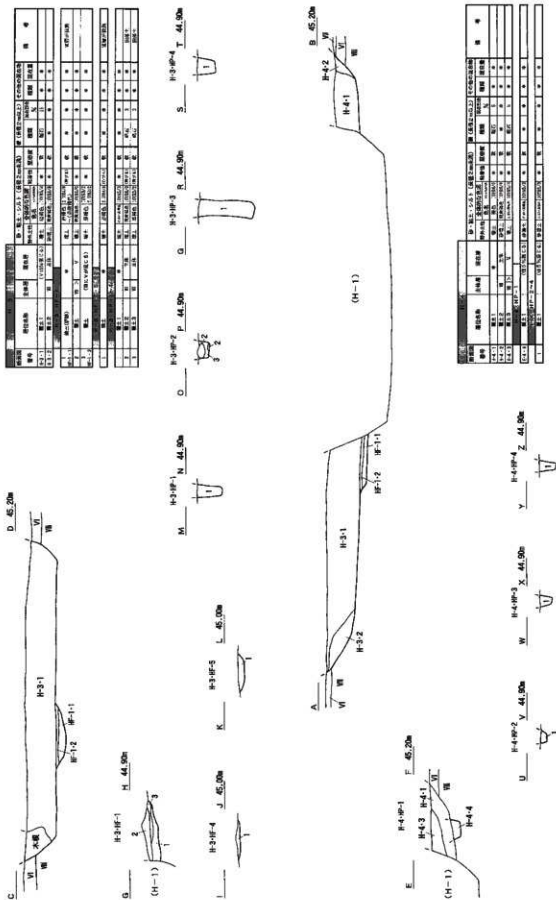


図 III-7 H-3・4(2)



**付属遺構:** 楕円の長軸上に埋甕炉HP-2とHP-1がある。HP-1については灰黄褐色のⅧ層がグライ化した土が覆土である。柱穴が自然に埋まったと考える。埋甕炉は口縁部から底部まで残存する土器(図Ⅲ-84-1)が埋設されその中で火が焚かれていた。土器を取めるにあたり堅いⅧ層を適切な大きさに無駄なく掘る。

**遺物出土状況:** 床面直上からはⅢ群a類土器が出土している。しかし住居に伴う埋甕はⅢ群b類土器である。遺物は、覆土1~5層を覆土上位、覆土4・6・7層を覆土中位、覆土8・9層を覆土下位として取り上げた。G-45-d区にあたる1層の下位に、1413点の自然礫がまとまっていた。便宜上礫集中として取り上げた。人為的に打ち欠いたと思われる土器片(図Ⅲ-84-7左)が混在していた。**時期:** 出土遺物と形態から縄文時代中期後半、Ⅲ群b類土器の時期と考えられる。(大森司)

**フローテーション成果:** 埋甕炉として用いられていたHP-2埋設土器内部の土をフローテーション法にて処理した。その結果、それはシカを主体とする獣骨の焼骨片を検出した。(詳細はV章1)

H-6 (図Ⅲ-11・85、表1・2・9・14、図版10)

**位置・立地:** L-44区 標高43.60~44.00m付近の平坦面

**規模:** (2.20)×1.90/(1.86)×1.84/0.42m

**確認・調査:** Ⅷ層まで下げたところ、V層が2mほどの範囲で落ち込んでいるのを検出した。土層観察用のベルトを十字に残し、黒色土を下げたところ、平坦な床面と明瞭に立ち上がる壁を検出し、住居跡と判断した。

**覆土:** 覆土は23層に分けた。1~3層はVa、Vb層の自然堆積である。その他の層は堅くしまっており、全体に濁川の軽石粒が混入する。V~Ⅷ層が複雑に混在した埋め戻し土の可能性があり、掘り込み面はV~Ⅵ層中であろう。

**形態:** 平面は隅丸台形、あるいは楕円形と思われるが、西側4分の1を風倒木に切られており、全体の形状は不明である。床面は水平・平坦である。

**遺物出土状況:** 覆土から、縄文時代後期前葉の土器片が2点、フレイクが1点、礫が11点、床面から礫が1点出土している。

**時期:** 埋め戻しである覆土10層から後期前葉の土器(図Ⅲ-85-1)が出土している。また周辺の包含層遺物出土状況を踏まえると後期前葉の可能性があり。(新家)

H-7 (図Ⅲ-11・85・123・141、表1・2・9・14、図版11)

**位置・立地:** T-47区 調査区北側(海側)、標高42.60~43.00m付近の平坦面

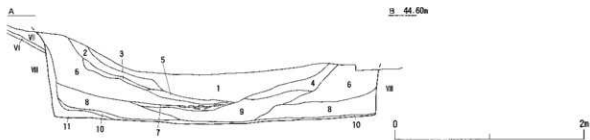
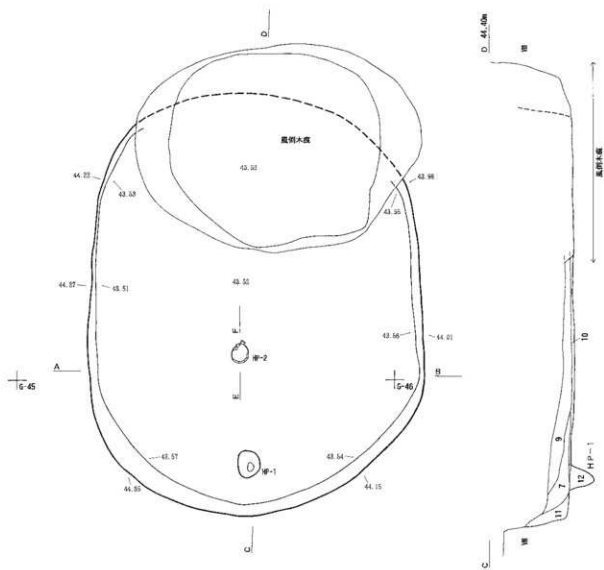
**規模:** (3.74)×(1.94)/(3.30)×1.68/0.33m

**確認・調査:** Vb層調査中、北東側の調査範囲外に続く長さ3m余りの黒色土の落ち込みを検出。調査範囲外の壁に直交するように、断面観察用のベルトを残し、黒色土を下げたところ、平坦な床面と明瞭な壁の立ち上がりが見られ、住居跡と判断した。また南西側が風倒木により壊されていることもわかった。

**覆土:** 覆土は3層に分けた。1・2層はV、Ⅷ層起源の埋め戻し土、3層は堅くしまっており、生活面の可能性がある。

**形態:** 平面は楕円形に近いと思われるが、調査区外に続き、また風倒木の攪乱を受けており、全容は不明である。

**遺物出土状況:** 床面に近い覆土から、土器片や礫が一面に散在して出土した。また、縄文時代後期前



E HP-2 F 43.70m



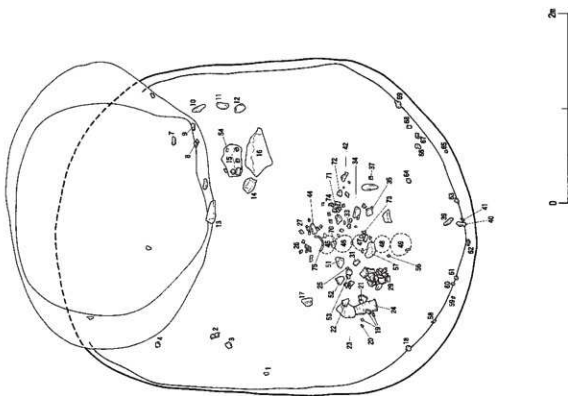
E HP-2 F 43.70m



調査号	調査内容		調査時期	調査場所		調査者	調査結果	調査結果	調査結果	調査結果	調査結果
	調査名称	調査内容		調査場所	調査場所						
1	調査1	調査1	調査1	調査1	調査1	調査1	調査1	調査1	調査1	調査1	調査1
2	調査2	調査2	調査2	調査2	調査2	調査2	調査2	調査2	調査2	調査2	調査2
3	調査3	調査3	調査3	調査3	調査3	調査3	調査3	調査3	調査3	調査3	調査3
4	調査4	調査4	調査4	調査4	調査4	調査4	調査4	調査4	調査4	調査4	調査4
5	調査5	調査5	調査5	調査5	調査5	調査5	調査5	調査5	調査5	調査5	調査5
6	調査6	調査6	調査6	調査6	調査6	調査6	調査6	調査6	調査6	調査6	調査6
7	調査7	調査7	調査7	調査7	調査7	調査7	調査7	調査7	調査7	調査7	調査7
8	調査8	調査8	調査8	調査8	調査8	調査8	調査8	調査8	調査8	調査8	調査8
9	調査9	調査9	調査9	調査9	調査9	調査9	調査9	調査9	調査9	調査9	調査9
10	調査10	調査10	調査10	調査10	調査10	調査10	調査10	調査10	調査10	調査10	調査10
11	調査11	調査11	調査11	調査11	調査11	調査11	調査11	調査11	調査11	調査11	調査11

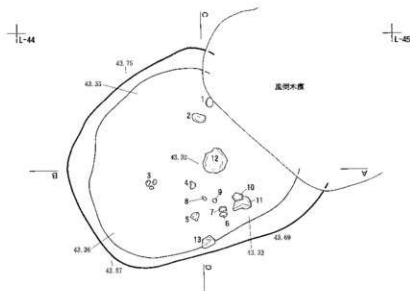
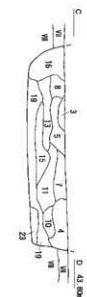
Ⅲ-9 H-5(1)



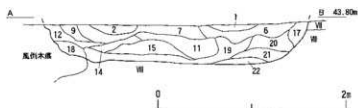


図III-10 H-5(2)

図号	名称	位置	形状	面積	容積	備考
1	外周溝	外周	環状	1000		
2	土塁	外周	環状	2000		
3	土塁	外周	環状	2000		
4	土塁	外周	環状	2000		
5	土塁	外周	環状	2000		
6	土塁	外周	環状	2000		
7	土塁	外周	環状	2000		
8	土塁	外周	環状	2000		
9	土塁	外周	環状	2000		
10	土塁	外周	環状	2000		
11	土塁	外周	環状	2000		
12	土塁	外周	環状	2000		
13	土塁	外周	環状	2000		
14	土塁	外周	環状	2000		
15	土塁	外周	環状	2000		
16	土塁	外周	環状	2000		
17	土塁	外周	環状	2000		
18	土塁	外周	環状	2000		
19	土塁	外周	環状	2000		
20	土塁	外周	環状	2000		
21	土塁	外周	環状	2000		
22	土塁	外周	環状	2000		
23	土塁	外周	環状	2000		
24	土塁	外周	環状	2000		
25	土塁	外周	環状	2000		
26	土塁	外周	環状	2000		
27	土塁	外周	環状	2000		
28	土塁	外周	環状	2000		
29	土塁	外周	環状	2000		
30	土塁	外周	環状	2000		
31	土塁	外周	環状	2000		
32	土塁	外周	環状	2000		
33	土塁	外周	環状	2000		
34	土塁	外周	環状	2000		
35	土塁	外周	環状	2000		
36	土塁	外周	環状	2000		
37	土塁	外周	環状	2000		
38	土塁	外周	環状	2000		
39	土塁	外周	環状	2000		
40	土塁	外周	環状	2000		
41	土塁	外周	環状	2000		
42	土塁	外周	環状	2000		
43	土塁	外周	環状	2000		
44	土塁	外周	環状	2000		
45	土塁	外周	環状	2000		
46	土塁	外周	環状	2000		
47	土塁	外周	環状	2000		
48	土塁	外周	環状	2000		
49	土塁	外周	環状	2000		
50	土塁	外周	環状	2000		
51	土塁	外周	環状	2000		
52	土塁	外周	環状	2000		
53	土塁	外周	環状	2000		
54	土塁	外周	環状	2000		
55	土塁	外周	環状	2000		
56	土塁	外周	環状	2000		
57	土塁	外周	環状	2000		
58	土塁	外周	環状	2000		
59	土塁	外周	環状	2000		
60	土塁	外周	環状	2000		
61	土塁	外周	環状	2000		
62	土塁	外周	環状	2000		
63	土塁	外周	環状	2000		
64	土塁	外周	環状	2000		
65	土塁	外周	環状	2000		
66	土塁	外周	環状	2000		
67	土塁	外周	環状	2000		
68	土塁	外周	環状	2000		
69	土塁	外周	環状	2000		
70	土塁	外周	環状	2000		
71	土塁	外周	環状	2000		
72	土塁	外周	環状	2000		
73	土塁	外周	環状	2000		
74	土塁	外周	環状	2000		
75	土塁	外周	環状	2000		
76	土塁	外周	環状	2000		
77	土塁	外周	環状	2000		
78	土塁	外周	環状	2000		
79	土塁	外周	環状	2000		
80	土塁	外周	環状	2000		
81	土塁	外周	環状	2000		



調査年度	調査区画	調査内容	調査結果	備考
昭和27年	1区	表土除去	表土除去後、III層上面において長軸およそ6mの楕円形の凹みを検出した。	
昭和27年	1区	III層上面	III層上面において長軸およそ6mの楕円形の凹みを検出した。	
昭和27年	1区	IV層上面	IV層上面において長軸およそ6mの楕円形の凹みを検出した。	
昭和27年	1区	V層上面	V層上面において長軸およそ6mの楕円形の凹みを検出した。	
昭和27年	1区	VI層上面	VI層上面において長軸およそ6mの楕円形の凹みを検出した。	
昭和27年	1区	VII層上面	VII層上面において長軸およそ6mの楕円形の凹みを検出した。	
昭和27年	1区	VIII層上面	VIII層上面において長軸およそ6mの楕円形の凹みを検出した。	
昭和27年	1区	IX層上面	IX層上面において長軸およそ6mの楕円形の凹みを検出した。	
昭和27年	1区	X層上面	X層上面において長軸およそ6mの楕円形の凹みを検出した。	
昭和27年	1区	XI層上面	XI層上面において長軸およそ6mの楕円形の凹みを検出した。	
昭和27年	1区	XII層上面	XII層上面において長軸およそ6mの楕円形の凹みを検出した。	
昭和27年	1区	XIII層上面	XIII層上面において長軸およそ6mの楕円形の凹みを検出した。	
昭和27年	1区	XIV層上面	XIV層上面において長軸およそ6mの楕円形の凹みを検出した。	
昭和27年	1区	XV層上面	XV層上面において長軸およそ6mの楕円形の凹みを検出した。	
昭和27年	1区	XVI層上面	XVI層上面において長軸およそ6mの楕円形の凹みを検出した。	
昭和27年	1区	XVII層上面	XVII層上面において長軸およそ6mの楕円形の凹みを検出した。	
昭和27年	1区	XVIII層上面	XVIII層上面において長軸およそ6mの楕円形の凹みを検出した。	
昭和27年	1区	XIX層上面	XIX層上面において長軸およそ6mの楕円形の凹みを検出した。	
昭和27年	1区	XX層上面	XX層上面において長軸およそ6mの楕円形の凹みを検出した。	
昭和27年	1区	XXI層上面	XXI層上面において長軸およそ6mの楕円形の凹みを検出した。	
昭和27年	1区	XXII層上面	XXII層上面において長軸およそ6mの楕円形の凹みを検出した。	



調査年度	調査区画	調査内容	調査結果	備考
昭和27年	1区	表土除去	表土除去後、III層上面において長軸およそ6mの楕円形の凹みを検出した。	
昭和27年	1区	III層上面	III層上面において長軸およそ6mの楕円形の凹みを検出した。	
昭和27年	1区	IV層上面	IV層上面において長軸およそ6mの楕円形の凹みを検出した。	
昭和27年	1区	V層上面	V層上面において長軸およそ6mの楕円形の凹みを検出した。	
昭和27年	1区	VI層上面	VI層上面において長軸およそ6mの楕円形の凹みを検出した。	
昭和27年	1区	VII層上面	VII層上面において長軸およそ6mの楕円形の凹みを検出した。	
昭和27年	1区	VIII層上面	VIII層上面において長軸およそ6mの楕円形の凹みを検出した。	
昭和27年	1区	IX層上面	IX層上面において長軸およそ6mの楕円形の凹みを検出した。	
昭和27年	1区	X層上面	X層上面において長軸およそ6mの楕円形の凹みを検出した。	
昭和27年	1区	XI層上面	XI層上面において長軸およそ6mの楕円形の凹みを検出した。	
昭和27年	1区	XII層上面	XII層上面において長軸およそ6mの楕円形の凹みを検出した。	
昭和27年	1区	XIII層上面	XIII層上面において長軸およそ6mの楕円形の凹みを検出した。	
昭和27年	1区	XIV層上面	XIV層上面において長軸およそ6mの楕円形の凹みを検出した。	
昭和27年	1区	XV層上面	XV層上面において長軸およそ6mの楕円形の凹みを検出した。	
昭和27年	1区	XVI層上面	XVI層上面において長軸およそ6mの楕円形の凹みを検出した。	
昭和27年	1区	XVII層上面	XVII層上面において長軸およそ6mの楕円形の凹みを検出した。	
昭和27年	1区	XVIII層上面	XVIII層上面において長軸およそ6mの楕円形の凹みを検出した。	
昭和27年	1区	XIX層上面	XIX層上面において長軸およそ6mの楕円形の凹みを検出した。	
昭和27年	1区	XX層上面	XX層上面において長軸およそ6mの楕円形の凹みを検出した。	
昭和27年	1区	XXI層上面	XXI層上面において長軸およそ6mの楕円形の凹みを検出した。	
昭和27年	1区	XXII層上面	XXII層上面において長軸およそ6mの楕円形の凹みを検出した。	

図III-11 H-6

葉の土器片が2か所(図III-12-1・III-85-3/III-12-18・III-85-1)でまとまって出土した。その他、中期の土器片やスクレイパー、北海道式石冠も出土している。覆土から三脚石器(III-141-1)の出土がある。

時期：出土遺物から、縄文時代後期前葉。(新家)

H-8 (図III-13・14・86・87・117・123・126~128、表1・2・9・14、図版12)

位置・立地：N・O-44・45区 標高43.40~44.80mの緩斜面

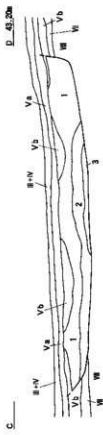
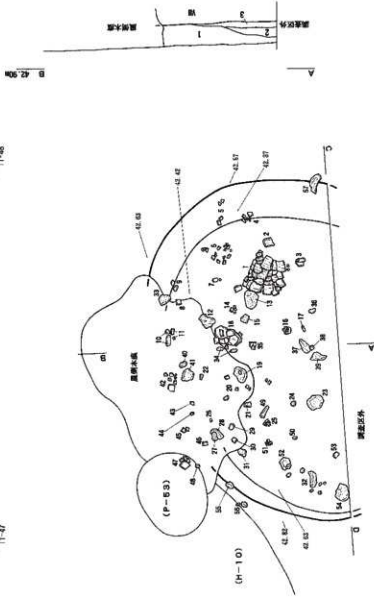
規模：6.18×5.14/5.66×4.48/0.86m

確認・調査：表土除去後、III層上面において長軸およそ6mの楕円形の凹みを検出した。土層観察用の土手を残して掘り下げた。床面を検出した段階で、ベンチ構造を持つ窪穴住居であると判断した。

測点	測点番号	地層	遺物	備考
1	101	VI	土器片	
2	102	VI	土器片	
3	103	VI	土器片	
4	104	VI	土器片	
5	105	VI	土器片	
6	106	VI	土器片	
7	107	VI	土器片	
8	108	VI	土器片	
9	109	VI	土器片	
10	110	VI	土器片	
11	111	VI	土器片	
12	112	VI	土器片	
13	113	VI	土器片	
14	114	VI	土器片	
15	115	VI	土器片	
16	116	VI	土器片	
17	117	VI	土器片	
18	118	VI	土器片	
19	119	VI	土器片	
20	120	VI	土器片	
21	121	VI	土器片	
22	122	VI	土器片	
23	123	VI	土器片	
24	124	VI	土器片	
25	125	VI	土器片	
26	126	VI	土器片	
27	127	VI	土器片	
28	128	VI	土器片	
29	129	VI	土器片	
30	130	VI	土器片	
31	131	VI	土器片	
32	132	VI	土器片	
33	133	VI	土器片	
34	134	VI	土器片	
35	135	VI	土器片	
36	136	VI	土器片	
37	137	VI	土器片	
38	138	VI	土器片	
39	139	VI	土器片	
40	140	VI	土器片	
41	141	VI	土器片	
42	142	VI	土器片	
43	143	VI	土器片	
44	144	VI	土器片	
45	145	VI	土器片	
46	146	VI	土器片	
47	147	VI	土器片	
48	148	VI	土器片	
49	149	VI	土器片	
50	150	VI	土器片	
51	151	VI	土器片	
52	152	VI	土器片	
53	153	VI	土器片	
54	154	VI	土器片	
55	155	VI	土器片	
56	156	VI	土器片	
57	157	VI	土器片	
58	158	VI	土器片	
59	159	VI	土器片	
60	160	VI	土器片	
61	161	VI	土器片	
62	162	VI	土器片	
63	163	VI	土器片	
64	164	VI	土器片	
65	165	VI	土器片	
66	166	VI	土器片	
67	167	VI	土器片	
68	168	VI	土器片	
69	169	VI	土器片	
70	170	VI	土器片	
71	171	VI	土器片	
72	172	VI	土器片	
73	173	VI	土器片	
74	174	VI	土器片	
75	175	VI	土器片	
76	176	VI	土器片	
77	177	VI	土器片	
78	178	VI	土器片	
79	179	VI	土器片	
80	180	VI	土器片	
81	181	VI	土器片	
82	182	VI	土器片	
83	183	VI	土器片	
84	184	VI	土器片	
85	185	VI	土器片	
86	186	VI	土器片	
87	187	VI	土器片	
88	188	VI	土器片	
89	189	VI	土器片	
90	190	VI	土器片	
91	191	VI	土器片	
92	192	VI	土器片	
93	193	VI	土器片	
94	194	VI	土器片	
95	195	VI	土器片	
96	196	VI	土器片	
97	197	VI	土器片	
98	198	VI	土器片	
99	199	VI	土器片	
100	200	VI	土器片	

1-46

1-47

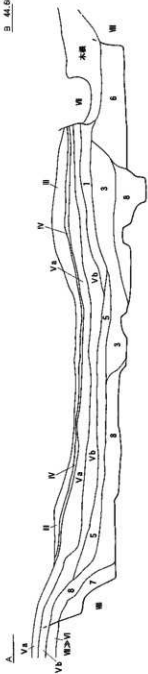


測点	測点番号	地層	遺物	備考
1	101	VI	土器片	
2	102	VI	土器片	
3	103	VI	土器片	
4	104	VI	土器片	
5	105	VI	土器片	
6	106	VI	土器片	
7	107	VI	土器片	
8	108	VI	土器片	
9	109	VI	土器片	
10	110	VI	土器片	
11	111	VI	土器片	
12	112	VI	土器片	
13	113	VI	土器片	
14	114	VI	土器片	
15	115	VI	土器片	
16	116	VI	土器片	
17	117	VI	土器片	
18	118	VI	土器片	
19	119	VI	土器片	
20	120	VI	土器片	
21	121	VI	土器片	
22	122	VI	土器片	
23	123	VI	土器片	
24	124	VI	土器片	
25	125	VI	土器片	
26	126	VI	土器片	
27	127	VI	土器片	
28	128	VI	土器片	
29	129	VI	土器片	
30	130	VI	土器片	
31	131	VI	土器片	
32	132	VI	土器片	
33	133	VI	土器片	
34	134	VI	土器片	
35	135	VI	土器片	
36	136	VI	土器片	
37	137	VI	土器片	
38	138	VI	土器片	
39	139	VI	土器片	
40	140	VI	土器片	
41	141	VI	土器片	
42	142	VI	土器片	
43	143	VI	土器片	
44	144	VI	土器片	
45	145	VI	土器片	
46	146	VI	土器片	
47	147	VI	土器片	
48	148	VI	土器片	
49	149	VI	土器片	
50	150	VI	土器片	
51	151	VI	土器片	
52	152	VI	土器片	
53	153	VI	土器片	
54	154	VI	土器片	
55	155	VI	土器片	
56	156	VI	土器片	
57	157	VI	土器片	
58	158	VI	土器片	
59	159	VI	土器片	
60	160	VI	土器片	
61	161	VI	土器片	
62	162	VI	土器片	
63	163	VI	土器片	
64	164	VI	土器片	
65	165	VI	土器片	

図III-12 H-7



B 44.60m



D 44.60m



E H P-1 F 43.50m



G H P-2 H 43.50m



I H P-3 J 43.50m



K H P-4 L 43.50m



設計者		校核者		監理者		設計者		校核者		監理者	
設計者		校核者		監理者		設計者		校核者		監理者	
1	設計	2	校核	3	監理	4	設計	5	校核	6	監理
7	設計	8	校核	9	監理	10	設計	11	校核	12	監理
13	設計	14	校核	15	監理	16	設計	17	校核	18	監理
19	設計	20	校核	21	監理	22	設計	23	校核	24	監理
25	設計	26	校核	27	監理	28	設計	29	校核	30	監理
31	設計	32	校核	33	監理	34	設計	35	校核	36	監理
37	設計	38	校核	39	監理	40	設計	41	校核	42	監理
43	設計	44	校核	45	監理	46	設計	47	校核	48	監理
49	設計	50	校核	51	監理	52	設計	53	校核	54	監理
55	設計	56	校核	57	監理	58	設計	59	校核	60	監理
61	設計	62	校核	63	監理	64	設計	65	校核	66	監理
67	設計	68	校核	69	監理	70	設計	71	校核	72	監理
73	設計	74	校核	75	監理	76	設計	77	校核	78	監理
79	設計	80	校核	81	監理	82	設計	83	校核	84	監理
85	設計	86	校核	87	監理	88	設計	89	校核	90	監理
91	設計	92	校核	93	監理	94	設計	95	校核	96	監理
97	設計	98	校核	99	監理	100	設計	101	校核	102	監理

図III-14 H-8(2)

N・O-45区については包含層を下げすぎたため西縁のベンチ部分を消失した。北縁については東〜北東縁の構造から判断すると、ベンチ部分がもともと存在しなかったと推定できる。

**覆土：**1〜8層はV〜VIII層が混じった土である。掘りあげ土の流入ないしは、土葺き屋根が崩落した可能性がある。掘り込み面はKo-g主体のVI層上面である。

**形態：**平面形が楕円形をした竪穴住居である。ベンチが東縁から西縁にかけて巡ると考えられる。ベンチ部分は内側に向かって傾斜する。ベンチの内側の部分も楕円形の平面形である。床面はほぼ平坦であるが、4本の支柱穴に囲まれた中央部分には、皿状の浅い凹みがいっつかある。壁は直立気味に立ち上がる。

**付属遺構：**ベンチ部分の内側について4本の支柱穴がある。縁辺からそれぞれ80cm中心へ入った位置にある。楕円の長軸上に4ヶ所の皿状の凹みが分布する。

**遺物出土状況：**北海道式石冠が床面直上から2点(図Ⅲ-13-9・Ⅲ-127-16/Ⅲ-13-11・Ⅲ-127-15)覆土下位から1点(図Ⅲ-13-19・Ⅲ-128-20)出土している。またベンチ部分の床面から砥石が出土している。覆土中位以下についてはⅢ群a類土器が主に出土している。例外として、壁面にまとまって出土した遺物についてⅣ群a類土器が出土しているが風倒木の影響が考えられる。図Ⅲ-13-27はHP-3覆土中からの出土である。

**時期：**出土遺物とベンチを持つ形態から縄文時代中期前半、Ⅲ群a類土器の時期と考えられる。

(大森司)

H-9 (図Ⅲ-15・16・87・88・117・136、表1・2・9・14、図版13)

**位置・立地：**J・K-39・40区 標高44.00〜44.20mの平坦面

**規模：**3.18×2.98/2.78×2.72/0.64m

**確認・調査：**表土除去後、Ⅲ層上面において長軸およそ3mの楕円形の凹みを検出した。土層観察用の土手を残して掘り下げた。床面を検出した段階で、竪穴住居であると判断した。

**覆土：**1・2層はV〜VIII層が混じった土である。掘りあげ土の流入ないしは土葺き屋根が崩落した可能性がある。掘り込み面はVI層上面である。

**形態：**平面形が、舟形を思わせる、隅丸の五角形をした竪穴住居である。壁面は開きながら立ち上がるが直立気味である。床面はほぼ平坦だが、中央が埋壺炉を中心として微妙に凹む。

**付属遺構：**長軸上に埋壺炉と3つの小土坑が並ぶ。HP-1としたのは埋壺炉の土器の掘りかたである。土器を収めるにあたり堅いVIII層を適切な大きさに無駄なく掘る。埋壺炉の内部は暗褐色土が詰まっており赤味を帯びた焼土ではない。ただし土器の縁辺が焼けており、HP-2と反対を向いた側が意図的に打ち欠かれていた。当初、HP-2を炉に付属する施設と考えたが、埋壺の打ち欠かれた側の反対側に位置し、灰層もないことから具体的な用途は不明である。HP-3と4については、打ち込みの柱穴を思わせる形状であり、平面形長軸上で壁際にあることから上部構造を支えていた可能性がある。

**遺物出土状況：**床面直上からは使用痕のあるフレイクやスクレイパーが出土している。また埋壺炉の土器はⅢ群b類(図Ⅲ-16-90・Ⅲ-87-1)である。覆土からは榎林式土器(図Ⅲ-16-42・Ⅲ-88-3/Ⅲ-16-21・Ⅲ-88-2)の出土がある。

**時期：**出土遺物から縄文時代中期後半、Ⅲ群b類土器の時期と考えられる。

(大森司)

**フローテーション成果：**埋壺炉として用いられていたHP-1埋壺土器内部の土をフローテーション法にて処理した。その結果、焼骨片を検出した。焼骨片はシカを主体とする獣骨と種類不明だが魚類の骨である。(詳細はV章1)

H-10 (図III-17・88・123・128、表1・2・9・14、図版14)

位置・立地：S・T-46・47区 調査区北側（海側）、標高42.80～43.40m付近の平坦面

規模：5.56×(3.46)/5.14×(3.12)/0.30m

確認・調査：H-7を調査中、その南側に大きく広がる黒色土の範囲を検出。断面観察用のベルトを十字に残し、黒色土を掘り下げた。平坦な床と壁の立ち上がりを確認し、住居跡と判断した。北側の風倒木の攪乱や、P-53との切り合いにより、H-7との新旧関係を観察することはできなかった。

覆土：覆土はVb層起源の黒色土1層で、自然堆積と思われる。

形態：平面は楕円形に近いと思われるが、攪乱やP-53との切り合いで、輪郭の把握は難しい。

付属遺構：ブロック状の焼土を2か所、床直上で検出した。いずれも層厚3cmほどで、断面はその場で焼けたグラデーション様ではなく、床面との層界がはっきりとわかる状況であった。住居内で焼けた炉ではない可能性がある。

遺物出土状況：覆土と床面に、土器片や礫が一面に散在して出土した。

時期：出土遺物から、縄文時代後期前葉か。SP-1・2・3・5・8より新しいか、またはH-10廃絶直後にこれらのSPが掘り込まれたものとする。（新家）

H-11 (図III-18・89・128、表1・2・9・14、図版15)

位置・立地：H・I-40・41区 標高44.60～44.80mの平坦面

規模：2.34×1.92/2.02×1.70/0.46m

確認・調査：VI層上面において黒色土の落ち込みを検出した。土層観察用の土手を残して掘り下げたところ、円筒上層c～d式を主とするⅢ群a類土器を検出した。床面を検出した段階で、竪穴住居であると判断した。掘り込み面はVb層下位である。

覆土：覆土1・2層はVb層主体の流入である。3～10層はV～VII層が混じった土である。11層はVIII層を主とする土であった。3～11層については、掘りあげ土の流入ないしは、土葺き屋根が崩落した可能性がある。

形態：平面形はやや台形がかった方形である。隅丸ではあるが、かなり直角を思わせる隅の形状をしている。壁面は開きながら立ち上がるが、直立気味である。床面はほぼ平坦である。壁際には溝が巡る。

付属遺構：壁際の溝は北西壁のほぼ中央から始まり、南隅と東隅を巡り、北東壁のほぼ中央までかかる。長さ24cm、幅8cm、深さ4cmの短い溝の連続であり、土留めのための材が並んでいたとも推測できる。

遺物出土状況：覆土1・2層からⅢ群a類がまとまって出土（図III-18-11～13）している。それは円筒上層c式（図III-89-1～7）が主で土製品（18-13に混在・89-5）もあった。図中の床面および壁面からの礫は地山に刺さり込んだVIII層起源の軽石である。

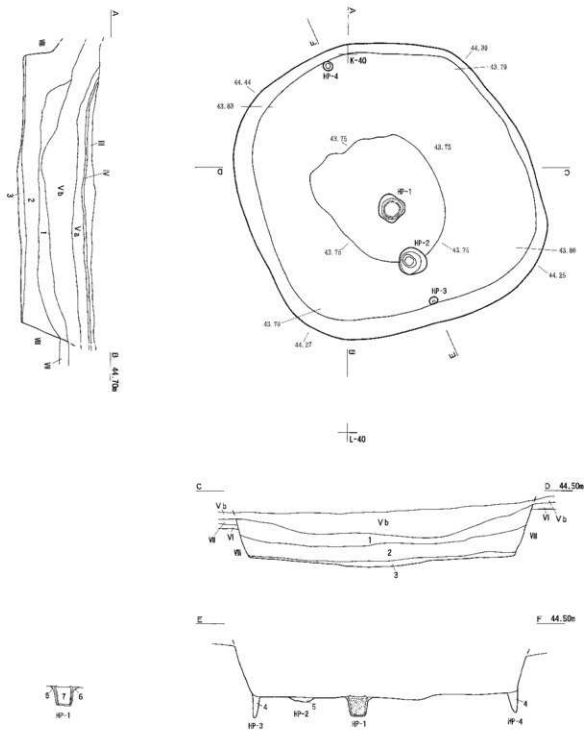
時期：出土遺物とその出土状況から縄文時代中期前半、Ⅲ群a類土器の時期と考えられる。（大泰司）

H-12 (図III-19・118・123・128・136、表1・2・9・14、図版16)

位置・立地：T-47区 調査区北側（海側）、標高42.40～43.00m付近の平坦面

規模：2.24×2.06/2.14×2.02/0.56m

確認・調査：H-7の床面を調査中、そのレベルよりもさらに下に黒～暗褐色土が入り混じった、VIII層とは異なる堆積があることがわかった。一方にベルトを設定し、H-7の調査後に、堆積層を掘

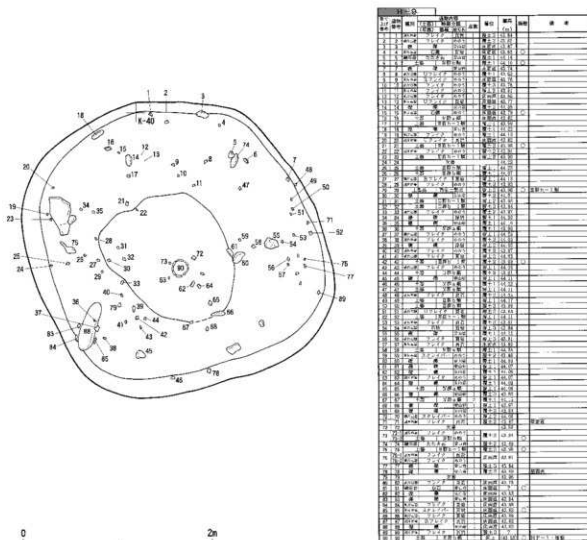


编号	部位名称	材料	规格	备注	数量	单位	备注	备注	备注	备注	备注	备注	备注	备注
1	HP-1	HP-1												
2	HP-2	HP-2												
3	HP-3	HP-3												
4	HP-4	HP-4												
5	HP-5	HP-5												
6	HP-6	HP-6												



图 III-15 H-9(1)





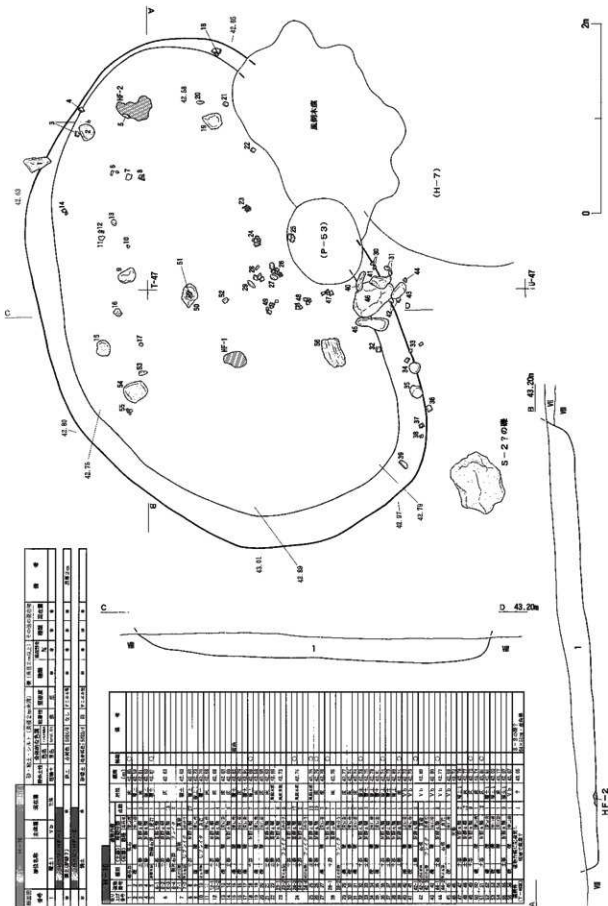
図III-16 H-9(2)

り下げたところ、平坦な床面と、Ⅷ層を50cm以上掘り込んだ、はっきりとした壁の立ち上がりを検出した。覆土上部をH-7と風倒木によって壊された、古い住居跡と判断した。

**覆土：**覆土は8層に分けた。覆土上部の1~5層は堅くしまり、6~8層は軟らかい。7層は床面直上に5cmほどの厚さで均一に広がる層である。6~8層は崩落や自然堆積、1~5層はH-7を構築する際に埋め戻された可能性がある。

**形態：**平面形は、H-7よりも一回り小さい、隅丸方形である。床面は水平・平坦である。南側の壁は北側よりもやや緩やかに立ち上がる。

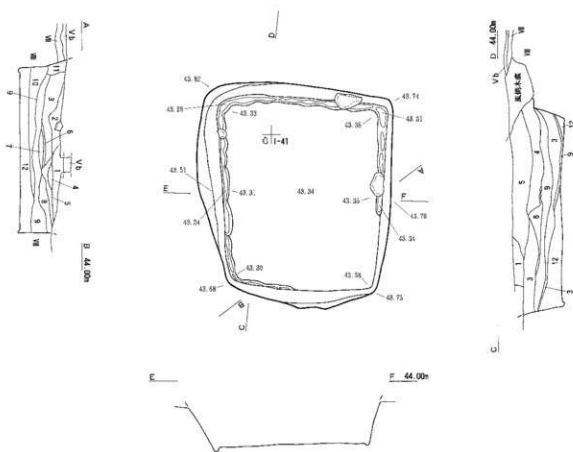
**付属遺構：**幅約10cm、深さ2~4cmの溝が1本、床面の壁際に沿って一周している。溝は3か所で途切れている。溝の中の覆土は、住居の覆土7層がそのまま堆積していた。また、住居の東西両端には、住居の壁から張り出した形で、小型の付属土坑が1つずつ対に作られている。平面形は、西側が楕円形、東側は円形に近く、4分の1~2分の1が住居の輪郭と重なっている。底面はいずれも、住居の床面より10cmほど高い位置で掘り込みを止めてあり、ほぼ水平・平坦である。覆土は住居の覆土6層と同じである。



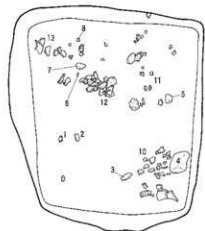
図III-17 H-10

項目	内容
1	...
2	...
3	...
4	...
5	...
6	...
7	...
8	...
9	...
10	...
11	...
12	...
13	...
14	...
15	...
16	...
17	...
18	...
19	...
20	...
21	...
22	...
23	...
24	...
25	...
26	...
27	...
28	...
29	...
30	...
31	...
32	...
33	...
34	...
35	...
36	...
37	...
38	...
39	...
40	...
41	...
42	...
43	...
44	...
45	...
46	...
47	...
48	...
49	...
50	...
51	...
52	...
53	...
54	...
55	...
56	...
57	...
58	...
59	...
60	...
61	...
62	...
63	...
64	...
65	...
66	...
67	...
68	...
69	...
70	...
71	...
72	...
73	...
74	...
75	...
76	...
77	...
78	...
79	...
80	...
81	...
82	...
83	...
84	...
85	...
86	...
87	...
88	...
89	...
90	...
91	...
92	...
93	...
94	...
95	...
96	...
97	...
98	...
99	...
100	...

項目	内容
1	...
2	...
3	...
4	...
5	...
6	...
7	...
8	...
9	...
10	...
11	...
12	...
13	...
14	...
15	...
16	...
17	...
18	...
19	...
20	...
21	...
22	...
23	...
24	...
25	...
26	...
27	...
28	...
29	...
30	...
31	...
32	...
33	...
34	...
35	...
36	...
37	...
38	...
39	...
40	...
41	...
42	...
43	...
44	...
45	...
46	...
47	...
48	...
49	...
50	...
51	...
52	...
53	...
54	...
55	...
56	...
57	...
58	...
59	...
60	...
61	...
62	...
63	...
64	...
65	...
66	...
67	...
68	...
69	...
70	...
71	...
72	...
73	...
74	...
75	...
76	...
77	...
78	...
79	...
80	...
81	...
82	...
83	...
84	...
85	...
86	...
87	...
88	...
89	...
90	...
91	...
92	...
93	...
94	...
95	...
96	...
97	...
98	...
99	...
100	...



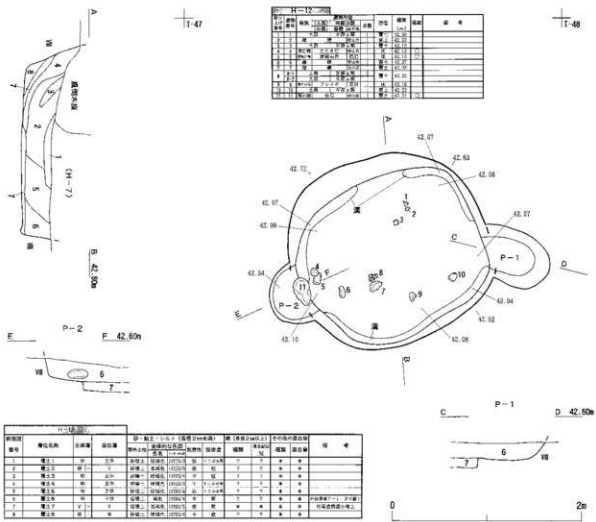
調査区	遺体番号	主経緯	経緯	骨・歯・土器・石器 (G11-41)		骨・歯 (G11-41)		骨・歯 (G11-41)		備考
				種類	数量	種類	数量	種類	数量	
1	骨	+		骨	1	骨	1	骨	1	
2	骨	V	3.0	骨	1	骨	1	骨	1	
3	骨	V	3.0	骨	1	骨	1	骨	1	
4	骨	+		骨	1	骨	1	骨	1	
5	骨	H	1.0	骨	1	骨	1	骨	1	
6	骨	+		骨	1	骨	1	骨	1	
7	骨	V	3.0	骨	1	骨	1	骨	1	
8	骨	H	1.0	骨	1	骨	1	骨	1	
9	骨	+		骨	1	骨	1	骨	1	
10	骨	+		骨	1	骨	1	骨	1	
11	骨	H	1.0	骨	1	骨	1	骨	1	
12	骨	V	3.0	骨	1	骨	1	骨	1	
G11-41の調査結果										
+	骨	+		骨	1	骨	1	骨	1	骨



調査区	遺体番号	主経緯	経緯	骨・歯・土器・石器 (G11-41)	骨・歯 (G11-41)	骨・歯 (G11-41)	備考
1	骨	+		骨	1	骨	骨
2	骨	V	3.0	骨	1	骨	骨
3	骨	V	3.0	骨	1	骨	骨
4	骨	+		骨	1	骨	骨
5	骨	H	1.0	骨	1	骨	骨
6	骨	+		骨	1	骨	骨
7	骨	V	3.0	骨	1	骨	骨
8	骨	H	1.0	骨	1	骨	骨
9	骨	+		骨	1	骨	骨
10	骨	+		骨	1	骨	骨
11	骨	H	1.0	骨	1	骨	骨
12	骨	V	3.0	骨	1	骨	骨



図III-18 H-11



図Ⅲ-19 H-12

遺物出土状況：石斧（図Ⅲ-19-5・Ⅲ-123-5）、たたき石（図Ⅲ-19-4・Ⅲ-128-23）が床面から、中期前半の土器片数点、スクレイパー等が覆土から出土している。

時期：H-7よりも古い。また、周溝を伴う特徴や規模がH-11と似ている。出土遺物を踏まえると中期前半の可能性はある。（新家）

H-14（図Ⅲ-20～22・90・91・118・123・128・136・141、表1・2・9・14、図版17・18、カラー図版6-1）

位置・立地：P-43・44区、Q-43～45区、R-43・44区 標高43.40～43.60mの平坦面

規模：6.04×5.20/4.68×3.64/0.82m

確認・調査：表土除去後、Ⅲ層上面において長軸約6mの凹みを検出した。平成15年度調査を行ったH-8の検出状況に類似しており堅穴住居を想定して土層観察用の土手を残して掘り下げた。4層より上位の土層からは縄文時代後期前葉の土器が目立って出土した。また4層の下位について2基の石組炉、S-4、S-5が切り合った状態で検出された。いずれも縄文時代後期の方形をした石組炉である。縄文時代後期前葉の堅穴住居が入れ子状に入っていることを思わせる掘り込みはなかったが、明らかに埋没途中の凹みに造られたものであり、居住空間として機能した可能性はある。また覆土3

層から、Ⅷ層の礫がまとまって（図Ⅲ-22-27・60～65）検出された。意味のある集石の一種という可能性もあるが、フラスコ状土坑のような深い土坑を掘った際に掘り上げられたものの可能性もある。4層の下位と同一レベルからは炭化材が検出されている。住居南西側に偏って検出されている。床面を検出した段階で堅穴住居であることを確認した。

**覆土：**4層より上位はⅣ群a類土器の出土状況と、V層にⅥ～Ⅷ層の土が混じった状況であることから、縄文時代後期前葉に投げ込まれたと考えられる。4層より下の土層については、Ⅵ～Ⅷ層を主とした混じりの多い土である。屋根を葺いた土ないしは掘り上げ土の可能性はある。掘り込み面はⅦ層中位である。

**形態：**一段のベンチ構造を持つ、平面形が隅丸方形に近い、不整な楕円形をした堅穴住居である。ベンチ部分はおおよそ平坦ではあるが、内側に傾斜気味である。ベンチ内側の掘り込みの平面形は長軸5mほどの隅丸方形に近い不整な楕円形である、長軸方向は住居の平面形と同じである。床面は平坦である。壁はおおよそ垂直に立ち上がり、南西壁は微妙にオーバーハングする。

**付属遺構：**平面形の四隅には4本の主柱穴がある。ベンチ内側の壁際に沿うようにある。主柱穴の内側にはおおよそ平面形に沿った形で溝が巡る。溝は一周せず断続的である。不連続な長さ30cm幅6cmの小型の長楕円形をした溝によって構成される。材を連続して設置した可能性がある。また、おおよそ長軸上に中心から北東側に2基の小型で浅い土坑が検出されている。

**遺物出土状況：**4層と4層より上位の覆土からはⅣ群a類土器が数個体（図Ⅲ-20-5・Ⅲ-90-2/Ⅲ-20-50・Ⅲ-90-3/Ⅲ-20-4・Ⅲ-90-5/Ⅲ-20-53・Ⅲ-90-6/Ⅲ-20-7・Ⅲ-90-7/Ⅲ-20-127・128・Ⅲ-91-17/Ⅲ-20-77・Ⅲ-91-21）まとまって出土した。また60～65はⅧ層起源の礫のまとまった出土である。床面および覆土8層、付属遺構覆土からⅢ群a類の破片が数点出土している。覆土から三脚石器（Ⅲ-141-2～4）が3点出土し、床面から環状の石製品（図Ⅲ-19-120・Ⅲ-141-5）の出土がある。掘り上げ土の下と思われる壁際からⅢ群a類土器（図Ⅲ-20-90・Ⅲ-91-19）が出土している。

**時期：**出土遺物と形態から縄文時代中期前半、Ⅲ群a類土器の時期と考えられる。（大森司）

H-15（図Ⅲ-23・92・118、表1・2・9・14、図版19）

**位置・立地：**Q～R-45～46区 標高42.60～43.00mの平坦面

**規模：**2.62×2.48/2.36×2.26/0.60m

**確認・調査：**Ⅶ層上面において黒色土の落ち込みを検出した。土層観察用の土手を残して掘り下げた。床面を検出した段階で小型の堅穴住居であることを確認した。

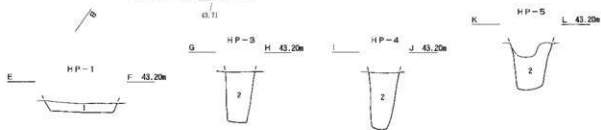
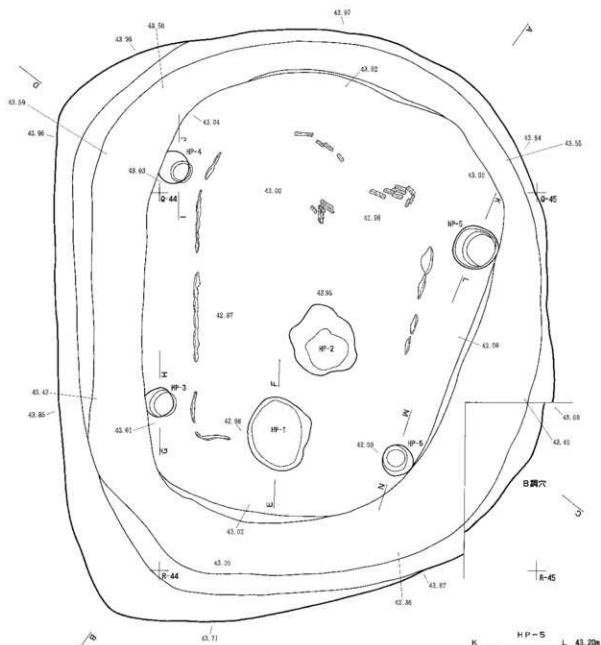
**覆土：**覆土1層は自然堆積である。2～3層はⅧ層主体土にⅤ～Ⅶ層が混じった土である。掘りあげ土の流入ないしは、土葺き屋根が崩落した可能性がある。5層は炭化物が密に混じった黒色土であるが、焼土は伴わない。最上部の6・7層は掘りあげ土なのかⅥ～Ⅶ層を主とした混じりの多い土である。堆積状況から当遺構構築以後の掘り上げ土が溜まった可能性がある。掘り込み面はⅦ層上面である。

**形態：**平面形が隅丸方形に近い、不整形の堅穴住居である。床面はほぼ平坦である。壁はおおよそ垂直に立ち上がり、東と南の角部はオーバーハングする。

**付属遺構：**柱穴等は確認できなかった。

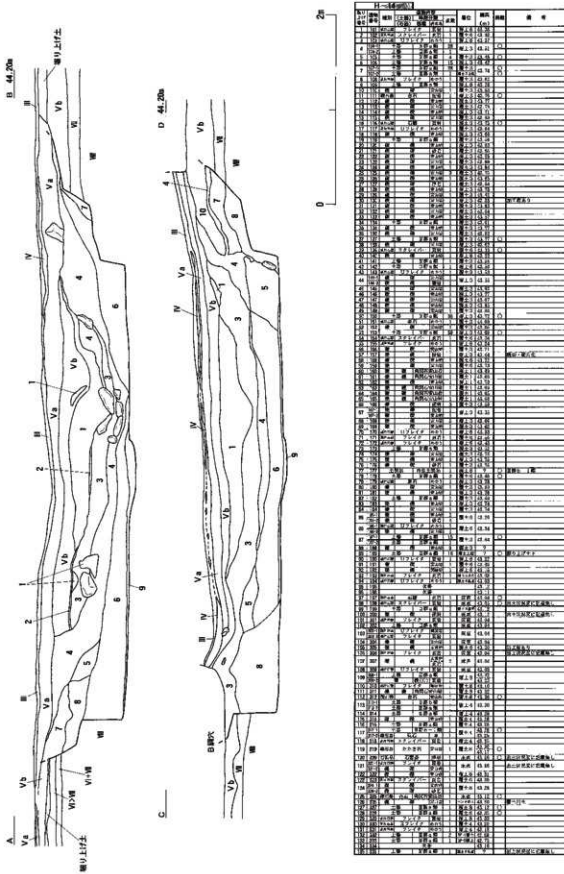
**遺物出土状況：**埋没後の窪みに廃棄されたものか、人頭大の礫の出土が1・6層にある。床面からはⅢ群b-1類・榎林式土器（図Ⅲ-23-7・8・Ⅲ-92-1/Ⅲ-15-6・Ⅲ-92-2）がまとまって出土している。

**時期：**出土遺物と形態から縄文時代中期中葉、Ⅲ群b-1類土器の時期と考えられる。（大森司）

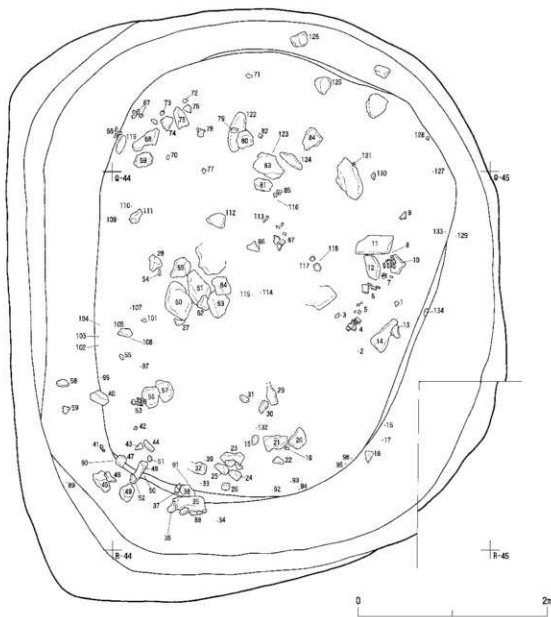


层位	层位名称	土质	层厚	层底标高	M <sub>1</sub> (H-14(1))		M <sub>2</sub> (H-14(2))		M <sub>3</sub> (H-14(3))		M <sub>4</sub> (H-14(4))		备注
					层底标高	层底标高	层底标高	层底标高	层底标高	层底标高			
1	灰土	灰	0.05	43.15	43.15	43.15	43.15	43.15	43.15	43.15	43.15	43.15	
2	灰土	灰	0.10	43.10	43.10	43.10	43.10	43.10	43.10	43.10	43.10	43.10	
3	灰土	灰	0.15	43.05	43.05	43.05	43.05	43.05	43.05	43.05	43.05	43.05	
4	灰土	灰	0.20	43.00	43.00	43.00	43.00	43.00	43.00	43.00	43.00	43.00	
5	灰土	灰	0.25	42.95	42.95	42.95	42.95	42.95	42.95	42.95	42.95	42.95	
6	灰土	灰	0.30	42.90	42.90	42.90	42.90	42.90	42.90	42.90	42.90	42.90	
7	灰土	灰	0.35	42.85	42.85	42.85	42.85	42.85	42.85	42.85	42.85	42.85	
8	灰土	灰	0.40	42.80	42.80	42.80	42.80	42.80	42.80	42.80	42.80	42.80	
9	灰土	灰	0.45	42.75	42.75	42.75	42.75	42.75	42.75	42.75	42.75	42.75	
10	灰土	灰	0.50	42.70	42.70	42.70	42.70	42.70	42.70	42.70	42.70	42.70	
11	灰土	灰	0.55	42.65	42.65	42.65	42.65	42.65	42.65	42.65	42.65	42.65	
12	灰土	灰	0.60	42.60	42.60	42.60	42.60	42.60	42.60	42.60	42.60	42.60	
13	灰土	灰	0.65	42.55	42.55	42.55	42.55	42.55	42.55	42.55	42.55	42.55	
14	灰土	灰	0.70	42.50	42.50	42.50	42.50	42.50	42.50	42.50	42.50	42.50	
15	灰土	灰	0.75	42.45	42.45	42.45	42.45	42.45	42.45	42.45	42.45	42.45	
16	灰土	灰	0.80	42.40	42.40	42.40	42.40	42.40	42.40	42.40	42.40	42.40	
17	灰土	灰	0.85	42.35	42.35	42.35	42.35	42.35	42.35	42.35	42.35	42.35	
18	灰土	灰	0.90	42.30	42.30	42.30	42.30	42.30	42.30	42.30	42.30	42.30	
19	灰土	灰	0.95	42.25	42.25	42.25	42.25	42.25	42.25	42.25	42.25	42.25	
20	灰土	灰	1.00	42.20	42.20	42.20	42.20	42.20	42.20	42.20	42.20	42.20	

图 III-20 H-14(1)



図III-21 H-14(2)



図Ⅲ-22 H-14(3)

H-16 (図Ⅲ-24~2692・93・118・129・137、表1・2・9・14、図版20・21)

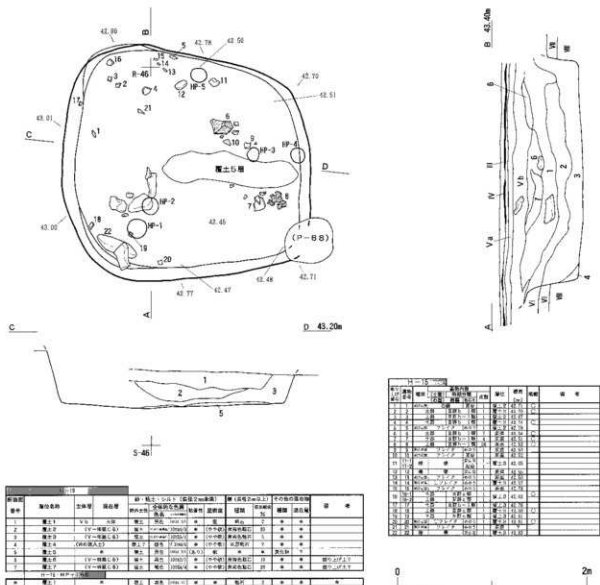
位置・立地：O・P-41・42区 最終面における標高43.60~43.80m付近の平坦面

規模：3.25×2.87/2.95×2.70/0.48m

**確認：**Ⅱ層軽石層の除去後、Ⅲ層上面の清掃作業中、明瞭な凹みが認められた。これの中央を通るように土層観察用のベルトを設けてから、周囲の包含層調査を進めた。Ⅴ層を掘り下げた時点で、黒色土が広範囲に堆積し、遺物が多く出土する状況が認められた。このベルト沿いに先行トレンチを設け、Ⅷ層上面付近まで掘り下げたところ、土層断面（図Ⅲ-24 AB断面図）に壁の立ち上がりと、平坦な面を確認したので、遺構であると認定した。

**調査：**規模から竪穴式住居跡であるとの予想のもと、調査を進行させた。長軸方向にもベルトを設け、先のベルトと合わせてほぼ「十字」状になるように設定した。ベルトの両側をトレンチ状に掘り下げ、

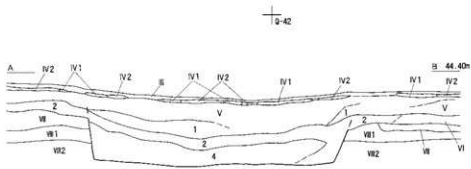
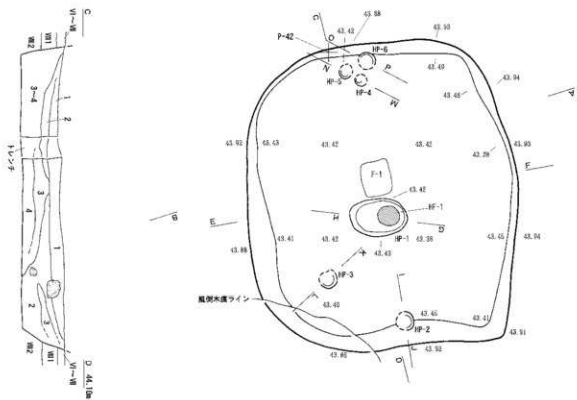




図Ⅲ-23 H-15

すべてにおいて床面と壁を確認してから、全体を掘り広げるように調査を進めた。土層断面の記録を作成後、ベルト部分も掘り下げ完掘とした。中央付近では、覆土第2層中に焼土(F-1)、床面に掘り込みのある地床炉(HP-1・HP-1)が認められ、これらを調査後、柱穴の確認を行った。住居跡の壁や床面、その周囲の確認面を数回掘り下げ、土の差異が認められた部分をすべて半截し、断面形態と覆土から特定した。柱穴は5カ所(HP-2～6)確認された。以上の調査内容から、堅穴式住居跡であると判断される。また、周囲のV層中では掘り上げ土の堆積も(図Ⅲ-2 P～T-40～42区掘り上げ土)認められ、東側の一部分は風倒木痕により切られる。

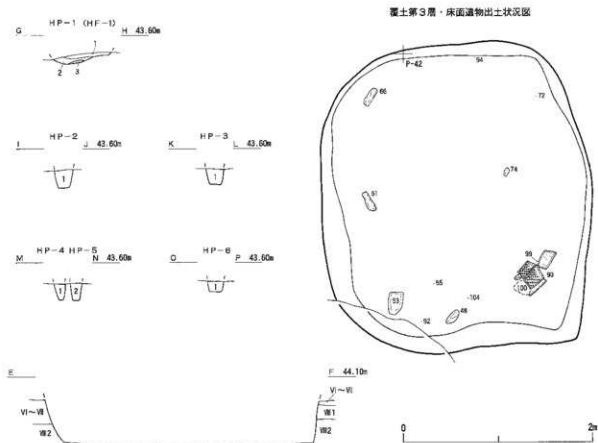
**覆土:** 覆土は、黒色の色調を呈する層を「覆土第1層」、黄色の層を「覆土第3層」、その中間的な色調の層を「覆土第2層」とし、主に相対的な色調を手がかりに大別した。さらに、覆土第2層は「2a層」、「2b層」に細分した。覆土第1層はⅤ2層軽石が混在することで、自然層位Ⅴ層と区別される。覆土第2a層及びこれに類する層(掘り上げ土a層)は遺構外にも広く認められ、掘り上げ土の流入により堆積したと考えられる。



項目	測定名称	土質	測定	計1地点(1) (測定2m未満)		計2地点(2m以上)		平均の測定値		備	注
				測定値	測定値	測定値	測定値	平均値	標準偏差		
1	標準貫入	V	標準	40	45	40	45	42.5	2.5		標準貫入
2	標準貫入	V	標準	40	45	40	45	42.5	2.5		標準貫入
3	標準貫入	V	標準	40	45	40	45	42.5	2.5		標準貫入
4	標準貫入	V	標準	40	45	40	45	42.5	2.5		標準貫入
計測方法: 標準貫入試験機											
1	標準貫入	VI	標準	40	45	40	45	42.5	2.5		標準貫入
2	標準貫入	V	標準	40	45	40	45	42.5	2.5		標準貫入
計測方法: 標準貫入試験機											
1	標準貫入	VI	標準	40	45	40	45	42.5	2.5		標準貫入
2	標準貫入	V	標準	40	45	40	45	42.5	2.5		標準貫入
3	標準貫入	V	標準	40	45	40	45	42.5	2.5		標準貫入
4	標準貫入	V	標準	40	45	40	45	42.5	2.5		標準貫入
計測方法: 標準貫入試験機											
1	標準貫入	VI	標準	40	45	40	45	42.5	2.5		標準貫入
2	標準貫入	V	標準	40	45	40	45	42.5	2.5		標準貫入
3	標準貫入	V	標準	40	45	40	45	42.5	2.5		標準貫入
4	標準貫入	V	標準	40	45	40	45	42.5	2.5		標準貫入
計測方法: 標準貫入試験機											



図III-24 H-16(1)



図Ⅲ-25 H-16(2)

形態：平面は、隅丸長方形と判断され、断面は、床面は概して平坦で、両壁は直立気味に立ち上がる形態を呈する。

付属遺構：付属遺構の調査は、覆土中に位置するものを除いては、完掘後に行った。

・掘り込みをもつ地床炉：土坑；HP-1 炉跡（焼土）；HF-1

住居跡のほぼ中央の床面に位置する。楕円形を呈する土坑（HP-1）の坑底面に、炉跡と考えられる焼土（HF-1）が確認された。掘り込みをもつ地床炉であると考えられる。

・柱穴；HP-2～6

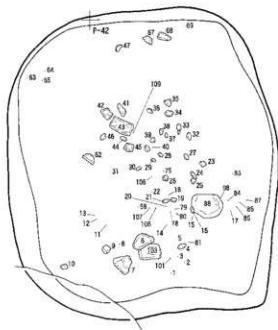
5カ所確認された。長軸上の北東側に1カ所（HP-2）、その南西側に3カ所（HP-4～6）、そして北東側の1カ所（HP-3）である。いずれも先端部が尖らず、幅を有し平坦な坑底を有する断面形態を呈する。

・焼土；F-1

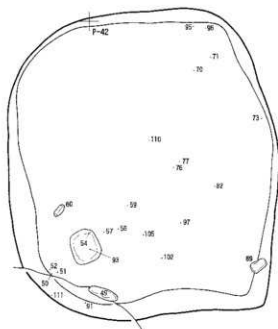
ベルト上の覆土第2層中で確認された。層厚2～3cmである。

遺物出土状況：遺物は原則として、すべて出土位置や高さ、層位を記録して取り上げた。取り上げ層位は大別層位とした。床面及び覆土第3層の出土遺物は、Ⅲ群b類土器や自然礫があり、特に北側部分からは、Ⅲ群b-1類の椀林式が一個体まとまって（図Ⅲ-25-90・100・Ⅲ-92-1）出土した。覆土第2層の遺物は、Ⅲ群a・b類・Ⅳ群a類土器やスクレイパー、扁平打製石器（一次分類は「すり石」）、台石等があり、北側部分に少なく、南側部分では出土が認められない。覆土第1層からは最も多く遺物が出土した。Ⅳ群a類土器のほとんど（図Ⅲ-26-1・Ⅲ-93-4/Ⅲ-26-26・Ⅲ-93-5）はこの層位からの出土で、石器類ではつまみ付きナイフ、スクレイパー、U・Rフレイク、扁平

覆土第1层遗物出土状况图



覆土第2层遗物出土状况图



层位	编号	出土层位	出土位置	出土数量	出土层位	出土位置	出土数量	备注
1	1	1	1	1	1	1	1	
1	2	1	1	1	1	1	1	
1	3	1	1	1	1	1	1	
1	4	1	1	1	1	1	1	
1	5	1	1	1	1	1	1	
1	6	1	1	1	1	1	1	
1	7	1	1	1	1	1	1	
1	8	1	1	1	1	1	1	
1	9	1	1	1	1	1	1	
1	10	1	1	1	1	1	1	
1	11	1	1	1	1	1	1	
1	12	1	1	1	1	1	1	
1	13	1	1	1	1	1	1	
1	14	1	1	1	1	1	1	
1	15	1	1	1	1	1	1	
1	16	1	1	1	1	1	1	
1	17	1	1	1	1	1	1	
1	18	1	1	1	1	1	1	
1	19	1	1	1	1	1	1	
1	20	1	1	1	1	1	1	
1	21	1	1	1	1	1	1	
1	22	1	1	1	1	1	1	
1	23	1	1	1	1	1	1	
1	24	1	1	1	1	1	1	
1	25	1	1	1	1	1	1	
1	26	1	1	1	1	1	1	
1	27	1	1	1	1	1	1	
1	28	1	1	1	1	1	1	
1	29	1	1	1	1	1	1	
1	30	1	1	1	1	1	1	
1	31	1	1	1	1	1	1	
1	32	1	1	1	1	1	1	
1	33	1	1	1	1	1	1	
1	34	1	1	1	1	1	1	
1	35	1	1	1	1	1	1	
1	36	1	1	1	1	1	1	
1	37	1	1	1	1	1	1	
1	38	1	1	1	1	1	1	
1	39	1	1	1	1	1	1	
1	40	1	1	1	1	1	1	
1	41	1	1	1	1	1	1	
1	42	1	1	1	1	1	1	
1	43	1	1	1	1	1	1	
1	44	1	1	1	1	1	1	
1	45	1	1	1	1	1	1	
1	46	1	1	1	1	1	1	
1	47	1	1	1	1	1	1	
1	48	1	1	1	1	1	1	
1	49	1	1	1	1	1	1	
1	50	1	1	1	1	1	1	
1	51	1	1	1	1	1	1	
1	52	1	1	1	1	1	1	
1	53	1	1	1	1	1	1	
1	54	1	1	1	1	1	1	
1	55	1	1	1	1	1	1	
1	56	1	1	1	1	1	1	
1	57	1	1	1	1	1	1	
1	58	1	1	1	1	1	1	
1	59	1	1	1	1	1	1	
1	60	1	1	1	1	1	1	
1	61	1	1	1	1	1	1	
1	62	1	1	1	1	1	1	
1	63	1	1	1	1	1	1	
1	64	1	1	1	1	1	1	
1	65	1	1	1	1	1	1	
1	66	1	1	1	1	1	1	
1	67	1	1	1	1	1	1	
1	68	1	1	1	1	1	1	
1	69	1	1	1	1	1	1	
1	70	1	1	1	1	1	1	
1	71	1	1	1	1	1	1	
1	72	1	1	1	1	1	1	
1	73	1	1	1	1	1	1	
1	74	1	1	1	1	1	1	
1	75	1	1	1	1	1	1	
1	76	1	1	1	1	1	1	
1	77	1	1	1	1	1	1	
1	78	1	1	1	1	1	1	
1	79	1	1	1	1	1	1	
1	80	1	1	1	1	1	1	
1	81	1	1	1	1	1	1	
1	82	1	1	1	1	1	1	
1	83	1	1	1	1	1	1	
1	84	1	1	1	1	1	1	
1	85	1	1	1	1	1	1	
1	86	1	1	1	1	1	1	
1	87	1	1	1	1	1	1	
1	88	1	1	1	1	1	1	
1	89	1	1	1	1	1	1	
1	90	1	1	1	1	1	1	
1	91	1	1	1	1	1	1	
1	92	1	1	1	1	1	1	
1	93	1	1	1	1	1	1	
1	94	1	1	1	1	1	1	
1	95	1	1	1	1	1	1	
1	96	1	1	1	1	1	1	
1	97	1	1	1	1	1	1	
1	98	1	1	1	1	1	1	
1	99	1	1	1	1	1	1	
1	100	1	1	1	1	1	1	

图 III-26 H-16(3)

打製石器（一次分類は「すり石」）、台石等がある。

時期：出土遺物から考えると、縄文時代中期後半と判断される。

（末光）

H-17（図Ⅲ-27・93・94・118・119・123・138、図版22）

位置・立地：S・T-42区 標高43.00～43.40mの平坦面

規模：3.94×3.70/3.74×3.50/0.15m

確認・調査：V層下位からVI層上面において黒色土の落ち込みを検出した。そのほぼ中央には拳大～人頭大の礫がC字状に並んでいた。その周囲からはIV群a類土器のまとまった出土があった。土層観察用の土手を残して掘り下げたところ、極めて浅い掘り込みが確認された。掘り込みはVI層下位からVII層中で止まっている。床面を検出した段階で、竪穴住居であると判断した。

覆土：覆土1層はVb層主体の流入である。掘り込み面は検出面とほぼ同じV層下位である。

形態：平面形は崩れた円形である。楕円形をした配石の長軸の延長線を対称軸として線対称の形状である。床面はほぼ平坦である。

付属遺構：確認面で検出したC字状に配された礫が石組炉であった。西側が開いている形状である。平面形のほぼ中央に暗赤褐色土の土が、不整な楕円形に分布する。焼土と考えられるその土を取り囲むようにC字状に礫が配されている。礫は地面から露出している部分について赤色化しており、炉石として被熱したものと考えられる。炉石についてはすべて礫であった。炉石を設置した順番は、まずに北角を構成する比較的大型の板状礫（図Ⅲ-27-15）を設置し、次に南角に向かって順番に北東壁と南東壁を形成していったものと観察した（図Ⅲ-27-16から18、19、20へ）。ただし東角を構成する礫の両脇にある比較的小型な礫（同17）はいずれも炉を構築した最後に隙間を埋めるのに差し込んだ可能性もある。炉の焼土は明瞭な橙色ではないが、肉眼で焼骨片が確認できた。焼土はフローテーション法にて処理した。

遺物出土状況：覆土1層上位を主として覆土中からまとまったIV群a類土器と礫が検出された。その中には台石のように礫石器も混じる。形状的に類似しているH-18と覆土中の遺物出土状況がよく似ているが、石核とフレイクの出土量がH-18より多い。取り上げ番号3の土器は炉の掘り込み西側のへりからまとまって出土した土器破片を一括して取り上げたものである。床面～覆土1層下位にかけてIV群a類土器（図Ⅲ-27-1・14・Ⅲ-93-1）がまとまって出土した。27-1には93-2の破片が混在していた。

時期：出土遺物とその出土状況から縄文時代後期前葉、IV群a類土器の時期と考えられる。（大泰司）

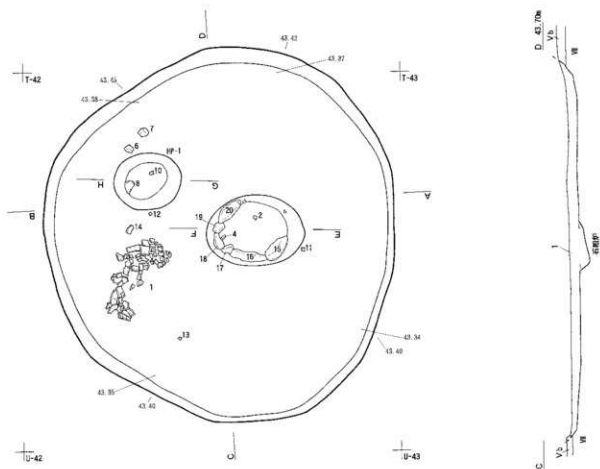
フローテーション成果：石組炉HF-1内部の土をフローテーション法にて処理した。その結果、焼骨片、炭化種子を検出した。焼骨片は魚類の骨を主として、獣骨と鳥類の骨が混じる。魚類の骨はニシンを主として、アイナメ、サメ、鯛科の魚、他に同定不能なものが出土した。獣骨と鳥類の骨の種類は不明である。炭化種子はニワトコ属、キハダ属、ブドウ科、ウルシ属が検出され、同定不能なものも混じる。（詳細はV章1・2）

H-18（図Ⅲ-28・94・95・119・123・138、図版23）

位置・立地：R-42区、S-41・42区 標高43.20～43.40mの平坦面

規模：4.50×3.32/4.36×3.16/0.06m

確認・調査：V層下位からVI層上面において黒色土の落ち込みを検出した。そのほぼ中央には拳大～人頭大の礫がC字状に並んでいた。その周囲からはIV群a類土器のまとまった出土があった。土層観



日期	姓名	性别	年龄	籍贯	民族	文化程度	职业	住址	电话	备注
1949	王德胜	男	28	山东	汉	小学	农民	...		
1950	李德胜	男	27	山东	汉	小学	农民	...		
1951	张德胜	男	26	山东	汉	小学	农民	...		
1952	赵德胜	男	25	山东	汉	小学	农民	...		
1953	孙德胜	男	24	山东	汉	小学	农民	...		
1954	周德胜	男	23	山东	汉	小学	农民	...		
1955	吴德胜	男	22	山东	汉	小学	农民	...		
1956	郑德胜	男	21	山东	汉	小学	农民	...		
1957	冯德胜	男	20	山东	汉	小学	农民	...		
1958	陈德胜	男	19	山东	汉	小学	农民	...		
1959	林德胜	男	18	山东	汉	小学	农民	...		
1960	黄德胜	男	17	山东	汉	小学	农民	...		
1961	周德胜	男	16	山东	汉	小学	农民	...		
1962	吴德胜	男	15	山东	汉	小学	农民	...		
1963	郑德胜	男	14	山东	汉	小学	农民	...		
1964	冯德胜	男	13	山东	汉	小学	农民	...		
1965	陈德胜	男	12	山东	汉	小学	农民	...		
1966	林德胜	男	11	山东	汉	小学	农民	...		
1967	黄德胜	男	10	山东	汉	小学	农民	...		
1968	周德胜	男	9	山东	汉	小学	农民	...		
1969	吴德胜	男	8	山东	汉	小学	农民	...		
1970	郑德胜	男	7	山东	汉	小学	农民	...		
1971	冯德胜	男	6	山东	汉	小学	农民	...		
1972	陈德胜	男	5	山东	汉	小学	农民	...		
1973	林德胜	男	4	山东	汉	小学	农民	...		
1974	黄德胜	男	3	山东	汉	小学	农民	...		
1975	周德胜	男	2	山东	汉	小学	农民	...		
1976	吴德胜	男	1	山东	汉	小学	农民	...		

姓名	性别	年龄	籍贯	民族	文化程度	职业	住址	电话	备注
王德胜	男	28	山东	汉	小学	农民	...		
李德胜	男	27	山东	汉	小学	农民	...		
张德胜	男	26	山东	汉	小学	农民	...		
赵德胜	男	25	山东	汉	小学	农民	...		
孙德胜	男	24	山东	汉	小学	农民	...		
周德胜	男	23	山东	汉	小学	农民	...		
吴德胜	男	22	山东	汉	小学	农民	...		
郑德胜	男	21	山东	汉	小学	农民	...		
冯德胜	男	20	山东	汉	小学	农民	...		
陈德胜	男	19	山东	汉	小学	农民	...		
林德胜	男	18	山东	汉	小学	农民	...		
黄德胜	男	17	山东	汉	小学	农民	...		
周德胜	男	16	山东	汉	小学	农民	...		
吴德胜	男	15	山东	汉	小学	农民	...		
郑德胜	男	14	山东	汉	小学	农民	...		
冯德胜	男	13	山东	汉	小学	农民	...		
陈德胜	男	12	山东	汉	小学	农民	...		
林德胜	男	11	山东	汉	小学	农民	...		
黄德胜	男	10	山东	汉	小学	农民	...		
周德胜	男	9	山东	汉	小学	农民	...		
吴德胜	男	8	山东	汉	小学	农民	...		
郑德胜	男	7	山东	汉	小学	农民	...		
冯德胜	男	6	山东	汉	小学	农民	...		
陈德胜	男	5	山东	汉	小学	农民	...		
林德胜	男	4	山东	汉	小学	农民	...		
黄德胜	男	3	山东	汉	小学	农民	...		
周德胜	男	2	山东	汉	小学	农民	...		
吴德胜	男	1	山东	汉	小学	农民	...		



图 III-27 H-17

察用の土手を残して掘り下げたところ、極めて浅い掘り込みが確認された。掘り込みはⅥ層下位からⅦ層で止まっている。床面を検出した段階で、竪穴住居であると判断した。

**覆土：**覆土1層はⅥ層とⅦ層が入り混じった土層である。覆土3層はⅤb層主体である。いずれも流入である。掘り込み面は検出面とほぼ同じⅤ層下位と考える。

**形態：**平面形は不整な楕円形である。長軸は南-北方向を向く。床面はほぼ平坦である。

**付属遺構：**確認面で検出したC字状に配された礫が石組炉であった。西側が開いている形状である。平面形のほぼ中央に暗赤褐色土の土が、不整な楕円形に分布する。長軸は南-北方向を向く。焼土と考えられるその土を取り囲むようにC字状に礫が配されている。礫は地面から露出している部分について赤色化しており、炉石として被熱したものと考えられる。炉石についてはすべて礫であったが、南東角を構成する1点について使用痕が確認できた。炉石を設置した順番は、まずに南壁を構成する比較的大型の板状礫(図Ⅲ-28-10)を設置し、次に南東角(同11)と南西角(同12)、次に南東角から北角に向かって順番に(同13から14へ)東壁を形成していったものと観察した。炉の焼土は明瞭な橙色ではないが、肉眼で焼骨片が確認できた。焼土はフローテーション法にて処理した。

**遺物出土状況：**覆土3層上位を主として覆土中からまとまったⅣ群a類土器と礫が検出された。その中には台石のように礫石器も混じる。床面直上から石斧(図Ⅲ-123-9)が出土している。炉の南東に位置する大型礫ふたつにはさまれる位置からの出土である。覆土3層からまとまってⅣ群a類土器(図Ⅲ-27-2・14・Ⅲ-94-1/Ⅲ-27-3・4・Ⅲ-93-5/Ⅲ-27-7・14・Ⅲ-94-4)が出土している。

**時期：**出土遺物とその出土状況から縄文時代後期前葉、Ⅳ群a類土器の時期と考えられる。(大森司)  
**フローテーション成果：**石組炉HF-1内部の土をフローテーション法にて処理した。その結果、焼骨片、炭化種子を検出した。焼骨片は鳥類の骨とシカを主体とする獣骨を主としており、それに魚類の骨が混じる。魚類の骨はカレイと同定不能なものである。鳥類の骨の種類は不明である。炭化種子はブドウ科が検出され、同定不能なものも混じる。(詳細はⅤ章1・2)

H-19(図Ⅲ-29~32・95~98・119・129、表1・2・9・14、図版24・25-1)

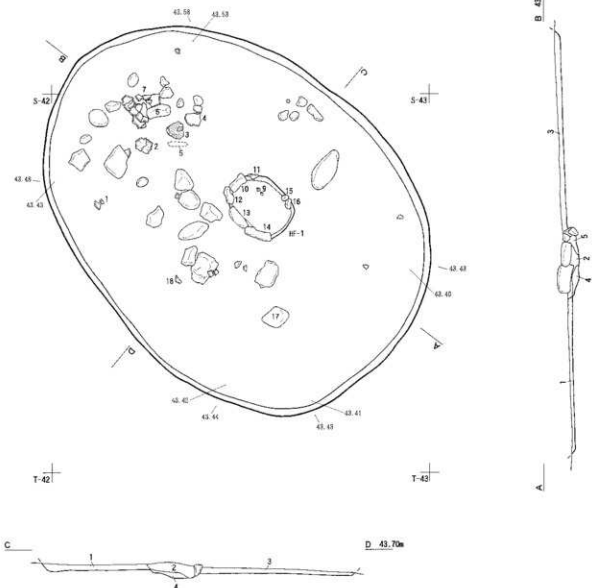
**位置・立地：**Q・R-41・42区 最終面における標高44.60~46.40m付近の平坦面

**規模：**3.17×2.59/3.06×2.48/0.48m

**確認：**Ⅴ層の包含層調査中、ゆるやかな凹みと、その周囲に掘り上げ土と考えられる土の堆積が認められた(図Ⅲ-2 P~T-40~42区掘り上げ土)。遺構であるか確認するため、42ライン沿いのQ~S間にトレンチを設け、Ⅷ層上面まで掘り下げたところ、遺構であるとの確証はつかめなかったが、P-83(図Ⅲ-67 P-80・83)が確認された。念のため土層断面を記録(図Ⅲ-29 AB断面図)し、周辺の包含層を進行させ、Ⅷ層上面まで掘り下げたところ、炭化材と、自然層位のⅧ層と比べて色調が若干異なる黄色土が認められた。その範囲の中央付近で直交するよう、土層観察用のベルトを設定し、その両側にトレンチを設け掘り下げたところ、平坦な面と壁の立ち上がりが認められたので、遺構と認定した。当初、42ラインのトレンチの土層断面において、Ⅷ層主体の覆土第4層を地山である自然層位のⅧ層と誤認していた。

**調査：**十字ベルト沿いのトレンチすべてで、壁の立ち上がりと床面を確認してから、全体を掘り広げるように調査を進行させた。覆土第4層~床面にかけてさらに多数の炭化材と焼土が認められ、材の形状を保つ炭化材については番号(Ca1~21)を付し、他の覆土の混入が少なく、比較的大きなまとまりとして認識できうる焼土について番号(F-2~7)を付し、それぞれ記録した。付属遺構の

H-18		H-18		H-18		H-18	
項目	内容	項目	内容	項目	内容	項目	内容
1	...	1	...	1	...	1	...
2	...	2	...	2	...	2	...
3	...	3	...	3	...	3	...
4	...	4	...	4	...	4	...
5	...	5	...	5	...	5	...
6	...	6	...	6	...	6	...
7	...	7	...	7	...	7	...
8	...	8	...	8	...	8	...
9	...	9	...	9	...	9	...
10	...	10	...	10	...	10	...
11	...	11	...	11	...	11	...
12	...	12	...	12	...	12	...
13	...	13	...	13	...	13	...
14	...	14	...	14	...	14	...
15	...	15	...	15	...	15	...
16	...	16	...	16	...	16	...
17	...	17	...	17	...	17	...
18	...	18	...	18	...	18	...
19	...	19	...	19	...	19	...
20	...	20	...	20	...	20	...



H-18		H-18		H-18		H-18	
項目	内容	項目	内容	項目	内容	項目	内容
1	...	1	...	1	...	1	...
2	...	2	...	2	...	2	...
3	...	3	...	3	...	3	...
4	...	4	...	4	...	4	...
5	...	5	...	5	...	5	...
6	...	6	...	6	...	6	...
7	...	7	...	7	...	7	...
8	...	8	...	8	...	8	...
9	...	9	...	9	...	9	...
10	...	10	...	10	...	10	...
11	...	11	...	11	...	11	...
12	...	12	...	12	...	12	...
13	...	13	...	13	...	13	...
14	...	14	...	14	...	14	...
15	...	15	...	15	...	15	...
16	...	16	...	16	...	16	...
17	...	17	...	17	...	17	...
18	...	18	...	18	...	18	...
19	...	19	...	19	...	19	...
20	...	20	...	20	...	20	...



図 III-28 H-18



調査は完掘後に行った。中央付近の床面に炉跡と考えられる焼土（HF-1）が確認された。柱穴確認調査は、住居跡の壁と床面、その周辺の確認面を数回掘り下げ、土の差異が認められた部分をすべて半截し、断面形態と覆土から特定した。柱穴は2カ所（HP-1・2）確認された。

以上の調査内容から、竪穴式住居跡であると判断され、周囲のV層中では掘り上げ土の堆積も認められる。

**覆土：**覆土の分層は、当初、V層主体のものを「覆土第1層」とし、それと比べてやや色調が褐色味を帯びるものを「覆土第2層」と大別した。遺構であることが明確になった時点で、覆土最下層を占め、VIII層黄褐色ローム層主体の層である「覆土第4層」と、色調にかかわらず部分的にみられる層を「覆土第3層」として、四つの大別層位とした。覆土第1層と自然層位V層との区別は、土層断面において、やや褐色味を帯びる覆土第2層がV層との間に存在することで、より明確に識別された。覆土第3層は、VIII層主体の第3a層とV層主体の第3b層に分けられる。覆土第4層は三つに分層され、主体的にみられるのは第4a層で、第4b・c層は部分的に存在する。

**形態：**平面は長方形に近い楕円形で、断面は、床面の中央付近がゆるやかに低く、壁は直立気味に立ち上がる形態を呈する。

**付属遺構：**

・地床炉：HF-1

住居跡のほぼ中央の床面に位置し、地床炉であると考えられる。

・柱穴：HP-1・2

2カ所確認された。長軸上の北側に1カ所（HP-2）、反対の南側に1カ所（HP-1）である。いずれも先端部は尖らず、幅を有し平坦な坑底を有する断面形態を呈する。HP-2は深いものである。

・焼土：F-2～7

焼土は覆土第4層～床面にかけて6カ所確認された。すべて炭化材に関連すると考えられる。

**遺物出土状況：**遺物は原則として、すべて出土位置や高さ、層位を記録して取り上げた。取り上げ層位は大別層位とした。床面出土遺物には、III群b-1類・III群a類土器、自然礫があり、特に住居跡の中央からやや北側部分では、III群b-1類土器の比較的大きな破片（図III-32-125・132・140・III-96-13）がまとまって出土した。覆土第4層からはRフレイク等が出土し、覆土第3層は出土点数が少ない。覆土第2層からはIII群a類・III群b類・IV群a類土器、Uフレイク、石核、原石等が出土した。遺物出土状況図では、遺構外に遺物の分布が認められるが、これは、範囲が不明確な時点で、本遺構の遺物と判断し取り上げたためであり、本来は掘り上げ土や包含層出土のものとするべきであった。覆土第1層からはII群b類・III群a類・IV群a類土器や自然礫等が出土した。特に、器の形状を保つ大きな破片や、同一個体の破片がまとまる土器の出土状況（図III-30-102・III-95-1/III-31-100・117・III-95-5/III-31-118・III-96-6/III-31-119・III-96-4）や、大型の礫が多くみられることが特徴的である。また、遺構の上部に堆積したV層の出土遺物のうち、位置を記録して取り上げたものもある。

**炭化材・焼土：**炭化材や焼土の確認状況は、焼失住居であることを示していると判断される。さらに、床面から残存状態の良好な遺物が多数出土するといった遺物出土状況ではないことから、住居跡の廃棄時等に人為的に燃やされたものと推測される。

**時期：**出土遺物から考えると、縄文時代中期後半と推測される。

（末光）

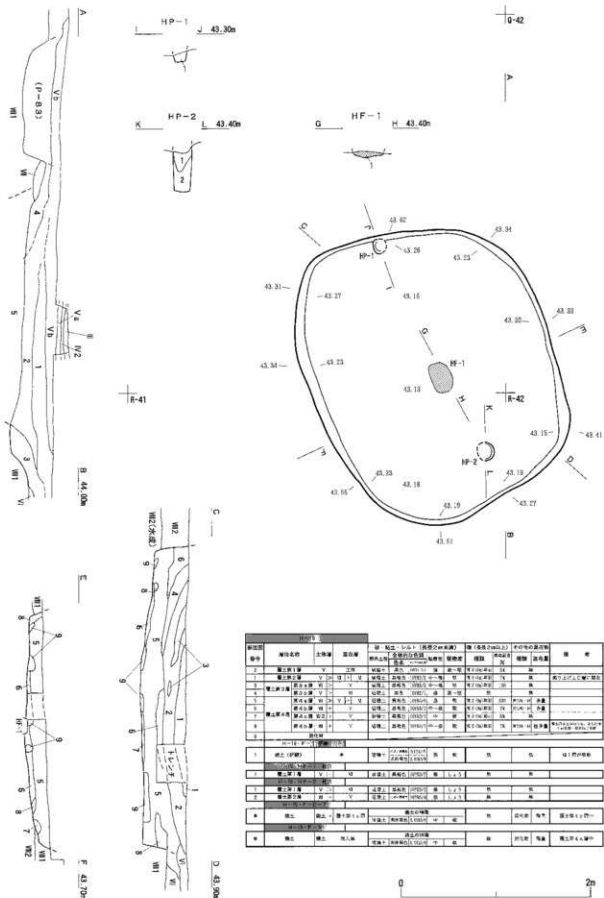
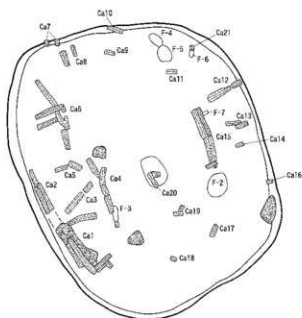


図 III-29 H-19(1)

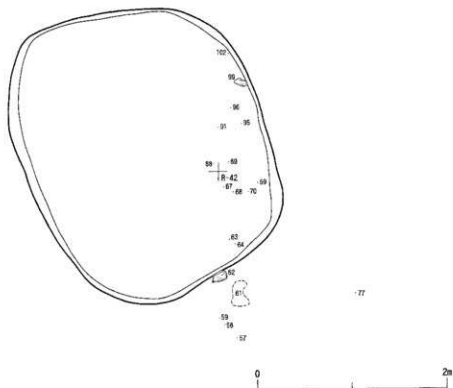
炭化材出土状況図



説明：炭化材が多量に遺る層土4層

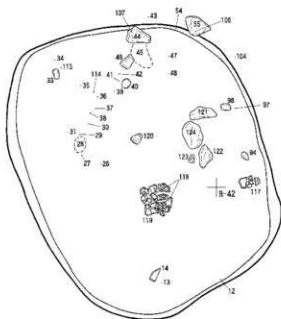
層	層位	深さ (cm)	検出物	備考
1	表層	0-10	土	遺構面より
2	10-20	10-20	土	遺構面より
3	20-30	20-30	土	遺構面より
4	30-40	30-40	土	遺構面より
5	40-50	40-50	土	遺構面より
6	50-60	50-60	土	遺構面より
7	60-70	60-70	土	遺構面より
8	70-80	70-80	土	遺構面より
9	80-90	80-90	土	遺構面より
10	90-100	90-100	土	遺構面より
11	100-110	100-110	土	遺構面より
12	110-120	110-120	土	遺構面より
13	120-130	120-130	土	遺構面より
14	130-140	130-140	土	遺構面より
15	140-150	140-150	土	遺構面より
16	150-160	150-160	土	遺構面より
17	160-170	160-170	土	遺構面より
18	170-180	170-180	土	遺構面より
19	180-190	180-190	土	遺構面より
20	190-200	190-200	土	遺構面より
21	200-210	200-210	土	遺構面より
22	210-220	210-220	土	遺構面より
23	220-230	220-230	土	遺構面より
24	230-240	230-240	土	遺構面より
25	240-250	240-250	土	遺構面より
26	250-260	250-260	土	遺構面より
27	260-270	260-270	土	遺構面より
28	270-280	270-280	土	遺構面より
29	280-290	280-290	土	遺構面より
30	290-300	290-300	土	遺構面より
31	300-310	300-310	土	遺構面より
32	310-320	310-320	土	遺構面より
33	320-330	320-330	土	遺構面より
34	330-340	330-340	土	遺構面より
35	340-350	340-350	土	遺構面より
36	350-360	350-360	土	遺構面より
37	360-370	360-370	土	遺構面より
38	370-380	370-380	土	遺構面より
39	380-390	380-390	土	遺構面より
40	390-400	390-400	土	遺構面より
41	400-410	400-410	土	遺構面より
42	410-420	410-420	土	遺構面より
43	420-430	420-430	土	遺構面より
44	430-440	430-440	土	遺構面より
45	440-450	440-450	土	遺構面より
46	450-460	450-460	土	遺構面より
47	460-470	460-470	土	遺構面より
48	470-480	470-480	土	遺構面より
49	480-490	480-490	土	遺構面より
50	490-500	490-500	土	遺構面より
51	500-510	500-510	土	遺構面より
52	510-520	510-520	土	遺構面より
53	520-530	520-530	土	遺構面より
54	530-540	530-540	土	遺構面より
55	540-550	540-550	土	遺構面より
56	550-560	550-560	土	遺構面より
57	560-570	560-570	土	遺構面より
58	570-580	570-580	土	遺構面より
59	580-590	580-590	土	遺構面より
60	590-600	590-600	土	遺構面より
61	600-610	600-610	土	遺構面より
62	610-620	610-620	土	遺構面より
63	620-630	620-630	土	遺構面より
64	630-640	630-640	土	遺構面より
65	640-650	640-650	土	遺構面より
66	650-660	650-660	土	遺構面より
67	660-670	660-670	土	遺構面より
68	670-680	670-680	土	遺構面より
69	680-690	680-690	土	遺構面より
70	690-700	690-700	土	遺構面より
71	700-710	700-710	土	遺構面より
72	710-720	710-720	土	遺構面より
73	720-730	720-730	土	遺構面より
74	730-740	730-740	土	遺構面より
75	740-750	740-750	土	遺構面より
76	750-760	750-760	土	遺構面より
77	760-770	760-770	土	遺構面より
78	770-780	770-780	土	遺構面より
79	780-790	780-790	土	遺構面より
80	790-800	790-800	土	遺構面より
81	800-810	800-810	土	遺構面より
82	810-820	810-820	土	遺構面より
83	820-830	820-830	土	遺構面より
84	830-840	830-840	土	遺構面より
85	840-850	840-850	土	遺構面より
86	850-860	850-860	土	遺構面より
87	860-870	860-870	土	遺構面より
88	870-880	870-880	土	遺構面より
89	880-890	880-890	土	遺構面より
90	890-900	890-900	土	遺構面より
91	900-910	900-910	土	遺構面より
92	910-920	910-920	土	遺構面より
93	920-930	920-930	土	遺構面より
94	930-940	930-940	土	遺構面より
95	940-950	940-950	土	遺構面より
96	950-960	950-960	土	遺構面より
97	960-970	960-970	土	遺構面より
98	970-980	970-980	土	遺構面より
99	980-990	980-990	土	遺構面より
100	990-1000	990-1000	土	遺構面より

V層遺物出土状況図

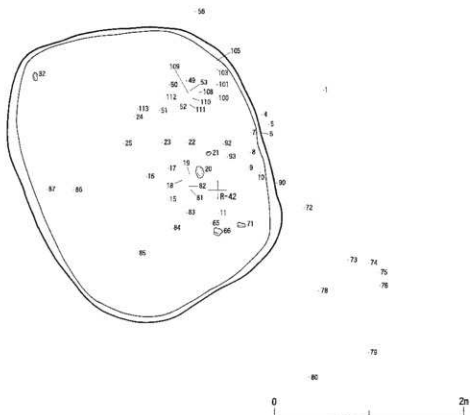


図III-30 H-19(2)

覆土第1層遺物出土状況図



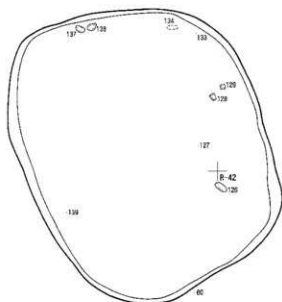
覆土第2層遺物出土状況図



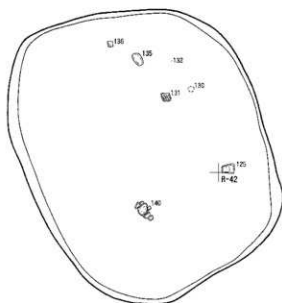
図III-31 H-19(3)

層	層高	層別	土質	出土物	層別	層高	層別	土質	出土物
1	0.00	1	黄砂		1	0.00	1	黄砂	
2	0.10	2	黄砂		2	0.10	2	黄砂	
3	0.20	3	黄砂		3	0.20	3	黄砂	
4	0.30	4	黄砂		4	0.30	4	黄砂	
5	0.40	5	黄砂		5	0.40	5	黄砂	
6	0.50	6	黄砂		6	0.50	6	黄砂	
7	0.60	7	黄砂		7	0.60	7	黄砂	
8	0.70	8	黄砂		8	0.70	8	黄砂	
9	0.80	9	黄砂		9	0.80	9	黄砂	
10	0.90	10	黄砂		10	0.90	10	黄砂	
11	1.00	11	黄砂		11	1.00	11	黄砂	
12	1.10	12	黄砂		12	1.10	12	黄砂	
13	1.20	13	黄砂		13	1.20	13	黄砂	
14	1.30	14	黄砂		14	1.30	14	黄砂	
15	1.40	15	黄砂		15	1.40	15	黄砂	
16	1.50	16	黄砂		16	1.50	16	黄砂	
17	1.60	17	黄砂		17	1.60	17	黄砂	
18	1.70	18	黄砂		18	1.70	18	黄砂	
19	1.80	19	黄砂		19	1.80	19	黄砂	
20	1.90	20	黄砂		20	1.90	20	黄砂	
21	2.00	21	黄砂		21	2.00	21	黄砂	
22	2.10	22	黄砂		22	2.10	22	黄砂	
23	2.20	23	黄砂		23	2.20	23	黄砂	
24	2.30	24	黄砂		24	2.30	24	黄砂	
25	2.40	25	黄砂		25	2.40	25	黄砂	
26	2.50	26	黄砂		26	2.50	26	黄砂	
27	2.60	27	黄砂		27	2.60	27	黄砂	
28	2.70	28	黄砂		28	2.70	28	黄砂	
29	2.80	29	黄砂		29	2.80	29	黄砂	
30	2.90	30	黄砂		30	2.90	30	黄砂	
31	3.00	31	黄砂		31	3.00	31	黄砂	
32	3.10	32	黄砂		32	3.10	32	黄砂	
33	3.20	33	黄砂		33	3.20	33	黄砂	
34	3.30	34	黄砂		34	3.30	34	黄砂	
35	3.40	35	黄砂		35	3.40	35	黄砂	
36	3.50	36	黄砂		36	3.50	36	黄砂	
37	3.60	37	黄砂		37	3.60	37	黄砂	
38	3.70	38	黄砂		38	3.70	38	黄砂	
39	3.80	39	黄砂		39	3.80	39	黄砂	
40	3.90	40	黄砂		40	3.90	40	黄砂	
41	4.00	41	黄砂		41	4.00	41	黄砂	
42	4.10	42	黄砂		42	4.10	42	黄砂	
43	4.20	43	黄砂		43	4.20	43	黄砂	
44	4.30	44	黄砂		44	4.30	44	黄砂	
45	4.40	45	黄砂		45	4.40	45	黄砂	
46	4.50	46	黄砂		46	4.50	46	黄砂	
47	4.60	47	黄砂		47	4.60	47	黄砂	
48	4.70	48	黄砂		48	4.70	48	黄砂	
49	4.80	49	黄砂		49	4.80	49	黄砂	
50	4.90	50	黄砂		50	4.90	50	黄砂	
51	5.00	51	黄砂		51	5.00	51	黄砂	
52	5.10	52	黄砂		52	5.10	52	黄砂	
53	5.20	53	黄砂		53	5.20	53	黄砂	
54	5.30	54	黄砂		54	5.30	54	黄砂	
55	5.40	55	黄砂		55	5.40	55	黄砂	
56	5.50	56	黄砂		56	5.50	56	黄砂	
57	5.60	57	黄砂		57	5.60	57	黄砂	
58	5.70	58	黄砂		58	5.70	58	黄砂	
59	5.80	59	黄砂		59	5.80	59	黄砂	
60	5.90	60	黄砂		60	5.90	60	黄砂	
61	6.00	61	黄砂		61	6.00	61	黄砂	
62	6.10	62	黄砂		62	6.10	62	黄砂	
63	6.20	63	黄砂		63	6.20	63	黄砂	
64	6.30	64	黄砂		64	6.30	64	黄砂	
65	6.40	65	黄砂		65	6.40	65	黄砂	
66	6.50	66	黄砂		66	6.50	66	黄砂	
67	6.60	67	黄砂		67	6.60	67	黄砂	
68	6.70	68	黄砂		68	6.70	68	黄砂	
69	6.80	69	黄砂		69	6.80	69	黄砂	
70	6.90	70	黄砂		70	6.90	70	黄砂	
71	7.00	71	黄砂		71	7.00	71	黄砂	
72	7.10	72	黄砂		72	7.10	72	黄砂	
73	7.20	73	黄砂		73	7.20	73	黄砂	
74	7.30	74	黄砂		74	7.30	74	黄砂	
75	7.40	75	黄砂		75	7.40	75	黄砂	
76	7.50	76	黄砂		76	7.50	76	黄砂	
77	7.60	77	黄砂		77	7.60	77	黄砂	
78	7.70	78	黄砂		78	7.70	78	黄砂	
79	7.80	79	黄砂		79	7.80	79	黄砂	
80	7.90	80	黄砂		80	7.90	80	黄砂	
81	8.00	81	黄砂		81	8.00	81	黄砂	
82	8.10	82	黄砂		82	8.10	82	黄砂	
83	8.20	83	黄砂		83	8.20	83	黄砂	
84	8.30	84	黄砂		84	8.30	84	黄砂	
85	8.40	85	黄砂		85	8.40	85	黄砂	
86	8.50	86	黄砂		86	8.50	86	黄砂	
87	8.60	87	黄砂		87	8.60	87	黄砂	
88	8.70	88	黄砂		88	8.70	88	黄砂	
89	8.80	89	黄砂		89	8.80	89	黄砂	
90	8.90	90	黄砂		90	8.90	90	黄砂	
91	9.00	91	黄砂		91	9.00	91	黄砂	
92	9.10	92	黄砂		92	9.10	92	黄砂	
93	9.20	93	黄砂		93	9.20	93	黄砂	
94	9.30	94	黄砂		94	9.30	94	黄砂	
95	9.40	95	黄砂		95	9.40	95	黄砂	
96	9.50	96	黄砂		96	9.50	96	黄砂	
97	9.60	97	黄砂		97	9.60	97	黄砂	
98	9.70	98	黄砂		98	9.70	98	黄砂	
99	9.80	99	黄砂		99	9.80	99	黄砂	
100	9.90	100	黄砂		100	9.90	100	黄砂	

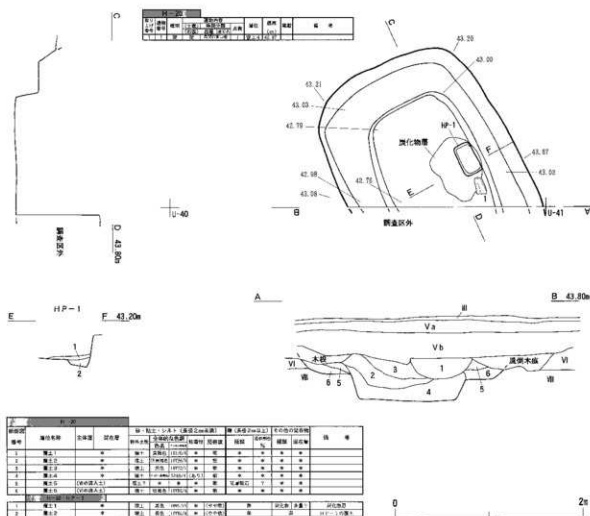
覆土第3・4層遺物出土状況図



床面遺物出土状況図



図III-32 H-19(4)



図Ⅲ-33 H-20

H-20 (図Ⅲ-33・119、表1・2・9・14、図版25-2)

位置・立地：T-40区 標高43.00～43.20mの平坦面

規模：(2.13)×1.88/(1.99)×1.62/0.44m

確認・調査：VI層上面において黒色土の落ち込みを検出した。調査範囲の境界上に位置していた。覆土を掘り下げたところ、ベンチ構造を持つ遺構が確認された。規模的には小型だが明瞭な掘り込みと平坦な床面から、竪穴住居であると判断した。

覆土：覆土1・2・4層はⅧ層主体の流入である。覆土3層はVb層主体の、5層はⅦ層の流入である。掘り込み面はVI層上面である。

形態：調査区内の形状から、平面形は隅丸方形と考えられる。ベンチ構造を持つ。ベンチ部分はほぼ平坦である。ベンチの内側は長軸を遺構平面形と同一にする隅丸方形である。その床面はほぼ平坦である。床面には炭化物が分布する。草が束になって折り重なり、付属遺構HP-1を覆う。

付属遺構：炭化物の直下で付属遺構を確認した。平面形は方形で、深さは浅い。

遺物出土状況：この遺構の構築時期に伴うと考えられるものはない。いずれも流入した覆土からの出土である。

時期：不明だが、掘り込み面等を考慮すると、縄文時代中期以前の可能性がある。(大森司)

フローテーション成果：床面の炭化物のまとまりをフローテーション法にて処理した。その結果、炭化種子を検出した。それにはマタタビ属・キハダ属と同定不能なものが混じる。(詳細はV章2)

## (3) 土坑

土坑は83基検出した。縄文時代の土坑は中期のものが27基、そのうち中期前半は10基（P-2・5・6・13・14・33・37・38・49・63）、中期後半が2基（P-83・86）、中期中葉頃のもの5基（P-11・20・23・47・71）、中期の可能性のある10基（P-10・17・19・21・26・28・30・32・34・59）である。他に縄文時代の土坑としては中～後期の可能性のある20基（P-1・3・7～9・16・18・22・25・35・36・40～43・46・54・69・72・78）、前～後期の可能性のあるP-50・55、後期前葉ないしは前半のものは28基（P-4・12・15・31・39・44・48・51・53・57・58・61・62・67・68・70・73～77・79～82・84・85・87）である。

P-2・5は、形状と覆土が類似しており、同じ用途の土坑の可能性はある。P-8～10・19・28は明確な時期は不明であるが、縄文時代中期以降の斜面中腹～裾に掘られた土坑である。P-16・17は大型礫を伴うものが並んで検出された。遺物の出土状況に特徴的なものを挙げる。P-23はⅢ群b-1類、椀形式土器が横倒して埋設してあった。頸部に区画があり、口唇部に沈線を持たないⅢ群b-1類と北海道式石冠の共伴例である。P-33は北海道式石冠3点および、扁平打製石器3点がひとつの土坑から出土した。P-37には台石が埋まっていた。P-42は扁平打製石器1点と扁平打製石器未製品の可能性がある石錘1点が出土した。P-37には台石が埋まっていた。P-71は焼失家屋を思わせる縄文時代中期中葉Ⅲ群b-1類の土坑である。規模が小さいため住居としては扱わなかった。P-38は円筒上層d式土器が一個体ほぼ完形で出土している。

P-39・44・51・61・67・72・73・77・79・81・84・85はフラスコ状土坑である。P-51と67は坑の打ち込みを思わせる小土坑が伴う。P-73からはほぼ完形の土器が出土した。P-81からはイノシシは未萌出臼歯のある下顎がまとも出土した。配石遺構（石組）としたS-1だが（Ⅲ章4項参照）、下部にフラスコ状の土坑を持っている。また大型の配石S-2の南側からは小型の土坑を2基検出した。これらの遺構は縄文時代後期前葉の可能性が高いものが多い。P-75は倒立した状態で縄文地文のみの小型深鉢がほぼ完形で埋設されていた。P-76は沈線文を持つ土器と持たない地文のみの土器破片が埋納されていた。沈線文を持つ土器は周囲の土器片とよく接合した。

純縄文時代の土坑の可能性のあるものとしてはP-24・27・29・65・66の5基がある。深さは浅いがⅣ層（B-Tm）が落ち込んでいる。その点ではP-69も類似している。P-22も上部にⅣ層がややまともだった。

他に時期不明なP-56がある。P-45・52・60・64は欠番である。

## P-1（図Ⅲ-34、表3・9・15、図版26-1）

位置・立地：z-44区 調査区南西側（山側）、標高43.60～43.70m付近の平坦面

規模：0.80×0.73/0.64×0.50/0.20m

確認・調査：Ⅷ層まで下げて、黒褐色土の楕円形の落ち込みを検出した。長軸と思われる線で半截し、断面を観察した。明瞭な壁の立ち上がりと、底を確認し、人為的に掘り込まれた土坑であると判断した。土層は3層に分層した。1層はⅥ・Ⅷ層が主体、2・3層はⅤb・Ⅵ層が主体の層で、埋め戻しの可能性がある。平面形は楕円形で、底は若干の凹凸がある。掘り込み面は、検出した面よりも上である。遺物は覆土2層から安山岩、軽石、凝灰岩などの細かな礫・礫片が100点余出土している。中には被熱したものもある。取り上げ番号11は微細な礫片であり、現場で廃棄した。

時期：周辺の包含層出土の遺物から、縄文時代中期あるいは後期前葉の可能性はある。（新家）

P-2 (図Ⅲ-34・99、表3・9・15、図版26-2)

位置・立地：D・E-40区 標高45.00~45.20m付近の平坦面

規模：1.90×1.52/1.96×1.44×0.20m

確認・調査：Ⅶ層上面で、褐色土の落ち込みを検出した。覆土を除去した時点で明瞭な壁面と底面を検出し、土坑と判断した。不整な楕円形の平面形であり北側は舌状に張り出している。覆土1層はV~Ⅷ層が混じり合っている。埋め戻しの可能性がある。坑底直上には黒色土層が薄く堆積している。壁面は北東および南西壁がややオーバーハングする。坑底はほぼ平坦である。掘り込み面は検出面より上である。覆土1層からはⅢ群a類土器(図Ⅲ-34-2・Ⅲ-99-2/Ⅲ-34-4・Ⅲ-99-1)が散点的に出土する。覆土2層から遺物の出土はない。

時期：出土遺物から縄文時代中期前半の可能性がある。

(大泰司)

P-3 (図Ⅲ-34・120、表3・9・15、図版26-3)

位置・立地：A-44区 調査区南西側(山側)、標高43.40~43.60m付近の平坦面

規模：0.50×0.45/0.33×0.26/0.11m

確認・調査：Vb~Ⅵ層で土器片がまとめて出土していたが、木根による攪乱として取り上げてしまった。その後Ⅶ層まで下げて、黒色土の円形の落ち込みを検出した。中心で半截し、断面を観察した。ほぼ平坦な底と立ち上がりを確認し、土坑と判断した。覆土は2層に分層した。1層はVb層が主体で、自然堆積の可能性がある。2層はVb・Ⅵ・Ⅶ層が入り混じった層で、埋め戻しと考えられる。平面形は楕円形で、底は楕状になっている。掘り込み面は、土器片が出土したVb層と考えられる。土坑の縁から石槍1点(図Ⅲ-34-1・Ⅲ-120-44)覆土2層から礫が1点出土した。

時期：土坑上部で出土した土器片から、縄文時代中期あるいは後期前葉と考えられる。(新家)

P-4 (図Ⅲ-35・99、表3・9・15、図版26-4)

位置・立地：B-45区 標高44.30mほどの三次郎川上流側の低位段丘平坦面。

規模：1.18×1.02/0.86×0.61/0.25m

確認・調査：B-45区包含層調査後、Ⅶ(Ko-g)層上面で、黒色土の楕円形の輪郭を検出した。そのほぼ中央に大型の礫と土器底部片があり、土坑と判断して調査を開始した。

覆土は黄褐色粘土粒がわずかに混在する黒色土の1層で、確認面からの深さ10cmほどの浅い土坑である。平面形は長軸がほぼ北東-南西方向の楕円形で、坑底規模が長軸長0.43mと小型である。掘り込み面はV層中と考えられるが、それでも深さは25~30cmほどのものが想定される。

前述したとおり、遺物は確認面で大型の礫(坑底から5cmほど上位)とⅣ群a類土器の底部があり、土器片に乗る状況でメノウ製剥片が出土している。

時期：出土土器は、その出土状態から考えてこの土坑に伴うものと判断され、縄文時代後期の時期と考えられる。(田中)

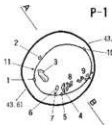
P-5 (図Ⅲ-35、表3・9・15、図版26-5)

位置・立地：D-39・40区 標高45.00~45.40m付近の平坦面

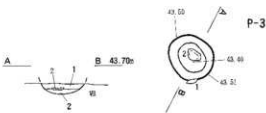
規模：1.84×1.60/1.66×1.54/0.36m

確認・調査：Ⅶ層上面で、褐色土の落ち込みを検出した。覆土を除去した時点で明瞭な壁面と底面を検出し、土坑と判断した。不整な隅丸方形の平面形であり西側はやや張り出している。覆土1層は



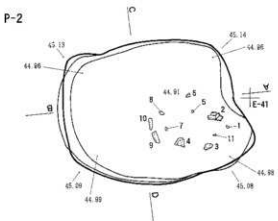


構造部名	主材種	構造層	構造位置	構造位置	構造位置	構造位置	構造位置	構造位置	構造位置
壁1	*	*	*	*	*	*	*	*	*
壁2	*	*	*	*	*	*	*	*	*
壁3	*	*	*	*	*	*	*	*	*



構造部名	主材種	構造層	構造位置	構造位置	構造位置	構造位置	構造位置	構造位置	構造位置
壁1	V.B	A.B	壁1	壁1	壁1	壁1	壁1	壁1	壁1
壁2	V.B	V.C	壁2	壁2	壁2	壁2	壁2	壁2	壁2

構造部名	主材種	構造層	構造位置	構造位置	構造位置	構造位置	構造位置	構造位置	構造位置
壁1	V.B	A.B	壁1	壁1	壁1	壁1	壁1	壁1	壁1
壁2	V.B	V.C	壁2	壁2	壁2	壁2	壁2	壁2	壁2

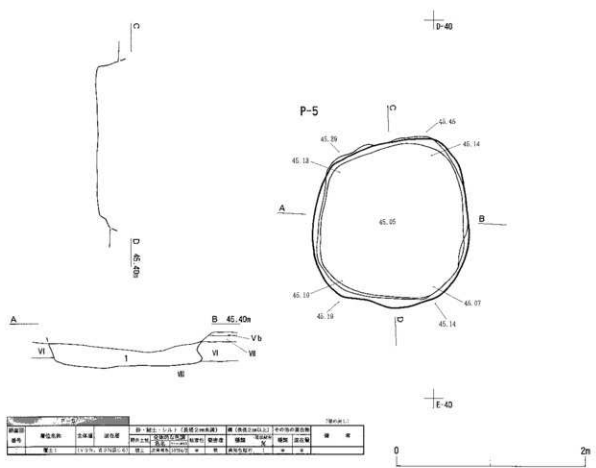
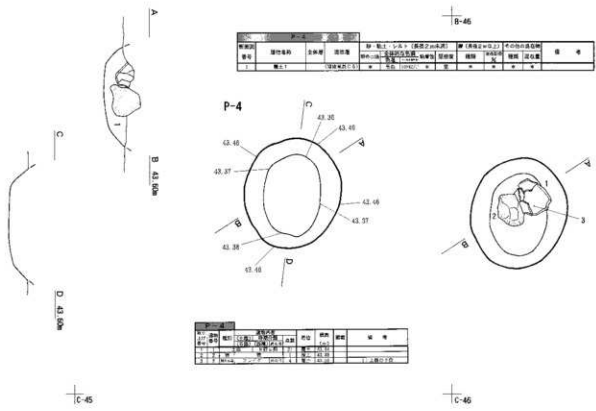


構造部名	主材種	構造層	構造位置	構造位置	構造位置	構造位置	構造位置	構造位置	構造位置
壁1	V.B	A.B	壁1	壁1	壁1	壁1	壁1	壁1	壁1
壁2	V.B	V.C	壁2	壁2	壁2	壁2	壁2	壁2	壁2

構造部名	主材種	構造層	構造位置	構造位置	構造位置	構造位置	構造位置	構造位置	構造位置
壁1	V.B	A.B	壁1	壁1	壁1	壁1	壁1	壁1	壁1
壁2	V.B	V.C	壁2	壁2	壁2	壁2	壁2	壁2	壁2



図III-34 P-1・2・3



図III-35 P-4・5

V～VIII層が混じり合っている。上部は黒色味が強い。埋め戻しの可能性がある。壁面は南壁および北西壁の一部がややオーバーハングする。坑底はほぼ平坦である。掘り込み面は検出面より上である。調査区単位で包含層調査をしていたため、D-40区側でVb層が高く残っていた。そこで確認したところ掘り込み面はVb層の下位である。覆土1層からは台石が出土している。

**時期：**覆土と立地など共通点が多いP-2から、縄文時代中期前半の可能性がある。（大泰司）

**P-6**（図III-36・120、表3・9・15、図版26-6）

**位置・立地：**I-37区 標高44.40～44.60m付近の平坦面

**規模：**1.02×0.94/0.78×0.66/0.62m

**確認・調査：**VII層上面で、黒褐色土の落ち込みを検出した。覆土を除去した時点で明瞭な壁面と底面を検出し、土坑と判断した。不整な楕円形の平面形である。覆土1層はVb層が主体であり、ブロック状のVIII層がやや混じる。下部については主にVIII層の崩落である。崩落と流入による自然堆積と考える。壁面は直立気味である。坑底は凹みが顕著である。掘り込み面は検出面より上である。覆土1層からはスクレイパー（図III-36-1・III-120-45）とIII群a類土器が出土している。土層断面で炭化物の薄層を観察したため完掘時に注意して検出したが、平面図に示した部分のみ明瞭なままとりとして認知した。成因等は不明である。

**時期：**遺物出土状況から、縄文時代中期前半の可能性がある。（大泰司）

**P-7**（図III-36、表3・9・15、図版27-1）

**位置・立地：**z-43区 調査区南西側（山側）、標高43.70～43.90m付近の平坦面

**規模：**0.63×0.53/0.34×0.30/0.30m

**確認・調査：**VIII層まで下げて、楕円形をした黒色土の落ち込みの上に、こぶし大の礫が数点出土しているのを検出した。礫は軽石や安山岩である。黒色土を半載した断面を観察したところ、壁が明瞭に立ち上がっていたため、土坑と判断した。覆土は1層で、Vb層が流入した黒色土である。平面形は不整な楕円形で、底は椀状に掘り込まれている。掘り込み面はVII層よりも上と思われる。覆土の上位から礫4点、メノウフレイク1点が出土している。

**時期：**周辺の包含層出土遺物から、縄文時代中期あるいは後期前葉と考えられる。（新家）

**P-8**（図III-36、表3・9・15、図版27-2）

**位置・立地：**z・A-42区 調査区南西側（山側）、標高44.40～44.60m付近の斜面

**規模：**1.20×0.94/0.92×0.64/0.54m

**確認・調査：**VIII層を最終面のレベルまで下げて、黒褐色土の落ち込みを検出した。風倒木による攪乱と考え、さらに黒褐色土を掘り下げた。20cmほど下げた時点で、壁の立ち上がりがかきりしたため、長軸方向で半載し、断面を観察した。明瞭に掘り込まれて壁が作られており、土坑と判断した。覆土は黒褐色土の1層でVb・VI層が主体の埋め戻し土である。平面はややいびつな楕円形である。東側の壁は西に比べてやや緩やかに立ち上がる。VIII層を50cm以上掘り込んで構築されており、覆土中からVIII層由来と思われる自然礫が10点出土した。掘り込み面は検出面よりも少なくとも30cm以上上と思われる。

**時期：**不明である。周辺の包含層出土の遺物から、縄文時代中期または後期前葉と考える。後期前葉の可能性が高い。（新家）



## P-9 (図III-37、表3・9・15、図版27-3)

位置・立地：A-42区 調査区南西側（山側）、標高44.00～44.40m付近の斜面

規模：1.44×(0.90)/1.32×0.90/0.18m

確認・調査：Ⅶ層まで下げて暗褐色土の落ち込みを検出した。短軸線上で半截し、断面を観察した。底が平坦で、壁が明瞭に立ち上がっていたため、土坑と判断した。斜面上に構築されており、遺物は出土していない。平面は隅丸の長方形で、斜面下方側は掘り過ぎてしまった。覆土は1層で、Ⅵ・Ⅶ層主体の埋め戻し土である。また、周囲に黒褐色土の広がりも検出した。掘り上げ土、あるいは上位の覆土が、土坑壁面が崩れたため斜面の低い方へ流れたと思われる。掘り込み面はVb層である。

時期：掘り込み面、周辺の包含層出土の遺物から、縄文時代中期または後期前葉と考える。後期前葉の可能性が高い。(新家)

## P-10 (図III-38・120、表3・9・15、図版27-4)

位置・立地：C・D-42区 標高43.80mほどの西向き段丘斜面。

規模：0.92×0.75/0.74×0.60/0.48m

確認・調査：C-42区包含層調査終了後、その北側に確認できたものである。調査区北壁には褐色土の落ち込みが確認でき、ほぼⅦ層中からⅧ層上面で半円状の輪郭が検出された。

覆土は暗褐色土が主体で（覆土1～4）、上部ほど黒色土の混じりが多い。坑底近くには若干の黄褐色土が堆積し、坑底には黒褐色土の薄層が部分的にみられた。また、土坑下の段丘斜面には、この土坑の掘り上げ土が確認されたが、明確な範囲はつかめなかった。

平面形は東西に長軸方向をもつ楕円形で、坑底は平坦で、坑口に行くにしたがい壁はラップ状に広がる。壁崩落の結果とみられる。

出土遺物は、Ⅲ群a類の土器片、つまみ付きナイフ、フレイクが各1点出土している。暗褐色土主体の覆土からの出土である。

時期：出土遺物から、縄文時代中期を判断している。(田中)

## P-11 (図III-37・99・129、表3・9・15、図版27-5)

位置・立地：H-39区 標高44.40～44.60m付近の平坦面

規模：0.88×0.80/0.66×0.62/0.46m

確認・調査：Ⅶ層上面で、Vb層を主とする黒色土の落ち込みを検出した。覆土を除去した時点で明瞭な壁面と底面を検出し、土坑と判断した。不整な楕円形の平面形である。覆土1層はVb層が主体の流入である。2～6層についてはV～Ⅷ層が混じりあう土であり、埋め戻しの可能性がある。壁面は直立気味である。坑底はほぼ平坦である。掘り込み面は検出面より上である。覆土6層からはⅢ群a類とⅢ群b-1類(図III-37-8・Ⅲ-99-1)が出土している。

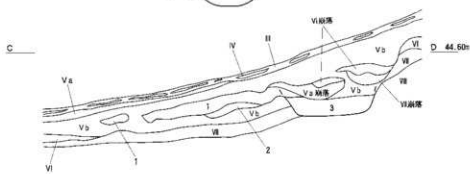
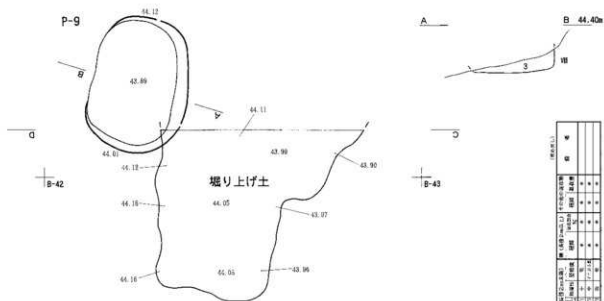
時期：遺物出土状況から、縄文時代中期中葉の可能性はある。(大森司)

## P-12 (図III-38・99・120、表3・9・15、図版27-6)

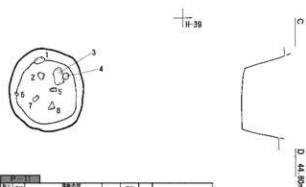
位置・立地：G-39区 標高44.60～45.00m付近の平坦面

規模：0.92×0.92/0.64×0.60/0.42m

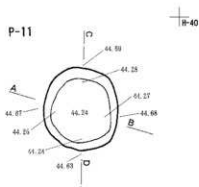
確認・調査：Ⅶ層上面で、Vb層を主とする黒色土の落ち込みを検出した。覆土を除去した時点で明瞭な壁面と底面を検出し、土坑と判断した。不整な円形の平面形である。覆土1層はVb層が主体の



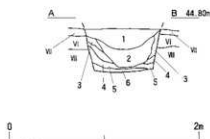
11. 土質調査結果表		12. 土質調査結果表		13. 土質調査結果表		14. 土質調査結果表		15. 土質調査結果表	
層	土質	層	土質	層	土質	層	土質	層	土質
1	砂	1	砂	1	砂	1	砂	1	砂
2	砂	2	砂	2	砂	2	砂	2	砂
3	砂	3	砂	3	砂	3	砂	3	砂
4	砂	4	砂	4	砂	4	砂	4	砂
5	砂	5	砂	5	砂	5	砂	5	砂
6	砂	6	砂	6	砂	6	砂	6	砂
7	砂	7	砂	7	砂	7	砂	7	砂
8	砂	8	砂	8	砂	8	砂	8	砂
9	砂	9	砂	9	砂	9	砂	9	砂
10	砂	10	砂	10	砂	10	砂	10	砂



層	土質	層	土質	層	土質	層	土質	層	土質
1	砂	1	砂	1	砂	1	砂	1	砂
2	砂	2	砂	2	砂	2	砂	2	砂
3	砂	3	砂	3	砂	3	砂	3	砂
4	砂	4	砂	4	砂	4	砂	4	砂
5	砂	5	砂	5	砂	5	砂	5	砂
6	砂	6	砂	6	砂	6	砂	6	砂
7	砂	7	砂	7	砂	7	砂	7	砂
8	砂	8	砂	8	砂	8	砂	8	砂
9	砂	9	砂	9	砂	9	砂	9	砂
10	砂	10	砂	10	砂	10	砂	10	砂



調査点	調査内容	調査結果	調査方法	調査時期	調査場所	調査者	調査結果	調査結果	調査結果	調査結果	調査結果
1	調査点	調査内容	調査結果	調査方法	調査時期	調査場所	調査者	調査結果	調査結果	調査結果	調査結果
2	調査点	調査内容	調査結果	調査方法	調査時期	調査場所	調査者	調査結果	調査結果	調査結果	調査結果
3	調査点	調査内容	調査結果	調査方法	調査時期	調査場所	調査者	調査結果	調査結果	調査結果	調査結果
4	調査点	調査内容	調査結果	調査方法	調査時期	調査場所	調査者	調査結果	調査結果	調査結果	調査結果
5	調査点	調査内容	調査結果	調査方法	調査時期	調査場所	調査者	調査結果	調査結果	調査結果	調査結果
6	調査点	調査内容	調査結果	調査方法	調査時期	調査場所	調査者	調査結果	調査結果	調査結果	調査結果
7	調査点	調査内容	調査結果	調査方法	調査時期	調査場所	調査者	調査結果	調査結果	調査結果	調査結果
8	調査点	調査内容	調査結果	調査方法	調査時期	調査場所	調査者	調査結果	調査結果	調査結果	調査結果
9	調査点	調査内容	調査結果	調査方法	調査時期	調査場所	調査者	調査結果	調査結果	調査結果	調査結果
10	調査点	調査内容	調査結果	調査方法	調査時期	調査場所	調査者	調査結果	調査結果	調査結果	調査結果



図Ⅲ-37 P-9・11

流入である。坑底面中央から開口部まで覆う。2層についてはV層とVIII層が混じりあう土であり、交互に流入したような状況である。坑底面はほぼ平坦だが中央がやや窪む。掘り込み面は検出面より上である。覆土からはIII群a類土器片を主として出土(図III-38-5・13・14・16・III-99-1)するが、IV群a類が1点混じる。石鏃(図III-38-4・III-120-47)の出土がある。

時期：遺物出土状況から、縄文時代後期前葉以降の可能性がある。(大森司)

P-13 (図III-39、表3・9・15、図版28-1)

位置・立地：B・C-40区 標高45.20～45.60m付近の平坦面

規模：2.12×(1.04)/1.92×(0.78)/0.27m

確認・調査：VII層上面で、にぶい黄褐色土の落ち込みを検出した。覆土を除去した時点で明瞭な壁面と底面を検出し、土坑と判断した。一部は調査区外である。不整な卵型の平面形である。覆土はV～VIII層が混じり合っている。埋め戻しの可能性がある。坑底はほぼ平坦である。掘り込み面は検出面より上である。調査区壁面において土層観察したところ掘り込み面はVb層の中位である。覆土からIII群a類土器が出土している。

時期：出土遺物および、覆土と立地など共通点が多いP-2から、縄文時代中期前半の可能性ある。(大森司)

P-14 (図III-39・120、表3・9・15、図版28-2)

位置・立地：G-39・40区 標高44.60～44.80m付近の平坦面

規模：2.14×1.94/2.08×1.84/0.28m

確認・調査：VII層上面で、にぶい黄褐色土の落ち込みを検出した。覆土を除去した時点で明瞭な壁面と底面を検出し、土坑と判断した。不整な楕円形の平面形である。覆土1層はV～VIII層が混じり合っている。埋め戻しの可能性がある。坑底直上の一部には薄く黒色土の層が入り込む。坑底はほぼ平坦であるが、南西側がやや高くなっている。掘り込み面は検出面より上である。包含層調査の都合で、G-40区側の一部においてVb層が高く残っていた。そこで確認したところ掘り込み面はVb層の中位である。覆土1層からは石鏃(図III-39-3・III-120-48)と礫が出土している。

時期：覆土と立地など共通点が多いP-2から、縄文時代中期前半の可能性ある。(大森司)

P-15 (図III-39、図版28-3)

位置・立地：C-43区 標高43.20～43.40m付近の平坦面

規模：0.80×0.75/0.60×0.46/0.22m

確認・調査：VII層上面で、黒色土の落ち込みを検出した。覆土を除去した時点で明瞭な壁面と底面を検出し、土坑と判断した。不整な円形の平面形である。覆土はVb層主体の黒色土が主であり、壁面際にV～VIII層が混じり合った土の流入がある。自然堆積と考える。坑底はほぼ平坦である。掘り込み面は検出面より上である。覆土からIV群a類土器と礫が出土している。

時期：出土遺物から、縄文時代後期前葉の可能性ある。(大森司)

P-16 (図III-40・99・129、表3・9・15、図版28-4)

位置・立地：C-44区 標高42.80～43.00m付近の平坦面

規模：1.32×1.24/1.02×0.78/0.44m

**確認・調査:** Vb層中位で、黒褐色土の落ち込みに大型の礫が埋没している状況を検出した。覆土を除去した時点で明瞭な壁面と底面を検出し、土坑と判断した。不整な楕円形の平面形である。覆土上位の1層はVb層を主体とする自然堆積である。2・3層はV～VII層が混在した土層であり、埋め戻しの可能性がある。坑底はほぼ平坦であるが、中央が浅く凹む。掘り込み面は検出面より上である。覆土1層からは大型で板状の礫が2点とIII群a類～IV群a類土器が散点的に出土する。覆土2～4層から遺物の出土はない。

**時期:** 出土遺物から縄文時代中期中葉～後期前葉の可能性がある。主要な出土土器片から判断すると中期の可能性が高い。(大森司)

P-17 (図Ⅲ-40・41・100・130、表3・9・15、図版28-5)

**位置・立地:** C・D-43・44区 標高44.80mほどの三次郎川上流側の低位段丘平坦面。

**規模:** 2.10×1.69/1.78×1.41×0.67m

**確認・調査:** 焼土F-1・9の土層観察用Dラインおよび44ラインのベルトを残しながら、掘り進めたところ、D-44杭を中心にVI(漸移)層上面で輪郭がはっきりとしないながらも、黒色土が落ち込んでいる状況が捉えられた。一部土層ベルトをはずしながら、VII層上面まで掘り下げると楕円形に輪郭がはっきりと観察された。土坑との推定から北側を半裁したところ、大型の礫が3個確認でき、主要な土器片などを残しながら掘り進め、礫混じりのVIII層に達した。壁も明瞭に立ち上がり、土坑と判断した。

覆土は、上部が黒色土を主体とするもの(1・2層)で土坑中央部へ向かって凸レンズ状に堆積する。その下部に黄色粘土と若干の黒色土が混合する褐色土(3層)が炭化粒を含み、土坑全体を厚さ25cmほどで覆っている。坑底付近では、壁際を中心に明黄褐色の粘質土(4層)があり、黒色土(5層)が部分的に薄く堆積していた。帯状に重なる堆積を示すことから、覆土は埋め戻し土と判断している。なお、黒色土部分では明瞭な人骨等の痕跡は捉えられなかった。

平面形は、ほぼ南北方向を長軸とする楕円形で、長軸長が確認面で2mを超える大型土坑である。今回の調査で確認されたものの中で大型の部類である。坑底は浅皿状を呈し、壁は緩やかに立ち上がり、坑口に向かって広がっている。

**遺物出土状況:** 大型礫4個は覆土3層からの出土であり、土坑長軸線上の南側および中央に各1個、他の2個が西側に片寄り土坑中央部に向かって傾斜している。小型の礫も数多く出土しているが、坑底には基盤層に包含される礫が表出している状況が捉えられたこともあり、意図的に入れられたものかの判断は難しい。

また、そのほかの遺物についても坑底出土のものではなく、すべて覆土からの出土である。主要な土器片は覆土2と3との層界付近から出土したものが多く、III群a類土器(図Ⅲ-100-1)である。IV群の土器片も1点、最上位の黒色土から出土している。

**時期・性格:** 主要な出土土器片から縄文時代中期の墓と考える。しかし、IV群の土器片の出土は、最上位の黒色土を覆土と判断した妥当性が問題になると考えている。(田中)

P-18 (図Ⅲ-42、表3・9・15、図版28-6)

**位置・立地:** G-39区 標高44.60～45.00m付近の緩斜面

**規模:** 0.47×0.43/0.18×0.15/0.16m

**確認・調査:** VIII層まで下げて、黒～暗褐色土の円形の落ち込み上に直径16cmほどの安山岩の礫を検出



した。中心で半截し、断面での壁の立ち上がりが明瞭であったため、土坑と判断した。覆土は2層に分けた。1層は黒褐色のV層とVI層から成る土層、2層はVI・VII・VIII層が混じりあった埋め戻し土である。平面は不整な円形である。底は平らでなく、椀状に掘り込まれている。掘り込み面は検出面よりも上である。遺物は上位の安山岩礫のほか、メノウの原石が1点出土した。

**時期：**掘り込み面、周辺の包含層出土の遺物から、縄文時代中期または後期前葉と考える。中期の可能性が高い。(新家)

**P-19** (図III-38、表3・9・15、図版27-4)

**位置・立地：**C-42区 標高43.80mほどの西向き段丘斜面

**規模：**0.78×(0.53)/0.70×0.46/0.30m

**確認・調査：**P-10の南西側に0.60mほど離れて、VIII(地盤)層上面で褐色土の楕円形の輪郭が検出された。覆土は黄色粘土ブロックを含む暗褐色土が主体で、平坦な坑底および明確な壁の立ち上がりを確認できたことから土坑と判断した。

平面形はP-10と同様楕円形であるが、長軸方向は南北を向く。遺構確認が遅くなり、遺物出土の確認はできなかった。

**時期：**不明。周辺検出の遺構状況から縄文中期の可能性を考えている。(田中)

**P-20** (図III-42・100・130、表3・9・15、図版29-1)

**位置・立地：**F・G-43区 標高44.80~45.00m付近の平坦面

**規模：**1.50×1.36/1.35×1.20/0.22m

**確認・調査：**VI層上面で、黒褐色土の落ち込みを検出した。覆土を除去した時点で明瞭な壁面と底面を検出し、小型の土坑と判断した。H-3の確認以前に検出されたものであり、より新しい時期のものである。不整な楕円形の平面形である。覆土はVb層を主体とする自然堆積である。坑底はほぼ平坦であるが、東側へ向かって低く傾斜している。掘り込み面は検出面よりも上である。覆土からは人頭大の礫がふたつ、北海道式石冠と扁平打製石器(図III-42-8・III-130-33)が各1点の他、III群土器(図III-42-17・18・III-100-1)を主として土器片が散点的に出土している。

**時期：**出土遺物から縄文時代中期中葉の可能性がある。(大泰司)

**P-21** (図III-42、表3・9・15、図版29-2)

**位置・立地：**I-37区 標高44.60~45.00m付近の緩斜面

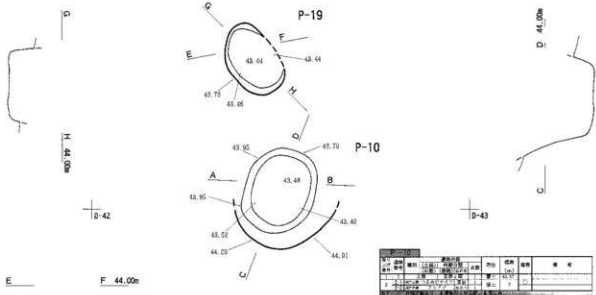
**規模：**0.80×0.60/0.57×0.47/0.19m

**確認・調査：**VII層まで下げて、黒褐色土の楕円形の落ち込みを検出した。半截により、断面の明瞭な壁の立ち上がり平坦な底から、土坑と判断した。覆土は3層に分けた。1層はV・VI層、2層はV・VII層、3層はV・VIII層をそれぞれ主体としており、埋め戻しである。平面形は楕円形である。底はほぼ水平・平坦である。掘り込み面は検出面よりも上である。遺物は覆土1層から、縄文時代中期の土器片1点と、安山岩の礫1点が出土している。

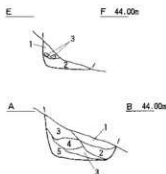
**時期：**掘り込み面、周辺の包含層出土の遺物から、縄文時代中期の可能性がある。(新家)

**P-22** (図III-43、表3・9・15、図版29-3)

**位置・立地：**J-38・39区 調査区東側、標高44.40~44.60m付近の平坦面

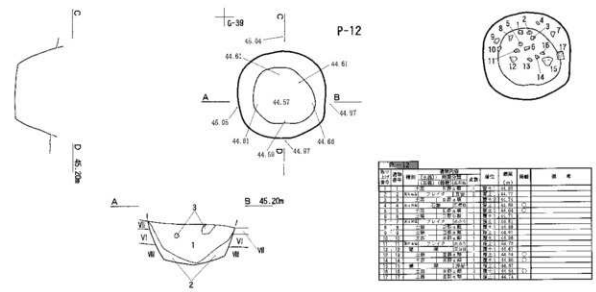


項目	単位	数値	単位	数値	単位	数値	単位	数値	単位	数値
1	面積	44.00	㎡	44.42	㎡	44.43	㎡	44.43	㎡	44.43
2	容積	44.00	㎥	44.42	㎥	44.43	㎥	44.43	㎥	44.43



項目	単位	数値	単位	数値	単位	数値	単位	数値	単位	数値
1	面積	44.00	㎡	44.42	㎡	44.43	㎡	44.43	㎡	44.43
2	容積	44.00	㎥	44.42	㎥	44.43	㎥	44.43	㎥	44.43

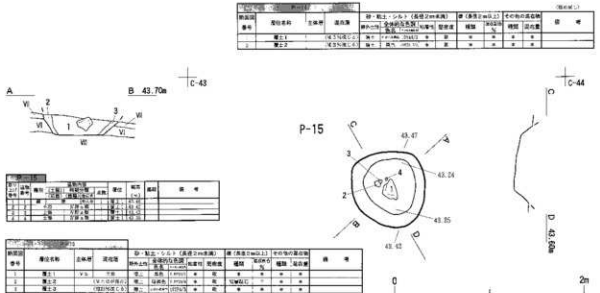
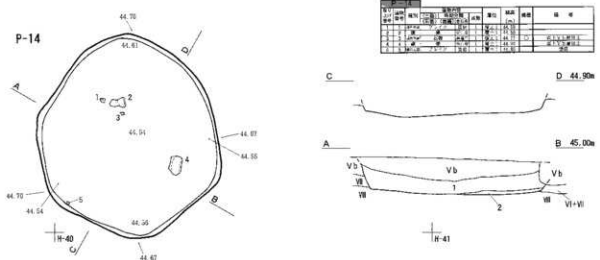
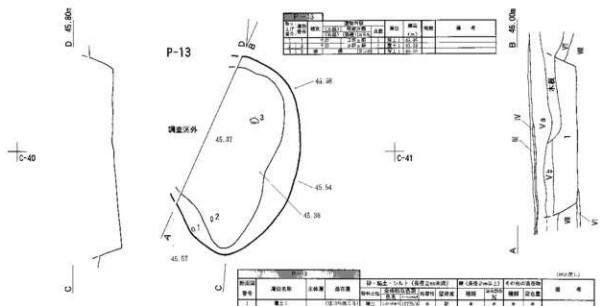
項目	単位	数値	単位	数値	単位	数値	単位	数値	単位	数値
1	面積	44.00	㎡	44.42	㎡	44.43	㎡	44.43	㎡	44.43
2	容積	44.00	㎥	44.42	㎥	44.43	㎥	44.43	㎥	44.43



項目	単位	数値	単位	数値	単位	数値	単位	数値	単位	数値
1	面積	44.00	㎡	44.42	㎡	44.43	㎡	44.43	㎡	44.43
2	容積	44.00	㎥	44.42	㎥	44.43	㎥	44.43	㎥	44.43

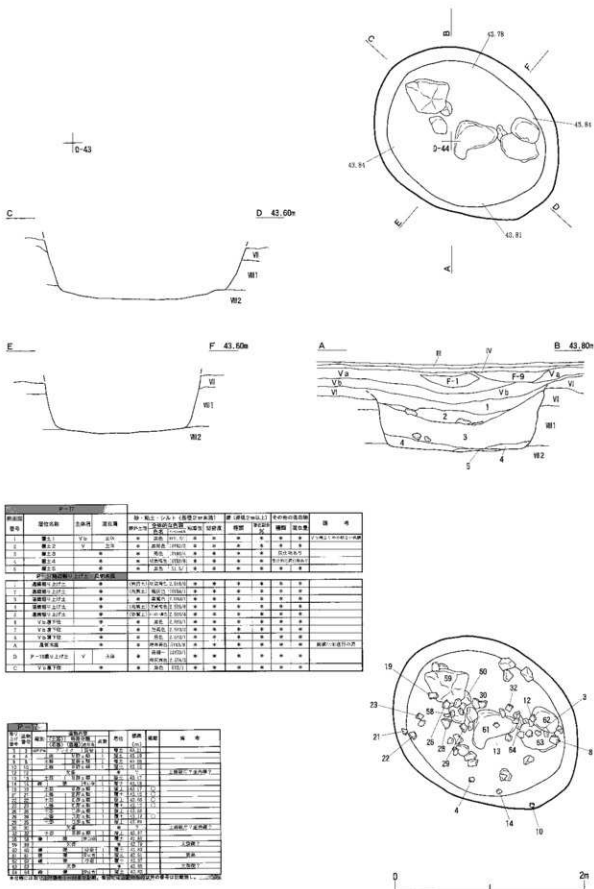
項目	単位	数値	単位	数値	単位	数値	単位	数値	単位	数値
1	面積	44.00	㎡	44.42	㎡	44.43	㎡	44.43	㎡	44.43
2	容積	44.00	㎥	44.42	㎥	44.43	㎥	44.43	㎥	44.43

図 III-38 P-10・19・12



図III-39 P-13・14・15





図III-41 P-17(2)

規模：1.20×1.02/1.00×0.86/0.13m

**確認・調査：**Ⅷ層まで下げて、黒色土の楕円形の落ち込みを検出した。半載断面はⅡ層から残したベルトを観察した。平坦な底と浅いが明瞭な立ち上がりが見られ、土坑と判断した。覆土はⅤb層起源の黒色土からなる1層で、自然堆積と思われる。平面形は楕円形で、底はほぼ平坦である。東側の壁が、他よりやや急に立ち上がる。掘り込み面はⅤb層である。Ⅷ層を掘り込まず、Ⅷ層上面が底になっている。遺物は出ていない。

**時期：**掘り込み面、周辺の包含層出土の遺物から、縄文時代中期または後期前葉の可能性がある。ただしⅣ層が落ち込んでいる状況が、調査区内の統縄文時代の遺構と類似する。（新家）

P-23（図Ⅲ-43・100・130、表3・9・15、図版29-4）

**位置・立地：**F-45区 標高43.20～43.40m付近の平坦面

規模：0.70×0.64/0.56×0.58/0.20m

**確認・調査：**Ⅵ層上面でぶい黄褐色土の落ち込みにⅢ群b-1類土器（図Ⅲ-41-1・Ⅲ-100-1）がまとまっている状況を検出した。完形の一個体が横倒しになり押し潰された状況であった。大型の土器破片が折り重なるように出土し、底部際の胴部には北海道式石冠（図Ⅲ-41-2・Ⅲ-130-34）が置かれていた。覆土を除去した時点で明瞭な壁面と坑底面を検出し、土坑に土器を埋納したものと判断した。不整な卵形の平面形である。覆土はⅤ～Ⅷ層が混じり合った土であり、遺物の出土状況も踏まえて埋め戻しと考える。土器の内部の土も土色は同じであった。これをフローテーション法で処理した。坑底面は中央が凹む。掘り込み面は検出面より上である。

**時期：**出土遺物から縄文時代中期中葉のものである。（大泰司）

**フローテーション成果：**土坑内で横倒しになっていた土器内部の土をフローテーション法にて処理した。その結果、炭化種子を検出した。炭化種子は同定不能なものが1点出土した。（詳細はⅤ章2）

P-24（図Ⅲ-43・120、表3・9・15、図版29-5）

**位置・立地：**G・H-43区 標高44.00m付近の斜面

規模：0.92×0.81/0.82×0.73/0.23m

**確認・調査：**Ⅴa層上面でB-Tmの落ち込みを検出した。遺構を想定して土層観察用の土手を残し調査したところ、Ⅴa層主体の黒色土を覆土とする土坑がⅤb層に掘り込まれている状況が明らかとなった。不整な楕円形の平面形である。覆土は自然堆積である。壁面は垂直に立ち上がる。坑底面は平坦である。掘り込み面は検出面とほぼ同じと考える。遺物は覆土からⅢ群a類土器やスクレイパー（図Ⅲ-43-2・Ⅲ-120-49）が散点的に出土している。

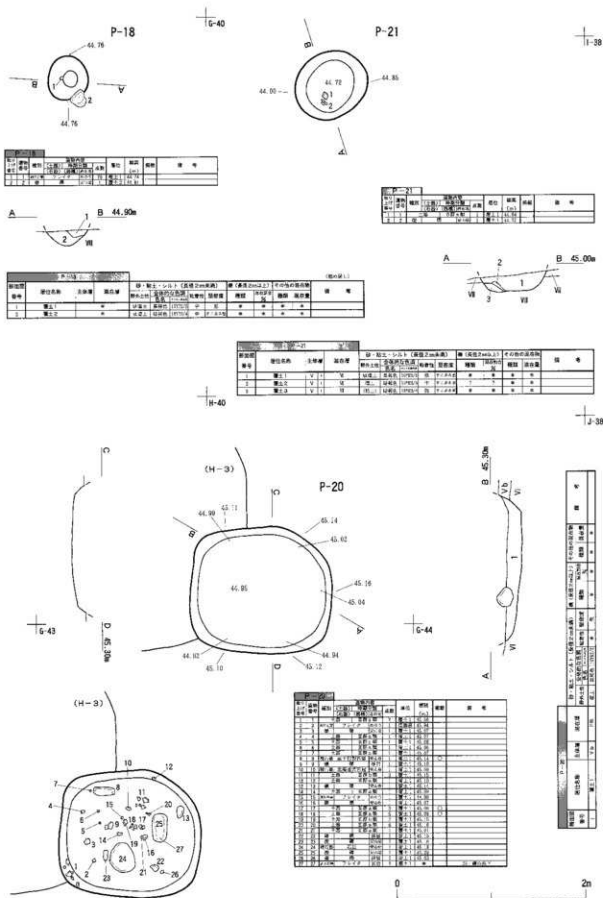
**時期：**検出面の高さから統縄文時代以降のものとする。（大泰司）

P-25（図Ⅲ-43、表3・9・15、図版29-6）

**位置・立地：**B・C-45区 調査区南西側の急斜面手前、標高43.40～43.60m付近の平坦面

規模：0.98×(0.70)/0.54×(0.57)/0.40m

**確認・調査：**45ラインのメインセクション観察用ベルトに、黒褐色土の落ち込みの断面を検出した。包含層はⅧ層まで下げ、その後黒褐色土を半載した。明瞭な立ち上がりで平坦な底から、土坑と判断した。覆土は5層に分けた。1、2層はⅤ・Ⅵ層主体、3層はⅤ・Ⅶ層主体、4層はⅥ・Ⅶ・Ⅷ層主体、5層はⅤ・Ⅶ層主体である。いずれも埋め戻し土と思われる。平面はほぼ円形で、北側4分の1



図III-42 P-18・20・21

程度が調査区外にかかっている。掘り込み面はVb層下位である。安山岩の礫が1点覆土3層から出土している。

**時期:** 掘り込み面、周辺の包含層出土遺物から、縄文時代中期または後期前葉である。 (新家)

P-26 (図Ⅲ-44・101・120・130・131、表3・9・15、図版30-1)

**位置・立地:** I-44区 標高43.60~44.00m付近の平坦面

**規模:** 2.56×2.39/2.30×2.00/0.28m

**確認・調査:** Vb層下位でより黒色味の強い黒色土の落ち込みを検出した。覆土を除去した時点で明瞭な壁面と底面を検出し、土坑と判断した。不整な円形の平面形である。覆土は自然堆積と考える。坑底面はほぼ平坦である。掘り込み面は検出面より上である。遺物はほとんどが覆土1層からの出土である。土器はⅢ群a類の出土が多く、Ⅲ群b類も混じる。北海道式石冠が9点、扁平打製石器が6点出土しているのが特徴的である。規模的にはⅢ群b類の小型竈穴住居ほどの大きさがあるが、住居として積極的に根拠付けられるものはなかった。遺物が覆土上位自然堆積部分に集中することから土坑埋没途中に、その凹みに廃棄がなされた状況とも捉えられる。

**時期:** 出土遺物から縄文時代中期の可能性ある。 (大泰司)

P-27 (図Ⅲ-45、表3・9・15、図版30-2)

**位置・立地:** G・H-42区 標高44.20m付近の斜面

**規模:** 1.20×0.78/1.16×0.72/(0.21)m

**確認・調査:** Vb層上面でより黒色味の強い黒色土の落ち込みを検出した。落ち込みの中心にはIV層・降下火山灰B-Tmが入り込んでいる。覆土を除去した時点で明瞭な壁面と底面を検出し、土坑と判断した。不整な楕円形の平面形である。覆土は自然堆積と考える。坑底面はほぼ平坦だが北側に向かって低くなっている。掘り込み面は検出面より上である。遺物は覆土から、Ⅲ群a類土器が出土している。南東隣にあるP-29と立地も類似しており、Va層中位から掘り込まれた土坑の可能性ある。降下火山灰B-Tm降下時にはまだ凹んでいた遺構である。

**時期:** 不明であるが、検出位置と類似するP-29から統縄文時代以降の土坑の可能性ある。

(大泰司)

P-28 (図Ⅲ-46・100、表3・9・15、図版30-3)

**位置・立地:** D・E-42区 標高44.20~44.40mの西向き段丘斜面。

**規模:** 1.43×1.28/1.00×0.90/0.48m

**確認・調査:** 包含層調査終了後のⅧ(地盤)層上面で、黒色土がシミ状に検出できたものである。土層観察のため一度は半裁したが、黒色土が土坑中央部に向かって不明瞭に垂下する状態がとらえられた。その際、木根痕と判断する調査上の不手際から、土層観察および図化をしないまま調査したものである。

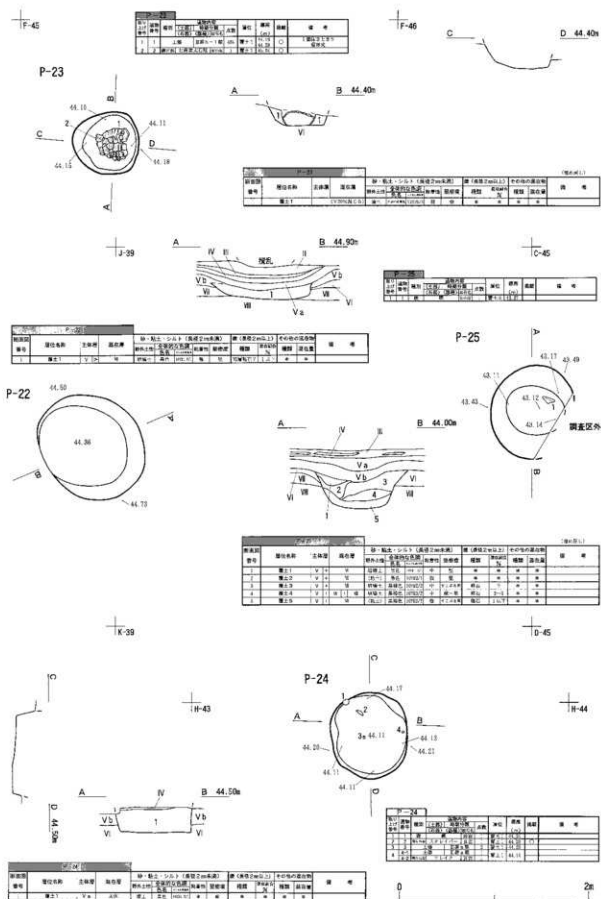
土坑と確認した段階では、覆土が坑底に一部残る状態であった。残る覆土は炭化粒がわずかに混じる黄褐色粘質土(1層)と、坑底に黒褐色土(2層)が部分的に堆積していた。覆土はともに堅くしまらない。

平面形は扁平度の低い楕円形で、坑底は平坦、壁は緩やかに立ち上がる。

遺物は、覆土1層からの出土で、Ⅲ群a類およびb類の土器片と礫が出土している。

**時期:** 覆土からの出土であり、調査上の不手際もあって即断できないが、出土遺物から縄文時代中期の可能性が高いと考えられる。 (田中)





図III-43 P-22・23・24・25

P-29 (図Ⅲ-45・102、表3・9・15、図版30-4)

位置・立地：G・H-42区 標高44.20m付近の斜面

規模：0.84×0.80/0.86×0.80/0.18m

確認・調査：Va層上面でIV層・降下火山灰B-Tmの落ち込みを確認した。北西隣にあるP-27に類似する土坑の可能性を想定し、土層観察用の土手を残して調査を開始した。覆土を除去した時点で明瞭な壁面と底面を検出し、土坑と判断した。不整な楕円形の平面形である。覆土は自然堆積と考える。壁面は南側が微妙にオーバーハングする。坑底面はほぼ平坦である。掘り込み面はVa層中位である。

遺物は覆土から、Ⅲ群A類からVI群にいたるまでの土器が出土している。降下火山灰B-Tm降下時にはまだ凹んでいた遺構である。

時期：出土遺物から縄文時代以降の土坑である。

(大泰司)

P-30 (図Ⅲ-46・101・131、表3・9・15、図版30-5)

位置・立地：E-43区 標高44.60mほどの南西向き段丘斜面。

規模：1.05×1.02/0.80×0.86/0.40m

確認・調査：E-43区北半で、Ⅷ(地盤)層上面で褐色土のいびつな輪郭が捉えられたものである。

土層観察のため半裁したところ、上下2つの坑底面および壁の明確な立ち上がりが確認できた。また、土層観察から2個の土坑の切り合い関係が確認できたため、新旧順にP-30・34とした。

P-30は、P-34東側の一部を壊して作られている。平面形はほぼ円形で、坑底は平坦(一部掘り過ぎ)である。土坑の深さはP-34の半分ほどで、坑底の一部はP-34の覆土中に作られていた。

覆土は、黒色土が混入するが基盤の砂質土が主体である。覆土3層からⅢ群a類土器片(図Ⅲ-46-5・Ⅲ-101-1)と小型の北海道式石冠(図Ⅲ-46-6・Ⅲ-131-38)が出土している。

時期：出土遺物から縄文時代中期と判断する。

(田中)

P-31 (図Ⅲ-47・101・131、表3・9・15、図版30-5)

位置・立地：E-44区 標高44.20mほどの南西向き段丘斜面

規模：0.98×0.92/0.83×0.73/0.27m

確認・調査：E-44区で漸移層(VI層)まで掘り下げたところ、黒色土の落ち込みが広範囲に検出された。土層観察用のベルトを残しながら再度掘り下げたところ、土器片等遺物が集中して出土した。遺物を図化、取り上げたところ、黒色土範囲の北端部にほぼ円形、暗茶褐色の輪郭が検出された。土層観察用のベルトを残しながら掘り下げた結果、浅皿状の坑底が確認でき、土坑と判断した。土坑南東側については、風倒木痕の攪乱や調査過程での不手際で、確認できなかった部分がある。

覆土は、黒色から黒褐色土を主体とするものである。出土遺物は多く、坑底からは大型礫、北海道式石冠(図Ⅲ-47-14・Ⅲ-131-39)が出土し、土坑北側ではⅢ群a類土器片(図Ⅲ-47-5・6・7・Ⅲ-101-1/Ⅲ-47-13・Ⅲ-101-2)が直立し流れ込む状況で出土している。また、覆土中にはIV群a類土器片1点も出土しており、土坑周辺の包含層から出土した復元土器(図Ⅲ-101-P-31-3)と接合関係がある。

時期：出土土坑出土の土器片からは、縄文時代後期の時期をさかのほらないと考えられ、この時期の可能性が強い。

(田中)



P-32 (図Ⅲ-48・131・132、表3・9・15、図版31-1)

位置・立地：E-44区 標高43.60~44.20mほどの南向き段丘斜面。

規模：(1.81)×(1.62)/1.72×(1.54)/0.19m

確認・調査：P-31と同様、E-44区の広範囲に検出された黒色土の落ち込み範囲に、焼土F-11下に確認できた土坑である。

上部遺物を取り上げ後、Ⅷ(地盤)層とは色調が異なる褐色土が検出でき、それを除去することで平坦な坑底および明確な壁の立ち上がりを確認できたものである。遺物は、覆土中わずかにメノウ製剥片、安山岩製の扁平打製石器(図Ⅲ-131・132-40・41)が出土している。

坑底のほぼ中央には炭化物の広がり、地山表層が赤色化した薄い焼土が検出された。

時期：土坑出土の遺物からは時期を特定できないが、覆土上部で検出した焼土F-11が縄文時代中期の可能性が強いことから、それをさかのぼらない。(田中)

フローテーション成果：土坑底面で検出した焼土をフローテーション法にて処理した。その結果、炭化種子を検出した。炭化種子は同定不能なものが2点出土した。(詳細はV章2)

P-33 (図Ⅲ-48・101・132、表3・9・15、図版31-2)

位置・立地：G-42区 標高44.60~44.80m付近の平坦面

規模：0.76×0.68/0.69×0.56/(0.32)m

確認・調査：Ⅵ層上面で灰黄褐色土の落ち込みを検出した。覆土を除去した時点で明瞭な壁面と底面を検出し、土坑と判断した。隅丸方形に近い平面形である。覆土1・2層はⅤ~Ⅷ層が混じり合った土であり、埋め戻しの可能性がある。坑底面はほぼ平坦である。掘り込み面は検出面より上である。遺物は覆土1層からⅣ群a類土器が2点出土している。しかし、より下位からはⅢ群a類土器がまとまって出土している。坑底直上から北海道式石冠が3点(図Ⅲ-48-8・Ⅲ-132-44/Ⅲ-48-9/Ⅲ-48-10・Ⅲ-132-43)、扁平打製石器が3点(接合して1個体に図Ⅲ-48-11~13・Ⅲ-132-42)出土している。小規模な土坑だが礫石器がまとまって出土している。

時期：遺物の出土状況から縄文時代中期前半のものである。(大泰司)

P-34 (図Ⅲ-47・101、表3・9・15、図版31-3)

位置・立地：E-43区 標高44.40mほどの南西向き段丘斜面。

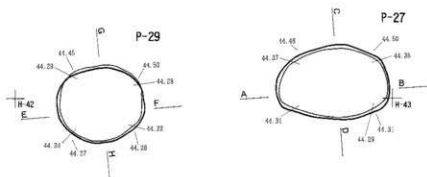
規模：1.50×1.12/1.15×0.72/0.72m

確認・調査：P-30の項でも述べたとおり、E-43区北半のP-30と切り合い関係を持つ土坑で、P-34が古い。P-30によって、東側壁の一部を壊されている。

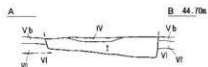
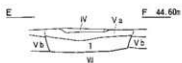
平面形は、長軸方向が北西-南東の楕円形で、坑底はほぼ平坦。壁は坑口に向かって広がる。

覆土は、黒色土の混入がP-30に比べ少なく淡い色調を呈する。また、坑底から20cmほど上位で黒色土の薄層が確認される。遺物はすべて覆土出土であるが、土坑北西側に片寄りまとまりをもって出土している。大型礫は中央側に傾いた状態で、またⅢ群a類の土器片、北海道式石冠などが出土している。

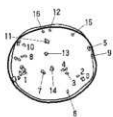
時期：出土遺物から、縄文時代中期と判断する。(田中)



P-29		P-27		P-29		P-27		P-29		P-27	
調査年度	調査地区	発見時期	調査者	調査方法	調査場所	調査時期	調査者	調査方法	調査場所	調査時期	調査者
1971	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...



P-29		P-27		P-29		P-27		P-29		P-27	
調査年度	調査地区	発見時期	調査者	調査方法	調査場所	調査時期	調査者	調査方法	調査場所	調査時期	調査者
1971	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...



調査年度	調査地区	発見時期	調査者	調査方法	調査場所	調査時期	調査者	調査方法	調査場所	調査時期	調査者
1971	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...

調査年度	調査地区	発見時期	調査者	調査方法	調査場所	調査時期	調査者	調査方法	調査場所	調査時期	調査者
1971	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...



図III-45 P-27・29

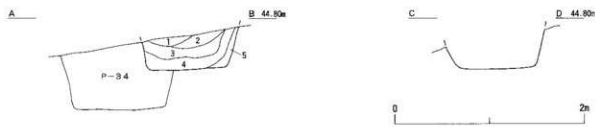
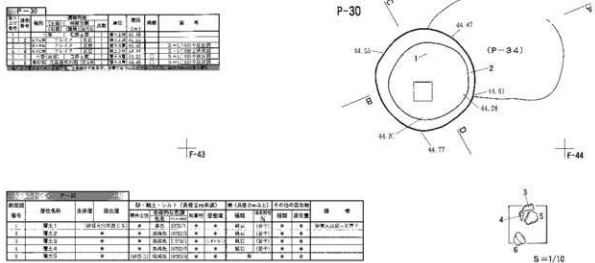
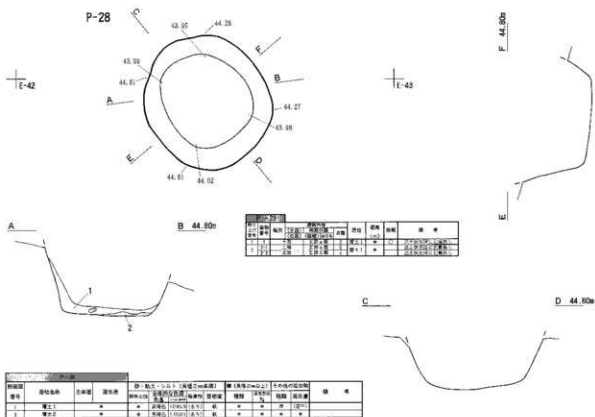


圖 III-46 P-28 • 30

## P-35 (図Ⅲ-49、表3・9・15、図版31-4)

位置・立地：M-44区 標高43.80~44.20m付近の平坦面

規模：0.93×0.79/0.67×0.60/0.46m

確認・調査：Ⅶ層まで下げて、黒褐色土の楕円形の落ち込みを検出した。長軸線上で半載し、明瞭な壁の立ち上がり平坦な底の断面から、土坑と判断した。覆土は8層に分けた。Ⅴ層が起源の1層は自然堆積、その他は埋め戻しと思われる。平面は不整な楕円形である。底はほぼ平坦である。掘り込み面は検出面より上である。覆土7層から縄文時代中期前半の土器片1点と安山岩礫3点が出土している。

時期：掘り込み面、周辺の包含層出土遺物から、縄文時代中期または後期前葉である。(新家)

## P-36 (図Ⅲ-49・102、表3・9・15、図版31-5)

位置・立地：M-43・44区 標高43.80~44.40m付近の平坦面

規模：1.22×1.09/1.16×0.77/0.52m

確認・調査：メインセクションベルトに黒~暗褐色土の落ち込みの断面を検出した。包含層はⅦ層まで下げ、落ち込みを半載した。明瞭な立ち上がりⅧ層を深く掘り込んだほぼ平坦な底から、土坑と判断した。覆土は9層に分けた。1~3層はⅤ~Ⅷ層が混じり合った自然堆積、もしくは崩落土である。4~9層はⅥ~Ⅷ層起源の埋め戻し土である。平面は楕円形で、南側の壁がややオーバーハングしている。掘り込み面はⅤb層である。遺物は縄文時代中期の土器片が3点、メノウフレイクが2点、安山岩礫が1点、覆土から出土している。

時期：遺構周辺の包含層出土の遺物から、縄文時代中期または後期前葉の可能性ある。(新家)

## P-37 (図Ⅲ-49・138、表3・9・15、図版31-6)

位置・立地：F-42区 標高44.80~45.00m付近の平坦面 H-4に切られている

規模：(1.10)×(0.68)/(1.04)×(0.56)/0.24m

確認・調査：H-4を調査中、Ⅷ層上面で褐色土の落ち込みが切り合っている状況を検出した。H-4壁面から台石が突き出しており、これは落ち込みに埋まり込んだものであった。覆土を除去した時点で明瞭な壁面と底面を検出し、土坑と判断した。残存部分から、隅丸方形に近い平面形を予想する。覆土はⅤ~Ⅷ層が混じり合った土であり、埋め戻しの可能性がある。坑底面はほぼ平坦である。掘り込み面は検出面より上である。遺物は覆土から先述の台石(図Ⅲ-49-2・Ⅲ-138-12)とⅢ群a類土器が出土している。台石は坑底に一部分が接していた。

時期：遺物の出土状況から縄文時代中期前葉のものである。(大泰司)

## P-38 (図Ⅲ-50・103・120、表3・9・15、図版32-1)

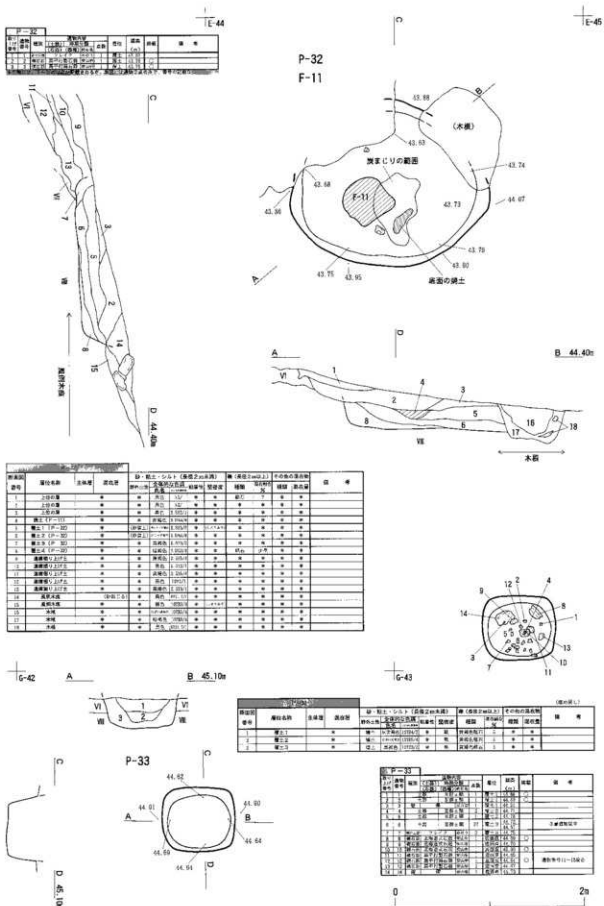
位置・立地：F-43区 標高44.80~45.00m付近の平坦面 H-3を切っている

規模：1.09×0.84/0.86×0.58/0.44m

確認・調査：H-3を調査中、床面直上でⅢ群a類土器一団体(図Ⅲ-103-1)が出土した。H-3の遺物と認識し取上げようとしたところ床面に埋没していることが明らかとなった。床面を精査したところ、Ⅷ層に掘り込まれた床面にⅧ層主体のにぶい黄褐色土が落ち込んでおり、そこに土器が埋没している状況が明らかとなった。覆土を除去した時点で明瞭な壁面と底面を検出し、土坑と判断した。覆土はⅤ~Ⅷ層が混じり合った土層と薄い黒色土層が交互に堆積する。埋め戻しの可能性がある。







調査年度	調査区画	調査内容	調査日	調査者	調査時間	調査場所
昭和44年	第1区画	発掘調査	7月10日	佐藤 隆	10時～16時	奈良県橿原市
昭和44年	第2区画	発掘調査	7月11日	佐藤 隆	10時～16時	奈良県橿原市
昭和44年	第3区画	発掘調査	7月12日	佐藤 隆	10時～16時	奈良県橿原市

調査年度	調査区画	調査内容	調査日	計測・取土・サンプル (発掘区画内)		土質調査結果 (標準式)		土質調査結果 (標準式)		その他調査結果		備考
				試料番号	採取深度 (cm)	種類	状態	種類	状態	調査者	調査時間	
昭和44年	第1区画	発掘調査	7月10日	101	0-10	黄褐色土	硬	黄褐色土	硬			
昭和44年	第2区画	発掘調査	7月11日	102	0-10	黄褐色土	硬	黄褐色土	硬			
昭和44年	第3区画	発掘調査	7月12日	103	0-10	黄褐色土	硬	黄褐色土	硬			

調査年度	調査区画	調査内容	調査日	計測・取土・サンプル (発掘区画内)		土質調査結果 (標準式)		土質調査結果 (標準式)		その他調査結果		備考
				試料番号	採取深度 (cm)	種類	状態	種類	状態	調査者	調査時間	
昭和44年	第1区画	発掘調査	7月10日	201	0-10	黄褐色土	硬	黄褐色土	硬			
昭和44年	第2区画	発掘調査	7月11日	202	0-10	黄褐色土	硬	黄褐色土	硬			
昭和44年	第3区画	発掘調査	7月12日	203	0-10	黄褐色土	硬	黄褐色土	硬			

調査年度	調査区画	調査内容	調査日	計測・取土・サンプル (発掘区画内)		土質調査結果 (標準式)		土質調査結果 (標準式)		その他調査結果		備考
				試料番号	採取深度 (cm)	種類	状態	種類	状態	調査者	調査時間	
昭和44年	第1区画	発掘調査	7月10日	301	0-10	黄褐色土	硬	黄褐色土	硬			
昭和44年	第2区画	発掘調査	7月11日	302	0-10	黄褐色土	硬	黄褐色土	硬			
昭和44年	第3区画	発掘調査	7月12日	303	0-10	黄褐色土	硬	黄褐色土	硬			

図III-48 P-32・F-11・P-33

坑底面はほぼ平坦である。覆土中位には焼土3層があり、3層直下の1層上面に炭化物(Ca1~3)が分布している。Ca4は上から4段目の覆土2層下位からの検出である。掘り込み面は検出面と同一である。検出状況からH-3の廃絶後に、当遺構を構築、埋め戻しを行ったものと考えられる。その後、H-3の覆土が形成されたものである。遺物はフレイクとⅢ群a類土器が多い。覆土2層出土遺物について、18・29・32は最上部の覆土2層、20~22・30・31は2段目の覆土2層、他は3段目の覆土2層からの出土である。他に舟形の土製品の出土(図Ⅲ-50-32・33・Ⅲ-103-3)がある。

時期：遺物の出土状況から縄文時代中期前葉のものである。(大泰司)

P-39(図Ⅲ-51・121、表3・9・15、図版32-2)

位置・立地：P・Q-45区 標高43.40~43.60m付近の平坦面

規模：1.02×1.24/1.36×1.42/1.22m

確認・調査：Ⅶ層上面で黒色土Vb層主体の落ち込みを検出した。覆土を除去した時点で明瞭な壁面と底面を検出し、土坑と判断した。隅丸方形に近い、不整な円形の平面形である。覆土1層は自然堆積だが、2~9層についてはV~Ⅷ層が混じり合った土であり、埋め戻しの可能性がある。坑底面は平坦である。掘り込み面はVb層中位である。遺物は覆土1層にⅢ群a類土器と礫が多く入り込んでいる。

時期：不明であるが、調査区内で確認した他の遺構例から縄文時代後期前葉の可能性がある。

(大泰司)

P-40(図Ⅲ-50、表3・9・15、図版32-3)

位置・立地：S・T-48区 調査区北側(海側)、標高42.40~42.60m付近の平坦面

規模：0.78×0.75/0.53×0.39/0.37m

確認・調査：Ⅵ層調査中、径80cmほどの黒色土の落ち込みを検出した。半截した断面から、明瞭な壁の立ち上がり、平坦な底がうかがえ、また、底に掘えられた可能性がある、径30cmほどの礫を検出し、土坑と判断した。覆土は5層に分けた。1層はV層の黒色土で、自然堆積、2~5層はV~Ⅷ層が混じり合った埋め戻し土と思われる。全体に黒色土が多く混ざった覆土である。平面は円形である。掘り込み面はⅥ層より上位である。

時期：遺構周辺の包含層出土の遺物から、縄文時代中期または後期前葉の可能性がある。(新家)

P-41(図Ⅲ-50、表3・9・15、図版32-4)

位置・立地：P・Q-46区 調査区北側(海側)、標高42.80~43.20m付近の緩斜面

規模：0.76×0.66/0.40×0.38/0.41m

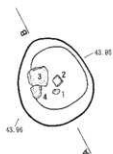
確認・調査：Ⅶ層調査中、黒色土の落ち込みを検出した。半截した断面の壁は明瞭に立ち上がり、底も水平に掘り込まれていたため、土坑と判断した。平面は楕円形であるが、規模や形態がP-40に似る。覆土は6層に分けた。1~3層は黒色土層で、1層がVa層の、2・3層がVb層の自然堆積と思われる。4~6層は黒~黒褐色土で、V~Ⅶ層起源の埋め戻し土である。全体に黒色土の混入が多い。遺物は縄文時代中期前半の土器片が1点、安山岩の礫が2点覆土から出土している。

時期：遺構周辺の包含層出土の遺物から、縄文時代中期または後期前葉の可能性がある。(新家)

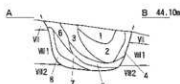
P-42(図Ⅲ-51・133、表3・9・15、図版32-5)

位置・立地：P-46区 標高43.00~43.40m付近の緩斜面

P-35



P-35											
調査年度	調査地区	調査区画	調査位置	調査内容	調査方法	調査時期	調査者	調査結果	調査写真	調査記録	調査備考
1972	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...



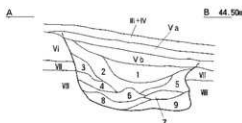
N-44

N-44

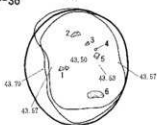
N-45

P-35											
調査年度	調査地区	調査区画	調査位置	調査内容	調査方法	調査時期	調査者	調査結果	調査写真	調査記録	調査備考
1	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...

P-35											
調査年度	調査地区	調査区画	調査位置	調査内容	調査方法	調査時期	調査者	調査結果	調査写真	調査記録	調査備考
1	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...



P-36



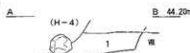
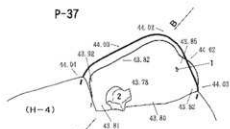
P-36											
調査年度	調査地区	調査区画	調査位置	調査内容	調査方法	調査時期	調査者	調査結果	調査写真	調査記録	調査備考
1	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...

N-44

P-36											
調査年度	調査地区	調査区画	調査位置	調査内容	調査方法	調査時期	調査者	調査結果	調査写真	調査記録	調査備考
1	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...

F-42

F-43



P-37											
調査年度	調査地区	調査区画	調査位置	調査内容	調査方法	調査時期	調査者	調査結果	調査写真	調査記録	調査備考
1	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...



図III-49 P-35・36・37

規模：0.64×0.56/0.50×0.44/0.44m

**確認・調査：**Ⅷ層上面で黒褐色土、Ⅴb層主体の落ち込みを検出した。覆土を除去した時点で明瞭な壁面と底面を検出し、土坑と判断した。不整な楕円の平面形である。覆土1層はⅤb層主体であり、流入と考える。Ⅷ層主体の覆土2層と、Ⅴ～Ⅷ層の混じった土である覆土3層が互い違いに積み重なった状態で坑底までいたる。埋め戻しの可能性が高い。坑底面はほぼ平坦である。掘り込み面は検出面より上である。遺物は覆土下位から扁平打製石器（図Ⅲ-51-2・Ⅲ-133-46）と、その未製品と思われる石鐘状の礫石器（図Ⅲ-51-3・Ⅲ-133-47）が重なって出土している。

**時期：**包含層の遺物出土状況と出土遺物から縄文時代中期～後期前葉の可能性ある。（大泰司）

P-43（図Ⅲ-51、表3・9・15、図版32-6）

**位置・立地：**T-48区 調査区北側（海側）、標高42.40～42.80m付近の平坦面

規模：1.75×0.96/1.63×0.83/0.22m

**確認・調査：**Ⅷ層調査中、細長い黒褐色土の落ち込みを検出した。短軸で半截した断面の壁は明瞭に立ち上がり、底も平坦に掘り込まれていたため、土坑と判断した。覆土は1層で、Ⅵ層主体である。自然堆積か、埋め戻しかは不明である。平面は楕円形である。長径に対し、掘り込みは浅く、20cm強である。掘り込み面はⅤ～Ⅵ層中である。遺物は出土していない。

**時期：**遺構周辺の包含層出土の遺物から、縄文時代中期または後期前葉の可能性ある。（新家）

P-44（図Ⅲ-52・103・121、表3・9・15、図版33-1）

**位置・立地：**R-47区 調査区北側（海側）、標高42.40～42.60m付近の崖に面した緩斜面

規模：1.68×1.62/1.40×1.13/1.03m

**確認・調査：**Ⅷ層調査中、円形の黒色土の落ち込みを検出した。半截した断面の壁は裾が広がり、Ⅷ層を1mほど掘り込んで作られており、底も平坦に掘り込まれていたため、フラスコ状土坑と判断した。覆土は18層に分けた。1層はⅤa層の自然堆積、2～17層はⅤ～Ⅷ層が混在する埋め戻し土と思われる。18層は坑底直上に薄く堆積した、粘性の強い黒色土である。平面は円形で、壁面下部はオーバーハングしている。掘り込み面はⅤ層中と思われる。主な出土遺物は、覆土上部から縄文時代後期前葉の土器片80点、石鏃が1点、坑底に近い18層から縄文時代後期の土器片が5点出土している。

**時期：**出土土器片の時期や土坑の形態から、縄文時代後期前葉と考える。（新家）

P-46（図Ⅲ-52・133、表3・9・15、図版33-2）

**位置・立地：**R-46区 調査区北側（海側）、標高42.60～43.00m付近の緩斜面

規模：0.72×0.68/0.47×0.46/0.24m

**確認・調査：**Ⅷ層調査中、円形の黒褐色土の落ち込みを検出した。半截した断面の、明瞭に掘り込まれた壁や平坦な底から、土坑と判断した。覆土は4層に分けた。Ⅴ～Ⅷ層が混在する埋め戻し土である。平面は円形である。南側の壁はやや緩やかに立ち上がる。掘り込み面はⅤ層中である。遺物は扁平打製石器1点、フレイク5点、礫1点が覆土から出土した。

**時期：**遺構周辺の包含層出土の遺物から、縄文時代中期または後期前葉の可能性ある。（新家）

P-47（図Ⅲ-53・103、表3・9・15、図版33-3）

**位置・立地：**G-41区 標高44.60～44.80m付近の平坦面

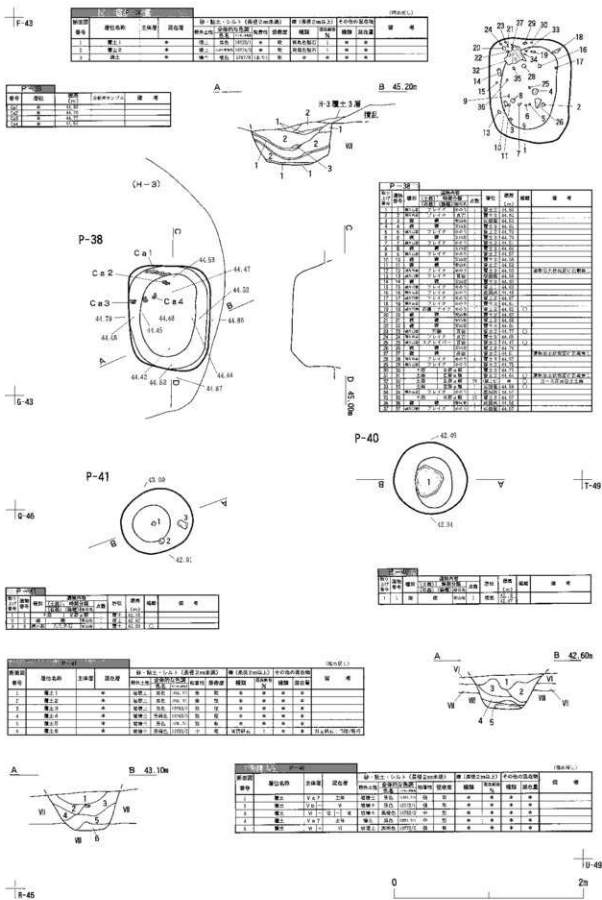


図 III-50 P-38・40・41



規模：1.07×0.82/0.88×0.62/0.28m

**確認・調査：**Ⅷ層上面で黒色土Vb層主体の落ち込みを検出した。覆土を除去した時点で明瞭な壁面と底面を検出し、土坑と判断した。不整な楕円の平面形である。覆土1層はVb層主体であり、自然堆積の可能性がある。覆土2層はⅧ層主体の埋め戻し土と考えられる。ただし、覆土2層上位において、その場で焚いたものとは考え難い焼土粒のまとまりが検出された。位置を平面図に、高さを見通してセクション図に示した。坑底面はほぼ平坦であるが東側へ向かって低く傾斜する。掘り込み面は検出面より上である。遺物は覆土2層からⅢ群a類土器が2点、1層と合わせると11点出土している。口縁部の残るものは円筒上層式の後半であり、胸部破片にはⅢ群b-1類の可能性が高いものも含まれている。覆土1層からⅢ群b類土器(図Ⅲ-53-10・Ⅲ-103-1)がまとめて出土している。

**時期：**遺物出土状況と調査区内で確認した他の遺構例から縄文時代中期中葉の可能性がある。

(大泰司)

P-48 (図Ⅲ-53・104・121、表3・9・15、図版33-4)

**位置・立地：**T-46区 調査区北側(海側)、標高42.60~43.00m付近の緩斜面

規模：1.64×1.62/1.43×1.40/0.45m

**確認・調査：**住居跡H-10の落ち込みの中に、黒褐色土の円形の落ち込みを検出した。半截した断面から、H-10とさらにその下の土坑P-62の覆土を掘り込んだ、明瞭な壁の立ち上がりで平坦な底を持つ土坑と判断した。覆土は10層に分けた。7、9、10層は崩落土の可能性がある。多くの層は、ほぼ全体にⅧ層と濁川カルデラ起源の軽石粒の混入が多く、埋め戻しと思われる。平面は円形である。底は水平・平坦で、壁の傾斜もほぼ均等である。掘り込み面はV層中である。主な出土遺物は、覆土から出土した縄文時代後期の土器片15点とスクレイパー1点である。

**時期：**H-10、P-62、SP-12よりも新しい時期である。遺構周辺の包含層遺物出土状況から、縄文時代後期前葉の可能性がある。

(新家)

P-49 (図Ⅲ-54・104、表3・9・15、図版33-5)

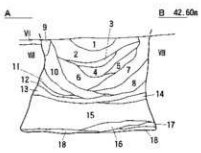
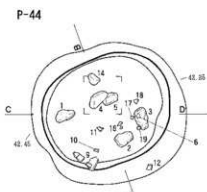
**位置・立地：**F-43区 標高44.80~45.00m付近の平坦面

規模：1.26×0.82/1.24×0.76/0.86m

**確認・調査：**H-3調査終了後、Ⅷ層上面で黒色土Vb層主体の落ち込みを調査した。不整な形状であり、H-3埋没以後の風倒木であろうとH-3調査時には想定していた。しかし、覆土を除去した時点で明瞭な壁面と底面を検出し、土坑と判明した。楕円形の平面形である。したがって土層断面図を取らず、調査のメモから土層を起こした。覆土は、中位にいたるまでVb層主体の風倒木による土層が占めている。覆土中位以下はV~Ⅷ層が混じり合った埋め戻し土である。壁面から坑底にかけてⅧ層が崩落した土が一部観察できた。埋め戻しの可能性が高いものであった。壁面はほぼ直立するが、一部オーバーハングする。坑底面はほぼ平坦である。掘り込み面は不明である。風倒木と切り合っていない、本来P-49の覆土が分布していたと考えられる部分において、H-3の覆土を確認し、その壁面を検出できたことから、H-3より古いものと想定できる。従って、検出面よりは上からの掘り込みと考える。遺物は覆土中からⅢ群a類土器(図Ⅲ-54-1・Ⅲ-104-2/Ⅲ-54-4・Ⅲ-104-1)とフレイクが出土している。

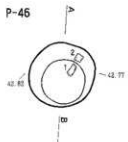
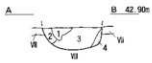
**時期：**検出状況と遺物出土状況から縄文時代中期前半の可能性がある。H-3より古い。(大泰司)

No.	層名	層厚	層位	層別	層色	層質	層厚	層名	層厚
1	層位1	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	層位1	1.0
2	層位2	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	層位2	1.0
3	層位3	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	層位3	1.0
4	層位4	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	層位4	1.0
5	層位5	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	層位5	1.0
6	層位6	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	層位6	1.0
7	層位7	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	層位7	1.0
8	層位8	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	層位8	1.0
9	層位9	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	層位9	1.0
10	層位10	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	層位10	1.0
11	層位11	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	層位11	1.0
12	層位12	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	層位12	1.0
13	層位13	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	層位13	1.0
14	層位14	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	層位14	1.0
15	層位15	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	層位15	1.0
16	層位16	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	層位16	1.0
17	層位17	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	層位17	1.0
18	層位18	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	層位18	1.0
19	層位19	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	層位19	1.0
20	層位20	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	層位20	1.0



層位	層名	層厚	層位	層別	層色	層質	層厚	層名	層厚
1	層位1	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	層位1	1.0
2	層位2	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	層位2	1.0
3	層位3	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	層位3	1.0
4	層位4	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	層位4	1.0
5	層位5	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	層位5	1.0
6	層位6	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	層位6	1.0
7	層位7	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	層位7	1.0
8	層位8	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	層位8	1.0
9	層位9	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	層位9	1.0
10	層位10	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	層位10	1.0
11	層位11	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	層位11	1.0
12	層位12	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	層位12	1.0
13	層位13	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	層位13	1.0
14	層位14	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	層位14	1.0
15	層位15	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	層位15	1.0
16	層位16	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	層位16	1.0
17	層位17	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	層位17	1.0
18	層位18	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	層位18	1.0
19	層位19	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	層位19	1.0

層位	層名	層厚	層位	層別	層色	層質	層厚	層名	層厚
1	層位1	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	層位1	1.0
2	層位2	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	層位2	1.0
3	層位3	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	層位3	1.0
4	層位4	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	層位4	1.0



層位	層名	層厚	層位	層別	層色	層質	層厚	層名	層厚
1	層位1	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	層位1	1.0
2	層位2	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	層位2	1.0
3	層位3	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	層位3	1.0
4	層位4	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	層位4	1.0



図Ⅲ-52 P-44・46



## P-50 (図III-55、表3・9・15、図版33-6)

位置・立地：J-39区 標高44.00~44.20m付近の平坦面

規模：1.04×0.95/0.98×0.80/0.12m

確認・調査：VI層上面で黒色土Vb層主体の落ち込みを検出した。覆土を除去した時点で明瞭な壁面と底面を検出し、土坑と判断した。不整な楕円の平面形である。覆土1層はVb層主体であり、覆土2層はKo-gの流入である。自然堆積の可能性がある。坑底面はほぼ平坦であるが中央が浅く凹む。掘り込み面はVI層上面である。遺物は出土していない。

時期：不明である。包含層の遺物出土状況から縄文時代前期後半~後期前葉の可能性がある。

(大秦司)

## P-51 (図III-54・104・121、表3・9・15、図版34-1)

位置・立地：R・S-46区 調査区北側(海側)、標高42.80~43.20m付近の緩斜面

規模：1.78×1.64/1.83×1.67/1.14m

確認・調査：VII層調査中に黒色土の円形の落ち込みを検出した。半截した断面から、VIII層を1mほど掘り込み、下方に若干の広がりを持つ壁と、平坦な底をもつフラスコ状土坑と判断した。覆土は12層に分けた。1、2層はそれぞれVa層、Vb層の自然堆積で、以下の層はV~VIII層が混在する埋め戻し土である。平面は円形である。北側の壁面下部がオーバーハングしている。規模や形状はP-44に似る。掘り込み面はVb層である。主な出土遺物は、覆土全体から出土した縄文時代後期前葉の土器片90点、石鏃1点(図III-121-59)、石斧1点などである。

また、土坑の西南側と北東側の壁際、開口部附近に1本ずつ柱穴を検出した。直径約10~14cm、深さ30~40cmである。覆土は粘性の強い黒色土である。この2本の柱穴はP-51と同レベルから掘り込まれたと思われる、また平面上でもP-51の上場の対角上に位置し、壁面に沿って掘り込んであることから、この土坑の付属施設と判断した。しかし、周辺には住居跡も数軒あり、柱穴が何本か検出されているため、偶然にこの位置に後から構築された、周辺の柱穴群の一部である可能性もある。

時期：出土土器片や周辺の遺構から縄文時代後期前葉か。

(新家)

## P-53 (図III-55・133、表3・9・15、図版34-2)

位置・立地：T-47区 調査区北側(海側)、標高42.60~43.00m付近の緩斜面

規模：0.86×0.71/0.64×0.56/0.24m

確認・調査：H-10調査中に、H-10の覆土と風倒木痕が重なる部分で、径約80cmの楕円の黒色土の落ち込みを検出した。また、その縁に長さ40cm余りの大礫が出土した。半截した断面から、H-10の廃棄後にできた風倒木の攪乱を掘り込んで作られた土坑と判断した。覆土は3層に分けた。V~VIII層起源の埋め戻し土である。平面は楕円形である。北側の壁は垂直に、南側の壁は緩やかに立ち上がる。坑底はほぼ平坦である。遺物は、扁平打製石器が1点(図III-55-1・III-133-49)、礫が2点、覆土から出土している。

時期：H-10より新しい。遺構周辺の包含層出土の遺物から、縄文時代後期前葉の可能性がある。

(新家)

## P-54 (図III-55、表3・9・15、図版34-3)

位置・立地：K・L-39・40区 標高44.00~44.20m付近の平坦面



規模：1.10×1.02/0.99×0.91/0.30m

**確認・調査：**Ⅶ層上面で黒色土Ⅴb層主体の落ち込みを検出した。覆土を除去した時点で明瞭な壁面と底面を検出し、土坑と判断した。不整な円形の平面形である。覆土は自然堆積である。坑底面はほぼ平坦である。40ラインに基本土層観察用の土手を残していたため、掘り込み面がⅤb層上位であることがわかった。遺物は覆土からⅢ群 a 類土器が1点と、メノウのフレイクが3点出土している。取り上げ時には覆土1層のみの単層と判断したが、Ⅷ層土の混在具合から上下2層に分層した。出土遺物は1層下位あるいは2層の最上面から出土している。

**時期：**不明である。遺物出土状況から縄文時代中期前半～後期前葉の可能性はある。（大泰司）

P-55（図Ⅲ-55、表3・9・15、図版34-4）

**位置・立地：**M-42・43区 標高43.60～43.80m付近の平坦面

規模：1.26×1.08/1.18×0.99/0.08m

**確認・調査：**Ⅶ層上面で黒色土Ⅴb層主体の落ち込みを検出した。覆土を除去した時点で明瞭な壁面と底面を検出し、土坑と判断した。不整な楕円の平面形である。包含層調査の都合でM-43区を一樣に掘り下げたため、Mラインより北西側は掘り下げすぎた。覆土は自然堆積である。坑底面はほぼ平坦である。掘り込み面は検出面より上である。遺物は覆土からスクレイパーが1点出土している。

**時期：**不明である。調査区内の出土遺物の傾向から縄文時代前期後半～後期前葉の可能性はある。（大泰司）

P-56（図Ⅲ-56、表3・9・15、図版34-5）

**位置・立地：**L-35区 標高44.60mほどの段丘平坦面。

規模：1.49×(1.38)/1.18×1.13/0.40m

**確認・調査：**この土坑は試掘調査（B調査）時に、Ⅷ層で黒色土のほぼ円形の輪郭を検出していたものであるが、調査上の不手際から土層観察をしないまま調査したものである。

土坑と確認した段階では、覆土が坑底に一部残る状態であった。残る覆土は炭化粒がわずかに入る黄褐色土で、堅くしまっていた。平面形はほぼ円形で、坑底は平坦、壁は緩やかに立ち上がる。遺物は出土していない。

今回の調査で確認できた、遺構のうち三次郎川から一番離れて位置し、段丘崖からは40m離れ、上位の段丘崖に続く緩斜面に近くちょうど地形の変換点にあたる。

**時期：**不明である。（田中）

P-57（図Ⅲ-56、表3・9・15、図版34-6）

**位置・立地：**M・N-40区 標高43.80mほどの段丘平坦面

規模：1.18×1.04/0.93×0.94/0.32m

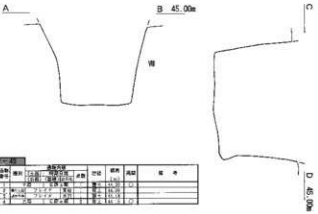
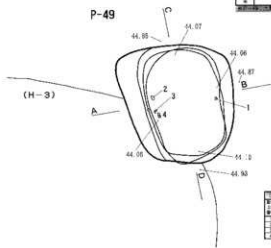
**確認・調査：**M-40区をⅥ層まで掘り下げたところ、その上面で調査区北東側N40区境界部で黒色土の半円形の輪郭が検出された。調査を進めたところⅧ層を掘り込み明瞭な底および壁の立ち上がり確認できたことから、土坑と判断した。

覆土は軽石粒を若干含む黒色土で充填され、Ⅳ群 a 類の土器片が土坑北側の覆土中位から出土する。

土層観察後、N-40区（米年度調査予定範囲）を1mの範囲で広げ、土坑についての調査を終了した。

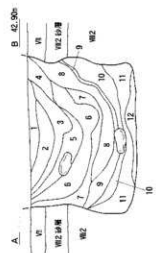
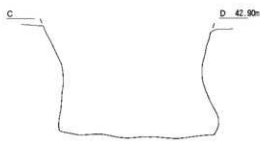
F-43

調査区	調査区名	主産物	調査年	卵・幼虫・シクラ（産卵時期調査）		卵（産卵時期以上）		卵の発生時期		備考
				採集回数	調査回数	採集回数	調査回数	種類	発生時期	
1	豊田1	V	5/5	4	4	4	4	4	4	高尾山
2	豊田2	V	5/7	4	4	4	4	4	4	高尾山
3	豊田3	V	5/7	4	4	4	4	4	4	高尾山
4	豊田4	V	5/7	4	4	4	4	4	4	高尾山

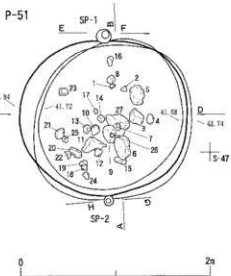


調査区	調査区名	主産物	調査年	卵・幼虫・シクラ（産卵時期調査）		卵（産卵時期以上）		卵の発生時期		備考
				採集回数	調査回数	採集回数	調査回数	種類	発生時期	
1	豊田1	V	5/5	4	4	4	4	4	4	高尾山
2	豊田2	V	5/7	4	4	4	4	4	4	高尾山
3	豊田3	V	5/7	4	4	4	4	4	4	高尾山
4	豊田4	V	5/7	4	4	4	4	4	4	高尾山

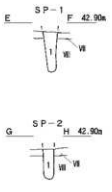
G-43



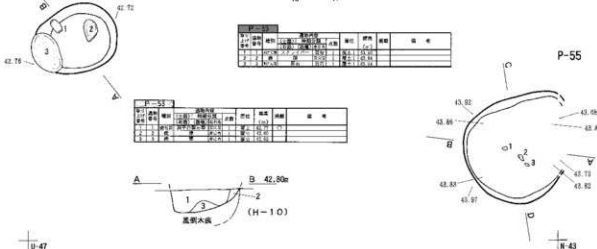
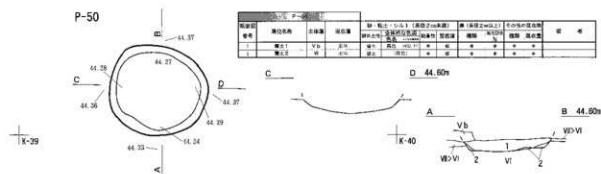
調査区	調査区名	主産物	調査年	卵・幼虫・シクラ（産卵時期調査）		卵（産卵時期以上）		卵の発生時期		備考
				採集回数	調査回数	採集回数	調査回数	種類	発生時期	
1	豊田1	V	5/5	4	4	4	4	4	4	高尾山
2	豊田2	V	5/7	4	4	4	4	4	4	高尾山
3	豊田3	V	5/7	4	4	4	4	4	4	高尾山
4	豊田4	V	5/7	4	4	4	4	4	4	高尾山
5	豊田5	V	5/7	4	4	4	4	4	4	高尾山
6	豊田6	V	5/7	4	4	4	4	4	4	高尾山
7	豊田7	V	5/7	4	4	4	4	4	4	高尾山
8	豊田8	V	5/7	4	4	4	4	4	4	高尾山
9	豊田9	V	5/7	4	4	4	4	4	4	高尾山
10	豊田10	V	5/7	4	4	4	4	4	4	高尾山
11	豊田11	V	5/7	4	4	4	4	4	4	高尾山
12	豊田12	V	5/7	4	4	4	4	4	4	高尾山



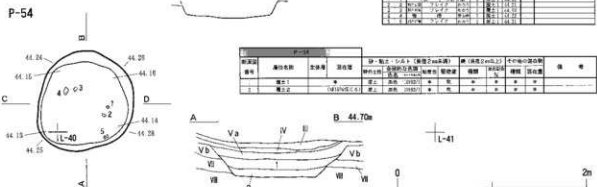
調査区	調査区名	主産物	調査年	卵・幼虫・シクラ（産卵時期調査）		卵（産卵時期以上）		卵の発生時期		備考
				採集回数	調査回数	採集回数	調査回数	種類	発生時期	
1	豊田1	V	5/5	4	4	4	4	4	4	高尾山
2	豊田2	V	5/7	4	4	4	4	4	4	高尾山
3	豊田3	V	5/7	4	4	4	4	4	4	高尾山
4	豊田4	V	5/7	4	4	4	4	4	4	高尾山
5	豊田5	V	5/7	4	4	4	4	4	4	高尾山
6	豊田6	V	5/7	4	4	4	4	4	4	高尾山
7	豊田7	V	5/7	4	4	4	4	4	4	高尾山
8	豊田8	V	5/7	4	4	4	4	4	4	高尾山
9	豊田9	V	5/7	4	4	4	4	4	4	高尾山
10	豊田10	V	5/7	4	4	4	4	4	4	高尾山
11	豊田11	V	5/7	4	4	4	4	4	4	高尾山
12	豊田12	V	5/7	4	4	4	4	4	4	高尾山



図III-54 P-49・51



P-55				P-55		P-55		P-55	
調査年度	調査名称	調査者	調査地	調査方法	調査結果	調査結果	調査結果	調査結果	調査結果
1	調査1	調査	調査	調査	調査	調査	調査	調査	調査
2	調査2	調査	調査	調査	調査	調査	調査	調査	調査



図III-55 P-50・53・54・55

N-40区土坑脇から出土した礫については、明確にこの土坑に伴うものかわからない。平面形はほぼ円形を呈し、坑底は平坦。東西の壁はほぼ直立するが、南北両壁は緩やかに立ち上がる。深さ30cmと浅い土坑で、掘り込み面は土層観察でも明確には判断できなかった。

時期：覆土出土の土器片から、縄文時代後期と判断している。 (田中)

P-58 (図Ⅲ-56、表3・9・15、図版35-1)

位置・立地：M-40区 標高43.80mほどの段丘平坦面。

規模：1.20×1.16/0.94×0.96/0.34m

確認・調査：P-57と同様M-40区で確認できた土坑で、P-57の南西側3mほどにある。試掘調査(B調査)の調査坑壁面に、黒色土の落ち込みが検出され、包含層をVI層まで掘り下げ、その上面でほぼ円形の輪郭が確認できた。

覆土は、黒色土を主体(1・2層)とし、坑底付近には基盤層の軽石粒に黒色土がごくわずかに混在するもの(3層)で、東壁側にも一部みられた。3層については、掘りすぎの可能性もある。遺物は確認面に近い土坑東側の覆土上部から、頁岩製剥片、安山岩の被熱礫が各1点出したのみである。

時期：不明。周辺の土坑の形態などから判断して、縄文後期の可能性が強いと考えている。(田中)

P-59 (図Ⅲ-57・121、表3・9・15、図版35-2)

位置・立地：M・N-35区 標高44.40mほどの段丘平坦面。

規模：1.12×1.00/0.74×0.67/0.60m

確認・調査：M-35区北側隅にVII(Ko-g)層上面で、ほぼ円形の黒色土の輪郭が検出された。南側半分を掘り進めたところ、深さ60cmでVIII層が確認できた。VIII層上には黒褐色土が水平に堆積し、壁の立ち上がりが見事に確認できたことから、土坑と判断した。

平面形は南北に長軸方向をとる楕円形で、扁平度はさほどではない。坑底は平坦で、壁は緩やかに立ち上がり、坑口に向かって広がる。覆土は、黒色土を主体とするもの(1~5層)が土坑上部から中央部坑底に向けてロート状に堆積し、その周りに色調にぶい黄褐色のしまりのないシルト質主体のもの(6層)が壁際に堆積する。坑底には上記の黒褐色土(7層)が厚さ3~4cmほど堆積する状況であった。遺物は縄文前期、中期の土器片各1点、メノウ製スクレイパー1点(図Ⅲ-57-4・Ⅲ-121-60)、礫・礫片がわずかながら出土している。すべて覆土中からの出土である。

時期：遺物量が少ないこと、また土器片はいずれも胴部破片で判断は難しいが、縄文中期よりはさかのぼらず、中期の可能性が強い。(田中)

P-61 (図Ⅲ-57・104、表3・9・15、図版35-3)

位置・立地：P-44・45区 標高43.40~43.80m付近の平坦面

規模：1.52×1.44/1.58×1.56/0.96m

確認・調査：VII層上面で黒色土Vb層主体の落ち込みを検出した。覆土を除去した時点で明瞭な壁面と底面を検出し、土坑と判断した。不整な楕円の平面形である。覆土1層はVb層主体であり、一部掘りあげ土を含んだ自然堆積の可能性もある。覆土2層はVIII層主体の埋め戻し土と考えられる。3~7層についてもV~VIII層からなる土が混じり合い、埋め戻し土と考えられる。坑底面はほぼ平坦であるが中央が浅く凹む。壁面は中位で強く屈曲するオーバーハングの形状である。掘り込み面はVb層中位である。覆土1~4層を覆土上位として遺物を取り上げた。覆土上位には大型の礫がふたつ配さ

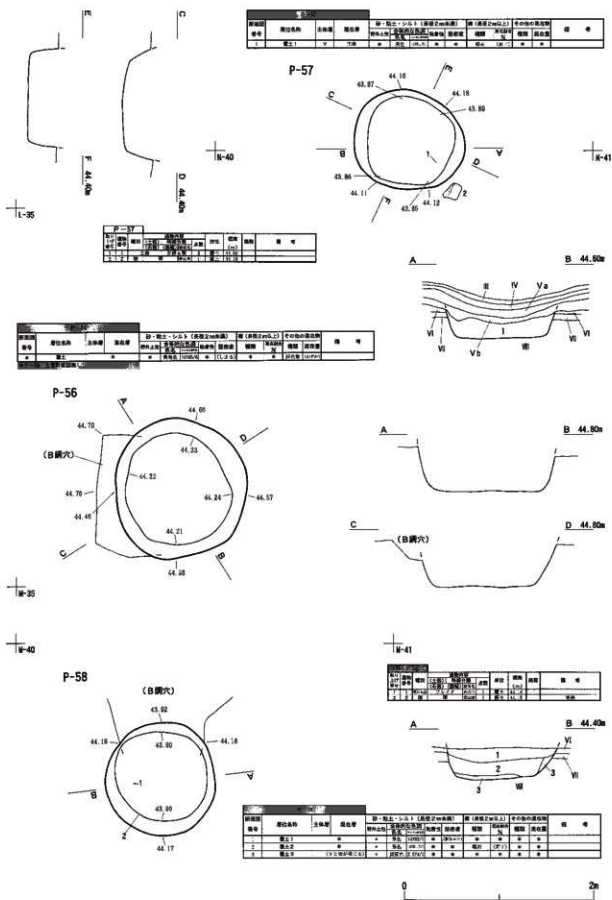


図 III-56 P-56・57・58

れている。両者の長軸を平行にして位置する。覆土6層からIV群a類土器が1点出土している。取り上げ番号6は自然礫であり、一次整理段階で廃棄した。

時期：遺物出土状況と調査区内で確認した他の遺構例から縄文時代後期前葉の可能性がある。

(大泰司)

P-62 (図Ⅲ-57・104、表3・9・15、図版35-4)

位置・立地：S・T-46区 調査区北側(海側)、標高42.60~43.20m付近の斜面

規模：0.95×(0.62)/0.56×(0.40)/0.12m

確認・調査：H-10調査中、その床面にP-48に北東部分を切られた黒色土の円形の落ち込みを検出した。半載した断面の、Ⅷ層を掘り込んだ水平な底から、H-10よりも古い土坑と判断した。覆土は1層で、H-10の覆土と同質の黒色土である。平面は円形で、上部をH-10やP-48に切られ、壁は浅く残存しているのみである。遺物は縄文時代後期前葉の土器片が、覆土から7点出土している。

時期：検出状況から、P-48やH-10よりも古いと思われる。遺物の出土状況から、縄文時代後期前葉の可能性がある。

(新家)

P-63 (図Ⅲ-58・104、表3・9・15、図版)

位置・立地：R-47・48区 調査区北側(海側)、標高42.00~42.20m付近の急斜面

規模：0.54×0.38/0.32×0.25/0.22m

確認・調査：Ⅷ層まで下げたところ、長さ50cmほどの黒色土の楕円形の落ち込みを検出。短軸で半載すると、土器片が数点覆土の下方より出土した。Ⅷ層を掘り込んだ、明瞭な壁を断面で確認し、土坑と判断した。覆土は黒色土からなる1層で、人為的埋め戻しかは不明である。平面は楕円形で、坑底は碗状に作られている。遺物は縄文時代中期前半の土器片が、覆土から5点(図Ⅲ-62-4・Ⅲ-104-1)出土している。

時期：出土遺物から、縄文時代中期前半の可能性がある。

(新家)

P-65 (図Ⅲ-58、表3・9・15、図版35-6)

位置・立地：N-40区 標高43.80~44.00m付近の平坦面

規模：1.08×0.98/0.82×0.74/0.10m

確認・調査：Ⅲ層上面でB-Tmの落ち込みを検出した。遺構を想定し、土層観察用の土手を残して調査した。覆土を除去した時点で明瞭な壁面と底面を検出し、土坑と判断した。不整な楕円の平面形である。覆土は自然堆積である。坑底面は平坦である。掘り込み面はVb層上位である。降下火山灰B-Tm降下時にはまだ凹みとして存在していたものである。遺物は覆土からIV群a類土器が1点出土している。P-66と類似する。

時期：不明である。しかし掘り込み位置が縄文時代の遺構より上位であり、周辺の出土遺物から縄文時代以降の可能性がある。

(大泰司)

P-66 (図Ⅲ-58、表3・9・15、図版36-1)

位置・立地：N-41区 標高43.80~44.00m付近の平坦面

規模：1.28×1.28/1.14×0.96/0.36m

確認・調査：表土除去後、Ⅲ層上面で顕著な凹みを検出した。遺構を想定し、土層観察用の土手を残





して調査した。覆土を除去した時点で明瞭な壁面と底面を検出し、土坑と判断した。不整な隅丸方形の平面形である。覆土は自然堆積である。坑底面はほぼ平坦である。壁面は微妙にオーバーハングする。掘り込み面はVb層上位である。降下火山灰B-Tm降下時にはまだ凹みとして存在していたものである。遺物は覆土からIV群a類土器が4点散点的に出土している。P-65と類似する。覆土2層は崩落土の可能性がある。

**時期：**不明である。しかし、掘り込み位置が縄文時代の遺構より上位であり、周辺の出土遺物から統縄文時代以降の可能性がある。(大森司)

**P-67** (図Ⅲ-59・106、表3・9・15、図版36-2)

**位置・立地：**S・T-45・46区 標高42.80~43.00m付近の平坦面

**規模：**1.24×1.05/1.60×1.50/1.16m

**確認・調査：**VI層上面で黒色土Vb層主体の落ち込みを検出した。覆土を除去した時点で明瞭な壁面と底面を検出し、土坑と判断した。不整な楕円の平面形である。覆土は埋め戻しであり、黒色土とグライ化したと思われるVIII層から成る。最上部については掘りあげ土が流入したものか、V層とVIII層が混じり合った土層が入り込んでいる。この土坑の掘りあげ土かどうかは明確ではない。坑底面はほぼ平坦だが中央が浅く凹む。壁面はオーバーハングする。掘り込み面はV層中位である。

遺物は覆土の中位に大型の礫が4点まとまっていた。覆土中からはIV群a類土器が散点的に出土した。付属遺構としては小土坑が検出された。平面形の長軸上、土坑の北東端に位置する。土坑の埋め戻し後に打ち込んだ杭を思わせる。

**時期：**出土遺物から縄文時代後期前葉のものである。(大森司)

**P-68** (図Ⅲ-60・105、表3・9・15、図版36-3)

**位置・立地：**R-46区 標高42.60~42.80m付近の平坦面

**規模：**0.56×0.46/0.46×0.42/0.16m

**確認・調査：**VI層上面で、H-15調査中、それより新しい灰黄褐色土の落ち込みを検出した。切り合う遺構を想定して調査した。覆土を除去した時点で明瞭な壁面と底面を検出し、小型の土坑と判断した。不整な円形の平面形である。覆土にしまりはしないものの、V~VIII層が混じり合った土であり、埋め戻しと考える。坑底はほぼ平坦であるが、東側がやや高くなっている。掘り込み面は検出面より上である。土坑の中央から白色の粘土塊が出土した。IV群a類土器が覆土中から散点的に出土している。

**時期：**出土遺物から縄文時代後期前葉のものである。(大森司)

**P-69** (図Ⅲ-60・134、表3・9・15、図版36-4)

**位置・立地：**P-41区 最終面における標高43.60m付近の平坦面

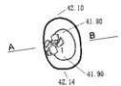
**規模：**1.67×1.15/1.44×0.98/0.16m

**確認：**II層の軽石層を除去後、III層上面の清掃作業中、明瞭な凹みが認められた。これの中央を通るようにベルトを設け、周囲の包含層調査を進行させた。V層下位付近まで掘り下げた時点で、このベルト沿いにトレンチを設け、その部分をVIII層上位まで掘り下げたところ、土層断面に壁の立ち上がり、平坦な面を確認したので、遺構と認定した。

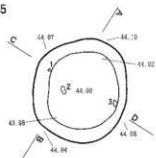
**調査：**はじめにこのベルトの土層断面(AB)を記録した。規模から土坑であると予想され、平面でその輪郭を確認することとし、ベルト及び土坑が位置すると考えられる範囲を掘り下げた。VI~VII層

P-63									
調査区	調査内容	調査時期	調査者	調査方法	調査結果	調査場所	調査時期	調査者	調査結果
調査区	調査内容	調査時期	調査者	調査方法	調査結果	調査場所	調査時期	調査者	調査結果

P-63									
調査区	調査内容	調査時期	調査者	調査方法	調査結果	調査場所	調査時期	調査者	調査結果
調査区	調査内容	調査時期	調査者	調査方法	調査結果	調査場所	調査時期	調査者	調査結果



P-65



P-65									
調査区	調査内容	調査時期	調査者	調査方法	調査結果	調査場所	調査時期	調査者	調査結果
調査区	調査内容	調査時期	調査者	調査方法	調査結果	調査場所	調査時期	調査者	調査結果

P-65									
調査区	調査内容	調査時期	調査者	調査方法	調査結果	調査場所	調査時期	調査者	調査結果
調査区	調査内容	調査時期	調査者	調査方法	調査結果	調査場所	調査時期	調査者	調査結果

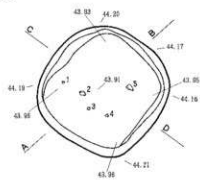
5-48

N-41



P-66									
調査区	調査内容	調査時期	調査者	調査方法	調査結果	調査場所	調査時期	調査者	調査結果
調査区	調査内容	調査時期	調査者	調査方法	調査結果	調査場所	調査時期	調査者	調査結果

P-66

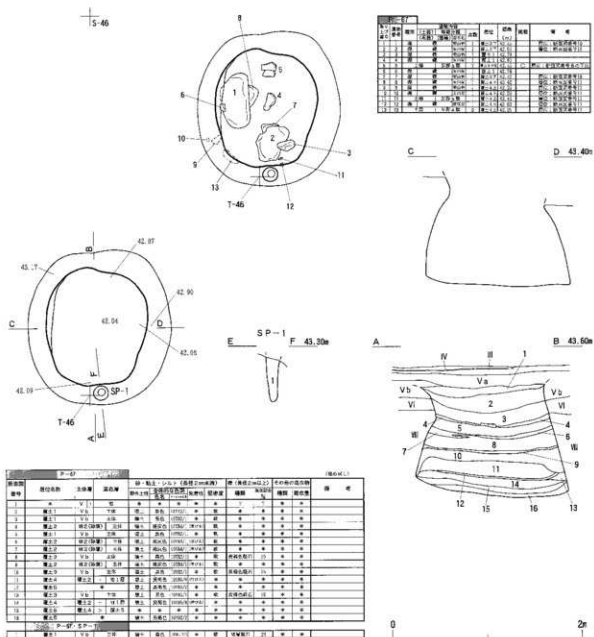


P-66									
調査区	調査内容	調査時期	調査者	調査方法	調査結果	調査場所	調査時期	調査者	調査結果
調査区	調査内容	調査時期	調査者	調査方法	調査結果	調査場所	調査時期	調査者	調査結果

0-41



図 III-58 P-63・65・66



図Ⅲ-59 P-67

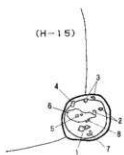
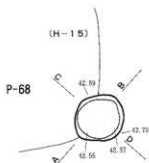
で、楕円形を呈する黒色土の堆積が認められ、平面形態が把握された。次に、この形状に合わせ長軸方向に半截し、土層断面 (CD) を記録し、残り半分を掘り完掘した。

**覆土:** 二層に分けた。上位の覆土第1層はV層主体で厚い。覆土第2層は坑底面直上に薄く堆積する。  
**形態:** 平面は、概して楕円形を呈する。断面は、平坦な坑底面とゆるやかに立ち上がる両壁が認められる。

**遺物出土状況:** 遺物は原則として、すべて出土位置や高さ、層位を記録して取り上げた。覆土第1・2層から、礫石器類や自然礫が出土した。遺物番号1は扁平打製石器、2は北海道式石冠の製作失敗品?に分類した。

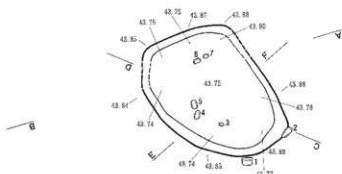
**時期:** 出土遺物からは時期の特定はできないが、周囲の包含層の出土遺物から考えると、縄文時代中期～後期であると推測される。(末光)

R-46



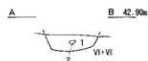
F-41

P-69



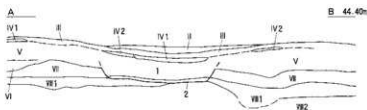
F-41

R-47



調査年度	調査名称	調査種別	計測方法				計測結果				備考
			測点	測高	測距	測角	測点	測高	測距	測角	
1	調査1	(1) 平面位置測定	測点	測高	測距	測角	測点	測高	測距	測角	
2	調査2										

調査年度	調査名称	調査種別	計測方法				計測結果				備考
			測点	測高	測距	測角	測点	測高	測距	測角	
1	調査1	(1) 平面位置測定	測点	測高	測距	測角	測点	測高	測距	測角	
2	調査2										



調査年度	調査名称	調査種別	計測方法				計測結果				備考
			測点	測高	測距	測角	測点	測高	測距	測角	
1	調査1	V	測点	測高	測距	測角	測点	測高	測距	測角	
2	調査2	VI-VI									



調査年度	調査名称	調査種別	計測方法				計測結果				備考
			測点	測高	測距	測角	測点	測高	測距	測角	
1	調査1		測点	測高	測距	測角	測点	測高	測距	測角	
2	調査2										



図III-60 P-68・69

P-70 (図Ⅲ-61、表3・9・15、図版36-5)

位置・立地：S-38・39区 最終面における標高43.20m付近の平坦面

規模：1.20×0.91/1.07×0.79/0.14m

確認・調査：包含層調査中、V層上面において、IV層とやや色調の異なる黒色土の堆積が認められた。ベルトを設定し、これに沿ってトレンチを設け、掘り進めたところ、明瞭な壁の立ち上がり平坦な面を確認したので遺構と認定した。土層断面を記録した後、ベルトとその周囲を掘り下げ、VI層上面において平面を確認し、これを掘り下げて完掘した

覆土：二層に分けた。上位の覆土第1層はV層主体で厚い。覆土第2層は坑底面直上に薄く堆積する。形態：平面はほぼ楕円形を呈する。断面は、平坦な坑底面に両壁がやや直立気味に立ち上がる形態を呈する。

遺物出土状況：遺物は原則として、すべて出土位置や高さ、層位を記録して取り上げた。覆土第1層から、IV群a類土器と自然礫が出土した。

時期：出土遺物から考えると、縄文時代後期前半と判断される。(末光)

P-71 (図Ⅲ-61・105・121・139、表3・9・15、図版36-6)

位置・立地：S-43・44区 標高43.20～43.40m付近の平坦面

規模：2.36×2.20/1.84×1.66/0.48m

確認・調査：VI層上面で黒色土Vb層主体の落ち込みを検出した。覆土を除去した時点で明瞭な壁面と底面を検出し、小規模であったため、土坑と判断したが、堅穴住居としての可能性がある。五角形を思わせる不整な楕円形の平面形である。壁際には漸移層の流入である5層が堆積し、その後覆土下位には6層が堆積した状況である。6層はVb層とV層が混在しており、よくしまる。埋め戻し、あるいは焼失した土葺きの小型家屋の可能性もあった。6層の上面には4層として示した焼土が土坑中央に、縁辺には炭化材が分布している。炭化材は碎片の集中であったが、木材の痕と考えられる。覆土上位は自然堆積と考える。底面には一箇所炭化物のまとまりがあり図示した。焼失に関連するものとする。壁面は坑底から一旦急な角度で10cm立ち上がり、そこからよく開く形状である。坑底面は平坦である。掘り込み面は検出面より上である。

遺物は覆土上位から榎林式(図Ⅲ-61-8・9・11・13・Ⅲ-105-1)がまとまって出土し、同一個体が覆土下位6層(図Ⅲ-61-19・22・24・28)からも出土している。覆土下位からは小型の土器が2個体(図Ⅲ-61-18・Ⅲ-105-2/図Ⅲ-61-16・Ⅲ-105-3)まとまって出土している。

付属遺構として3基の浅い土坑が土坑底面から検出された。いずれも遺構平面形長軸に沿って並ぶ。時期：出土遺物から縄文時代中期中葉のものである。(大泰司)

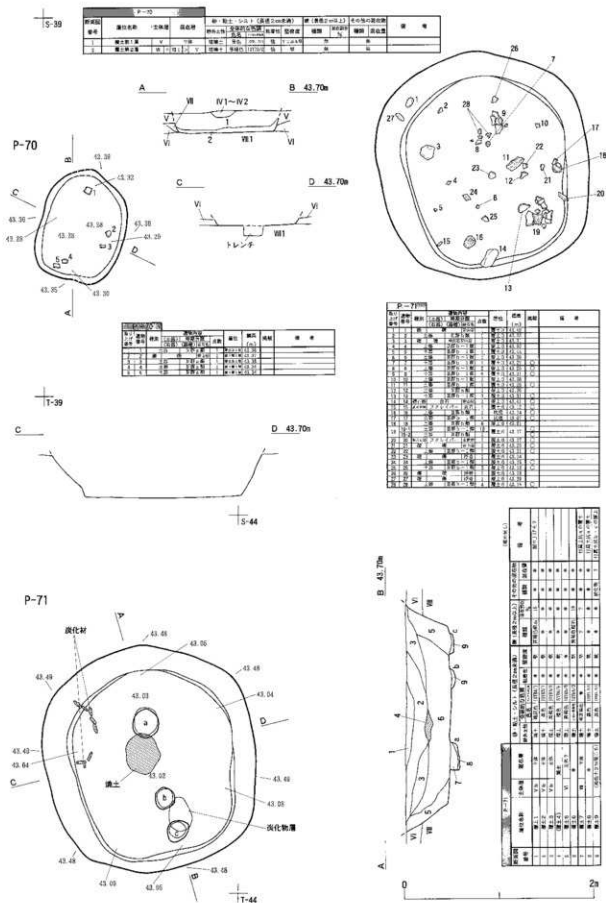
フローテーション成果：焼土の土層(覆土4層)をフローテーション法にて処理した。その結果、炭化種子を検出した。炭化種子はニワトコ属が6点出土した。(詳細はV章2)

P-72 (図Ⅲ-62・106、表3・9・15、図版37-1、カラー図版6-2)

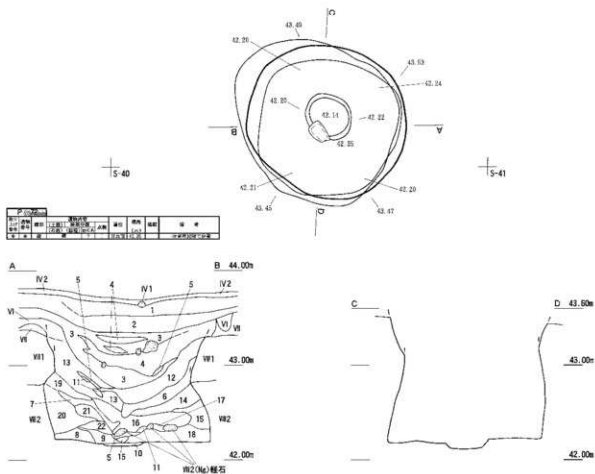
位置・立地：R・S-40区 最終面における標高43.40～43.20m付近の平坦面

規模：1.82×1.71/1.60×1.56/1.36m

確認・調査：包含層調査中、V層上面において、IV層が落ち込み、凹みを呈する状況が認められた。これの中央を通るようにベルトを設け、周囲の包含層調査を進行させたところ、掘り上げ土が顕著に堆積しているのがみられ(図Ⅲ-2 P～T-40～42区掘り上げ土)、大量の土の移動を伴う遺構の



図III-61 P-70・71



調査年度	調査場所	調査内容	調査者	調査期間	調査結果	調査報告
昭和30年	福岡県糟屋郡志摩町	古墳調査	福岡大学考古学研究所	昭和30年10月	黒土(粘)礫石	福岡大学考古学研究所報告

層位	層位名称	土質	厚さ	特徴	出土品	備考
1	覆土第1層 (A層)	V	2.0	黒土(粘)礫石	土師器(埴輪)	上部は覆土第2層と接する
2	覆土第2層 (B層)	V	4.0	黒土(粘)礫石	土師器(埴輪)	
3	覆土第3層 (C層)	V	1.0	黒土(粘)礫石	土師器(埴輪)	
4	覆土第4層 (D層)	V	1.0	黒土(粘)礫石	土師器(埴輪)	
5	覆土第5層 (E層)	V	1.0	黒土(粘)礫石	土師器(埴輪)	
6	覆土第6層 (F層)	V	1.0	黒土(粘)礫石	土師器(埴輪)	
7	覆土第7層 (G層)	V	1.0	黒土(粘)礫石	土師器(埴輪)	
8	覆土第8層 (H層)	V	1.0	黒土(粘)礫石	土師器(埴輪)	
9	覆土第9層 (I層)	V	1.0	黒土(粘)礫石	土師器(埴輪)	
10	覆土第10層 (J層)	V	1.0	黒土(粘)礫石	土師器(埴輪)	
11	覆土第11層 (K層)	V	1.0	黒土(粘)礫石	土師器(埴輪)	
12	覆土第12層 (L層)	V	1.0	黒土(粘)礫石	土師器(埴輪)	
13	覆土第13層 (M層)	V	1.0	黒土(粘)礫石	土師器(埴輪)	
14	覆土第14層 (N層)	V	1.0	黒土(粘)礫石	土師器(埴輪)	
15	覆土第15層 (O層)	V	1.0	黒土(粘)礫石	土師器(埴輪)	
16	覆土第16層 (P層)	V	1.0	黒土(粘)礫石	土師器(埴輪)	
17	覆土第17層 (Q層)	V	1.0	黒土(粘)礫石	土師器(埴輪)	
18	覆土第18層 (R層)	V	1.0	黒土(粘)礫石	土師器(埴輪)	
19	覆土第19層 (S層)	V	1.0	黒土(粘)礫石	土師器(埴輪)	
20	覆土第20層 (T層)	V	1.0	黒土(粘)礫石	土師器(埴輪)	
21	覆土第21層 (U層)	V	1.0	黒土(粘)礫石	土師器(埴輪)	
22	覆土第22層 (V層)	V	1.0	黒土(粘)礫石	土師器(埴輪)	
23	覆土第23層 (W層)	V	1.0	黒土(粘)礫石	土師器(埴輪)	
24	覆土第24層 (X層)	V	1.0	黒土(粘)礫石	土師器(埴輪)	
25	覆土第25層 (Y層)	V	1.0	黒土(粘)礫石	土師器(埴輪)	
26	覆土第26層 (Z層)	V	1.0	黒土(粘)礫石	土師器(埴輪)	
27	覆土第27層 (AA層)	V	1.0	黒土(粘)礫石	土師器(埴輪)	
28	覆土第28層 (AB層)	V	1.0	黒土(粘)礫石	土師器(埴輪)	
29	覆土第29層 (AC層)	V	1.0	黒土(粘)礫石	土師器(埴輪)	
30	覆土第30層 (AD層)	V	1.0	黒土(粘)礫石	土師器(埴輪)	
31	覆土第31層 (AE層)	V	1.0	黒土(粘)礫石	土師器(埴輪)	
32	覆土第32層 (AF層)	V	1.0	黒土(粘)礫石	土師器(埴輪)	
33	覆土第33層 (AG層)	V	1.0	黒土(粘)礫石	土師器(埴輪)	
34	覆土第34層 (AH層)	V	1.0	黒土(粘)礫石	土師器(埴輪)	
35	覆土第35層 (AI層)	V	1.0	黒土(粘)礫石	土師器(埴輪)	
36	覆土第36層 (AJ層)	V	1.0	黒土(粘)礫石	土師器(埴輪)	
37	覆土第37層 (AK層)	V	1.0	黒土(粘)礫石	土師器(埴輪)	
38	覆土第38層 (AL層)	V	1.0	黒土(粘)礫石	土師器(埴輪)	
39	覆土第39層 (AM層)	V	1.0	黒土(粘)礫石	土師器(埴輪)	
40	覆土第40層 (AN層)	V	1.0	黒土(粘)礫石	土師器(埴輪)	
41	覆土第41層 (AO層)	V	1.0	黒土(粘)礫石	土師器(埴輪)	
42	覆土第42層 (AP層)	V	1.0	黒土(粘)礫石	土師器(埴輪)	
43	覆土第43層 (AQ層)	V	1.0	黒土(粘)礫石	土師器(埴輪)	
44	覆土第44層 (AR層)	V	1.0	黒土(粘)礫石	土師器(埴輪)	
45	覆土第45層 (AS層)	V	1.0	黒土(粘)礫石	土師器(埴輪)	
46	覆土第46層 (AT層)	V	1.0	黒土(粘)礫石	土師器(埴輪)	
47	覆土第47層 (AU層)	V	1.0	黒土(粘)礫石	土師器(埴輪)	
48	覆土第48層 (AV層)	V	1.0	黒土(粘)礫石	土師器(埴輪)	
49	覆土第49層 (AW層)	V	1.0	黒土(粘)礫石	土師器(埴輪)	
50	覆土第50層 (AX層)	V	1.0	黒土(粘)礫石	土師器(埴輪)	
51	覆土第51層 (AY層)	V	1.0	黒土(粘)礫石	土師器(埴輪)	
52	覆土第52層 (AZ層)	V	1.0	黒土(粘)礫石	土師器(埴輪)	
53	覆土第53層 (BA層)	V	1.0	黒土(粘)礫石	土師器(埴輪)	
54	覆土第54層 (BB層)	V	1.0	黒土(粘)礫石	土師器(埴輪)	
55	覆土第55層 (BC層)	V	1.0	黒土(粘)礫石	土師器(埴輪)	
56	覆土第56層 (BD層)	V	1.0	黒土(粘)礫石	土師器(埴輪)	
57	覆土第57層 (BE層)	V	1.0	黒土(粘)礫石	土師器(埴輪)	
58	覆土第58層 (BF層)	V	1.0	黒土(粘)礫石	土師器(埴輪)	
59	覆土第59層 (BG層)	V	1.0	黒土(粘)礫石	土師器(埴輪)	
60	覆土第60層 (BH層)	V	1.0	黒土(粘)礫石	土師器(埴輪)	
61	覆土第61層 (BI層)	V	1.0	黒土(粘)礫石	土師器(埴輪)	
62	覆土第62層 (BJ層)	V	1.0	黒土(粘)礫石	土師器(埴輪)	
63	覆土第63層 (BK層)	V	1.0	黒土(粘)礫石	土師器(埴輪)	
64	覆土第64層 (BL層)	V	1.0	黒土(粘)礫石	土師器(埴輪)	
65	覆土第65層 (BM層)	V	1.0	黒土(粘)礫石	土師器(埴輪)	
66	覆土第66層 (BN層)	V	1.0	黒土(粘)礫石	土師器(埴輪)	
67	覆土第67層 (BO層)	V	1.0	黒土(粘)礫石	土師器(埴輪)	
68	覆土第68層 (BP層)	V	1.0	黒土(粘)礫石	土師器(埴輪)	
69	覆土第69層 (BQ層)	V	1.0	黒土(粘)礫石	土師器(埴輪)	
70	覆土第70層 (BR層)	V	1.0	黒土(粘)礫石	土師器(埴輪)	
71	覆土第71層 (BS層)	V	1.0	黒土(粘)礫石	土師器(埴輪)	
72	覆土第72層 (BT層)	V	1.0	黒土(粘)礫石	土師器(埴輪)	
73	覆土第73層 (BU層)	V	1.0	黒土(粘)礫石	土師器(埴輪)	
74	覆土第74層 (BV層)	V	1.0	黒土(粘)礫石	土師器(埴輪)	
75	覆土第75層 (BW層)	V	1.0	黒土(粘)礫石	土師器(埴輪)	
76	覆土第76層 (BX層)	V	1.0	黒土(粘)礫石	土師器(埴輪)	
77	覆土第77層 (BY層)	V	1.0	黒土(粘)礫石	土師器(埴輪)	
78	覆土第78層 (BZ層)	V	1.0	黒土(粘)礫石	土師器(埴輪)	
79	覆土第79層 (CA層)	V	1.0	黒土(粘)礫石	土師器(埴輪)	
80	覆土第80層 (CB層)	V	1.0	黒土(粘)礫石	土師器(埴輪)	
81	覆土第81層 (CC層)	V	1.0	黒土(粘)礫石	土師器(埴輪)	
82	覆土第82層 (CD層)	V	1.0	黒土(粘)礫石	土師器(埴輪)	
83	覆土第83層 (CE層)	V	1.0	黒土(粘)礫石	土師器(埴輪)	
84	覆土第84層 (CF層)	V	1.0	黒土(粘)礫石	土師器(埴輪)	
85	覆土第85層 (CG層)	V	1.0	黒土(粘)礫石	土師器(埴輪)	
86	覆土第86層 (CH層)	V	1.0	黒土(粘)礫石	土師器(埴輪)	
87	覆土第87層 (CI層)	V	1.0	黒土(粘)礫石	土師器(埴輪)	
88	覆土第88層 (CJ層)	V	1.0	黒土(粘)礫石	土師器(埴輪)	
89	覆土第89層 (CK層)	V	1.0	黒土(粘)礫石	土師器(埴輪)	
90	覆土第90層 (CL層)	V	1.0	黒土(粘)礫石	土師器(埴輪)	
91	覆土第91層 (CM層)	V	1.0	黒土(粘)礫石	土師器(埴輪)	
92	覆土第92層 (CN層)	V	1.0	黒土(粘)礫石	土師器(埴輪)	
93	覆土第93層 (CO層)	V	1.0	黒土(粘)礫石	土師器(埴輪)	
94	覆土第94層 (CP層)	V	1.0	黒土(粘)礫石	土師器(埴輪)	
95	覆土第95層 (CQ層)	V	1.0	黒土(粘)礫石	土師器(埴輪)	
96	覆土第96層 (CR層)	V	1.0	黒土(粘)礫石	土師器(埴輪)	
97	覆土第97層 (CS層)	V	1.0	黒土(粘)礫石	土師器(埴輪)	
98	覆土第98層 (CT層)	V	1.0	黒土(粘)礫石	土師器(埴輪)	
99	覆土第99層 (CU層)	V	1.0	黒土(粘)礫石	土師器(埴輪)	
100	覆土第100層 (CV層)	V	1.0	黒土(粘)礫石	土師器(埴輪)	

図III-62 P-72

存在が予想された。VI～VII層上面で、円形を呈する黒色土の堆積が認められた。設定したベルトの南西側半分を掘り下げてくと、深いものであることが判明し、さらに、平坦な坑底面と壁の立ち上がりを確認されたので遺構と認定した。深さは1.3mを超え、いわゆる「フラスコ状土坑」であると判断される。その後土層断面を記録し、北東側部分も掘り下げ完掘した。

覆土：覆土については、次のように分層した。はじめに、黒色土(V層等)により主体的に構成される層を「覆土第1層」とし、黄～灰色土主体(VIII層)のものを「覆土第2層」と大別した。次に覆土



第1層については、遺構内における垂直位置等により、「1A～D層」の四つに、覆土第2層に関しても、同様にして「2A～C層」の三つにそれぞれ分類した。さらにこれら七つの層を細分し、結果二十二層に分層した（VI章1節参照）。

**形態：**平面は円形を呈する。坑底面は平坦で、中央付近に浅い土坑状の落ち込みがみられる。壁の立ち上がりはほぼ直立であるが、オーバーハングする部分も認められる。

**遺物出土状況：**各層から遺物が出土し大別層位ごとに取り上げた。土器はⅢ群a類、Ⅲ群b-1類、Ⅳ群a類があり、石器類は、石鏃、スクレイパー、U・Rフレイク、石核、フレイク、自然礫等が出土した。また、坑底に位置する浅い土坑状の落ち込み付近では、大型の自然礫が出土した。

**時期：**出土遺物や、周囲の包含層の遺物から考えると、縄文時代中期～後期と考えられる。（末光）

P-73（図Ⅲ-63・106、表3・9・15、図版37-2）

**位置・立地：**S・T-41区 標高43.20～43.40m付近の平坦面

**規模：**1.54×1.56/1.24×1.14/1.06m

**確認・調査：**表土除去時にⅢ層上面で特に黒色味の強い部分を検出した。遺構の可能性があったため、土層観察用の土手を残して掘り下げた。すると上部に黒色土の落ち込みのある土坑と判明した。黒色土の落ち込みには降下火山灰B-Tmが流れ込んでいる。成因は不明であるが、木根跡の可能性もある。不整な隅丸方形の平面形である。覆土1層はVb層主体であり、流入したものと考える。覆土2～9層はV～Ⅷ層の土を人為的に埋め戻したものと考えられ、V層主体の覆土4・7・9層とV～Ⅷ層が混じった土である3・5・6・8層が交互に堆積している。覆土2・3層については酸化して橙色味を帯びていた。焼土と考える。この層位は土坑の覆土中位、平面形については南側に分布している。2層には炭化物が目立つ。3層については骨片が混在している様子が観察できた。それが顕著な場所については平面図に示した。この土については採取し、フローテーション法にて処理した。坑底面はほぼ平坦である。壁面は顕著にオーバーハングする。一旦すぼまっている部位の平面形も隅丸方形に近い。掘り込み面は上部の落ち込みによって不明だが、V層下位の可能性がある。覆土1層の下位からⅣ群a類土器がほぼ1個体（図Ⅲ-106-7）まとまって出土した。遺物は覆土1層から坑底部にかけて散点的に出土している。覆土1層上半部を覆土上位、覆土1層下半部を覆土中位、覆土2～9層を覆土下位として取り上げた。付属遺構はなかった。

**時期：**遺物出土状況と出土遺物から縄文時代後期前葉の可能性がある。（大泰司）

**フローテーション成果：**図中で示した炭化物と骨片混じりの土層（覆土2・3層）をフローテーション法にて処理した。その結果、焼骨片群、炭化種子を検出した。焼骨片は鳥類と魚類の骨が出土した。鳥類の骨は種類が不明である。魚類はニシンが多い。加えてアイナメが混じり、他は不明なものである。炭化種子はキハダ属の種子が85点と目立つ。他にマクタビ属、ニワトコ属、ブドウ科、ミズキ属、クルミ属を検出し、他に同定不能なものもあった。（詳細はV章1・2）

P-74（図Ⅲ-64・108、表3・9・15、図版37-3）

**位置・立地：**S-44区 標高43.20～43.40m付近の平坦面

**規模：**0.74×0.72/0.62×0.52/0.22m

**確認・調査：**Ⅶ層上面で黒色土Vb層主体の落ち込みを検出した。覆土を除去した時点で明瞭な壁面と底面を検出し、土坑と判断した。不整な円形の平面形である。覆土1層は自然堆積だが、2・3層についてはV～Ⅷ層が混じり合った土であり、埋め戻しの可能性がある。坑底面は平坦である。掘り

込み面は検出面より上である。遺物は覆土3層からIV群a類土器(図Ⅲ-64-1・2・Ⅲ-108-1)が散点的に出土しているのが目立つ。

時期: 出土遺物から縄文時代後期前葉のものである。

(大泰司)

P-75(図Ⅲ-63・108、表3・9・15 カラー図版7-2)

位置・立地: S-43区 標高43.20~43.40m付近の平坦面

規模: 0.36×0.26/0.24×0.22/0.20m

確認・調査: VII層上面で黒褐色土の落ち込みからIV群a類土器の底部を検出した。倒立した埋壘の可能性を想定し、落ち込みを断ち割ったところ、小型の土坑に口縁の一部を打ち欠いた深鉢型土器(図Ⅲ-108-1)を倒立して埋めたものであることが明らかとなった。土器の底面は打ち欠かれている。木根跡を利用して掘り込みをつくりそこに埋めたものと考え。土器内部の土については下部にVII層主体の土が入り、上部は掘りかたと同じ土が入る。掘り込み面は検出面より上位である。

時期: 出土遺物から縄文時代後期前葉のものである。

(大泰司)

P-76(図Ⅲ-64・107、表3・9・15、図版37-4)

位置・立地: S-44区 標高43.20~43.40m付近の平坦面

規模: 0.50×0.46/0.44×0.34/0.36m

確認・調査: VII層上面で暗褐色土の落ち込みからIV群a類土器(図Ⅲ-64-4・Ⅲ-107-1/Ⅲ-64-2・4・Ⅲ-107-2/図Ⅲ-64-1・2・4・Ⅲ-107-3)を検出した。大型の土器破片が折り重なるように出土し、中型の礫が間に挟みこまれている。土器は大津式の沈線文を持つもの(Ⅲ-107-3)を含む。覆土を除去した時点で明瞭な壁面と底面を検出し、土坑に土器を埋納したものと判断した。不整な卵形の平面形である。覆土はV~VIII層が混じり合った土であり、遺物の出土状況も踏まえて埋め戻しと考える。壁面は遺物がかたまて出土した側がオーバーハングしている。坑底は中央がよく凹む。掘り込み面は検出面より上である。

時期: 出土遺物から縄文時代後期前葉のものである。

(大泰司)

P-77(図Ⅲ-65・108・134・139、表3・9・15、図版37-5)

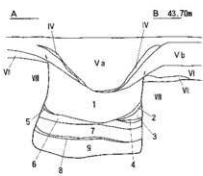
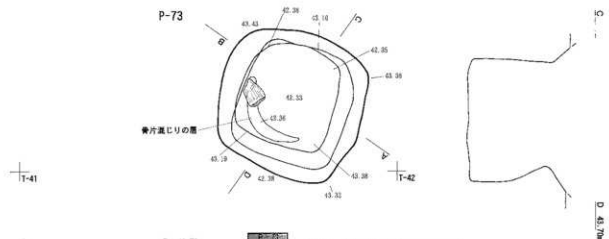
位置・立地: R・S-44・45区 標高43.20~43.40m付近の平坦面

規模: 1.26×1.18/1.46×1.54/1.20m

確認・調査: VII層上面で黒色土の落ち込みを検出した。抜根の痕跡と遺構と思われる明瞭な平面形が切り合っている状況であった。覆土を除去した時点で明瞭な壁面と底面を検出し、土坑の一部を木の根が壊しているものと判断した。不整な円形の平面形である。覆土1層はVb層主体であり、自然の営為によって流入したものと考える。覆土3・5層については、V層主体の5層とVIII層主体の3層が交互に堆積している。2・6・7層はV~VIII層が混じったものである。人為的に埋め戻したことを表していると考え。坑底面はほぼ平坦だが、中央が浅く凹む。壁面は顕著にオーバーハングする。一旦すぼまっている部位の平面形は方形に近い。掘り込み面は検出面より上である。遺物は覆土6層から坑底部にかけてのVIII層主体の覆土に集中し、平面的な分布も北側半分に偏っている。IV群a類土器の破片と礫がほとんどであり、フレイクと台石、たたき石が少量混じる。覆土1・2・4層を覆土上位、覆土5層を覆土中位として遺物を取り上げた。付属遺構はなかった。

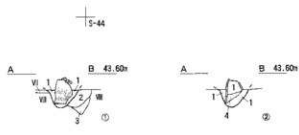
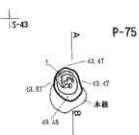
時期: 出土遺物とその出土状況から縄文時代後期前葉の可能性がある。

(大泰司)



層別	層位	土質	厚さ	出土品	備考
1	表層	黄砂	0.05	骨片	
2	中層	黄砂	0.10	骨片	
3	底層	黄砂	0.15	骨片	

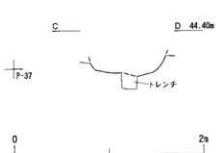
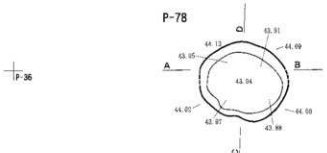
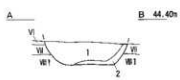
層別	層位	土質	厚さ	骨片・土器片 (単位: cm)		骨片・土器片 (単位: cm)		骨片・土器片 (単位: cm)		備考
				種類	数量	種類	数量	種類	数量	
1	表層	黄砂	0.05	骨片	1	骨片	1	骨片	1	
2	中層	黄砂	0.10	骨片	2	骨片	2	骨片	2	
3	底層	黄砂	0.15	骨片	3	骨片	3	骨片	3	



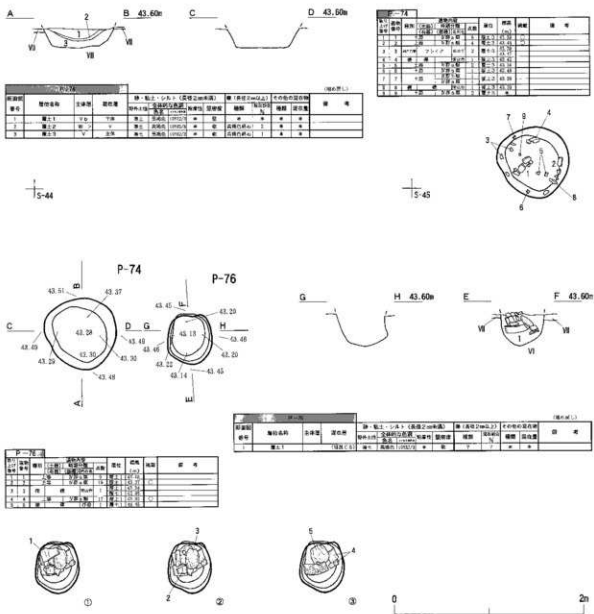
層別	層位	土質	厚さ	出土品	備考
1	表層	黄砂	0.05	骨片	
2	中層	黄砂	0.10	骨片	
3	底層	黄砂	0.15	骨片	

層別	層位	土質	厚さ	骨片・土器片 (単位: cm)		骨片・土器片 (単位: cm)		骨片・土器片 (単位: cm)		備考
				種類	数量	種類	数量	種類	数量	
1	表層	黄砂	0.05	骨片	1	骨片	1	骨片	1	
2	中層	黄砂	0.10	骨片	2	骨片	2	骨片	2	
3	底層	黄砂	0.15	骨片	3	骨片	3	骨片	3	

層別	層位	土質	厚さ	骨片・土器片 (単位: cm)		骨片・土器片 (単位: cm)		骨片・土器片 (単位: cm)		備考
				種類	数量	種類	数量	種類	数量	
1	表層	黄砂	0.05	骨片	1	骨片	1	骨片	1	
2	中層	黄砂	0.10	骨片	2	骨片	2	骨片	2	
3	底層	黄砂	0.15	骨片	3	骨片	3	骨片	3	



図III-63 P-73・75・78



図III-64 P-74・76

P-78 (図III-63、表3・15、図版37-6)

位置・立地：O・P-36区 最終面における標高44.00m付近の緩斜面

規模：0.97×0.80/0.79×0.64/0.24m

確認・調査：包含層調査中、VI～VII層で楕円形を呈する黒色土の堆積が認められた。トレンチを設けて掘り下げ、土層断面を観察したところ、壁の立ち上がりと坑底と考えられる明瞭な層界が確認されたので、遺構と認定した。土層断面を記録後、残りの覆土を掘り下げて完掘した。

覆土：覆土第1層はV層主体で、覆土第2層はV層にⅡ層が混じる土である。

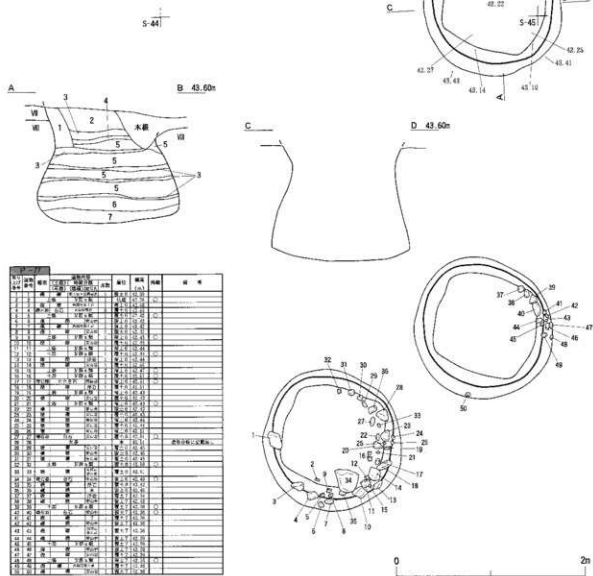
形態：平面は楕円形を呈する。断面は、坑底面は南西側部分が若干低く、両壁は曲線的に立ち上がる形態を呈する。

遺物出土状況：遺物の出土は無かった。

時期：周囲の包含層出土の遺物から、縄文時代中期～後期と推測される。

(末光)

調査年度	調査地				調査内容										
	調査地名称	所在地	調査時期	調査者	調査目的	調査方法	調査結果	調査結果	調査結果	調査結果	調査結果	調査結果	調査結果	調査結果	調査結果
昭和21	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...
昭和22	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...
昭和23	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...
昭和24	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...
昭和25	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...
昭和26	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...
昭和27	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...



図III-65 P-77

P-79 (図III-66・109・121・134・139、表3・9・15、図版38-1)

位置・立地：R-45区 標高43.00~43.40m付近の緩斜面

規模：1.06×1.06/1.46×1.44/1.12m

確認・調査：Ⅶ層上面で黒褐色土の落ち込みを検出した。遺構の可能性があったため、土層観察用の土手を残して掘り下げた。覆土を除去した時点で土坑と判断した。不整な隅丸方形の平面形である。覆土1・3層はⅦ層主体であり、Ⅶ層が微量に混じる。覆土2層はⅧ層が主体であり、Ⅴ層が微量に混じる。2層以下については埋め戻しの可能性がある。坑底面はほぼ平坦である。壁面は顕著にオー

パーハングする。一旦すばまっている部位の平面形も隅丸方形に近い。掘り込み面は検出面より上である。遺物の出土は、覆土1層の下位から覆土2層にかけて集中している。礫とIV群a類土器が主であり、台石、たたき石、つまみ付きナイフが1点ずつ出土している。付属遺構はなかった。遺構半截時に、遺物取り上げは、覆土1層上半部を覆土上位、覆土1層下半部を覆土中位、覆土2・3層を覆土下位とした。

**時期：**出土遺物とその出土状況から縄文時代後期前葉の可能性がある。(大泰司)

P-80 (図Ⅲ-67・110・121・141、表3・9・15、図版38-2)

**位置・立地：**T-41区 標高43.00~43.20m付近の緩斜面

**規模：**2.10×1.76/1.96×1.38/0.38m

**確認・調査：**Ⅶ層上面で黒褐色土の落ち込みを検出した。覆土を除去した時点で明瞭な壁面と底面を検出し、土坑と判断した。不整な楕円の平面形である。覆土1・3層はVb層主体であり、流入と考える。V~Ⅷ層の混じった土である覆土2層が薄く1・3層の間に流れ込んでいる。自然の埋没と考える。坑底面はほぼ平坦で、2ヶ所の浅い皿状の凹みがある。掘り込み面は検出面より上である。遺物は覆土3層上面からまとまった出土した。主にIV群a類土器の破片が主で、三脚形石器(図Ⅲ-67-14・Ⅲ-141-6)も1点出土した。また坑底面に近い3層下位においてもある程度まとまった遺物の出土状況があった。そこで「3層下位」で別に取り上げた。

付属遺構としては皿状の凹みを挙げるができるが、坑底面を構築した際に同時に掘り込まれたものとする。また坑底面とほぼ同じ高さで焼土の塊が薄く入り込むが、その場で焚かれたものとは考え難い状況であった。

**時期：**包含層の遺物出土状況と出土遺物から縄文時代後期前葉の可能性がある。(大泰司)

**フローテーション成果：**坑底面付近に塊として入り込んでいた焼土をフローテーション法にて処理した。その結果、焼骨片を検出した。焼骨片はニシンの骨である。(詳細はV章1)

P-81 (図Ⅲ-68・109・121、表3・9・15、図版38-3)

**位置・立地：**R-43・44区 標高43.20~43.60m付近の平坦面

**規模：**1.90×1.62/1.78×1.66/1.08m

**確認・調査：**Ⅶ層上面で黒褐色土の落ち込みを検出した。遺構の可能性があったため、土層観察用の土手を残して掘り下げた。覆土を除去した時点で土坑と判断した。不整な楕円形の平面形である。覆土1・2層はVb層主体であり流入の可能性もある。覆土3~8層は、V~Ⅷ層の土が混じり合ったものである。覆土3層以下については埋め戻しの可能性がある。覆土中位について骨片および焼土粒が混じっている様子が観察できた。そのうち8層と11層の2面について特に密であった。そこで土を採取し、フローテーション法にて処理した。坑底面はほぼ平坦である。壁面は顕著にオーバーハングする。一旦すばまっている部位の平面形も楕円形に近い。掘り込み面は検出面より上であるが、Ⅶ層直上の可能性が堆積状況から観察できる。遺物取り上げには、覆土1~5層を覆土上位、覆土6~13層を覆土中位、覆土14~16を覆土下位とした。焼土中として取り上げたものは覆土8層である。遺物の出土は、覆土上位から下位にかけて散点的である。礫とIV群a類土器が主である。付属遺構はなかった。図中、5として取り上げたものは礫であり、一次整理段階で廃棄した。

**時期：**出土遺物とその出土状況から縄文時代後期前葉の可能性がある。切り合い関係を土層断面で確認したところ、P-84より新しいものと判断した。(大泰司)

**フローテーション成果:** 骨片混じりの覆土8・11層を主とした覆土中位の土層をフローテーション法にて処理した。その結果、焼骨片群、炭化種子を検出した。焼骨片は獣骨と魚類の骨が出土した。獣類はシカとイノシシである。イノシシは未明出臼歯のある下顎がまとまって出土した。しかし、もろいため形状を保ったままの取り上げは不可能であった。魚類はニシンが多い。加えてカレイ・アイナメが混じり、多くは不明のものである。炭化種子はキハダ属の果実片と種子が45点と目立つ。他にニワトコ属、ブドウ科、ウルシ属、ミズキ属を検出し、他に同定不能なものもあった。(詳細はV章1・2)

P-82 (図III-66、表3・9・15、図版38-4)

**位置・立地:** R・S-44区 標高43.20~43.40m付近の緩斜面

**規模:** 1.26×1.08/0.99×0.94/0.20m

**確認・調査:** VII層上面で黒褐色土の落ち込みを検出した。遺構の可能性があったため、土層観察用の土手を残して掘り下げた。覆土を除去した時点で土坑と判断した。不整な楕円形の平面形である。覆土1層はVb層主体であり自然堆積の可能性がある。坑底面はほぼ平坦である。掘り込み面は検出面より上である。遺物は、覆土中位からIV群a類土器とフレイクが出土している。付属遺構はなかった。**時期:** 出土遺物とその出土状況から縄文時代後期前葉の可能性がある。(大泰司)

P-83 (図III-67・111、表3・9・15、図版38-5)

**位置・立地:** Q-41・42区 最終面における標高43.60m付近の平坦面

**規模:** (1.74)×(1.42)/(1.02)×(0.81)/0.27m

**確認・調査:** 包含層調査終了後、VIII層上面で黒色土の堆積が認められた。H-19の調査のため42ライン沿いに設けてあったトレンチ(Q~R間)の土層断面(図III-29 H-19(1)AB)を観察したところ、壁の立ち上がりと坑底と考えられる画然とした層界が認められたので、遺構と認定した。これを記録した後、長軸方向の土層断面を観察するため、別のトレンチを設け掘り進めたが、VIII層主体の覆土であったため、このトレンチの設定位置を誤り、北東~東側部分については、壁を検出せず掘り下げる結果となった。その後、短軸方向の土層断面を記録し、残りを掘り下げて完掘した。

**覆土:** 四つに分層した。覆土第1・3層はV層主体であり、覆土第2・4層はVIII層主体である。覆土第3層にはVIII層(Ng)軽石が、覆土第2層には細粒のVII層(Ko-g)軽石がそれぞれ混在する。**形態:** 平面は概して楕円形を呈すると考えられる。断面は、曲線的に中央付近が凹む坑底面に、両壁曲線的に立ち上がる形態である。

**遺物出土状況:** 遺物は覆土第1・2層から出土した。原則として覆土第2層出土のものについて、出土位置を記録した。III群b-1類土器や、U・Rフレイク、石錘(扁平打製石器に再分類)等が出土した。

**時期:** 出土遺物から考えると、縄文時代中期後半と判断される。

(末光)

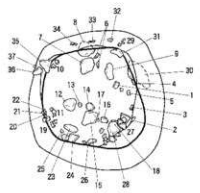
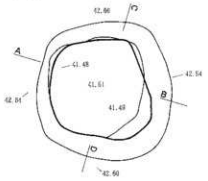
P-84 (図III-69・111、表3・9・15、図版38-6)

**位置・立地:** R・S-43・44区 標高43.20~43.40m付近の緩斜面

**規模:** 1.26×1.26/1.48×1.38/0.86m

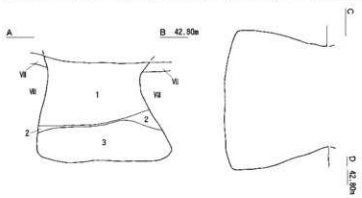
**確認・調査:** P-81の北東側に木の根が入り込んでいた。遺構確認も兼ねて包含層を全体に5cm下げたところ、VIII層上面で黒褐色土の落ち込みにさらに黄褐色土が入り込んでいる状況を確認した。遺構の可能性があったため、土層観察用の土手を残して掘り下げた。覆土を除去した時点で土坑と判断した。

P-79

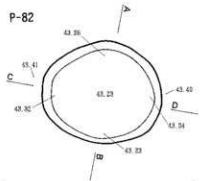


P-79		P-79		P-79		P-79		P-79	
測量員	測量日期	北緯	東經	點名	點位	點高	點深	點徑	點深
1	...	...	...	...	...	...	...	...	...
2	...	...	...	...	...	...	...	...	...
3	...	...	...	...	...	...	...	...	...

P-79									
點名	點位	點高	點深	點徑	點深	點徑	點深	點徑	點深
1	...	...	...	...	...	...	...	...	...
2	...	...	...	...	...	...	...	...	...
3	...	...	...	...	...	...	...	...	...
4	...	...	...	...	...	...	...	...	...
5	...	...	...	...	...	...	...	...	...
6	...	...	...	...	...	...	...	...	...
7	...	...	...	...	...	...	...	...	...
8	...	...	...	...	...	...	...	...	...
9	...	...	...	...	...	...	...	...	...
10	...	...	...	...	...	...	...	...	...
11	...	...	...	...	...	...	...	...	...
12	...	...	...	...	...	...	...	...	...
13	...	...	...	...	...	...	...	...	...
14	...	...	...	...	...	...	...	...	...
15	...	...	...	...	...	...	...	...	...
16	...	...	...	...	...	...	...	...	...
17	...	...	...	...	...	...	...	...	...
18	...	...	...	...	...	...	...	...	...
19	...	...	...	...	...	...	...	...	...
20	...	...	...	...	...	...	...	...	...
21	...	...	...	...	...	...	...	...	...
22	...	...	...	...	...	...	...	...	...
23	...	...	...	...	...	...	...	...	...
24	...	...	...	...	...	...	...	...	...
25	...	...	...	...	...	...	...	...	...
26	...	...	...	...	...	...	...	...	...
27	...	...	...	...	...	...	...	...	...
28	...	...	...	...	...	...	...	...	...
29	...	...	...	...	...	...	...	...	...
30	...	...	...	...	...	...	...	...	...
31	...	...	...	...	...	...	...	...	...
32	...	...	...	...	...	...	...	...	...
33	...	...	...	...	...	...	...	...	...
34	...	...	...	...	...	...	...	...	...
35	...	...	...	...	...	...	...	...	...
36	...	...	...	...	...	...	...	...	...
37	...	...	...	...	...	...	...	...	...



P-82



P-82		P-82		P-82		P-82		P-82	
測量員	測量日期	北緯	東經	點名	點位	點高	點深	點徑	點深
1	...	...	...	...	...	...	...	...	...
2	...	...	...	...	...	...	...	...	...

圖 III-66 P-79·82





不整な隅丸方形の平面形である。覆土1～15層まで、V～VIII層土が混ざり合った土がそれぞれほぼ水平に堆積している。埋め戻しの可能性がある。坑底面は中央で凹む。壁面は顕著にオーバーハングする。掘り込み面は検出面より上である。遺物は、覆土1～3層を覆土上位、覆土4～9層を覆土中位としてとりあげた。遺物の出土は、覆土上位から中位にかけてである。IV群a類土器と礫の出土がある。付属遺構はなかった。

時期：出土遺物とその出土状況から縄文時代後期前葉の可能性がある。(大泰司)

P-85 (図Ⅲ-70・111・135、表3・9・15、図版39-1)

位置・立地：S-45区 標高42.80～43.20m付近の緩斜面

規模：1.56×1.68/1.84×1.96/1.14m

確認・調査：VII層上面で黒褐土の落ち込みを検出した。配石S-2の調査中に、その配石下から検出した。遺構の可能性があったため、土層観察用の土手を残して掘り下げた。覆土を除去した時点で土坑と判断した。不整な円形の平面形である。覆土1層はVb層主体であり流入の可能性がある。覆土2～8層は、いずれもV～VIII層が混ざり合ったものである。覆土2層以下については埋め戻しの可能性がある。坑底面はほぼ平坦であるが、中央がわずかに凹む。壁面は顕著にオーバーハングする。一旦すばまっている部位の平面形も円形に近い。掘り込み面は検出面より上で、VII層直上の可能性が堆積状況から観察できる。遺物は覆土1層を覆土上位、覆土2～5層を覆土中位、覆土6～8層を覆土下位として取り上げた。遺物は、覆土中位から坑底にかけて、礫とIV群a類土器が出土する。付属遺構はなかった。

時期：出土遺物とその出土状況から縄文時代後期前葉の可能性がある。しかしS-2（大津式の時期の可能性）よりは古い。(大泰司)

P-86 (図Ⅲ-68・112、表3・9・15、図版39-2)

位置・立地：P-38区 最終面における標高43.60m付近の緩斜面

規模：1.67×1.60/1.50×1.47/0.21m

確認・調査：包含層調査終了後、VIII層上面で、円形を呈する黒色土の堆積が認められた。中央を通るように土層観察用のベルトを設定し、その両側を掘り下げたところ、坑底面と壁の立ち上がりを確認したので、遺構と認定した。土層断面を記録した後、ベルトを掘り下げて完掘した。

覆土：分層できなかった。V層主体の覆土で下位部分はやや黒色が弱い。

形態：平面は円形を呈する。断面は、中央部がわずかに低い坑底面と、やや直線的に立ち上がる両壁が認められる。

遺物出土状況：遺物は原則として、すべて出土位置や高さ、層位を記録して取り上げた。覆土第1層からIII群b-1類土器(図Ⅲ-68-1・III-112-1/III-68-3・III-112-2)、自然礫、フレイクが出土した。土器は、北側部分で、大きめの破片が内面を上にした状態で出土した。

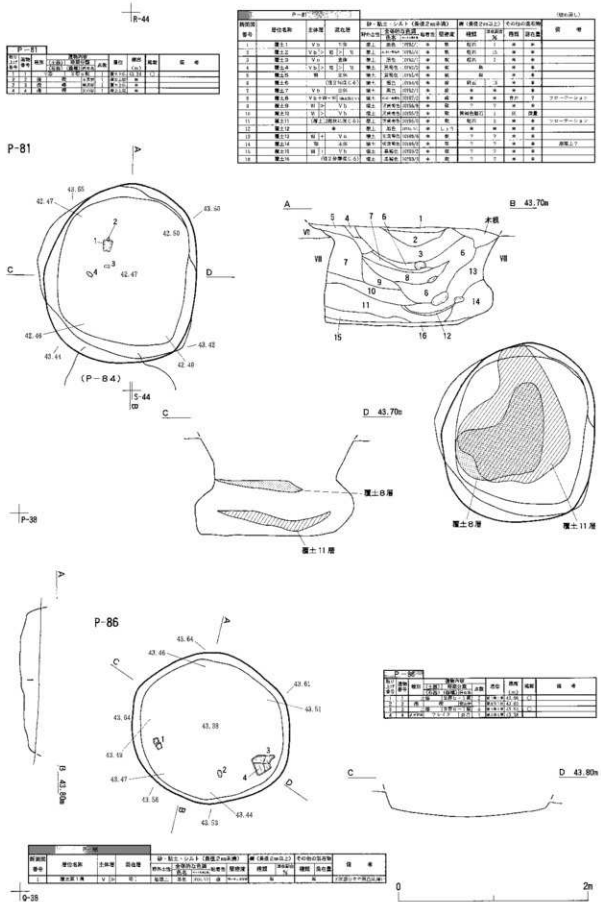
時期：出土遺物から考えると、縄文時代中期後半と判断される。(末光)

P-87 (図Ⅲ-69、表3・9・15、図版39-3)

位置・立地：S-43区 最終面における標高43.40～43.20m付近の平坦面

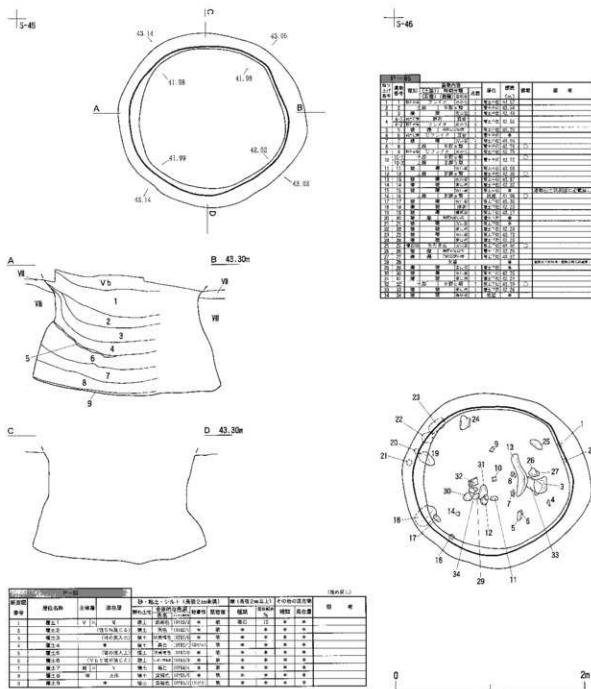
規模：0.68×0.58/0.34×0.25/0.13m

確認・調査：包含層調査終了後、VIII層上面で細長い楕円形を呈する黒色土の堆積と遺物が認められ



図III-68 P-81・86





図Ⅲ-70 P-85

た。長軸方向に半截し、土層断面を観察した結果、明瞭な層界と壁の立ち上がりがみられたので、遺構と認定した。土層断面を記録した後、半分を掘り完掘した。

**覆土**：分層できなかった。V層主体の覆土で炭化物が混在する。

**形態**：平面は細長い楕円形で、断面は、中央付近がやや低い坑底面で、両壁が曲線的に立ち上がる形態を呈する。

**遺物出土状況**：遺物は原則として、すべて出土位置や高さ、層位を記録して取り上げた。覆土第1層から、IV群a類土器と自然礫が出土した。

**時期**：出土遺物から考えると、縄文時代後期前半と判断される。

(末光)

#### (4) 焼土

焼土は16か所検出した。F-10・11・16が縄文時代、他は続縄文時代のものと考えられる。F-11はP-32覆土上部から検出され、縄文時代中期の可能性があった。F-16については酸化した土壌を検出し、焼土かどうか確信はなかったが、フローテーションの結果、焼骨片、炭化種子等を検出した。続縄文時代の焼土は上流側の流路部分に多く分布しており、周辺には川原石や遺物も多く散在する。これらの焼土は確認時点でも焼骨片が多量に観察されたため、フローテーション法にて土壌を処理した。

F-1 (図Ⅲ-71・113・114・122・140、表4・10・16、カラー図版7-1)

位置・立地：C・D-43・44区 標高44.20mほどの三次郎川上流側の低位段丘平坦面。

規模：0.99×0.76/0.13m

確認・調査：小段丘上の包含層調査中、Va層（上位）まで掘り下げたところ、D-44杭を中心に褐灰色の灰や小骨片が目立つにぶい橙色の土壌を検出した。土壌採取を行いながら、断面観察を行ったところ上部が骨片を多く含むものと、骨片が目立たない2層からなる焼土が確認できた。そして、杭を中心に広がる焼土は当初一つのものと考えていたが、間層を持って上下2つの焼土であることが確認された（F-1、9）。上部に灰層を伴うF-9が上位のものであるが、D-44区側を先に調査したこともあり、発見順に番号を付したため下位の焼土であるが、F-1とした。

焼土が明確になった形状は、南北方向を長軸とする楕円形である。小段丘上で南北方向に並ぶ焼土の一番北側に位置する。また、この焼土の下部には、後の調査でP-17を検出しているが、土層観察からは焼土の形成時期には、土坑はすでに埋まりきりほぼ平坦地となっており、土坑とは関係ない。

時期：この焼土に明確に伴う遺物は無いが、検出層位や周辺出土遺物から続縄文時代と考えられる。または、縄文時代後期の可能性も残る。 (田中)

土器集中a～d：F-1周辺の遺物取り上げ図Ⅲ-71について、土器集中a～dが示されている。調査者と検討したところ、複数の土器が混在するが、土器集中aの主体は図Ⅲ-113-5である。土器集中bの主体は図Ⅲ-113-7である。土器集中cの主体は図Ⅲ-113-4である。土器集中dの主体は図Ⅲ-114-9である。9についてはむしろF-9に関連するものと調査者が判断した。 (大泰司)

フローテーション成果：焼土部分をフローテーション法にて処理した。その結果、焼骨片群、炭化種子を検出した。焼骨片はシカが主体である。また、イノシシの手根骨も検出した。分析者の金子氏は周辺の縄文時代遺物から、縄文時代に属する可能性も考慮すべきとしている。ほかに種類は不明だが、鳥類の骨または中型獣の骨片も検出した。魚類の骨も混じていたが、種類が明確となったものは、鮭のみである。炭化種子はブドウ科が主で、他にマタビ・コナラ・クルミ属が検出された。他に同定不能のものを1点検出した。(詳細はV章1・2)

F-2 (図Ⅲ-71、表4・10・16)

位置・立地：B-44区 調査区南西側（山側）、標高43.40～43.60m付近の平坦面

規模：1.20×0.82/0.09m

確認・調査：Vb層調査中、粒径1cm以下の暗褐色土の粒が約1mほどの範囲で広がっているのを検出した。短軸と思われる線で半截した断面から、Vb層が被熱し、酸化した焼土であると判断した。土層は2層に分けた。1層はやや暗めの極褐色土中に、明るい暗褐色の焼土粒が混入する。2層は1層よりもやや明るめの褐色土層である。土色が均一でないことから、この場で焼けたものかは不明である。同レベルで縄文時代後期前葉の土器片を1点取り上げた。

**時期:** 焼土の混在具合から、原位置をとどめていないと思われる。検出面と周辺の遺物や遺構から、続縄文時代のものと考えられるが、縄文時代中期前半または縄文時代後期前葉の可能性もある。(新家)  
**フローテーション成果:** 焼土部分をフローテーション法にて処理した。その結果、焼骨片群、炭化種子を検出した。焼骨片はシカを主体とする獣骨片群と種類不明だが魚類の骨も検出した。炭化種子は同定不能のものを1点検出した。(詳細はV章1・2)

#### F-3 (図III-71・114、表4・10・16)

**位置・立地:** A-43区 調査区南西側(山側)の標高43.90~44.00m付近の平坦面

**規模:** 0.85×0.42/0.07m

**確認・調査:** Va層調査中、骨片が散在する極暗褐色土が40~50cmの範囲で検出された。短軸と思われる線で半截した断面から、Va層が被熱、酸化した焼土と判断した。土層は2層に分けた。2層は1層よりも明るく、強く被熱している。平面的な規模は小さいが、焼け方は強い。土器片が同レベルで4点出土した。うち3点は続縄文時代のもの、1点は縄文時代後期前葉のものである。

**時期:** 検出面と出土した遺物から、続縄文時代のものと考えられる。

(新家)

**フローテーション成果:** 焼土部分をフローテーション法にて処理した。その結果、焼骨片群、炭化種子を検出した。焼骨片はシカを主体とする獣骨片群に、種類不明だが魚類の骨が混在する。炭化種子は同定不能のものを1点検出した。残渣から検出した炭化材破片のうち1点をAMSで年代測定したところ暦年校正用年代で1906±20年の結果が得られた。(詳細はV章1~3)

#### F-4 (図III-72、表4・10・16)

**位置・立地:** B-43区 標高43.40~43.60m付近の平坦面

**規模:** 0.40×0.38/0.06m

**確認・調査:** B-43区を包含層調査し、Vb層中位まで掘り下げたところ、いびつな楕円形に赤褐色土が分布している状況を検出した。断面を調査して、Vb層が酸化したものであり、焼土であると判断した。焼成面はVb層中位である。焼土中には骨片が微量と焼けた小石が混じっている。この面において周辺ではIV群a類土器が出土している。

**時期:** 検出面と周辺の遺構から続縄文時代のものと考えられるが、周辺の遺物出土状況から、縄文時代中期前半、あるいは後期前葉の可能性も残る。

(大泰司)

**フローテーション成果:** 焼土部分をフローテーション法にて処理した。その結果、焼骨片群、炭化種子を検出した。焼骨片はシカを主体とする獣骨である。炭化種子はブドウ科とウルシ属を検出した。(詳細はV章1・2)

#### F-5 (図III-72・113、表4・10・16)

**位置・立地:** A・B-43区 調査区南西側(山側)、標高43.70~43.80m付近の平坦面

**規模:** 0.54×0.39/0.08m

**確認・調査:** Vb層調査中、骨片がまとめて出土したため、周辺を精査すると、暗褐色土の広がりが見出された。中心で半截した断面から、Vb層が被熱、酸化した焼土であると判断した。骨片が多く伴い、また同レベルで縄文時代後期の土器片が1点出土した。

**時期:** 検出面と出土した遺物から、続縄文時代のものと考えられる。

(新家)

**フローテーション成果:** 焼土部分をフローテーション法にて処理した。その結果、焼骨片群、炭化種

子を検出した。焼骨片はシカを主体とする獣骨である。炭化種子は同定不能のものを1点検出した。(詳細はV章1・2)

**F-6** (図Ⅲ-72、表4・10・16、表4・10・16)

**位置・立地:** B・C-43区 標高44.40mほどの三次郎川上流側の低位段丘平坦面。

**規模:** 0.71×0.52/0.13m

**確認・調査:** Va層(上位)で検出した焼土。上位に骨片を多く含み、下位の明赤褐色焼土は他に比べ小範囲にとどまるように感じられた。確認できた形状は、南北方向を長軸とする楕円形である。遺物は焼土確認面北端で、頁岩製のUフレイク1点が出土したのみである。

**時期:** この焼土の時期を判断できる遺物は無いが、検出層位や周辺状況から統縄文時代と考えられる。(田中)

**フローテーション成果:** 焼土部分をフローテーション法にて処理した。その結果、焼骨片群、炭化種子を検出した。焼骨片はシカを主体とする獣骨である。炭化種子はキハダ属・ブドウ科・同定不能なものを検出した。他に、酸化した状態のタラノキ属を検出した。また、人工遺物として2点の焼成粘土塊を検出した。(詳細はV章1・2)

**F-7** (図Ⅲ-72・114・122、表4・10・16)

**位置・立地:** C-43区 標高44.30mほどの三次郎川上流側の低位段丘平坦面。

**規模:** 0.88×0.77/0.14m

**確認・調査:** Va層(上位)で検出した焼土。C-43区に直線状に並ぶ焼土列(南からF-6・7・9・1)の中間に位置する。F-1・6とはほぼ1.4mの間隔で等距離である(F-9とは0.8m)。F-6と同様、上位に骨片を多く含み、下位は明赤褐色焼土である。確認できた形状は、南北方向を長軸とする楕円形である。

**遺物出土状況:** 0.6m西側に検出されたF-8との間にVI群土器が集中して出土したほか、多くの剥片石器類も出土している。これら遺物は、焼土確認面とほぼ同レベルからの出土である。また、北側のF-9間にも土器片(VI群、IV群土器混在)が散在して出土しているが、これらについては焼土確認面より下位のものが多い。

**時期:** 検出層位や周辺の遺物出土状況から統縄文時代と考えられる。(田中)

**F-7・8間について:** F-7とF-8の間で出土した土器を図Ⅲ-72に示した。遺物出土状況は図Ⅲ-114-1の後北C<sub>1</sub>式土器が主体である。そこに後北C<sub>1</sub>式前後のVI群土器の再生土製品(114-2)も混在する。この土器集中を主体として、F-7・8間の遺物について出土状況図を示した。(大泰司)

**フローテーション成果:** 焼土部分をフローテーション法にて処理した。その結果、焼骨片群、炭化種子を検出した。焼骨片はシカを主体とする獣骨である。炭化種子はキハダ属・ブドウ科・クリ属・クルミ属・同定不能なものを検出した。ブドウ科の16点出土が最も多い。また、人工遺物として8点の焼成粘土塊を検出した。(詳細はV章1・2)

**F-8** (図Ⅲ-72・122、表4・10・16)

**位置・立地:** C-43・44区 標高44.30mほどの三次郎川上流側の低位段丘平坦面。

**規模:** 0.86×0.81/0.10m

**確認・調査:** F-7の0.6m西側、Va層(上位)で検出した焼土。周辺に検出された焼土同様、上位



に骨片を多く含み、下位は明赤褐色焼土でその外周は色調がやや暗く発色する。確認できた形状は、南北方向を長軸とする円形に近い楕円形である。

**時期:** 検出層位や周辺の遺物出土状況から統縄文時代と考えられる。 (田中)

**フローテーション成果:** 焼土部分をフローテーション法にて処理した。その結果、焼骨片群、炭化種子を検出した。焼骨片はシカを主体とする獣骨である。炭化種子はキハダ属・同定不能なものを検出した。他に酸化した状態のブドウ科を検出した。(詳細はV章1・2)

#### F-9 (図III-71、表4・10・16、カラー図版7-1)

**位置・立地:** C-43・44区 標高44.20mほどの三次郎川上流側の低位段丘平坦面。

**規模:** 0.81×0.53/0.14m

**確認・調査:** F-1の上位、南西側にある焼土。最上位に灰層を伴い、骨片を多く含む暗赤褐色焼土、最下位が赤褐色焼土となる。明確に確認できた形状は東西方向を長軸とする楕円形である。F-7でも記載したが、F-7間で出土した土器片は焼土確認レベルからやや下位での出土である。

**時期:** この焼土に明確に伴う遺物は無いが、検出層位や周辺状況から統縄文時代と考えられる。

(田中)

**フローテーション成果:** 焼土部分をフローテーション法にて処理した。その結果、焼骨片群、炭化種子を検出した。焼骨片はシカが主体である。ほかに種類は不明だが、鳥類の骨または小・中型獣の破片群も検出した。魚類の骨も混じていたが、種類が明確となったものは、鮭のみである。炭化種子はブドウ科・クルミ属・同定不能のものを検出した。他に酸化した状態のマタビ属を検出した。(詳細はV章1・2)

#### F-10 (図III-73、表4・10・16)

**位置・立地:** T-49区 調査区北側(海側)、標高42.40~42.50m付近の平坦面

**規模:** 0.35×0.32/0.05m

**確認・調査:** Vb層調査中、褐色土が30cmほどの範囲で検出された。中心で半截した断面から、Vb層が酸化した焼土と判断した。

**時期:** 不明だが、周辺の包含層出土の遺物により、縄文時代後期前葉の可能性はある。(新家)

**フローテーション成果:** 焼土部分をフローテーション法にて処理した。その結果、焼骨片、炭化種子を検出した。焼骨片はシカを主体とする獣骨である。炭化種子はクルミ属を1点検出した。(詳細はV章1・2)

#### F-11 (図III-48、表4・10・16、図版31-1)

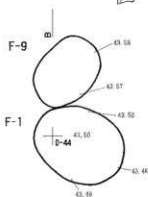
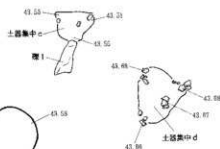
**位置・立地:** E-44区 土坑P-32上面

**規模:** 0.43×(0.41)/0.09m

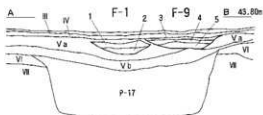
**確認・調査:** P-31・32の項で記載したとおり、E-44区で漸移層(VI層)まで掘り下げたところ、黒色土の落ち込みが広範囲に検出された。土層観察用のベルトを残しながら再度掘り下げたところ、土器片等遺物が集中して出土したやや下位で検出した焼土である。調査時の観察では、あまり骨片は目立たなく、色調は赤褐色を呈していた。

黒色土の落ち込みは、P-31や木根痕、風倒木痕が絡み、斜面地でもあったことから明確な掘り込みは確認できなかった。ただ、遺物の出土状況などを見れば、窪地を利用した一時的な「住居」に伴

C-44



標高	緯度	経度	方位	傾斜	風向	風速	備考
43.56	139°45'00"	35°45'00"	北	10°	北	1.0	土層集中a
43.58	139°45'00"	35°45'00"	北	10°	北	1.0	土層集中b
43.57	139°45'00"	35°45'00"	北	10°	北	1.0	土層集中c
43.56	139°45'00"	35°45'00"	北	10°	北	1.0	土層集中d



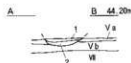
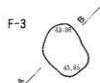
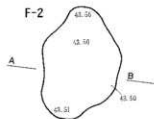
標高	緯度	経度	方位	傾斜	風向	風速	備考
43.52	139°45'00"	35°45'00"	北	10°	北	1.0	土層集中c
43.48	139°45'00"	35°45'00"	北	10°	北	1.0	土層集中d

標高	緯度	経度	方位	傾斜	風向	風速	備考
43.55	139°45'00"	35°45'00"	北	10°	北	1.0	土層集中a
43.57	139°45'00"	35°45'00"	北	10°	北	1.0	土層集中b
43.52	139°45'00"	35°45'00"	北	10°	北	1.0	土層集中c
43.49	139°45'00"	35°45'00"	北	10°	北	1.0	土層集中d

B-44

標高	緯度	経度	方位	傾斜	風向	風速	備考
43.52	139°45'00"	35°45'00"	北	10°	北	1.0	土層集中c
43.48	139°45'00"	35°45'00"	北	10°	北	1.0	土層集中d

A-43



標高	緯度	経度	方位	傾斜	風向	風速	備考
43.52	139°45'00"	35°45'00"	北	10°	北	1.0	土層集中c
43.48	139°45'00"	35°45'00"	北	10°	北	1.0	土層集中d

C-44

B-43



図III-71 F-1・9・2・3



う焼土の可能性を考えなければならない。包含層出土して取り上げた焼土周辺の土器は、焼土と同レベル近辺ではD-44-c区Vc層（掘り上げ土）で多くが出土した復元土器（図Ⅲ-82-H-2-1）と接合関係を持つものや（図Ⅳ-17・18-Ⅲb-1-7・11）などⅢ群b-1類土器がややまとまって出土している。

**時期：**黒色土の落ち込みから出土した土器片から、縄文時代中期の可能性が高い。（田中）

**フローテーション成果：**焼土部分をフローテーション法にて処理した。その結果、焼骨片、炭化種子を検出した。焼骨片はシカを主体とする獣骨である。ほかに種類は不明だが、鳥類の骨または中型獣の破片も検出した。炭化種子はニワトコ属・キハダ属・ミズキ属・コナラ属・クルミ属を検出した。また、人工遺物として1点の焼成粘土塊を検出した。（詳細はV章1・2）

#### F-12（図Ⅲ-73、表4・10・16）

**位置・立地：**J-42区 標高43.60～43.80m付近の平坦面

**規模：**0.42×0.39/0.08m

**確認・調査：**J-42区のVb層最上面において、いびつな円形に暗赤褐色土が分布している状況を検出した。断面を調査したところ、Vb層土が酸化したものであり、焼土と考えた。焼成面は検出面とほぼ同じと考える。伴う遺物はなかった。

**時期：**包含層調査から、確認調査区周辺と確認層位において統縄文時代の土器がよく出土しており、その時代のものである可能性が高い（大泰司）

**フローテーション成果：**焼土部分をフローテーション法にて処理した。その結果、焼骨片群、炭化種子を検出した。焼骨片はシカを主体とする獣骨である。炭化種子は同定不能のものを4点検出した。（詳細はV章1・2）

#### F-13（図Ⅲ-73、表4・10・16）

**位置・立地：**L-42区 標高43.60m付近の平坦面

**規模：**0.50×0.50/0.10m

**確認・調査：**L-42区のVb層最上面において、いびつな円形に2ヶ所、暗赤褐色土が分布している状況を検出した。断面を調査したところ、Vb層土が酸化したものであり、焼土と考えた。南西側のやや大型のものをF-13とした。焼成面は検出面とほぼ同じと考える。伴う遺物はなかった。

**時期：**包含層調査から、確認調査区周辺と確認層位において統縄文時代の土器がよく出土しており、その時代のものである可能性が高く、F-14と同時期の可能性が高い。（大泰司）

**フローテーション成果：**焼土部分をフローテーション法にて処理した。その結果、焼骨片を検出した。焼骨片は種類不明だが魚類の骨である。（詳細はV章1）

#### F-14（図Ⅲ-73、表4・10・16）

**位置・立地：**L-42区 標高43.60m付近の平坦面

**規模：**0.28×0.26/0.04m

**確認・調査：**L-42区のVb層最上面において、いびつな円形に2ヶ所、暗赤褐色土が分布している状況を検出した。断面を調査したところ、Vb層土が酸化したものであり、焼土と考えた。北東側のやや小型のものをF-14とした。焼成面は検出面とほぼ同じと考える。伴う遺物はなかった。

**時期：**包含層調査から、確認調査区周辺と確認層位において統縄文時代の土器がよく出土しており、

その時代のものである可能性が高く、F-13と同時期の可能性が高い。(大泰司)

**フローテーション成果**：焼土部分をフローテーション法にて処理した。その結果、炭化種子を検出した。炭化種子は同定不能のものを2点検出した。(詳細はV章2)

**F-15** (図III-73・114、表4・10・16)

**位置・立地**：L・M-38区 標高44.00～44.20m付近の平坦面

**規模**：(0.70)×0.60/0.06m

**確認・調査**：M-38区を包含層調査し、VII層上面まで掘り下げたところ、Mラインの壁面に橙色に酸化したVb層の断面を検出した。そこでL-38区を精査したところ、いびつな楕円形に橙色土が分布している状況を検出した。北東端は包含層調査によって無くなっている。Vb層が焼けたものと判断した。焼成面はVb層上面である。焼土の直上からVI群土器が出土している。

**時期**：出土遺物、確認層位より縄文時代のものである可能性が高い。(大泰司)

**フローテーション成果**：焼土部分をフローテーション法にて処理した。その結果、焼骨片群、炭化種子を検出した。焼骨片はシカを主体とする獣骨である。炭化種子は同定不能のものを1点検出した。(詳細はV章1・2)

**F-16** (図III-73、表4・10・16)

**位置・立地**：R-43区 標高43.20～43.40m付近の平坦面

**規模**：0.50×0.42/0.08m

**確認・調査**：R-43区を包含層調査し、VI層上面まで掘り下げたところ、Vb層の落ち込みの中にいびつな円形に橙色土が分布している状況を検出した。Vb層が焼けたものと判断した。Vb層の落ち込みは自然の作用によるものである。焼成面はVb層下位である。伴う遺物はない。

**時期**：不明であるが、確認層位および包含層の出土遺物より、縄文時代中期前葉から後期前葉の間の遺構と考える。(大泰司)

**フローテーション成果**：焼土部分をフローテーション法にて処理した。その結果、焼骨片群、炭化種子を検出した。焼骨片はシカ・ネズミの骨と、種類不明の魚類の骨片である。炭化種子はニワトコ属・ウルシ属・同定不能のものである。(詳細はV章1・2)

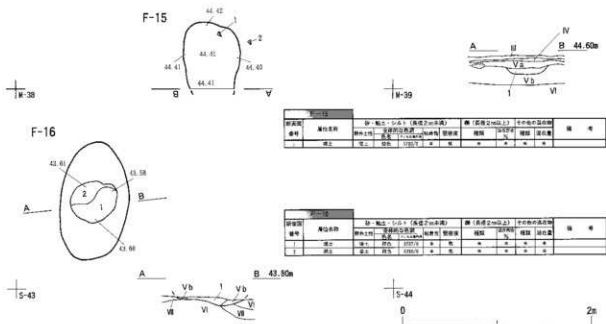
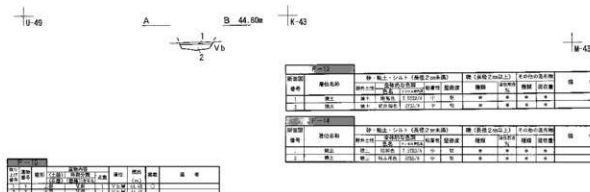
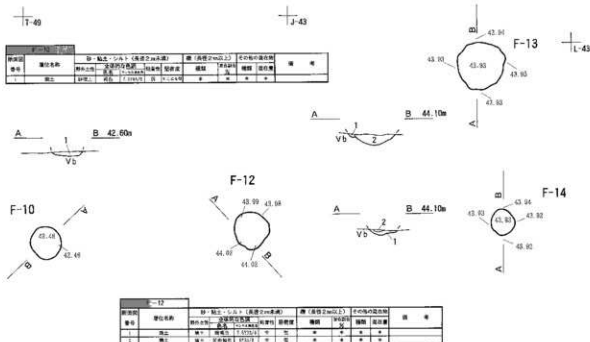


図 III-73 F-10・12・13・14・15・16

## (5) 柱穴状の小土坑

13か所から検出した。同時期のものと仮定すると、配列としては、おおよそ円形配列の可能性も模索できる（SP-9・4・12・8・11又はSP-9・3・5・2又はSP-15・10・12・8・11等）が、確定的ではない。SP-13・14としたものはフラスコ状土坑P-51に伴うものと判断し、欠番となった。時期は不明だが、SP-1覆土中から縄文時代後期前葉の土器が出土している。また八雲町浜松2遺跡や栄浜1遺跡、森町濁川左岸遺跡における同様の小土坑の例については、縄文時代後期前葉の可能性はある。

SP-1~12（図Ⅲ-74・75・112、表5・11・17）2003年に検出

位置・立地：R-47区、S・T-46・47区 調査区北側（海側）、標高42.40~42.80m付近の緩斜面  
規模：直径0.18~0.38/深さ0.20~0.47m

遺構名：調査区	規模	遺構名：調査区	規模
SP-1：S47	0.20×0.18/0.13×0.13/0.33m	SP-7：S47	0.18×0.18/0.12×0.12/0.20m
SP-2：T47	0.19×0.19/0.10×0.10/0.23m	SP-8：T46	0.23×0.21/0.07×0.07/0.47m
SP-3：S47	0.38×0.35/0.23×0.21/0.21m	SP-9：S47	0.20×0.19/0.14×0.14/0.24m
SP-4：S47	0.24×0.22/0.14×0.14/0.42m	SP-10：S46	0.29×0.29/0.14×0.12/0.40m
SP-5：T47	0.21×0.21/0.14×0.13/0.42m	SP-11：R47	0.20×0.19/0.15×0.13/0.26m
SP-6：T47	0.21×0.21/0.14×0.14/0.32m	SP-12：T46	0.20×0.19/0.11×0.10/0.24m

確認・調査：H-10調査終了後、周辺のⅧ層を下げ、最終面の調査を行ったところ、周囲の調査区に直径20~30cm前後の黒~黒褐色土の落ち込みを複数所検出した。それぞれ半截し、断面の覆土が明瞭に周囲のⅧ層と区別でき、形状が柱様あるいは人為的掘り込みと思われる落ち込み12基を柱穴状の小土坑と判断した。覆土は黒色土V層から成るものが多く、掘り込み面はV層中であると思われる。平面形は、いずれもほぼ円形である。断面は、下に行くほどすばまっているものと、まっすぐに下に伸びているものがある。SP-3は皿状の落ち込みで、他とは形状が異なる。SP-1の覆土からフレイク1点と縄文時代中期前半の土器片2点、後期前葉の土器片1点、SP-8・11の覆土から礫が出土している。当初P-51の柱穴もSPとして認知していたが、土坑に伴う付属遺構と判断した。H-10と切りあうSP-1・2・3・5・8についてはH-10の方がより新しいか、またはH-10廃絶直後にSPが掘り込まれたものとする。

時期：不明である。SP-1については縄文時代後期以降の可能性はある。（新家）

SP-15（図Ⅲ-74・75、表5・11・17、図版39-4）2004年に検出

位置・立地：R-47区 標高42.60~43.00m付近の平坦面

規模：0.21×(0.22)/0.25×(0.22)/0.21m

確認・調査：Ⅷ層上面で、黒褐色土の落ち込みに礫が埋没している状況を検出した。覆土を除去した時点で明瞭な壁面と底面を検出し、小土坑と判断した。不整な円形の平面形である。Ⅷ層主体の土である覆土1層の間にⅧ層主体の2層が薄く入り込んでいる。埋め戻しの可能性がある。壁面はややオーバーハングする。坑底は中央が浅く凹む。掘り込み面は検出面より上である。覆土上位から中位にかけて拳よりやや大きめの礫が1点入り込んでいる。

時期：不明である。（大泰司）

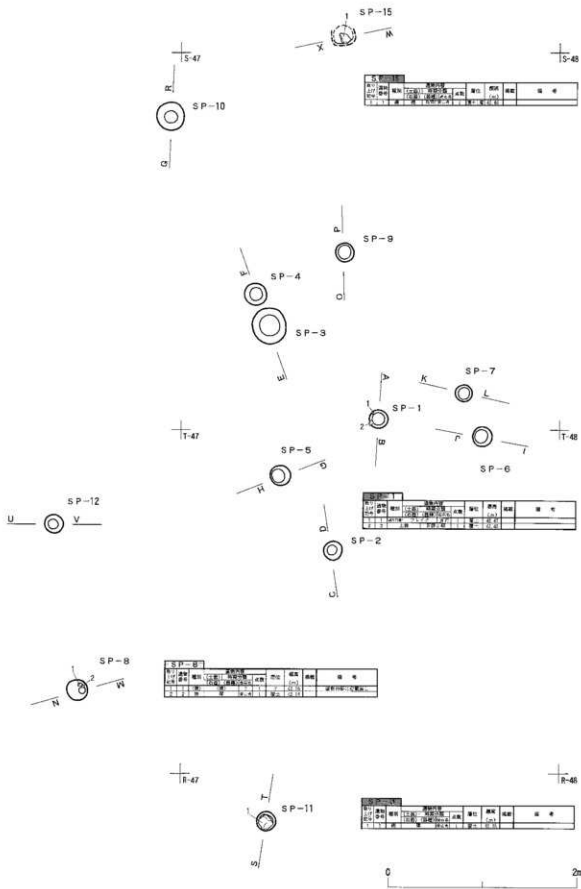


图 III-74 SP(1)





## (6) 集石（礫集中と配石遺構）

集石は大小合わせて6基検出した。縄文時代後期前葉と思われる配石遺構が4基検出した。S-1はフラスコ状土坑を伴う石組である。又、S-2は大型の配石遺構である。これは、調査区内において扇形の弧の形状をした配列を確認した。しかし調査区外へ続く。この時期は扇形の中心で検出した土器をもとにすると、縄文時代後期前葉大津式期の可能性がある。石組がS-4・5については大型住居H-14が埋没する過程で設置されたものである。住居調査時にIV群a類土器とともに検出したものである。

S-1（図Ⅲ-76・112、表6・12・18、図版39-5・6）

位置・立地：P-45区 標高42.40~42.80m付近の緩斜面

規模：配石：0.92×0.76/0.26m

付属土壌：1.34×1.18/1.84×1.64/(0.88)m

**確認・調査：**Vb層中位で、黒色土の落ち込みに礫の方形をした配列を検出した。まず配石を調査したところ、被熱した礫によって石組が造られていた。そこで覆土1・2層を採取し、フローテーション法にて処理した。採取した土は特に被熱した様子は肉眼では窺えなかったが、炭化種子が検出された。配石の平面形は方形に近い六角形である。北辺に位置する礫（図Ⅲ-76-1）を設置した後、順次次の礫（同2から3・4・5と同7から8・9）を南側へ向って据えて、全体を形造る。最後に北東隅の角をなす比較的小型の礫（同6）を据えている。配石を半載して土層を確認した段階で、下に暗褐色土の入り込みを確認した。土坑の覆土を想定し、半載した・半載終了時点で明瞭な壁面と底面を検出し、土坑と判断した。不整な楕円形の平面形で、その長軸は石組の長軸とほぼ合致する。土坑の上部に礫を据えたものと判断した。覆土4から坑底直上の6層まではV~VIII層が混じり合ったものである。埋め戻しの可能性がある。坑底はほぼ平坦であるが、中央が凹む形状である。掘り込み面は検出面より上であるが配石の検出状況からほぼ同じと考える。土坑について、配石以外の付属遺構はない。

**時期：**出土遺物と配石の形状から縄文時代後期前葉の可能性が高い。

（大泰司）

**フローテーション成果：**石組み内部の土（覆土1層）は赤色味を帯びていないが、構成する石には被熱の痕跡があった。そこで石組み内の土をフローテーション法にて処理した。その結果、焼骨片群、炭化種子を検出した。焼骨片はシカを主体とする獣骨であり、種類不明の魚類の骨が1点混じる。炭化種子はウコギ科・キハダ属・ウルシ属・クリ属・クルミ属が検出された。他に同定不能のものを検出した。（詳細はV章1・2）

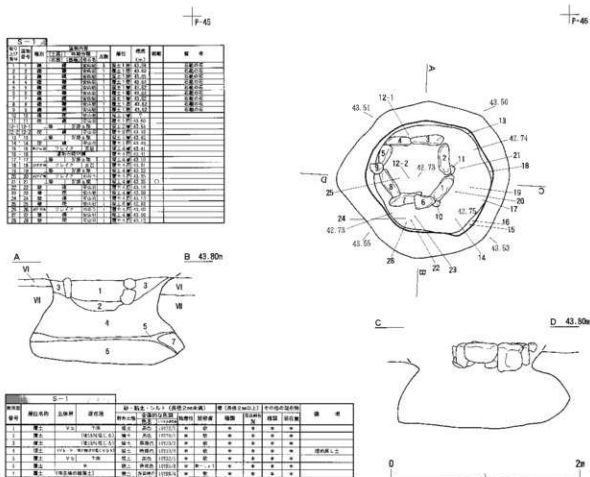
S-2（図Ⅲ-77・112・139・140、表6・12・18・27、図版40-1・2、カラー図版5-1・2）

位置・立地：S-44・45区、T-45区 標高42.40~42.80m付近の平坦面から緩斜面にかけて

規模：配石を直線的に捉えた場合：10.0mの長さ

配石を楕円形の一部として捉えた場合：外周12.16（長軸）×6.72（短軸）/内周10.64（長軸）×4.40（短軸）mの同心円状をした楕円の弧部分が約170°の角度で検出された。

**確認・調査：**表土除去後、III層上面において大型の礫の配列を確認した。配石を想定して掘り下げたところ、Vb層中位で礫が並んでいるものと判断した。掘りかたはもたず、人頭大の礫と一抱えほどの礫を置いたものとする。礫は三次郎川の川岸に類似する礫が多くあり、それをういた可能性がある。配石は楕円形を思わせる曲線を描く。場所によっては2列一組を思わせる状況である。壁面にピンポールを差し込んで確認したところ調査区外にもまだ続いている。去年の調査区からは配列のある



図Ⅲ-76 S-1

礎の記録はない。そこでC字型ないしは弓形のような形状を想定する。しかし、認識不足の為、配列を認知できなかった、あるいはH-10の構築時に抜きとられた等の可能性はある。またH-10の図(図Ⅲ-17)において示されている調査区の境界から検出した礎について、S-2との関連を考慮する必要がある。

設置面は45ラインの土層堆積等で確認したところではVb層中位のあたりと考えられる。ただし特に生活面を検出することはできなかった。時期は礎の設置面と考えられる層位とほぼ同じ高さで大津式のまとまりを検出(図Ⅲ-77-67・Ⅲ-112-1)した。

破碎等を考慮すると、検出部分の礎は66点と想定できる。加工の痕跡があった礎は3点であり、そのうち石器は2点で、いずれも台石(図Ⅲ-77-36・Ⅲ-139-18/Ⅲ-77-47・Ⅲ-140-19)である。

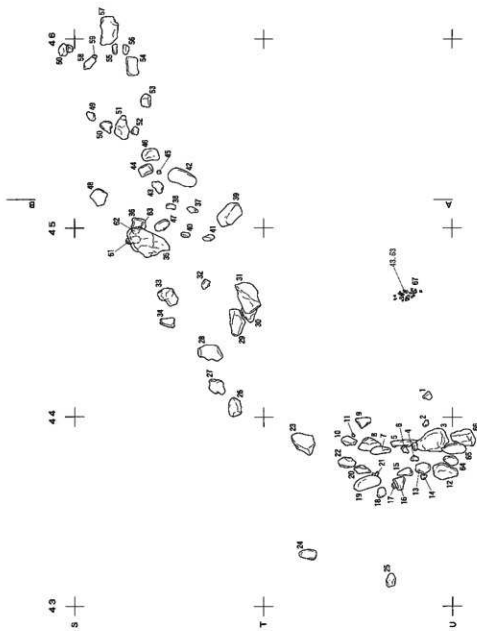
時期：検出状況と遺物出土状況から縄文時代後期前葉の可能性が高い。(大森司)

S-3 (図Ⅲ-79、表6・18、図版40-3)

位置・立地：T-35区 最終面における標高43.00~43.20m付近の平坦面

規模：0.34×0.15/0.04m

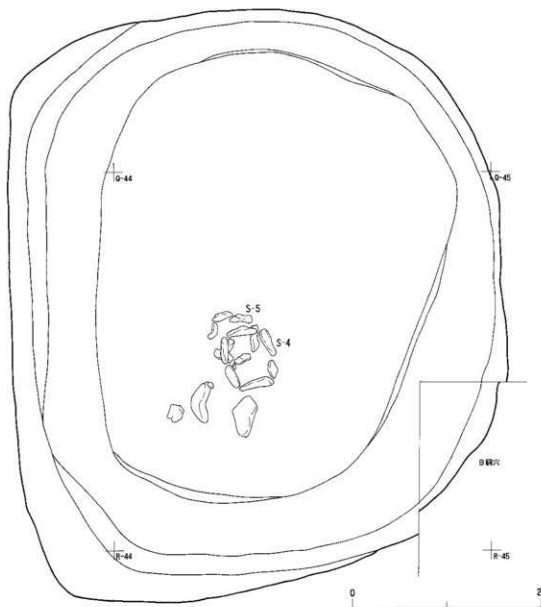
確認・調査：包含層調査中、Va層において、丸みを帯びた円～垂円礎状を呈する、長径1cm程度の小さな礎が、密集している状況が認められた。人為的に集められた可能性があると考え、遺構と判断した。この礎の分布範囲を記録した後、半截し土層断面を観察したが、掘り込み等の状況は認められなかった。なお、出土した自然礎106点については、観察表(表26)を作成した。



断面	位置	层位	厚度	岩性	说明
43	43	IV	1.5	砂岩	
44	44	IV	1.5	砂岩	
45	45	IV	1.5	砂岩	
46	46	IV	1.5	砂岩	
T	T	IV	1.5	砂岩	
U	U	IV	1.5	砂岩	
... (repetitive entries for various sections and layers) ...					



图 III-77 S-2



図Ⅲ-78 S-4・5(1)

**時期：**決め手となるものがなく正確な時期は特定し難いが、周囲の包含層の出土遺物から考えると、縄文時代中～後期であると推測される。また、層位的には、IV層（B-Tm）の降下年代（約1,000年前）よりは古いといえる。（末光）

S-4・S-5（図Ⅲ-78・79、表6・12・18、図版40-5）

**位置・立地：**Q-44区 標高43.40～43.60mの平坦面に構築されたH-14の覆土4層から検出

**規模：**S-4：0.68×0.46/0.23m（方形の石囲い部分のみ）

S-5：0.44×0.43/0.12m（方形の石囲い部分のみ）

**確認・調査：**H-14を調査中、土層観察用の土手部分から安山岩の石組を検出した。土層断面からは2段に石が積み上げられている様子が確認された。竪穴住居を思わせる掘り込みの痕跡や柱穴は認められなかった。土層観察用の土手ははずすと方形の石組が二基切り合っている状況が観察できた。

炉はいずれも礫が長方形に配されたものである。S-5の方がやや正方形に近い。その軸はいずれも北東-南西だがS-5の方がやや東-西寄りである。炉の北東側に大型の長楕円礫がふたつ配されている。上面観の楕円形長軸方向を平行にして南-北に並ぶ。その軸がS-5の長軸方向と同一で、礫の検出レベルがS-4より低い。1対の配石と石組炉が対応する例が後期前葉に多いことから、最終的にS-5に伴うものとして平面図化した。S-4はH-8覆土3層中に据え置かれたものである。S-5はH-8覆土4層上面に据え置かれたものである。取り上げ番号2の礫については覆土1層から、穴を掘って設置したものと考える。

S-4は方形の北辺をなすひとつの大型礫(図Ⅲ-79-S-4-8)を据えた後、東辺(同6・5)、西辺(同1・2)を北から順に設置し、最後に南辺(同4)を据えている。S-5は方形の西辺をなす礫(図Ⅲ-79-S-5-9)を設置後、北辺(同7・3)、南辺(同8・2)を西から順に設置し、最後に東辺(同1)を据えている。S-4は炉石の1点が台石であった。東辺の南側の礫である。他の炉石の礫については両遺構とも使用痕が認められなかった。

**時期:** H-14について、覆土3層と覆土中位からの出土遺物の状況、そして石組炉の類例から、縄文時代後期前葉の可能性が高い。(大森司)

**S-4フローテーション成果:** 石組み内部の土(覆土1層を主として2層上部を一部含む)は赤色味を帯びていないが、石組みの形状が炉と考えられるものであった。そこでその土をフローテーション法にて処理した。その結果、焼骨片群、炭化種子を検出した。焼骨片は鳥類の骨と獣骨に加えて魚類の骨が出土した。鳥類の骨と獣骨は種類が不明であるが、鳥類については大型の水鳥が混じる。魚類は不明なものが多い中、サメ・ニシン・カレイ・鮭が混じる。サメの中にはネズミサメの椎骨が1点混じる。炭化種子はキハダが果実片および種子片を合わせて78点出土しているのが目立つ。他にニワトコ属、ブドウ科、クリ属、そして同定不能なものを検出した。また人工遺物として焼粘土塊を1点検出した。(詳細はV章1・2)

**S-5フローテーション成果:** 石組み内部の土(覆土2層)は赤色味を帯びていないが、石組みの形状が炉と考えられるものであった。そこでその土をフローテーション法にて処理した。その結果、焼骨片群、炭化種子を検出した。焼骨片は魚類の骨が多くそこに鳥類の骨と獣骨が混じる。いずれも種類は不明である。炭化種子はニワトコ属、キハダ属、ミズキ属、そして同定不能なものを検出した。(詳細はV章1・2)

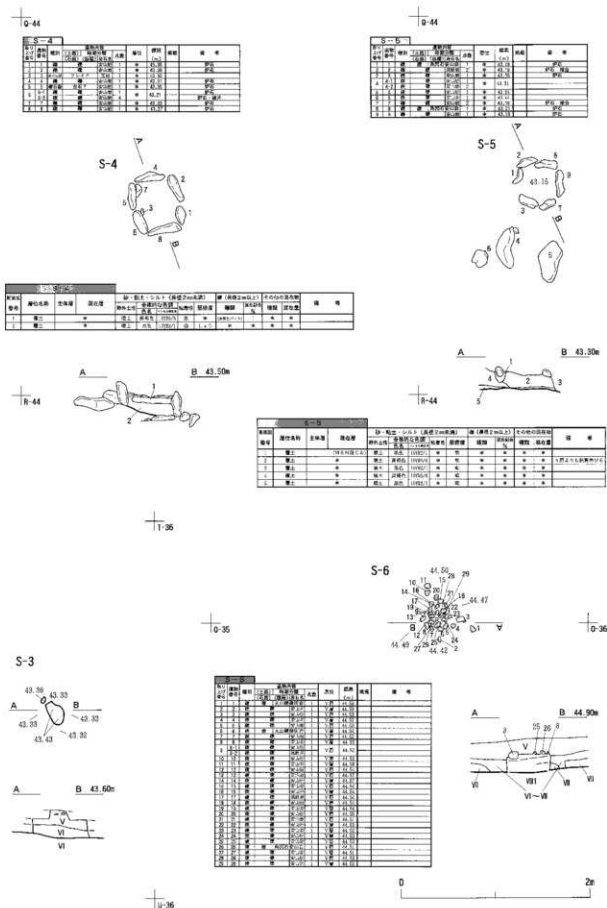
**S-6** (図Ⅲ-79、表6・18、表6・12・18、図版40-4)

**位置・立地:** N・O-35区 最終面における標高44.20~44.40m付近の平坦面

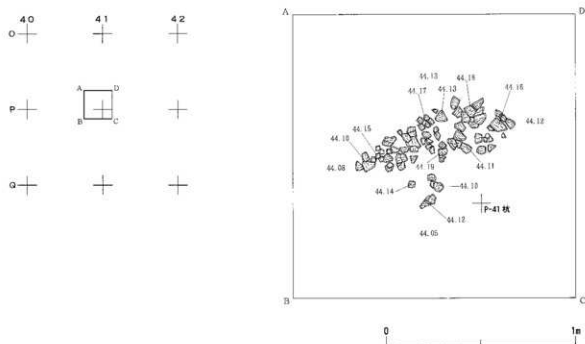
**規模:** 0.61×0.49/0.75m

**確認・調査:** 包含層調査中、Vb層において、拳大程度の、丸みを帯びた礫(円~垂円礫状)が、密集している状況が認められた。人為的に集められた可能性があると考え、遺構と判断した。出土状況を記録した後、南西側の遺物を取り上げ、グリッドライン沿いにトレンチを設け、土層断面を観察したが、掘り込み等の様相は認められなかった。なお、出土した自然礫44点については、観察表(表26)を作成した。

**時期:** 決め手となるものがなく正確な時期は特定し難いが、周囲の包含層の出土遺物から考えると、縄文時代中~後期であると推測される。(末光)



図III-79 S-4・5(2)・3・6



図Ⅲ-80 O-40・41区土器出土状況

### (7) 遺物の集中出土

Ⅶ群土器、擦文時代前期の土器がその場で割れた状況で出土した。また別にその場で母岩を打ち欠いた状況と思われる痕跡を検出した。フレイクの集中はいくつかあったが、特徴的なものであったため、FC-1と呼称して接合作業を行った。このふたつの遺物出土状況について記載する。

#### Ⅶ群土器の出土

O-40・41区土器出土状況 (図Ⅲ-80・115、表24、図版3-5)

位置・立地：O-40・41区 確認面における標高44.10m付近の平坦面

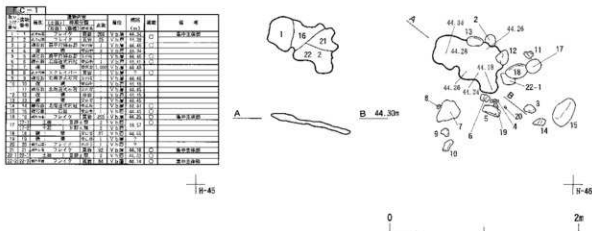
規模：(分布範囲) 0.86×0.44m

確認・調査：包含層調査中、Ⅲ層、Ⅳ層 (B-Tm) を掘り下げた後、Va層で土器がまとまっている状況が確認された。破片はすべて同一個体のものであると判断され、部位は、口縁部、胴部の下半付近までみられたが、底部の破片は認められなかった。この出土状況を実測し、破片の半数を取り上げた後、土層断面を観察するためトレンチを設けたが、遺構等の人為的な状況は認められなかった。

時期：出土土器から、擦文時代と考えられる。

(末光)





図Ⅲ-81 FC-1

## フレイク・チップ集中

FC-1 (図Ⅲ-81・122・135・140、表7・13・19・25)

位置・立地：G-45区 標高44.00~44.60m付近の緩斜面

規模：0.80×0.44/0.06m

確認・調査：VI層上面で黒褐色土の落ち込みに頁岩フレイクがまとまって入り込んでいる状況を検出した。黒褐色土を除去したところ木根跡の穴にその場で頁岩の原石を叩き割り、そこに廃棄したことがわかった。原石は一種類の頁岩で同一母岩と考えられる(図Ⅲ-122-76)。周辺からは北海道式石冠が4点(図Ⅲ-81-6・Ⅲ-135-59とⅢ-81-14・Ⅲ-135-58)を掲載、他はⅢ-81-9・11)と偏平打製石器が2点(図Ⅲ-81-3・Ⅲ-135-56とⅢ-81-5・Ⅲ-135-57)出土している。フレイクの集中主体部には縄文時代中期前半の土器が混じっており、P-29出土土器(図Ⅲ-102-3)と接合、あるいはH-1・3出土遺物(図Ⅲ-83-4)と同一個体の可能性がある破片も出土している。

時期：包含層の遺物出土状況と出土遺物から縄文時代中期前半の可能性ある。(大泰司)

FC-1以外のフレイク・チップ集中は7ヶ所検出した。いずれも小発掘区(2×2m)に満たない漠然とした範囲にフレイク・チップをよく含む土を検出した。図化はしていない。そのうちの1ヶ所D-42-d区のものについては手で回収できるフレイクを取りあげ後、周辺の土をフローテーションマシンによって洗浄し、微細なフレイク(チップ)を回収した。Va層にて検出し、周辺の遺物出土状況から統縄文時代の可能性がある。(表25・表V-6-2)他の6ヶ所は微細なフレイク(チップ)をよく含む土を検出し、フローテーションマシンで洗浄したものである。H-45-b区、K-40-b区、B-45区においてはVb層にて検出し、具体的な時期は不明だが縄文時代前期~後期の可能性がある。M-37-d区、L-38-b区、M-38-a~L-38-c区においてはⅢ層~Va層にかけて検出し、具体的な時期は不明だが、縄文時代前期~後期あるいは統縄文時代の可能性がある。(表V-6-2) (大泰司)

## 2 遺構の出土遺物

### (1) 土器類 (図Ⅲ-82~115 表20 図版41~81)

\*住居出土の土器 (図Ⅲ-82~98、表20-1~4、図版41~53・62~70)

H-1 (図Ⅲ-82 図版41・82~83)：1は床面HP-2に埋められていた深鉢である。頸部で打ち欠かれており埋壘炉として用いられていた。割れ口は摩滅している。底部は人為的な欠損。H-1から2グリッド離れた北東側の斜面から口縁部の破片が出土し、接合した。残存部から、4単位の波状口縁と考える。単軸絡条体地文で、不ぞろいだが同じ蹄鉄形の文様が胴部上半に連続する。Ⅲ群b-2類に相当。2と3は床面でそれぞれまとまって出土した土器である。2は3単位の波頂部が想定される小型深鉢、3は鉢形で、平口縁の一箇所に凹部があり、片口を思わせる。4は壁面と斜面下に位置するP-27出土の破片が接合した。5は覆土上位から出土した土器で胎土等を比較し、Ⅲ群b類土器の小型な器形の破片と判断したものである。床面出土遺物および埋壘が大安在B式のころの土器の組成をある程度反映していると考えられる。

H-2 (図Ⅲ-82 図版41・82~83)：1は口唇部に沈線文を持たない椀形式土器である。頸部より口縁側は沈線文を持たない。H-2より斜面上に位置するP-31の覆土、H-2より斜面下位のVe層とした、掘り上げ土層の遺物と接合した。ただし接合破片はVa~VI層にかけて出土しており、Ve層より下位の黒色土Vd層からの出土もある。2はH-2覆土中から出土したⅢ群a類土器の底部破片である。H-2の調査者は1により、調査区南西盆地状をした上流側の流路側の掘り上げ土が溜まっている土層(Ve層)は少なくとも縄文時代中期中葉より後のものと判断した。

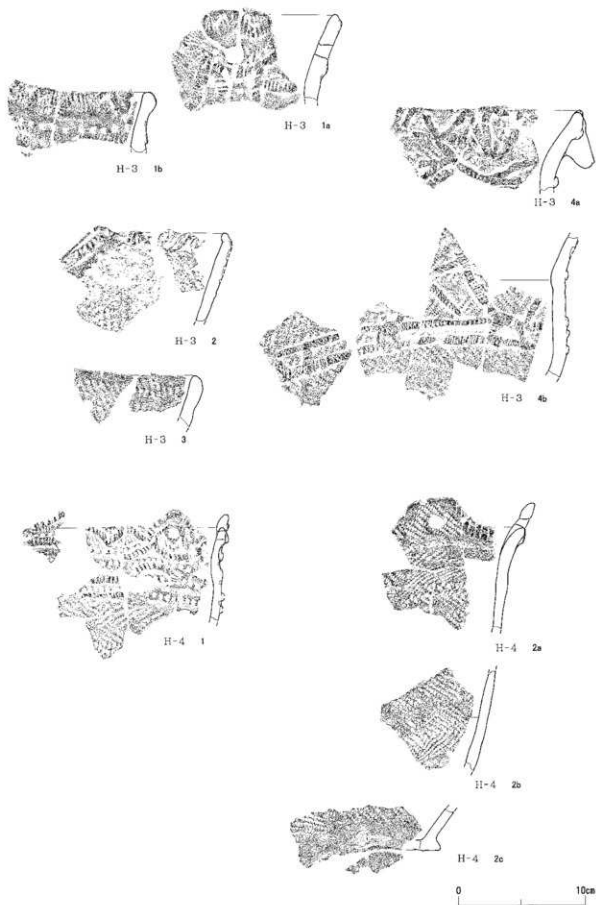
H-3 (図Ⅲ-83、図版82~83)：いずれもⅢ群a類土器。1はH-3を掘り込んで作ったH-1覆土遺物とH-3覆土遺物、H-3の立地する平坦部で出土した土器が接合した。図示した土器は摩滅が著しい。2は表面の剥落が著しい。同じ波頂部の破片と考えられるが割れ口が摩滅しており接点がなかった。3は覆土の比較的床面に近い高さから出土した破片である。地文のみの土器破片だが、Ⅲ群a類のうちでも新しい土器と考える。4はH-1覆土遺物とH-3覆土遺物、H-3の立地する平坦部で出土した遺物、H-3に対して南西側斜面下出土遺物(P-34覆土出土を含む)や、北東側斜面下出土遺物(FC-1に混在した土器を含む)と広い範囲から出土した土器である。張り出す突起部分が特徴的である。

H-4 (図Ⅲ-83、図版82~83)：いずれもⅢ群a類土器。1はH-4より北東側斜面でまとまって出土したものと、H-4から出土したものが接合した。2はH-4より北東側斜面の広範囲で散点的に出土したものと、H-4およびそれと切り合うH-1、H-3から出土したものである。これらは一部南西側斜面にも及ぶ。焼成が良くないためか縮まりのない胎土であり、このような特色は三次郎川右岸遺跡の縄文時代中期中葉の土器によく見られるものである。

H-5 (図Ⅲ-84、図版42・64)：1はⅢ群b類土器の埋壘である。炉をなしていたと考えられ、口縁部のおおよそ半分は打ち欠かれている。住居の内側を向いた部分、方位で言えば南側が欠損している。2は覆土中位(主に7層)から破片がまとまって出土した。3単位の波頂部には渦巻き文との類似を思わせる短沈線がある。Ⅲ群a類あるいはⅢ群b-1類に属するもの。3は覆土中位(主に7層)から破片がまとまって出土したⅢ群b-1類土器。胴部破片の一部は床から出土した。包含層ではH-5より斜面上位からの出土である。口唇には沈線による渦巻き文。4は覆土下位と斜面上位からの出土遺物が接合した。5は無文地の波頂部で床面からの出土である。6は覆土中位と下位そして斜面上位からのものが接合した。7は埋壘であるH-1-1と同じ文様と器形で、より小型の土器である。



図III-82 住居跡出土土器類(1)/H-1・2



图Ⅲ-83 住居跡出土土器類(2)/H-3・4



图Ⅲ-84 住居跡出土土器類(3)/H-5

図示したうち左側の小破片が当住居の覆土出土である。縁辺が打ち欠かれており、三角形をした再生土製品の可能性がある。覆土1層下位の礫集中から出土した。8は床面出土である。埋裏と比較すると住居の時期を反映している可能性がある。9は覆土中位から出土したもの。Ⅲ群a類土器で、2と同様に中期中葉の胴下部破片と考える。10は1・J-46区、L-41区といった遺構より20mほど離れたものと覆土のものが接合した。4はⅢ群a類、6・7はⅢ群b-2類に相当する。5・8~10は胎土等から判断してⅢ群b類に分類した。

**H-6** (図Ⅲ-85、図版42)：1は底面際に縄文施文帯を設け、その上部には不整な網目状絡条体を施す。覆土の中位以上からのものと周囲の包含層出土のものが接合した。当遺跡ではこのような底部際まで節が明瞭な縄文を施すⅣ群a類土器は口縁部に貼付帯を有する傾向がある。

**H-7** (図Ⅲ-85・86、図版42・43)：1~5はⅣ群a類土器。1~3は覆土中からまとも出土した。1は1個体まとも出土した。胴部上半に最大径を持つ土器である。条痕充填文様を持つ。条痕は区画内において等間隔ではない。2は胴部の最大径より上からまとも出土。3は周囲の包含層の破片2点が接合した。大津式に類似する波頂部と横走する縄文に特徴がある。4・5は覆土からの出土。4は大津式の大形土器の破片。等間隔の整った条痕を充填したもの。5は沈線文を有する小型器形の底部である。

6・7はⅢ群a類土器。いずれも覆土中からまとも出土した。6はH-10・19および周辺の包含層出土のものが接合した。円筒上層式に起源を持つ細い隆帯の貼付文を持つ。7は隣接するP-53からも同一個体の破片が出土している。貝殻を立てたような形状の突起を持つ。

**H-8** (図Ⅲ-86・87、図版43・44・65)：1はⅢ群b-1類土器。覆土上位の黒色土落ち込みと下位である覆土8層のものが、同形の住居H-14覆土の中位、覆土4層の遺物、そして、傾斜的にH-8より斜面上方の包含層から広範囲(K~O-32~44区)にわたり散点的に出土した遺物が接合した。

2~7はⅣ群a類土器。いずれも覆土上位、黒色土層からの出土である。2~4は周辺包含層遺物と接合した。2は球形の胴部に半截竹管の刺突による充填文。3と4は無文の壺。5は底部際まで縄文を施文する底部。6はⅢ群b類の可能性もあるが、胎土の質と色調から時期比定した。7は器表面の調整時に条痕がついたものである。当期の充填文に用いるような条痕である。8・9はⅢ群a類土器。8は打ち欠き痕があり、再生土製品製作途中の可能性がある。壁面際、覆土7層からの出土である。9は覆土上位黒色土層からの出土である。Ⅳ群a類の可能性も考えたが胎土の質と色調から時期比定した。H-8では住居廃絶後の窪みへⅣ群a類をまとめて廃棄した状況が考えられる。

**H-9** (図Ⅲ-87・88、図版44・66)：1・2・4はⅢ群b類土器である。1は埋裏で炉の可能性もある。底部は人為的な欠損と考える。8m離れた発掘区の包含層出土のものと接合した。2と3は榎林式である。掘り上げた土が再流入したと思われる覆土2層から出土したものと包含層出土のものが接合した。隣接するK-39区に破片はまともであった。2は3より新しい時期のものであり、頸部隆帯の半截竹管押し引きに特徴がある。3は輪積り痕から剥落したような破片。Ⅲ群b-1類に分類した。4は床面直上の覆土1層のものと、覆土3層のものが接合した。当住居の時期に近いものと考えられる。5・6は再生土製品。Ⅲ群b類土器を素材とし、5はb-1類。いずれも中央に穿孔を持ち、5は覆土2層、6は3層からの出土。6は打ち欠いた後、擦りによる成形痕跡。

**H-10** (図Ⅲ-88、図版45・66)：いずれもⅣ群a類。1は上部黒色土層からまとも出土した。横走する縄文地文の小型深鉢。2は図示した左下の小破片が床面からの出土である。トリサキ式の胴部を思わせる平行沈線による渦巻き文様が認められるが、口縁部文様帯が大津式の磨消文様と共通するため大津式と判断した。3~7は床面からの出土。3・4は横走する縄文地文。5は口縁に貼付帯。

6・7はミガキ調整によって無文地の胴下部を持つ底部である。7は周辺の包含層出土のものと同接合。H-11(図Ⅲ-89、図版45・46・62・65):いずれもⅢ群a類で、円筒上層c式前後のものである。4はb式の可能性がある。H-11廃絶後、覆土上位の黒色土あるいは黒色土の混在する割合が高い土層からの出土である。3・6は隣接する包含層のVI層遺物と接合している。口縁部文様帯が残る1~4については矢羽根状縄線圧痕を隆帯上に押し込んでいる。5はT字形の土製品で、横方向に貫通孔を持つ。L縄線を表面に押し込める。裏面を下に置いた際、地面と接する部分について焼きが甘い土器から剥離したのではなく、製作時に焼成した際の設置面と考えた。2・6の底面は編み物圧痕の上からミガキを施した状況である。6は3の胴下部の可能性がある。7の底面形は楕円形である。

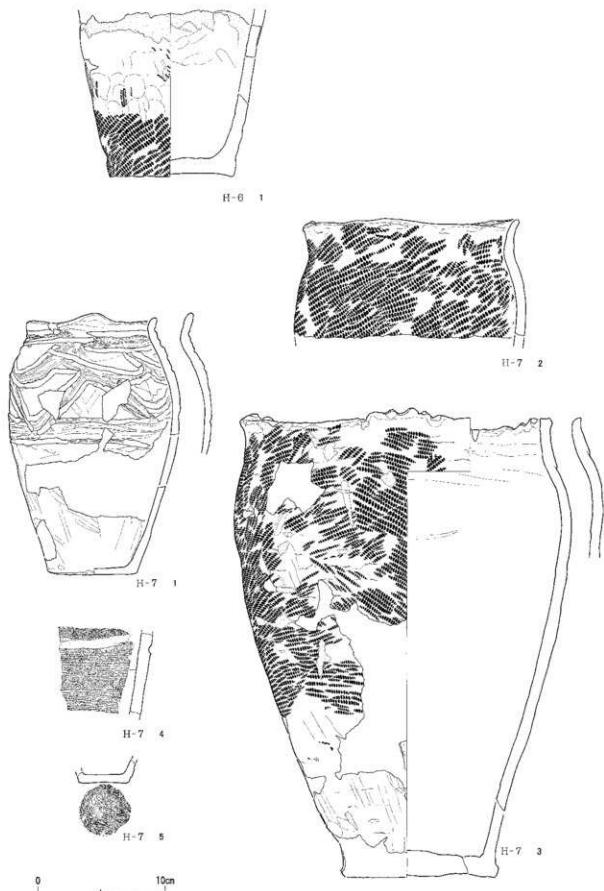
H-14(図Ⅲ-90・91、図版46・47・67・68):1~11・13・14はIV群a類、12・16・21はⅢ群b類、15・17・20はⅢ群b-1類、18・19はⅢ群a類である。IV群a類は覆土3層以上、覆土上、中位からの出土である。1・2・3・5・6・9は覆土3層からまとめて出土した。1は2単位の浅鉢である。整った条痕による充填文。2は2本一組の沈線で施文。3は草本の茎による刺突充填文。規則的な3単位の文様を思わせるが、強いミガキで文様が消されて規則性が崩れている。5は折り返し口縁で無節縄文が横走する。6は3単位の小型深鉢。9は波頂部を縄文原体で押し込んでいる。4は覆土上位のものと同遺構の北西側斜面でより下位から出土したものが接合した。横走する縄文地文であり、2単位波頂部は押し込めなどの形状から大津式の時期のものと考えられる。7は覆土上位にまとまっていた破片が、覆土中位や、同形の住居であるH-8との間の空間、そして、より斜面上方の包含層からやや低いところにいたる広範囲(O~R-32~47区)にわたり散点的に出土したものである。P-46区からの出土が多い。10は覆土中位から上位にかけて散点的に出土したものが周辺の包含層のものと接合した。10は焼成が良好で、3本一組の沈線による文様構成。折り返し口縁。11は覆土中位にまとまっていたものが上位のものと接合した。口縁に無文帯があり、縦方向の縄線を垂下させるように押し込められている。

8・13・14は覆土上位のものである。8は周辺の包含層のものと接合した。波頂部の押し込めは縄の可能性が高い。13・14はいずれも無節の縄文地文である。12は覆土3層のものが覆土上位のものと接合した。内外面に輪積み痕が明瞭である。縦走する縄文地文。15は覆土上位と横に位置するP-39最上位の覆土1層そして隣接する包含層から出土した。当遺跡において中期中葉の土器に特徴的ななまじりのない表面が乳黄褐色の器表面である。16は覆土下位の6層からまとめて出土した小型のⅢ群b類深鉢下半部である。張り出す底部形態である。

17~19はⅢ群a類土器でかつ中期中葉の土器である。この時期は当遺構の構築時期に推定される。17は壁際の覆土8層と覆土中位のものが接合した。18は覆土上位のものとT-49区のものと同接合した。19は覆土上位のものと遺構わきの包含層のものと接合した。V3層でまとめて出土したこの土器は掘り込みないしは掘り上げ土等の構築に関連する面を反映している可能性がある。

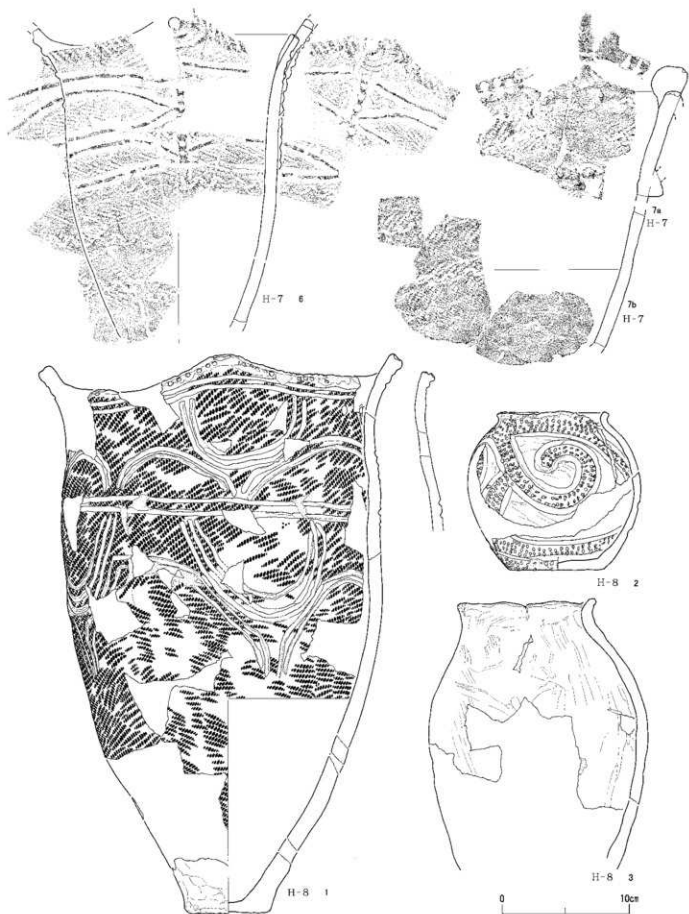
20・21は再生土製品である。どちらも中央に穿孔があり、縁辺を打ち欠き後、擦って成形している。H-15(図Ⅲ-92、図版47・69):1~4はⅢ群b-1類、5はⅢ群a類である。1・2は床面出土。1はゆるやかな2単位の波頂部である。2は縦方向施文の縄文地文。波頂部には渦巻き文に類するU字形の短沈線。H-15より斜面の下位出土包含層のものと接合した。3・4は覆土2層、5は覆土3層からの出土である。3は口唇部に沈線文。4は口唇部に平坦面をとる。縦方向施文の縄文地文の5は摩滅が著しい。波頂部中央に把手の剥落した痕跡がある。

H-16(図Ⅲ-92・93、図版47・48・69):1はⅢ群b-1類、2・3はⅢ群b類。4・5はIV群a類である。1は床面からまとめて出土し、覆土3層のものと接合した。接合残としたものは破片である。横倒しの状態で埋没していたため上面観は楕円形である。内面は調整時のものか、細かい擦痕

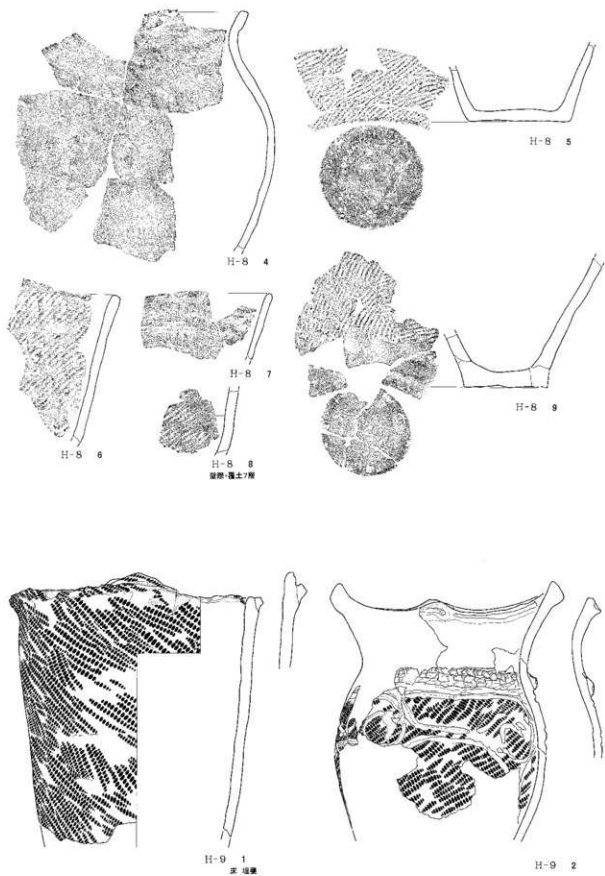


図Ⅲ-85 住居跡出土土器類(4)/H-6・7(1)





図III-86 住居跡出土土器類(5)/H-7(2)・8(1)



図Ⅲ-87 住居跡出土土器類(6)／H-8(2)・H-9(1)

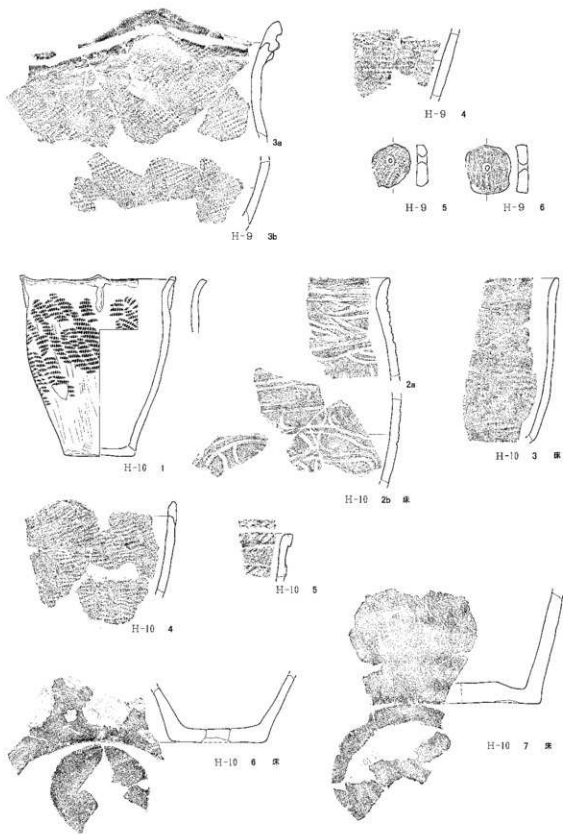


图 III-88 住居跡出土土器類(7)/H-9(2)・H-10

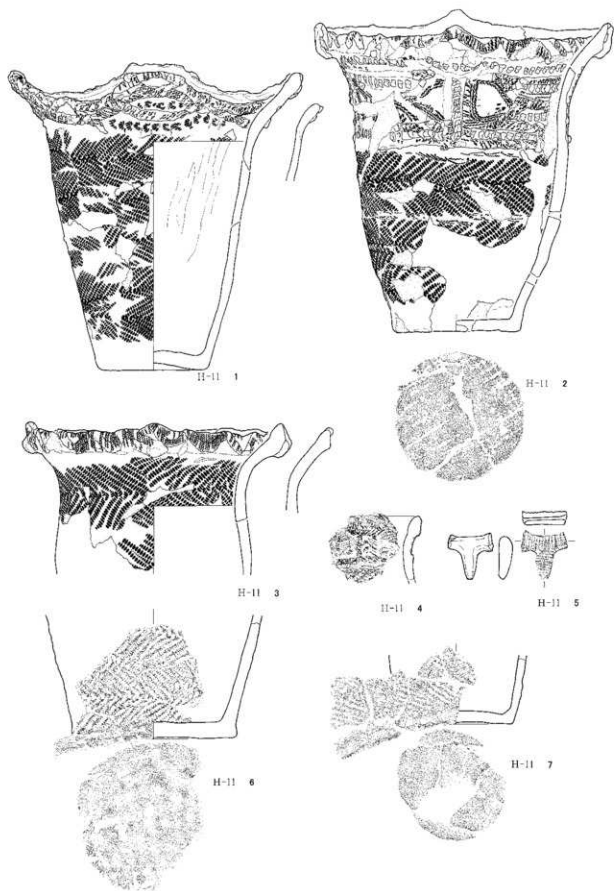
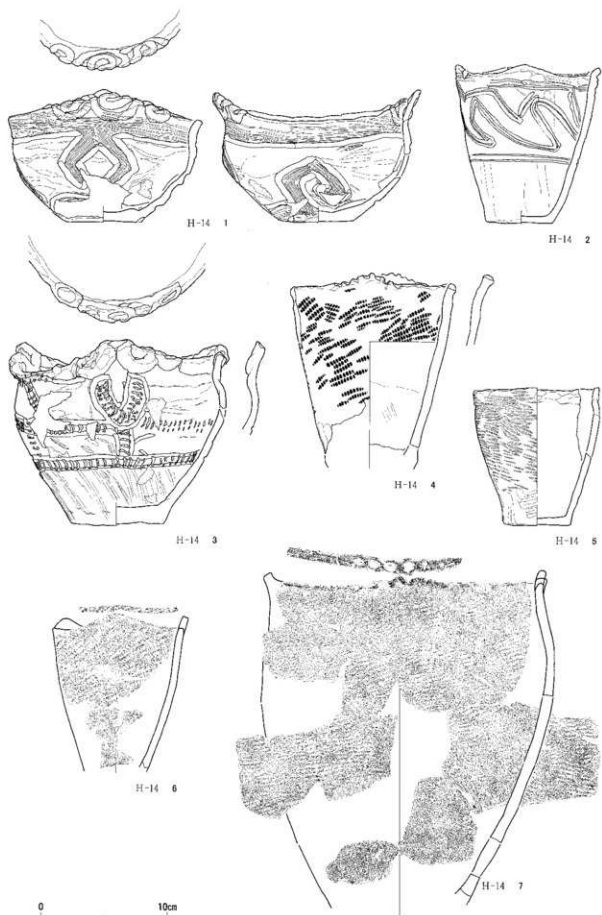
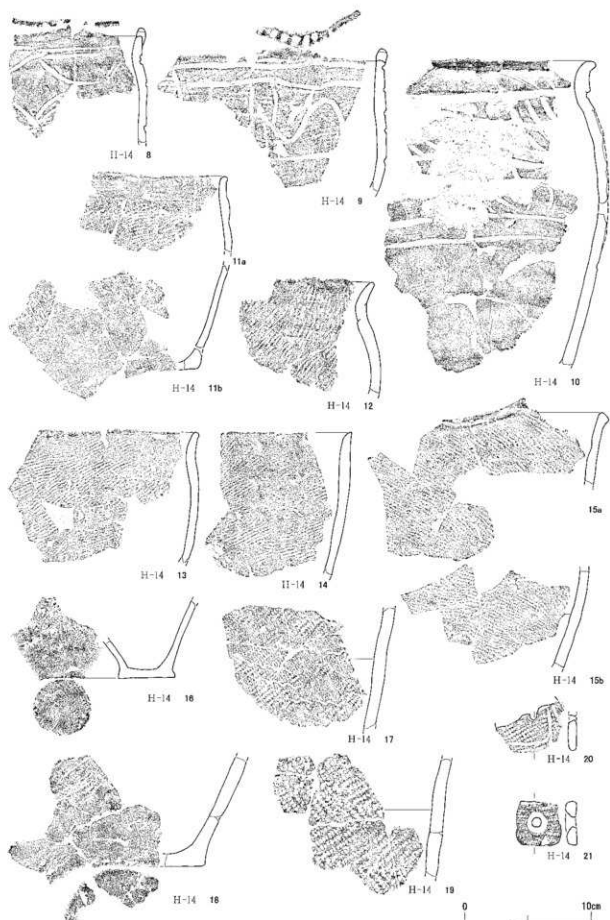


图 III-89 住居跡出土土器類(8)/H-11



図III-90 住居跡出土土器類(9)/H-14(1)



図Ⅲ-91 住居跡出土土器類(10)／H-14(2)

が横方向に巡る。2・3は小型の深鉢で、やや張り出す底部形態。2は覆土1層から、3は覆土2層から、まとめて出土。2は縦走する縄文地文。3はより小型で、縦方向の擦痕による地文。4は幅広い沈線間を半截竹管の刺突で充填する。口縁部の粘土紐の上には縄文施文。微妙な上げ底である。

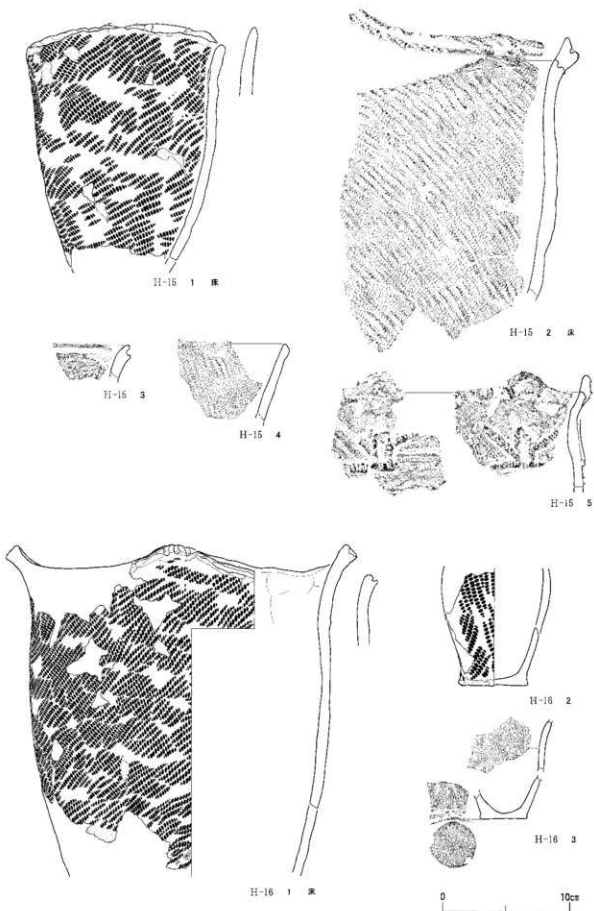
H-16覆土1層のものとK-R-41~44区のVa~V2層にかけて散点的に出土したものが接合した。Q-42区から比較的集中して出土した。5は覆土出土のものと隣接するP-42区の掘り上げ土中およびその上位にあたるV1・V2層出土遺物が接合した。ナデ調整で無文にした後、浅い沈線文を施す。

H-17 (図Ⅲ-93・94、図版48・49・69)：いずれもIV群a類である。1は横走する縄文地文。床面および覆土1層、HP-1覆土のものが接合した。6単位以上の波頂部を持つ。2は上面観楕円形。覆土1層と床面のものが接合した。3は整然とした条痕で充填文を施す。覆土1層出土のものと12m離れたT-38区、Va層出土のものが接合した。4は覆土1層出土のものと周辺の包含層のものが接合した。原体が複節のIV群a類大型深鉢は特徴的であり、同一個体破片と推定できるものはL~T-38~48区に分布し、複数の遺構覆土中からも出土する。5は5単位の波頂部を持つ深鉢であり、覆土1層およびP-72の上位覆土である覆土1・2層、および隣接する包含層遺物が接合した。

H-18 (図Ⅲ-94・95、図版49・50・69)：いずれもIV群a類である。1は覆土中位および3層の遺物と隣接するP-73覆土上位、周囲の包含層V2~3層出土遺物と接合した。破片は比較的覆土中位にまとまっていた。整然とした条痕による充填文様施文。2は覆土中位出土遺物で、周囲の包含層のものと接合した。R-42区のVa~VI層にかけて散点的に出土したものがまとまった。3単位で多段の折り返し口縁を持つ。3は覆土中位とHF-1出土のもの、そして周辺の包含層から散点的に出土したものが接合した。整然とした条痕による充填文を持つ。砂粒が多いため粗雑な印象を受ける。4は覆土3層からまとめて出土したものがR-36区の遺物1点と接合した。無節の縄文地に粘土紐を表裏に貼り付けた口縁部を持つ。5は覆土3層からまとめて出土したものがT-41区の遺物1点と接合した。4単位の波頂部には指頭圧痕がある。6は縄文を横走させた上をナデ調整。覆土中位および3層から出土したものが、L-47区出土のものと接合した。

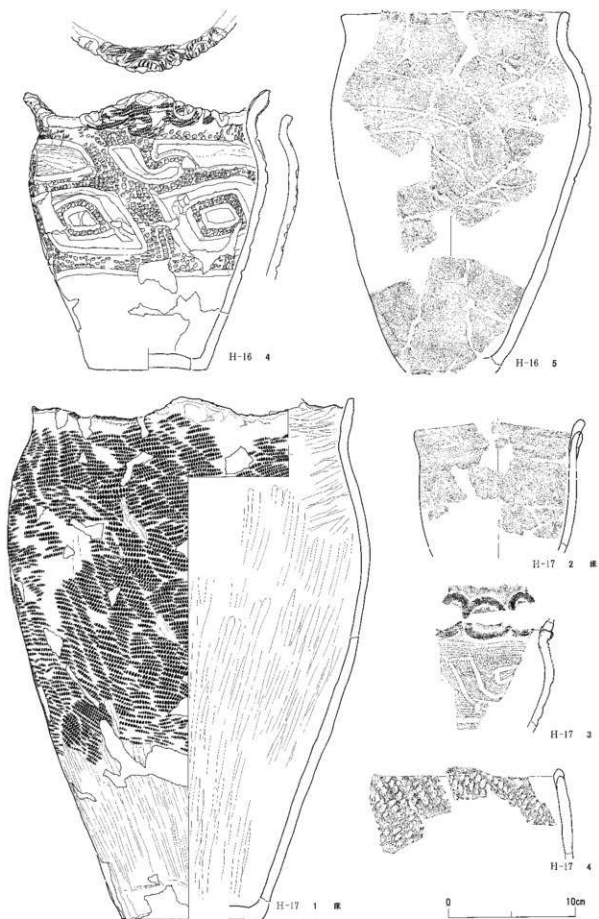
H-19 (図Ⅲ-95・96・97・98、図版50・51・52・53・70)：1~12はIV群a類、13・14・15・16・17・19はIII群b-1類、18はIII群b類に分類した。1は覆土1・2および上位から出土したものとQ~S-34~45区のもの接合し、掘り上げ土中のもおよびVa~V3層のものが接合した。焼成良好だが、中心軸は斜めにゆがむ。折り返し口縁で不整な条痕による充填文。2は覆土1層とH-14覆土上位のものが接合。口縁成形後縄文施文。3は覆土1層からまとめて出土したものと周辺の包含層出土のものが接合。不規則な浅い沈線文。4は覆土1層からまとめて出土。折り返し口縁、波頂部には粘土紐貼付。5は覆土1層出土のものが2層および周辺包含層のものと接合。無文地で3単位、胴部には横方向の条痕が走る。6は無文地で2単位の波頂部。覆土1層の遺物とH-14の中、上位のものが接合。7は輪積み痕を残すような縦方向のミガキにより無文地である。R-41・Q-42区でそれぞれある程度まとめて出土した遺物と覆土1層から出土した遺物が接合した。8は折り返し口縁を成形後無節縄文を横走。原体の回転痕残る。9は無節縄文が縦走する地文。内面も同一原体で縄文施文。口唇部は指頭圧痕の連続部が5か所ある。P~R-36~48区のVa~V3層から散点的に出土したものが覆土1層のものと接合。10は覆土1・2層出土のものとR-41区である程度まとまっていたものが接合した。11は覆土1層出土遺物とR-41区にある程度まとまっていた遺物が接合。10・11は不整な擦痕を充填する文様である。11は内面に輪積み痕が残る。12は覆土1層出土のもの。微妙な上げ底の沈線文を持つ土器。

13はH-16および19の床面遺物が接合した。19の方が主体である。H-16覆土3層と隣接する包含

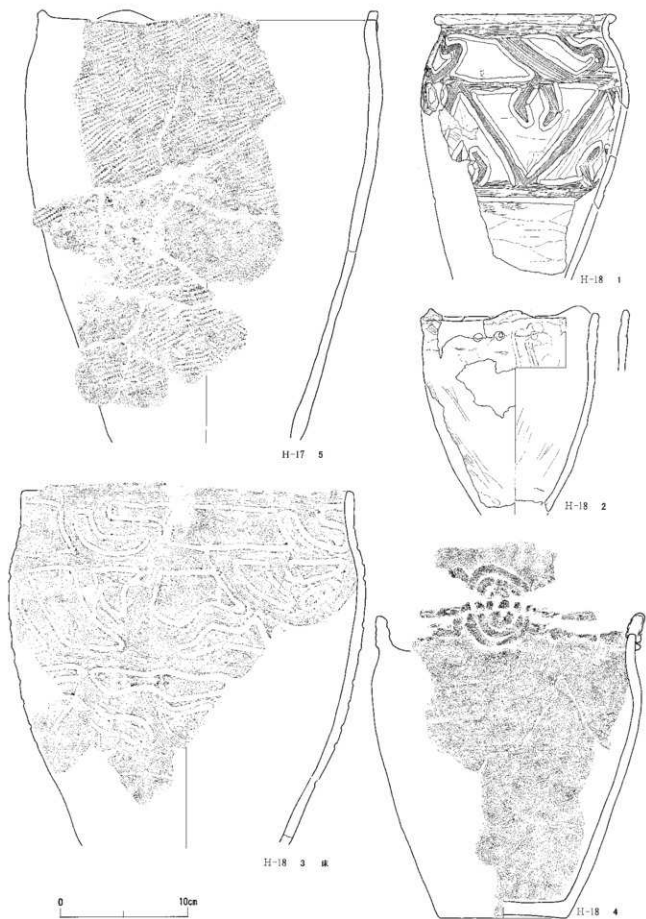


图Ⅲ-92 住居跡出土土器類(11)/H-15・16(1)

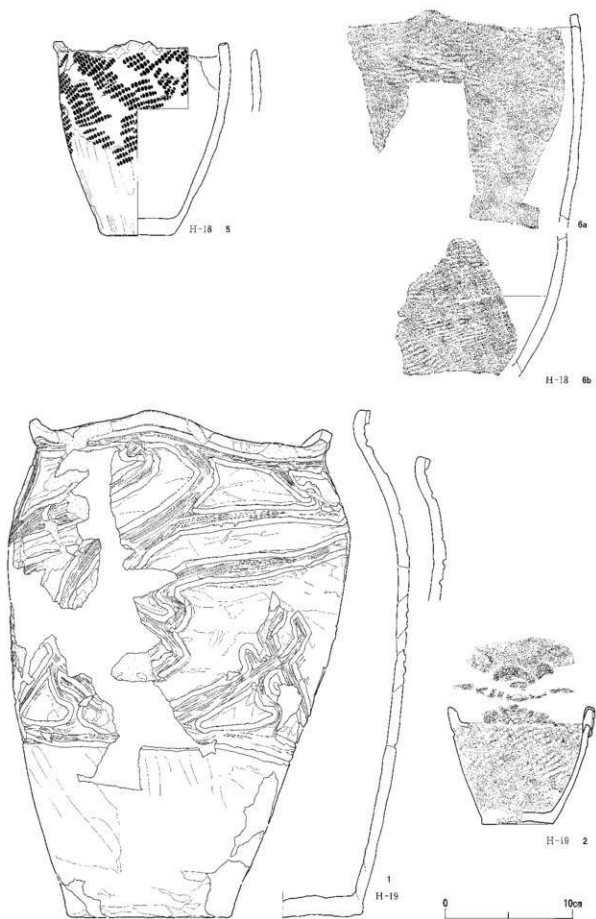




図III-93 住居跡出土土器類(12)/H-16(2)・H-17(1)



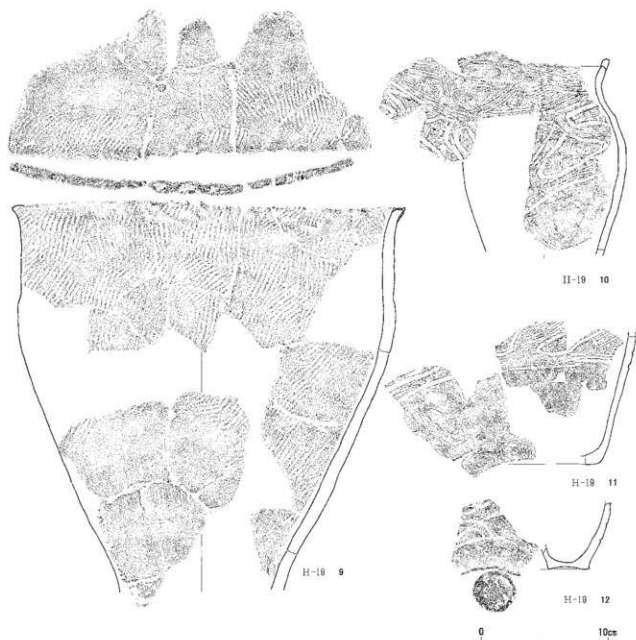
图Ⅲ-94 住居跡出土土器類(13)/H-17(2)・H-18(1)



図III-95 住居跡出土土器類(14)/H-18(2)・H-19(1)



圖Ⅲ-96 住居跡出土土器類(15)／H-19(2)



図Ⅲ-97 住居跡出土土器類(16)／H-19(3)

層のものも接合した。縦走る縄文地文。14は覆土1層と2層でそれぞれまとまっていた破片が接合した。表面の剥落が著しい。4単位で大小の沈線渦巻き文を交互に組み合わせる。15はH-19覆土1・2層出土遺物およびL～S-39～48区のVa～V5層にかけて散点的に出土したものが接合した。単軸絡条体による地文と胴部の膨らみを強調するようなすぼまる底部形態である。16は当遺跡において期中葉に特徴的なしまりのない胎土のものである。覆土1層のものとP～R-42区のものとは接合した。同一個体破片と考えられるものは150点以上出土したが摩滅が著しいため接合しなかった。17は覆土1層から出土した。結束を持つ縄文地文を持ち、波頂部頂点に渦巻き文を思わせる円形の凹みがある。18は覆土4層から出土した。鉢形の器形で、浅いRL縄文地文。19は床面出土の胴下部破片。内面はミガキ調整だが、それに伴い擦痕がつく。

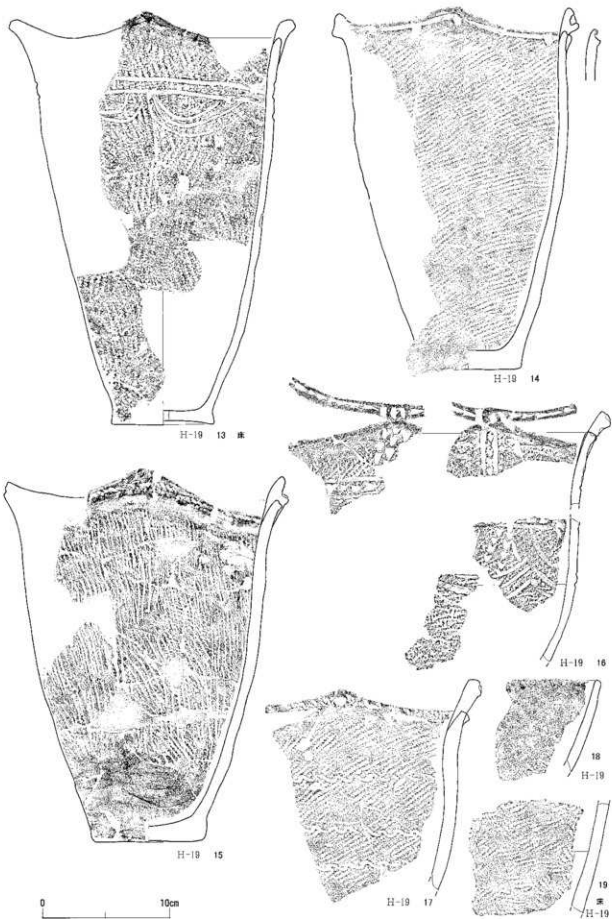


图 III-98 住居跡出土土器類(17)/H-19(4)

## \* 土坑出土の土器 (図Ⅲ-99~112、表20-5~8、図版53・62・71~79)

P-2 (図Ⅲ-99、図版71) いずれもⅢ群a類で覆土1のもの。1は口縁部の隆帯および地文にRL縄文。2は斜面下のP-10覆土のものと接合した。

P-4 (図Ⅲ-99、図版53) : 1はⅣ群a類の底部。覆土中からまとまって出土した。砂粒が動くほどの縦ミガキ調整。

P-11 (図Ⅲ-99、図版71) : 1は覆土7層出土のⅢ群b-1類。口唇部には沈線文。

P-12 (図Ⅲ-99、図版71) : 1はⅢ群a類で、覆土1層のものと隣接する包含層のものが接合した。口縁部の貼付文様が剥落している。

P-16 (図Ⅲ-99、図版53・71) : 1~4はⅢ群b類。4はⅢ群b-2類に相当する可能性がある。いずれも1層からの出土で、1・4は隣接する包含層のものと接合した。1・2は縦方向の単軸絡条体を縦方向に施文する。張り出す底部形態と微妙な上げ底。3は条痕を縦方向に施文。縁辺を打ち欠いている可能性がある。再生土製品の製作途中か。4は単軸絡条体を施文後、沈線文と円形刺突を加えている。5は覆土1層のものがA-44・45区にまとまっていたものと接合した。H-42区のものも接合している。乳褐色の胎土で、縄文施文後、隆帯貼付、その上に縄線を押圧する。

P-17 (図Ⅲ-100、図版54・71) : 1は覆土にまとまっていたものがD・E-41~44区およびB・C-46~48区出土のものと接合した。D-43区に破片が比較的多くまとまっておりVa~d層にかけて分布している。Ⅲ群a類円筒上層c式である。2は摩滅が著しい。隣接する包含層のものと接合した。Ⅲ群b類で、条線と円形刺突文を持つ。

P-20 (図Ⅲ-100、図版72) : 1はⅢ群b類である。覆土1層出土のものである。被熱によるものが摩滅が著しく、同一個体片と推定されるものがあるが接合しなかった。複節縄文を地文に持つ。

P-23 (図Ⅲ-100、図版54) : 1はⅢ群b-1類である。小型の土坑に一個体の土器が横倒しの状態であった。胎土には細砂粒が多く含まれており、粗雑な印象がある。椀林式特有の口唇の平坦面部分および胴部上半に縄文を施文している。口唇平坦面部には沈線文がない。

P-26 (図Ⅲ-101、図版72) : 1と2はⅢ群a類見晴町式に相当するものである。1は覆土1層にまとまっていたものと周囲の包含層からのもの、そしてP-39覆土1層出土のものが接合した。胎土は乳褐色でもろく、同一個体と考えられるものはより広範囲から出土している。複節縄文を地文に持つ。2は覆土2層と周囲の包含層のものが接合した。3~8はⅢ群b類である。6は坑底からの出土。3は覆土1層のものと周辺の包含層のものが接合した。4~8は覆土1層のものである。3は大安在B式に相当する口縁部破片である。粘土紐を貼付し、その側縁を沈線ができるほどにぞでる。押し引き列点を持つ。4・5は覆土1層のものである。4は縄文を縦方向に施文後、粘土紐を貼付する。その上には半截竹管の押し引き。5・6は縄文地文を持つ胴部破片。7は上げ底で、底面ミガキ調整。8は張り出す底部形態で、底面部分が剥落する。9は覆土1層から出土したⅣ群a類土器。細く短い隆帯の貼付がある。

P-28 (図Ⅲ-100、図版73) : 1はⅢ群でa類又はb-1類である。縄文時代中期中葉の土器底部である。丸みを帯びた胴部、底面はミガキ調整だが縄圧痕が数か所残る。覆土1層のものが、P-16覆土1層、C~H-43~45区出土のものと接合した。斜面の縁から下方への分布である。

P-29 (図Ⅲ-102、図版54・55・100~103) : 1は覆土1層にまとまっていたものと、L-42区にまとまっていたものが主に接合した。H-1・3・4が切りあう平坦面を基準とし、北東側斜面に主にこれらの土器片は分布するが、北西側斜面の包含層およびP-16覆土1層からのものも接合した。VI群、後北B式土器である。口唇にキザミ、擬縄線文と爪形の列点文がある。2は覆土1層および、遺構が立地する斜面の包含層のものと接合した。波頂部にはボタン状の突起がある。3はⅢ群a類、円

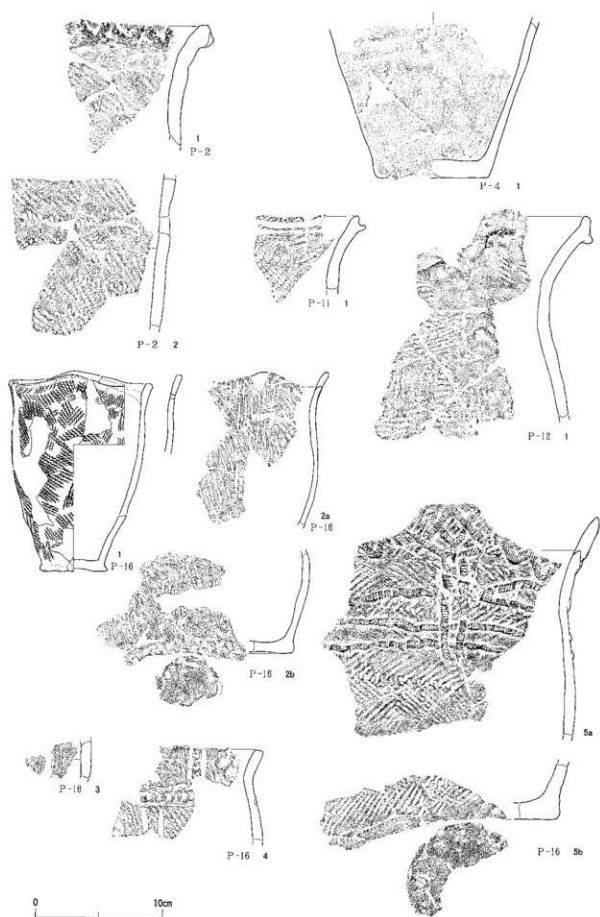


图 III-99 土坑出土土器類(1) / P-2 · 4 · 11 · 12 · 16





圖III-100 土坑出土土器類(2)/P-17·20·23·28

筒上層c式である。H-42区にまとまっていたものが、P-29覆土1層およびFC-1出土のものと接合した。H-11埋没後に斜面に廃棄されていた円筒上層c式土器群に関連するものと考えられる。ただし隆帯上の縄線はL縄であり、矢羽根状ではない。文様帯区画内は半載竹管による押し引きである。

P-30 (図Ⅲ-101、図版73)：1はⅢ群a類の底部。覆土の遺物と周辺の包含層遺物が接合した。張り出す平坦面上にまとまっていた土器である。

P-31 (図Ⅲ-101、図版54・73)：1・2はⅢ群a類。覆土からの出土である。1は摩滅著しい。波頂部にボタン状の貼付と円形の刺突列を持つ。2は波状の粘土紐貼付、その上に縄線。3は当遺構の構築時期を示すと調査者が判断した遺物である。Ⅳ群a類トリサキ式である。縄文を横走させた後、沈線文および波頂部に合わせて粘土紐貼付を行う。粘土紐は剥落している。覆土から出土した1破片が、E-44区にまとまっていた破片およびその周辺の包含層のものと接合した。

P-33 (図Ⅲ-101、図版73)：1はⅣ群a類の可能性もあったが、胎土のしまりのなさ等を勘案して、Ⅲ群a類のミニチュア土器とした。覆土1層からの出土。

P-34 (図Ⅲ-101、図版73)：1はⅢ群a類の胴部破片である。覆土からの出土。

P-36 (図Ⅲ-102、図版73)：いずれもⅢ群b-1類。1は覆土2層出土のものとG-N-38~46区の範囲で散点的に出土したものが接合。単軸絡条体地文に沈線を施す。同一原体による調整痕が内面にもかすかにある。2は覆土2層出土のものとH-8出土のものが接合した。縄文施文後沈線を施す。

P-38 (図Ⅲ-103、図版55・62・73)：1は円筒上層c式である。H-4床面に近く、最上位の覆土2層上位からまとまって出土した。結束第1種羽状縄文、L縄線施文、上げ底、方形の押し引き刺突列で充填する。2は覆土2層から出土した。サイベ沢Ⅶ式に相当する可能性がある。波頂部には焼成前の穿孔がある。3は坑底部および覆土2層出土のものが接合した。舟形の器形で、舟の軸先にあたる部分に把手を有する。

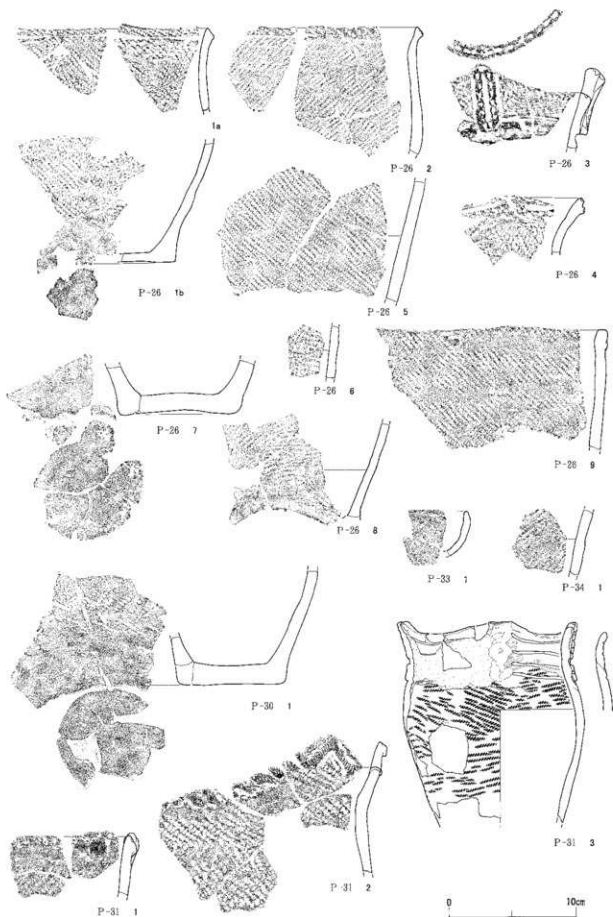
P-44 (図Ⅲ-103、図版55・56・74)：いずれもⅣ群a類である。覆土10にまとまっていたものと、隣接する包含層のものが接合した。不整な条痕による充填文。2は覆土出土の1点にP-Q-46・48区から散点的に出土したものが接合した。浅く平行な沈線による文様構成。3は覆土13層からまとまって出土した。口縁部には輪積み痕を残す。4単位の波頂部には指頭圧痕。4は覆土5層からの出土である。半載竹管を重ね合わせるように充填文様を施文する。5は覆土15層から出土した。沈線による波状文を持つ。6は覆土のものが斜面の下位P-48区の遺物と接合した。折り返し口縁で、地文原体はオオバコの可能性がある。

P-47 (図Ⅲ-103、図版55・74)：1は覆土1層からまとまって出土したⅢ群b類である。横走する縄文地文。2・3はⅢ群a類である。3は覆土1層から出土したものでR縄線を口唇部に押圧する。表面の摩滅が著しい。2は覆土1層から1点出土したものが斜面下位G-41区のVb~VI層にかけてまとまっていたものと接合した。無文で円筒上層c式の波頂部思わせる波状口縁の深鉢である。

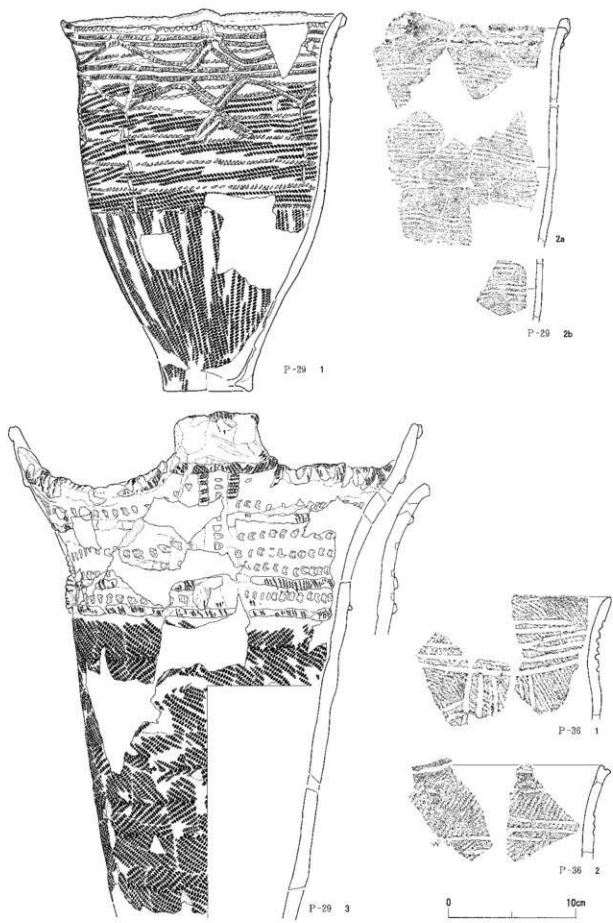
P-48 (図Ⅲ-104、図版74)：1は覆土出土のⅣ群a類で、P-62の覆土1層出土のものと接合した。整った条痕による充填である。

P-49 (図Ⅲ-104、図版74)：1・2はいずれもⅢ群a類の波頂部である。いずれも覆土のもので、1はH-1から同一個体と思われる破片が出土している。摩滅が著しい。2は隆帯上に縄圧痕がある。

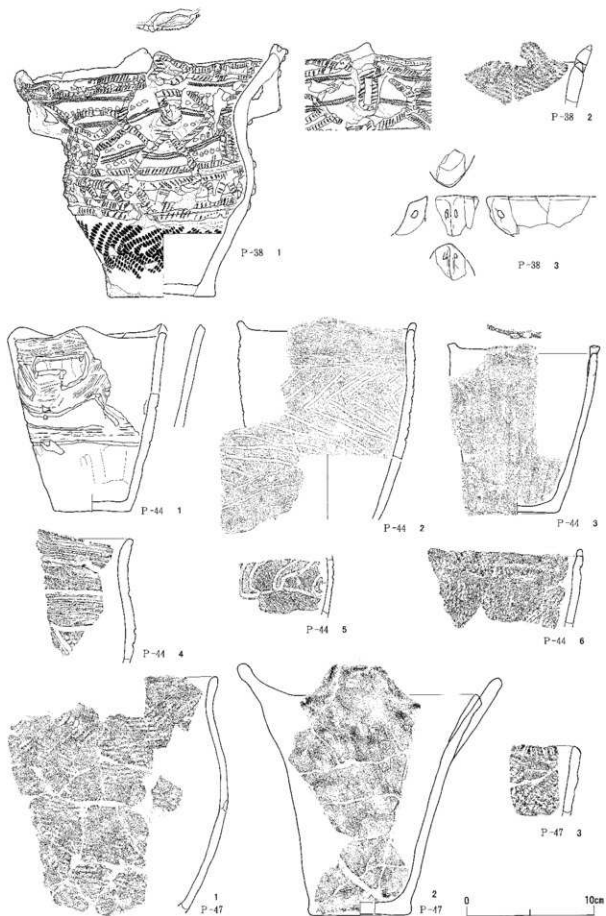
P-51 (図Ⅲ-104、図版56・74)：いずれもⅣ群a類である。1はT-49区で、2はQ-46区でまとまっていたものが覆土のものと接合した。いずれも2ないしは3本の沈線でおおよそ規則的に文様を施文する。1は縄文を充填する。3は覆土のものと周辺の包含層のものが接合した。無節縄文が横走する地文の深鉢で、同一個体と思われるものはN-T-37~51区の包含層および覆土から出土した。



図III-101 土坑出土土器類(3)/P-26・30・31・33・34



图Ⅲ-102 土坑出土土器類(4) / P-29・36



図III-103 土坑出土土器類(5)/P-38・44・47

4は覆土から出土したもので、沈線をかぶせるように重ねて、条痕充填文風である。

P-61 (図Ⅲ-104、図版75)：1はIV群a類、壺の肩部である。不整な条痕の充填文を持つ。内面には輪積み痕が明瞭に残る。覆土6層からの出土である。

P-62 (図Ⅲ-104、図版75)：1はIV群a類、覆土1層からの出土。縄文が横走する地文である。

P-63 (図Ⅲ-104、図版56)：1はⅢ群a類、円筒上層d式に相当するサイベ沢Ⅶ式である。覆土のものと斜面の上に位置するP-44覆土18層、さらに包含層から散点的に出土したものとが接合した。4単位二種類の波頂部を持ち、対向する波頂部が同じ文様である。1つは把手を持ち、ひとつは渦巻き型の立体的な装飾を持つ。

P-67 (図Ⅲ-106、図版75)：いずれもIV群a類。1は覆土3層からの出土。折り返し口縁を指頭によって成形後、縦方向のミガキによって調整する。2は覆土1層と3層およびP-84覆土中位のものに接合した。大型の器形で、整った条痕で充填文を施し、円形の刺突を加える。

P-68 (図Ⅲ-105、図版75)：1はIV群a類の底部である。底面はミガキ調整で微妙な上げ底である。覆土1層のものと周辺の包含層のものが接合した。

P-71 (図Ⅲ-105、図版56・57・75)：1～7はⅢ群b類である。1・5・7はb-1類である。7は1の破片を再生土製品とした可能性が高い。1は覆土6層と3層にまとまっていた破片および主にR-43区にまとまっていた破片が接合した。口唇部には渦巻き文起源の沈線文を持ち、3単位の大小の波頂部が交互に並ぶ。胴部には2本一組の沈線によって大木8式の文様を連想させる同心円や楕円形文が施される。底部は微妙な上げ底である。7は縁辺を打ち欠きで調整し、中央に穿孔。覆土3層の出土。2・5・6は覆土6層から出土。3・4は坑底部からの出土である。2・3・6はやや張り出す底部形態で、微妙な上げ底を持つ。2は摩滅が著しい。縦方向施文の縄文地文で、沈線および円形刺突を連続する。3は口縁部がない。6は単軸絡条体を縦方向に施文。4は口唇部には縄による連続圧痕。5は波頂部を囲むような同心円状の弧線文。口唇部には沈線文を施す。

P-72 (図Ⅲ-106、図版75)：いずれもIV群a類。1は覆土1・2層から出土。整った条痕で充填文。2は覆土1層から出土した。貼付帯を持つ。

P-73 (図Ⅲ-106、図版76)：いずれもIV群a類。1・2・4は覆土のものと隣接する包含層のものが接合した。1・4は覆土下位、2は覆土上位のものである。3・5・6は覆土のもの。5は覆土上位、6は覆土下位。1は三角形の押し引きで充填文様を施す。2は縦方向の波状沈線文、3は草本によるものか幅広い沈線により施文する。3は砂粒が目立つ胎土。4は折り返し口縁成形後、縦方向のミガキ調整。5は格子目状の沈線文を持つ小型器形。6は小型な土器の底部であり、調整時の擦痕残る。7は覆土からほぼ完形に近い形でまとまって出土したものが隣接するT-41区からのまとまりと接合した。

P-74 (図Ⅲ-108、図版76)：1はIV群a類、覆土3層からまとまって出土したものが隣接する包含層のものと接合した。縄文施文後、縦方向ミガキで胴下部を無文にする。

P-75 (図Ⅲ-108、図版58)：1はIV群a類、覆土1層から倒立した状態で出土した。S-43区でまとまって出土した破片と接合した。ほぼ完形である。

P-76 (図Ⅲ-107、図版58・76)：いずれもIV群a類である。1～3は、覆土1層から出土した。それぞれの破片が不規則に混ぜ、それらを折り重ねるようにして、埋納したかのような状態で出土した。1はオオバコ回転文地文と考えられる。2はQ-43区にまとまっていた遺物と接合したものである。口縁部成形後、縄文を横走させる。3はN～T-38～46区およびH-7・8より散点的に出土したものと接合した。T-41区のV1～3層にかけて比較的まとまっていた。大型の深鉢で、縄文を充填し

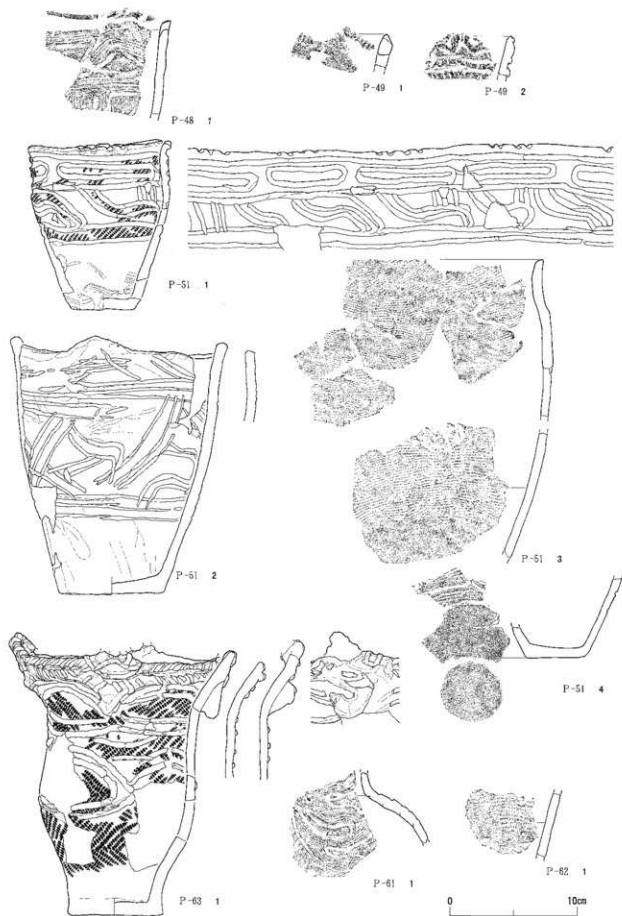


圖 III - 104 土坑出土土器類(6) / P - 48 · 49 · 51 · 61 · 62 · 63

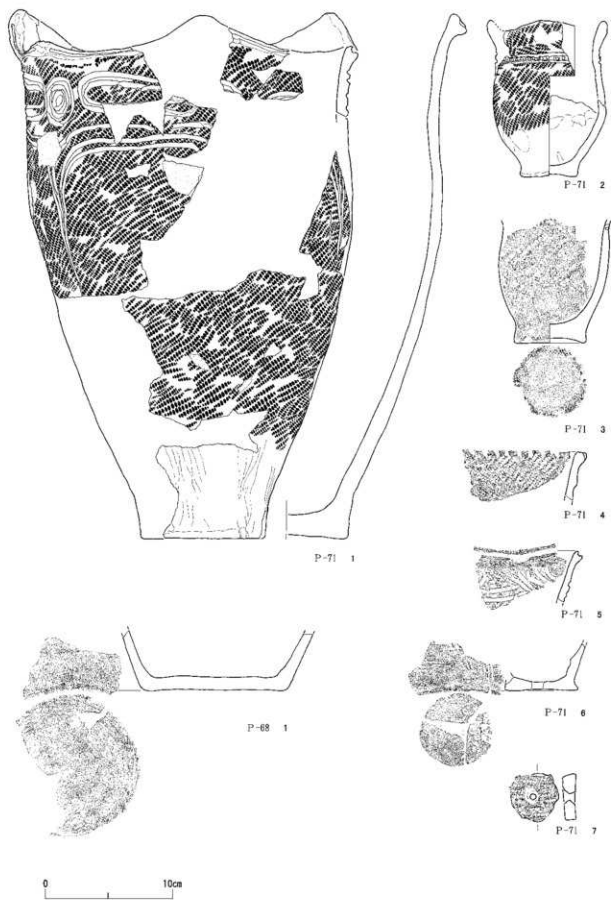


图 III - 105 土坑出土土器類(7) / P-68・71



た上に条痕を重ねる充填文様である。5単位の波頂部に表裏にまたがるように粘土紐を貼付する。

P-77 (図Ⅲ-108、図版57・76)：すべてIV群a類。1は覆土7層の遺物とQ-48区のものに接合した。胴下部がまとまって出土した。横走る縄文地文。2は覆土上位から下位にかけてのものが接合した。主に覆土6層からの出土である。条痕によって充填文。焼成良好である。台付きの浅鉢の可能性はある。3は覆土6層のものである。8の字状にねじった粘土紐を口唇部から垂下するように貼付することから、トリサキ式と判断した。4は覆土下位のものとしてS-40区のものに接合した。壺の肩部で、不整な条痕による充填文。5は坑底からの出土遺物である。横走る縄文地文である。6は覆土上位の遺物、P-71出土土器覆土3層のものに、さらにS-41区にまとまっていたものが主体となって接合したものである。RLR縄ないしは、撚りの程度が異なるL縄を撚りあわせたものである。口唇部と口縁部に貼付帯を持ち、間を無文とする。

P-79 (図Ⅲ-109、図版59・76・78)：1~4はIV群a類である。5はIII群a類である。1は覆土上位から下位にかけて接合した。横走る縄文地文。原体を回転させた時に生じる捺痕が残る。2・3は覆土のものとして隣接する発掘区包含層のものに接合した。2は覆土2・3層、3は覆土上位である。2は無文地に3本一組の沈線文様を施す。3は横走る縄文地文である。4は覆土2層にまとまっていた。輪積み痕の上から縦方向のミガキ調整を施す。5は覆土1層および中位遺物とQ-48区のものに接合した。5は摩滅が著しい。隆帯上には縄を押しやる。

P-80 (図Ⅲ-110、図版59・60・78)：すべてIV群a類。1は覆土3層の遺物と、主にQ-41区にまとまっていた遺物が接合した。焼成良好。無文地に3本一組の沈線文を施す。2は覆土上位および覆土3層のものと遺構際区包含層出土のものが接合した。口縁部が遺構から出土した。不整な条痕による充填文様である。3は覆土3層およびH-19覆土1層のものが、T-41区出土遺物とその周囲の包含層から散点的に出土したものと接合した。覆土3層から底部際部、H-19からは口縁部が出土した。3本一組の沈線文。4は覆土上位のものとして主にS-41区にまとまっていたものが接合した。横走る縄文地文施文後、縦方向のミガキで胴下部を無文とする。5は覆土3層の下位から出土した。微妙な上げ底で、底面はミガキ調整である。6は覆土3層のものが、P-38区、Q-40区のものに接合した。底面は捺痕を伴うミガキ調整。7は覆土上位のものと遺構際区包含層出土のものが接合した。2単位の波頂部。ナデ調整で無文とする。

P-81 (図Ⅲ-109、図版59・76)：すべてIV群a類。1は覆土上位のものと周辺区包含層のものが接合した。RL縄による網目状絡条体圧痕。2は覆土3層からの出土である。胴部に屈曲部があり、下部は縄文、上部は無文。3は覆土上位および、H-8の上部黒色土、N・O-42~44区において散点的に出土したものが接合した。O-43区に比較的にまとまる。縄文が横走る地文、3単位の波頂部を持つ。

P-82 (図Ⅲ-109、図版76)：1はIV群a類、覆土中位からの出土である。小型の器。

P-83 (図Ⅲ-111、図版78)：いずれもIII群b-1類で、覆土1層から出土。海綿骨針を胎土に含む。1は口唇面に縄線を施す。2は剥落が著しい。

P-84 (図Ⅲ-111、図版60・79)：いずれもIV群a類。1は覆土中位にまとまっていた遺物がP-79覆土上位出土のものと接合した。波頂部の粘土紐貼付後、縄文を施文する。2は覆土中位出土遺物とH-17の床と覆土からのものが接合した。同一個体と思われるものはN~T-39~41区より出土している。縄文地文を施した後、ナデ調整。3は覆土中位出土遺物とQ-47区出土遺物が接合。縄文施文後、不規則な沈線文を施す。4は覆土中位のものとしてP-67覆土3層のものが接合した。節の細かい縄文が横走る。5は覆土上位の出土遺物がT-45・46区包含層出土のものと接合。細い半截竹管を用いて

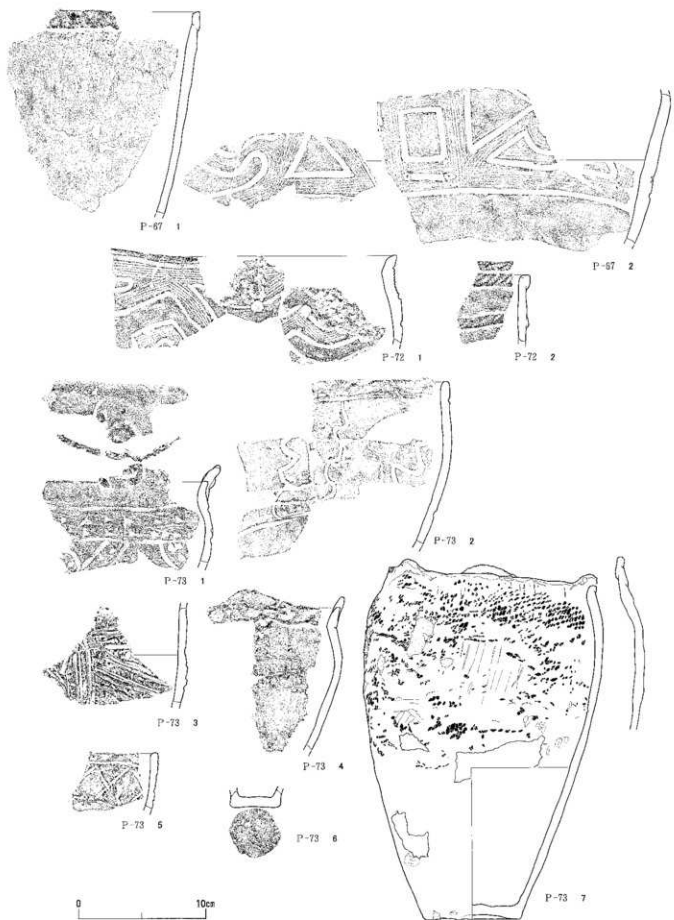
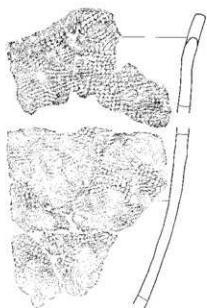
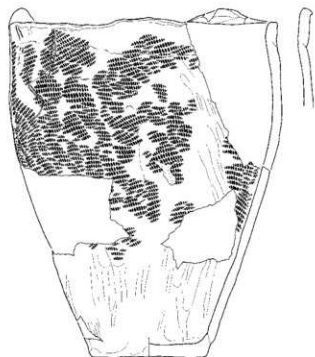


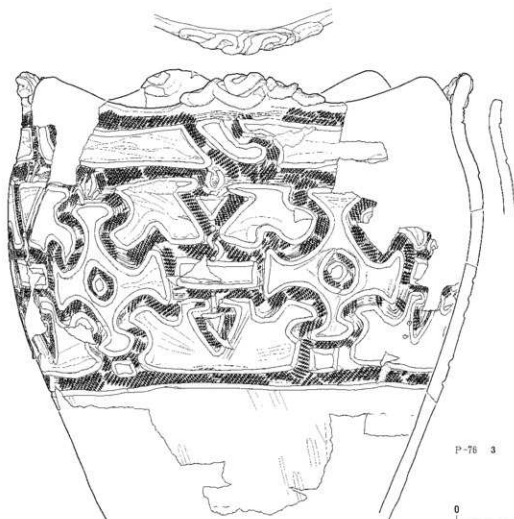
圖 III - 106 土坑出土土器類(8) / P-67 · 72 · 73



P-76 1



P-76 2



P-76 3

0 10cm

图 III-107 土坑出土土器類(9)/P-76

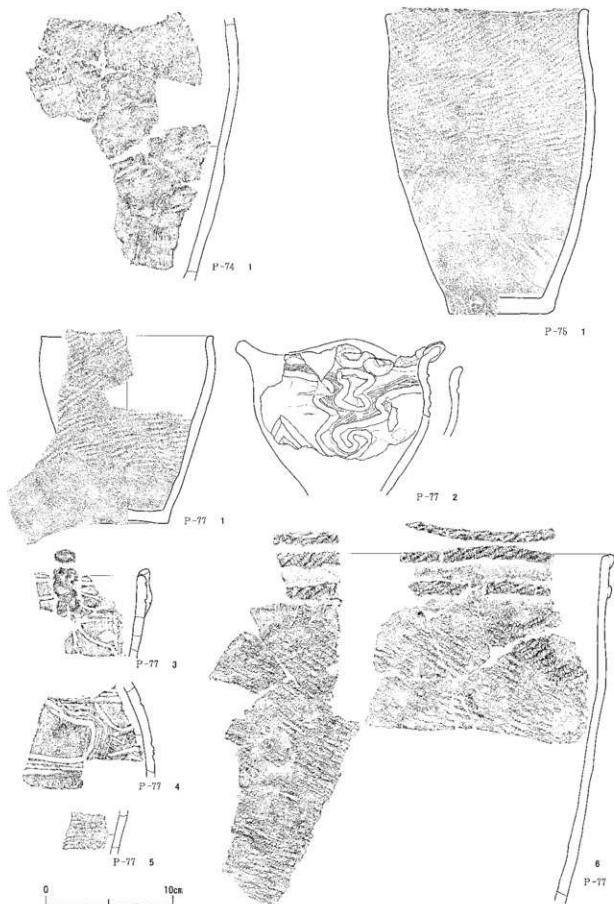
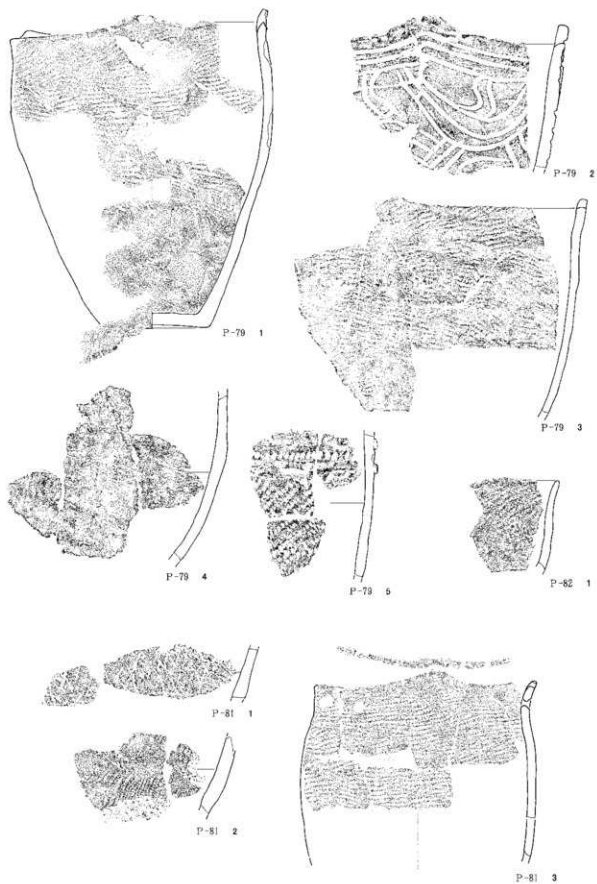


图 III - 108 土坑出土土器類(10) / P - 74 · 75 · 77



図III-109 土坑出土土器類(II)/P-79・81

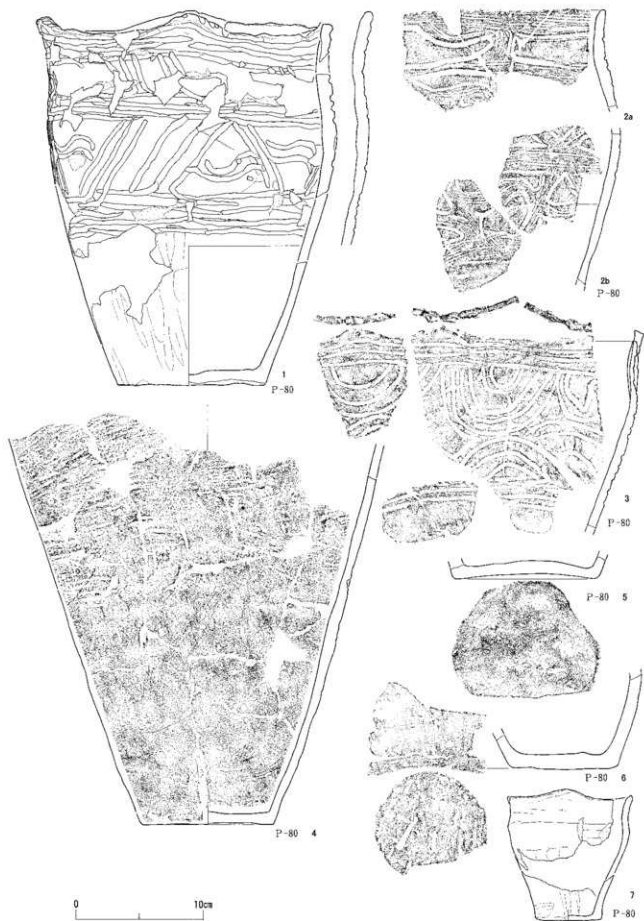


图 III-110 土坑出土土器類(12)/P-80

2本一組の沈線文。

**P-85** (図Ⅲ-111、図版60・79)：いずれもIV群a類。1は覆土中位と下位のものが接合。多段の折り返し風に輪積み痕を残し、縦方向のミガキ調整。2は覆土中位から上位にかけてのものが接合した。縦走する縄文地文と内面は丁寧なミガキ。3は覆土中位から出土した。3本一組の沈線による文様構成。4は坑底部からの出土。小型器形の底部破片。底面はミガキ。

**P-86** (図Ⅲ-112、図版60・79)：いずれもⅢ群b類。2はb-1類である。1は覆土1層の出土のものとして1~R-36~41区の範囲のものが接合した。単軸絡条体を縦方向に施文し、口唇部にも同一原体による施文。すぼまる底部形態で、微妙な上げ底。2は覆土1層からの出土である。波頂部には渦巻き文を思わせる凹部を有する。

**\*集石(礫集中と配石遺構)出土の土器** (図112、表20-9、図版60)

**S-1** (図Ⅲ-112、図版80)：1はIV群a類である。S-1の覆土4層のものが、H-8の上部黒色土層、P-61覆土上位遺物、そしてP・S-46区包含層出土遺物と接合した。文様は条痕のみで、沈線による縁取りなし。

**S-2** (図Ⅲ-112、図版60)：1はIV群a類である。配石を楕円と推定した場合、そのほぼ中央から出土した。2単位の波頂部を持つ。幅広い沈線間を不整な条痕で充填。

**\*小土坑出土の土器** (図Ⅲ-112、表20-9、図版80)

**SP-1**：1はIV群a類である。横走する縄文地文。

**\*焼土出土の土器** (図Ⅲ-112~114、表20-9・10、図版61~62・80・81)

**F-1** (図Ⅲ-113・114、図版61・62・80・81)：1~8はF-1およびその周辺で出土した。z~E-42~47区の盆地状を呈する平坦面が活用された時期を反映するものとしてこの項に図示した。この周辺に位置する焼土は検出状況からすべて縄文時代のもつと判断したが、所属時期の可能性を示す材料として提示する。1・2はⅢ群a類、1は見晴町式、2は円筒上層b式、3~5はⅢ群b類。3は単軸絡条体地文に、大木8式に起源を持つと思われる渦巻き文様を胴部に持つ。4・5は在地色が強く、4は無節の単軸絡条体を縦方向に施文後、半截竹管による沈線文。5は同一個体の破片が大量に出土したが、摩滅が著しく、接合できなかった。頸部に降帯を貼付し、把手を持つ。6・7はIV群a類。6は折り返し口縁に平行沈線文を持つものである。文様構成からトリサキ式に近いものと判断した。7は横走する縄文地文で多段の折り返し口縁を持つものである。

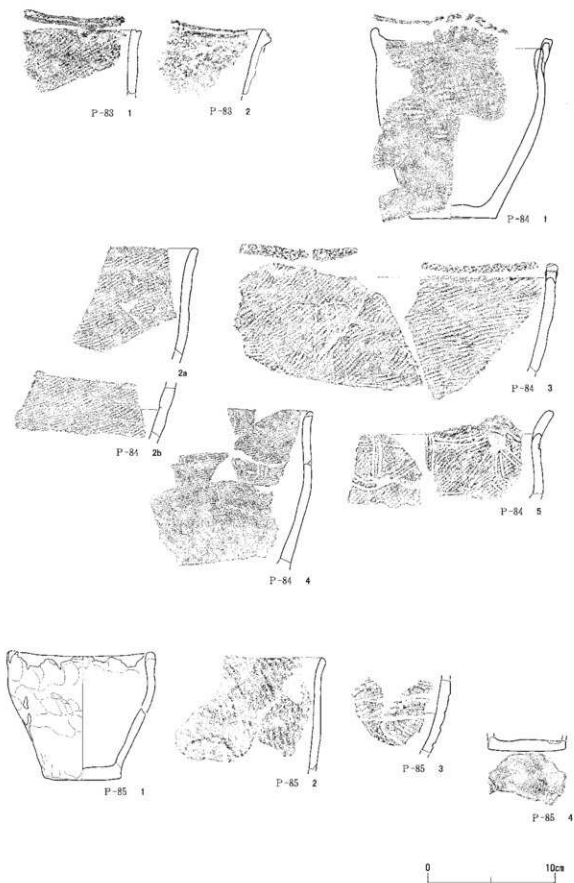
8・9はVI群土器である。8は後北C<sub>1</sub>D式。口唇部にキザミを持つ。9は後北C<sub>1</sub>式。RL縄文で、上げ底である。8はF-1の時期を示す可能性が高い。

F-1周辺の遺物取り上げ図Ⅲ-71について、土器集中a~dが示されている。複数の土器が混在するが、土器集中aの主体は5、土器集中bの主体は7、土器集中cの主体は4、土器集中dの主体は9である。9についてはむしろF-9に関連するものと調査者は判断した。

**F-3** (図Ⅲ-114、図版61)：1・2はVI群、後北C<sub>1</sub>式である。1は他の同時期のものより縄文の節が大きい。2は上げ底を持つ底部である。

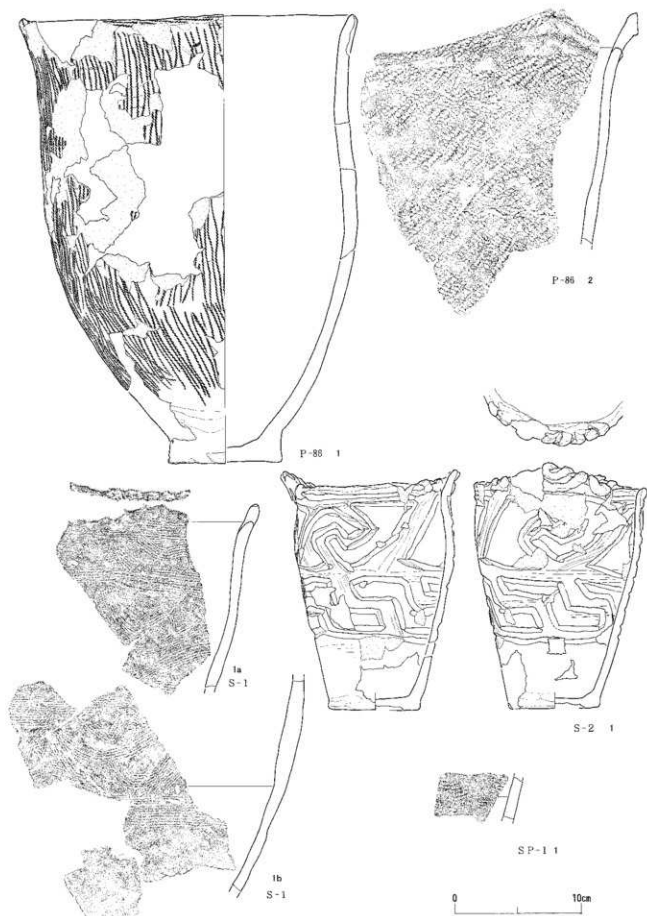
**F-5** (図Ⅲ-113、図版81)：1はIV群a類である。細い半截竹管によって口縁部は無文地、胴部は縄文地文に沈線文を描く。文様構成からトリサキ式ないしは大津式の古手と考える。

**F-7** (図Ⅲ-114、図版61・81)：1・2はVI群である。いずれもF-7とF-8の間で出土した土器である。図Ⅲ-72に示した遺物出土状況は1が主体であるが、2も混在していた。1は、後北C<sub>1</sub>式である。口唇部にはキザミ波頂部の微隆起線区画内は半截竹管による刺突が充填される。F-7・8間として出土状況図に示した。2は後北C<sub>1</sub>式前後の土器の胴部破片で作った再生土製品が割れた

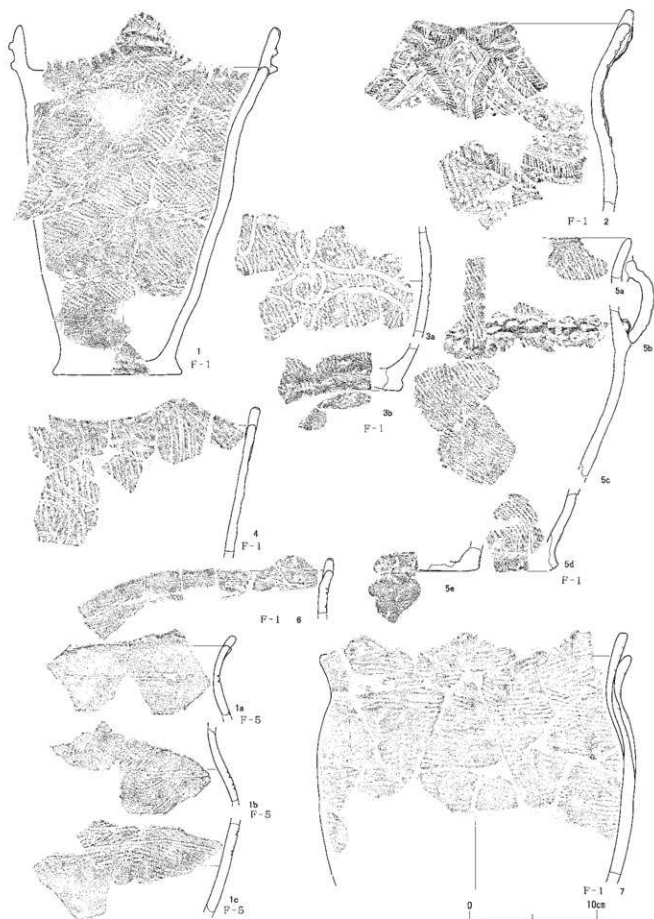


图Ⅲ-111 土坑出土土器類(13)/P-83・84・85





図III-112 土坑出土土器類(14)/P-86・集石・配石・柱穴状の小土坑出土土器類



图Ⅲ-113 烧土出土土器類(1)/F-1(1)・F-5

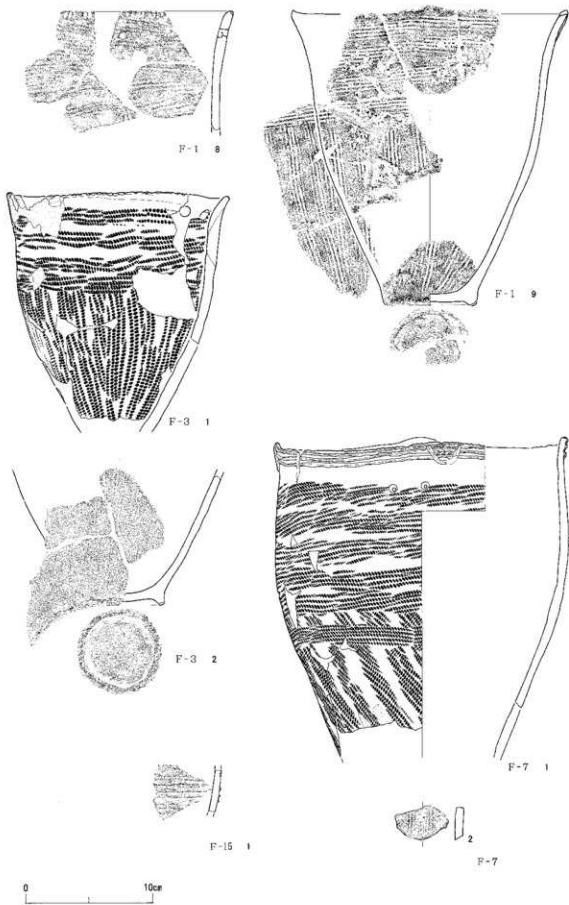
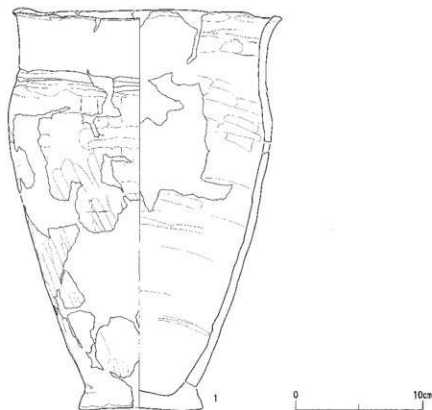


图 III-114 烧土出土土器類(2) / F-1 (2) · F-3 · 7 · 15



図Ⅲ-115 遺物の集中出土のⅦ群土器

ものである。縁辺は細かい打ち欠きで成形する。

F-15 (図Ⅲ-114・81) 1はⅦ群、後北C<sub>1</sub>式またはC<sub>2</sub>D式の微隆起線を持つ胴部破片である。

\* 遺物の集中出土 (図Ⅲ-80に出土状況を示した図Ⅲ-114、表20-10、図版62) : Ⅶ群土器である。擦文時代前期のものである。有段の肩部の名残と思われる沈線が明瞭で長い頸部は丁寧な調整が施される。胴部はケズリのような調整が上部は横方向、下部は縦方向に施される。底面は砂目底である。(大泰司)

## (2) 石器類

遺構出土の石器類をまとめて報告する。掲載の仕方等は、包含層出土の石器類と同様である。

## (1) 剥片石器群 (図III-116~122 表21 図版82~85-3)

## \* 住居跡出土剥片石器群 (1~43)

H-1 (1~4): 1は、先端部と基部を破損する石鏃である。2は、接合したサイドスクレイパーで、背面左側縁部に刃部を有する。3は、不整形なスクレイパーで、背面に礫表皮面を残す。4は、先行剥離面を複数残す素材を加工したスクレイパーである。

H-2 (5・6): 5は、二次調整が周縁部に限られる石槍・ナイフで、側縁は曲線的である。6は、台形を呈するエンドスクレイパーである。

H-3 (7~10): 7は石鏃で、先端部及び基部を破損する。8は、基部側へと収束する両側縁に加工が施されたスクレイパーである。9はスクレイパーで、背面の周縁部に二次加工が施される。10はピエセスキーユに分類したもので、表面下端部及び裏面上端部には剥離痕が顕著に認められる。

H-4 (11・12): 11は、不整形形態を呈するスクレイパーである。12は、背面部に丹念な二次加工が認められる。

H-5 (14・15): 14は、背面の右側縁部に礫表皮面を残し、左側縁部に二次加工が施される。15は背面右側縁部の基部より二次調整が施される。

H-8 (16・17): 16は、側縁部に微細な剥落痕が観察され、使用痕であると推測される。17は、スクレイパーに分類したが、先端側部分を破損する、つまみ付ナイフである可能性がある。

H-9 (18~20): 18は小型の有茎石鏃で、石材はめのである。19は、つまみ部分を有する石鏃で、先端部を破損する。20はサイドスクレイパーで、背面右側縁部に、大きく礫表皮面を残す。

H-12 (21): 21はスクレイパーで、背面の上端部よりの右側縁付近を大きく破損する。

H-14 (22~29): 22・23は有茎石鏃で、ともに背腹両面に剥離面が認められる。24も石鏃で、石材はめのである。25は上下両端部を破損するが、棒状を呈する石鏃と考えられる。26は、背面左側縁部と下端部に刃部を有するスクレイパーである。27の背面は礫表皮面で、両側縁部に、微細な剥落痕が観察される。28は、背面右側縁部に刃部を有するスクレイパーである。

H-15 (30・31): 30は菱形を呈する小型の石鏃である。31は、Uフレイクに分類したもので、側縁部と下縁部に微細な剥落痕が観察される。

H-16 (32~35): 32はつまみ付ナイフで、先端部は、背面に礫表皮面、腹面に調整によると判断される剥離痕がそれぞれ観察される。33は、両側縁に刃部を有するサイドスクレイパーである。34の背面には複数の先行剥離面と、礫表皮面が認められる。35は、刃部である背面右側縁が内湾する形状を呈する。

H-17 (36・37): 36は、剥離面が多数認められるもので、石核(残核)であると判断される。37は、背面に大きく礫表皮面が認められるUフレイクである。

H-18 (38): 38はRフレイクと判断したもので、石材は頁岩である。

H-19 (39~42): 39は、曲線的な側縁部に微細な剥落痕が観察される。40・42は、微細な剥落痕が認められ、Uフレイクと判断される。41は、背面の右側縁下端部付近に剥離痕が認められる。

H-20 (43): 43は不整形を呈するが、背面右側縁部に直線的な刃部を有する。

## \* 土坑出土剥片石器群 (44~67)

P-3 (44): 44は頁岩製の石槍・ナイフで、不規則な棒状の剥離痕が認められる。

P-6 (45): 45は、上端部分に厚みを有し、下端部に二次調整が施される、エンドスクレイパーである。

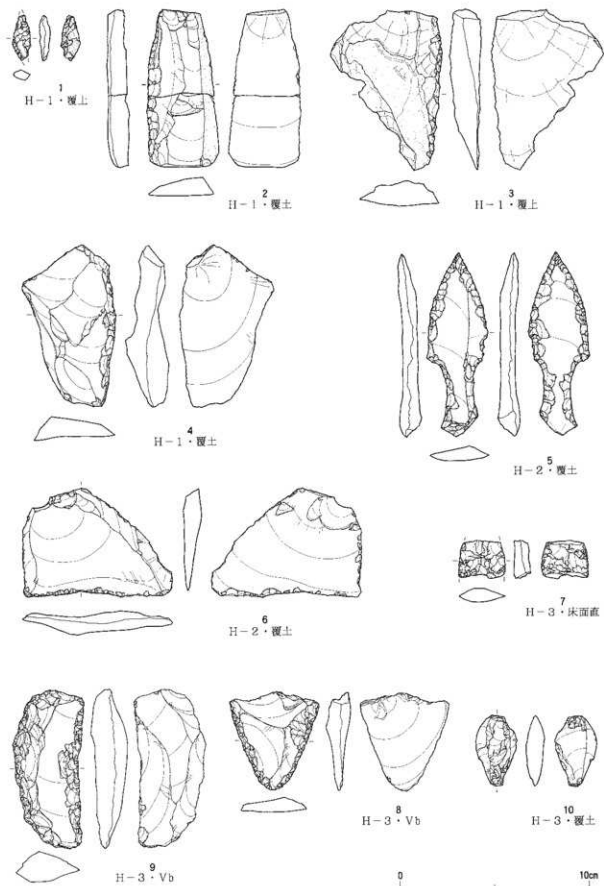
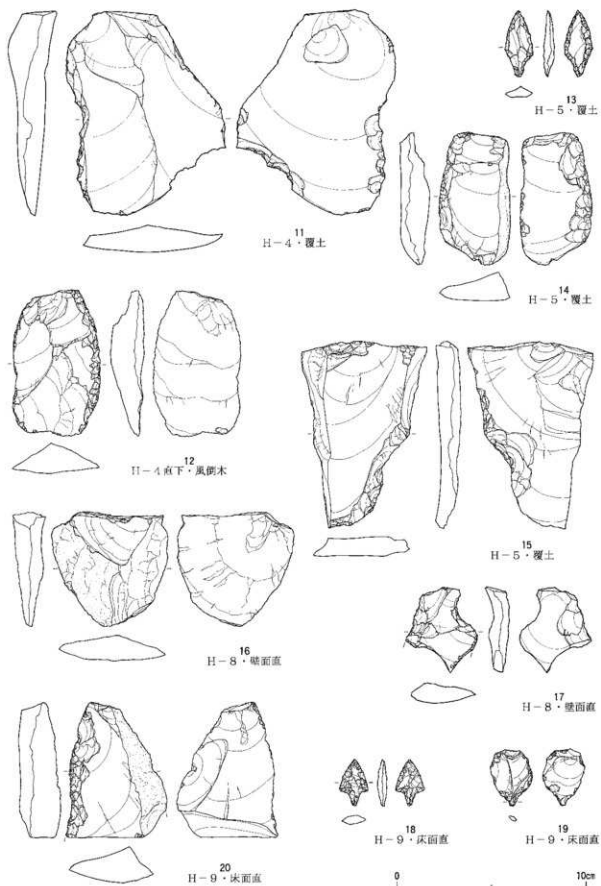
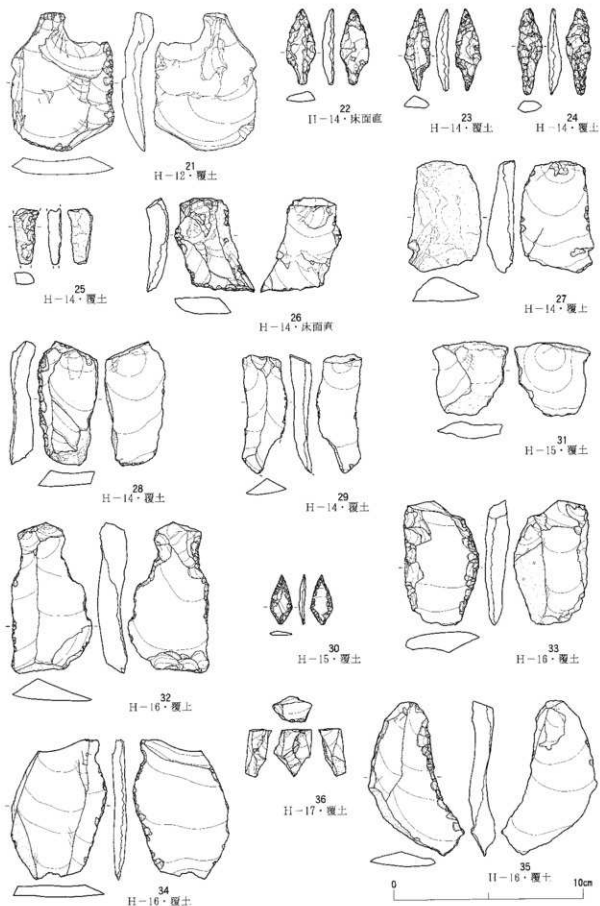


图 III-116 住居跡出土剥片石器群(1)/H-1·2·3

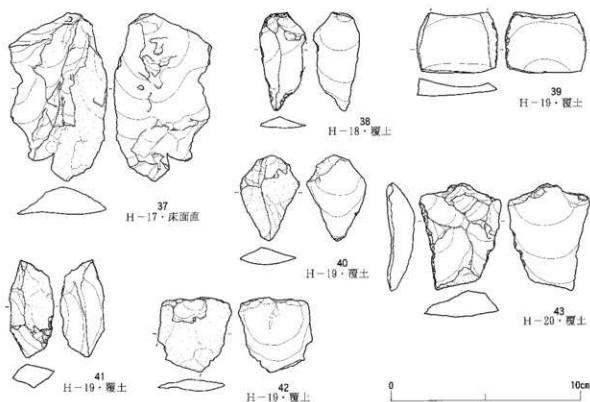


図Ⅲ-117 住居跡出土剥片石器群(2)/H-4・5・8・9



图Ⅲ-118 住居跡出土剥片石器群(3)/H-12·14·15·16·17





図Ⅲ-119 住居跡出土剥片石器群(4)／H-17・18・19・20

- P-10 (46)：46はつまみ付ナイフで、先端部が破損する。背腹両面に二次調整が施される。
- P-12 (47)：47は黒曜石製の石鏃で、基部側を破損する。
- P-14 (48)：48は小型の石鏃で、石材は黒曜石である。
- P-24 (49)：49は腹面の両側縁と下縁部に、二次調整が認められる。
- P-26 (50～52)：50は横長型のつまみ付ナイフで、下縁の刃部とつまみ部分が作出される。51は、背面に礫表皮面を大きく残すサイドスクレイパーである。52は、両側縁と下縁部に刃部を有する。
- P-38 (53～55)：53は、菱形を呈する小型の有茎石鏃で、石材はサヌカイトに類似する火山岩である。54は背面に礫表皮面を大きく残すもので、二次調整は腹面を主体に施される。55は、やや不整形を呈するスクレイパーで、刃部を有する両側縁が下端部で収束する。
- P-39 (56)：56はやや厚みを有するラウンドスクレイパーで、石材はめのうである。
- P-44 (57)：57は小型の有茎石鏃で、側縁は曲線的である。
- P-48 (58)：58はスクレイパーで、背面には複数の先行を剥離面と、周縁部には二次調整による剥離が認められ、腹面は、比較的大きな調整剥離痕が観察される。
- P-51 (59)：59は左右非対称であるが、先端部側を破損する石鏃であると考えられる。
- P-59 (60)：60の背面には、複数の先行剥離面と礫表皮面が認められ、背面右側縁に二次調整が施される。
- P-71 (61・62)：61は、背腹両面ともに器体内部まで二次調整が施されるスクレイパーである。62は、やや曲線的な素材剥片の背面周縁部に二次加工を施し、製作されたものである。

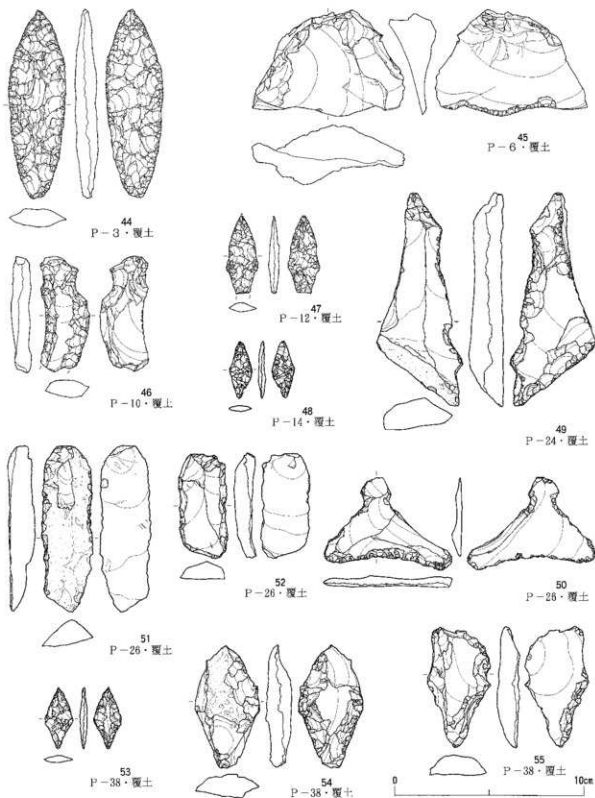


图 III-120 土坑出土剥片石器群(1)/P-3·6·12·14·26·38

P-79 (63~65): 63は、破損した石鏃を石錐に転用したと考えられるもので、先端部には磨減痕が認められる。64は、背面周縁に二次調整が施されるつまみ付ナイフで、下端側部分を破損する。65は、打面が礫表皮面の素材を用いて製作されたサイドスクレイパーである。

P-80 (66): 66は背面が礫表皮面で、下端部付近の周縁に微細な剥落痕が観察される。

P-81 (67): 67は茎部を破損する小型の石鏃で、細かな二次調整痕が観察される。

#### \*焼土出土剥片石器群 (68~73)

F-1 (68): 68の打面は礫表皮面で、腹面左側縁に剥離痕が認められる。

F-7・8 (69~73): 69は二等辺三角形を呈し、周縁には微細な剥落痕が観察される。70の背面は、礫表皮面を大きく残し、右側縁部に二次調整痕が認められる。71は、背面の右側縁部と、背腹両面の下縁部に剥離痕が認められる。72・73はヒュースエスキューに分類したもので、上下両端部には剥離痕が顕著に認められる。

#### \*フレイク・チップ集中出土剥片石器群 (74~76)

FC-1 (74~76): 74は、背面に複数の先行剥離面と二次調整痕が観察される。75のスクレイパーは、当初包含層出土の遺物としていたが、接合資料(76)に接合したので、FC-1の遺物と判断した。背面は、左側縁が礫表皮面で、右側縁部には刃部作出の二次加工が施される。

76は接合資料(原石)で、75のスクレイパーが接合したものである。石材は、軟質な凝灰岩質部分と透明な石英質(SiO<sub>2</sub>)部分を有する、緑灰色を呈する頁岩である(表25 フレイク・チップ集中接合表参照)。

#### 「表25 フレイク・チップ集中接合表」

FC-1: 本遺構から出土した、緑灰色頁岩の剥片・碎片と同一母岩のものを対象とし接合作業を行ったところ、19個体の接合資料(2点以上接合のもの)が得られた。これらに「接合資料番号」(1~19)を付した。1~11はさらに接合し、合計破片数は191点を数える。これらのうち、接合資料番号1(図Ⅲ-122-76)は、H-42-b区・Vb層から出土したスクレイパー(図Ⅲ-122-75)が接合した。

FC-1はG-45区の北側部分(H-46杭寄り)、三次郎川へと張り出す高位の段丘の北側の縁部付近(VⅧ層上面の標高約44.00m付近)に位置するが、ここで接合した破片の出土グリッドから、剥片・碎片の広がりをもてみる。接合した破片が出土したグリッドは、Gライン: G-45・46・47区、Hライン: H-40・41・42・43区である。これらは、大きく二つに分けられよう。一つはH-42区を中心とする付近、もう一つはG-46・47区付近である。前者は、同じ台地の東側の縁部で、VⅧ層上面の標高もほぼ同じであり、一方、後者は三次郎川へと続く急な斜面から崖に相当する場所である。以上の出土状況から推測すると、H-42区付近の分布は、まず、スクレイパーが出土していることから、おそらく人為的な要因が考えられる。一方、G-46・47区付近のあり方は、FC-1から三次郎川への斜面及び崖下へと自然作用により移動していったものと考えられる。

D-42-d区フレイク・チップ集中: 本遺構から出土した、灰黄褐色頁岩及び黒褐色頁岩の剥片・碎片と同一母岩のものを対象とし接合作業を行ったところ、前者は10個、後者は3個の接合資料(2点以上接合のもの)が得られた。D-42区以外で接合したものはなく、実測図等は作成していない。

#### (2)磨製石器群(図Ⅲ-123 表22 図版86)

##### \*住居跡出土磨製石器群(1~9)

H-7(1・2): 1は、ほぼ完形のもので、刃部の一部を破損する。2は、刃部にたたき痕が顕著に認められ、たたき石に転用されたものであろう。

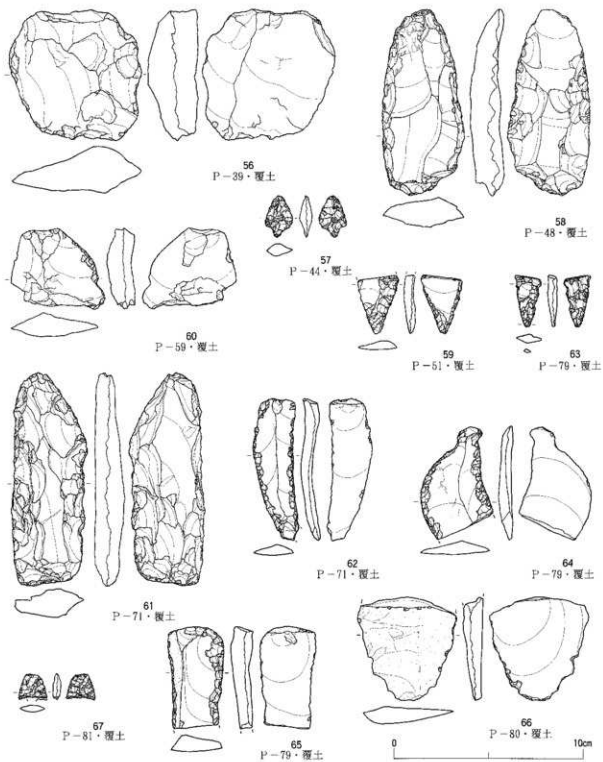
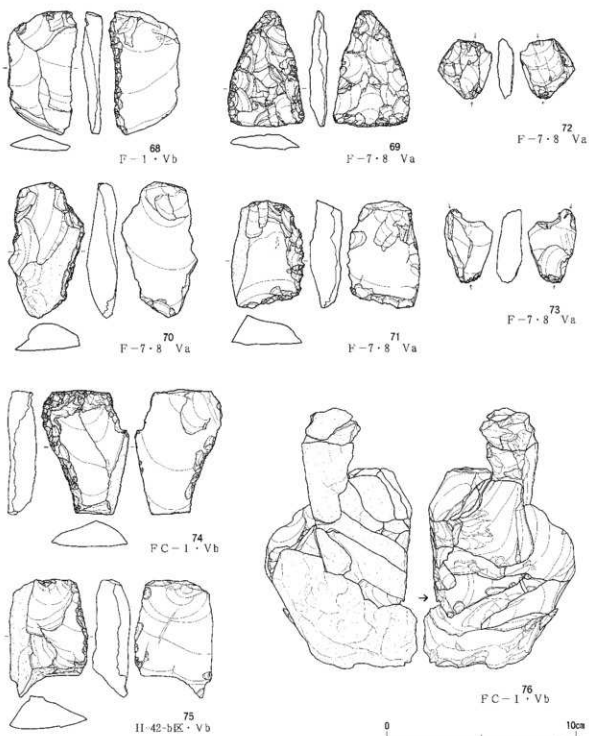


图 III-121 土坑出土剥片石器群(2)/P-39·44·48·51·59·71·79·80·81



図III-122 焼土及びフレイク・チップ集中出土剥片石器群/F-1・7・8・FC-1

H-8 (3): 3は側面の観察から、擦切技法により製作されたと判断される。

H-10 (4): 4は「石のみ」と呼称されるもので、表裏面ともに刃部寄りの部分は、剥落痕が顕著に認められる。

H-12 (5): 5は刃部が明瞭に残存するもので、基部側は表裏両面ともに剥落痕が多数認められる。

H-14 (6・7): 6は小型で、基部付近の破片である。7は片岩製の石のみと考えられるもので、表裏面ともに剥落し、研磨痕等の調整痕が観察されないものもある。

H-17 (8): 8は粘板岩製で、刃部付近の破片である。

H-18 (9): 9は基部側の破片で、側面には敲打痕が認められる。

### (3) 礫石器群 (図Ⅲ-124~135 表23 図版87~94-1)

#### \* 住居跡出土礫石器群 (1~29)

H-1 (1・2): 1は北海道式石冠で、表裏両面のすり面近くは剥落痕が著しい。2は接合資料で、石錘に分類した。すり面は認められないが、扁平打製石器の未製品である可能性がある。

H-3 (3~6): 3は安山岩製で、表面左側縁のくびれは人為的な加工であると判断される。4は、曲線的な上縁部に剥離痕が表裏面ともに認められる。5は上縁部の剥離痕が表面にのみ観察される。6はたたき石で、表面に2カ所のたたき痕が認められる。

H-4 (7~10): 7はすり面が幅細くなり、面として残存しない。8は約1/2を破損する。9は、すり面にも敲打痕が認められ、これは加工痕であると推測される。10の裏面には、持ち手部分を切る大きな剥落痕が3カ所、下縁部分に観察され、使用により生じたものと判断される。

H-5 (11・12): 11は楕円形を呈し、下縁部の直線的な辺にすり面を有する。12は北海道式石冠で、すり面に剥落痕が観察される。

H-8 (13~20): 13は接合したもので、表面の両側端部に打ち欠きが認められる。14は表面に大きな凹みを有する素材を用いたもので、すり面は観察されない。15は、裏面のすり面付近では剥落痕が観察される。16は、すり面に剥落痕が認められる。17は表面右側部分を破損する。18は棒状の自然礫の一端に、機能部を有するたたき石である。19は、表裏両面と右側面にすり面が観察される。石材はやや軟質で細粒の凝灰岩である。20は、楕円形の礫を半割したもので、中央付近にはたたき痕が密集する。北海道式石冠の未製品であると推測される。

H-10 (21): 21は砥石ではほぼ全面にすり痕が観察されるが、中央からやや上端部よりに、溝状のすり痕が認められる。

H-11 (22): 22は下縁部にすり面を有する扁平打製石器で、石材は多孔質な安山岩である。

H-12 (23): 23は厚みのある泥岩を用いた、たたき石である。

H-14 (24・25): 24はたたき痕がやや不明瞭であるが、たたき石に分類した。25は、大きな棒状の礫の下端部にたたき痕と剥落痕が認められる。

H-16 (26~28): 26は、石材の風化が著しいものである。27は、表裏両面ともにすり面付近の剥落痕が顕著である。28は、表裏両面ともに上縁部が打ち欠きで加工される。

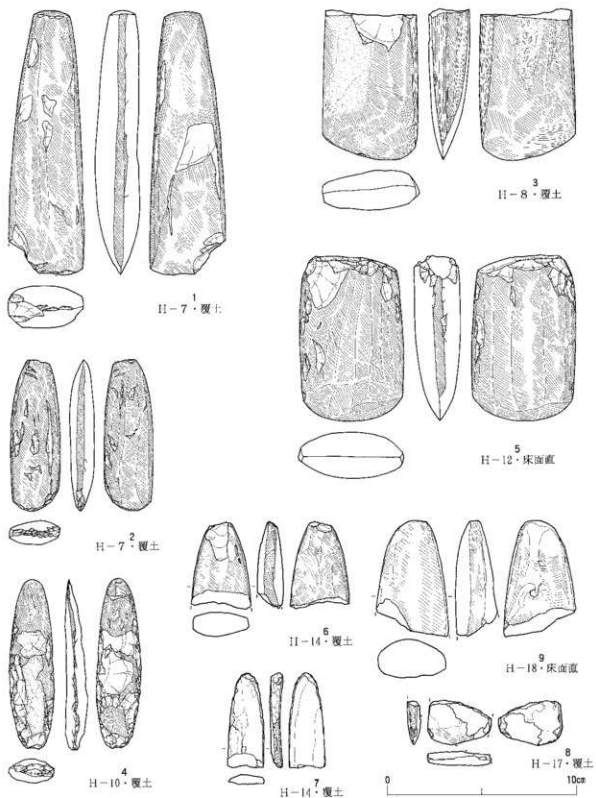
H-19 (29): 29は棒状の素材で、上下両端部にたたき痕が観察される。

#### \* 土坑出土礫石器群 (30~55)

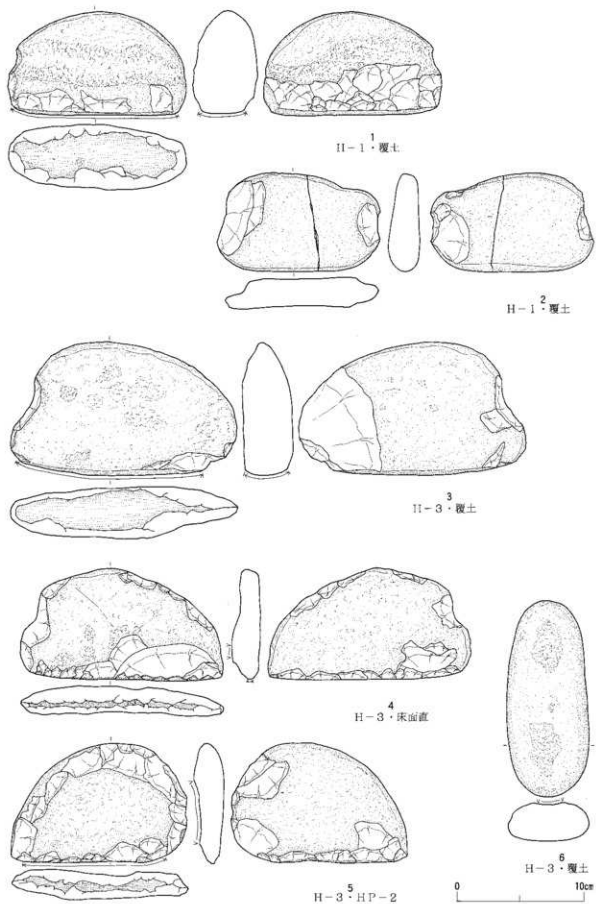
P-11 (30): 30は、左右両端部に打ち欠き加工が施される。

P-16 (31): 31は、角のとれた長方形の自然礫を利用したものである。

P-17 (32): 32は、表裏両面に加工痕が認められるが、すり面付近は、使用による剥落痕であると考

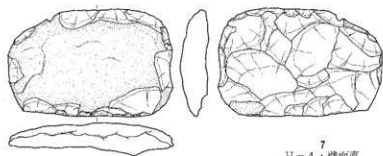


図III-123 住居跡出土磨製石器群/H-7・8・10・12・14・17・18・24

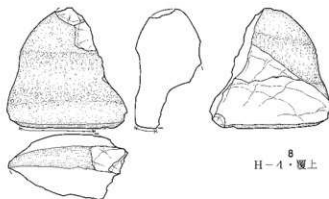


圖Ⅲ-124 住居跡出土礫石器群(1)/H-1・3・4

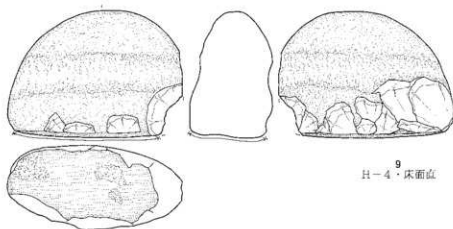




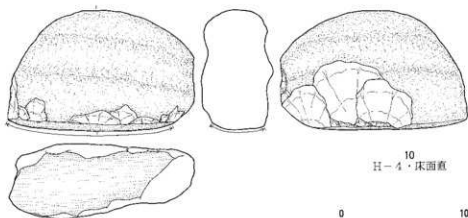
7  
H-4・燧石直



8  
H-4・燧石



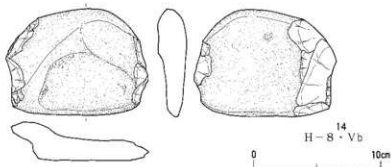
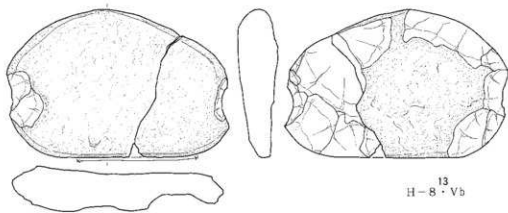
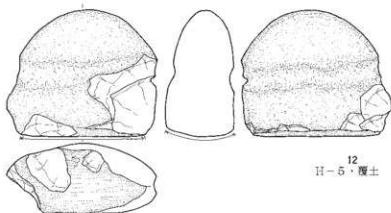
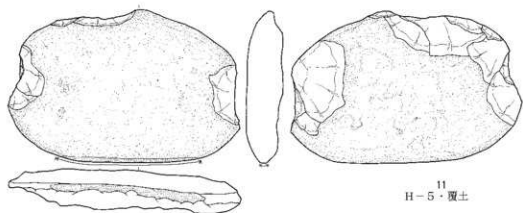
9  
H-4・床面直



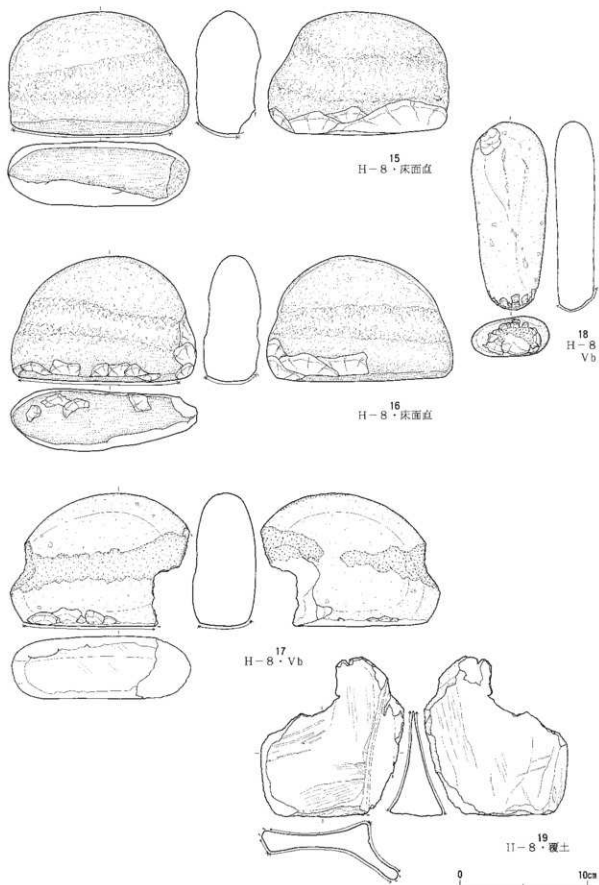
10  
H-4・床面直



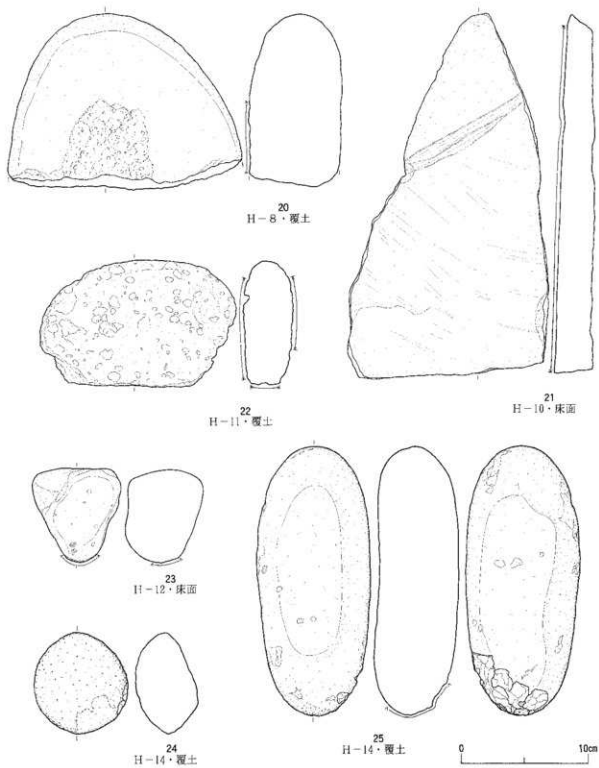
図III-125 住居跡出土礫石器群(2)/H-4



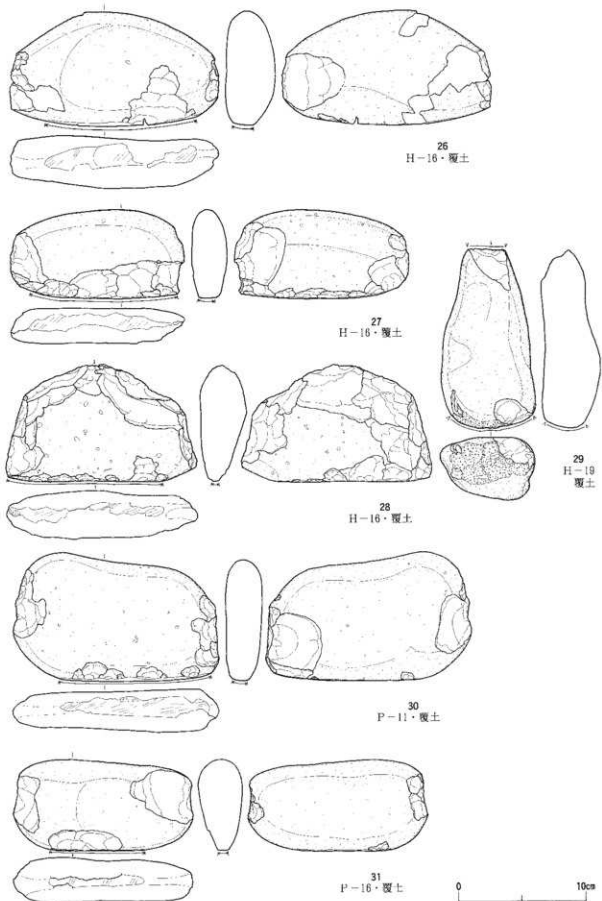
図Ⅲ-126 住居跡出土礫石器群(3)/H-5・8



図III-127 住居跡出土礫石器群(4)/H-8



図Ⅲ-128 住居跡出土礫石器群(5)/H-8・10・11・12・14



図III-129 住居跡及び土坑出土礫石器群／H-16・19・P-11・16

えられる。

P-20 (33) : 33は、表面右側（裏面左側）に使用による剥落痕が著しい。

P-23 (34) : 34はやや小型で幅の狭いもので、下縁の面にはすり痕が認められない。未使用品であると考えられ、裏面の下縁付近に認められる痕跡は加工痕であると判断される。

P-26 (35~37) : 35は、やや高さのあるもので、裏面は打ち欠き加工がなされていると考えられる。36は接合資料で、楕円形を呈する形態からは扁平打製石器と考えられるが、敲打により作出された持ち手部分を有することから北海道式石冠に分類した。37は、上縁部に打ち欠き加工による剥離痕が表裏両面に観察される。

P-30 (38) : 38は小型であるが、敲打による持ち手部分が全周し、下縁の面にはすり痕がみられず、敲打痕により平坦化されている。未使用品か小型の非実用品（石製品）であると考えられる。

P-31 (39) : 39は、下縁の面にはすり痕がみられず、敲打痕が観察される。未使用品であると考えられ、表裏両面には持ち手部分以外にも敲打痕が認められ、整形のための調整であると考えられる。

P-32 (40・41) : 40は、表面右端部を破損する。41は、表裏両面に剥離・剥落痕が観察される。

P-33 (42~44) : 42は接合資料で、打ち欠き等による剥離痕が認められず、未加工品であると判断される。43は、両側端部を破損する。44はすり面にも、整形のためと考えられる敲打痕が観察される。

P-41 (45) : 45は、楕円形の円礫を用いたもので、左側縁に使用痕が観察される。

P-42 (46・47) : 46は、加工のためと判断される敲打痕が観察される。47は石錘に分類したものであるが、両端部の打ち欠かれた部分には、磨減痕が観察されず、すり石の未製品または未使用品であると判断される。

P-46 (48) : 48は概して長方形を呈し、表裏両面に剥離・剥落痕が多数認められる。

P-53 (49) : 49の裏面には、両側端部からの打ち欠きにより生じた、大きな剥離痕が観察される。

P-69 (50・51) : 50は、両端部に打ち欠きが施されたものである。51は北海道式石冠で、すり面付近の破片と判断されるが、すり面にはすり痕が認められず、製作失敗品であると判断される。

P-77 (52) : 52は、上下両端部と表面左側縁部に使用痕が認められる。

P-79 (53) : 53は、楕円形の素材を用いたたき石である。

P-83 (54) : 54は、やや厚みのある素材で、すり面が幅広く残存する。

P-85 (55) : 55は、楕円形素材の下端部にたき痕が認められる。

#### \* フレイク・チップ集中出土礫石器群 (56~59)

FC-1 (56~59) : 56は「円」に近い形状の礫を利用したものである。57は横長のもので、表面右側端部分を破損する。58は、表面右側部分を破損するもので、持ち手部分作出のための敲打加工が施されない部分がある。59は、やや小型で、表面右側部分を破損する。

#### (4) 礫石器群 (大型) (図Ⅲ-136~140 表23 図版94-2~99-4)

##### \* 住居跡出土礫石器群 (大型) (1~11)

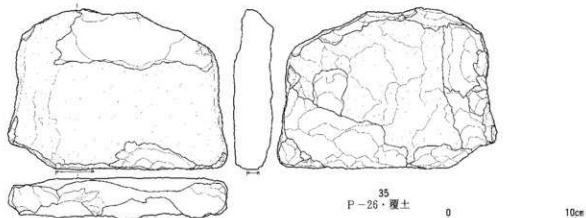
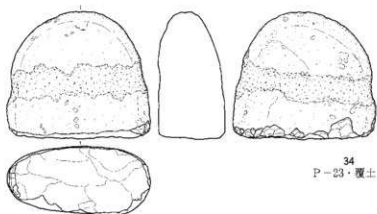
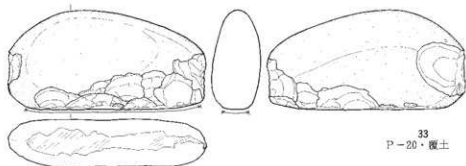
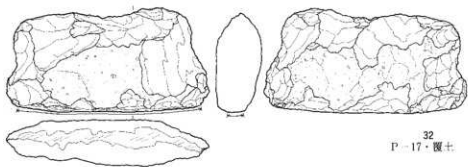
H-9 (1) : 1は板状の素材を用いたもので、すり痕・たき痕が観察される。

H-12 (2) : 2は上端部分を破損するもので、平滑なすり面が認められる。

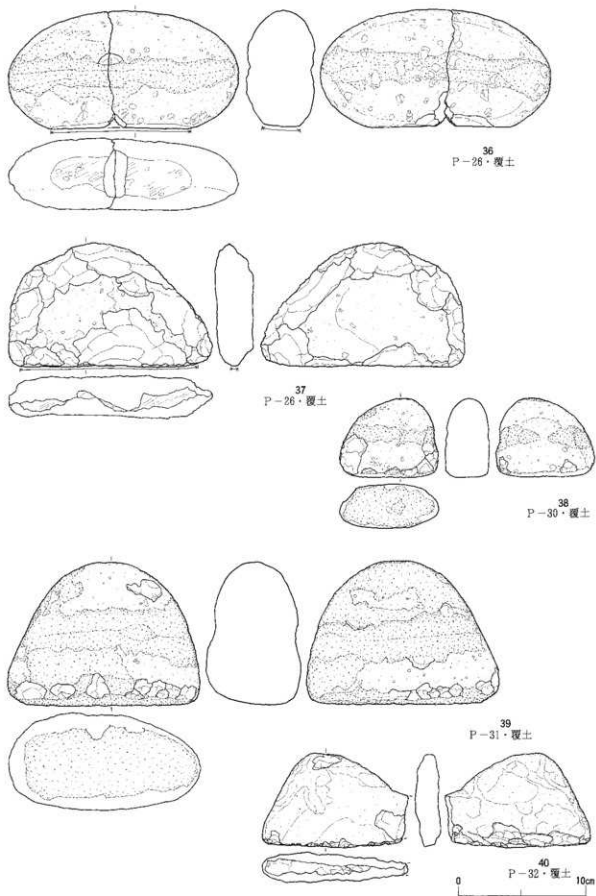
H-14 (3~5) : 3は、台石に分類したが、使用痕等が不明瞭である。4は角閃石安山岩を素材とし、緩やかに凹むすり面が観察される。5は硬質な砂岩を素材するもので、すり痕が認められる。

H-16 (6~8) : 6は、明瞭な使用痕が観察されない。7は、長楕円形の円礫を素材とするもので、表裏両面に使用痕が観察される。8は、使用痕が明瞭に観察されない。

H-17 (9) : 9は下端部が破損するものであるが、明瞭な使用痕が認められない。

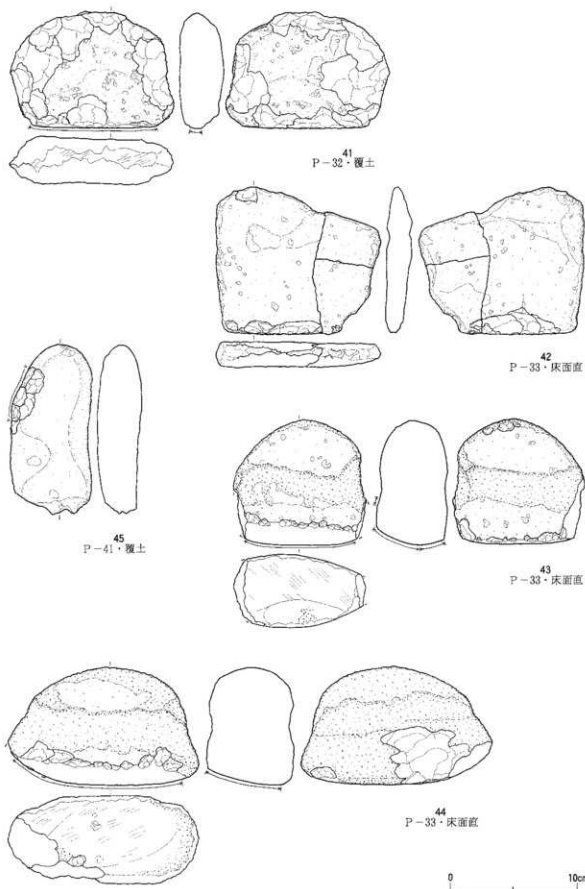


図III-130 土坑出土礫石器群(1)/P-17・20・23・26

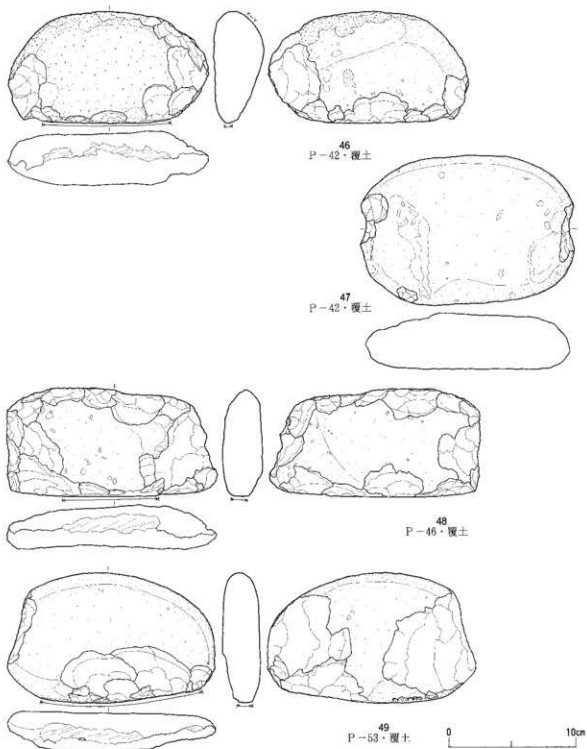


图Ⅲ-131 土坑出土礫石器群(2)/P-26·30·31·32





図III-132 土坑出土礫石器群(3)/P-32・33



图Ⅲ-133 土坑出土磬石器群(4)/P-42·46·53

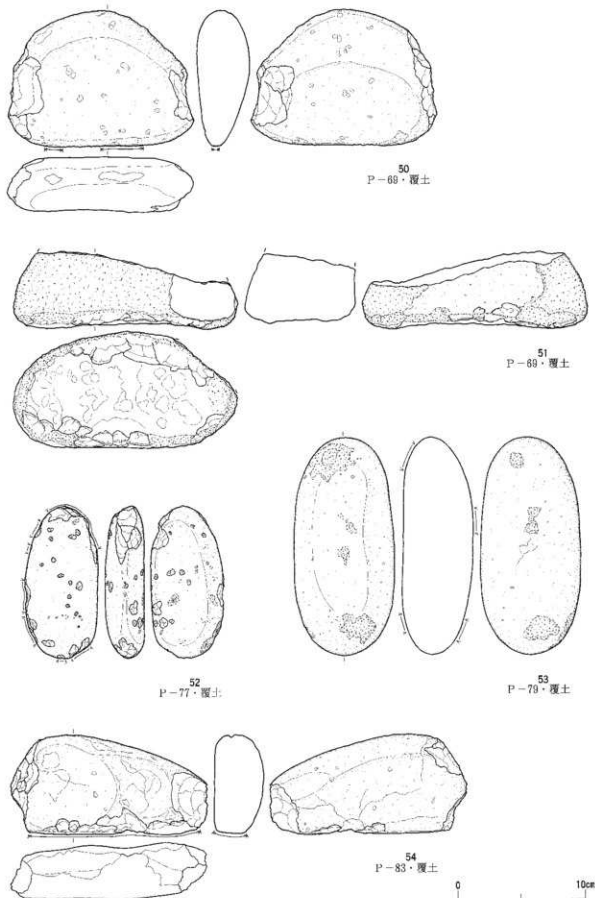
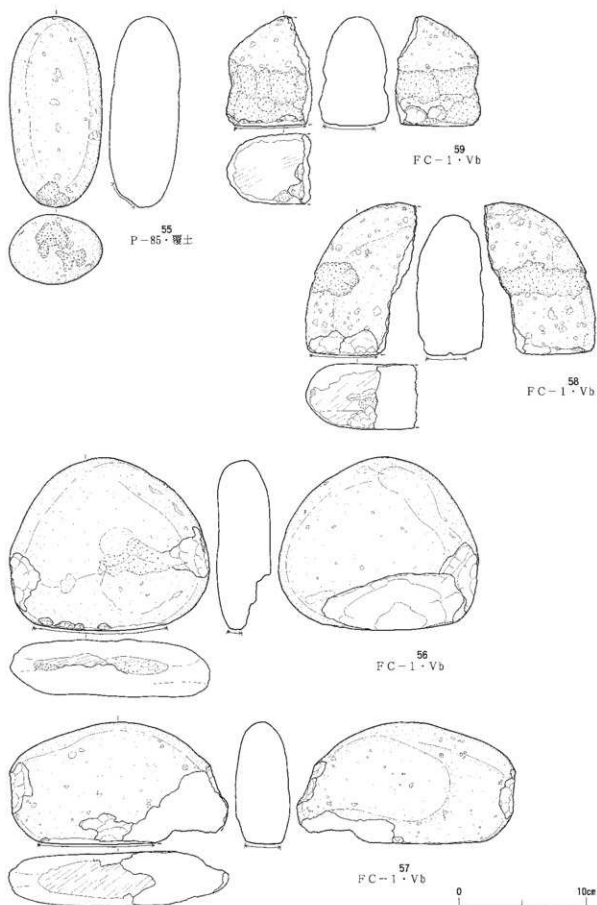
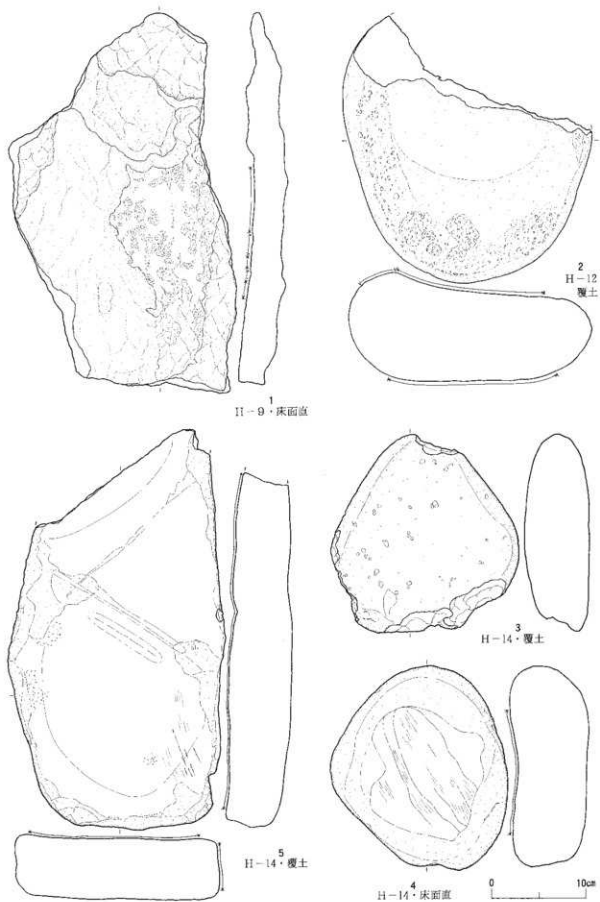


图 III-134 土坑出土砾石器群(5)/P-69·77·79·83



図Ⅲ-135 土坑及びフレイク・チップ集中出土礫石器群/P-85・FC-1



図III-136 住居跡出土礫石器群 (大型) (1)/H-9・12・14

H-18 (10・11) : 10・11ともに、使用痕が不明瞭である。

**\* 土坑出土礫石器群 (大型) (12~17)**

P-37 (12) : 12は安山岩製で、表面には明瞭な凹みを呈するすり面が認められる。

P-71 (13) : 13は下端部が破損し、表裏両面に平滑なすり痕が観察される。

P-77 (14~16) : 14は破片で、たたき痕が認められる。15は破片で、使用痕はやや不明瞭である。16は、細長くやや不整形を呈する礫を素材とする。

P-77 (17) : 17は破片で、使用痕が不明瞭なものである。

**\* 礫集中・配石遺構出土礫石器群 (18・19)**

S-2 (18・19) : 18は左側部分を破損するが、明瞭に凹むすり面を有する。19は、楕円形の安山岩を用いたもので、平滑なすり痕が認められる。

**\* 焼土出土礫石器群 (20)**

F-1 (20) : 20は、中央付近やや下端部に認められる敲打痕以外、明瞭な使用痕が観察されない。

**\* フレイク・チップ集中出土礫石器群 (21)**

FC-1 (21) : 21は安山岩製で、すり痕が認められる部分は著しく平坦である。

**(5) 石製品 (図Ⅲ-141 表24 図版100-1~3)**

H-7 (1) : 1は三脚石器と呼称されるもので、表面には加工が施されない部分がある。

H-14 (2~5) : 2~4は、軟質な凝灰岩を用いて製作された三脚石器である。2は表面に加工が施されない部分がある。3・4は破片である。5は扁平で楕円形を呈する礫に、穿孔が施されたもので、下側部分を破損する。断面には「U」字状の凹みが作出される。

P-80 (6) : 6は三脚石器で、裏面にはすり痕(擦痕)が著しいが、これは軟質な石材であるために、遺物の水洗時に生じたキズである可能性がある。

**(6) 自然礫 (表26・27)**

**「表26 遺構出土自然礫観察表」**

H-17 : 遺物番号115~120の炉石を計測・観察した。いずれも未風化で、角のとれた安山岩が用いられ、黒色化(煤の付着)及び赤色化(被熱による変色)が認められるものもある。

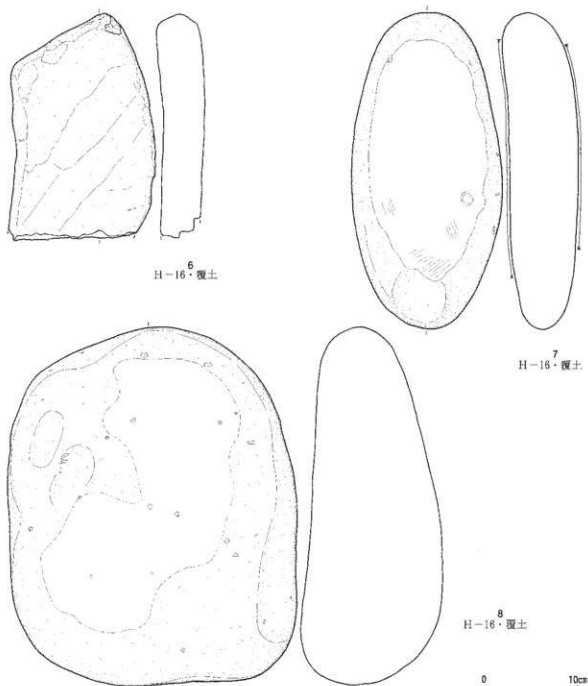
H-18 : 遺物番号10~16の炉石を計測・観察した。いずれも未風化の安山岩であるが、H-17に比べて角があるものが多い。黒色化(煤の付着)及び赤色化(被熱による変色)が認められるものもある。

S-1 : 下部が深い土坑で、上部に石組を有する遺構で、石組に用いられている石を計測・観察した。いずれも未風化の安山岩で、黒色化(煤の付着)しているものは認められるが、赤色化(被熱による変色)しているものはない。

S-3 : 平均長軸長が1.0cm程度の小さな礫が多数確認された。角のとれた亜円~円礫であるが、石材は、比較的硬質な安山岩・浮岩(軽石)と、軟質な凝灰岩・泥岩に分けられる。

S-4 : H-14内に位置する石組炉で、炉石に用いられている礫、遺物番号1~8について計測・観察した。いずれも未風化の安山岩であるが、角礫~円礫までが認められる。黒色化(煤の付着)及び赤色化(被熱による変色)が認められるものもある。

S-5 : H-14内に位置する石組炉で、炉石に用いられている礫、遺物番号1~9について計測・観察した。石材は、安山岩と角閃石安山岩があり、ともに未風化である。黒色化(煤の付着)及び赤色化(被熱による変色)が認められるものもある。

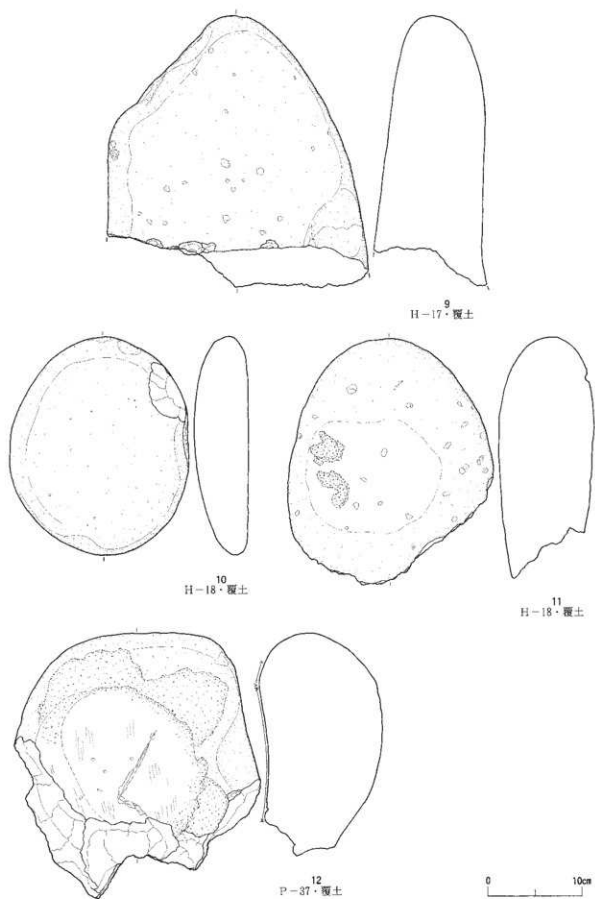


図Ⅲ-137 住居跡出土礫石器群（大型）(2)／H-16

S-6：Vb層中に存在する礫の集中であり、すべての礫を計測・観察した。拳大程度の大きさの円～亜円礫が主体的である。石材は、安山岩・角閃石安山岩・火山礫凝灰岩があるが、安山岩が多い。

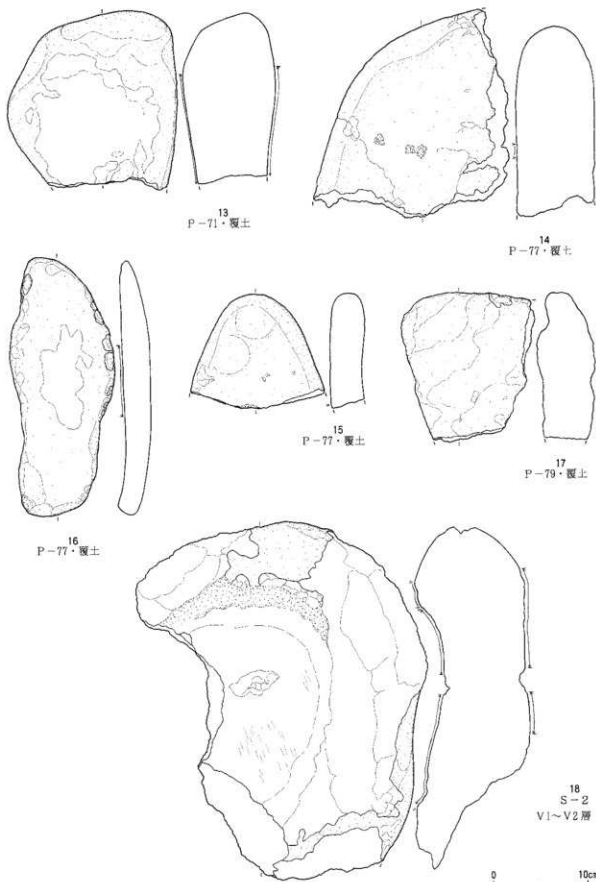
〔表27 S-2出土自然礫観察表〕

S-2：配石遺構を構成するすべての礫を計測・観察した。表の備考欄に「廃棄」と記載したものは、現場で観察後、現地で廃棄したものである。自然礫は、大きさ、石材、形状、円磨度等、様々なものが認められる。石器類としては、台石・石皿が2点（図Ⅲ-139-18・140-19）ある（未光）

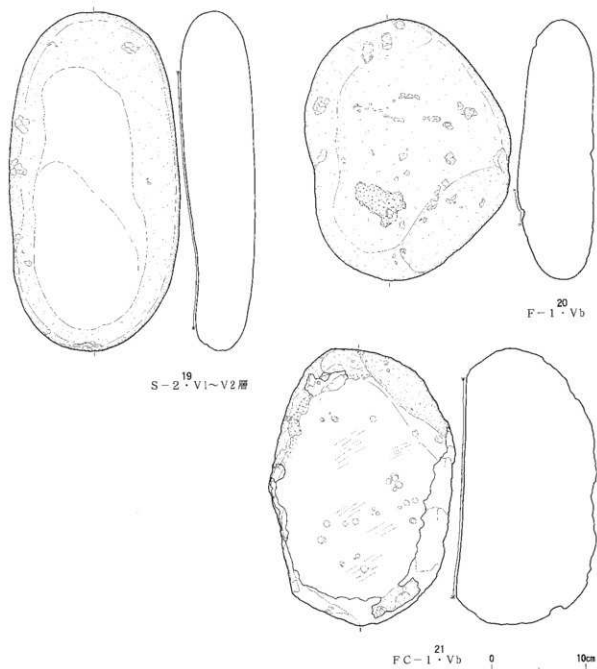


図Ⅲ-138 住居跡及び土坑出土礫石器群（大型）／H-17・18・P-37

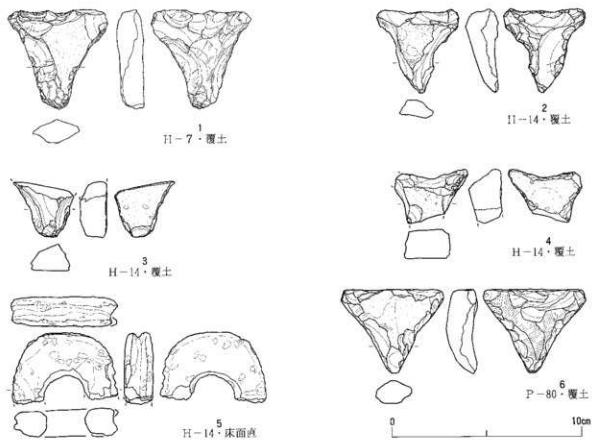




図III-139 土坑及び配石遺構出土礫石器群（大型）P-71・77・79・S-2



図III-140 配石遺構及びフレイク・チップ集中出土礫石器群(大型)/F-1・S-2・FC-1



図III-141 遺構出土石製品／H-7・14・P-80



## IV 包含層の出土遺物

### 1 土器類

#### (1) 概要 (表28・図IV-1・2)

包含層から58,151点の土器が出土した。

Ⅱ群b類が1,610点であり、一個体分の破片の大半がその場にまとも出土した例が多い

Ⅲ群a類が13,190点出土し、2番目に量が多い。分布状態はKラインより南西側の出土が多く、特にH-42区付近の斜面からまとも出土している。これは住居H-11の覆土から出土した円筒上層c式の出土状況とも関連する。また、調査区北端のT-48~52区にも集中した出土がある。Ⅲ群と分類した34点についてはⅢ群a類の可能性が強いが断定できなかった未接合の胴部破片が主である。

Ⅲ群b類が3,809点である。そのうち榎林式の手でb-1類としたものが2,092点、大安在B式に相当するb-2類としたものが46点、細分しなかったものが1,734点である。これらは主にⅢ群b-2類に並行するもので、榎林式中~新段階、および大安在B式に並行するが、型式名として大安在B式に合致するかどうか検討の余地を残すものである。ノックⅡ式から煉瓦台式に相当するb-3類相当のものは今回ないものと判断した。b-1類については旧南茅部町(現函館市)大船遺跡の報告書『大船C遺跡』(1996)の編年表における「Ⅲ群B類1」を参考としたが、口唇部平坦面の沈線渦巻き文をひとつの要素としたため一部「B類2」も取り込む結果となった。b-1類はD-43・44区、P-43区、P-48区、T-50区に比較的まとも出土している。b-2類としたものはH-38~44区近辺に集中する。b類としたものは、B・C-44区、E-40区、J~L-39・40区、J-45区、Q・R-38区、P-48区に比較的集中した出土がある。

一番多く出土したⅣ群a類が36,945点である。その分布はB~E-42~45区、P~T-38~51区に比較的集中する。B~E-42~45区はトリサキ式、P~T-38~51区は大津式の破片が目立つ。

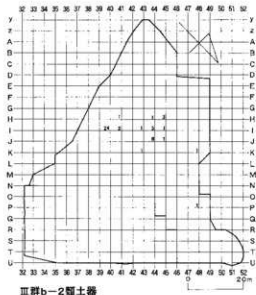
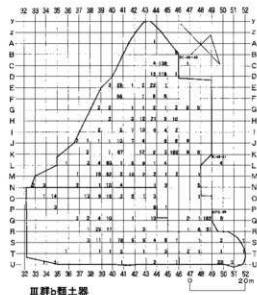
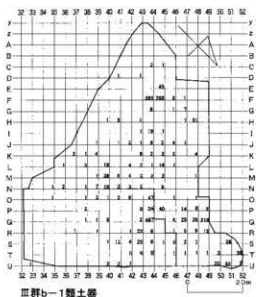
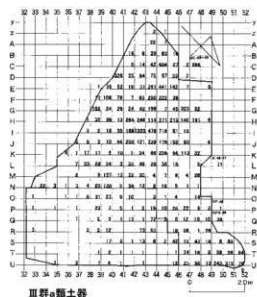
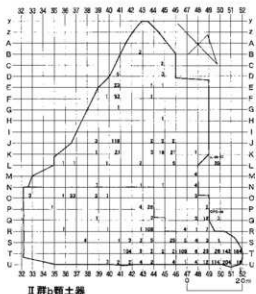
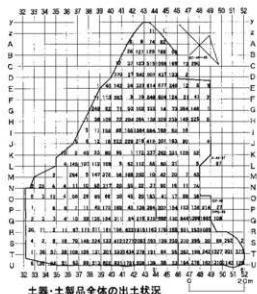
Ⅳ群b類の可能性のあるものが19点出土した。これらはすべて同一個体の破片である。D-43・44区とその周辺から出土した。

Ⅴ群は2,302点出土した。A~D-42~45区、J~L-42~44区に比較的まとも出土していた。Ⅶ群はO・Q-40~42区から168点が出土した。同一個体がほぼ完形で出土した。これはⅢ章の遺構の項で遺物集中として特記した。Ⅵ・Ⅶ群はVa層およびV1~2層といった包含層上位からの出土がほとんどである。本文および表20・30の後北式土器の編年観は鈴木編年(鈴木 信 2003)による。

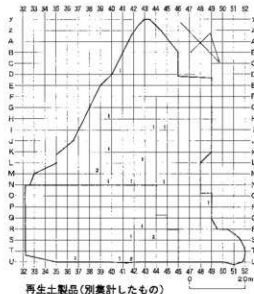
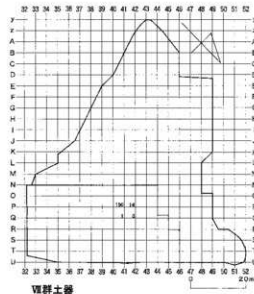
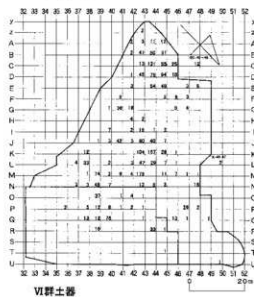
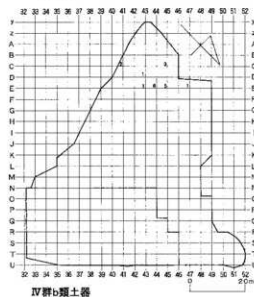
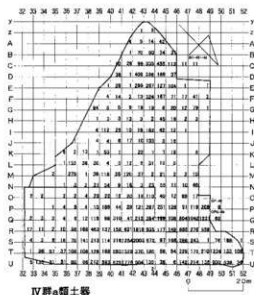
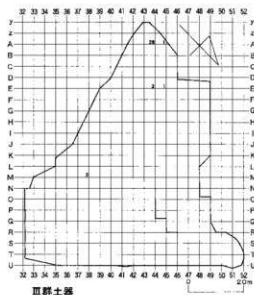
#### (2) Ⅱ群b類(図IV-3~5-1~20、表30-1、図版101-1~2・127~130)

胎土には繊維が目立ち、内面は丁寧なミガキ調整である。ただし円筒下層b~c式よりd式の方が丁寧である。LR縄を多用する。3~6は円筒下層b~c式の範疇、森川式に相当するものである。3・5・6は微妙な上げ底を持つ。3~5は「閉端なひねり」あるいは自縄自巻と思われる原体を地文とする。6は単軸絡条体地文。

1・2・7~20は円筒下層d式である。7・8はd<sub>1</sub>式。7はL縄単軸絡条体、8は節の細かい閉端なひねりあるいは自縄自巻と思われる原体を、結束第1種羽状縄文に組み合わせる。底部は微妙な上げ底である。復元個体1(S-41区に集中)・2(S-51区に集中)13~20は円筒下層d<sub>2</sub>式である。d<sub>2</sub>式とした方が器壁に厚みがあり、口縁部文様帯を明瞭に区画する。13・14は肥厚する口縁部文様



図IV-1 包含層出土土器類分布図(1)



図IV-2 包含層出土土器類分布図(2)

帯には半截竹管による、押し引き気味の刺突が並ぶ。14はボタン状の貼付があり、波頂部直下の口縁部文様帯を区画する文様となる。円筒上層a式への過渡期を示すものと考えられる。微妙な上げ底を持つ。

1・2・15～20は降帯で口縁部文様帯を区画する。いずれも降帯上に圧痕があり、2は縄線を水平方向に押し、19は縄端の連続圧痕、他は区画降帯に対して直角方向に縄線を連続押しする。1のみ内湾する深鉢で、他は降帯部から反り返るように開く深鉢である。地文については1・2・15・16・19・20は多軸絡条体、17は降帯直下に結束第2種羽状縄文を施し、R縄単軸絡条体を組み合わせる。18はLRL縄文を浅く施した上から条痕を縦方向に施す地文。9～12は胎土と内面調整の類似から、d<sub>2</sub>式に並行する口縁部無文帯を持たない土器と考える。9は捺痕を地文とする。器高は低く、残存部とほぼ変わらない可能性がある。10は多軸絡条体地文。11は単軸絡条体に縄線を組み合わせた地文。軸と一本の縄を同時に転がしたものか。12は胴上部が縄文地文、下部が多軸絡条体地文である。

### (3) III群a類 (図IV-6～15-1～67、表30-2、図版101-3～106-3・131～142)

胎土には繊維を含むものが多く、底面は微妙な上げ底を持つものが多い。

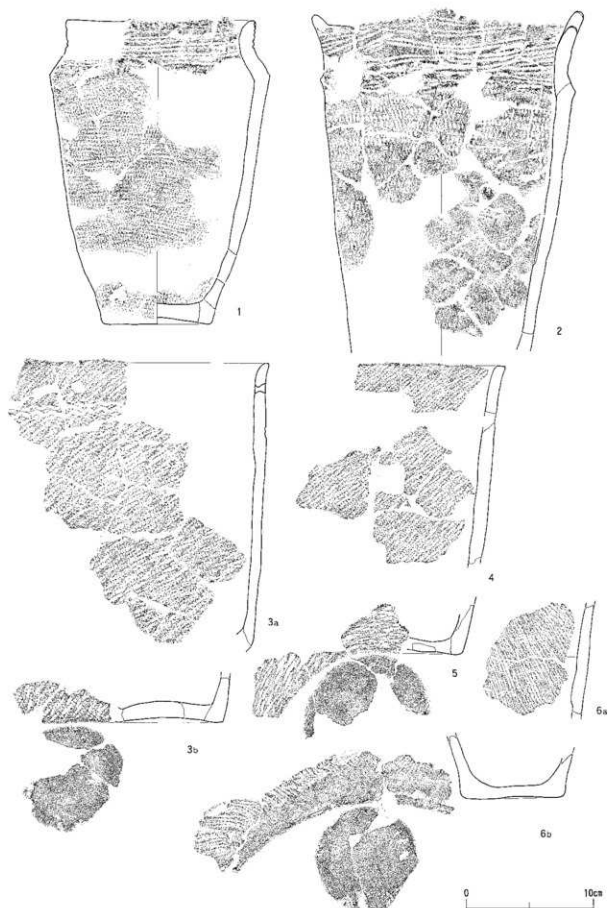
1～22は復元個体である。1～6は円筒上層c式、あるいはその直前に相当するものである。特にH-42区付近の斜面からまとまって出土したものであり、その編年の位置付けを考慮する際H-11の遺物を考慮する必要がある。波頂部の下に展開されていた上層b式に対して、横方向の降帯文様展開があり、降帯上の縄線の間隔が上層b式(23を基準とした)に対して粗くなった段階のものをc式としたため、馬蹄形圧痕を持つものも含む。1～3は微妙な上げ底である。1は口縁部文様帯が胴中央まで下がらず、馬蹄形圧痕を持つ個体である。b式からc式への過渡期的な様相と考える。2は底面の調整時に化粧土を塗りつけており、その剥落部分から広葉樹の木の葉圧痕がかすかに覗いていた。1～3・5は降帯上に縄線、4はキサミが施される。1・2は降帯による区画内に馬蹄形圧痕、3・4はヘラによる押し引きが連続する。5・6は小型の深鉢で2単位の把手を持つ。6は肥厚する口唇部直下に馬蹄形圧痕を持つ。7～9はサイベ沢Ⅵ式で、円筒上層c・d式起源の文様が沈線化したもの。7・9は沈線文の在地化が著しいものである。そして4単位の波頂部のうち、対向する2つが同じ文様、2種類の波頂部を持つ。いずれも1種類はボタン状貼付付け、もう一種類は把手である。

10は1～6と文様構成上、時期的に近いものと考えられる。しかし比較すると、小石が混在する胎土はより粗く、出土地点もE-39区を主としており、異なる。1と類似した文様構成だが施文が雑である。11・12は降帯が口唇部の平坦部に波状に貼付される。上には縄線を施す。11は2単位で小型の深鉢である。13は突起様の波頂部を持ち、結束第2種羽状縄文地文である。14は縄文の施文のみの土器である。口唇のごく一部に縄圧痕を連続押しする部分もある。15は波頂部中央に横方向の把手を持ち、4単位の波頂部のうち、対向する2つが同じ文様、二種類の波頂部を持つ。LRL縄とR縄による結束羽状縄文の地文を持つ。16はしまりのない胎土で、結束第1種羽状縄文である。

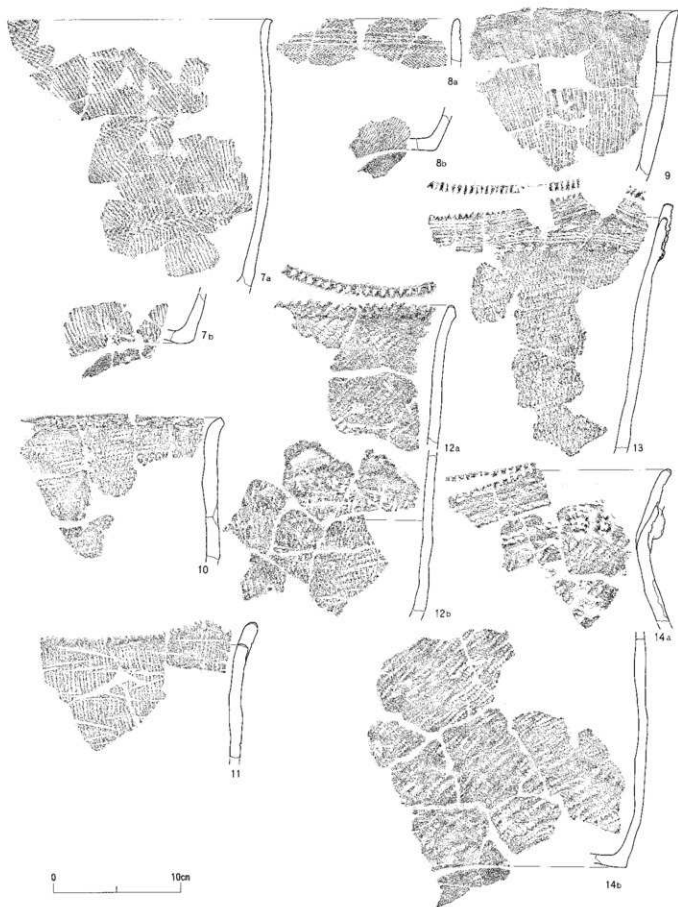
17～19は見晴町式土器である。17は比較的粗雑な土器で、結束第2種羽状縄文地文を不規則に施す。18は三角形の波頂部にボタン状の貼付を持つ。19は波頂部に細い降帯を貼付し、縄文を縦走させる。20～22は無文の土器であり、胎土と調整からIII群a類に分類した。20は屈曲部を持つ平口縁の器形で、ミガキにより無文である。21と22はナデにより無文にしたと思われ、4単位の波頂部を持つ。

23～67は拓影化した破片である。23～30は降帯の貼付文を持つものである。23は円筒上層b式の破片である。密に縄線が集約される。24～30は円筒上層c式あるいはその直前直後に相当するものである。24の穿孔部は焼成前のものである。25～27は口唇部の平坦部に文様が集約される。25・26は縄線が密に施される。円筒上層b式相当の可能性がある。27は波頂部に馬蹄形圧痕を持つ。28～30は胴の

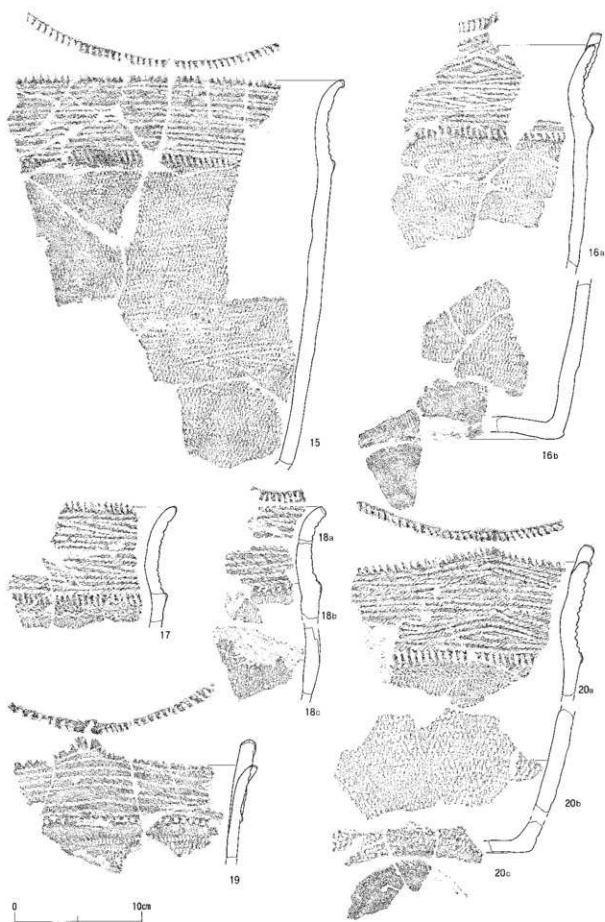




図IV-3 包含層出土土器(1)/Ⅱ群b類(1)



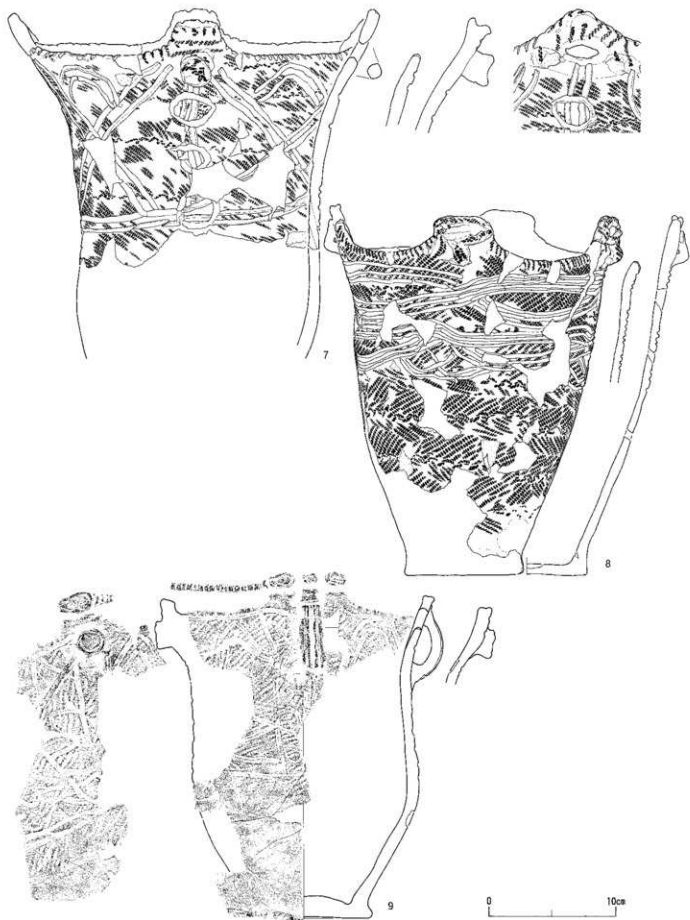
圖IV-4 包含層出土土器(2)/Ⅱ群b類(2)



図IV-5 包含層出土土器(3)/Ⅱ群b類(3)



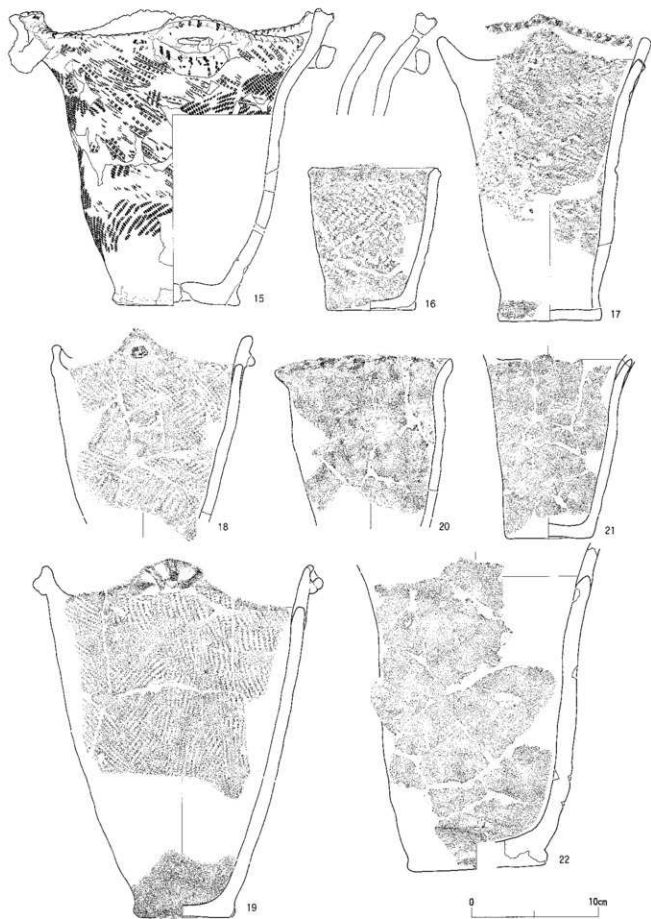
圖IV-6 包含層出土土器(4)/Ⅲ群a類(1)



図IV-7 包含層出土土器(5)/Ⅲ群a類(2)



图IV-8 包含層出土土器(6)/Ⅲ群a類(3)



図IV-9 包含層出土土器(7)/Ⅲ群a類(4)

最大径まで文様帯がある。28は馬蹄形圧痕を区画内に充填する。胴部にもボタン状貼付を持つ。29は地文が複節で、降帯間について縄線を沿わせるように充填する。波頂部にはボタン状貼付を持つ。円筒上層c・d式起源の貼付文だが、在地化したものと考える。30は降帯区画内に押し引き文を持つ。

31～36は口縁の肥厚部のみに地文以外の文様を持つものである。31・32・34は結束第1種羽状縄文の縄端を紐によって結んだと思われる部分の回転圧痕が残る。31は単軸絡条体を連続して押圧したものである。32・33は縄線による押圧を連続する。33の波頂部には波状にした縄の押圧と、馬蹄形圧痕の連続を持つ。底面は編み物圧痕の上からミガキ調整を施す。34～36は口縁部に降帯を波状に貼付する。降帯上には縄線が認められる。

37～40・43・44・46・48は比較的細い降帯で施文するものである。円筒上層d式に起源を持つ降帯文様を持つ。37は縄文施文後降帯貼付。把手は剥落。4単位二種類の波頂部と考える。38は小型深鉢。降帯文様内を縄線押圧。39は降帯上をRL縄文施文。降帯貼付により在地色の強い文様。口縁部には縄側面圧痕を連続する。44・48は細く、断面が円形に近い細い降帯を貼付。降帯上に押圧痕を持たない。44は降帯内を沈線施文。41は口縁部の面取り部分に、42は波頂部のみ、降帯を波状に貼付する。34～36と比較して太さが不均一な粘土紐を貼付し、凹凸が顕著である。42は縄を押圧している。43・46は粘土紐上に縄線押圧。46・47は円筒上層d式起源の文様を沈線によって施文。47は幅広い原体によって浅い沈線により在地化した文様を施文。

49～56は降帯、沈線による面的な文様を持たない地文のみの土器である。49・51・54は整然とした結束第1種羽状縄文地文であり、50・52・53・55・56より一段階古い可能性がある。前者はサイベ沢Ⅶ式より古く、後者はより新しく見晴町にかけてのものともなされる。49は4単位の波頂部だが、対向する波頂部の穿孔の個数が同じである。焼成前の穿孔が2つまたは1つである。50は波頂部の穿孔部分から折損している。51は大型の深鉢で、地文には縄端を縛った部分と思われる回転痕が残る。焼成が良好である。52は波頂部には凹みがある。複節縄文地文である。53は把手が剥落した土器である。54は屈曲部分が顕著な平口縁の土器である。55は縄文が縦走する。56は同じ撚りの原体を結束したものである。

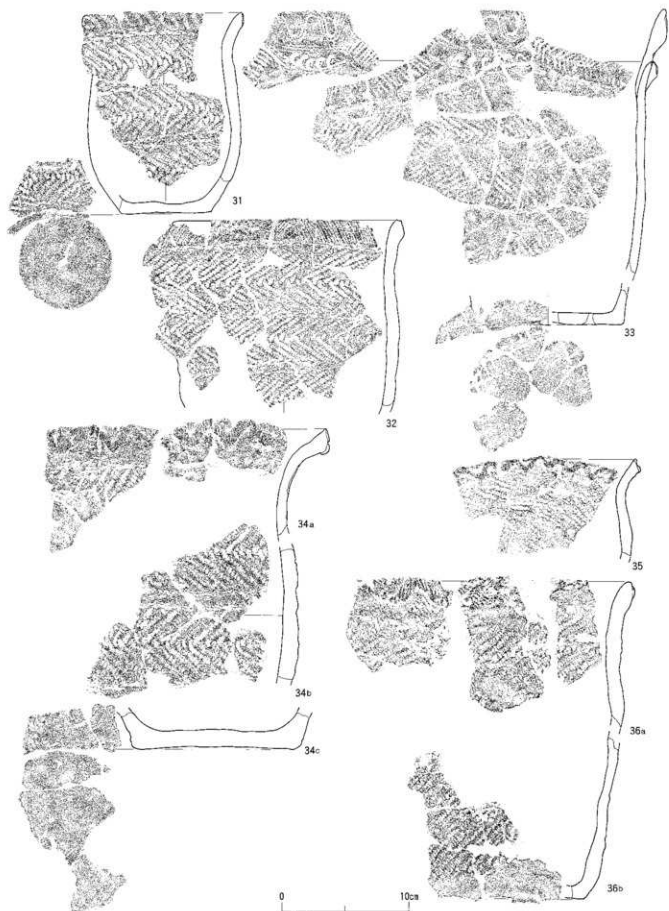
57～67は見晴町式に並行ないしは直前のものである。57・60・61は円筒上層d式起源で、在地化したと思われる直線構成の沈線文を持つ。57は波頂部が環状の突起となっている。57aは縁辺が打ち欠きの可能性があり、再生土製品の可能性がある。縦方向に結束第2種羽状縄文を施文後に、沈線文。58・59は把手を波頂部中央に持つ。58は円筒上層d式起源で、在地化したと思われる曲線的な平行沈線文を口縁部のみに持つ。波頂部には細い断面円形の降帯貼付。59は低い波頂部。60は半截竹管による沈線で施文。胴部の膨らみは顕著である。61は縄文を縦方向に施文したものである。62は筒状の胴部を持つ土器。節がそろった単節縄文地文で、黄褐色味が強い胎土は、粗いが焼成良好である。

63～67は口縁部に椀林式的な要素を見出せるものである。63は口唇部に平坦面があり、沈線が巡る。平坦面は真上を向いている。微妙な上げ底は直立気味の立ち上がりから膨らむ胴部へとつながる。64は丸みをおびた低い波頂部を持ち、口唇の平坦面には沈線が巡る。65～68は口唇部に外側を向く面取りを行い、かつそれが肥厚しないものである。波頂部のみ厚みが増す。口唇部には65～67は縄線による側面圧痕、68は方形の押し引き文を持つ。65は波頂部中央にボタン状の突起を持つ。66は細い降帯を貼付することにより波頂部に円形の凹みを有する。67は節が細いが複節と考えられる地文。68は結束第1種羽状縄文を施文する。

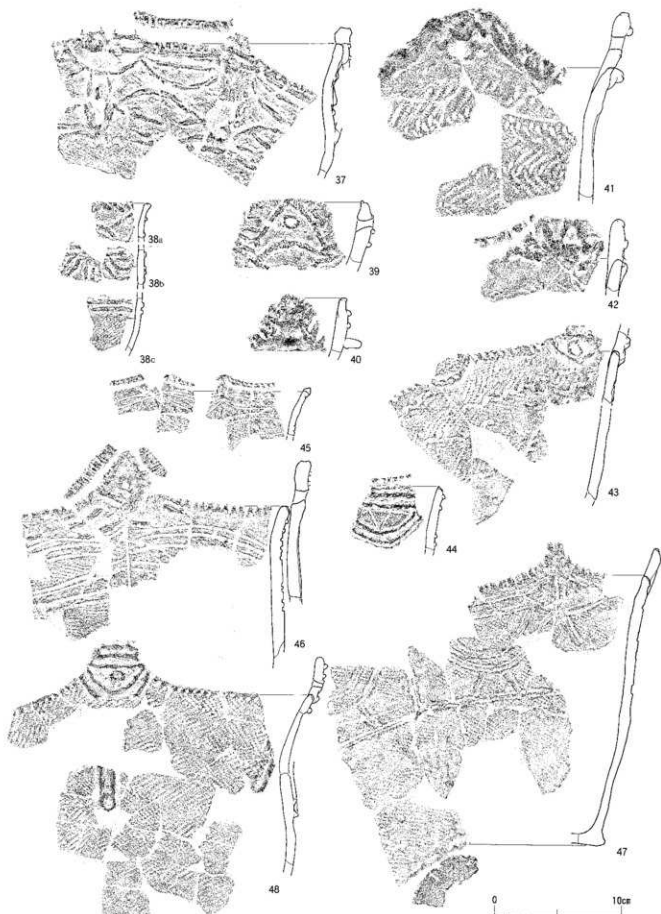




図IV-10 包含層出土土器(8)/Ⅲ群 a類(5)



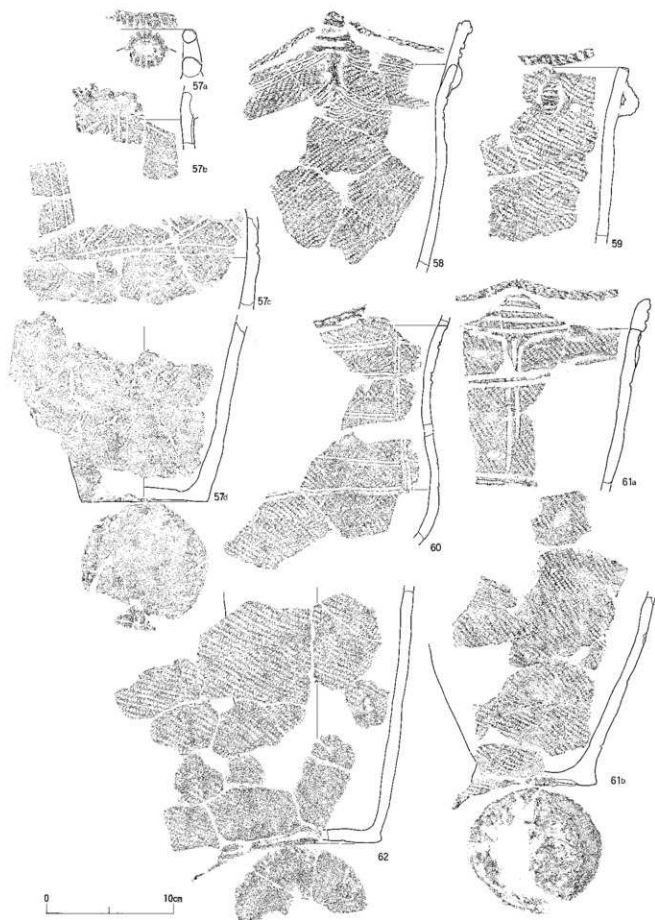
图IV-11 包含層出土土器(9)/Ⅲ群a類(6)



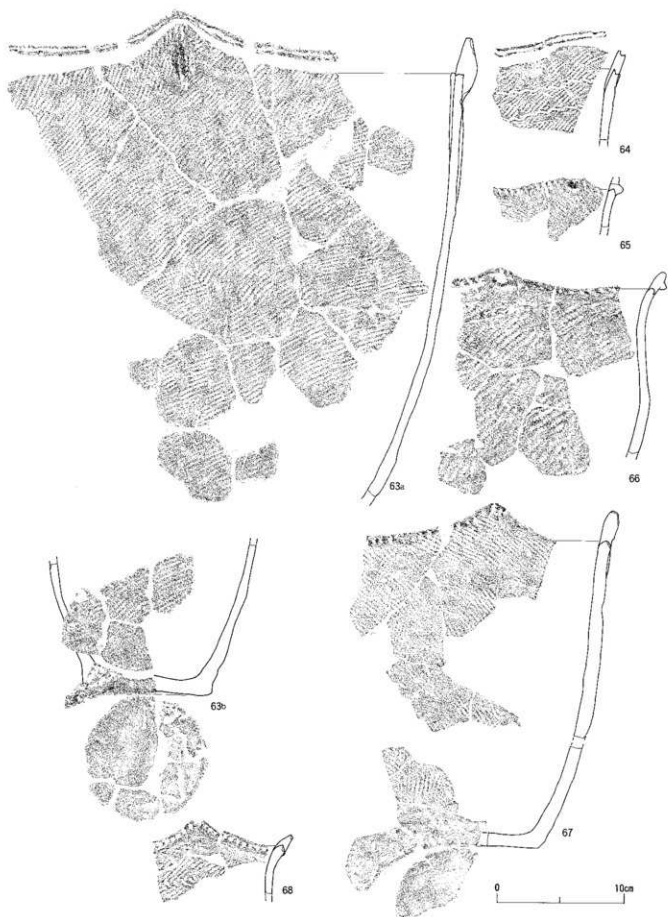
図IV-12 包含層出土土器(10)/Ⅲ群 a類(7)



图IV-13 包含層出土土器(11)/Ⅲ群a類(8)



図IV-14 包含層出土土器(12)/Ⅲ群a類(9)



图IV-15 包含層出土土器(13)/Ⅲ群a類(10)

## (4) III群 b-1 類 (図IV-16~18-1~20、表30-3、図版106-4~107-4・143~146)

1~5は復元個体である。いずれも口唇部に正面に向けた面取りをする。1~3は口唇部に沈線を持つ。3・4・5は2本一組の沈線によって頸部に弧線文を持つ。1・4は4単位の文様、2・3・5は3単位の波頂部である。1は横走する縄文と膨らむ胴部に特徴がある。

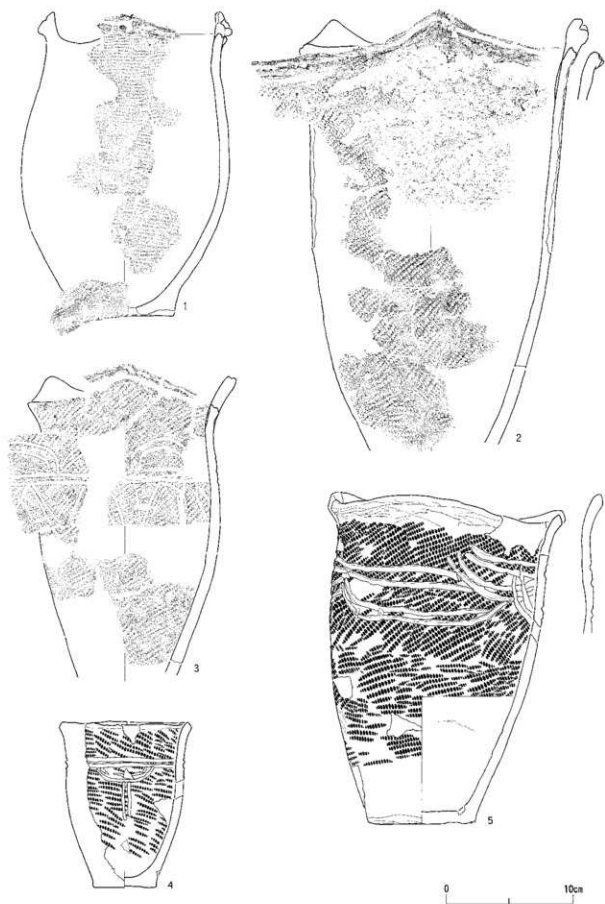
6~20は拓影化した破片である。6~19は口唇部に面取りする。16・17・19は上向きに面をとるが、他は面を正面に向ける。13・14は渦巻きの名残と思われる文様を持つ。13は丸い凹みを波頂部に持つ。14は口唇部にキザミが連続し、波頂部には横方向の短沈線が施される。19は器表面と口唇部の成形痕が一部沈線風に見える。6~12・15は口唇部に渦巻き文様あるいはそれにつながると考えられる沈線文を持つ。19は時期的に次段階の土器という可能性があるが、住居跡H-2 (図III-82-H-2-1) や土坑P-23 (図III-100-P-23-1) の例があるためこの時期に分類した。1・6・8は口唇部の波頂部間中央にも渦巻き文がある。9は1つの波頂部に大小の突起があり、それぞれに渦巻きが組み合う。縄文地文のものは節が明瞭なものが多い。6は横走する縄文地文。8・17は縄文を縦方向に施文。10は単軸絡条体地文。12は複節縄文地文。16は縄を縦横に転がし、縦方向の羽状にする。19は結束に類する圧痕を持つが、縄端の処理が回転圧痕となった可能性がある。いずれも縄文施文後、沈線文を施す。6・10・13は頸部を2本一組、12・15~17・18は3本一組の沈線で、頸部を区画する。11~13・17は頸部の沈線文から胴部への文様へと連続する。12・13・15は弧線文。17・18は垂下する沈線を伴う渦巻き文。11は頸部の区画を持たないが、同様の渦巻きと垂下文を持つ。16は胴部に頸部と類する文様を持つ。10はよく湾曲する波状文を波頂部から垂下する。17は底部際から直線的に開きながら立ち上がる器形の深鉢である。18は小型深鉢である。20は明瞭な上げ底である。底部際から強く外側へ開き、膨らむ胴部へと連続する。

## (5) III群 b 類 (図IV-19・20-1~23、表30-4、図版108-1~109-1と3・147~149)

1~6は復元個体である。1は2単位の波頂部を持ち、その中央に渦巻き文を持つ。波頂部間中央の口縁部には把手がある。地文施文後に、沈線文。頸部は水平な2本の沈線間を刺突が並ぶ。2本の刺突列が、頸部を帯状に縁取る。2は頸部と胴部に、同心円状の渦巻き文があり、それぞれ横方向に連続する。4単位の波頂部には深い刺突がある。底部際には縦方向の短沈線が並ぶ。3・4は単軸絡条体地文の深鉢である。胴部が軽く膨らみ、ゆるい頸部と外反する口縁部形態である。張り出し気味の底部と微妙な上げ底を持つ。この種の土器は粒径2~4mmの白色粒が混和材として目立つ。3は節が不明瞭で、幅広い縄である。4は波頂部が3単位の可能性がある。5は底面が器の正中線に対して傾斜している。口縁部は調整時に無文となる。6は全面無文の土器で、明瞭な上げ底が高台型である。

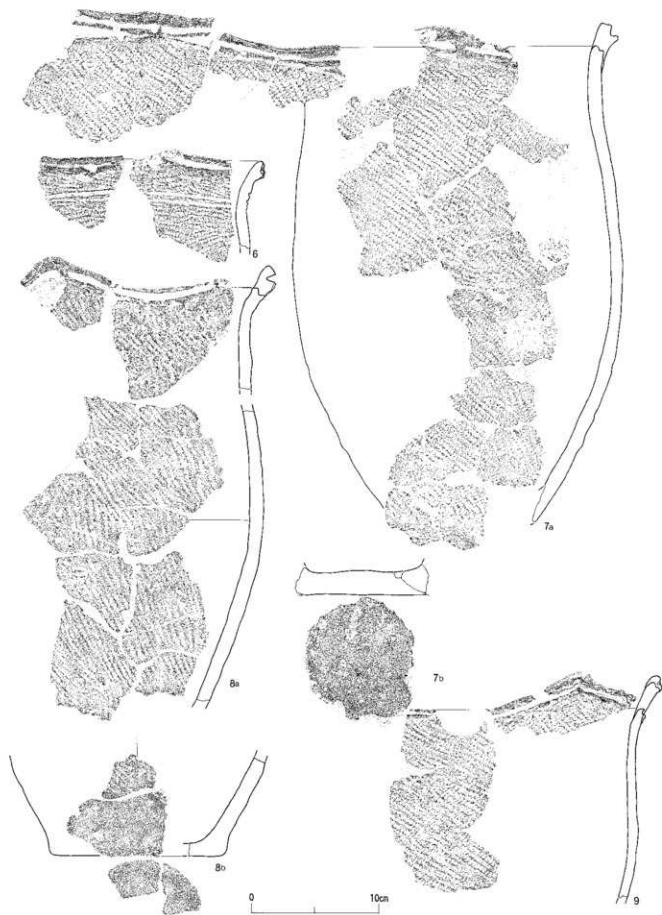
7~23は拓影化した破片である。7・8は小型深鉢口縁部と思われる、渦巻き文に起源を持つと思われる2本一組の沈線文が口縁部文様帯に描かれる。7は口唇部に円形の連続刺突を持ち、細い半截竹管によって施文する。9・10は口縁部が無文の土器である。いずれも無文部直下に隆帯を持つ。9は沈線と円形の連続刺突を組み合わせて、胴部にも渦巻き文を組み合わせる。10は隆帯上に半截竹管による押し引きを連続させる。隆帯の押し引きから連続して方形の区画文様を連続させる。方形の上部は粘土紐上に押し引き、下部は縄文を施文した器面に押し引きを連続する。

11~20は単軸絡条体地文のものである。11は口唇部に面をとり、沈線はないが渦巻き文的な形状に成形する。口唇部の口縁部厚部にも縄線を施す。波頂部から2本一組の沈線を垂下させる。13は口縁部厚部にも絡条体を施文。ゆるやかな頸部直下に沈線による水平方向の区画を持ち、胴部には同心円

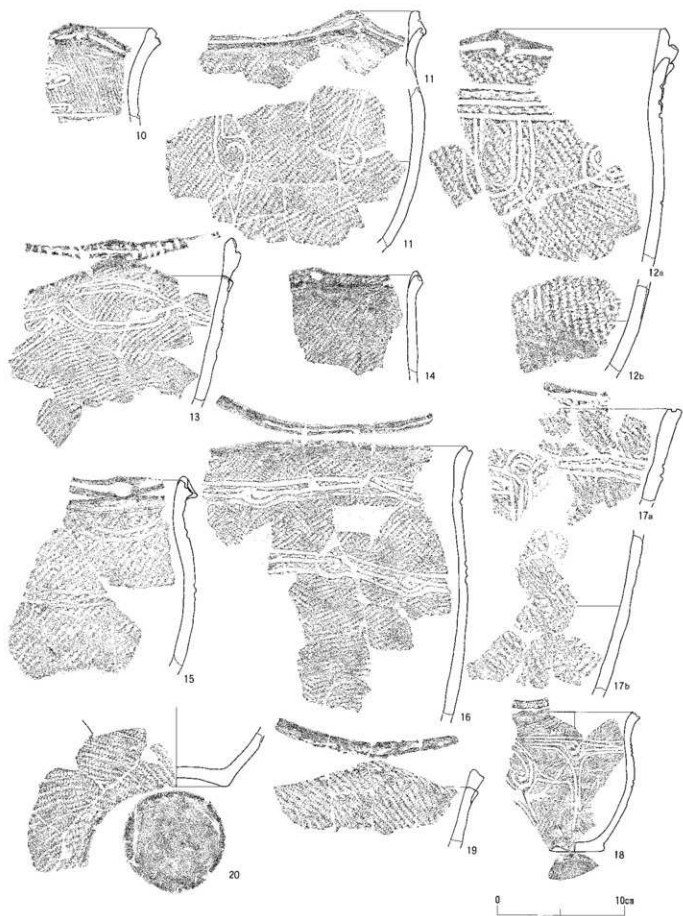


图IV-16 包含层出土土器(14)/Ⅲ群b-1类(1)





図IV-17 包含層出土土器(15)/Ⅲ群b-1類(2)



图IV-18 包含層出土土器(16)/Ⅲ群b-1類(3)

状の渦巻き文を持つ。12・14～18は復元土器3・4の特徴に該当するものである。ただし、12は細い半截竹管による曲線文を口縁部と胴部に分けて施文する。また17は口縁部の絡糸体施文部分の角度を変え、焼成が他に比べて良好である。14は口唇部に連続刺突を持つ。節が不明瞭な縄である。19も胎土にこれら一群の土器と似た混和材を持ち、上げ底だが、色調が乳白色味を帯び、底部形態はすばまる。そして縦方向の短沈線が底部際を巡る。

20は単軸絡糸体地文だが明瞭な頸部から外反する口縁部である。胎土と地文は住居跡H-1の埋塞(図III-82-H-1-1)に似る。21～23は口唇部に外側を向いた面取りがある。面取り部分の断面はやや丸みを帯び、無文である。胎土には繊維と海綿骨針が含まれる。23はナデによって無文である。

#### (6) IV群a類 (図IV-21～45-1～153 (154はb類)、表30-5、図版109-2と4～122-3・150～169)

1～62は復元個体である。1～3・5～27は沈線文を持つ土器である。4・および28～30は粘土紐による貼付がある。1・4はトリサキ式相当である。7は前十腰内式並行の可能性ある。2・3・5・6・8～30は大津式に相当する。ただし2・3・6は其中で古段階と考える。

1・4はトリサキ式に特徴的な8の字形におじった粘土紐貼付を口縁部にもつ。1は5単位で降帯貼付後に縄文地文。4は横走する縄文の上から貼付。2・3・5は平行沈線文を胴部に持つものである。2は粗雑な平行沈線文と降帯を表裏に貼付した3単位の波頂部を有する。3は焼成の良好な器壁を持つ5単位の深鉢に、波状の平行沈線文を施す。5は縄文地文の胴部に平行沈線文。水平方向に細長い楕円形を多段に並べる。6は無文地に2本一組の沈線で同心円状の楕円形を口縁部に並べる。

7～9は磨消縄文を持つ。7は5単位の口縁部直下に渦巻き文がある。胴部にも2段の文様構成で磨消縄文がある。文様構成の類似で比較すると、「前十腰内式」に類似する。底面には圧痕によるものか、沈線が一本ある。8は幅広の沈線により、口縁部と胴部の2段の文様帯を持つ。胴部にはいわゆる「カニ鉋状文」を施文。3単位の口縁部には降帯文が表裏にわたる。9は大型の深鉢である。4単位の波頂部には降帯文が表裏に施され、沈線で縁取られる。胴部は3段の文様構成である。

10は口縁部の降帯上は縄文、胴部文様は円形刺突で充填する。底面は同心円状の文様に円形刺突を充填する。4単位の小型浅鉢である。

11～15は沈線文による文様構成である。11は3本一組、12・13・15は2本一組の沈線で文様を施文する。11は口縁部と胴部の2段の文様構成。13・15は胴部上半に施文。12は器全面に渦巻き文を施文する。14は文様の、八雲町浜松2遺跡8号住居址出土の一群のようなトリサキ式の末期の文様構成に似る。

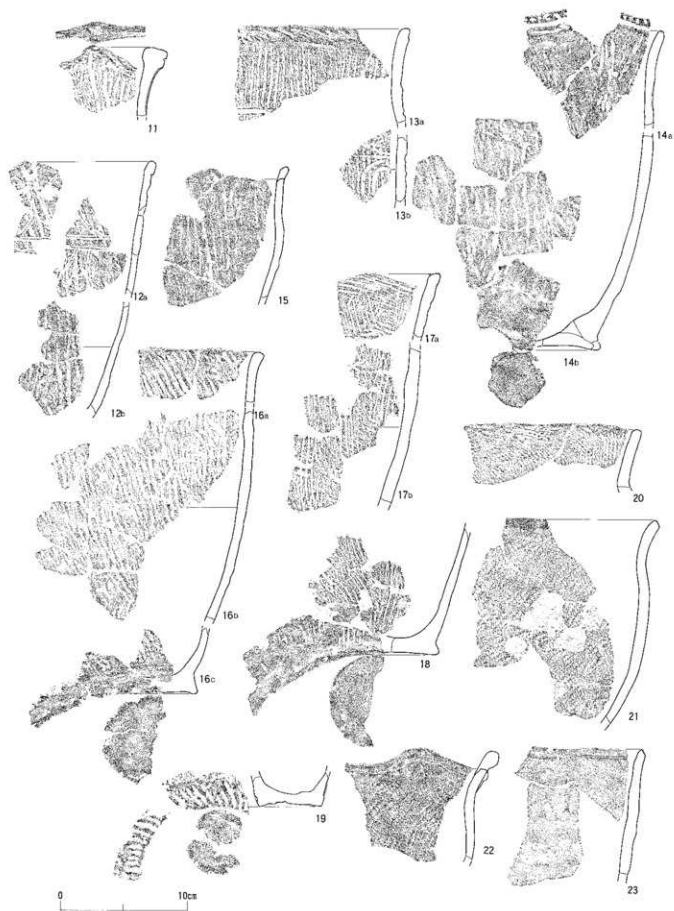
16～27は条痕で充填する文様である。沈線の縁取りの中を条痕で充填するが、17は条痕のみの文様構成である。16～19は条痕の幅が揃っている。17～19は不規則な文様構成である。19はトリサキ式起源の上下に渦巻き文を重ねる文様構成に似る。20・21は半截竹管による擦痕で充填したものである。20は2段のクランク状文の連続である。

22～27はおおよそ等間隔の整った条痕によって沈線文の区画を充填する。22・23・27は焼成は良好。表面は輪積み後、化粧土を施した上にナデ調整をしたものか。22・23はカニ鉋状の文様を基調としたものである。いずれも内彎する口縁部形態で4単位の波頂部部分が反り返る。27は口縁部と胴部の2段の文様構成である。24・25は壺形の器形で屈曲部を持つ。いずれも上げ底である。24は肩部と胴部の2段に文様帯を持つ。25は内面の輪積み痕が顕著である。26は太く幅広い沈線による施文。胎土には白色粒が密である。

28・29は無文地の土器であるが、波頂部に大津式特有の表裏にまたがる粘土紐の貼付がある。28・



图IV-19 包含层出土土器(17)/Ⅲ群b类(1)



図IV-20 包含層出土土器(18)／Ⅲ群b類(2)

29は3単位である。30は4単位の同様な波頂部を持つ縄文地の土器である。

31～33は小型の器である。31は網目状絡糸体を外側に残した輪積み痕の上に施文する。32は条痕が残るような調整具で器面を調整する。口唇内面にも条痕がある。胎土は黒色味を帯びる。33は瓶形で、一単位の波頂部には焼成前の穿孔がある。化粧土を施したかのような丁寧な調整である。

34～62は地文のみの土器である。34～41は波頂部に指頭による押圧あるいはキザミなど大津式の沈線文様を持つものと共通する要素を持つ土器である。34・40・41は4単位の波頂部に指頭圧痕。34・40・41は折り返し口縁で、35・37は無文地。35は2単位の波頂部で、口唇には円形の刺突が部分的に施される。埋没後に割れたためか変形している。36は3単位の波頂部に縄圧痕。37は4単位の波頂部にキザミ。38・39は無文地の土器で3単位の波頂部に圧痕。39は指頭による。38は折り返し口縁。

42～54は縄文地の深鉢である。42は2単位の土器で波頂部に短い粘土紐を縦方向に貼付する。42・44は折り返し口縁成形後、縄文施文。43～43は明瞭な上げ底を持つ。44・45・47・48・51～54は横走する縄文地文である。胴部は主に縦方向のミガキによって無文とする。43・47・48は3単位。45は6単位。44・49・51は4単位である。53・54は大型深鉢の胴下半部であり、底面はミガキ調整で上げ底である。55～62は無文地の深鉢。55～57・60は折り返し口縁成形後、縦方向のミガキによって無文。61・62は胴部最大径部分に横方向、下は縦方向のミガキ調整により無文である。

63～153は拓影化した破片資料である。63～66はトリサ式であり、特有の8の字にねじった粘土紐を貼付するもの。63は無節の縄文施文後、縄線を降帯に押圧する。8の字の穴には刺突による円形の押圧がある。沈線文は不規則である。64は無文地に平行沈線文。65は横走する縄文地に平行沈線文。66は粘土紐貼付の上から横走する縄文。67は無文地に粘土紐添付、内面に折り返し口縁。68・69は文様の、八雲町浜松2遺跡8号住居址出土の一群のようなトリサ式の末期の文様構成に似る。70は無文地に口縁部のみ平行沈線文を施したもので、上げ底の深鉢である。5単位と思われる波頂部にはキザミが加えられる。大津式の古い段階の可能性がある。

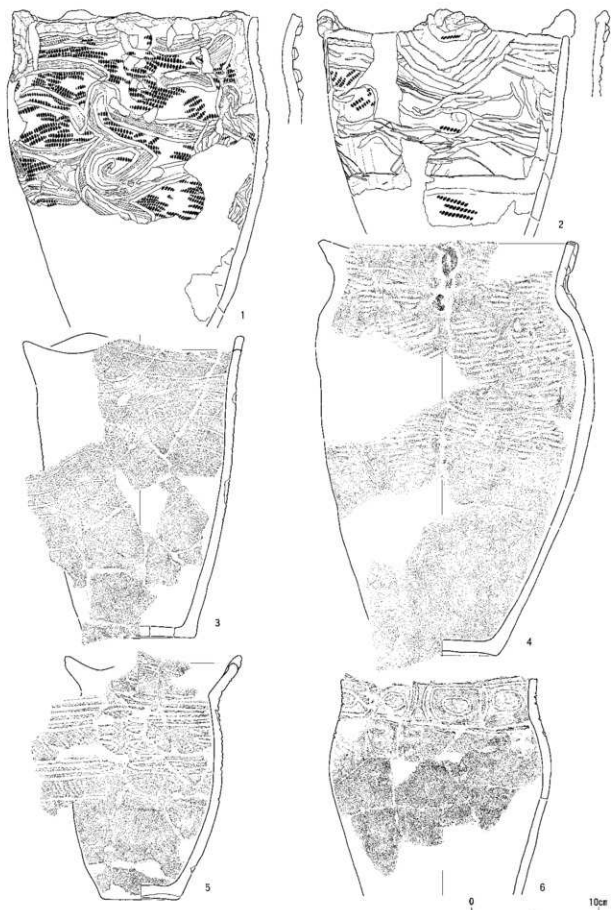
71～77は縄文地の土器で、沈線等を施したものである。涌元式～トリサ式に伴うものの可能性がある。71・74～76は2本一組の沈線文。71は壺の口～肩部で、口縁部には不規則な間隔で焼成前に5個の穿孔。73は壺で、肩部内面には輪積み痕が残る。胴下部には単輪絡糸体を縄文の上から施文。74・75は焼成良好で、横走する縄文地文の上から、十腰内I式期の文様を模したものを施す。75は自縄自巻的な縄文地文である。76は鉢形で、無節縄文地文上を施文。沈線の間隔は狭い。72は5本一組の幅広く浅い平行沈線による波状文施文。縄文の節も粘土に浅く入る。胎土は乳色味をおび、焼成良好。77は横走する縄文地に半截竹管による渦巻き文と伴う波状文を描く。

78～80は大津式に相当する。78～80は磨消縄文を持つ土器。78は内面に輪積み痕が残る。79は波頂部に細い粘土紐による貼付がある。焼成良好。器面の調整は丁寧である。80は小型の壺形土器であり、粘土紐貼付後、縄文施文。内面輪積み痕が残る。P-48区に1点類例がある。

81～84・86は円形あるいは円形に近いC字形の刺突による充填文。81は波頂部にキザミ。波頂部下には縦長の楕円形文、その両脇に平行沈線あるいは横長の楕円形文。82・84は不規則な地文。82は渦巻き文を基調とする。83は渦巻き文様の中を押し引き気味に刺突。86はR縄文の上を刺突列。85は半截竹管によるC字形の刺突を連続施文する。

87～90は沈線文があるもの。87・90は3本一組で施文。90は草本によるものか浅い沈線で、割口は焼成を受けており、意図的に輪積み部分から切り離したもののか。88・89は2本一組で施文。89は小型深鉢で条痕文地文の上から不整な連環状の文様を連続する。

91～105は条痕によって沈線文を充填したものである。91は不規則な沈線文様を半截竹管で充填す



図IV-21 包含層出土土器(19)/IV群a類(1)



图IV-22 包含層出土土器(20/IV群a類(2))

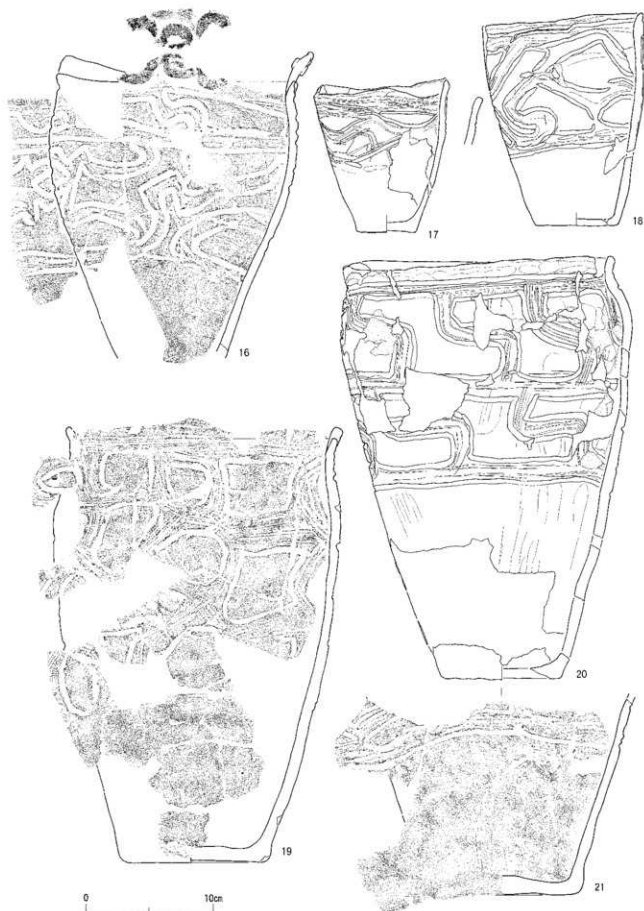




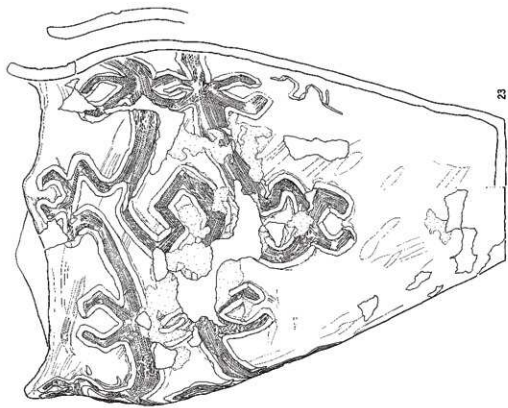
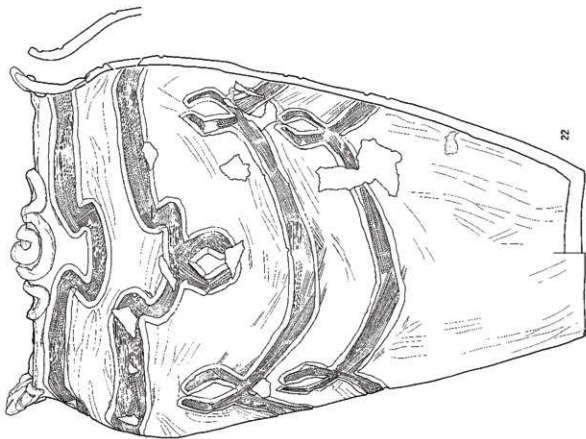
図IV-23 包含層出土土器(21)/IV群a類(3)



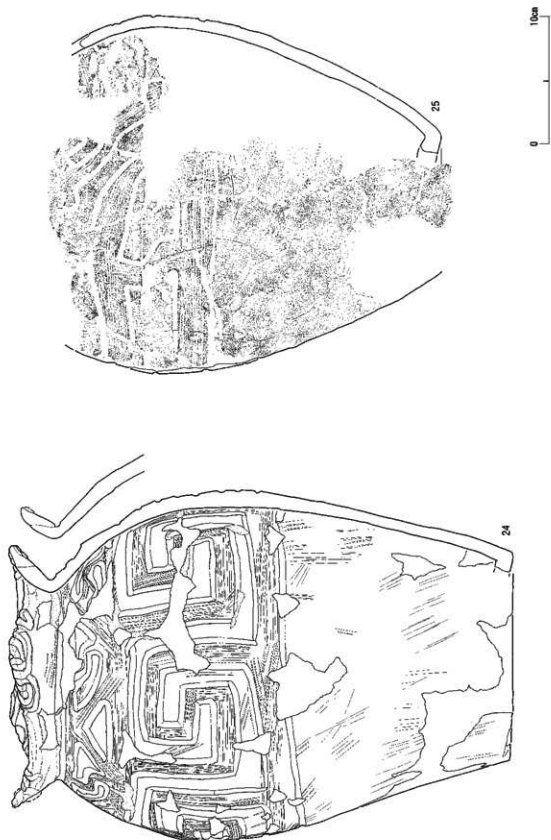
图IV-24 包含層出土土器22/IV群a類(4)



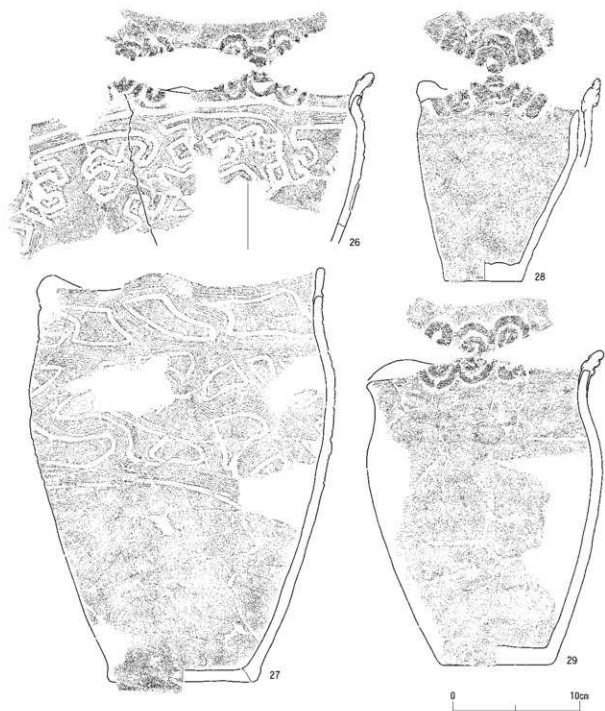
図IV-25 包含層出土土器23/IV群a類(5)



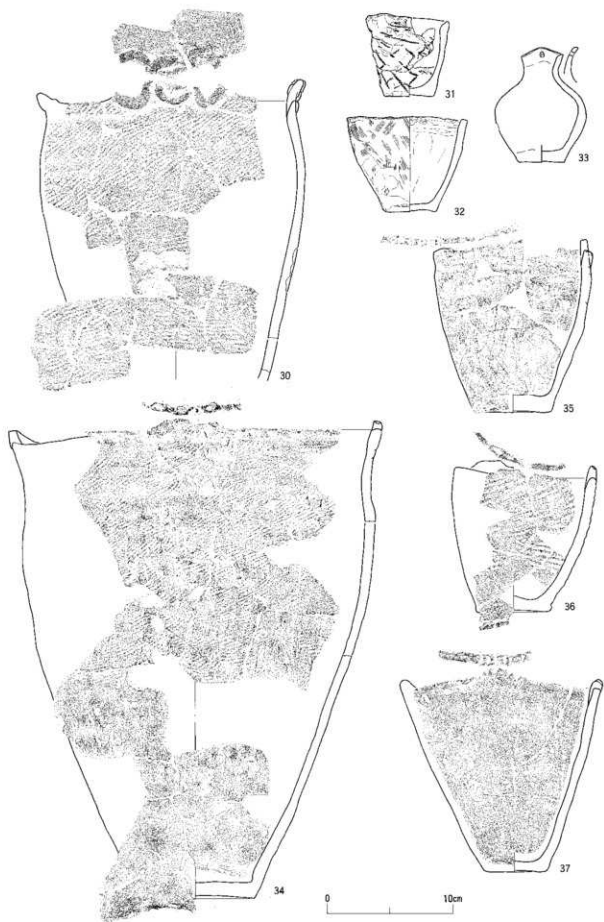
圖IV-26 包含層出土器24/IV群a類(6)



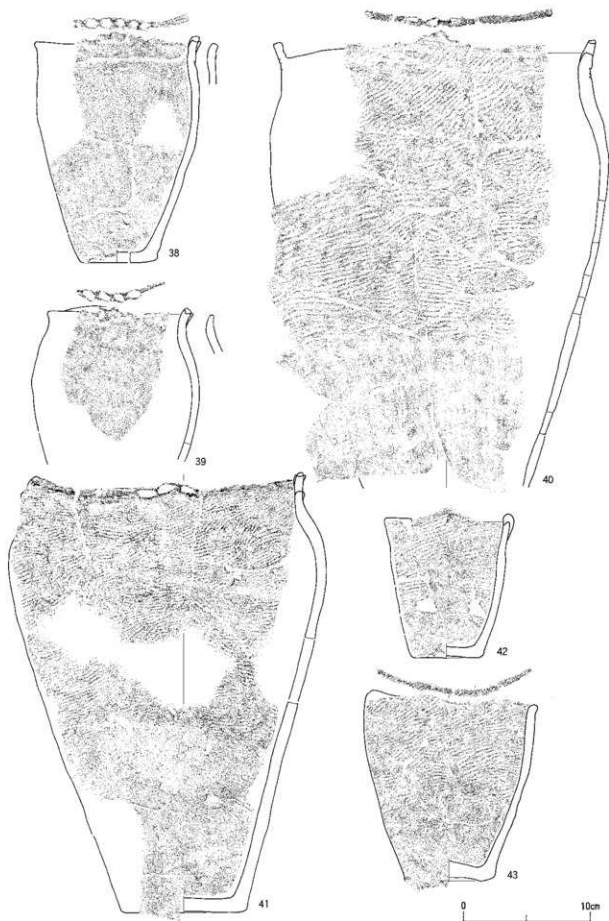
図IV-27 包含層出土土器25/IV群 a類(7)



图IV-28 包含层出土土器(26)/IV群a类(8)

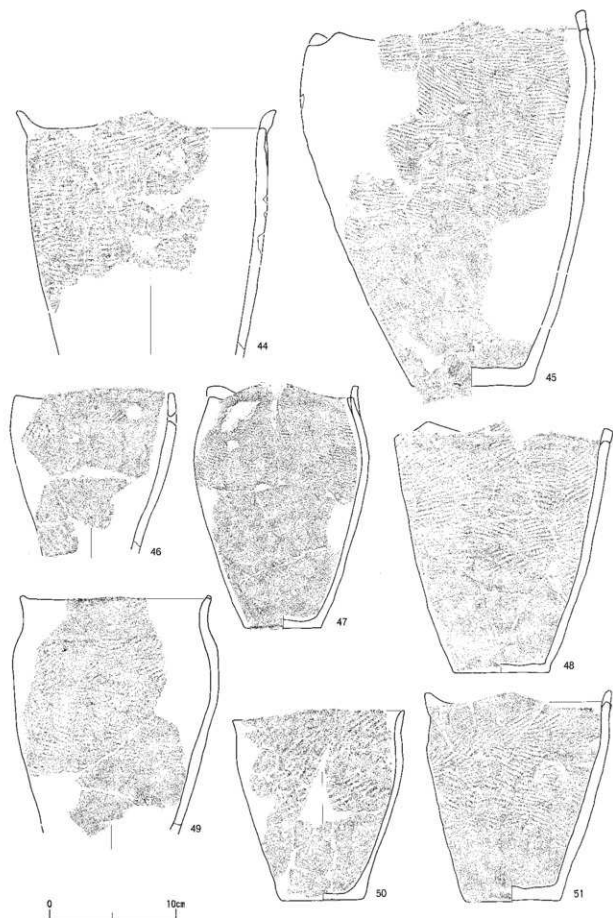


図IV-29 包含層出土土器27/IV群a類(9)

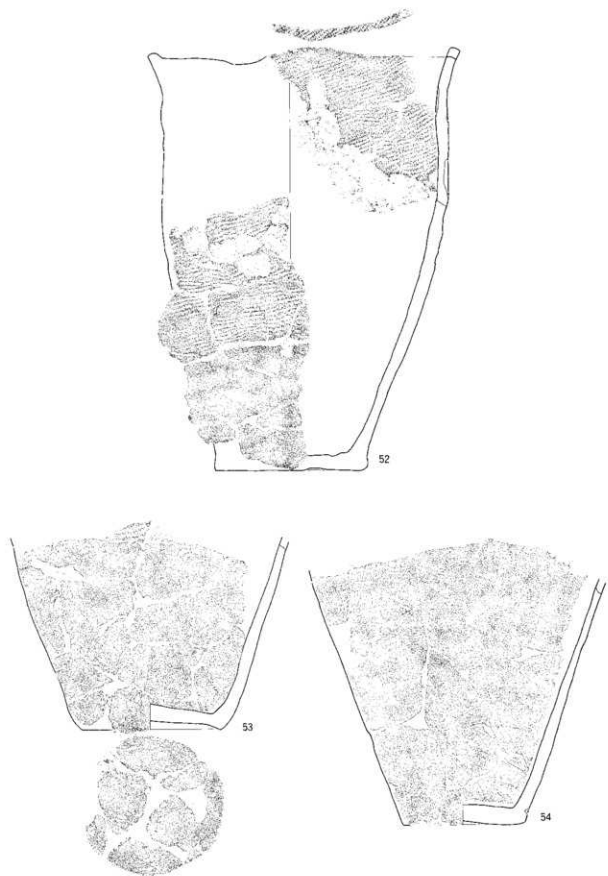


图IV-30 包含層出土土器(28)/IV群a類(10)

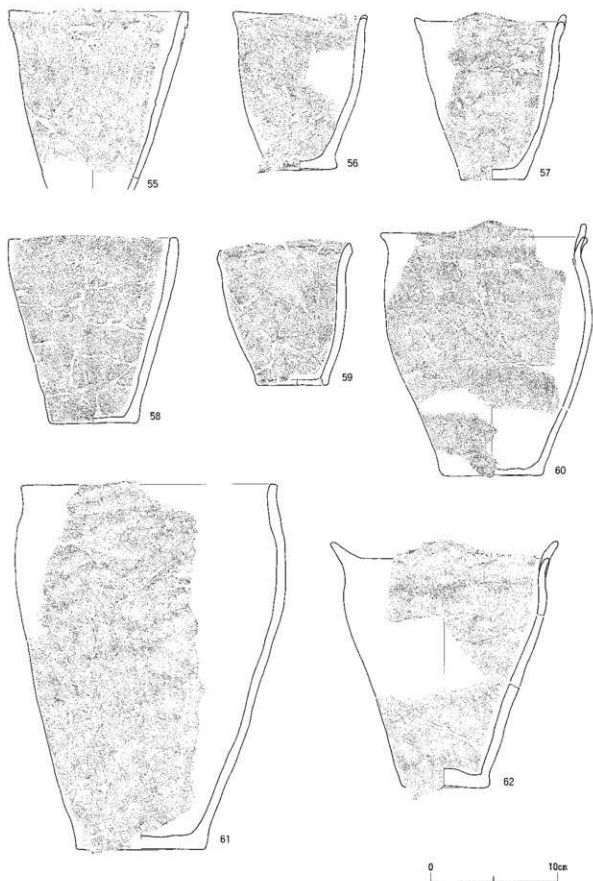




図IV-31 包含層出土土器(29)/IV群 a類(11)



图IV-32 包含層出土土器30/IV群a類(12)



図IV-33 包含層出土土器(31)/IV群a類(13)

る。92は太い沈線と擦痕の組み合わせで施文。93～105は比較的等間隔の条痕で施文。93は膨らむ頸部と頸部、よく外反する口縁を持った大型の深鉢。頸部と胴部、2段以上の文様構成。波頂部には隆帯文。94は壺の頸部に条痕のみの施文。胴部は沈線間を2段の文様構成で充填文。95は口縁部から胴部にかけて連続する2段以上の文様構成を持つ浅い頸部を持つ外反する鉢。96は規則的な横方向の連続文様を上下二段持つ壺形。97は1本の沈線で、条痕文の上の輪帯をなぞったもの。98の口縁部は条痕のみの施文、口縁部文様帯の区画沈線直下は沈線間を充填した文様。99・103は頸部を含む口縁部と胴部に充填文が施される。上下で別文様が横方向に連続する。100は波頂部から垂下する充填文。器内面には隆帯による渦巻き文。101・102はクラック形の充填文。101は小型の鉢。102は壺形。104・105は膨らむ胴部を持つ大型の深鉢。104は口縁部と胴部に二段の文様構成。胴部は不規則な曲線文。105は規則的な施文がある胴下部破片である。

106～153は沈線文を持たない土器である。106は小型の深鉢で、口縁には3か所一組の押圧が2ヶ所、対向する位置にある。107～114・121は大津式の波頂部の特徴が要素として確認できた縄文地文のものである。107・110・112～114は波頂部に指頭圧痕を持つもの。109・111・121は波頂部にキザミを持つもの。107は草本によるものか浅い沈線文がかすかに窺える。108は表裏にまたがる粘土紐貼付がある。108・112・113は横走る縄文地文を持つ。

115～137は縄文地文の土器。138はその可能性がある土器。115～120・124～126・129は横走縄文地文。115は施文時の原体を動かした痕跡が残る。116は輪積み痕が微妙に折り返し口縁気味である。117は面をとらない口唇部縄文施文。119～120・122・127は折り返し口縁を持つ。119・121は多段。いずれも口縁部成形後、縄文施文。124はもろい胎土で、上げ底。127は上面観が楕円形。126・128は壺形の器形。128・129は縄文施文後、顕著なミガキ調整。130～134は貼付帯を持つもの。口唇と口縁の2本の貼付帯間は無文帯である。縄文はいずれもLR縄文である。帯の表面と地文で、縦、横と縄の施文方向を変える。131は無文地に貼付帯。132は縦方向の区画をする貼付上に縄線。133は口縁部側の帯がJ字形に湾曲する。135は網目状絡条体施文。胴部に段を設けて下部に縄文、上部に絡条体。136は口縁部に2本の縄線。137は上げ底で底部際まで縄文施文。胴部は縄文縦回転。底部際で横回転。このような地文のものは口縁部に貼付帯を持つ場合が多かった。138は内彎する口縁部を持つ。摩擦して不明瞭だが地文はLR縄文ないしはオオバコ回転文である。

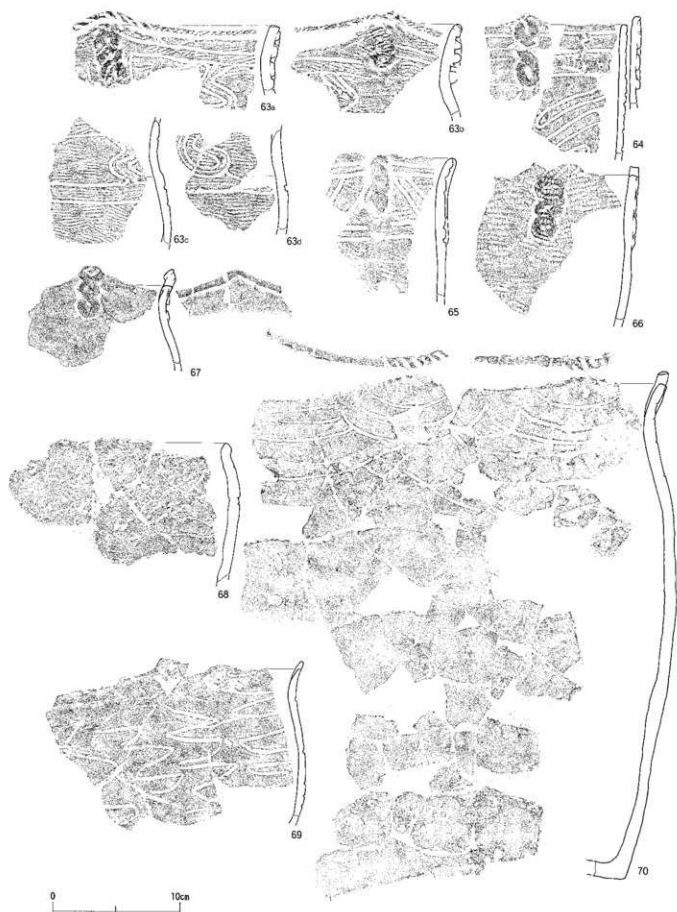
139～150は無文地のものである。縦方向のミガキによって無文にするものがほとんどである。139は波頂部に押圧。145・146・148・150は折り返し口縁を持つ。151は張り出す底部形態の小型な土器。152は底面をミガキ調整。153は編み物圧痕の上からミガキ調整を施す。

#### (7) IV群b類 (図IV-45-154、表30-5g、図版168)

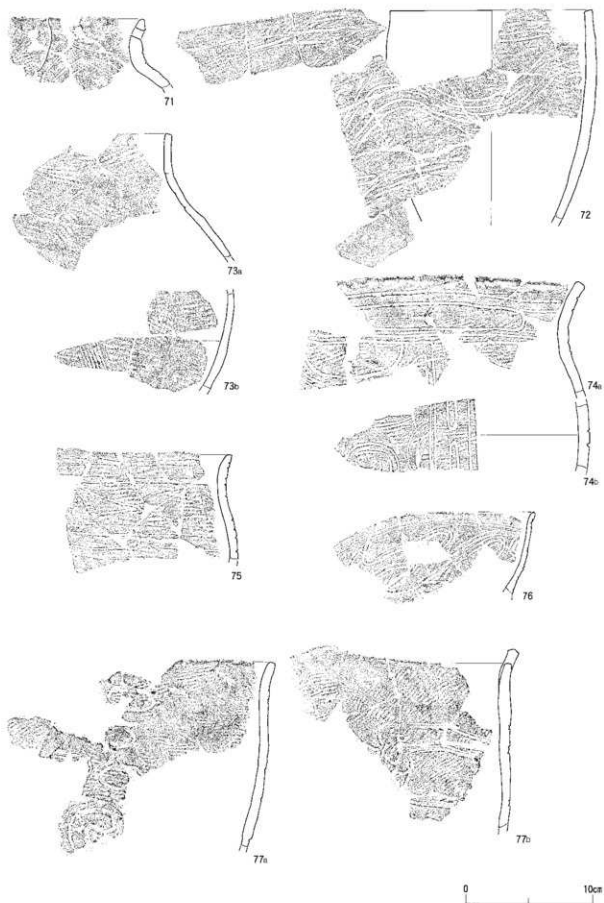
節の整った縄文を沈線文に充填する。焼成良好であり、文様の特徴からウサクマイC式と並行するIV群b類前半の土器の可能性ある。

#### (8) VI群 (図IV-46-50-1～37、表30-6、図版122-4～126-2・170～174)

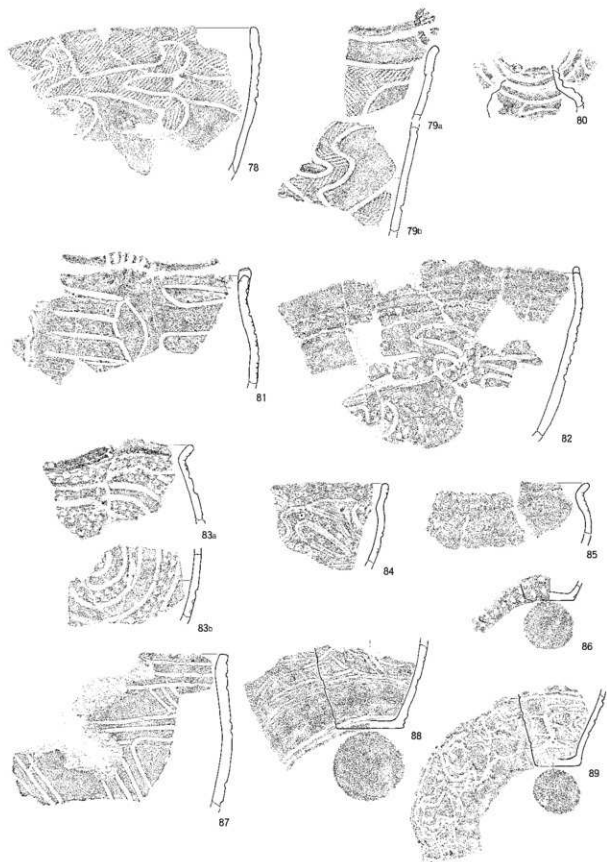
1～17は復元土器である。いずれも縄文はRL縄文である。いずれも1～13は明瞭な上げ底である。1～3は後北B式である。1は胴下部に斜短沈線が連続する。2は擬縄線を沈線で縁取る。3は胴下部に細かいキザミを擬縄文風に連続する。4～8はアヨロ3式あるいは南川IV群に属するものである。4は三角形の、5は爪形の列点文が巡る。6・8は口唇にキザミを持つ。6は水平な沈線間に水平方向に連続する短沈線を持つ。7は口唇にキザミを持たず、内側に面を取る。



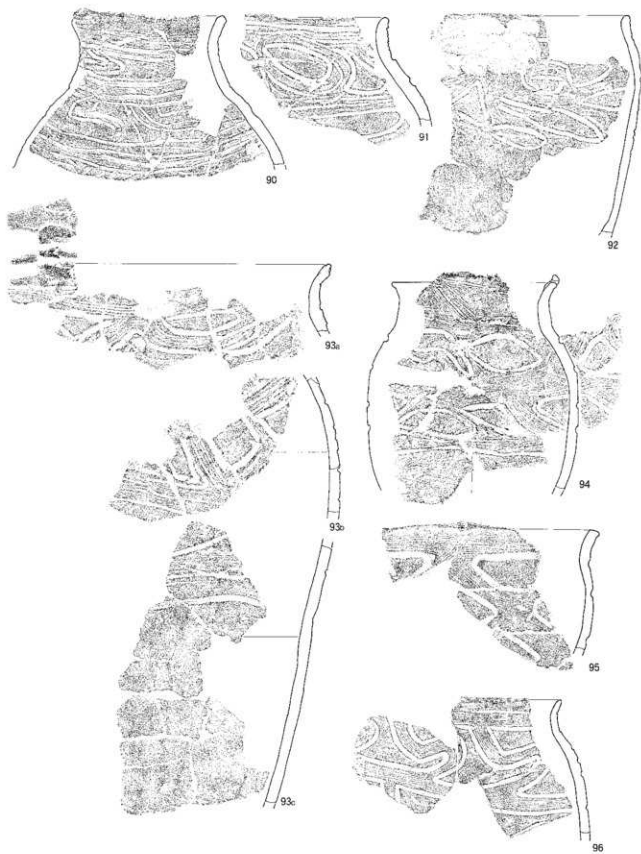
図IV-34 包含層出土土器32/IV群 a類(14)



图IV-35 包含層出土土器(33)/IV群 a類(15)



図IV-36 包含層出土土器(34)/IV群 a類(16)



图IV-37 包含層出土土器(35)/IV群a類(17)

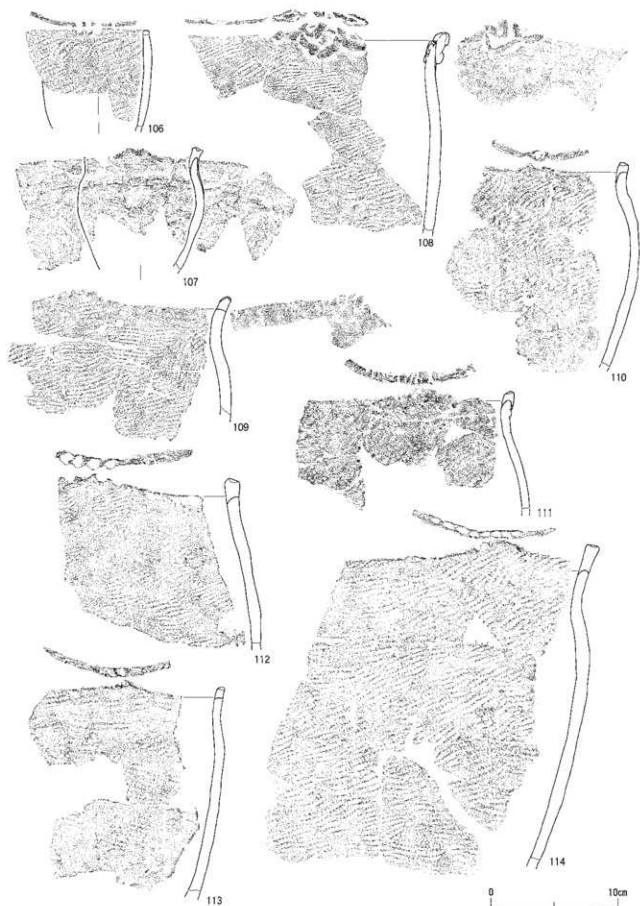




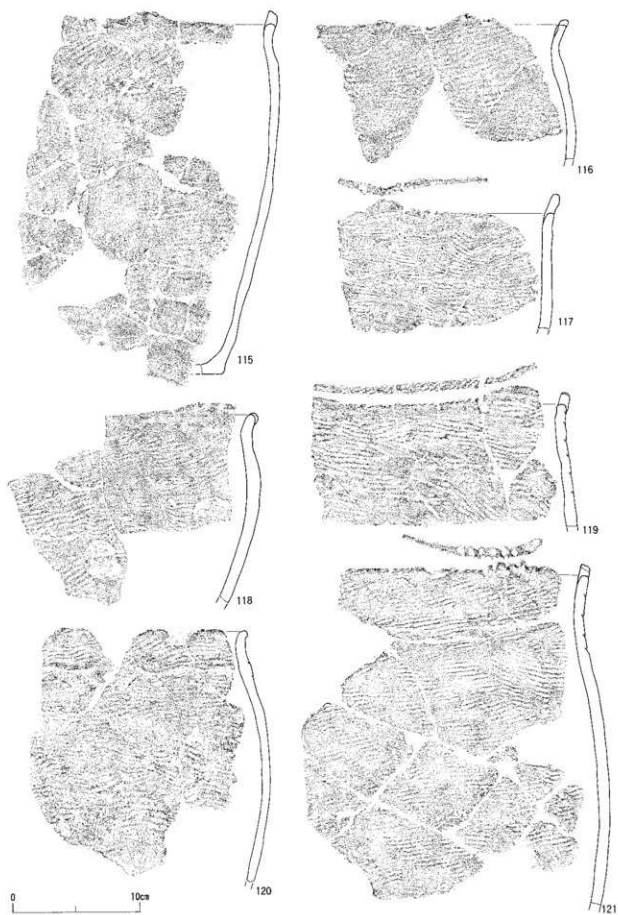
図IV-38 包含層出土土器③6/IV群 a類(18)



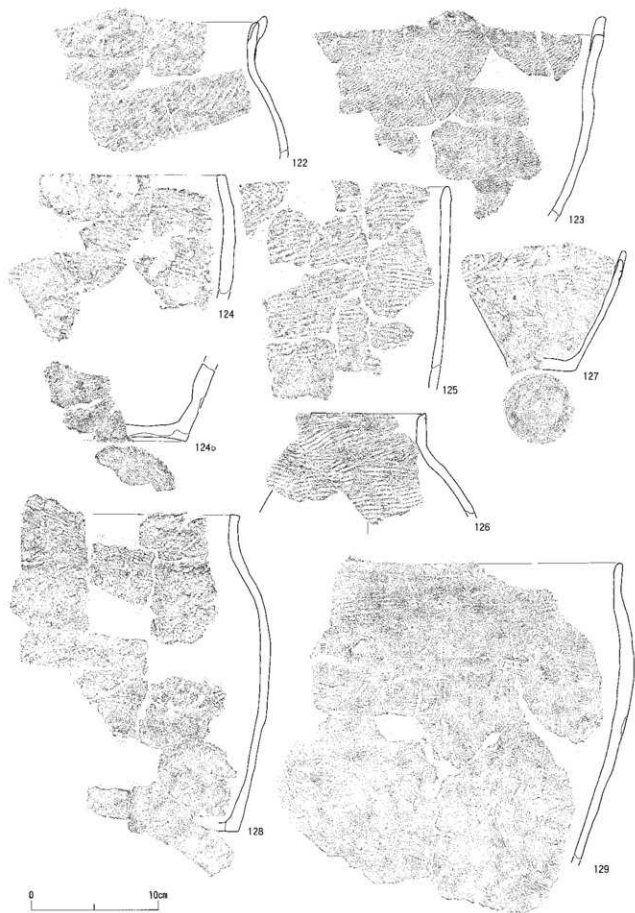
图IV-39 包含層出土土器37/IV群a類(19)



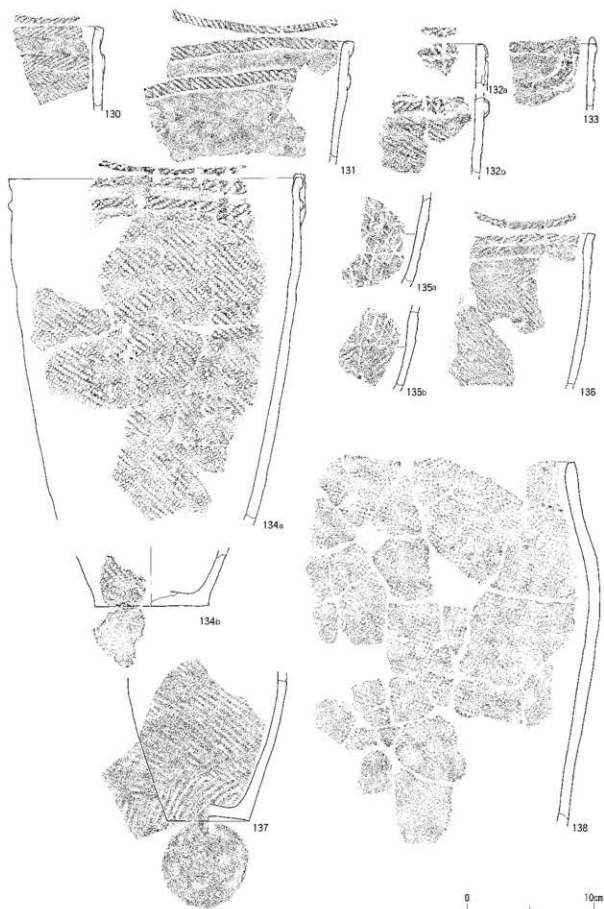
図IV-40 包含層出土土器38/IV群 a類(20)



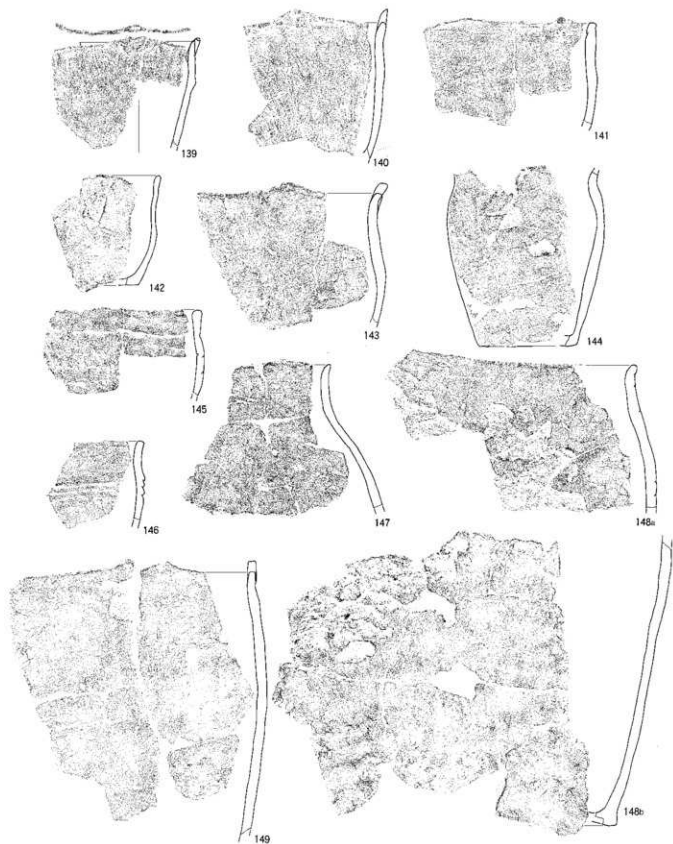
图IV-41 包含層出土土器(39)/IV群a類(21)



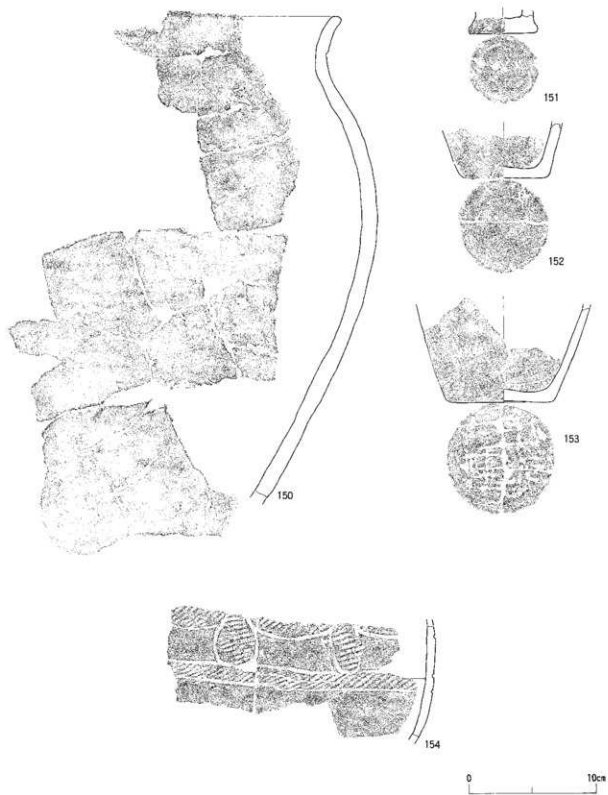
図IV-42 包含層出土土器(40)/IV群 a類(22)



図IV-43 包含層出土土器(41)/IV群 a類(23)



図IV-44 包含層出土土器(42)/IV群 a類(24)



图IV-45 包含層出土土器(43)/IV群a類(25)·IV群b類



10はアヨロ3式に並行するものである。口唇部にキザミを持ち、沈線で縄文を区画する。磨消縄文を持つ。4～8と比べ器壁が薄く、胎土に黒色味がある。

9は江別太1式あるいは後北C<sub>1</sub>式古段階である。口唇部にキザミを持ち、帯縄文と連続する斜行短沈線を組み合わせる。11～15は後北C<sub>1</sub>式である。いずれも微隆起線による施文。13は区画内を人間の爪による列点文。14は二次被熱が著しい。15は微妙な上げ底の中央が凸部を持つ。16・17は後北C<sub>2</sub>D式。15・16は口唇部にキザミを持つ。16は後北C<sub>1</sub>に近い後北C<sub>2</sub>D式。17は大型の深鉢で、凸面を持つ底部。

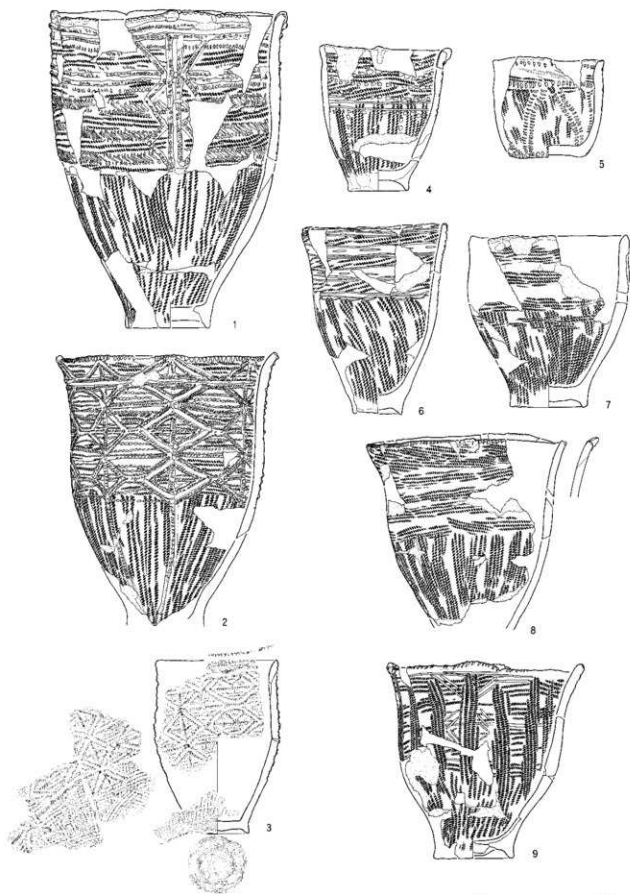
18～37は拓影化した破片資料である。18～22はアヨロ3式あるいは南川IV群に属するものである。18は磨消縄文に沈線および短沈線を平行に施す。19は鋸歯状沈線で胴部の縄文施文方向の変換部を区画する。21は押し引き気味の列点が沈線間に並ぶ。22～24・30は明瞭な上げ底を持つ底部である。24は丸く膨らむ胴部を持つ。24は微隆起線が縦方向に垂下し、爪形の列点を持つが、摩擦が著しい。23・24・30は上げ底の程度と立ち上がりの角度から判断して、後北B～C<sub>1</sub>式の範疇のものである。

26～29は後北C<sub>1</sub>式で、口唇部にキザミがある。26・27・28は列点文を持ち、27は三角形の列点文で、同心円状の微隆起線文を持つ。28は微妙な上げ底である。

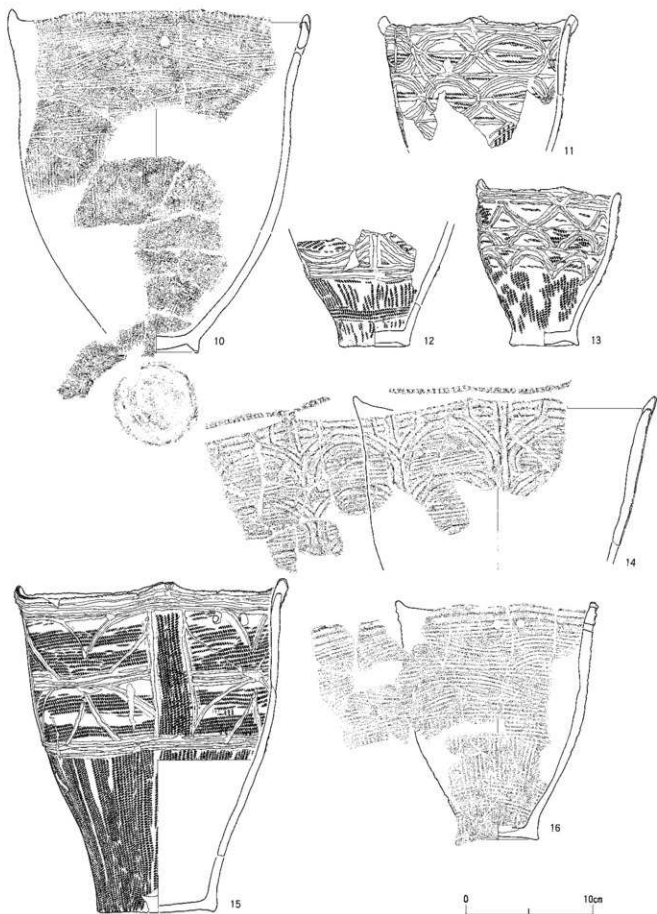
25は後北C<sub>1</sub>式並行、聖山K II群である。口唇部に双頭の突起を持ち、磨消縄文と列点文を持つ。鋸歯状沈線で胴部の縄文施文方向の変換部を区画する。31は大型底部で、微妙な上げ底である。後北C<sub>1</sub>～C<sub>2</sub>D式の範疇である。32～37は後北C<sub>2</sub>D式土器である。33・34・36・37は口唇にキザミを持つ。37は列点あるいは押圧と言うべきか。35は胴部に三角形の列点文を持つ。32・36・37は凸面を持つ底部で、36は微妙な上げ底の中央が凸部を持つ。

#### (9) 土製品・再生土製品 (図IV-51-1～23、表28・表30-7・8、図版126-3・175)

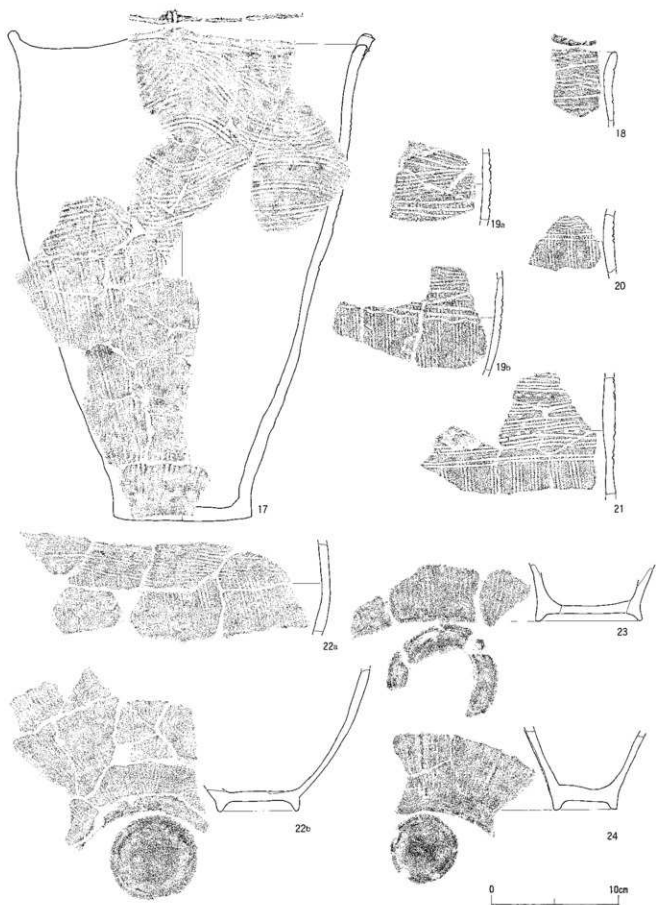
1～15はミニチュア土器、および特殊器形の一部である。一旦、土器破片として分類した後、底径2cm以下の深鉢、あるいは特殊器形と判断したものを抜き出した。23個体(35破片)確認した。うち15点を掲載した。Ⅲ群に属するもの7個体、うちⅢ群a類が6個体、Ⅳ群a類に属するもの15個体、Ⅵ群に属するもの2個体であった。時期は当遺跡出土遺物の胎土および類例から判断した。調査区内から散点的に出土した。1・2はⅢ群a類のものとする。1は波頂部または高台に焼成前の穿孔を2か所持つものである。波頂部として図化した。口唇にあたる場所に単軸絡条施文。2は支脚である。3はⅢ群土器の波頂部で、b類の可能性が高い。器形は判別できないが、不整な形状の口縁部である。半截竹管による連続刺突が施される。4はⅣ群a類の胎土に似るが、時期は限定しがたい。舟形器形の器の船先にあたる部分と考える。人面形を呈する。同様の破片が隣の調査区で出土しており、同一個体で、船尾にあたるものとする。5・6・8・9はⅣ群a類のミニチュア土器である。5は橙色味をおびている。成形が粗い。ほぼ同じ形状のものが隣の調査区から出土している。6は上げ底まで丁寧に作られる。8・9はミニチュア高杯の脚部と考える。ただし8は耳栓の可能性もある。10・11はⅣ群a類の土製品であり、「鐺形土製品」に類するものである。10は「イカ飯形」をしていたと考える。耳が欠損している。11は鐺を半割したような形状、匙あるいは船形の土製品である。7はⅣ群a類土器に付く片口部分と考える。12・13は焼成粘土塊である。指頭の腹面による窪みが顕著である。胎土の類似からⅣ群a類としたが、Va層からの出土であり、縄文時代の焼土をフローテーションした残渣によく焼成粘土塊が混じることも併記しておく必要を感じた。出土の13は小型の皿状を呈する。いずれもⅣ群a類土器に似た胎土である。13は混和材がほとんど無い。14・15はⅥ群土器のミニチュアである。14は上げ底を持つ底部で、後北C<sub>1</sub>式を思わせる。15は上げ底の中央に凸面を持つ底部と口縁部で、細かいキザミ列が当遺跡でアヨロ3式または南



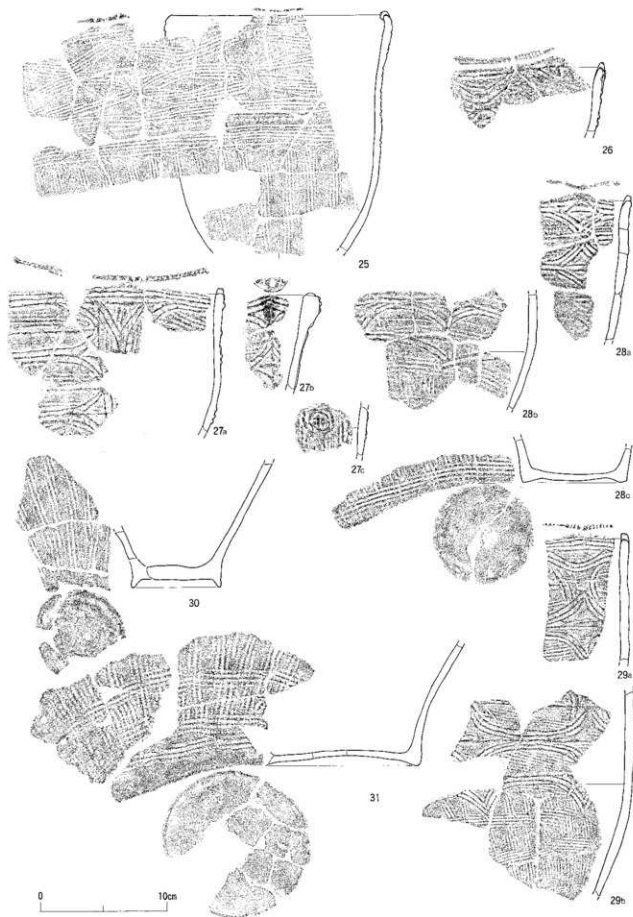
图IV-46 包含層出土土器(44)/VI群(1)



図IV-47 包含層出土土器(45)/VI群(2)



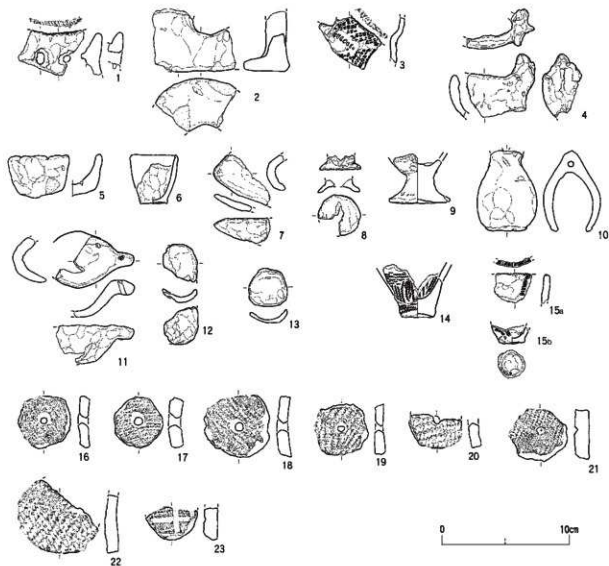
图IV-48 包含層出土土器(46)/VI群(3)



図IV-49 包含層出土土器(47)/VI群(4)



图IV-50 包含層出土土器(48)/VI群(5)



図IV-51 包含層出土土製品(49)／Ⅲ～Ⅵ群

川IV群とした図IV-46-5に似る。

16～23は再生土製品である。一旦、包含層の土器破片として分類した後、土器片を再加工したと考えられるものを抜き出した。その加工品について再生土製品の名称を用いた。可能性があるもの20点を抜き出したが、成形痕が明瞭なものは16点である。Ⅲ群a～b-1類土器を素材とするものがほとんどだが、IV群a類土器が2点ある。ただし、遺構からVI群土器を素材とするもの(図Ⅲ-114-F-7-2)が出土している。包含層遺物の中から8点を掲載した。いずれもⅢ群土器の胴部破片を使用している。16・19・20・23がⅢ群a類。17・18・21・22がⅢ群b類で、18・21・22はb-1類であった。16～20は中央に穿孔を持つ。器の表面および裏面から二次的に穿孔するが、19はほとんど表面からのみの穿孔である。21は器表面側から穿孔の途中である。22・23は折損している。すべて打ち欠きによって成形する。16・17・18・23が打ち欠き後に擦りによって調整している可能性があるが、明らかなものは17・23のみである。(大泰司)

## 2 石器類

### (1) 概要

二年度の調査において、包含層から出土した石器類は、総点数11,515点を数える。年度別では、03年度出土が8,588点、04年度出土が2,927点である。

これらの出土のあり方や傾向を示すため、主に層位ごとの点数を示す「表29 包含層出土石器類点数表」及びグリッドごとの点数を示す「図IV-52~55 出土分布図」を掲載した。これらの作成には、一次整理作業の成果である、遺物台帳のデータを用いたが、分類変更した遺物や、一次整理作業時に生じる表記ミス等を修正したデータは用いていない。しかし、本遺跡における石器類の出土傾向を示す上で、大きな支障はないものと考えられる。

なお、本報告において、ある器種や石器類の出土割合等を示すにあたり、「百分率」を用いているが、算出方法上、小数第二位を四捨五入したので、合計必ずしも100にならない場合もある。

「表29 包含層出土石器類点数表」

#### ・剥片石器群

剥片石器群は9,956点で、石器類出土総点数の約86.5%を占め、そのうちフレイク・チップが8,899点で約89.4%を占める。また、U・Rフレイク（約2.9%）や原石（約1.9%）が多いことも本遺跡の特徴である。主な器種の出土割合は、石鏃：約1.7%、石槍・ナイフと石錐がそれぞれ約0.1%、つまみ付ナイフ：約0.2%、スクレイパー：約2.6%で、スクレイパーが最も多い。出土層位は、Va層：約38.0%、Vb層：約39.1%、V層：約7.7%で、V層からの出土が8割以上を占める。

#### ・磨製石器群

磨製石器群は56点で、石器類出土総点数の約0.5%に過ぎない。すべて磨製石斧で、擦切残片等の製作を想定させる遺物の出土も認められない。出土層位は、Vb層出土が約44.6%でおおよそ半数を占め、ついでVa層出土が約32.1%である。

#### ・礫石器群

礫石器群は764点で、石器類出土総点数の約6.6%である。台石・石皿・凹み石が約27.9%で最も多いが、一次整理段階で使用痕が不明瞭なものもこれに分類している場合があり、実態はこれの半数程度であると推測される。ついで多いのは、扁平打製石器：約27.2%、北海道式石冠：約16.9%、たたき石：約13.2%である。すり石（その他）は04年度には出土は認められない。1点のみ出土の石鋸は、扁平打製石器に分類すべきもので、石錐には扁平打製石器の未製品・未使用品と判断するのが適当であるものも含まれる。出土層位は、Va層：約28.0%、Vb層：約54.8%、V層：約6.2%で、V層出土のものが8割以上を占める。

#### ・石製品

石製品41点で、石器類出土総点数の約0.4%である。Va層出土が約58.5%で過半数を占め、ついでVb層出土約34.1%である。

#### ・自然礫

自然礫は698点で、石器類出土総点数の約6.1%を占め、Va層出土約52.0%、Vb層出土約30.4%、V層出土約6.6%で、やはりV層出土のものが8割以上を占める。

また、自然礫は、取り上げて水洗した後には観察し、現場で廃棄したものが5,837点（04年度）あり、遺跡に存在した自然礫の本来的な点数は、さらに多いと推測される。



## \* 「図IV-52~55 出土分布図」

## ・剥片石器群

「石鏃」は、概ね調査区全体に分布が認められ、C-43・44区とL-38区に10点以上の出土が認められる。「石槍・ナイフ」と「石錐」は少量で、まばらな出土である。「つまみ付ナイフ」は、S-46区の出土が5点を数え、最も点数が多いグリッドである。「スクレイパー」は調査区の全体から出土し、D-43・44区の両グリッドは、10点以上の出土である。「両面調整石器」は、z-43区・F-39区から1点ずつ認められる。「U・Rフレイク」は、C-43・D-44区と、R-41・42区が10点以上の出土が認められるグリッドで、これらの周囲も比較的出土点数が多い。「ピエスエスキュー」は、B-43区から4点出土している。石核は分布範囲が大まかに二つに分けられる。すなわち、C・D-43・44区付近と、もう一つはQ-42・43区とその周辺のグリッドである。「フレイク・チップ」は、調査区全体に出土が認められ、分布の集中範囲は、①C・D-43・C-44区、②J・K-43区とL-42区、③Q-43区の三か所で、これらと隣接するグリッドも多数認められ、その周囲のグリッドへと減少していく。「原石」も、ほぼ全体に分布すると理解され、z・A-43区とT-40・41区にやや集中する。

「剥片石器群」とした分布図は、フレイク・チップと原石を除いたものである。C・D-43・44区と、Q-42・43及びR-41区を中心に集中が認められ、他E-40区、L-38区、R-45区、T-41・42区等のグリッドからも10点以上の出土が認められる。

## ・磨製石器群

「磨製石斧」は、まばらであるが、ほぼ調査区全体に分布するものと理解される。P-47・Q-46区の両グリッドからの出土が比較的多い。

## ・礫石器群

「扁平打製石器」は、調査区の東側部分には全く分布が認められず、F-43区やI-42区では、10点出土している。「北海道式石冠」は、調査区の北・東両側部分に少なく、H-42区では、10点以上の出土である。これら以外のその他の「すり石」は、調査区東側部分（04年度の調査区）には分布が全く認められない。「たたき石」も、まばらではあるが、調査区全体に分布が認められるが、調査区西側部分に比較的多い。「石鏃」は、N-42区から1点の出土であるが、これは扁平打製石器に相当するものである。「石錘」もまばらに少量が出土しているが、扁平打製石器の未製品である可能性も考えられる。「砥石」は、調査区の東側部分に分布が認められず、C-44、D-43・44区に比較的多く認められる。「台石・石皿・凹み石」は、調査区全体にほぼ認められ、特にP・Q-42区、R-41区から多く出土している。

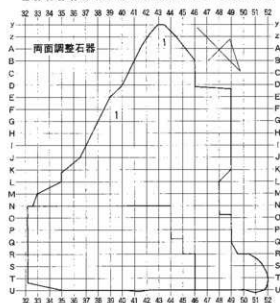
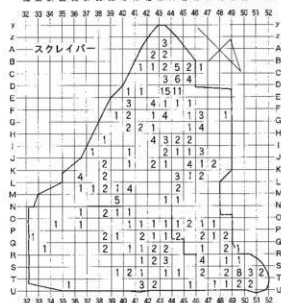
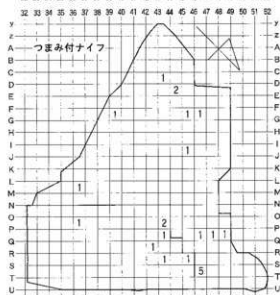
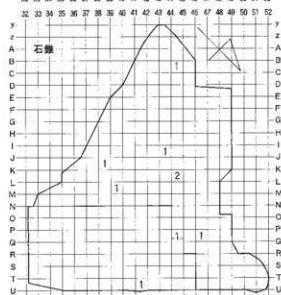
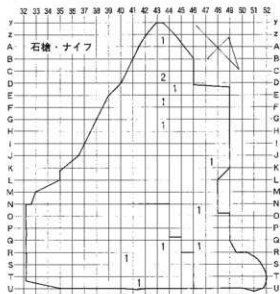
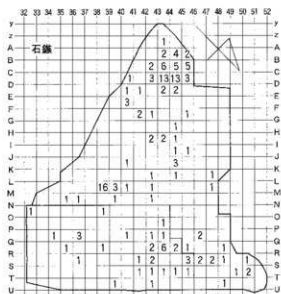
これらの器種の分布を「礫石器群」とした分布図にまとめた。調査区全体から出土しているが、調査区の東側部分は少なめである。点数が多いグリッドは、C-44区、D-43区、F-43区、H・I-42区、P-48区、Q-42区である。

## ・石製品

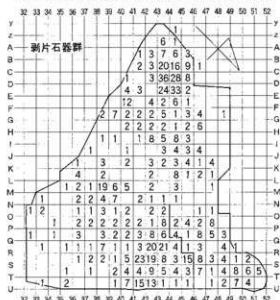
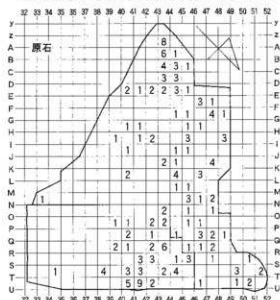
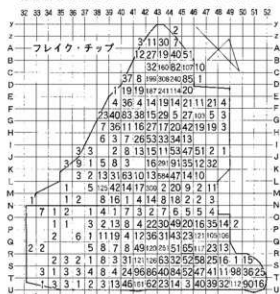
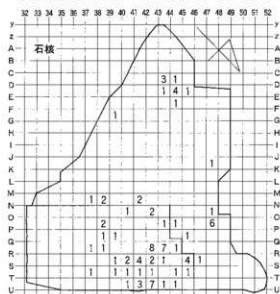
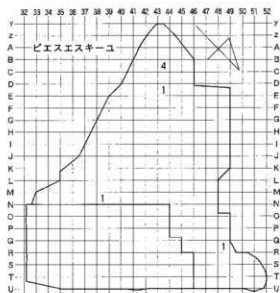
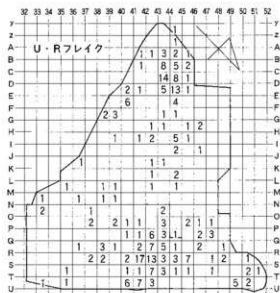
04年度の調査区から多く出土しているのが明確に読み取れる。P-38区に最も多く分布が認められる。

## ・自然礫

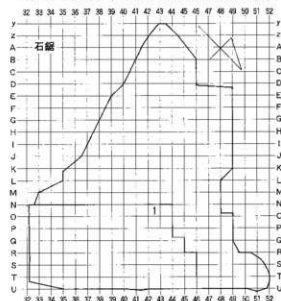
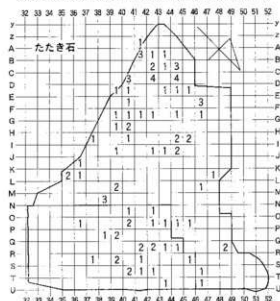
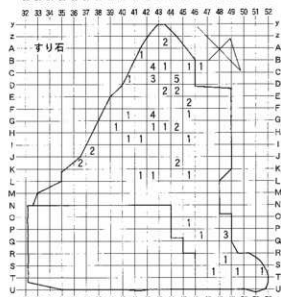
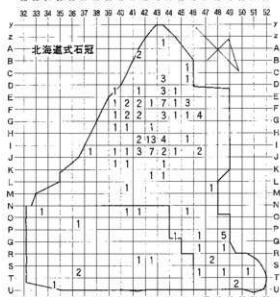
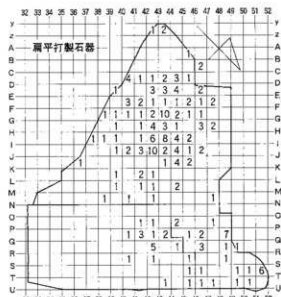
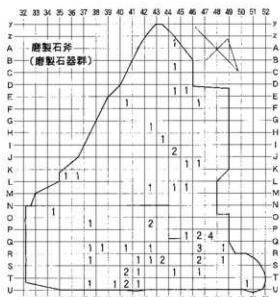
自然礫すべてを遺物として取り上げた訳ではないので、分布図は、現場における自然礫のあり方を正確には示さないが、全般的に石器類の多いC・D-43・44区と、大型の住居跡であるH-8・14が位置するグリッドに多い特徴が読み取れる。



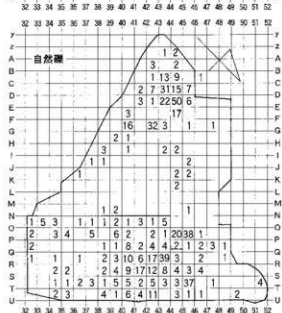
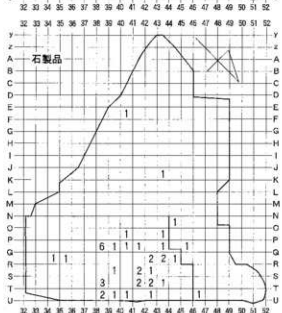
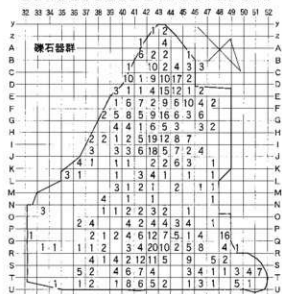
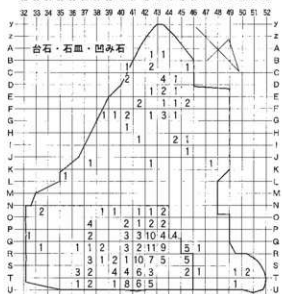
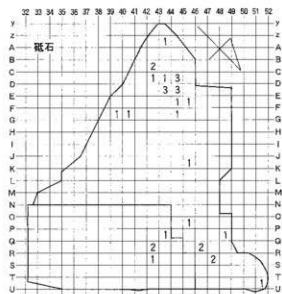
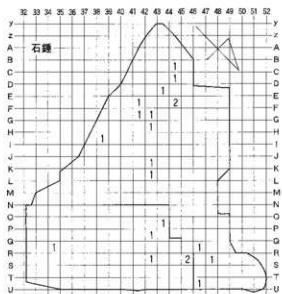
図IV-52 包含層出土石器類分布図(1)



図IV-53 包含層出土石器類分布図(2)



図IV-54 包含層出土石器類分布図(3)



図IV-55 包含層出土石器類分布図(4)

## (2) 掲載の仕方

本報告書に掲載する石器類は、Ⅲ章2節(2)に掲載した遺構出土分も含め次に述べる要領に従い、図面や表を作成した。

### \*実測図

#### ・剥片石器群

背面(表面)・腹面(裏面)・側面・横方向の断面

#### ・磨製石器群

表面(左側に図示)・裏面(右側に図示)・側面・刃部の横面観(あるいは横方向の断面)

#### ・礫石器群

表面(図示した面)・横方向の断面

(ただし、遺構出土の扁平打製石器と北海道式石冠は、表裏両面・縦方向断面・すり面の横面観の四面を図示した)

#### ・石製品

表裏両面・側面・断面等、その遺物ごとに定めた。例えば、三脚石器の場合は、表裏両面・側面・横方向の断面である。

### \*観察表項目の解説

#### 「計測値」

対象物に外接する直方体を想定し、これの三辺をそれぞれ最大長、最大幅、最大厚とし、cm単位で表記する。

#### 「重量」

120g未満のものは、精密な電子秤(計測最小単位:0.1g)を用い、それ以上で2kg未満ものは計量秤(計測最小単位10g)、2kg以上のものは体重計(計測最小単位0.5kg)を用いて計測した。

#### 「石材」

名称すなわち、岩石名については、「表IV-1 岩石分類体系表」に示した体系に従い特定した。さらに、岩石の主な色調について『新版 標準土色帖』(1996年版)を用い、近似する色調を特定し、礫表皮面や含有物等の特徴を簡潔に表記した。

#### 「残存形態」

石器の残存状態について、次の基準に従い判断する。

「完形」:残存表面積が90%程度以上のもの

「準完形」:完形と半形の中間的なもの

「半形」:残存表面積が50%程度のもの

「片」:残存表面積が50%未満のもの

#### 「使用痕」

石器類に認められる、使用によると考えられる痕跡を記載する。

「微細剥落痕」:連続する複数の数mm程度の剥落(剥離)痕

「剥落痕」:形態上の大きな変化を伴わない、単体の剥落(剥離)痕

「線状痕」:線状の筋

「光沢」:光沢を帯びている状態

「磨滅」:稜線等がなめらかになった状態、光沢は帯びない

「たたき痕」:細かく小さい複数のくぼみにより、凸凹した状態を呈する部分

表IV-1 岩石分類体系表(1)

火成岩		優白岩 (酸性)	中性岩 (中性)	優黒岩 (塩基性岩)	超塩基性岩
火山岩	火山噴出物 多孔質	溶岩 (地表に出たマグマが冷え固まったもの)			
	ガラス質 (非結晶質) 石基のみ	浮岩 (軽石)	岩さい		*
	斑状組織 微晶 石基	黒曜岩 (石)	*		*
半深成岩	斑状組織 細晶	流紋岩	安山岩	玄武岩	*
深成岩	等粒状組織 完結晶	石英斑岩	ヒン岩	輝緑岩	*
二酸化ケイ素 (ケイ酸SiO <sub>2</sub> )		花崗岩	閃緑岩	斑禰岩	カンラン岩・蛇紋岩
有色造岩鉱物 (色指数)		66%以上	52~66%	52%以下	45%以下
主体的な有色造岩鉱物		10%以下	10~30%	30%以上	60~70%以上
主体的な無色造岩鉱物		黒雲母	輝石		カンラン石 (蛇紋石)
		石英 斜長石	角閃石	カンラン石	*
			斜長石		

\* 安山岩は、輝石を多く含むもの (普通輝石安山岩) と角閃石を多く含むもの (角閃安山岩) に分けられる。本報告書では、前者を「安山岩」、後者を「角閃石安山岩」と呼称した。

## 堆積岩

## 火山砕屑岩

: 火山噴出物から構成される

## 火山角礫岩

: 32mm以上の火山噴出物 (火山岩塊) 50%以上含む

## 凝灰角礫岩

: 32mm以上の火山噴出物 (火山岩塊) 50%未満含む

## 火山礫凝灰岩

: 2~32mmの火山噴出物 (火山礫) から主体的に構成される

## 凝灰岩 (溶結凝灰岩)

: 2mm以下の火山噴出物 (火山灰) から主体的に構成される

## 砕屑岩

: 丸みを帯びた鉱物片、岩片等から構成され、「磨理」がみられる。

## 礫岩

: 粒度区分上の礫を50%以上含む

## 角礫岩

: 含有する礫が角ばっている (歪角~角礫状) のもの

## 砂岩

: 粒度区分上の砂を50%以上含む

## 泥岩

: 粒度区分上の泥 (シルト・粘土) 50%以上から構成される

: 粒度区分から「シルト岩」と「粘土岩」に分けられる

## 頁岩

: 泥岩のうち、固結が強いもの

## 珪質頁岩

: 頁岩のうち、透明な石英 (ケイ酸SiO<sub>2</sub>) 部分を含むもの

## 粘板岩・千枚岩

: 堆積岩と変成岩の中間的なもの

## 有機岩

## チャート

: 潜晶質石英 (SiO<sub>2</sub>)

: 有機質 (生物遺体)

: 無機質

## 変成岩

: 変成鉱物から構成される。結晶質

## 接触(熱)変成岩

: 熱による変成作用を受けたもの

## ホルンフェルス

: 堆積岩が熱変成作用を受け、微粒状組織となったもの

## 広域変成岩

: 熱・圧力による変成作用を受けたもの

## 片岩

: 再結晶化により「片理」がみられるもの

## 片麻岩

: 再結晶化が進行し、「斑状変晶」や「片麻状組織」がみられるもの

表Ⅳ-1 岩石分類体系表(2)

*石英質（ケイ酸SiO <sub>2</sub> ）の岩石・鉱物の便宜的な分類体系		
堆積岩	チャート	: 同表(1) 参照
	フリント	: チャートのうち、明瞭な貝殻断面を呈するもの。火打ち石
	珪質頁岩	: 同表(1) 参照
変成岩	珪岩(珪石)	: 珪質の岩石が、熱・圧力による変成作用を受け、極微粒の石英集合体となったもの
	鉱物	
その他	水晶	: 無色透明の石英 結晶質
	碧玉	: 隠微晶質の石英で酸化鉄を多量に含む 不透明 暗緑～緑褐色
	玉髄	: 隠微晶質の石英で比較的均質なもの 淡褐～灰色
	めのう	: 隠微晶質 繊維状・縞状 不透明 玉髄の一種
	石英岩脈	

\*本報告書では、ケイ酸(SiO<sub>2</sub>)分を含む石材の名称については、次のように呼称し分類した。

- ・ケイ酸(SiO<sub>2</sub>)部分がみられる頁岩は「珪質頁岩」とし、一般的な頁岩と区別した。
- ・すべてが、ケイ酸(SiO<sub>2</sub>)から構成されるものは、「めのう」に分類した。これには玉髄やチャート(フリント)に分類するのが適当なものも含まれている可能性がある。
- ・安山岩等の他の岩石に付着して認められるものは、分類はその岩石とし、「○○岩+石英岩脈」と表記した。

「すり痕」: 表面が平滑になった状態を呈する部分

「平坦化面」: 使用により、面が平坦に変化した状態を呈する部分

「破損」: 本来の形態が損なわれること

「付着物」: アスファルト等の黒色物質や、赤色顔料等

「被熱」: 被熱により生じるすべての変化、焼けはじけや変色等

#### 「加工痕」

石器そのものに残された、製作方法を示す痕跡

「打ち欠き痕」: 剥片剥離のような打ち欠きか加えられたもの

「敲打痕」: 使用痕でいう、たたき痕と同じ痕跡

「研磨痕」: 使用痕でいう、すり痕と同じ痕跡

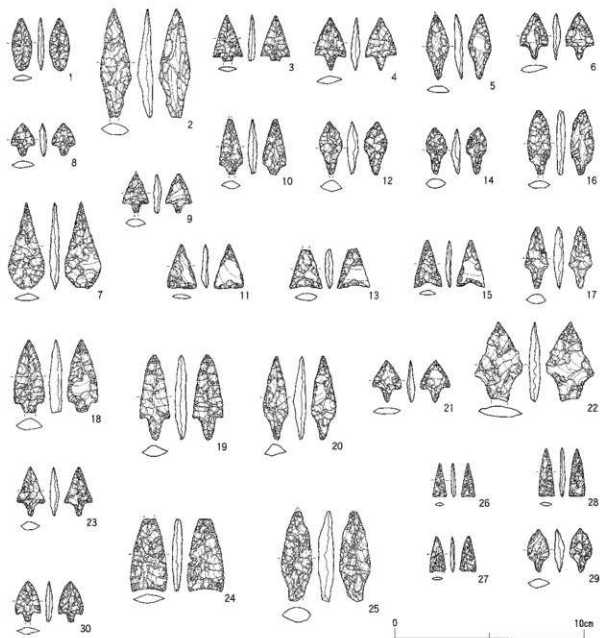
### (3) 剥片石器群 (図Ⅳ-56~62、表31、図版176~179)

#### \*石鏃 (1~30)

173点出土し、これらのうち30点掲載した(掲載率:約17%)。出土層位は、Ⅲ層:9点(約5.2%)、Ⅲ~Ⅴa層:14点(約8.1%)、Ⅴ層:4点(約2.3%)、Ⅴa層:77点(約44.5%)、Ⅴb層:59点(約34.1%)、Ⅵ層:1点(約0.6%)、その他:9点(約5.2%)で、Ⅴ層からの出土が8割程度を占める。

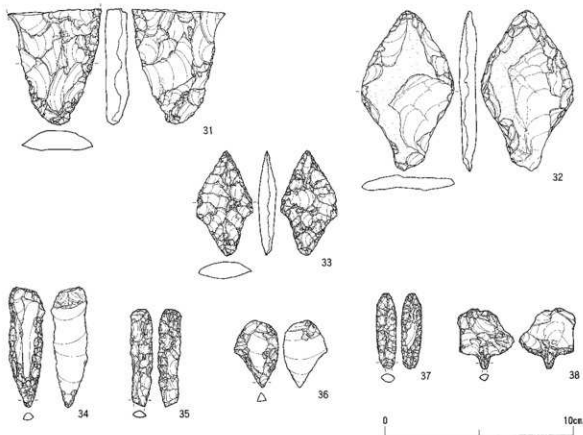
1は柳葉形で、薄いものである。2は、腹面に剥離面を残す。3は有茎石鏃で、基部を破損する。4は、頁岩製の有茎石鏃である。5・6は、背腹両面に剥離面を残す。7は、基部が円形を呈するものである。8は小型のもので、石材はめのうである。9は腹面に剥離面を残す。10は先端部と基部を破損する有茎石鏃である。11は、基部が直線的な無茎石鏃である。12は、やや厚みのあるものである。13は、基部が曲線的に括れる無茎石鏃である。14は、基部が全長のおよそ半分を占める形態を呈する。15は、基部がやや明瞭に括れる無茎石鏃である。16は、腹面の剥離面が確表皮面である。





図IV-56 包含層出土剥片石器群(1)

17は、暗～黒褐色を呈する付着物が認められる。18はやや曲線的な側縁のもので、基部を破損する。19は、先端部があまり尖らないものである。20は、背面にやや高まりを残す素材剥片を用いて製作されている。21は小型で、背腹両面に剥離面を残す。22は、比較的大型のもので、左右非対称な形態を呈する。23は黒曜石製の小型有茎石鏃である。24は若干基部が括れるもので、先端部を破損する。25は、厚みを有するやや長身のもので、先端・基部を破損する。26・27は黒曜石製ですこぶる小型のものである。28は二等辺三角形を呈する平基石鏃である。29は曲線的な側縁の有茎石鏃である。30は、若干逆刺を有するような形態を呈する。



図IV-57 包含層出土剥片石器群(2)

**\* 石槍・ナイフ (31~33)**

13点出土し、これらのうち3点掲載した(掲載率:約23.1%)。出土層位は、Ⅲ層;2点(約15.4%)、Ⅴ層;2点(約15.4%)、Ⅴa層;5点(約38.5%)、Ⅴb層;4点(約30.8%)で、Ⅴ層からの出土が8割程度を占める。

31は、比較的大型のもので、先端部側を大きく破損する。32は、背腹両面に大きく礫表皮面を残す。軟質の凝灰岩製で、非実用品であるかもしれない。33は、大型の石鏃であるとの印象を受けるもので、背面左側縁に、やや規則的な槌状剥離が観察される。

**\* 石錐 (34~38)**

11点出土し、これらのうち5点掲載した(掲載率:約45.5%)。出土層位は、Ⅲ層;1点(約9.1%)、Ⅴa層;5点(約45.5%)、Ⅴb層;3点(約27.3%)、その他;2点(約18.2%)で、Ⅴ層からの出土が7割程度を占める。

34の腹面は、基部及び先端部付近にのみ二次調整が施される。35は棒状のもので、先端部を破損する。36はつまみ部を有するもので、腹面には調整剥離痕が観察されない。37は棒状に加工されたもので、上下両端部に使用痕を有すると判断される。38は広いつまみ部を有するもので、先端部を作出するための剥離痕が背腹両面に認められる。

**\* つまみ付ナイフ(石匙) (39~50)**

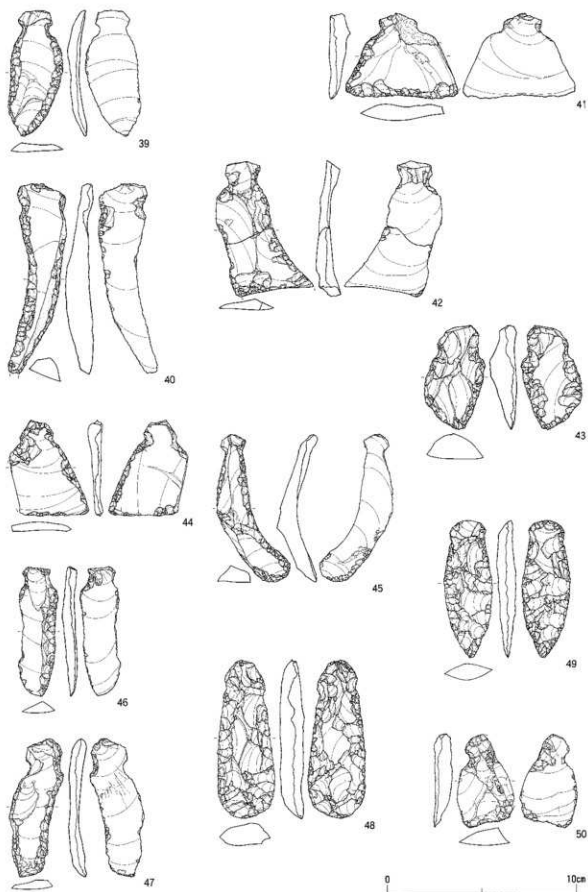
24点出土し、これらのうち12点掲載した(掲載率:50%)。出土層位は、Ⅴ層;3点(約12.5%)、Ⅴa層;8点(約33.3%)、Ⅴb層;12点(50%)、その他;1点(約4.2%)で、Ⅴ層からの出土が9割程度を占める。

39は、背面に先行剥離面を複数残し、腹面は二次調整が施されない。40は、つまみ部付近に、礫表皮面を残し、背面右側縁と下縁部に刃部を有する。41は細長いもので、背面に礫表皮面を残す。42は接合資料で、下縁には折れ面を有するが調整剥離痕も認められ、破損部を再生しようとしたものと推測される。43は、素材剥片のバルブの高まりを残すもので、打面は礫表皮面である。44は、背面右側縁が破損するもので、背腹両面の周縁に二次加工が施される。45は素材剥片の湾曲が著しいもので、細身である。46は、背腹両面のつまみ部付近と背面右側縁に二次調整が施される。47は頁岩製で、背面の周縁に調整剥離痕が認められる。48・49はともに、背腹両面に丹念な二次調整が施される。上端部の両側縁に、若干括れる部分が認められたので、本器種に分類したが、48は石筈、49は石槍・ナイフに分類すべきかもしれない。50は頁岩製の、やや小型品である。

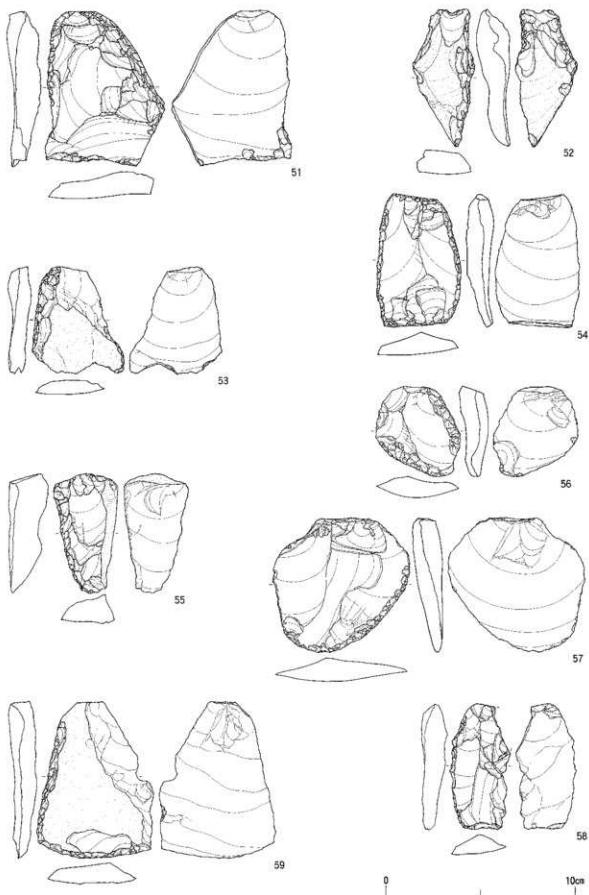
#### \* スクレイパー (51~93)

261点出土し、これらのうち43点掲載した(掲載率:約16.5%)。出土層位は、Ⅲ層:21点(約8.0%)、Ⅲ~Ⅴa層:1点(約0.4%)、Ⅴ層:23点(約8.8%)、Ⅴa層:83点(約31.8%)、Ⅴb層:106点(約40.6%)、Ⅴc層:1点(約0.4%)、Ⅵ層:8点(約3.1%)、Ⅶ層:5点(約1.9%)その他:13点(約5.0%)で、Ⅴ層からの出土が8割程度を占める。

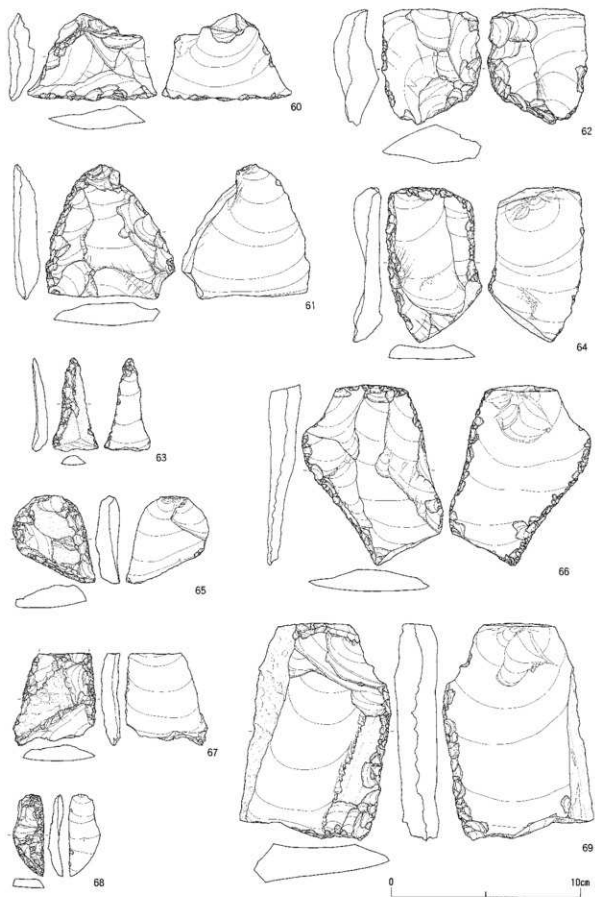
51はⅢ層出土のもので、両側端と下縁に刃部を有する。52は背腹両面に礫表皮面を残し、腹面の上端部付近と背面右側縁に二次調整が施される。53は背面に大きく礫表皮面を残し、同面左側縁に刃部を有する。54は両側縁が平行のもので、背面の全周縁に調整剥離痕が認められる。55は、打面と背面の一部に礫表皮面がみられるサイドスクレイパーである。56は頁岩製のラウンドスクレイパーと判断される。57も曲線的な輪郭のもので、ラウンドスクレイパーと判断される。58の背面は、左側縁に微細な剥落痕、右側縁は粗めの剥落痕がみられ、対照的である。59は背面に大きく礫表皮面を残し、左側縁と下縁にはやや規則的な剥離(落)痕が観察される。60は台形を呈するエンドスクレイパーで、背面上端部近くは、顕著なステップ状を呈する先行剥離面が複数みられる。61の背面は、左側縁に微細な剥落痕、右側縁は粗めの剥落痕がみられ、対照的である。62は打面が礫表皮面で、腹面下縁部付近に二次調整痕が顕著である。63は左右対称を呈する小型品で、背面に礫表皮面を大きく残す。64は、曲線的な両側縁に刃部を有するサイドスクレイパーである。65は左右対称のもので、下端部へと収束する両側縁部に刃部を有する。66はやや大型のもので、直線的な両側縁に二次調整が施される。67は上端部側が破損するもので、背面の両側縁には細かな剥落痕が観察される。68は小型で、左右非対称を呈するものである。69は大型のサイドスクレイパーで、背面右側縁に刃部を有する。70は小型で、上端部から緩やかに広がる両側縁に刃部が作出される。71は、背面の左側縁下縁部付近を破損し、背面右側縁と腹面右側縁に二次調整が施される。72は長身のもので、背面には先行剥離面を複数残す。73はサイドスクレイパーで、下縁部を破損する。74は平行する両側縁に刃部が作出されるもので、下縁部側を破損する。75は、横長の素材剥片の下縁に刃部が作出された、エンドスクレイパーである。76は背面に礫表皮面を残し、下縁部側を破損する。77はラウンドスクレイパーで、丹念な調整が施される。78はラウンドスクレイパーで、背面左側縁に一部礫表皮面を残す。79は背面にのみ二次調整が施されるもので、形態から判断して石鏃に分類すべきかもしれない。80は、下端部に収束するやや曲線的な側縁に刃部が作出される。81は背面右側縁にのみ二次加工が施される。82は平行する両側縁に刃部を有するサイドスクレイパーである。83は、背面の周縁に二次調整が施される。84は、規則的な先行剥離面を残す背面の周縁部に、細かな剥離痕が認められる。85は、二次調整痕が背面にのみ認められるサイドスクレイパーで、両側縁はやや曲線的である。86は半月形の素材剥片を用いたもので、直線的な側縁に剥離痕が著しい。87は、二次調整痕が背面に多くみられ、腹面には打瘤の高まりを除



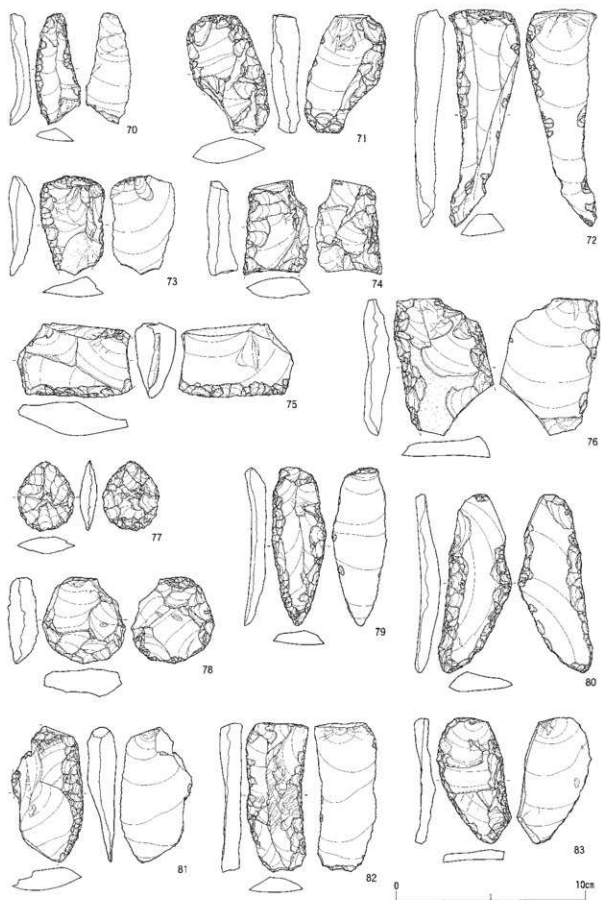
图IV-58 包含層出土剥片石器群(3)



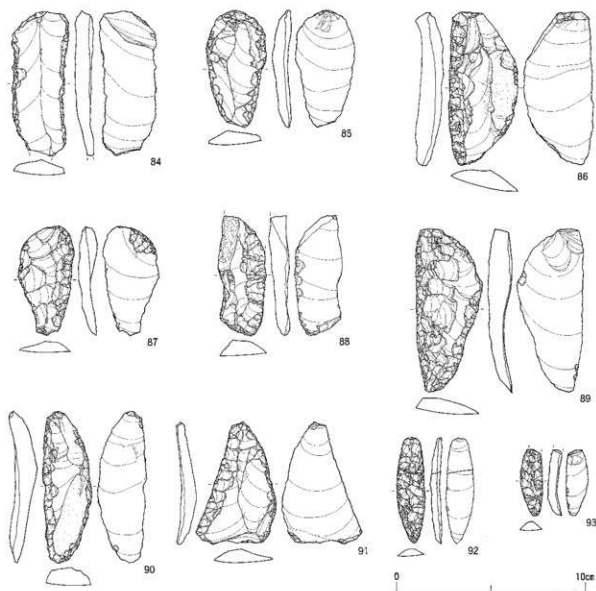
図IV-59 包含層出土剥片石器群(4)



图IV-60 包含層出土剥片石器群(5)



図IV-61 包含層出土剥片石器群(6)



図IV-62 包含層出土剥片石器群(7)

去する目的と考えられる調整のみが施される。88は上端部側を破損するもので、二次調整痕は背面に多く認められる。89は左右非対称で、背面にのみ丹念な調整が施される。90は背面に礫表皮面を残し、周縁部が二次調整される。91の背面は、右側縁に微細な剥離(落)痕、左側縁にはやや大きめの剥離(落)痕が対照的に認められる。92は下端部が尖るもので、片面調整の石礫と判断すべきものかもしれない。93は片面調整の小型品で、上端部側を破損する。

#### (4) 磨製石器群(図IV-63・64、表32、図版180)

##### \*磨製石斧(1~13)

56点出土し、これらのうち13点掲載した(掲載率:約23.2%)。出土層位は、Ⅲ層:2点(約3.6%)、Ⅴ層:8点(約14.3%)、Ⅴa層:18点(約32.1%)、Ⅴb層:25点(約44.6%)、Ⅵ層:2点(約3.6%)、その他:1点(約1.8%)で、Ⅴ層からの出土が8割程度を占める。

1はやや小型の片岩製で、刃部を破損する。2は素材の形状を留めるもので、左右非対称である。



3は刃部を破損し、裏面にはたたき痕が多数認められる。たたき石に転用されたものと推測される。4は蛇紋岩製で、刃部が破損する。5は大型品の刃部付近の破片である。6は、基部から刃部へと直線的に広がる形態を呈する。7は泥岩製で未製品と判断される。図示していない左側面は縦割りにされた割れ口があり、下端部は、刃部作出のための剥離痕及び研磨痕が認められる。8は刃部が残存し、基部付近はたたき痕が著しい。たたき石に転用された可能性が考えられる。9は小型品で、刃部の一部と基部を破損する。10は層理が顕著に認められる泥岩製で、刃部を有する下縁が曲線的である。11は片岩製で、やや小型品である。12は軟質な凝灰岩製で、裏面基部側が大きく剥落する。13は片岩製で、基部側が破損するものである。12・13は石のみと称される小型品である。

#### (5) 礫石器群 (図IV-65~73、表33、図版181~192-2)

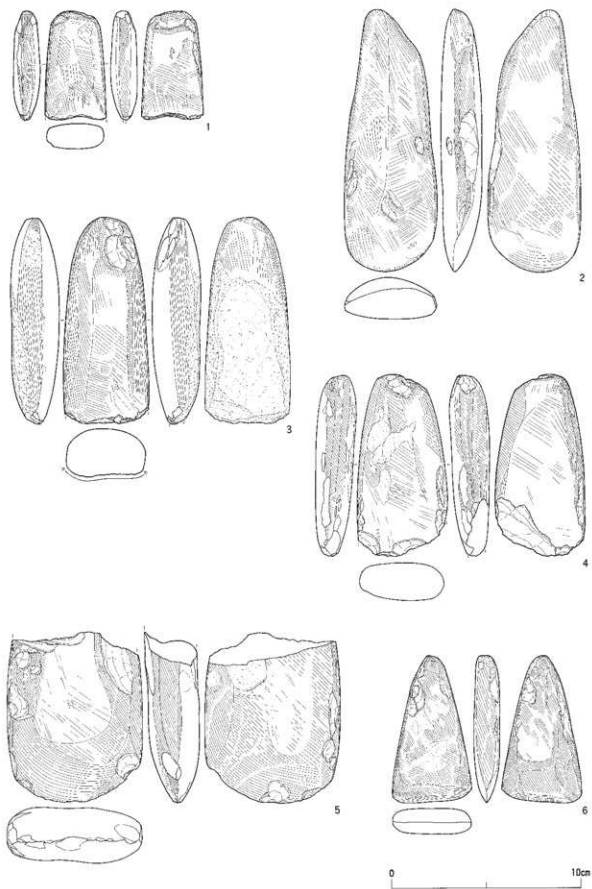
##### \*扁平打製石器(すり石)(1~37)

208点出土し、これらのうち37点掲載した(掲載率:約17.8%)。出土層位は、Ⅲ層:7点(約3.4%)、Ⅴ層:23点(約11.1%)、Ⅴa層:32点(約15.4%)、Ⅴb層:129点(約62.0%)、Ⅴc・d層:4点(約1.9%)、ⅤI層:5点(約2.4%)、掘り上げ土:2点(約1.0%)、その他:6点(約2.9%)で、Ⅴ層からの出土が9割程度を占める。

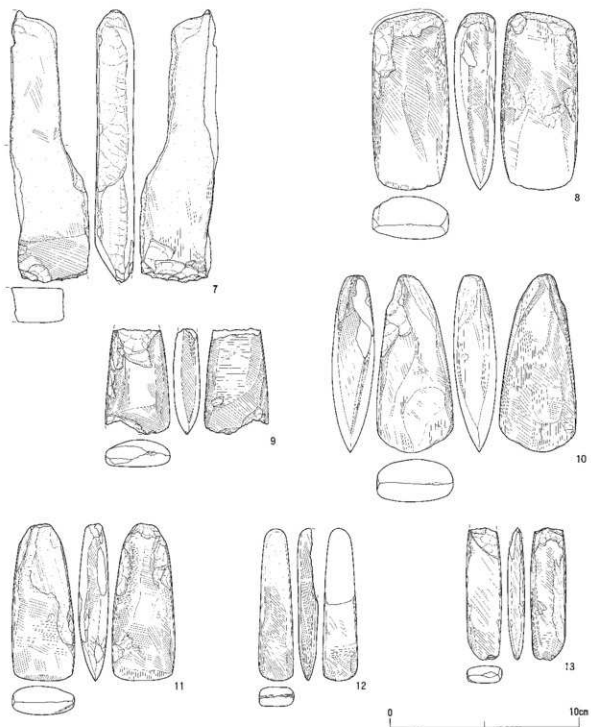
1は、左右両端部に打ち欠き加工が施される。2は曲線的な縁辺のもので、剥離・剥落痕が観察される。3は上縁部に打ち欠きによる剥離と考えられる痕跡が観察される。4は、上下両縁部がやや直線的なものである。5はすり面のある下縁付近に、使用による剥落痕が認められる。6は上縁が曲線的で、下縁が直線的な形態を呈する。7は上縁が剥離(落)により厚みが薄くなる。8は接合資料で、すり面が残存しない。被熱による黒色化・赤色化が認められる。9は、左右両端部が打ち欠かれるもので、すり面付近には剥落痕が観察される。10は角閃石安山岩製で、すり面付近にはやや細かく規則的な剥落痕が認められる。11は、上縁付近は整形のための剥離、下縁は使用痕であると考えられる。12は下縁がやや長い形態を呈するもので、左右側縁は打ち欠かれる。13は上縁が曲線的で、下縁が直線的な形態を呈する。14は、右側端部の打ち欠き痕が大きい。15は剥離・剥落痕が著しい。16はすり面を有する下縁が直線的である。17は上縁から右側端部にかけて連続して整形加工される。18は、敲打による整形加工が施される。19は下縁が著しい曲線を呈するため、すり面が短いものである。20は、幅に比べ長さを有するもので、左右両側端部には打ち欠き痕が認められる。21は上縁と左右両側端部が打ち欠かれる。22は素材が長方形を呈するものである。23は、右側端部の打ち欠きが著しい。24は下縁付近に剥落痕が複数認められる。25は、上縁と左側端部に大きめの打ち欠き痕が観察される。26はやや厚みのある素材を利用したもので、右側部分を破損する。27~30は接合資料である。27の中央付近には大きな剥落痕があり、接合部分は両破片とも欠けている。28はやや厚みを有するもので、すり面の断面形は緩やかな「U」字状を呈する。29は角礫を素材とし、「石鋸」と呼ばれるものと判断すべきものかもしれない。30は、使用により剥落したと推測される破片が接合したもので、整形加工は右側端部に著しい。31~37は小型品である。31は上縁から左側端部に打ち欠き加工が施される。32は曲線的な上縁には敲打痕が観察され、すり面を有する下縁は直線的である。33は左側部分に剥離・剥落痕が目立つ。34は、台形を呈する素材を利用したものである。35の左右両側端部には、明瞭な打ち欠き痕が観察される。36はすり面を有する下縁がやや曲線的で、剥落痕が観察される。37は下縁に敲打痕が認められるもので、未使用品あるいはたたき石と推測される。

##### \*北海道式石冠(すり石)(38~69)

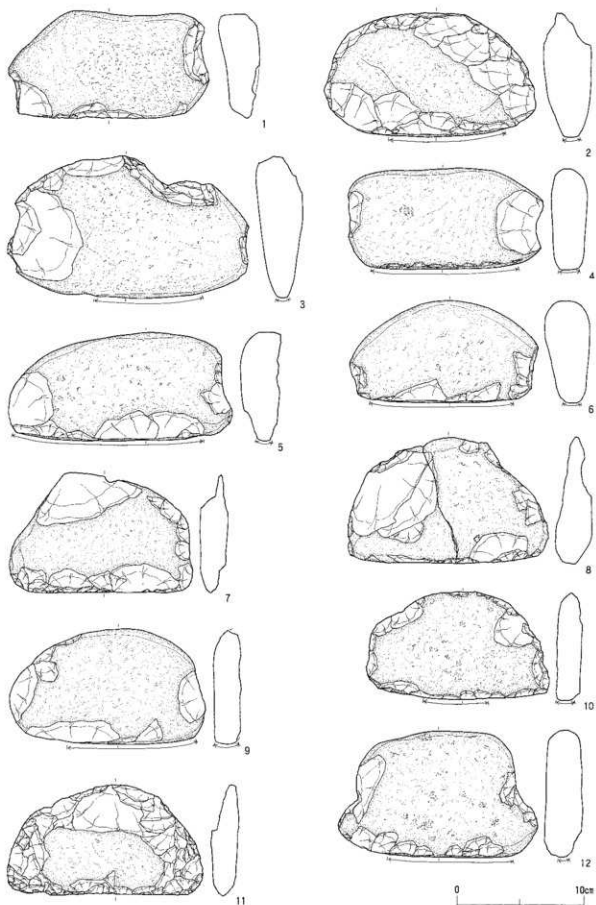
129点出土し、これらのうち32点掲載した(掲載率:約24.8%)。出土層位は、Ⅴ層:11点(約8.5%)、Ⅴa層:17点(約13.2%)、Ⅴb層:85点(約65.9%)、ⅤI層:6点(約4.7%)、その他:10点(約



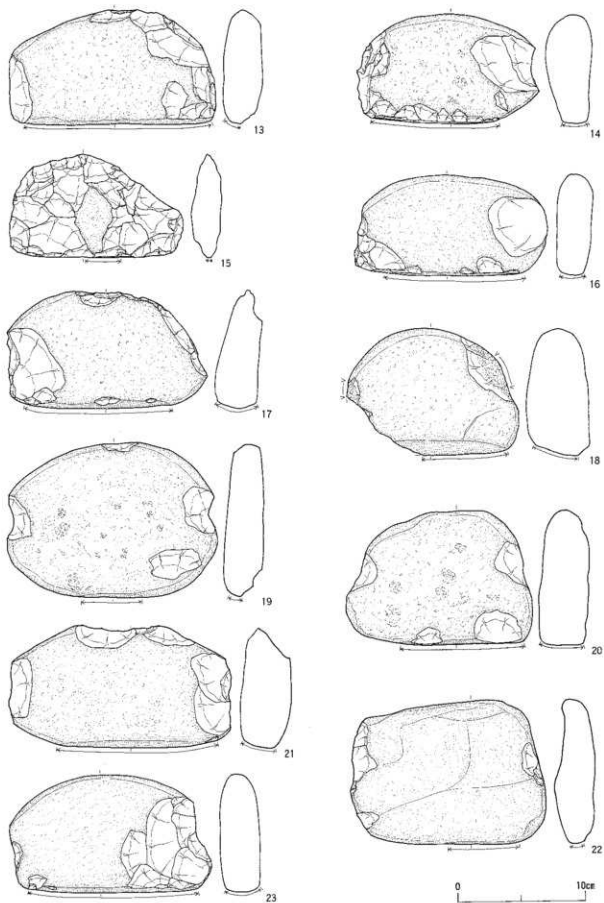
图IV-63 包含層出土磨製石器群(1)



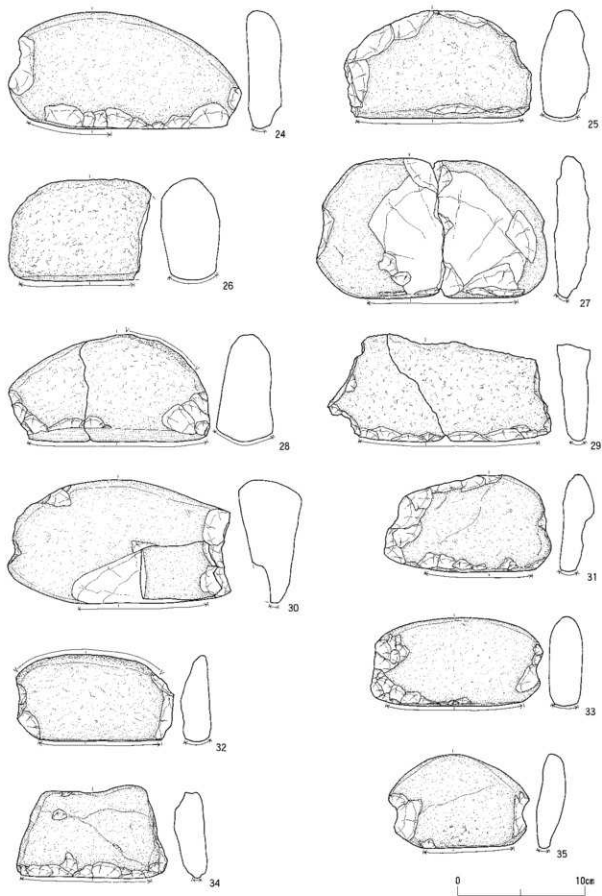
図IV-64 包含層出土磨製石器群(2)



图IV-65 包含层出土砾石器群(1)



図IV-66 包含層出土礫石器群(2)



图IV-67 包含層出土礫石器群(3)

7.8%)で、V層からの出土が9割程度を占める。

38は、すり面を有する下縁部が長い形態を呈するもので、両側端部に敲打による調整が施される。断面はやや薄く、扁平打製石器の特徴も認められる。39は左側部分を破損し、被熱による赤色化が認められる。40はやや横長の形態を呈し、持ち手部分の凹みが顕著である。41は、すり面の厚みがあるもので、剥落痕が観察される。42は下縁部付近に剥落痕が認められる。43は左側部分を破損するもので、断面形態は緩やかな「U」字状を呈する。44はやや縦長の形態を呈し、左側部分を大きく破損する。45は、上縁が半円状で下縁の直線的な形状が、扁平打製石器に類似し、やや薄いものである。46は下縁左側部分を破損し、幅広い持ち手が部分的に認められる。47は、右側下縁付近に大きな剥落痕が観察される。48は左側の下縁付近に破損及び剥落痕が認められる。49は角の取れた二等辺三角形を呈する。50は、右側下縁付近の側縁がやや張り出す形態を呈する。51は横長で厚みを有するもので、右側部分を破損する。52は、下縁付近に、連続する剥落痕が観察される。53は扁平打製石器の特徴も有するもので、厚みは薄く、下縁は曲線的であるため、すり面は狭い。54は小型で、持ち手部分の加工が一部施されない。55は左右の下縁付近が破損する。56は多孔質な安山岩製で、下縁付近には剥落痕が観察される。57は、持ち手部分の加工があまり深く施されないものである。58はやや小型品で、右側下縁付近が張り出す形態を呈する。59は持ち手部分の加工が全周しないもので、左側部分を大きく破損する。60は小型品で、使用による剥落痕が認められる。61は、右側部分を大きく破損する。62～69は接合資料である。62は、持ち手部分から下縁付近を広く剥落した破片が接合したものである。63は厚みが薄く、上下両縁部は曲線的である。64は横長で薄い形態を呈し、右側縁部には加工（打ち欠き痕）か使用（破損・剥落痕）による痕跡が認められ、扁平打製石器の特徴も有する。65は横長で厚みがあるものである。66は厚みがあり、やや幅広い持ち手部分が作出される。67は左右両側の下縁部を破損するもので、左側部分の破片が接合した。68は、持ち手部分と考えられる敲打による加工痕が、二段認められる。69は横長で厚いもので、すり面の断面形態は明瞭な「V」字状を呈する。

#### \*石錘（70～77）

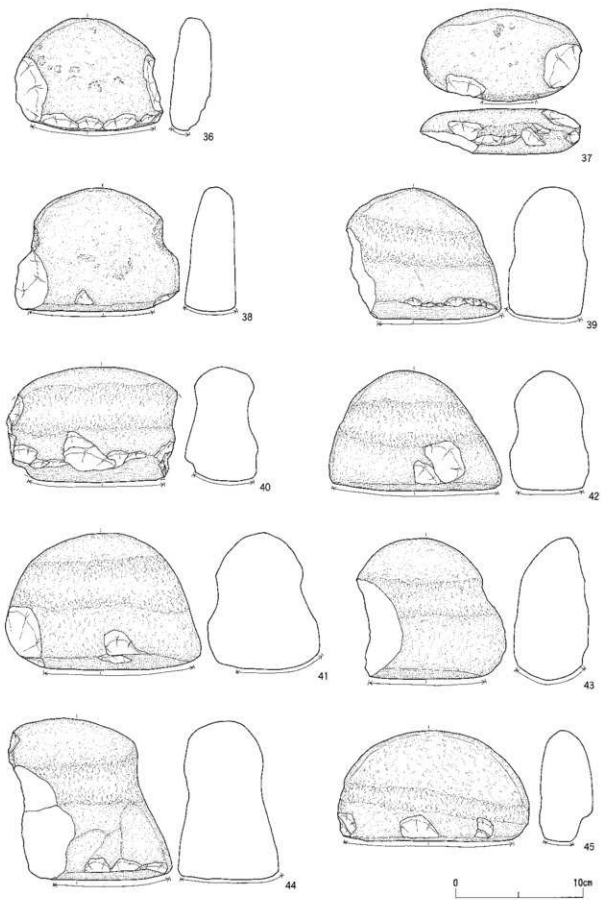
22点出土し、これらのうち8点掲載した（掲載率：約36.4%）。出土層位は、Va層；8点（約36.4%）、Vb層；12点（約54.5%）、VI層；1点（約4.5%）、その他；1点（約4.5%）で、V層からの出土が9割程度を占める。すり面の有無により扁平打製石器と区別したが、石錘一般的に生じる使用痕、すなわち、両端の打ち欠かれた部分の「磨滅」が認められないものも多く、これらは、扁平打製石器未用品あるいは未製品と判断するのが、適当かもしれない。

70は楕円形を呈し、右側端部に大きな打ち欠き痕が観察される。71は、両側端部に明瞭な打ち欠き痕が認められる。72は楕円形を呈し、両端部が打ち欠かれる。73は右側端部がすぼまる形態を呈する。74は小型品で、右側端部は複数の打ち欠き痕が観察される。75は小型品で厚みがある。76の両側端打ち欠き部分は、磨滅が認められる。77は曲線的な下縁にすり痕が観察されるので、扁平打製石器と判断される。

#### \*たたき石（78～83）

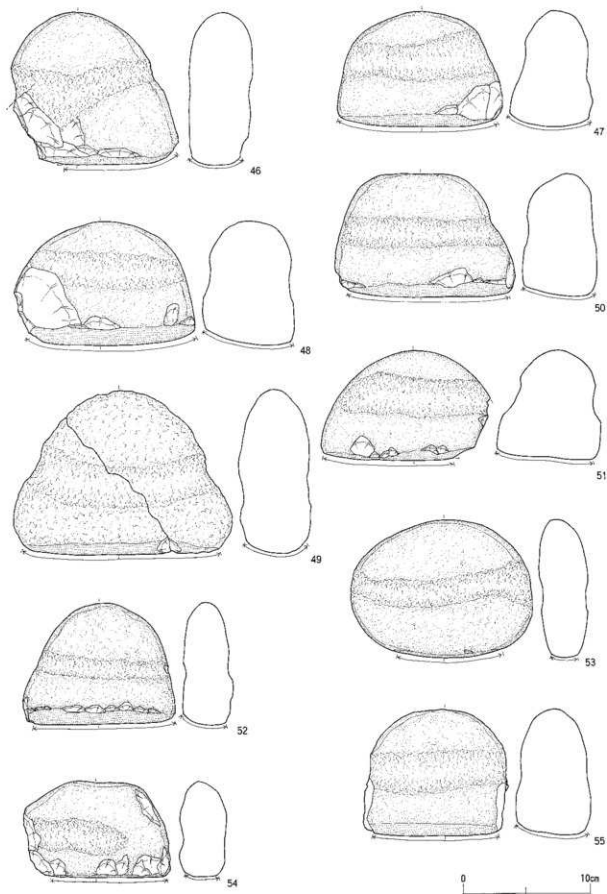
101点出土し、これらのうち6点掲載した（掲載率：約5.9%）。出土層位は、III層；5点（約5.0%）V層；6点（約5.9%）、Va層；31点（約30.7%）、Vb層；47点（約46.5%）、VI層；6点（約5.9%）、その他；6点（約5.9%）で、V層からの出土が8割程度を占める。

78は、円形で厚みのある礫を素材とする。79・80は、ともに棒状の素材を用い、下端部には使用によるたたき痕と剥落痕が観察される。81は、下端部にたたき痕が認められる。82は厚みのある楕円形の素材を用いたもので、使用痕が複数認められる。83はやや扁平で細長い礫を素材とし、上下両端部

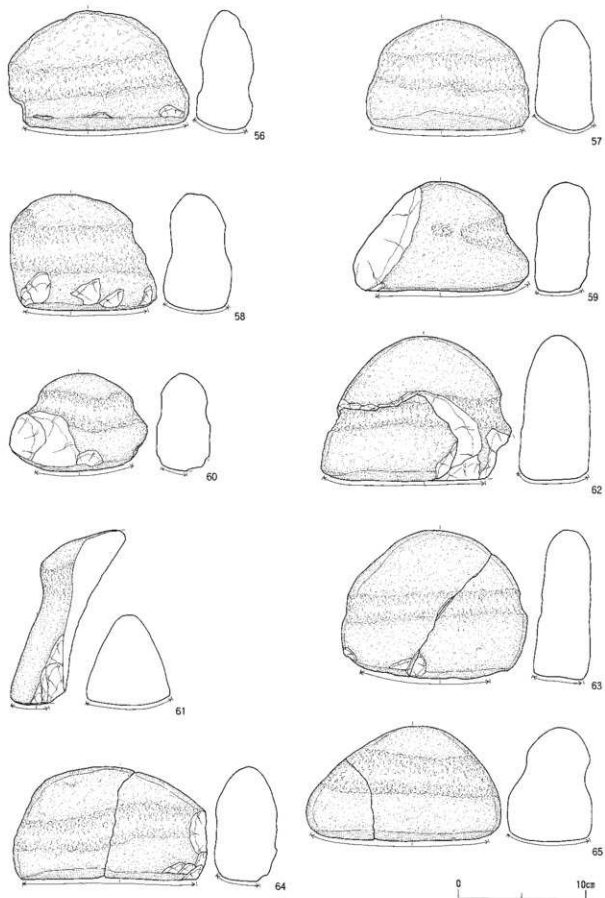


图IV-68 包含層出土礫石器群(4)

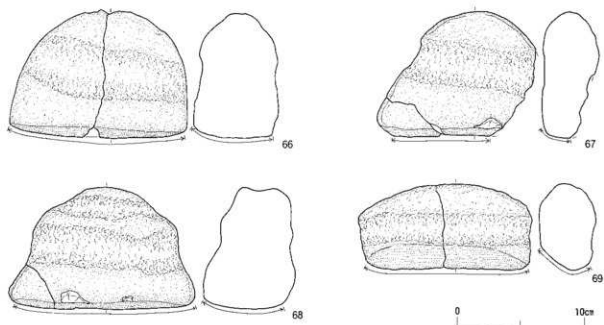




図IV-69 包含層出土礫石器群(5)



图IV-70 包含層出土礫石器群(6)



図IV-71 包含層出土礫石器群(7)

の左右両側それぞれに、たたき痕が観察される。

**\* 砥石 (85・86)**

31点出土し、これらのうち2点掲載した(掲載率:約6.5%)。出土層位は、Ⅲ層;2点(約6.5%)  
V層;2点(約6.5%)、Va層;8点(約25.8%)、Vb層;18点(約58.1%)、Vc・d層;1点(約3.2%)  
で、V層からの出土が9割程度を占める。

85はやや粗粒の構成物から成る砂岩製で、平滑な面が観察される。86は、右下下端部を破損し、左側面以外の三面に平滑な使用痕が認められる。表面には溝状を呈するすり痕も部分的に認められる。

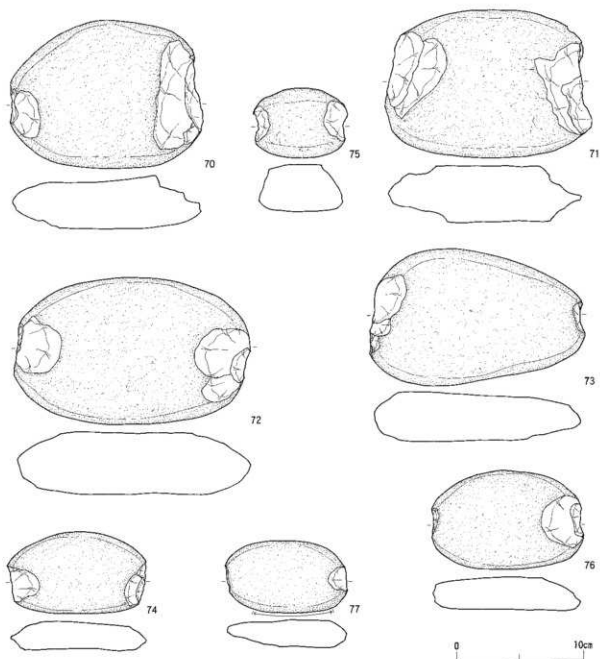
**\* 凹み石 (84)**

凹み石は1点のみの出土で、集計上は「台石・石皿」に含めた。84は、扁平で楕円形を呈する素材を用いたもので、両面の中央付近に明瞭な凹み状を呈するたたき痕が認められる。

**(6) 礫石器群(大型) (図IV-74・75、表32、図版192-3~194-1)**

**\* 台石・石皿・(凹み石) (1~7)**

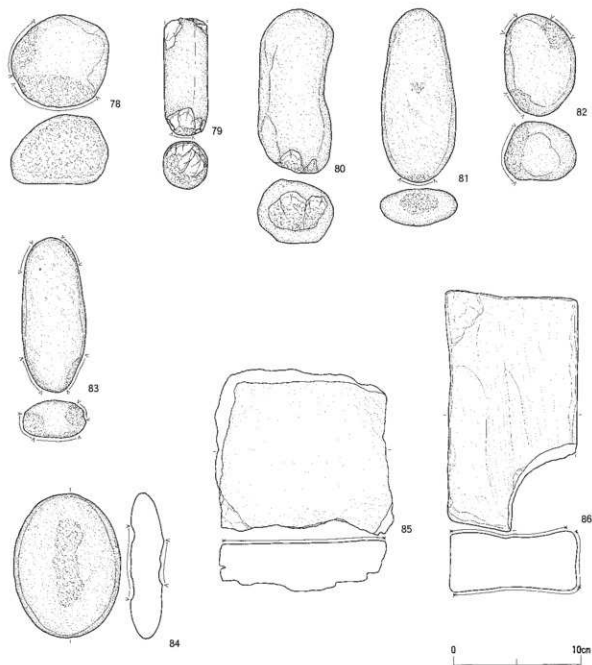
213点出土し、これらのうち7点掲載した(掲載率:約3.3%)。出土層位は、Ⅲ層;3点(約1.4%)、  
V層;1点(約0.5%)、Va層;100点(約46.9%)、Vb層;100点(約46.9%)、Vc・d層;1点(約



図IV-72 包含層出土礫石器群(8)

0.5%)、掘り上げ土：6点(約2.8%)、その他：2点(約0.9%)で、V層からの出土が9割程度を占める。

1は、表面が使用による平坦化面である。2は右半分が破損し、中央付近へと緩やかに凹む使用面が観察される。3の表面には平坦化面が認められる。4は右側部分を破損し、大きさに比して使用痕の範囲が小さい。5は表裏面にやや幅のある溝状のすり痕が複数認められ、砥石のような機能を有していたと考えられる。6は角閃石安山岩製の完形品で、平坦化面が観察される。7の表面にみられる使用面は、さほど平坦化しておらず、剥落痕が複数観察される。



図IV-73 包含層出土礫石器群(9)

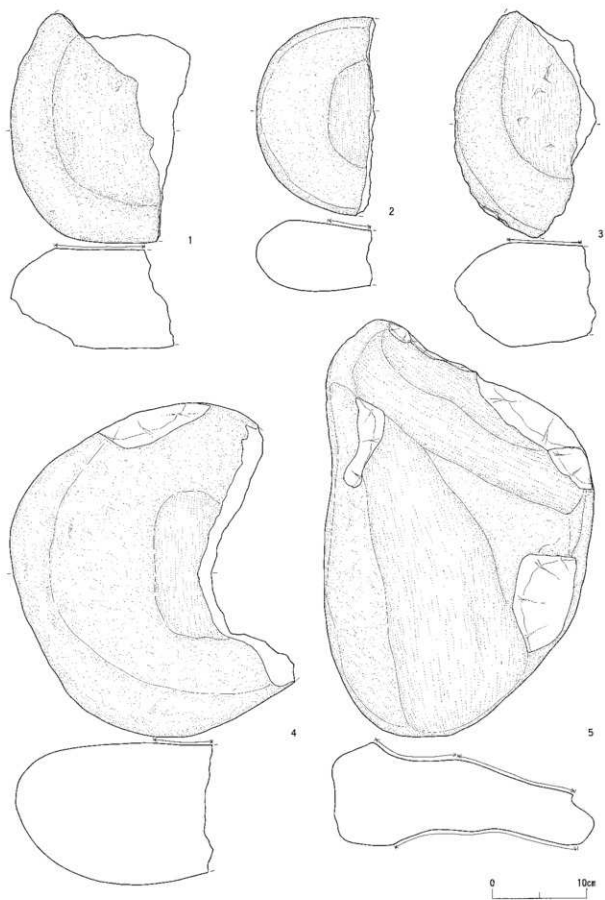
## (7) 石製品 (図IV-76・77、表34、図版194-2~196)

## \* 石製品 (1~19)

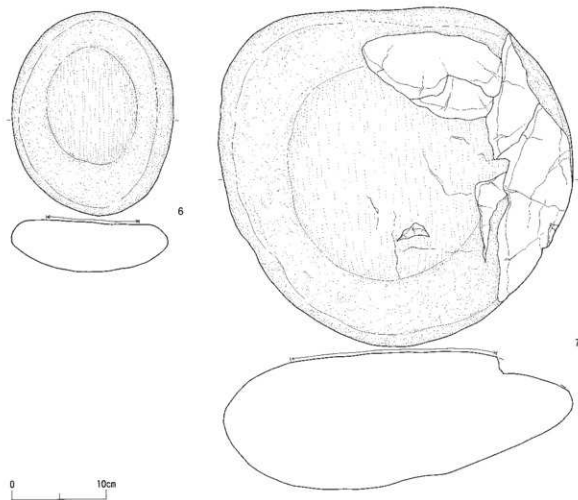
41点出土し、これらのうち19点掲載した (掲載率: 約46.3%)。出土層位は、Ⅲ層: 1点 (約2.4%)、Va層: 24点 (約58.5%)、Vb層: 14点 (約34.1%)、VI層: 1点 (約2.4%)、掘り上げ土: 1点 (約2.4%) で、V層からの出土が9割程度を占める。

## \* 打ち欠き加工により製作されたもの (1~11)

1~8は凝灰岩製の三脚石器と呼称されるものである。1は一部破損する。2は稜が磨滅する。3の表面は周縁のみが二次調整される。4は稜が磨滅する。5は一部破損し、磨滅も認められる。6は裏面の二次調整痕が不明瞭である。7・8は小型品である。9は、側縁が下部で緩やかに収束する



图IV-74 包含層出土礫石器群(大型)(1)



図IV-75 包含層出土礫石器群（大型）(2)

形態を呈する。10は、表面の周縁に明瞭な加工による剥離痕が認められ、下端部は凹状に括れる。11は、三脚石器の形態を呈するが、明瞭な剥離・加工痕が観察されない。

**\* 研磨調整により製作されたもの (12)**

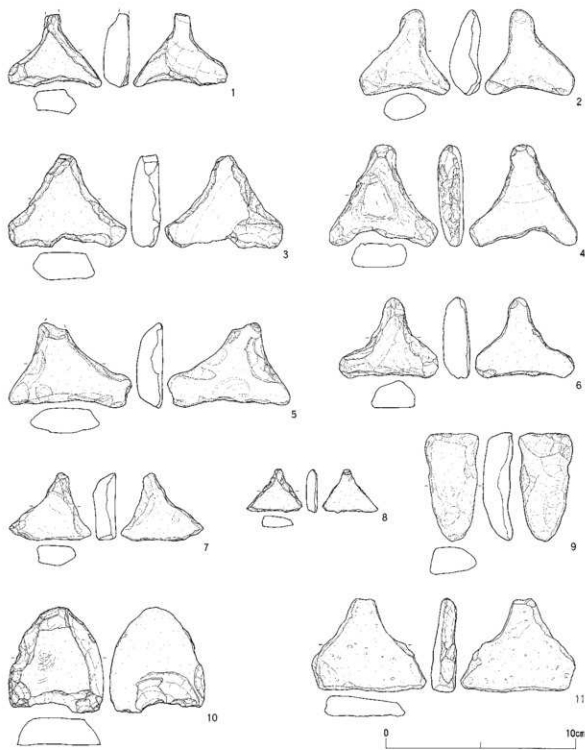
12は、緑色を呈する泥岩を用いた玉である。破損しており、孔内部にも研磨痕が観察される。製作失敗品であると判断される。

**\* 穿孔された礫 (13~15)**

13は楕円形を呈しやや厚みのある浮岩を素材とする。14は側面に穿孔が施される。15は断面をみると、主に表面一方向から穿孔されたと判断される。

**\* 北海道式石冠様のもの (16・17)**

16は、縦長の楕円形を呈する厚みのある安山岩を素材とし、その中央を全周するように、敲打により凹みが作出される。17は、横長のやや厚みのある安山岩を素材とし、全周する明瞭な凹みを有する。下縁部にはすり痕が観察され、小型の実用品である可能性がある。



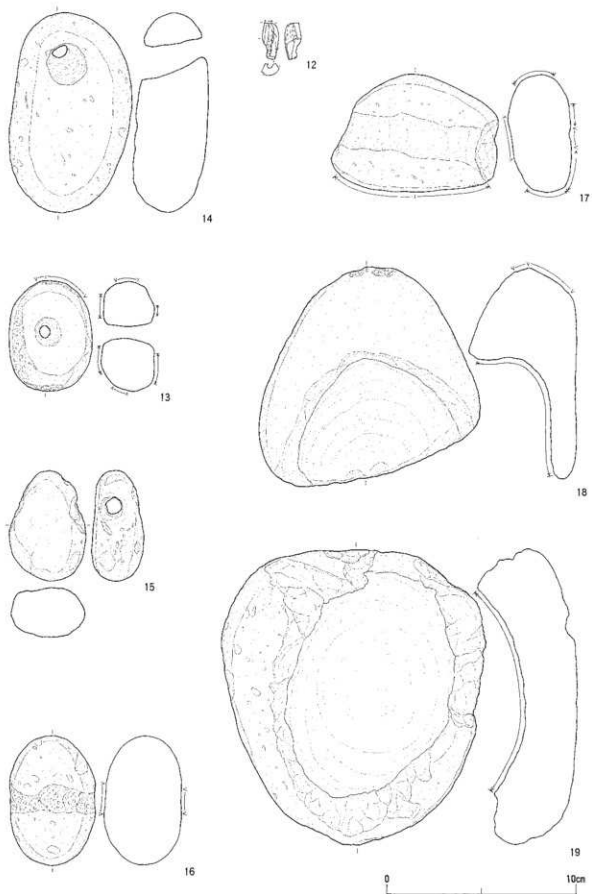
図IV-76 包含層出土石製品(1)

\* 明瞭な凹みを有する礫 (18・19)

18・19は、ともに安山岩を用い、礫の表面に明瞭な凹みが認められる。

(末光)





図IV-77 包含層出土石製品(2)

表 1 住居跡一覧表

遺構番号	国名	グッド	平面形状	規模 (m)				敷積	付属遺構	主な出土遺物			備考	
				縄目		床面				床面	付属遺構	土		
				長さ	短径	長さ	短径	地上 (階数)						
H-1	イ	イ	イ	丸丸 高床	3.30	3.30	3.30	3.30	0.81	地上 (階数) IIP-1 地上 柱P-1×1×1.5 柱P-1 地上 柱P-1 柱P-1×1×1.5	東側・北側土層、フ ライア、自然露	東側・北側・南側土層 (埋土) 東側・北側・フ ライア、フ ライア	東側・北側・南側土層 石函、スライパ、フ ライア、磁石 磁石打製石函、オ ケリ石、石函、自 然露	柱P-1×4本程度
H-2	イ	イ	イ	丸丸 高床	4.33	3.00	3.30	3.33	0.66	無	スライパ、自然露	*	東側・北側土層、石函・フ ライア、フ ライア	柱P-1×2本あり
H-3	イ	イ	イ	丸丸 高床	12.00	3.30	3.30	3.30	0.36	地上 (階数) IIP-1~5 地上 柱P-1×1.5 柱P-1×1.5 柱P-1~1×4 柱P-1	東側・北側土層 石函・スライパ、フ ライア、磁石打製石 函、自然露	東側・北側土層 東側・北側・東側土層 スライパ、フ ライア、フ ライア、磁石打製石 函、磁石打製石 函、オケリ石、自然露	柱P-1×4本程度 柱P-1×4本程度 柱P-1×4本程度	
H-4	イ	イ	イ	丸丸 高床	3.30	3.00	3.33	3.30	0.36	柱穴 IIP-1~4	北側露土層、フ ライア、自然露	無	東側・北側土層 スライパ、フ ライア、磁石打製石 函、北海道 式石函、自然露	柱P-1×4本程度 柱P-1×4本程度
H-5	イ	イ	イ	丸丸 高床	16.80	3.00	3.30	3.30	0.36	地上 (階数) IIP-1 埋土中	東側・北側土層 地上 柱P-1	東側・北側土層 (埋土) スライパ、フ ライア	東側・北側・東側土層 石函、スライパ、フ ライア 磁石打製石 函、北海道式石 函、自然露	柱P-1×4本程度 柱P-1×4本程度
H-6	イ	イ	イ	丸丸 高床	3.30	3.00	3.30	3.30	0.42	無	自然露	*	東側・北側土層、フ ライア、自然露	西側露土層が盛土に 認められる
H-7	イ	イ	イ	丸丸 高床	4.84	3.00	3.33	3.30	0.33	無	無	*	東側・北側土層・東側・北側・東側土層 スライパ、フ ライア、磁石打製石 函、北海道式石 函、自然露	北側露土層の1/3埋土が 認められる 北側露土層が埋土に 認められる
H-8	イ	イ	イ	丸丸 高床	4.33	3.33	3.00	4.00	0.60	小口土 管(埋 土) (土函) 柱穴 IIP-1~4 フ ライア	北側露土層 フ ライア、北海道式石 函、自然露	東側・北側・東側・北側・東側土層 スライパ、フ ライア、フ ライア、磁石打製石 函、オケリ石、石 函、自然露	東側・北側・東側土層 スライパ、フ ライア、フ ライア、磁石打製石 函、オケリ石、石 函、自然露	
H-9	イ	イ	イ	丸丸 高床	3.30	3.00	3.30	3.30	0.33	地上 (階数) IIP-1 地上 柱P-1 柱穴 IIP-1~3	東側・北側土層 東側・北側土層 石函、石函、フ ライア、フ ライア、自然露	東側・北側土層 東側・北側土層 (埋土) スライパ、フ ライア、フ ライア	東側・北側土層・東側・北側土層、列石土層 スライパ、フ ライア、フ ライア、フ ライア、自然露	
H-10	イ	イ	イ	丸丸 高床	4.36	3.00	3.33	3.30	0.36	地上 (階数) IIP-1 柱穴 IIP-1	東側・北側土層・東側・北側土層 フ ライア、フ ライア、自然露	無	東側・北側土層・東側・北側土層 フ ライア、フ ライア、磁石打製石 函、自然露	柱P-1×4本程度 北側露土層が埋土に 認められる
H-11	イ	イ	イ	丸丸 高床	3.30	3.00	3.00	3.30	0.44	埋 土	無	無	東側・北側土層 土層 フ ライア、磁石打製石 函、自然露	
H-12	イ	イ	イ	丸丸 高床	3.33	3.00	3.33	3.00	0.36	地上 IIP-1~1	フ ライア、埋土石函、 オケリ石	無	東側・北側土層・東側・北側土層 スライパ、フ ライア、自然露	柱P-1×2本
H-13	欠 番													
H-14	イ	イ	イ	丸丸 高床	4.36	3.30	3.00	3.00	0.87	地上 (階数) IIP-1~2 柱穴 IIP-1~4 溝 フ ライア	東側・北側土層 東側・北側土層 埋土 フ ライア、フ ライア フ ライア、自然露	東側・北側土層 東側・北側土層 埋土 フ ライア、フ ライア、フ ライア、自然露	東側・北側土層・東側・北側土層・東側・北側土層 埋土土層、再生土層 石函、石函、ス ライパ、フ ライア、フ ライア、磁石 打製石函、オケ リ石、石函、自 然露	埋土中に石函埋土 P-1×1本程度 あり 柱P-1×4本程度 あり
H-15	イ	イ	イ	丸丸 高床	4.00	3.00	3.30	3.30	0.60	柱穴 IIP-1~4	東側・北側土層 フ ライア	無	東側・北側土層・東側・北側土層 石函、フ ライア、フ ライア、自然露	柱P-1×4本程度
H-16	イ	イ	イ	丸丸 高床	5.35	3.00	3.30	3.30	0.66	地上 (階数) IIP-1 IIP-1 柱穴 IIP-1~4 地上 IIP-1	東側・北側土層 自然露	無	東側・北側土層・東側・北側土層 つまみ打製石 フ ライア、フ ライア、フ ライア、磁石打製石 函、自然露	
H-17	イ	イ	イ	丸丸 高床	3.30	3.30	3.75	3.30	0.33	埋土中 (土函埋土) 地上 (階数) IIP-1	東側・北側土層 自然露	東側・北側土層 自然露	東側・北側土層 東側・北側土層 フ ライア、フ ライア、磁石打 製石 函、自然露	
H-18	イ	イ	イ	丸丸 高床	4.36	3.30	3.30	3.30	0.66	埋土中 (土函埋土) 地上 (階数) IIP-1	東側・北側土層 埋土石函 自然露	東側・北側土層 自然露	東側・北側土層・東側・北側土層 フ ライア、石 函、フ ライア、自然露	
H-19	イ	イ	イ	丸丸 高床	3.37	3.00	3.30	3.30	0.48	埋土中 (土函埋土) 柱穴 IIP-1~2 地上 IIP-1~1	東側・北側土層 自然露	無	東側・北側土層・東側・北側土層 スライパ、フ ライア、フ ライア、石 函、フ ライア、自然露	柱穴・埋土石 (埋土・埋土土層) あり
H-20	イ	イ	イ	丸丸 高床	3.30	3.00	3.30	3.00	0.44	埋土中 (土函埋土)	無	無	東側・北側土層 スライパ、フ ライア、フ ライア	柱P-1×4埋土あり

表 2 住居跡付属遺構一覧表

遺構名	種別	住居遺構名	区	副区	平面形状	面積(㎡)	高さ	特徴	出土遺物	備考				
H-1	住居跡 (壁柱穴)	土埃(遺構) H-P-1 H-P-2 H-P-3 H-P-4 H-P-5 H-P-6 H-P-7 H-P-8 H-P-9 H-P-10 H-P-11	Ⅰ-1	Ⅰ	* * *	平面形状	0.63 / 0.92	0.09 / 0.09	0.39	関係	貫通層・土埃(遺構)	住居の可能性あり 住居の可能性あり 住居の可能性あり 遺土中		
						側面形状	0.22	0.18	0.22	*	スタレイン・フレイト			
						側面形状	0.16	0.12	0.16	*				
						側面形状	0.36	0.30	0.18 / 0.30	0.50	*			
						本壁厚	0.20 / 0.20	0.13	明透模倣 (DYRS/6)					
						側面形状	0.18	0.12	0.23	*				
						側面形状	0.11	0.10	0.23	*				
						側面形状	0.15	0.12	0.17	*				
						側面形状	0.22	0.14	0.25	*				
						側面形状	0.13	0.09	0.13	*				
						側面形状	0.11	0.04	0.13	*				
側面形状	0.18	0.14	0.31	*										
側面形状	0.14	0.10	0.09	*										
側面形状	0.11	0.09	0.14	*										
H-2	焼土	H-P-1 H-P-2 H-P-3 H-P-4 H-P-5	Ⅱ-3	Ⅱ	* * *	側面形状	0.18	0.10	0.09	砂礫 明透模倣 (DYRS/3)		住居遺構・土埃		
						側面形状	0.11	0.10	0.14	土埃	部11-1に切られる			
						側面形状	0.16	0.11	0.16	土埃	埋戻土 0.10m			
						側面形状	0.44	0.22	0.06	明透模倣 (DYRS/3)	埋戻土 0.35m			
						本壁厚	0.15	0.38	0.07	明透模倣 (DYRS/3)				
						側面形状	0.13	0.11	0.28	*	住居遺構			
						側面形状	0.20	0.14	0.13	*	緩平打石造			
						側面形状	0.17	0.17	0.39	*				
						側面形状	0.17	0.13	0.24	*	貫通層・土埃(遺構)			
						側面形状	0.11	0.20	0.31	*				
						側面形状	0.13	0.10	0.07	*				
側面形状	0.12	0.11	0.13	*										
側面形状	0.14	0.07	0.13	*										
H-3	住居跡	H-P-1 H-P-2 H-P-3	Ⅱ-3	Ⅱ	* * *	側面形状	0.13	0.11	0.28	*	明透模倣 (DYRS/3)			
						側面形状	0.17	0.13	0.24	*				
						側面形状	0.11	0.20	0.31	*				
H-4	住居跡	H-P-1 H-P-2 H-P-3	Ⅱ-3	Ⅱ	* * *	側面形状	0.13	0.10	0.07	*				
						側面形状	0.12	0.11	0.13	*				
						側面形状	0.14	0.07	0.13	*				
H-5	土埃(遺構) 土埃	H-P-1 H-P-2	Ⅱ-9	Ⅱ	* * *	側面形状	0.14	0.11	0.15	関係	貫通層・土埃(遺構)			
						側面形状	0.10	0.11	0.10 / 0.09	0.39	埋戻土			
H-6	築窯中	H-P-1	Ⅱ-9	Ⅱ	* * *	側面形状	0.10	0.11	0.10 / 0.09	0.39	関係	貫通層・土埃(遺構)		
H-7	土埃	H-P-1	Ⅱ-9	Ⅱ	* * *	側面形状	0.10	0.11	0.10 / 0.09	0.39	埋戻土			
H-8	広い土埃状の落ち込み	A階0.6m B階0.6m H-P-1 H-P-2 H-P-3 H-P-4	Ⅲ-13・14	Ⅲ	* * *	側面形状	0.62	0.62	0.79	0.30	0.07	貫通層・土埃(遺構)	土埃断面図A B上	
						側面形状	0.64	0.63	0.51	0.45	0.07	*		
						側面形状	0.99	0.88	0.85	0.72	0.09	貫通層・土埃(遺構)		
						側面形状	0.62	0.31	0.60	0.32	0.07	貫通層・土埃(遺構)		
						側面形状	0.92	0.80	0.92	0.41	0.06	貫通層・土埃(遺構)		
						側面形状	0.53	0.31	0.38	0.49	0.09	貫通層・土埃(遺構)		
						側面形状	0.36	0.31	0.31	0.75	0.39	* * *		
						側面形状	0.62	0.35	0.35	0.43	0.09	土埃		
						側面形状	0.52	0.39	0.42	0.42	0.09	土埃		
						側面形状	*	最大値 0.50 / 貫通層・土埃(遺構)	0.42	*	貫通層・土埃(遺構)			
						側面形状	0.60	0.32	0.32	0.32	0.09	貫通層・土埃(遺構)		
H-9	土埃(遺構)	H-P-1 H-P-2 H-P-3	Ⅲ-15	Ⅲ	* * *	側面形状	0.14	0.09	0.13	0.17	0.07	貫通層・土埃(遺構)		
						側面形状	0.18	0.03	0.25	0.33	0.09	貫通層・土埃(遺構)		
						側面形状	0.10	0.06	0.23	0.27	0.09	貫通層・土埃(遺構)		
H-10	土埃	H-P-1 H-P-2	Ⅲ-17	Ⅲ	* * *	側面形状	0.13	0.16	0.16	0.11	0.07	貫通層・土埃(遺構)		
						側面形状	0.17	0.26	0.12	0.27	0.12	貫通層・土埃(遺構)		
H-11	土埃(遺構)	H-P-1	Ⅲ-18	Ⅲ	* * *	側面形状	0.11	0.06	0.23	0.27	0.12	貫通層・土埃(遺構)		
H-12	土埃	H-P-1 H-P-2	Ⅲ-19	Ⅲ	* * *	側面形状	0.13	0.63	0.60	0.38	0.13	貫通層・土埃(遺構)		
						側面形状	0.66	0.54	0.43	0.37	0.13	貫通層・土埃(遺構)		
H-13	土埃	H-P-1 H-P-2 H-P-3 H-P-4 H-P-5 H-P-6 H-P-7 H-P-8 H-P-9 H-P-10 H-P-11	Ⅳ	Ⅳ	* * *	側面形状	0.14	0.10	0.09	0.10	0.07	貫通層・土埃(遺構)		
						側面形状	0.14	0.10	0.09	0.10	0.07	貫通層・土埃(遺構)		
						側面形状	0.14	0.10	0.09	0.10	0.07	貫通層・土埃(遺構)		
						側面形状	0.14	0.10	0.09	0.10	0.07	貫通層・土埃(遺構)		
						側面形状	0.14	0.10	0.09	0.10	0.07	貫通層・土埃(遺構)		
						側面形状	0.14	0.10	0.09	0.10	0.07	貫通層・土埃(遺構)		
						側面形状	0.14	0.10	0.09	0.10	0.07	貫通層・土埃(遺構)		
						側面形状	0.14	0.10	0.09	0.10	0.07	貫通層・土埃(遺構)		
						側面形状	0.14	0.10	0.09	0.10	0.07	貫通層・土埃(遺構)		
						側面形状	0.14	0.10	0.09	0.10	0.07	貫通層・土埃(遺構)		
						側面形状	0.14	0.10	0.09	0.10	0.07	貫通層・土埃(遺構)		
H-14	土埃	H-P-1 H-P-2 H-P-3 H-P-4 H-P-5 H-P-6 H-P-7 H-P-8 H-P-9 H-P-10 H-P-11	Ⅳ	Ⅳ	* * *	側面形状	0.14	0.10	0.09	0.10	0.07	貫通層・土埃(遺構)		
						側面形状	0.14	0.10	0.09	0.10	0.07	貫通層・土埃(遺構)		
						側面形状	0.14	0.10	0.09	0.10	0.07	貫通層・土埃(遺構)		
						側面形状	0.14	0.10	0.09	0.10	0.07	貫通層・土埃(遺構)		
						側面形状	0.14	0.10	0.09	0.10	0.07	貫通層・土埃(遺構)		
						側面形状	0.14	0.10	0.09	0.10	0.07	貫通層・土埃(遺構)		
						側面形状	0.14	0.10	0.09	0.10	0.07	貫通層・土埃(遺構)		
						側面形状	0.14	0.10	0.09	0.10	0.07	貫通層・土埃(遺構)		
						側面形状	0.14	0.10	0.09	0.10	0.07	貫通層・土埃(遺構)		
						側面形状	0.14	0.10	0.09	0.10	0.07	貫通層・土埃(遺構)		
						側面形状	0.14	0.10	0.09	0.10	0.07	貫通層・土埃(遺構)		
H-15	ベニヤ構造	H-P-1 H-P-2 H-P-3 H-P-4 H-P-5	Ⅳ	Ⅳ	* * *	側面形状	0.14	0.10	0.09	0.10	0.07	貫通層・土埃(遺構)		
						側面形状	0.14	0.10	0.09	0.10	0.07	貫通層・土埃(遺構)		
						側面形状	0.14	0.10	0.09	0.10	0.07	貫通層・土埃(遺構)		
						側面形状	0.14	0.10	0.09	0.10	0.07	貫通層・土埃(遺構)		
						側面形状	0.14	0.10	0.09	0.10	0.07	貫通層・土埃(遺構)		
						側面形状	0.14	0.10	0.09	0.10	0.07	貫通層・土埃(遺構)		
H-16	土埃	H-P-1 H-P-2 H-P-3 H-P-4 H-P-5 H-P-6	Ⅳ	Ⅳ	* * *	側面形状	0.14	0.10	0.09	0.10	0.07	貫通層・土埃(遺構)		
						側面形状	0.14	0.10	0.09	0.10	0.07	貫通層・土埃(遺構)		
						側面形状	0.14	0.10	0.09	0.10	0.07	貫通層・土埃(遺構)		
						側面形状	0.14	0.10	0.09	0.10	0.07	貫通層・土埃(遺構)		
						側面形状	0.14	0.10	0.09	0.10	0.07	貫通層・土埃(遺構)		
						側面形状	0.14	0.10	0.09	0.10	0.07	貫通層・土埃(遺構)		
H-17	土埃	H-P-1 H-P-2 H-P-3 H-P-4 H-P-5	Ⅳ	Ⅳ	* * *	側面形状	0.14	0.10	0.09	0.10	0.07	貫通層・土埃(遺構)		
						側面形状	0.14	0.10	0.09	0.10	0.07	貫通層・土埃(遺構)		
						側面形状	0.14	0.10	0.09	0.10	0.07	貫通層・土埃(遺構)		
						側面形状	0.14	0.10	0.09	0.10	0.07	貫通層・土埃(遺構)		
						側面形状	0.14	0.10	0.09	0.10	0.07	貫通層・土埃(遺構)		
H-18	土埃	H-P-1 H-P-2 H-P-3 H-P-4 H-P-5	Ⅳ	Ⅳ	* * *	側面形状	0.14	0.10	0.09	0.10	0.07	貫通層・土埃(遺構)		
						側面形状	0.14	0.10	0.09	0.10	0.07	貫通層・土埃(遺構)		
						側面形状	0.14	0.10	0.09	0.10	0.07	貫通層・土埃(遺構)		
						側面形状	0.14	0.10	0.09	0.10	0.07	貫通層・土埃(遺構)		
						側面形状	0.14	0.10	0.09	0.10	0.07	貫通層・土埃(遺構)		
H-19	土埃	H-P-1 H-P-2 H-P-3 H-P-4 H-P-5	Ⅳ	Ⅳ	* * *	側面形状	0.14	0.10	0.09	0.10	0.07	貫通層・土埃(遺構)		
						側面形状	0.14	0.10	0.09	0.10	0.07	貫通層・土埃(遺構)		
						側面形状	0.14	0.10	0.09	0.10	0.07	貫通層・土埃(遺構)		
						側面形状	0.14	0.10	0.09	0.10	0.07	貫通層・土埃(遺構)		
						側面形状	0.14	0.10	0.09	0.10	0.07	貫通層・土埃(遺構)		
H-20	土埃	H-P-1 H-P-2 H-P-3 H-P-4 H-P-5	Ⅳ	Ⅳ	* * *	側面形状	0.14	0.10	0.09	0.10	0.07	貫通層・土埃(遺構)		
						側面形状	0.14	0.10	0.09	0.10	0.07	貫通層・土埃(遺構)		
						側面形状	0.14	0.10	0.09	0.10	0.07	貫通層・土埃(遺構)		
						側面形状	0.14	0.10	0.09	0.10	0.07	貫通層・土埃(遺構)		
						側面形状	0.14	0.10	0.09	0.10	0.07	貫通層・土埃(遺構)		

表 3-1 土坑一覽表(1)

遺構名	図	図番	グリッド	平面形	規 模 (m)				出土遺物	備 考	
					幅		深				
					幅	深	幅	深			
P-1		26-1	Z-4区	円形	0.80	0.73	0.61	0.50	0.20	自然障	
P-2	第-34	26-2	D・E-4区	楕円形	1.90	1.52	1.96	1.41	0.20	第群a類土器、フレイク、自然障	
P-3		26-3	A-4区	楕円形	0.50	0.45	0.33	0.36	0.11	石楯・ナイフ、自然障	
P-4	第-35	26-4	B-4区	楕円形	1.18	1.02	0.86	0.61	0.25	第群a類土器、フレイク、自然障	
P-5		26-5	D-39・40区	楕円形	1.84	1.60	1.66	1.54	0.36	台石・石皿、自然障	
P-6	第-36	26-6	1-37区	楕円形	1.02	0.91	0.78	0.66	0.62	第群a類土器、スクレイパー、自然障	
P-7		27-1	Z-4区	楕円形	0.63	0.53	0.34	0.30	0.30	フレイク、自然障	
P-8	第-37	27-2	x・A-4区	楕円形	1.20	0.94	0.92	0.64	0.54	自然障	
P-9		27-3	A-4区	楕円形	1.41	0.90	1.32	0.90	0.18	無	掘り上げ土
P-10	第-38	27-4	C・D-4区	楕円形	0.92	0.75	0.74	0.60	0.48	第群a類土器、つまみ付ナイフ、フレイク	
P-11	第-37	27-5	H-30区	楕円形	0.88	0.80	0.66	0.62	0.46	第群a類・b類土器、扁平打製石器、自然障	
P-12	第-38	27-6	G-30区	円形	0.92	0.92	0.64	0.60	0.42	第群a類・第群a類土器、石楯、フレイク、自然障	
P-13		28-1	B・C-40区	楕円形	2.12	1.04	1.92	0.70	0.27	第群a類土器、自然障	約2/5調査区外
P-14	第-39	28-2	G-39・40区	円形	2.14	1.94	2.08	1.84	0.28	石楯、フレイク、自然障	
P-15	第-40	28-3	C-40区	円形	0.80	0.75	0.60	0.40	0.22	第群a類土器、自然障	
P-16		28-4	C-40区	楕円形	1.32	1.24	1.02	0.78	0.44	第群a・b・b-2類・第群a類・第群土器 フレイク、扁平打製石器、自然障	
P-17	第-40 ・41	28-5	C・D-40区	楕円形	2.10	1.69	1.78	1.41	0.67	第群a類土器・b類・第群a類・第群土器 フレイク、扁平打製石器、自然障	上位にP-1・9
P-18	第-42	28-6	G-30区	円形	0.47	0.43	0.18	0.15	0.16	フレイク、自然障	
P-19	第-38	27-4	C-40区	楕円形	0.78	0.50	0.70	0.46	0.30	無	
P-20	第-43	29-1	F・G-40区	楕円形	1.50	1.36	1.35	1.30	0.22	第群a類土器、フレイク、扁平打製石器、北海道式石楯、石皿、自然障	H-3を切る
P-21		29-2	1-37区	円形	0.80	0.60	0.57	0.47	0.19	第群a類土器、自然障	
P-22	第-43	29-3	J-38・39区	楕円形	1.20	1.02	1.00	0.86	0.13	無	
P-23		29-4	F-40区	円形	0.70	0.64	0.56	0.58	0.30	第群b-1類土器、北海道式石楯	
P-24	第-43	29-5	G・H-40区	楕円形	0.92	0.81	0.82	0.73	0.23	第群a類土器、スクレイパー、フレイク、自然障	
P-25		29-6	B・C-40区	円形	0.98	0.70	0.54	0.37	0.40	自然障	約1/5調査区外
P-26	第-44	30-1	1-40区	円形	2.56	2.29	2.30	2.00	0.28	第群a・b・b-1・b-2類・第群a類土器 つまみ付ナイフ、スクレイパー、フレイク、磨製石斧、扁平 打製石器、北海道式石楯、自然障	
P-27	第-45	30-2	G・H-40区	楕円形	1.20	0.78	1.16	0.72	0.21	第群b・b-1類土器、自然障	
P-28	第-46	30-3	D・E-40区	楕円形	1.43	1.28	1.00	0.90	0.48	第群a・b類土器、自然障	
P-29	第-45	30-4	G・H-40区	楕円形	0.84	0.80	0.86	0.80	0.18	第群a・b類・第群土器、フレイク	
P-30	第-46	30-5	E-40区	楕円形	1.05	1.02	0.80	0.86	0.40	第群a類土器、フレイク、北海道式石楯	P-30を切る
P-31	第-47	30-6	E-40区	楕円形	0.98	0.92	0.83	0.73	0.27	第群a・b-1類・第群a類土器、北海道式石楯、自然障	
P-32	第-48	31-1	E-40区	楕円形	0.80	0.62	0.72	0.50	0.19	フレイク、扁平打製石器	上位にP-11
P-33		31-2	G-40区	楕円形	0.76	0.68	0.69	0.56	0.32	第群a類・第群a類土器、フレイク、扁平打製石器、北海道 式石楯、自然障	
P-34	第-47	31-3	E-40区	楕円形	1.50	1.12	1.15	0.72	0.72	第群a類土器、フレイク、北海道式石楯、自然障	P-30に切られる
P-35	第-49	31-4	M-40区	楕円形	0.93	0.79	0.67	0.60	0.46	第群a類土器、自然障	
P-36		31-5	M-43・44区	楕円形	1.22	1.09	1.16	0.77	0.52	第群a・b-1類土器、フレイク、自然障	フラスコ状ビット
P-37	第-50	31-6	F-40区	楕円形	1.10	0.60	0.60	0.50	0.24	第群a類土器、台石	H-4に切られる
P-38		32-1	F-40区	楕円形	1.09	0.84	0.86	0.58	0.41	第群a類・第群a類土器 石楯、石楯・ナイフ、スクレイパー、フレイク、自然障	炭化材 H-3に切られる
P-39	第-51	32-2	P・Q-40区	円形	1.02	1.24	1.36	1.42	1.22	第群b類・第群a類・第群a類土器、スクレイパー、フレイ ク、自然障	フラスコ状ビット
P-40	第-50	32-3	S・T-40区	円形	0.78	0.75	0.33	0.30	0.37	自然障	
P-41		32-4	P・Q-40区	楕円形	0.76	0.66	0.40	0.38	0.41	第群a類土器、たたき石、自然障	
P-42	第-51	32-5	P-40区	楕円形	0.64	0.56	0.30	0.44	0.44	扁平打製石器、石楯、自然障	
P-43		32-6	T-40区	長円形	1.75	0.96	1.65	0.83	0.22	無	

表 3-1 土坑一覧表(2)

遺構名	図	図番	グリッド	平面形状	規模 (m)				出土遺物	備 考	
					線路間		底面				最大深
					長径	短径	長径	短径			
P-44	第-52	33-1	R-47区	楕円形	1.68	1.62	1.40	1.13	1.03	Ⅱ群b層・Ⅲ群a層・Ⅳ群a層土器、石鏡、フレイク、自然礫	フラスコ状ビッド
P-45					欠番						
P-46	第-52	33-2	R-48区	楕円形	0.72	0.68	0.47	0.46	0.31	フレイク、扁平打製石器、自然礫	
P-47	第-52	33-3	G-41区	楕円形	1.07	0.82	0.86	0.62	0.28	Ⅱ群a層・Ⅲ群a層土器、フレイク、自然礫	
P-48	第-52	33-4	T-49区	円形	1.64	1.62	1.43	1.40	0.45	Ⅱ群a層・Ⅳ群a層土器、スクレイパー、フレイク、自然礫	H-10・P-63を切る S-P-12と重複
P-49	第-54	33-5	F-43区	楕円形	1.26	0.82	1.21	0.76	0.86	Ⅱ群a層土器、フレイク	H-3に切られる
P-50	第-55	33-6	J-39区	楕円形	1.04	0.95	0.98	0.80	0.12	Ⅱ群a層土器	
P-51	第-54	34-1	R・S-46区	円形	1.78	1.64	1.83	1.67	1.14	Ⅱ群b層・Ⅲ群a・b-1層・Ⅳ群a層土器、石鏡、フレイク、磨製石器、自然礫	フラスコ状ビッド 付属遺構P-1・2
P-52					欠番						
P-53		34-2	T-47区	楕円形	0.86	0.71	0.64	0.56	0.24	Ⅱ群a層・Ⅳ群a層土器、フレイク、扁平打製石器、自然礫	H-10を切る
P-54	第-55	34-3	K・L-39・40区	円形	1.10	1.02	0.99	0.91	0.30	Ⅱ群a層土器、フレイク、自然礫	
P-55		34-4	M-42・43区	楕円形	1.26	1.08	1.18	0.99	0.08	スクレイパー、原石、自然礫	
P-56		34-5	L-35区	楕円形	1.49	1.38	1.18	1.13	0.40	Ⅱ群a層土器	B調査に切られる
P-57	第-56	34-6	M・N-45区	楕円形	1.18	1.04	0.93	0.94	0.32	Ⅳ群a層土器、自然礫	
P-58		35-1	M-40区	円形	1.20	1.16	0.94	0.96	0.34	フレイク、自然礫	B調査に切られる
P-59	第-59	35-2	M・N-35区	楕円形	1.12	1.00	0.74	0.67	0.60	Ⅱ群b層・Ⅲ群a層土器、スクレイパー、自然礫	
P-60					欠番						
P-61	第-57	35-3	P-44・45区	円形	1.52	1.44	1.58	1.56	0.96	Ⅳ群a層土器、フレイク、原石、たたき石、自然礫	フラスコ状ビッド
P-62		35-4	S・T-46区	円形	0.95	0.62	0.56	0.40	0.12	Ⅳ群a層土器	H-10・P-64に切られる
P-63	第-58	35-5	R-47・48区	楕円形	0.54	0.28	0.32	0.25	0.22	Ⅱ群a層土器	
P-64					欠番						
P-65	第-58	35-6	N-40区	楕円形	1.08	0.98	0.82	0.71	0.10	Ⅳ群a層土器、自然礫	
P-66		36-1	N-41区	円形	1.28	1.28	1.14	0.96	0.36	Ⅳ群a層土器、自然礫	
P-67	第-59	36-2	S・T-45・46区	円形	1.24	1.05	1.60	1.50	1.16	Ⅱ群b層・Ⅲ群a層土器、Uフレイク、フレイク、自然礫	フラスコ状ビッド
P-68		36-3	R-49区	円形	0.56	0.46	0.46	0.42	0.16	Ⅳ群a層土器、自然礫	H-15を切る
P-69	第-60	36-4	P-41区	楕円形	1.67	1.15	1.44	0.98	0.16	扁平打製石器、台石、自然礫	
P-70		36-5	S-38・39区	楕円形	1.20	0.91	1.07	0.79	0.14	Ⅳ群a層土器、自然礫	
P-71	第-61	36-6	S-43・44区	楕円形	2.36	2.20	1.84	1.66	0.48	Ⅱ群b・b-1層・Ⅳ群a層土器、スクレイパー、台石、自然礫	住居跡?
P-72	第-62	クラー P-1 37-1	R・S-40区	円形	1.82	1.71	1.60	1.56	1.36	Ⅱ群a・b-1層・Ⅳ群a層土器、石鏡、スクレイパー、U・Rフレイク、石鏡、フレイク、自然礫	フラスコ状ビッド
P-73	第-63	37-2	S・T-41区	正形?	1.54	1.56	1.34	1.14	1.06	Ⅳ群a層土器、石鏡、フレイク、原石、自然礫	フラスコ状ビッド
P-74	第-64	37-3	S-44区	楕円形	0.74	0.72	0.62	0.52	0.22	Ⅱ群b層・Ⅲ群a層土器、フレイク、自然礫	
P-75	第-63	クラー P-2	S-43区	楕円形	0.36	0.36	0.34	0.22	0.20	Ⅳ群a層土器	埋没土器
P-76	第-64	37-4	S-44区	楕円形	0.50	0.46	0.44	0.34	0.36	Ⅳ群a層土器、自然礫	
P-77	第-65	37-5	R・S-44・45区	円形	1.26	1.18	1.46	1.54	1.20	Ⅳ群a層土器、Uフレイク、フレイク、たたき石、台石、自然礫	フラスコ状ビッド
P-78	第-63	37-6	O・P-36区	楕円形	0.97	0.80	0.79	0.64	0.34	Ⅱ群a層土器、石鏡、フレイク、原石、自然礫	
P-79	第-66	38-1	R-45区	正形?	1.06	1.06	1.46	1.44	1.12	Ⅱ群a層・Ⅳ群a層土器、石鏡、つまみ付ナイフ、スクレイパー、Uフレイク、フレイク、たたき石、台石、自然礫	フラスコ状ビッド
P-80	第-67	38-2	T-41区	楕円形	2.10	1.76	1.96	1.38	0.38	Ⅱ群b層・Ⅳ群a層土器、スクレイパー、フレイク、石製品、自然礫	
P-81	第-68	38-3	R-43・44区	楕円形	1.90	1.62	1.78	1.66	1.08	Ⅱ群a・b・b-1層・Ⅳ群a層土器、石鏡、フレイク、原石、自然礫	フラスコ状ビッド
P-82	第-68	38-4	R・S-44区	楕円形	1.26	1.08	0.99	0.94	0.23	Ⅱ群b層・Ⅳ群a層土器、フレイク	
P-83	第-67	38-5	Q-41・42区	楕円形	1.74	1.42	1.02	0.83	0.27	Ⅱ群b-1層土器、U・Rフレイク、石鏡、自然礫	
P-84	第-68	38-6	R・S-43・44区	円形	1.26	1.26	1.48	1.38	0.86	Ⅱ群b層・Ⅲ群b層・Ⅳ群a層土器、フレイク、自然礫	フラスコ状ビッド P-81に切られる
P-85	第-70	39-1	S-45区	円形	1.56	1.68	1.84	1.96	1.14	Ⅱ群b層・Ⅲ群b層・Ⅳ群a層土器、Uフレイク、フレイク、原石、たたき石、自然礫	フラスコ状ビッド
P-86	第-68	39-2	P-38区	円形	1.67	1.60	1.50	1.47	0.21	Ⅱ群b-1層土器、フレイク、自然礫	
P-87	第-68	39-3	S-45区	長楕円形	0.68	0.58	0.34	0.25	0.13	Ⅳ群a層土器、自然礫	

表4 焼土一覽表

遺構名	区	図面	グリッド	確認層位 (探検層)	平断面形	規模 (m)			色調		境界	質状	磁性	出土遺物	備考				
						長さ	短径	最大深	色名	フェリス鉄含量									
F-1	第-71	クラー 探検 T-1	C-03・44, D-03・44K	V a層	楕円形	0.99	0.77	0.15	にじみ褐色	2.5YR6/4	*	*	*	IV群b類・V群a・b類・ IV群a類・VI群土器、ス タレイバー、フレイク、 台石、自然礫	骨片含む P-17土粒				
F-2						B-44K	V b層	楕円形	1.20	0.82	0.09	褐色	7.5YR6/6	産皮	空	堅	?	IV群土器	
F-3						A-45K	V b層	楕円形	0.85	0.42	0.07	暗褐色	7.5YR3/4	判然	堅	強	IV群a類・VI群土器、原 石	骨片含む	
F-4						B-45K	V b層	楕円形	0.40	0.38	0.06	明赤褐色	2.5YR3/8	*	軟	*	IV群a類土器・石碇・フレ イク、自然礫	骨片含む	
F-5	第-72	クラー 探検 T-1	C-03・44K	V a層	楕円形	0.54	0.30	0.08	暗赤褐色	5YR3/4	判然	堅	強	IV群a類土器	骨片含む				
F-6						B・C-45K	V a層	楕円形	0.71	0.51	0.13	暗赤褐色	5YR2/4	*	*	Uコレイク	骨片含む		
F-7						C-45K	V a層	楕円形	0.88	0.76	0.15	暗赤褐色	5YR2/4	*	*	*	IV群b類・IV群a類土器	骨片含む	
F-8						C-03・44K	V a層	円形	0.86	0.85	0.14	明赤褐色	2.5YR5/8	*	*	*	IV群土器、 スタレイバー、ビエス エスキュー、フレイク		
F-9	第-71	クラー 探検 T-1	C-03・44K	V a層	楕円形	0.80	0.50	0.14	赤褐色	2.5YR6/8	*	*	*	無	骨片含む				
F-10	第-75	31-1	T-45K	V b層	円形	0.35	0.34	0.05	褐色	7.5YR6/6	*	*	*	無					
F-11	第-88	31-1	E-45K	F-11	不整形	0.49	0.45	0.08	赤褐色	2.5YR6/8	*	*	*	無	P-32土粒				
F-12	第-73	クラー 探検 T-1	J-45K	V b層	円形	0.42	0.37	0.08	明赤褐色	5YR5/8	*	堅	中	無					
F-13						L-45K	V b層	円形	0.50	0.50	0.10	明赤褐色	5YR5/8	*	堅	中	無		
F-14						L-45K	V b層	円形	0.28	0.26	0.04	暗褐色	7.5YR3/4	*	堅	中	無		
F-15						L-45K	V b層	楕円形	0.70	0.42	0.08	褐色	5YR6/8	*	軟	*	IV群土器		
F-16	R-45K	V b層	楕円形	0.50	0.42	0.08	褐色	5YR7/8	*	軟	*	無	太細礫の砂みを利用						

表5 小土坑一覽表

遺構名	区	図面	グリッド	確認層位	平断面形	規模 (m)			出土遺物	備考			
						長さ	短径	最大深					
SP-1	第-75	30-5・6	P-45K	S-47K	楕円形	0.30	0.18	0.13	IV群a類・IV群a類土器、フレイク				
SP-2						T-47K	楕円形	0.19	0.19	0.13			
SP-3						S-47K	楕円形	0.38	0.25	0.21	0.21		
SP-4						S-47K	楕円形	0.24	0.22	0.14	0.42		
SP-5						T-47K	楕円形	0.21	0.14	0.13	0.42		
SP-6						T-47K	楕円形	0.21	0.14	0.12	0.30		
SP-7						S-47K	楕円形	0.18	0.12	0.20	0.30		
SP-8						T-45K	楕円形	0.23	0.21	0.07	0.47	自然礫	
SP-9						S-47K	楕円形	0.20	0.19	0.14	0.24		
SP-10						S-45K	楕円形	0.29	0.14	0.12	0.40		
SP-11						R-47K	楕円形	0.20	0.19	0.15	0.13	0.26	自然礫
SP-12						T-45K	楕円形	0.20	0.19	0.11	0.10	0.24	
SP-13	R-47K	楕円形	0.21	0.22	0.22	0.21	0.21	自然礫					

表6 礫集中・配石遺構一覽表

遺構名	区	図面	グリッド	確認層位	規模 (m)			出土遺物	備考
					長さ	短径	厚み		
S-1	第-75	30-5・6	P-45K	付属土坑遺構	確認層位			IV群a類土器、 フレイク、 自然礫	下段に土坑(ファスコ状土坑)
					長さ	短径	最大深		
S-2	第-77	33-2 33-1・2 33-1・3	S-44・45, T-45K	V1~V2層	10.0			IV群a類土器、 フレイク、原石、 台石、自然礫	曲線的な配列を呈する、大規模な配石遺構
S-3	第-79	40-3	T-35K	V a層	0.34	0.15	0.04	フレイク、自然礫	小礫(5cm以下)のまとまり
S-4	第-79	40-5	Q-44K	H-14層土	0.68	0.46	0.23	フレイク、 台石、自然礫	H-14層上に構築、S-5よりも新しい石碇が
S-5					Q-44K	H-14層土	0.44	0.43	0.12
S-6	第-79	40-6	N・O-35K	V b層	0.61	0.49	0.75	自然礫	単大程度の礫のまとまり

表7 フレイク・チップ集中一覽表

遺構名	区	図面	グリッド	確認層位	規模 (m)			出土遺物	備考
					長さ	短径	厚み		
FC-1	第-81	*	G-45K	V b層	0.80	0.44	0.06	IV群a類・IV群a類土器 スタレイバー、フレイク 福守打製石器、北海道式石碇 石碇・自然礫	

表 8 住居跡出土土器類点数表

H-1

器種	数量	数量	数量	数量	数量
V 土器	1				1
縄土 1	17	3			20
縄土 2			5		5
縄土 3	69				69
縄土 P-1					1
分器類合計	30	24	6		100

H-2

器種	数量	数量	数量	数量
縄土 1	2			2
縄土 2			6	6
分器類合計	2	6		8

H-3

器種	数量	数量	数量	数量	数量
V 土器				9	9
V 土器	2				2
縄土 1	1				1
縄土 2	10				10
縄土 3	38	4			42
縄土 P-1					3
縄土 P-2					3
縄土 P-3					3
縄土 P-4					1
分器類合計	1	107	13		121

H-4

器種	数量	数量	数量
縄土 1			6
縄土 2			6
分器類合計			12

H-5

器種	数量	数量	数量	数量	数量	数量
縄土 1	3			1		4
縄土 2	53	20				73
縄土 P	7					7
縄土中	11	103	3			117
分器類合計	7	4				11
分器類合計	64	129	4	1		202

H-8

器種	数量	数量	数量	数量	数量
V 土器	1	11	17	113	142
縄土 1					1
縄土 2					1
縄土 3					2
分器類合計	1	11	17	113	146

H-10

器種	数量	数量	数量	数量	数量
V 土器					11
縄土 1	1	18			19
縄土 2					30
縄土 3					11
分器類合計	1	18			52
分器類合計	1	18			52

H-15

器種	数量	数量	数量	数量	数量
縄土 1					6
縄土 2					3
縄土 3	2				2
分器類合計	2				11
分器類合計	2				11

H-16

器種	数量	数量	数量	数量	数量
縄土 1		11			11
縄土 2					3
縄土 3					1
分器類合計		11			15
分器類合計		11			15

H-17

器種	数量	数量	数量
縄土 1	1	107	108
縄土 2	9	204	213
縄土 3		11	11
分器類合計	10	322	332
分器類合計	10	322	332

H-18

器種	数量	数量	数量
縄土 1	1	96	97
縄土 2		43	43
分器類合計	1	139	140
分器類合計	1	139	140

H-19

器種	数量	数量	数量	数量	数量
縄土 1	1	3			4
縄土 2					2
縄土 3	1				1
分器類合計	2	3			5
分器類合計	2	3			5

H-20

器種	数量	数量
縄土 1		1
分器類合計		1

表 9-1 土坑出土土器類点数表(1)

P-2

器種	数量	数量
縄土 1		11

P-4

器種	数量	数量
縄土 1		21

P-6

器種	数量	数量
縄土 1		3

P-10

器種	数量	数量
縄土 1		1

P-11

器種	数量	数量	数量
縄土 1			5

P-12

器種	数量	数量	数量	数量
縄土 1				40
縄土 2	1			1
分器類合計	10	1		41

P-13

器種	数量	数量
縄土 1		2

P-15

器種	数量	数量
縄土 1		7

P-16

器種	数量	数量	数量	数量	数量
縄土 1	22	15			37
分器類合計	22	15			37

P-17

器種	数量	数量	数量	数量	数量
縄土 1	11	3			14
分器類合計	11	3			14

P-20

器種	数量	数量	数量
縄土 1	10	14	24

P-21

器種	数量	数量
縄土 1		1

P-23

器種	数量	数量
縄土 1		4

P-24

器種	数量	数量
縄土 1		4

P-26

器種	数量	数量	数量	数量	数量
縄土 1	46	10			56
縄土 2					3
分器類合計	46	10			59

P-27

器種	数量	数量	数量
縄土 1			4

P-28

器種	数量	数量	数量	数量
縄土 1	7	4		11

P-29

器種	数量	数量	数量	数量	数量
縄土 1	3	16			19

P-30

器種	数量	数量
縄土 1		3

P-31

器種	数量	数量	数量	数量	数量
縄土 1	20	1			21

表9-2 土坑出土土器類点数表(2)

<b>P-33</b> 器・土器種 数量a数 甕土1 2 甕土2 40 分器種合計 42	<b>P-34</b> 器・土器種 数量a数 甕土 4	<b>P-35</b> 器・土器種 数量a数 甕土1 1	<b>P-36</b> 器・土器種 数量b-1数 甕土1 3 甕土4 2 分器種合計 7	<b>P-37</b> 器・土器種 数量a数 甕土1 1	
<b>P-38</b> 器・土器種 数量a数 甕土1 30 甕土2 1 分器種合計 31	<b>P-39</b> 器・土器種 数量a数 数量b-1数 数量c数 数量d合計 甕土1 1 1 1 3 甕土2 1 1 1 3 分器種合計 2 1 1 4	<b>P-41</b> 器・土器種 数量a数 甕土 1	<b>P-44</b> 器・土器種 数量b数 数量c数 数量d合計 甕土1 1 1 30 30 甕土2 1 10 10 甕土3 1 10 10 甕土4 1 1 2 甕土5 1 1 2 甕土6 1 1 2 分器種合計 1 2 10 14	<b>P-47</b> 器・土器種 数量a数 数量b数 数量c合計 甕土1 3 17 40 甕土2 2 2 分器種合計 11 17 48	<b>P-48</b> 器・土器種 数量a数 数量b数 数量c合計 甕土1 15 20 甕土4 2 3 5 分器種合計 2 15 17
<b>P-49</b> 器・土器種 数量a数 甕土 2	<b>P-51</b> 器・土器種 数量b数 数量c数 数量d-1数 数量e数 数量f合計 甕土1 2 2 甕土2 4 1 4 8 分器種合計 4 1 4 8 19	<b>P-53</b> 器・土器種 数量a数 数量b数 数量c合計 甕土 2 10 12	<b>P-54</b> 器・土器種 数量a数 甕土1 1	<b>P-57</b> 器・土器種 数量a数 甕土 3	
<b>P-59</b> 器・土器種 数量a数 数量b数 数量c合計 甕土1 1 1 2	<b>P-61</b> 器・土器種 数量a数 甕土上位 17 甕土4 1 分器種合計 18	<b>P-62</b> 器・土器種 数量a数 甕土1 7	<b>P-63</b> 器・土器種 数量a数 甕土 3	<b>P-65</b> 器・土器種 数量a数 甕土1 1	
<b>P-66</b> 器・土器種 数量a数 甕土1 4	<b>P-67</b> 器・土器種 数量a数 甕土1 2 甕土2(断面番号) 43 甕土3(断面番号) 7 甕土4(土器種番号) 10 分器種合計 62	<b>P-71</b> 器・土器種 数量b数 数量c-1数 数量d合計 甕土1 1 17 18 甕土2 7 27 34 甕土3 1 1 2 分器種合計 9 45 54	<b>P-74</b> 器・土器種 数量b数 数量c合計 甕土1 1 16 17	<b>P-77</b> 器・土器種 数量a数 甕土1 3 甕土2 10 13 甕土3 10 20 甕土4 11 甕土5 1 2 甕土6 3 甕土7 1 甕土8合計 35 分器種合計 55	
<b>P-68</b> 器・土器種 数量a数 甕土1 26	<b>P-70</b> 器・土器種 数量a数 甕土1 4	<b>P-73</b> 器・土器種 数量a数 甕土1 3 甕土2 3 甕土上位 75 甕土中位 27 甕土下位 2 分器種合計 108	<b>P-75</b> 器・土器種 数量a数 甕土1 38	<b>P-78</b> 器・土器種 数量a数 甕土1 43	
<b>P-72</b> 器・土器種 数量a数 数量b-1数 数量c数 数量d合計 甕土1 1 1 20 22 甕土2 1 1 100 102 分器種合計 2 2 102 104	<b>P-79</b> 器・土器種 数量a数 数量b数 数量c合計 甕土1 3 1 4 甕土中位 3 30 33 甕土2 40 40 甕土3 3 3 甕土上位 9 9 甕土下位 10 10 分器種合計 4 107 111	<b>P-80</b> 器・土器種 数量a数 数量b数 数量c合計 甕土上位 49 1 50 甕土2 19 11 甕土3 30 30 分器種合計 140 1 141	<b>P-81</b> 器・土器種 数量a数 数量b数 数量c-1数 数量d合計 甕土上位 1 10 1 24 26 甕土中位 1 1 2 4 甕土下位 3 3 分器種合計 4 10 2 26 34	<b>P-82</b> 器・土器種 数量b数 数量c数 数量d合計 甕土中位 7 5 6	
<b>P-85</b> 器・土器種 数量a数 数量b数 数量c数 数量d合計 甕土上位 10 11 21 甕土中位 1 1 13 14 甕土下位 7 7 甕土4 1 1 1 分器種合計 1 13 21 42	<b>P-83</b> 器・土器種 数量b-1数 甕土1 6 甕土2 2 分器種合計 10	<b>P-84</b> 器・土器種 数量b数 数量c-1数 数量d合計 甕土上位 1 1 24 26 甕土中位 1 1 2 4 甕土下位 3 3 分器種合計 1 1 1 26 30	<b>表11 小土坑出土土器類点数表</b> S-P-1 器・土器種 数量a数 数量b数 数量c合計 甕土 2 1 3		

表10 焼土出土土器類点数表

<b>F-1</b> 器・土器種 数量a数 数量b数 数量c数 数量d合計 V a 器 1 81 82 V b 器 6 418 46 470 分器種合計 6 418 47 81 502	<b>F-3</b> 器・土器種 数量a数 数量b数 数量c合計 V a 器 1 30 40	<b>F-4</b> 器・土器種 数量a数 V a 器 1	<b>F-5</b> 器・土器種 数量a数 V b 器 1	<b>F-7</b> 器・土器種 数量b数 数量c数 数量d合計 V a 器 1 12 13	<b>F-7/8期</b> 器・土器種 数量 V a 器 17	<b>F-15</b> 器・土器種 数量 V b 器 2
--	--	-------------------------------------	-------------------------------------	--	---------------------------------------	------------------------------------

表12 礫集中・配石遺構出土土器類点数表

<b>S-1</b> 器・土器種 数量a数 石器類合計 2 甕土1 1 甕土2 1 甕土4 3 分器種合計 7	<b>S-2</b> 器・土器種 数量a数 V 器 10
---	------------------------------------

表13 フレイクチップ集中出土土器類点数表

<b>F.C-1</b> 器・土器種 数量a数 数量b数 数量c合計 V a 器 4 2 6
--





遺物種別/部位	H-17			H-18			H-19			H-20			合計	住居跡 合計
	床面 残照	その他	小計	床面 残照	その他	小計	床面 残照	その他	小計	床面 残照	その他	小計		
片石														
石塊	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7
石塊・ナイフ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
石塊	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
つまみ付きナイフ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
スクレイパー	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	1	1	3	37
リ・Rフレイク	1	2	3	1	1	4	4	1	1	1	1	1	11	48
ビニースタキユ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
石塊	1	1	1	1	1	3	3	3	3	3	3	3	21	66
フレイク・チップ	2	19	21	1	10	11	20	20	0	0	0	0	51	466
原石	1	1	1	0	1	1	1	1	0	0	0	0	2	10
削片石群合計	3	23	26	1	12	9	31	9	31	9	2	0	72	388
磨製石器														
磨製小斧	1	1	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	2	8
磨製刮片	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
磨製石材	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
原石	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
磨製石器群合計	0	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	2	8
燧石														
貝折片(すず石)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	30
北海道産石(すず石)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	12
すず石(その他)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
たつき石	0	0	0	0	0	1	1	1	1	1	1	1	6	6
石塊	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
石塊	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
原石	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6
角石・石皿	2	2	2	3	3	0	1	0	0	0	0	0	3	29
燧石群(石群)合計	0	2	0	3	3	0	0	1	0	0	0	0	4	76
石群	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7
自然産	18	47	65	12	36	9	69	4	74	9	26	0	1	212
合計	94			85			110			3			292	5348

表15 土坑出土石器類点数表

遺物種別/部位	P-1	P-2	P-3	P-4	P-5	P-6	P-7	P-8	P-10	P-11	合計			
	燧土 小計	燧土 小計	燧土 小計	燧土 小計	燧土 小計	燧土 小計	燧土 小計	燧土 小計	燧土 小計	燧土 小計				
片石														
石塊	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
石塊・ナイフ	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	1			
石塊	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
つまみ付きナイフ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
スクレイパー	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	1			
リ・Rフレイク	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
石塊	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
ビニースタキユ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
フレイク・チップ	0	5	4	0	1	1	0	0	1	1	9			
原石	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
削片石群合計	0	5	4	1	1	1	0	0	1	1	12			
磨製石器														
磨製小斧	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
磨製刮片	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
磨製石材	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
原石	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
磨製石器群合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
燧石														
貝折片(すず石)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1			
北海道産石(すず石)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
たつき石	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
石塊	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
石塊	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
原石	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
角石・石皿	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	1			
燧石群(石群)合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1			
石群	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
自然産	121	111	2	1	1	1	1	7	4	4	10	3	3	150
合計	121		8	2	2	0	2	1	8	5	10	2	4	162

遺物種別/部位	P-12	P-13	P-14	P-15	P-16	P-17	P-18	P-20	P-21	合計						
	燧土 小計	燧土 小計	燧土 小計	燧土 小計	燧土 小計	燧土 小計	燧土 小計	燧土 小計	燧土 小計							
片石																
石塊	1	1	0	1	1	0	0	0	0	2						
石塊・ナイフ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0						
石塊	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0						
つまみ付きナイフ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0						
スクレイパー	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0						
リ・Rフレイク	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0						
石塊	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0						
ビニースタキユ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0						
フレイク・チップ	4	4	0	2	2	11	11	2	29	29	3	3	103			
原石	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	0	0	2			
削片石群合計	5	5	0	3	3	0	11	11	4	4	29	29	1	3	107	
磨製石器																
磨製小斧	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
磨製刮片	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
磨製石材	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
原石	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
磨製石器群合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
燧石																
貝折片(すず石)	0	0	0	0	0	2	2	1	1	0	0	0	0	4		
北海道産石(すず石)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	1		
たつき石	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
石塊	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
石塊	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
原石	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
角石・石皿	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	1		
燧石群(石群)合計	0	0	0	0	0	0	2	2	1	1	0	0	0	5		
石群	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
自然産	2	2	1	1	2	1	1	0	60	60	1	1	0	8	11	76
合計	7		1	5	2	1	13	13	65	65	15	15	1	1	189	







表20-1 遺構出土土器類觀察表 (住居H-1~8)

遺構番号	発掘階	発掘層	時期	種類	特徴	数量	形状	材質	表裏色	注記	出土の遺人物	位置	備考
遺構-01	住居H-1	11-1	鎌倉	黒土器	片割り	1	...	...	...	...	...	...	...



















表20-10 遺構出土土器類観察表（焼土F-1～15・遺物の集中出土）

遺構番号	層位	時期	土器類	数量	形状・土質	観察番号	形状	土質	色	厚さ	直径	高さ	重量	備考	出土の遺物	注	注	注	注		
遺構-103	F-1-4	80	黒土 丸形土器	10	F-1(V)N3-2 10	F-1(V)N3-2 10	F-1(V)N3-2 10	F-1(V)N3-2 10	F-1(V)N3-2 10	F-1(V)N3-2 10	F-1(V)N3-2 10	F-1(V)N3-2 10	F-1(V)N3-2 10	F-1(V)N3-2 10	F-1(V)N3-2 10	F-1(V)N3-2 10	F-1(V)N3-2 10	F-1(V)N3-2 10	F-1(V)N3-2 10	F-1(V)N3-2 10	
																					...
																					...
																					...
																					...
																					...
																					...
																					...
																					...
																					...
遺構-103	F-1-1	80	黒土 丸形土器	10	F-1(V)N3-2 10	F-1(V)N3-2 10	F-1(V)N3-2 10	F-1(V)N3-2 10	F-1(V)N3-2 10	F-1(V)N3-2 10	F-1(V)N3-2 10	F-1(V)N3-2 10	F-1(V)N3-2 10	F-1(V)N3-2 10	F-1(V)N3-2 10	F-1(V)N3-2 10	F-1(V)N3-2 10	F-1(V)N3-2 10	F-1(V)N3-2 10	F-1(V)N3-2 10	
																					...
																					...
																					...
																					...
																					...
																					...
																					...
																					...
																					...
遺構-103	F-1-4	80	黒土 丸形土器	10	F-1(V)N3-2 10	F-1(V)N3-2 10	F-1(V)N3-2 10	F-1(V)N3-2 10	F-1(V)N3-2 10	F-1(V)N3-2 10	F-1(V)N3-2 10	F-1(V)N3-2 10	F-1(V)N3-2 10	F-1(V)N3-2 10	F-1(V)N3-2 10	F-1(V)N3-2 10	F-1(V)N3-2 10	F-1(V)N3-2 10	F-1(V)N3-2 10	F-1(V)N3-2 10	
																					...
																					...
																					...
																					...
																					...
																					...
																					...
																					...
																					...
遺構-103	F-1-1	80	黒土 丸形土器	10	F-1(V)N3-2 10	F-1(V)N3-2 10	F-1(V)N3-2 10	F-1(V)N3-2 10	F-1(V)N3-2 10	F-1(V)N3-2 10	F-1(V)N3-2 10	F-1(V)N3-2 10	F-1(V)N3-2 10	F-1(V)N3-2 10	F-1(V)N3-2 10	F-1(V)N3-2 10	F-1(V)N3-2 10	F-1(V)N3-2 10	F-1(V)N3-2 10	F-1(V)N3-2 10	
																					...
																					...
																					...
																					...
																					...
																					...
																					...
																					...
																					...

表20の注) 白色粒は長石かペリス片あるいは別のものかわからなかったもの。土器断面について、黒和材が10～25%含まれているものを「密」。7%前後は表記せず。1～2%をまばら。角閃石については結晶が明確なものを表記。黒色粒は角閃石か輝石あるいは別のものかわからなかったもの。発掘区遺構層の場合、小発掘区を示すyo～にについては遺物番号の前が付してある。覆土の上中・下層は上・中・下とされている。また出土した土器のうち、層り上げ土（図集-1）との層位別上下関係について確認できたものがある。それらについては、確実に接合・復元できたものについてはのみ、その結果を遺物番号の後ろに括弧付で示した。以上の「注」は表20についても同様とする。

表21 遺構出土土片石器群観察表

遺構	層位	北北東緯	遺物番号	形状	材質	寸法(mm)			重量	石片	採集場所	使用用途	備考
						長さ	幅	厚さ					
第116	1	H-1	55	薄片1	石礫	0.7	0.7	0.1	0.1	剥片	埋蔵層(前)・埋蔵層(後)	2層古物	
	2	H-1	56	薄片1	スラレインバー	0.4	3.8	1.5	0.4	片打す 剥片	埋蔵層(前)・埋蔵層(後)	ナイフスラレインバー	
	3	H-1	50	薄片1	スラレインバー	8.5	6.0	1.7	00.5	片打す 剥片	埋蔵層(前)	ナイフスラレインバー	
	4	H-1	57	薄片1	スラレインバー	5.6	5.0	2.4	01.3	剥片	埋蔵層(前)	ナイフスラレインバー	
	5	H-1	4	薄片1	石礫	0.7	0.7	0.1	0.1	剥片	埋蔵層(前)・埋蔵層(後)	2層古物	
	6	H-1	5	薄片1	スラレインバー	10.1	6.5	0.9	0.4	剥片	埋蔵層(前)	ナイフスラレインバー	
	7	H-1	58	薄片1	スラレインバー	10.1	6.5	0.9	0.4	剥片	埋蔵層(前)	ナイフスラレインバー	
	8	H-1	50	Vb	スラレインバー	5.7	5.7	1.0	01.0	剥片	埋蔵層(前)	ナイフスラレインバー	
	9	H-1	101	Vb	スラレインバー	6.2	6.2	1.0	01.0	剥片	埋蔵層(前)	ナイフスラレインバー	
	10	H-1	59	薄片1	スラレインバー	8.8	8.8	1.0	0.8	剥片	埋蔵層(前)・埋蔵層(後)	ナイフスラレインバー	
第117	12	H-4	37	薄片1	スラレインバー	10.8	8.5	3.6	150.7	剥片	埋蔵層(前)	ナイフスラレインバー	
	13	H-5	38	薄片1	スラレインバー	7.7	4.6	1.8	01.2	剥片	埋蔵層(前)	ナイフスラレインバー	
	14	H-5	1	薄片1	石礫	0.6	1.6	0.6	0.1	剥片	埋蔵層(前)・埋蔵層(後)	2層古物	
	15	H-5	1	薄片1	スラレインバー	7.0	3.8	1.5	01.2	剥片	埋蔵層(前)・埋蔵層(後)	ナイフスラレインバー	
	16	H-5	5	薄片1	スラレインバー	9.8	6.6	1.3	71.2	剥片	埋蔵層(前)・埋蔵層(後)	ナイフスラレインバー	
	17	H-8	1	薄片1	スラレインバー	6.1	6.2	1.7	02.5	剥片	埋蔵層(前)・埋蔵層(後)	ナイフスラレインバー	
	18	H-8	3	薄片1	スラレインバー	7.6	3.8	1.8	10.4	剥片	埋蔵層(前)	ナイフスラレインバー	
	19	H-9	15	薄片1	石礫	2.4	1.5	0.5	1.1	剥片	埋蔵層(前)	ナイフスラレインバー	
	20	H-9	4	薄片1	石礫	3.0	2.2	0.8	4.1	剥片	埋蔵層(前)	ナイフスラレインバー	
	21	H-9	86	薄片1	スラレインバー	7.1	6.4	3.4	71.3	剥片	埋蔵層(前)・埋蔵層(後)	ナイフスラレインバー	
第118	21	H-12	12	薄片1	スラレインバー	7.3	5.5	1.7	41.1	剥片	埋蔵層(前)	ナイフスラレインバー	
	22	H-14	197	薄片1	石礫	4.0	2.0	0.8	3.8	剥片	埋蔵層(前)	ナイフスラレインバー	
	23	H-14	116	薄片1	石礫	4.3	1.4	0.7	2.7	剥片	埋蔵層(前)	ナイフスラレインバー	
	24	H-14	215	薄片1	石礫	4.5	1.3	0.7	2.3	剥片	埋蔵層(前)	ナイフスラレインバー	
	25	H-14	118	薄片1	石礫	0.9	0.8	0.7	1.1	剥片	埋蔵層(前)	ナイフスラレインバー	
	26	H-14	198	薄片1	スラレインバー	5.0	4.3	1.2	10.5	剥片	埋蔵層(前)	ナイフスラレインバー	
	27	H-14	6	薄片1	スラレインバー	5.9	3.9	1.9	39.4	剥片	埋蔵層(前)	ナイフスラレインバー	
	28	H-14	79	薄片1	スラレインバー	6.6	3.2	1.3	36.5	剥片	埋蔵層(前)	ナイフスラレインバー	
	29	H-14	119	薄片1	スラレインバー	6.5	3.8	1.2	11.0	剥片	埋蔵層(前)	ナイフスラレインバー	
	30	H-15	19	薄片1	石礫	4.7	1.9	0.5	4.8	剥片	埋蔵層(前)・埋蔵層(後)	ナイフスラレインバー	
第119	31	H-15	20	薄片1	Uフレイト	3.9	4.0	0.9	14.2	剥片	埋蔵層(前)	ナイフスラレインバー	
	32	H-10	69	薄片1	Uフレイト	4.0	4.3	1.6	36.1	剥片	埋蔵層(前)・埋蔵層(後)	ナイフスラレインバー	
	33	H-10	70	薄片1	スラレインバー	6.6	4.0	1.3	39.9	剥片	埋蔵層(前)・埋蔵層(後)	ナイフスラレインバー	
	34	H-16	80	薄片1	スラレインバー	7.4	5.0	0.7	30.4	剥片	埋蔵層(前)	ナイフスラレインバー	
	35	H-16	47	薄片1	スラレインバー	8.2	5.1	1.4	35.5	剥片	埋蔵層(前)・埋蔵層(後)	ナイフスラレインバー	
	36	H-17	39	薄片1	石礫	4.8	1.1	1.1	4.7	剥片	埋蔵層(前)	ナイフスラレインバー	
	37	H-17	108	薄片1	Uフレイト	8.9	5.6	1.4	40.0	剥片	埋蔵層(前)	ナイフスラレインバー	
	38	H-18	37	薄片1	Uフレイト	5.2	2.5	0.6	4.7	剥片	埋蔵層(前)	ナイフスラレインバー	
	39	H-19	129	薄片1	Uフレイト	0.2	4.3	0.9	11.9	剥片	埋蔵層(前)	ナイフスラレインバー	
	40	H-19	158	薄片1	Uフレイト	1.8	3.1	0.9	7.0	剥片	埋蔵層(前)	ナイフスラレインバー	
第120	41	H-19	160	薄片1	Uフレイト	5.2	3.5	1.3	11.0	剥片	埋蔵層(前)	ナイフスラレインバー	
	42	H-19	161	薄片1	Uフレイト	3.0	4.0	0.9	1.1	剥片	埋蔵層(前)	ナイフスラレインバー	
	43	H-20	4	薄片1	スラレインバー	5.9	4.9	1.0	20.8	剥片	埋蔵層(前)	ナイフスラレインバー	
	44	H-20	7	薄片1	スラレインバー	7.9	6.6	1.8	32.4	剥片	埋蔵層(前)	ナイフスラレインバー	
	45	P-6	1	薄片1	スラレインバー	5.6	8.1	2.1	39.1	剥片	埋蔵層(前)	ナイフスラレインバー	
	46	P-10	2-1	薄片1	Uフレイト	6.1	2.6	1.1	17.6	剥片	埋蔵層(前)	ナイフスラレインバー	
	47	P-11	1	薄片1	石礫	1.1	1.1	0.6	2.8	剥片	埋蔵層(前)	ナイフスラレインバー	
	48	P-11	2	薄片1	石礫	1.1	1.1	0.6	2.8	剥片	埋蔵層(前)	ナイフスラレインバー	
	49	P-11	3	薄片1	スラレインバー	11.9	8.5	1.8	45.6	剥片	埋蔵層(前)	ナイフスラレインバー	
	50	P-11	36	薄片1	Uフレイト	4.9	5.8	0.8	10.1	剥片	埋蔵層(前)	ナイフスラレインバー	
第121	51	P-20	43	薄片1	スラレインバー	8.8	2.7	1.4	35.5	剥片	埋蔵層(前)	ナイフスラレインバー	
	52	P-20	69	薄片1	スラレインバー	3.6	3.6	1.1	17.1	剥片	埋蔵層(前)	ナイフスラレインバー	
	53	P-28	25	薄片1	石礫	3.3	1.5	0.6	1.4	剥片	埋蔵層(前)	ナイフスラレインバー	
	54	P-28	19	薄片1	石礫	4.5	3.4	1.3	17.3	剥片	埋蔵層(前)	ナイフスラレインバー	
	55	P-28	21	薄片1	スラレインバー	6.2	3.5	1.3	11.0	剥片	埋蔵層(前)	ナイフスラレインバー	
	56	P-28	22	薄片1	スラレインバー	9.9	7.9	2.9	115.3	剥片	埋蔵層(前)	ナイフスラレインバー	
	57	P-28	23	薄片1	スラレインバー	6.2	4.4	0.9	11.0	剥片	埋蔵層(前)	ナイフスラレインバー	
	58	P-28	24	薄片1	スラレインバー	6.2	4.4	0.9	11.0	剥片	埋蔵層(前)	ナイフスラレインバー	
	59	P-28	26	薄片1	スラレインバー	10.1	8.1	0.6	0.9	剥片	埋蔵層(前)	ナイフスラレインバー	
	60	P-28	27	薄片1	スラレインバー	10.1	8.1	0.6	0.9	剥片	埋蔵層(前)	ナイフスラレインバー	
第122	61	P-29	28	薄片1	スラレインバー	10.1	8.1	0.6	0.9	剥片	埋蔵層(前)	ナイフスラレインバー	
	62	P-29	29	薄片1	スラレインバー	10.1	8.1	0.6	0.9	剥片	埋蔵層(前)	ナイフスラレインバー	
	63	P-29	30	薄片1	スラレインバー	10.1	8.1	0.6	0.9	剥片	埋蔵層(前)	ナイフスラレインバー	
	64	P-29	31	薄片1	スラレインバー	10.1	8.1	0.6	0.9	剥片	埋蔵層(前)	ナイフスラレインバー	
	65	P-29	32	薄片1	スラレインバー	10.1	8.1	0.6	0.9	剥片	埋蔵層(前)	ナイフスラレインバー	
	66	P-29	33	薄片1	スラレインバー	10.1	8.1	0.6	0.9	剥片	埋蔵層(前)	ナイフスラレインバー	
	67	P-29	34	薄片1	スラレインバー	10.1	8.1	0.6	0.9	剥片	埋蔵層(前)	ナイフスラレインバー	
	68	P-29	35	薄片1	スラレインバー	10.1	8.1	0.6	0.9	剥片	埋蔵層(前)	ナイフスラレインバー	
	69	P-29	36	薄片1	スラレインバー	10.1	8.1	0.6	0.9	剥片	埋蔵層(前)	ナイフスラレインバー	
	70	P-29	37	薄片1	スラレインバー	10.1	8.1	0.6	0.9	剥片	埋蔵層(前)	ナイフスラレインバー	

表22 遺構出土磨製石器群觀察表

遺構層位	編號	圖例	出土遺構	遺物類別	部位	形類	計測值 (cm)			重量 (g)	石材名稱、特徵	製作形類	使用痕跡	加工處	備考
							最大長	最大寬	最大厚						
123	1	H-1	49	磨石	磨製石片	16.0	4.0	2.3	250	片岩	磨製	磨痕	磨痕	未製品	
	2	H-7	49	磨石	磨製石片	8.5	2.7	2.0	30	片岩	磨製	磨痕	磨痕	未製品	
	3	H-7	51	磨石	磨製石片	8.0	2.1	2.2	100	片岩	磨製	磨痕	磨痕	未製品	
	4	H-10	5	磨石	磨製石片	9.0	2.4	1.9	30	片岩	磨製	磨痕	磨痕	未製品	
	5	H-12	3	磨石	磨製石片	8.8	2.0	2.0	300	片岩	磨製	磨痕	磨痕	未製品	
	6	H-14	253	磨石	磨製石片	(4.0)	3.2	1.4	20	片岩	磨製	磨痕	磨痕	未製品	
	7	H-14	253	磨石	磨製石片	(5.0)	1.9	0.7	10	片岩	磨製	磨痕	磨痕	未製品	
	8	H-17	19	磨石	磨製石片	(2.0)	3.4	0.8	7	片岩	磨製	磨痕	磨痕	未製品	
	9	H-18	8	林道跡	磨製石片	(5.1)	3.6	2.2	67	片岩	磨製	磨痕	磨痕	未製品	

表23 遺構出土礫石器群觀察表(1)

遺構層位	編號	圖例	出土遺構	遺物類別	部位	形類	計測值 (cm)			重量 (g)	石材名稱、特徵	製作形類	使用痕跡	加工處	備考
							最大長	最大寬	最大厚						
124	1	H-1	46	Vb	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	2	H-1	31	磨石	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	3	H-3	75	磨石	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	4	H-3	11	林道跡	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	5	H-3	90	磨石	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
125	6	H-4	2	磨石	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	7	H-4	2	磨石	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	8	H-4	16	磨石	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	9	H-4	23	林道跡	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	10	H-4	21	林道跡	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
126	11	H-5	13	磨石	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	12	H-5	17	磨石	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	13	H-8	45	Vb	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
	14	H-8	91	Vb	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	15	H-8	11	林道跡	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
127	16	H-8	9	林道跡	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	17	H-8	96	Vb	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	18	H-8	33	Vb	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	19	H-8	14	磨石	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	20	H-8	19	磨石	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
128	21	H-10	1	磨石	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	22	H-11	3	磨石	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	23	H-12	4	磨石	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	24	H-14	29	磨石	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	25	H-14	319	磨石	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
129	26	H-16	68	磨石	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	27	H-16	68	磨石	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	28	H-16	67	磨石	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	29	H-19	75	磨石	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	30	P-11	3	磨石	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
130	31	P-16	14	磨石	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	32	P-17	15	磨石	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	33	P-20	8	磨石	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	34	P-23	2	磨石	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	35	P-26	37	磨石	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
131	36	P-26	45	磨石	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	37	P-26	45	磨石	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	38	P-26	4	磨石	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	39	P-31	14	磨石	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	40	P-31	3	磨石	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
132	41	P-32	3	磨石	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	42	P-33	12	林道跡	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	43	P-33	10	林道跡	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	44	P-33	6	林道跡	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	45	P-41	4	磨石	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
133	46	P-42	2	磨石	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	47	P-42	3	磨石	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	48	P-46	1	磨石	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	49	P-53	1	磨石	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	50	P-59	3	磨石	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
134	51	P-59	3	磨石	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	52	P-77	17	磨石	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	53	P-79	33	磨石	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	54	P-83	4	磨石	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	55	P-85	26	磨石	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
135	56	F-C-1	3	Vb	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	57	F-C-1	5	Vb	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	58	F-C-1	14	Vb	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	59	F-C-1	6	Vb	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	60	F-C-1	6	Vb	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1



表23 遺構出土磁石器群観察表(2)

遺構番号	出土層	遺物	種別	形状	数量	計測値(mm)				重量(g)	名目	形状	使用用途	加工	備考		
						最大径	最小径	高さ	厚さ								
Ⅲ-136	2	Ⅲ-12	11	Ⅲ上	1	1	1	1	1	28.5	26.5	10.9	3.500	灰褐色 灰白色	手製?	たたき器?	*
	3	Ⅲ-14	312	Ⅲ上	1	1	1	1	1	21.0	19.9	6.8	3.500	灰褐色 灰白色	手製	すり鉢	*
	4	Ⅲ-14	325	Ⅲ中	1	1	1	1	1	21.5	18.7	8.4	3.500	灰褐色 灰白色	成形	すり鉢	*
	5	Ⅲ-14	311	Ⅲ中	1	1	1	1	1	21.7	20.0	7.9	3.500	灰褐色 灰白色	成形	すり鉢	*
Ⅲ-137	7	Ⅲ-16	40	Ⅲ中	1	1	1	1	1	33.4	16.0	6.0	6.000	灰褐色 灰白色	成形	すり鉢	*
	8	Ⅲ-16	40	Ⅲ中	1	1	1	1	1	33.4	16.0	6.0	6.000	灰褐色 灰白色	成形	すり鉢	*
Ⅲ-138	19	Ⅲ-18	39	Ⅲ中	1	1	1	1	1	26.0	18.0	5.7	3.500	灰褐色 灰白色	成形	すり鉢	打5文並み?
	20	Ⅲ-18	39	Ⅲ中	1	1	1	1	1	26.0	18.0	5.7	3.500	灰褐色 灰白色	成形	すり鉢	打5文並み?
Ⅲ-139	18	Ⅲ-17	41	Ⅲ中	1	1	1	1	1	29.0	18.0	6.0	3.500	灰褐色 灰白色	成形	すり鉢	打5文並み?
	19	Ⅲ-17	41	Ⅲ中	1	1	1	1	1	29.0	18.0	6.0	3.500	灰褐色 灰白色	成形	すり鉢	打5文並み?
	20	Ⅲ-17	41	Ⅲ中	1	1	1	1	1	29.0	18.0	6.0	3.500	灰褐色 灰白色	成形	すり鉢	打5文並み?
	21	Ⅲ-17	41	Ⅲ中	1	1	1	1	1	29.0	18.0	6.0	3.500	灰褐色 灰白色	成形	すり鉢	打5文並み?
	22	Ⅲ-17	41	Ⅲ中	1	1	1	1	1	29.0	18.0	6.0	3.500	灰褐色 灰白色	成形	すり鉢	打5文並み?
	23	Ⅲ-17	41	Ⅲ中	1	1	1	1	1	29.0	18.0	6.0	3.500	灰褐色 灰白色	成形	すり鉢	打5文並み?
	24	Ⅲ-17	41	Ⅲ中	1	1	1	1	1	29.0	18.0	6.0	3.500	灰褐色 灰白色	成形	すり鉢	打5文並み?
	25	Ⅲ-17	41	Ⅲ中	1	1	1	1	1	29.0	18.0	6.0	3.500	灰褐色 灰白色	成形	すり鉢	打5文並み?
	26	Ⅲ-17	41	Ⅲ中	1	1	1	1	1	29.0	18.0	6.0	3.500	灰褐色 灰白色	成形	すり鉢	打5文並み?
	27	Ⅲ-17	41	Ⅲ中	1	1	1	1	1	29.0	18.0	6.0	3.500	灰褐色 灰白色	成形	すり鉢	打5文並み?
Ⅲ-140	20	Ⅲ-17	41	Ⅲ中	1	1	1	1	1	26.0	23.7	8.5	3.500	灰褐色 灰白色	成形	たたき器 すり鉢	*
	21	Ⅲ-17	41	Ⅲ中	1	1	1	1	1	26.0	23.7	8.5	3.500	灰褐色 灰白色	成形	たたき器 すり鉢	*

表24 遺構出土土製品観察表

遺構番号	出土層	遺物	種別	形状	数量	計測値(mm)				重量(g)	名目	形状	使用用途	加工	備考				
						最大径	最小径	高さ	厚さ										
Ⅲ-141	1	Ⅲ-11	1	Ⅲ上	1	1	1	1	1	4.4	4.4	14.0	14.0	0.400	灰褐色	成形	打5文並み	打5文	
	2	Ⅲ-11	1	Ⅲ上	1	1	1	1	1	4.4	4.4	14.0	14.0	0.400	灰褐色	成形	打5文並み	打5文	
	3	Ⅲ-11	1	Ⅲ上	1	1	1	1	1	4.4	4.4	14.0	14.0	0.400	灰褐色	成形	打5文並み	打5文	
	4	Ⅲ-11	1	Ⅲ上	1	1	1	1	1	4.4	4.4	14.0	14.0	0.400	灰褐色	成形	打5文並み	打5文	
	5	Ⅲ-11	1	Ⅲ上	1	1	1	1	1	4.4	4.4	14.0	14.0	0.400	灰褐色	成形	打5文並み	打5文	
Ⅲ-142	1	Ⅲ-14	330	Ⅲ中	1	1	1	1	1	0.6	5.5	1.6	14.3	0.600	灰褐色	成形	破片	打5文並み?	打5文
	2	Ⅲ-14	330	Ⅲ中	1	1	1	1	1	0.6	5.5	1.6	14.3	0.600	灰褐色	成形	破片	打5文並み?	打5文

表25 フレイク・チップ集中接合表

遺構番号	出土層	遺物	種別	形状	数量	計測値(mm)				重量(g)	名目	形状	使用用途	加工	備考																																																																																																																	
						最大径	最小径	高さ	厚さ																																																																																																																							
1	Ⅲ-12	FC-1	+	V5b	19	13.7×8.0×3.0	0.30	0.30	0.30	0.30	0.30	0.30	0.30	0.30	0.30	0.30																																																																																																																
																	2	Ⅲ-12	FC-1	+	V5b	35	8.7×8.8×2.2	0.20	0.20	0.20	0.20	0.20	0.20	0.20	0.20	0.20																																																																																																
																																	3	Ⅲ-12	FC-1	+	V5b	9	12.1×7.9×1.5	0.30	0.30	0.30	0.30	0.30	0.30	0.30	0.30	0.30																																																																																
																																																	4	Ⅲ-12	FC-1	+	V5b	47	13.8×11.0×6.8	0.30	0.30	0.30	0.30	0.30	0.30	0.30	0.30	0.30																																																																
																																																																	5	Ⅲ-12	FC-1	+	V5b	11	8.7×8.1×3.5	0.30	0.30	0.30	0.30	0.30	0.30	0.30	0.30	0.30																																																
																																																																																	6	Ⅲ-12	FC-1	+	V5b	18	10.3×7.6×1.8	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10																																
																																																																																																	7	Ⅲ-12	FC-1	+	V5b	9	9.8×7.1×2.1	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10																
																																																																																																																	8	Ⅲ-12	FC-1	+	V5b	20	8.7×8.7×4.8	0.30	0.30	0.30	0.30	0.30	0.30	0.30	0.30	0.30

遺構番号	出土層	遺物	種別	形状	数量	計測値(mm)				重量(g)	名目	形状	使用用途	加工	備考																																																																																																																	
						最大径	最小径	高さ	厚さ																																																																																																																							
9	Ⅲ-12	FC-1	+	V5b	4	2.7×2.2×1.0	0.15	0.15	0.15	0.15	0.15	0.15	0.15	0.15	0.15																																																																																																																	
																10	Ⅲ-12	FC-1	+	V5b	10	7.1×4.1×2.6	0.19	0.19	0.19	0.19	0.19	0.19	0.19	0.19																																																																																																		
																															11	Ⅲ-12	FC-1	+	V5b	6	4.4×2.8×1.5	0.16	0.16	0.16	0.16	0.16	0.16	0.16																																																																																				
																																													12	Ⅲ-12	FC-1	+	V5b	7	5.0×3.2×1.5	0.18	0.18	0.18	0.18	0.18	0.18	0.18																																																																						
																																																											13	Ⅲ-12	FC-1	+	V5b	2	4.1×2.8×1.1	0.08	0.08	0.08	0.08	0.08	0.08	0.08																																																								
																																																																									14	Ⅲ-12	FC-1	+	V5b	4	4.6×3.6×1.9	0.15	0.15	0.15	0.15	0.15	0.15	0.15																																										
																																																																																							15	Ⅲ-12	FC-1	+	V5b	7	6.0×4.2×1.4	0.23	0.23	0.23	0.23	0.23	0.23	0.23																												
																																																																																																					16	Ⅲ-12	FC-1	+	V5b	3	4.4×3.2×1.0	0.13	0.13	0.13	0.13	0.13	0.13	0.13														
																																																																																																																			17	Ⅲ-12	FC-1	+	V5b	2	5.8×3.9×1.0	0.15	0.15	0.15	0.15	0.15	0.15	0.15
19	Ⅲ-12	FC-1	+	V5b	2	5.2×3.8×0.6	0.18	0.18	0.18	0.18	0.18	0.18	0.18																																																																																																																			
														20	Ⅲ-12	FC-1	+	V5b	10	10.7	10.7	10.7	10.7	10.7	10.7	10.7	10.7																																																																																																					

表26 遺構出土自然硯觀察表

遺構の位置	区画	遺構番号	遺構名称	計測値(m)			重量(kg)	石材		保存形態	風化の程度	層位区分	b/a	c/b	形状	内部変	備考(使用の痕跡)														
				長さ : a	幅 : b	厚さ : c		名称	種類・産地																						
Ⅷ-27	22-1-3	H-17	115	煉瓦破片上	53	20	13	10.0	灰土質	片	未風化	大層	0.85	0.56	円筒状	溝内	伊豆石	伊豆石・赤色土 黒色土													
			116	煉瓦破片上	41	13	5.0	3.72	灰土質	片	未風化	中層	0.29	0.42	小円筒	溝内	伊豆石	伊豆石													
			117	煉瓦破片上	15	10.5	9.5	1.58	灰土質	完全	未風化	大層	0.70	0.90	楕圓	溝内	伊豆石	伊豆石													
			118	煉瓦破片上	25	9.8	8.0	2.02	灰土質	完全	未風化	大層	0.39	0.82	楕圓	溝内	伊豆石	伊豆石・黒色土													
			119	煉瓦破片上	13	10	9.0	1.48	灰土質	完全	未風化	大層	0.77	0.90	楕圓	溝内	伊豆石	伊豆石・赤色土 黒色土													
			120	煉瓦破片上	31	22	8.0	8.16	灰土質	完全	未風化	中層	0.71	0.50	円筒状	溝内	伊豆石	伊豆石・黒色土													
			12	煉瓦破片上	24	12	7.0	2.76	灰土質	完全	未風化	大層	0.50	0.58	小円筒	溝内	伊豆石	伊豆石・褐色骨粉													
			11	煉瓦破片上	15	12	4.0	0.60	灰土質	片	未風化	大層	0.80	0.30	円筒状	溝内	伊豆石	伊豆石・赤色土													
			12	煉瓦破片上	31	15	7.0	2.67	灰土質	片	未風化	大層	0.71	0.47	円筒状	溝内	伊豆石	伊豆石・赤色土 黒色土													
			11	煉瓦破片上	30	12	9.0	2.04	灰土質	片	未風化	大層	0.46	0.75	楕圓	溝内	伊豆石	伊豆石													
			14	煉瓦破片上	25	20	10	4.90	灰土質	片	未風化	大層	0.87	0.50	円筒状	溝内	伊豆石	伊豆石													
			15	煉瓦破片上	9.0	8.5	0	0.60	灰土質	完全	未風化	大層	0.59	0.71	楕圓	溝内	伊豆石	伊豆石													
16	煉瓦破片上	13	10	4.5	0.64	灰土質	片	未風化	大層	0.77	0.45	円筒状	溝内	伊豆石	伊豆石																
Ⅷ-28	23-1-2	H-18	1	葺土第1層	53	21	12.5	16.5	灰土質	片	未風化	中層	0.64	0.60	小円筒	溝内	伊豆石	伊豆石・赤色土													
			2	葺土第1層	27	19	10.5	11.5	灰土質	片	未風化	中層	0.70	0.55	円筒状	溝内	伊豆石	伊豆石・赤色土													
			3	葺土第1層	36.5	21.5	9.0	12.0	灰土質	完全	未風化	中層	0.59	0.42	小円筒	溝内	伊豆石	伊豆石													
			4	葺土第1層	26.5	24	7.0	7.52	灰土質	片	未風化	中層	0.91	0.29	円筒状	溝内	伊豆石	伊豆石													
			5	葺土第1層	29	21	11	13.0	灰土質	片	未風化	中層	0.72	0.52	円筒状	溝内	伊豆石	伊豆石													
			6	葺土第1層	21	11	13.5	3.4	灰土質	片	未風化	大層	0.67	0.86	楕圓	溝内	伊豆石	伊豆石													
			7	葺土第1層	34	25	12	18.0	灰土質	完全	未風化	中層	0.74	0.48	円筒状	溝内	伊豆石	伊豆石													
			8	葺土第1層	31	24	16	17.0	灰土質	片	未風化	中層	0.77	0.67	楕圓	溝内	伊豆石	伊豆石													
			9	葺土第1層	17	12	6.5	1.48	灰土質	片	未風化	大層	0.71	0.54	円筒状	溝内	伊豆石	伊豆石													
Ⅷ-29	30-5-4	S-1	2・4	V a層	最大	5.0	2.5	1.5	合計	灰土質・砂質	完全	未風化	中層	0.83	0.60	円筒状	溝内	伊豆石													
					平均的軸長	1.0	0.038																								
					最小軸長	0.5																									
			2・4	V a層	最大	4.5	2.0	0.5	合計	凝灰質・泥質	完全	未風化	中層	0.44	0.25	小円筒	溝内	伊豆石													
					平均的軸長	1.0	0.054																								
					最小軸長	0.5																									
1	*	*	*	*	24	11	6.9	3.90	灰土質	完全	未風化	大層	0.71	0.52	円筒状	溝内	伊豆石														
																		2	*	20	11	9.12	灰土質	完全	未風化	中層	0.54	0.55	小円筒	溝内	伊豆石
5	*	27	17	3.0	灰土質	完全	未風化	中層	0.63	0.18	小円筒	溝内	伊豆石																		
														6-1	*	34	16	8.0	灰土質	完全	未風化	中層	0.47	0.50	小円筒	溝内	伊豆石				
																												6-2	*	20	6.2
7	*	20	6.2	5.5	0.80	灰土質	片	未風化	中層	0.33	0.85	楕圓	溝内																		
														8	*	40	29	7.5	12.0	灰土質	完全	未風化	中層	0.73	0.30	円筒状	溝内				
																												1	*	18.5	13
2	*	17	9.5	4.0	1.16	凝灰質	片	未風化	大層	0.56	0.42	小円筒	溝内																		
														3	*	24.5	16	4.5	1.72	灰土質	完全	未風化	大層	0.65	0.38	小円筒	溝内				
																												7	*	30	14
8	*	26	14	5.3	2.56	角閃石を主成分とする	片	未風化	中層	0.34	0.16	小円筒	溝内																		
														9	*	22	16	6.5	3.06	灰土質	片	未風化	中層	0.73	0.41	円筒状	溝内				
																												1	V層	8.0	6.0
2	V層	6.0	3.5	1.5	0.056	灰土質	完全	未風化	中層	0.58	0.43	小円筒	溝内																		
														3	V層	10.9	7.7	3.9	0.378	灰土質	完全	未風化	大層	0.71	0.51	円筒状	溝内				
																												4	V層	5.7	4.3
5	V層	7.1	5.2	4.0	0.270	灰土質	完全	未風化	大層	0.73	0.77	楕圓	溝内																		
														6	V層	6.4	5.0	3.2	0.102	火山凝灰質	完全	未風化	大層	0.78	0.61	円筒状	溝内				
																												7	V層	9.5	6.1
8	V層	8.0	5.5	3.6	0.302	灰土質	完全	未風化	大層	0.65	0.65	小円筒	溝内																		
														9-1	V層	8.2	4.7	3.2	0.204	灰土質	片	未風化	大層	0.57	0.66	楕圓	溝内				
																												9-2	V層	3.6	2.0
10	V層	5.2	4.7	2.9	0.082	灰土質	完全	未風化	中層	0.90	0.62	楕圓	溝内																		
														11	V層	5.3	5.2	3.5	0.146	灰土質	完全	未風化	中層	0.98	0.69	円筒状	溝内				
																												12	V層	8.0	5.0
13	V層	7.4	6.1	3.2	0.172	灰土質	完全	未風化	大層	0.82	0.36	円筒状	溝内																		
														14	V層	5.8	5.1	3.0	0.158	灰土質	完全	未風化	中層	0.88	0.59	円筒状	溝内				
																												15	V層	7.6	7.3
16	V層	6.1	4.9	3.9	0.204	灰土質	完全	未風化	中層	0.80	0.80	楕圓	溝内																		
														17	V層	6.0	6.4	4.3	0.300	凝灰質	完全	未風化	大層	0.93	0.67	円筒状	溝内				
																												18	V層	4.8	6.4
19	V層	6.9	5.2	2.4	0.110	灰土質	完全	未風化	大層	0.75	0.46	円筒状	溝内																		
														20	V層	7.6	5.1	2.9	0.196	灰土質	完全	未風化	大層	0.89	0.57	円筒状	溝内				
																												21	V層	7.8	5.0
22	V層	8.2	5.9	2.3	0.124	灰土質	完全	未風化	中層	0.71	0.66	円筒状	溝内																		
														23	V層	5.1	5.0	4.0	0.158	灰土質	完全	未風化	中層	0.98	0.80	楕圓	溝内				
																												24	V層	6.8	5.2
25	V層	8.0	5.2	3.6	0.206	灰土質	完全	未風化	大層	0.58	0.69	楕圓	溝内																		
														26	V層	6.9	4.8	4.2	0.244	角閃石を主成分とする	完全	未風化	中層	0.70	0.86	楕圓	溝内				
																												27	V層	5.8	3.7
28	V層	7.2	5.8	2.3	0.124	灰土質	完全	未風化	大層	0.81	0.40	円筒状	溝内																		
														29	V層	7.1	5.5	4.5	0.398	灰土質	完全	未風化	中層	0.77	0.82	楕圓	溝内				
																												30	V層		

表27 S-2 出土自然礫観察表

遺構の名称	北東角	遺構番号	層位	計測値(m)			重量 (kg)	石材 名称 形状・種類	風化の程度	観察点	b/a	c/b	形状	内磨痕	備考(使用の痕跡)			
				長さ a	幅 b	厚さ c												
区	第-17	S-2 1	V1-V2層	22	18	16	10.2	安山岩	板状	片	未風化	円筒	0.82	0.89	楕円	内磨	後遺	
		S-2 2	V1-V2層	15	8.5	1.0	0.39	安山岩	片	未風化	大層	0.86	0.12	小四角	片内	内磨・縁破片56個		
		S-2 3	V1-V2層	72	62	13	80.4	安山岩	片	未風化	大層	0.86	0.21	円筒状	片内	後遺		
		S-2 4	V1-V2層	17	13	3.5	1.8	安山岩	片	未風化	大層	0.76	0.42	円筒状	片内	後遺		
		S-2 5	V1-V2層	69	30	5.5	16.9	安山岩	片	未風化	大層	0.51	0.18	小四角	片内	後遺・3点接合		
		S-2 6	V1-V2層	30	12	3	1.2	安山岩	片	未風化	大層	0.60	0.42	小四角	片内	後遺		
		S-2 7-1	V1-V2層	52	38	18	45.2	安山岩	片	未風化	大層	0.73	0.47	円筒状	片内	後遺		
		S-2 7-2	V1-V2層	11	11	3.5	0.4	安山岩	片	未風化	大層	1.00	0.23	円筒状	片内	後遺		
		S-2 8	V1-V2層	40	35	4	12.6	安山岩	片	未風化	大層	0.88	0.11	円筒状	片内	後遺		
		S-2 9	V1-V2層	36	23	16	17.2	安山岩	片	未風化	大層	0.88	0.70	楕円	片内	後遺		
		S-2 10	V1-V2層	41	33	33	33.6	安山岩	片	未風化	大層	0.80	0.70	楕円	片内	後遺		
		S-2 11	V1-V2層	6.0	5.0	2.5	0.16	肉肉石(安山岩)	片	未風化	大層	0.56	0.50	小四角	片内	後遺		
S-2 12	V1-V2層	48	33	21	49.6	安山岩	片	未風化	大層	0.69	0.64	円筒状	片内	後遺				
S-2 13	V1-V2層	33	21.5	20	23.6	安山岩	片	未風化	大層	0.65	0.30	楕円	片内	後遺				
S-2 14	V1-V2層	17	15	1.5	0.6	安山岩	片	未風化	大層	0.88	0.10	円筒状	片内	後遺				
S-2 15	V1-V2層	7	5.5	1	0.1	安山岩	片	未風化	大層	0.79	0.18	円筒状	片内	後遺				
S-2 16	V1-V2層	32	25	14	23.0	安山岩	片	未風化	大層	0.78	0.56	円筒状	片内	後遺				
S-2 17	V1-V2層	32	20	15	26.8	安山岩	片	未風化	大層	0.80	0.75	楕円	片内	後遺				
S-2 18	V1-V2層	10.5	9.5	2.5	0.2	安山岩	片	未風化	大層	0.90	0.38	円筒状	片内	後遺・3点接合				
S-2 19	V1-V2層	14	13	3.0	0.24	安山岩	片	未風化	大層	0.50	0.23	円筒状	片内	加工痕?				
S-2 20	V1-V2層	68	30	30	74.3	安山岩	片	未風化	大層	0.44	0.67	楕円	片内	後遺				
S-2 21	V1-V2層	38	24	21	24.4	安山岩	片	未風化	大層	0.63	0.68	楕円	片内	後遺				
S-2 22	V1-V2層	23	18	4.5	2.2	安山岩	片	未風化	大層	0.78	0.25	円筒状	片内	後遺・縁破片8点				
S-2 23	V1-V2層	37	23	16	25.0	安山岩	片	未風化	大層	0.62	0.70	楕円	片内	後遺				
S-2 24-1	V1-V2層	19	6	2.5	0.2	安山岩	片	未風化	大層	0.32	0.43	小四角	片内	後遺				
S-2 24-2	V1-V2層	49	30	28	58.0	安山岩	片	未風化	大層	0.61	0.30	楕円	片内	後遺				
S-2 25	V1-V2層	47	27	11.5	28.2	安山岩	片	未風化	大層	0.57	0.43	小四角	片内	後遺				
S-2 26	V1-V2層	27	20	8	6.6	安山岩(薄板状)	片	未風化	大層	0.74	0.40	円筒状	片内	後遺				
S-2 28	V1-V2層	43	31.5	28	46.0	安山岩+石英砂岩	片	未風化	大層	0.73	0.69	楕円	片内	後遺				
S-2 27	V1-V2層	34	33	23	33.8	安山岩+石英砂岩	片	未風化	大層	0.97	0.70	楕円	片内	縁破				
S-2 28	V1-V2層	37	40	14	43.4	肉肉石(安山岩)	片	未風化	大層	0.70	0.35	円筒状	片内	後遺				
S-2 29	V1-V2層	44	26	25	30.2	安山岩	片	未風化	大層	0.68	0.36	楕円	片内	後遺				
S-2 30	V1-V2層	46	32	16	42.4	安山岩	片	未風化	大層	0.70	0.50	円筒状	片内	縁破片7点				
S-2 31	V1-V2層	42	46	9.5	16.6	安山岩	片	未風化	大層	0.74	0.12	円筒状	片内	後遺				
S-2 32-1	V1-V2層	46	23.5	4	6.2	安山岩	片	未風化	大層	0.51	0.17	小四角	片内	後遺・縁破片4点				
S-2 32	V1-V2層	23	16	4.5	2.8	安山岩	片	未風化	大層	0.70	0.38	円筒状	片内	後遺				
S-2 33	V1-V2層	42	33	8	14.2	安山岩	片	未風化	大層	0.79	0.24	円筒状	片内	後遺・縁破片1点				
S-2 34	V1-V2層	33	27	5	6.4	安山岩	片	未風化	大層	0.84	0.19	円筒状	片内	後遺				
S-2 35	V1-V2層	50	71	18	80.6	安山岩	片	未風化	大層	0.80	0.24	円筒状	片内	後遺				
区	第-139	19	99-1	S-2 36	V1-V2層	37.9	30.8	11.6	18.0	安山岩	片	未風化	大層	0.81	0.38	円筒状	片内	行石
区	第-140	19	99-2	S-2 37	V1-V2層	21	14	8	3.3	安山岩	片	未風化	大層	0.67	0.57	円筒状	片内	後遺・縁破片3点
				S-2 38-1	V1-V2層	19	11	3	1.4	安山岩	片	未風化	大層	0.58	0.27	小四角	片内	後遺
				S-2 38-2	V1-V2層					未詳層	礫	片	非風化	*	*	*	片内	後遺・縁破片1点(断面の小破片)
				S-2 38-1	V1-V2層	42	33	24	48.8	安山岩	片	未風化	大層	0.79	0.73	楕円	片内	後遺
				S-2 38-1	V1-V2層					未詳層	片	未風化	*	*	*	片内	後遺・5点	
				S-2 39	V1-V2層	14.5	8	8	1.6	円筒状	片	未風化	大層	0.55	1.00	楕円	片内	後遺
				S-2 40	V1-V2層	9.5	8.5	3.5	1.4	安山岩	片	未風化	大層	0.89	0.41	円筒状	片内	後遺
				S-2 41	V1-V2層	21	15	8	3.0	安山岩	片	未風化	大層	0.71	0.53	円筒状	片内	後遺
				S-2 42	V1-V2層	68	30	12	65.0	安山岩	片	未風化	大層	0.44	0.40	小四角	片内	後遺
				S-2 43	V1-V2層	23	19	5	2.2	安山岩	片	未風化	大層	0.83	0.26	円筒状	片内	後遺
				S-2 44	V1-V2層	30	23	17	29.0	安山岩	片	未風化	大層	0.77	0.74	楕円	片内	後遺
				S-2 45	V1-V2層					未詳層	片	未風化	*	*	*	片内	後遺・4点	
区	第-141	19	99-2	S-2 46	V1-V2層	34	28	30	33.4	安山岩	片	未風化	大層	0.82	0.71	楕円	片内	後遺
区	第-142	19	99-2	S-2 47	V1-V2層	35.7	18.1	7.7	8.0	安山岩	片	未風化	大層	0.51	0.43	小四角	片内	行石
				S-2 48	V1-V2層	35	29	7	13.3	安山岩	片	未風化	大層	0.83	0.24	円筒状	片内	後遺
				S-2 49	V1-V2層	18	12	6	1.6	安山岩	片	未風化	大層	0.67	0.50	円筒状	片内	後遺
				S-2 50	V1-V2層	20	21	12	13.0	安山岩	片	未風化	大層	0.72	0.57	円筒状	片内	後遺
				S-2 51	V1-V2層	80	32	25	79.6	安山岩	片	未風化	大層	0.40	0.78	楕円	片内	後遺
				S-2 52	V1-V2層	19	16	4.5	1.0	安山岩	片	未風化	大層	0.84	0.28	円筒状	片内	後遺・2点接合
				S-2 53	V1-V2層	34	22	19	13.2	安山岩	片	未風化	大層	0.65	0.86	楕円	片内	後遺
				S-2 54-1	V1-V2層	41	27	11	25.2	安山岩	片	未風化	大層	0.66	0.41	小四角	片内	後遺
				S-2 54-2	V1-V2層					未詳層	砂	片	未風化	*	*	*	片内	後遺・4点
				S-2 55	V1-V2層	14.5	8	8.5	1.4	安山岩	片	未風化	大層	0.62	0.94	楕円	片内	後遺
				S-2 57	V1-V2層	11	42	14	24.8	安山岩	片	未風化	大層	0.82	0.33	円筒状	片内	後遺
				S-2 58-1	V1-V2層	10	7.5	6	0.6	湖底岩	片	未風化	大層	0.75	0.80	楕円	片内	後遺
S-2 58-2	V1-V2層	22	11	5	1.4	安山岩	片	未風化	大層	0.50	0.45	小四角	片内	後遺				
S-2 59	V1-V2層	20	14	5	2.8	肉肉石(安山岩)	片	未風化	大層	0.70	0.36	円筒状	片内	後遺・8点				
S-2 60	V1-V2層	9	8.5	8	0.8	安山岩	片	未風化	大層	0.94	0.94	楕円	片内	後遺				
S-2 61	V1-V2層	29	11	9.0	5.22	安山岩	片	未風化	大層	0.38	0.82	楕円	片内	後遺				
S-2 62	V1-V2層	14	12	5.5	1.36	安山岩+石英砂岩	片	未風化	大層	0.86	0.46	円筒状	片内	縁破片?				
S-2 63	V1-V2層	6.5	6.0	3.0	0.31	砂岩	片	未風化	大層	0.92	0.50	円筒状	片内	自然崩れによる孔?				
S-2 64	V1-V2層	29	20	18	10.4	安山岩	片	未風化	大層	0.69	0.30	楕円	片内	後遺				
S-2 65	V1-V2層	50	18	16	18.8	安山岩	片	未風化	大層	0.34	0.89	楕円	片内	後遺				
S-2 66	V1-V2層	49	45	15	31.2	湖底岩	片	未風化	大層	0.92	0.33	円筒状	片内	後遺				

表28 土器類点数表

土器総点数 65,482点

包含層単位	Ⅱ群b類	Ⅲ群	Ⅲ群a類	Ⅲ群a類(Ⅲ群b-1類別)	Ⅲ群b類	Ⅲ群b-1類	Ⅲ群b-2類	Ⅲ群b類~Ⅳ群a類	Ⅳ群a類	Ⅳ群b類	Ⅴ群	Ⅵ群	順位別合計
Ⅲ群	20		332		8	43		1,307			302		2,032
V群	73		1,037		303	349	2	4,485	1	66			6,665
2003V a類	177		1,656	1	387	481		2,957	17	1,067			6,330
2004V a類	2		4		10	14	9	2,699		330	165		3,236
V 1類	11		31	1	22	52		5,745		40			5,800
V 2類	35		136	4	67	93		5,192		11	3		5,361
V 3類	41		165	2	81	515		4,134		2			4,942
V 4類	179		68		66	23		921		1			1,319
V 5類	42		30		29	7		148					256
V 6類	1		3		5	2		45					56
V 7類						8							8
V 7類	307	34	8,002	1	807	549	33	2	8,361		468		18,194
V c類			180		2	18			7				207
V b類下段(V d類)			219		1				7				221
層の上段土			1						359				360
Ⅳ群	37		514		16	308	2	190	1	5			1,073
Ⅴ群			34		2	1		8					45
Ⅵ群			1										1
磁器木	20		304		16	21		129		3			485
磁器木(V)								2					2
漆土			3		5			10		1			19
灰陶器								2		2			4
灰土	17		35		7	1		122					202
石片	1		23					130					144
木炭埋戻	3		22								1		26
表層			1		1								2
分類別合計	1,610	34	13,190	9	1,734	2,092	46	2	36,945	19	2,302	168	58,134

年代遺構出土遺物集計表	Ⅱ群b類	Ⅲ群	Ⅲ群a類	Ⅲ群a類(Ⅲ群b-1類別)	Ⅲ群b類	Ⅲ群b-1類	Ⅲ群b-2類	Ⅲ群b類~Ⅳ群a類	Ⅳ群a類	Ⅳ群b類	Ⅴ群	Ⅵ群	順位別合計
2003遺構	21	2	906	1	722	670	9	1,095			219		3,615
2004遺構	7		44		44	622		2,884			4		3,686
遺構合計	28	2	1,050	6	766	1,292	9	3,979			223		7,301

### 遺構種類別出土土器類点数表

\*Ⅲ群は本文中では遺構の遺物として記載した。

\*上記の表は土器類品出前のデータから作成して土器類点数を含む

遺構種類	Ⅱ群b類	Ⅲ群	Ⅲ群a類	Ⅲ群a類(Ⅲ群b-1類別)	Ⅲ群b類	Ⅲ群b-1類	Ⅲ群b-2類	Ⅳ群a類	Ⅴ群	土製品	再生土製品	順位別合計	
砂丘	13		634		5	114	724	5	2,605	4	1	2	4,107
土灰	15	2	378	1	233	567	4	1,244	30				2,474
黄土			6		419			62	188		1		676
柱穴体の土上灰			2					1					3
溝渠中・配石遺構								65					65
FC-1			4					3					6
合計	28	2	1,024	6	766	1,294	9	3,979	222	1	3		7,301

\*土製品の抽出後の集計表

### 包含層出土再生土製品点数表

包含層単位	Ⅲ群a類	Ⅲ群a類(Ⅲ群b-1類別)	Ⅲ群b類	Ⅲ群b-1類	Ⅲ群b-2類	Ⅲ群b類~Ⅳ群a類	Ⅳ群a類	順位別合計
V群				1				1
2003V a類	1							1
2004V a類								
V 1類							1	1
V 2類	3	1					1	5
V 3類	1							1
V 4類								
V 5類								
V 6類								
V 7類								
V b類	1	2	1	5	1	1		11
分類別合計	6	3	1	6	1	1	2	20

\*包含層出土土器から再生土製品として抽出したもの

### 包含層出土土製品・特殊器形の土器点数表

包含層単位	Ⅲ群a類	Ⅳ群a類	Ⅴ群	順位別合計
V群		2		2
2003V a類	3	11		14
2004V a類	2			2
V 1類	1			1
V 2類	1			1
V 3類	4	11		15
V b類				
分類別合計	4	20	11	35

\*包含層出土土器から土製品・特殊器形の土器として抽出したもの



表30-1 a 包含層出土土器類觀察表 (II群 b類復元土器)

図号	編年番号	図面番号	土器分類	器体		蓋		器高	取手	取手	出土の土層					
				器体番号	器体形状	蓋番号	蓋形状				工層	面高	深高	最大径		
図30-1	3	001-1	BⅡ 片断下層4式	1	丸底平口直壁	1	丸蓋	47	丸	取手なし	取手なし	001	BⅡ	0.00	0.00	0.00
				2	丸底平口直壁	2	丸蓋									
				3	丸底平口直壁	3	丸蓋									
				4	丸底平口直壁	4	丸蓋									
				5	丸底平口直壁	5	丸蓋									

表30-1 b 包含層出土土器類観察表 (II群 b類拓影図化破片)

図号	編年番号	図面番号	土器分類	器体		蓋		器高	取手	取手	出土の土層					
				器体番号	器体形状	蓋番号	蓋形状				工層	面高	深高	最大径		
図30-1	3	107	BⅡ 片断下層3-1式	1	丸底平口直壁	1	丸蓋	17	丸	取手なし	取手なし	001	BⅡ	0.00	0.00	0.00
				2	丸底平口直壁	2	丸蓋									
				3	丸底平口直壁	3	丸蓋									
				4	丸底平口直壁	4	丸蓋									
				5	丸底平口直壁	5	丸蓋									

表30-2a 包舍層出土土器類観察表 (Ⅲ群 a類復元土器)

図号	図面番号	図面種類	土器分類	復元土器番号			備			図面数	図文字	出土の土器名	寸法 (単位:cm)			
				復元土器番号	遺物番号	点数	復元土器番号	遺物番号	点数				口径	高さ	底径	底厚
図30-6	1	図3-1	■a・円筒土器b式	図30Vb1-100	a1	31	図30Vb1-1	d10	1	131	図30Vb1-1	図30Vb1-1	33.5	13.0	13.2	—
				図30Vb1-1	a16	図30Vb1-2	d10									
				図30Vb1-1	b3	図30Vb1-3	d10									
図30-6	2	図30-2	■a・円筒土器c式	図30Vb1-10	c3 + a3 + b10	22	図30Vb1-1	e5	2	20	図30Vb1-1	図30Vb1-1	33.5	13.0	13.2	—
				図30Vb1-6	b1	図30Vb1-1	e5									
図30-6	3	図30-1	■a・円筒土器c式	図30Vb1-10	c30 + a27	60	図30Vb1-1	b5	1	60	図30Vb1-1	図30Vb1-1	33.5	13.0	13.2	—
図30-6	4	図30-1	■a・円筒土器c式	図30Vb1-10	b4 + d3 + d8	68	図30Vb1-1	b5	11	70	図30Vb1-1	図30Vb1-1	33.5	13.0	13.2	—
図30Vb1-9	b1	図30Vb1-1	e5													
図30-6	5	図30-1	■a・円筒土器c式	図30Vb1-1	a8	10	図30Vb1-1	a5	10	10	図30Vb1-1	図30Vb1-1	33.5	13.0	13.2	—
図30-6	6	図30-1	■a・円筒土器c式	図30Vb1-1	a8	7	図30Vb1-1	a5	7	7	図30Vb1-1	図30Vb1-1	33.5	13.0	13.2	—
図30-7	7	図30-4	■a・ヤイ-円筒式	図30Vb1-10	a1 + a2 + d3	40	図30Vb1-10	d3	10	10	図30Vb1-10	図30Vb1-10	33.5	13.0	13.2	—
				図30Vb1-1	a7	図30Vb1-10	d3									
図30-7	8	図30-1	■a・ヤイ-円筒式 ヤイ筒状復元土器の 構成土器	図30Vb1-1	a7	65	図30Vb1-1	a7	10	65	図30Vb1-1	図30Vb1-1	33.5	13.0	13.2	—
				図30Vb1-1	a7	図30Vb1-1	a7									
				図30Vb1-1	a7	図30Vb1-1	a7									
				図30Vb1-1	a7	図30Vb1-1	a7									
				図30Vb1-1	a7	図30Vb1-1	a7									
				図30Vb1-1	a7	図30Vb1-1	a7									
図30-7	9	図30-2	■a・ヤイ-円筒式	図30Vb1-1	d10	10	図30Vb1-10	d3	76	100	図30Vb1-10	図30Vb1-10	33.5	13.0	13.2	—
				図30Vb1-10	c1 + d1 + d1 + d10											
				図30Vb1-1	b3											
				図30Vb1-1	d1											
図30-8	10	図30-2	■a・ヤイ-円筒式	図30Vb1-1	a1	31	図30Vb1-1	1	3	36	図30Vb1-1	図30Vb1-1	33.5	13.0	13.2	19.0 大型復元
				図30Vb1-10	c1											
				図30Vb1-10	c1 + d3											
				図30Vb1-1	a1											
				図30Vb1-10	c1 + d3											
				図30Vb1-1	a1											
図30-8	11	図30-4	■a・ヤイ-円筒式	図30Vb1-10	b1 + b17 + b10	19	図30Vb1-1	e1	1	20	図30Vb1-1	図30Vb1-1	33.5	13.0	13.2	—
				図30Vb1-1	a1											
図30-8	12	図30-1	■a・ヤイ-円筒式	図30Vb1-10	a1	21	図30Vb1-1	e7	19	30	図30Vb1-1	図30Vb1-1	33.5	13.0	13.2	19.0
				図30Vb1-10	a10											
				図30Vb1-10	a10											
図30-8	13	図30-3	■a	図30Vb1-1	b1	20	図30Vb1-1	d9	7	46	図30Vb1-1	図30Vb1-1	33.5	13.0	13.2	19.0
				図30Vb1-10	c1											
				図30Vb1-10	c1 + b10											
				図30Vb1-1	a1											
				図30Vb1-10	c1 + b10											
図30-8	14	図30-1	■a・円筒土器c-1式	図30Vb1-1	a10 + a10 + a17	20	図30Vb1-1	a10	14	66	図30Vb1-1	図30Vb1-1	33.5	13.0	13.2	19.7
				図30Vb1-1	a16											
図30-9	15	図30-4	■a・ヤイ-円筒式	図30Vb1-10	(c1 + c1) + (c1 + c1)	30	図30Vb1-1	a10	3	30	図30Vb1-1	図30Vb1-1	33.5	13.0	13.2	—
				図30Vb1-10	a2 + b5											
図30-9	16	図30-1	■a	図30Vb1-10	a10 + a10	26	図30Vb1-1	a10	36	36	図30Vb1-1	図30Vb1-1	33.5	13.0	13.2	—
				図30Vb1-10	a7 + a17											
図30-9	17	図30-2	■a・ヤイ-円筒式	図30Vb1-10	a8 + a10	40	図30Vb1-1	a8	40	40	図30Vb1-1	図30Vb1-1	33.5	13.0	13.2	19.0 復元
				図30Vb1-1	a4											
図30-9	18	図30-3	■a	図30Vb1-1	a1	41	図30Vb1-1	a1	41	41	図30Vb1-1	図30Vb1-1	33.5	13.0	13.2	—
				図30Vb1-10	b1											
図30-9	19	図30-4	■a 復元式	図30Vb1-10	b1	19	図30Vb1-1	e1	6	36	図30Vb1-1	図30Vb1-1	33.5	13.0	13.2	19.7 大型復元
				図30Vb1-1	b1											
図30-9	20	図30-1	■a 復元式	図30Vb1-1	a10 + b5	24	図30Vb1-1	e1	1	24	図30Vb1-1	図30Vb1-1	33.5	13.0	13.2	—
				図30Vb1-10	b3 + b5											
図30-9	21	図30-3	■a 復元式	図30Vb1-1	d10	25	図30Vb1-1	d10	25	25	図30Vb1-1	図30Vb1-1	33.5	13.0	13.2	—
				図30Vb1-10	a1											
図30-9	22	図30-3	■a 復元式	図30Vb1-1	b1	27	図30Vb1-1	1	11	40	図30Vb1-1	図30Vb1-1	33.5	13.0	13.2	—
				図30Vb1-10	a1											









表30-4a 包含層出土土器類觀察表 (Ⅲ群 b類復元土器)

調査号	編年番号	探検番号	土器分類	復元品		数量	形状・寸法	出土層	出土層の文化層	出土層の位置			
				復元品番号	復元品寸法					直径	高さ	底径	
調査-19	1	調査-1	甕	復元品番号: G01Vh11	寸法: 1.3 × 3	17	G01Vh11 1	1	30	1.5 × 3.5 (口) / 1.5 × 3.0 (底)	調査: 調査1	調査1	調査1
調査-19	2	調査-2	甕	復元品番号: H01Vh11	寸法: 1.3 × 3	36	H01Vh11 1	16	30	1.5 × 3.5 (口) / 1.5 × 3.0 (底)	調査: 調査2	調査2	調査2
				復元品番号: H01Vh12	寸法: 1.3 × 3		H01Vh12 1						
				復元品番号: H01Vh13	寸法: 1.3 × 3		H01Vh13 1						
				復元品番号: H01Vh14	寸法: 1.3 × 3		H01Vh14 1						
				復元品番号: H01Vh15	寸法: 1.3 × 3		H01Vh15 1						
調査-19	3	調査-3	甕	復元品番号: I01Vh11	寸法: 1.3 × 3	21	I01Vh11 1	3	30	1.5 × 3.5 (口) / 1.5 × 3.0 (底)	調査: 調査3	調査3	調査3
				復元品番号: I01Vh12	寸法: 1.3 × 3		I01Vh12 1						
				復元品番号: I01Vh13	寸法: 1.3 × 3		I01Vh13 1						
調査-19	4	調査-4	甕	復元品番号: J01Vh11	寸法: 1.3 × 3	18	J01Vh11 1	6	30	1.5 × 3.5 (口) / 1.5 × 3.0 (底)	調査: 調査4	調査4	調査4
				復元品番号: J01Vh12	寸法: 1.3 × 3		J01Vh12 1						
				復元品番号: J01Vh13	寸法: 1.3 × 3		J01Vh13 1						
調査-19	5	調査-5	甕	復元品番号: K01Vh11	寸法: 1.3 × 3	19	K01Vh11 1	3	30	1.5 × 3.5 (口) / 1.5 × 3.0 (底)	調査: 調査5	調査5	調査5
				復元品番号: K01Vh12	寸法: 1.3 × 3		K01Vh12 1						
				復元品番号: K01Vh13	寸法: 1.3 × 3		K01Vh13 1						
調査-19	6	調査-6	甕	復元品番号: L01Vh11	寸法: 1.3 × 3	9	L01Vh11 1	3	30	1.5 × 3.5 (口) / 1.5 × 3.0 (底)	調査: 調査6	調査6	調査6
				復元品番号: L01Vh12	寸法: 1.3 × 3		L01Vh12 1						
				復元品番号: L01Vh13	寸法: 1.3 × 3		L01Vh13 1						
				復元品番号: L01Vh14	寸法: 1.3 × 3		L01Vh14 1						
				復元品番号: L01Vh15	寸法: 1.3 × 3		L01Vh15 1						

表30-4b 包含層出土土器類観察表 (Ⅲ群 b類拓影図化破片)

調査号	編年番号	探検番号	土器分類	復元品		数量	形状・寸法	出土層	出土層の文化層	出土層の位置			
				復元品番号	復元品寸法					直径	高さ	底径	
調査-20	7	1-17	甕	復元品番号: M01Vh11	寸法: 2 × 3	7	M01Vh11 1	7	30	1.5 × 3.5 (口) / 1.5 × 3.0 (底)	調査: 調査7	調査7	調査7
調査-20	8	1-17	甕	復元品番号: N01Vh11	寸法: 1 × 1	7	N01Vh11 1	7	30	1.5 × 3.5 (口) / 1.5 × 3.0 (底)	調査: 調査8	調査8	調査8
調査-20	9	1-17	甕	復元品番号: O01Vh11	寸法: 1 × 1	8	O01Vh11 1	8	30	1.5 × 3.5 (口) / 1.5 × 3.0 (底)	調査: 調査9	調査9	調査9
				復元品番号: O01Vh12	寸法: 1 × 1		O01Vh12 1						
				復元品番号: O01Vh13	寸法: 1 × 1		O01Vh13 1						
				復元品番号: O01Vh14	寸法: 1 × 1		O01Vh14 1						
				復元品番号: O01Vh15	寸法: 1 × 1		O01Vh15 1						
調査-20	10	1-17	甕	復元品番号: P01Vh11	寸法: 1 × 1	7	P01Vh11 1	3	30	1.5 × 3.5 (口) / 1.5 × 3.0 (底)	調査: 調査10	調査10	調査10
				復元品番号: P01Vh12	寸法: 1 × 1		P01Vh12 1						
				復元品番号: P01Vh13	寸法: 1 × 1		P01Vh13 1						
調査-20	11	1-17	甕	復元品番号: Q01Vh11	寸法: 1 × 1	7	Q01Vh11 1	3	30	1.5 × 3.5 (口) / 1.5 × 3.0 (底)	調査: 調査11	調査11	調査11
				復元品番号: Q01Vh12	寸法: 1 × 1		Q01Vh12 1						
				復元品番号: Q01Vh13	寸法: 1 × 1		Q01Vh13 1						
調査-20	12	1-17	甕	復元品番号: R01Vh11	寸法: 1 × 1	18	R01Vh11 1	18	30	1.5 × 3.5 (口) / 1.5 × 3.0 (底)	調査: 調査12	調査12	調査12
				復元品番号: R01Vh12	寸法: 1 × 1		R01Vh12 1						
				復元品番号: R01Vh13	寸法: 1 × 1		R01Vh13 1						
				復元品番号: R01Vh14	寸法: 1 × 1		R01Vh14 1						
				復元品番号: R01Vh15	寸法: 1 × 1		R01Vh15 1						
				復元品番号: R01Vh16	寸法: 1 × 1		R01Vh16 1						
				復元品番号: R01Vh17	寸法: 1 × 1		R01Vh17 1						
				復元品番号: R01Vh18	寸法: 1 × 1		R01Vh18 1						
				復元品番号: R01Vh19	寸法: 1 × 1		R01Vh19 1						
				復元品番号: R01Vh20	寸法: 1 × 1		R01Vh20 1						
				復元品番号: R01Vh21	寸法: 1 × 1		R01Vh21 1						
				復元品番号: R01Vh22	寸法: 1 × 1		R01Vh22 1						
				復元品番号: R01Vh23	寸法: 1 × 1		R01Vh23 1						
				復元品番号: R01Vh24	寸法: 1 × 1		R01Vh24 1						
				復元品番号: R01Vh25	寸法: 1 × 1		R01Vh25 1						
調査-20	13	1-17	甕	復元品番号: S01Vh11	寸法: 1 × 1	6	S01Vh11 1	6	30	1.5 × 3.5 (口) / 1.5 × 3.0 (底)	調査: 調査13	調査13	調査13
				復元品番号: S01Vh12	寸法: 1 × 1		S01Vh12 1						
				復元品番号: S01Vh13	寸法: 1 × 1		S01Vh13 1						
				復元品番号: S01Vh14	寸法: 1 × 1		S01Vh14 1						
				復元品番号: S01Vh15	寸法: 1 × 1		S01Vh15 1						
				復元品番号: S01Vh16	寸法: 1 × 1		S01Vh16 1						
				復元品番号: S01Vh17	寸法: 1 × 1		S01Vh17 1						
				復元品番号: S01Vh18	寸法: 1 × 1		S01Vh18 1						
				復元品番号: S01Vh19	寸法: 1 × 1		S01Vh19 1						
				復元品番号: S01Vh20	寸法: 1 × 1		S01Vh20 1						
				復元品番号: S01Vh21	寸法: 1 × 1		S01Vh21 1						
				復元品番号: S01Vh22	寸法: 1 × 1		S01Vh22 1						
				復元品番号: S01Vh23	寸法: 1 × 1		S01Vh23 1						
				復元品番号: S01Vh24	寸法: 1 × 1		S01Vh24 1						
				調査-20	14		1-18						
復元品番号: T01Vh12	寸法: 2.5 × 3.5 × 3.5	T01Vh12 1											
復元品番号: T01Vh13	寸法: 2.5 × 3.5 × 3.5	T01Vh13 1											
調査-20	15	1-17	甕	復元品番号: U01Vh11	寸法: 1 × 1	8	U01Vh11 1	8	30	1.5 × 3.5 (口) / 1.5 × 3.0 (底)	調査: 調査15	調査15	調査15
				復元品番号: U01Vh12	寸法: 1 × 1		U01Vh12 1						
				復元品番号: U01Vh13	寸法: 1 × 1		U01Vh13 1						
調査-20	16	1-18	甕	復元品番号: V01Vh11	寸法: 1 × 1	10	V01Vh11 1	10	30	1.5 × 3.5 (口) / 1.5 × 3.0 (底)	調査: 調査16	調査16	調査16
				復元品番号: V01Vh12	寸法: 1 × 1		V01Vh12 1						
				復元品番号: V01Vh13	寸法: 1 × 1		V01Vh13 1						
調査-20	17	1-18	甕	復元品番号: W01Vh11	寸法: 1 × 1	16	W01Vh11 1	16	30	1.5 × 3.5 (口) / 1.5 × 3.0 (底)	調査: 調査17	調査17	調査17
				復元品番号: W01Vh12	寸法: 1 × 1		W01Vh12 1						
				復元品番号: W01Vh13	寸法: 1 × 1		W01Vh13 1						
調査-20	18	1-18	甕	復元品番号: X01Vh11	寸法: 1 × 1	9	X01Vh11 1	9	30	1.5 × 3.5 (口) / 1.5 × 3.0 (底)	調査: 調査18	調査18	調査18
				復元品番号: X01Vh12	寸法: 1 × 1		X01Vh12 1						
				復元品番号: X01Vh13	寸法: 1 × 1		X01Vh13 1						
調査-20	19	1-18	甕	復元品番号: Y01Vh11	寸法: 1 × 1	7	Y01Vh11 1	7	30	1.5 × 3.5 (口) / 1.5 × 3.0 (底)	調査: 調査19	調査19	調査19
調査-20	20	1-18	甕	復元品番号: Z01Vh11	寸法: 1 × 1	7	Z01Vh11 1	7	30	1.5 × 3.5 (口) / 1.5 × 3.0 (底)	調査: 調査20	調査20	調査20
調査-20	21	1-18	甕	復元品番号: AA01Vh11	寸法: 1 × 1	7	AA01Vh11 1	7	30	1.5 × 3.5 (口) / 1.5 × 3.0 (底)	調査: 調査21	調査21	調査21
調査-20	22	1-18	甕	復元品番号: AB01Vh11	寸法: 1 × 1	7	AB01Vh11 1	7	30	1.5 × 3.5 (口) / 1.5 × 3.0 (底)	調査: 調査22	調査22	調査22

表30-5a 包舍層出土土器類觀察表 (IV群a類復元土器)

図番号	観察番号	図録番号	土器分類	形状・文様		地		出土層	位置等	出土への侵入物	寸法 (単位mm)				
				通体形状・通体文様(1+2)	通体番号	通体形状・通体文様(3+4)	通体番号				口径	底径	高さ	最大径	
図30-21	1	図30-2	No. a 7 9 + 4 式	H1CVa1 = 1	a1	H1CVa3 = 1	a1 + a3 + a4 + a5	3	60	包舎層(中)に埋没。3枚の破片	破片 残存 2 ~ 3mm の破片	31.8	8.5	31.8	—
				H1CVa2 = 2	a1 + a2 + a3 + a4										
				H1CVa3 = 3	a3 + a4										
				H1CVa4 = 4	a5										
				H1CVa5 = 5	a5										
図30-21	2	図30-3	No. 无地式	H1CVa1 = 1	a1 + a3 + a5	H1CVa2 = 1	a1	2	30	包舎層(1)層~包舎層(3)層の間に埋没。包舎層(1)層の土器類に属する。5枚の破片	破片 残存 1 ~ 3mm の破片	30.4	—	(37.0)	
				H1CVa2 = 2	a1										
図30-21	3	図30-4	No. a 无地式(1+2+3+4+5+6+7)	P1CVa1 = 4	1 + 2	P1CVa2 = 1	a1	3	60	包舎層(1)層~包舎層(5)層の間に埋没。包舎層(1)層の土器類に属する。7点の破片。1点のみ包舎層(1)層の間に埋没。包舎層(1)層の土器類に属する。包舎層(1)層の間に埋没。包舎層(1)層の間に埋没。	破片 残存 1 ~ 3mm の破片	31.8	4.5	31.8	—
				P1CVa3 = 7	a1										
				P1CVa4 = 8	a2										
				P1CVa5 = 11	a3 + a4										
				P1CVa6 = 1	a5										
図30-21	4	図30-5	No. a 7 9 + 4 式	H1CVa1 = 1	a1	H1CVa2 = 1	a1	3	60	包舎層(1)層~包舎層(5)層の間に埋没。包舎層(1)層の土器類に属する。5枚の破片。1点のみ包舎層(1)層の間に埋没。包舎層(1)層の間に埋没。包舎層(1)層の間に埋没。	破片 小石も確認	31.4	8.5	32.7	31.8
				H1CVa2 = 2	a1 + a2										
				H1CVa3 = 3	a1 + a2										
				H1CVa4 = 4	a1 + a2										
図30-21	5	図30-6	No. a 无地式(1+2+3+4+5+6+7)	H1CVa1 = 4	a1	H1CVa2 = 4	a1	3	60	包舎層(1)層~包舎層(5)層の間に埋没。包舎層(1)層の土器類に属する。5枚の破片。1点のみ包舎層(1)層の間に埋没。包舎層(1)層の間に埋没。包舎層(1)層の間に埋没。	破片 小石も確認	31.8	6.0	31.4	—
				H1CVa2 = 5	a1										
図30-21	6	図30-7	No. a 无地式(1+2+3+4+5+6+7)	A1CVa1 = 1	a1	B1CVa1 = 1	a1	3	60	包舎層(1)層~包舎層(5)層の間に埋没。包舎層(1)層の土器類に属する。5枚の破片。1点のみ包舎層(1)層の間に埋没。包舎層(1)層の間に埋没。包舎層(1)層の間に埋没。	破片 小石も確認	31.0	—	(37.0)	31.3
				B1CVa2 = 2	a1										
				B1CVa3 = 3	a1 + a2										
				B1CVa4 = 4	a1 + a2										
				B1CVa5 = 5	a1 + a2 + a3 + a4 + a5										
				B1CVa6 = 6	a1 + a2										
				B1CVa7 = 7	a1										
				B1CVa8 = 8	a1										
				B1CVa9 = 9	a1										
				B1CVa10 = 10	a1										
図30-22	7	図30-8	No. a(出土層内式表付の復元土器)	E1CVa1 = 4	a1	G1CVa1 = 1	a1	3	60	包舎層(1)層~包舎層(5)層の間に埋没。包舎層(1)層の土器類に属する。5枚の破片。1点のみ包舎層(1)層の間に埋没。包舎層(1)層の間に埋没。包舎層(1)層の間に埋没。	破片 小石も確認	30.2	14.8	42.3	30.3
				E1CVa2 = 5	a1 + a2										
				E1CVa3 = 6	a1 + a2										
				E1CVa4 = 7	a1 + a2 + a3 + a4										
				E1CVa5 = 8	a1 + a2 + a3 + a4										
				E1CVa6 = 9	a1 + a2 + a3 + a4 + a5 + a6 + a7 + a8 + a9 + a10										
				E1CVa7 = 10	a1										
				E1CVa8 = 11	a1										
				E1CVa9 = 12	a1										
				E1CVa10 = 13	a1										
図30-23	8	図30-9	No. 无地式	H1CVa1 = 1	a1	H1CVa2 = 1	a1	3	60	包舎層(1)層~包舎層(5)層の間に埋没。包舎層(1)層の土器類に属する。5枚の破片。1点のみ包舎層(1)層の間に埋没。包舎層(1)層の間に埋没。包舎層(1)層の間に埋没。	破片 白色小石	31.2	8.5	31.8	31.1 (最大径)
				P1CVa1 = 1	a1										
				Q1CVa1 = 1	a1 + a2 + a3										
				P1CVa2 = 2	a1 + a2 + a3										
				P1CVa3 = 3	1 + 10 + 11 + 13										
図30-23	9	図30-10	No. 无地式	P1CVa4 = 4	1 + 10 + 11 + 13	Q1CVa2 = 1	a1	3	60	包舎層(1)層~包舎層(5)層の間に埋没。包舎層(1)層の土器類に属する。5枚の破片。1点のみ包舎層(1)層の間に埋没。包舎層(1)層の間に埋没。包舎層(1)層の間に埋没。	破片	30.0	—	(36.3)	—
				Q1CVa3 = 1	a1										
				Q1CVa4 = 2	a1 + a2										
				Q1CVa5 = 3	a1 + a2										
図30-23	10	図30-11	No. 无地式	H1CVa1 = 1	a1	H1CVa2 = 1	a1	3	60	包舎層(1)層~包舎層(5)層の間に埋没。包舎層(1)層の土器類に属する。5枚の破片。1点のみ包舎層(1)層の間に埋没。包舎層(1)層の間に埋没。包舎層(1)層の間に埋没。	破片	31.1	4.3	7.8	—
				H1CVa2 = 1	a1										
				H1CVa3 = 1	a1										
				H1CVa4 = 1	a1										
				H1CVa5 = 1	a1										
				H1CVa6 = 1	a1										
図30-23	11	図30-12	No. 无地式	Q1CVa1 = 4	a1 + a2	Q1CVa2 = 2	a1 + a2	3	60	包舎層(1)層~包舎層(5)層の間に埋没。包舎層(1)層の土器類に属する。5枚の破片。1点のみ包舎層(1)層の間に埋没。包舎層(1)層の間に埋没。包舎層(1)層の間に埋没。	破片 1 ~ 1mm の白色小石も確認	32.8	15.8	38.2	—
				Q1CVa2 = 5	a1 + a2										
				Q1CVa3 = 6	a1 + a2										
				Q1CVa4 = 7	a1 + a2										
				Q1CVa5 = 8	a1 + a2										
				Q1CVa6 = 9	a1 + a2										

表30-5b 包舍層出土土器類觀察表 (IV群 a類復元土器)

調査号	観測番号	観測時期	土器分類	発見層位(土器層)	遺物番号	高さ	直径(開口ノ径)	底径	高さ	底形状	取手	取手ノ中人	口径	底径	高さ	
観測-01	13	103-3	Ⅱa 无纹式	IV群a類復元土器 P040V 111 13	3	—	—	—	—	3	1 土器一枚の出土(復元土器) 土器の底面は白土質で、底 の中心には黒土質の跡が 認められる。	白色土器 陶製	11.0	8.0	13.1	—
観測-04	13	103-4	Ⅱa 无纹式	IV群a類復元土器 P040V 111 13	45	—	—	—	—	17	8 土器一枚の出土(復元土器) 土器の底面は白土質で、底 の中心には黒土質の跡が 認められる。	白色土器 陶製	11.0	11.4	10.0	13.0
観測-05	14	103-3	Ⅱa 无纹式	IV群a類復元土器 P040V 111 13	23	—	—	—	—	13	10 高口罐で、口縁に横溝(4条) あり、底面は白土質で、底 の中心には黒土質の跡が 認められる。	陶製 白色土器	11.0	11.0	11.0	—
観測-06	15	103-2	Ⅱa 无纹式	IV群a類復元土器 P040V 111 13	41	—	—	—	—	13	10 高口罐で、口縁に横溝(4条) あり、底面は白土質で、底 の中心には黒土質の跡が 認められる。	陶製 白色土器	10.0	10.0	11.0	—
観測-08	16	103-1	Ⅱa 无纹式	IV群a類復元土器 P040V 111 13	61	—	—	—	—	10	15 高口罐で、口縁に横溝(4条) あり、底面は白土質で、底 の中心には黒土質の跡が 認められる。	陶製 白色土器	10.0	—	10.0	11.1
観測-09	17	103-3	Ⅱa 无纹式	IV群a類復元土器 P040V 111 13	11	—	—	—	—	11	12 高口罐で、口縁に横溝(4条) あり、底面は白土質で、底 の中心には黒土質の跡が 認められる。	陶製 白色土器	10.0	10.0	11.0	—
観測-10	18	103-2	Ⅱa 无纹式	IV群a類復元土器 P040V 111 13	21	—	—	—	—	20	10 高口罐で、口縁に横溝(4条) あり、底面は白土質で、底 の中心には黒土質の跡が 認められる。	陶製 白色土器	11.7	6.0	10.7	—
観測-10	18	103-3	Ⅱa 无纹式	IV群a類復元土器 P040V 111 13	72	18+10+10+14+14	—	—	—	2	70 高口罐で、口縁に横溝(4条) あり、底面は白土質で、底 の中心には黒土質の跡が 認められる。	陶製 白色土器	12.0	11.1	10.2	10.0
観測-15	30	103-4	Ⅱa 无纹式	IV群a類復元土器 P040V 111 13	76	—	—	—	—	1	70 高口罐で、口縁に横溝(4条) あり、底面は白土質で、底 の中心には黒土質の跡が 認められる。	陶製	10.0	9.0	10.0	—
観測-16	31	103-3	Ⅱa 无纹式	IV群a類復元土器 P040V 111 13	8	—	—	—	—	12	30 高口罐で、口縁に横溝(4条) あり、底面は白土質で、底 の中心には黒土質の跡が 認められる。	陶製 口径1~1.5cmの 白色土器	—	11.0	(10.2)	—
観測-16	31	103-4	Ⅱa 无纹式	IV群a類復元土器 P040V 111 13	107	—	—	—	—	107	10 高口罐で、口縁に横溝(4条) あり、底面は白土質で、底 の中心には黒土質の跡が 認められる。	陶製 口径1.5cmの 白色土器	10.0	11.0	10.0	10.0
観測-16	31	103-4	Ⅱa 无纹式	IV群a類復元土器 P040V 111 13	81	—	—	—	—	2	60 高口罐で、口縁に横溝(4条) あり、底面は白土質で、底 の中心には黒土質の跡が 認められる。	陶製 口径1~1.5cm の白色土器	10.0	11.0	10.0	10.1
観測-17	31	103-3	Ⅱa 无纹式	IV群a類復元土器 P040V 111 13	100	—	—	—	—	10	101 高口罐で、口縁に横溝(4条) あり、底面は白土質で、底 の中心には黒土質の跡が 認められる。	陶製	10.0	10.0	10.0	11.0
観測-17	31	103-4	Ⅱa 无纹式	IV群a類復元土器 P040V 111 13	92	—	—	—	—	8	80 高口罐で、口縁に横溝(4条) あり、底面は白土質で、底 の中心には黒土質の跡が 認められる。	陶製 口径1~1.5cmの白色土器	—	10.1	(10.1)	10.0
観測-18	38	103-1	Ⅱa 无纹式	IV群a類復元土器 P040V 111 13	13	—	—	—	—	13	10 高口罐で、口縁に横溝(4条) あり、底面は白土質で、底 の中心には黒土質の跡が 認められる。	陶製 口径1~1.5cmの白色土器	10.0	—	(10.1)	10.0
観測-18	37	103-2	Ⅱa 无纹式	IV群a類復元土器 P040V 111 13	101	—	—	—	—	3	100 高口罐で、口縁に横溝(4条) あり、底面は白土質で、底 の中心には黒土質の跡が 認められる。	陶製 口径1.5cmの 白色土器	10.0	11.0	10.0	10.0
観測-18	38	103-3	Ⅱa 无纹式	IV群a類復元土器 P040V 111 13	46	—	—	—	—	12	10 高口罐で、口縁に横溝(4条) あり、底面は白土質で、底 の中心には黒土質の跡が 認められる。	陶製 口径1.5cmの 白色土器	10.0	11.0	10.0	—
観測-18	39	103-3	Ⅱa 无纹式	IV群a類復元土器 P040V 111 13	85	—	—	—	—	14	34 高口罐で、口縁に横溝(4条) あり、底面は白土質で、底 の中心には黒土質の跡が 認められる。	陶製 口径1.5cmの 白色土器	11.0	8.0	10.0	10.0
観測-19	30	103-1	Ⅱa 无纹式	IV群a類復元土器 P040V 111 13	11	—	—	—	—	12	40 高口罐で、口縁に横溝(4条) あり、底面は白土質で、底 の中心には黒土質の跡が 認められる。	陶製 口径1.5cmの 白色土器	10.0	—	(10.0)	—
観測-19	31	103-1	Ⅱa 无纹式	IV群a類復元土器 P040V 111 13	6	—	—	—	—	8	高口罐で、口縁に横溝(4条) あり、底面は白土質で、底 の中心には黒土質の跡が 認められる。	陶製 口径1.5cmの 白色土器	11.0	6.0	10.0	—
観測-19	31	103-2	Ⅱa 无纹式	IV群a類復元土器 P040V 111 13	1	—	—	—	—	1	高口罐で、口縁に横溝(4条) あり、底面は白土質で、底 の中心には黒土質の跡が 認められる。	陶製 口径1.5cmの 白色土器	11.0	10.0	11.0	—
観測-19	31	103-3	Ⅱa 无纹式	IV群a類復元土器 P040V 111 13	34	10+10+10+10+10	—	—	—	7	60 高口罐で、口縁に横溝(4条) あり、底面は白土質で、底 の中心には黒土質の跡が 認められる。	陶製 白色土器	10.7	10.0	10.0	—
観測-19	30	103-3	Ⅱa 无纹式	IV群a類復元土器 P040V 111 13	15	—	—	—	—	15	10 高口罐で、口縁に横溝(4条) あり、底面は白土質で、底 の中心には黒土質の跡が 認められる。	陶製 白色土器	11.7	6.0	11.7	—
観測-19	36	107-1	Ⅱa 无纹式	IV群a類復元土器 P040V 111 13	23	—	—	—	—	23	10 高口罐で、口縁に横溝(4条) あり、底面は白土質で、底 の中心には黒土質の跡が 認められる。	陶製 口径1.5cmの 白色土器	11.0	11.0	11.0	—
観測-19	37	107-3	Ⅱa 无纹式	IV群a類復元土器 P040V 111 13	45	—	—	—	—	12	10 高口罐で、口縁に横溝(4条) あり、底面は白土質で、底 の中心には黒土質の跡が 認められる。	陶製	10.1	10.0	10.0	—
観測-19	38	107-2	Ⅱa 无纹式	IV群a類復元土器 P040V 111 13	1	—	—	—	—	1	10 高口罐で、口縁に横溝(4条) あり、底面は白土質で、底 の中心には黒土質の跡が 認められる。	陶製 口径1.5cmの 白色土器	11.1	6.1	11.0	—
観測-19	39	107-4	Ⅱa 无纹式	IV群a類復元土器 P040V 111 13	8	—	—	—	—	8	高口罐で、口縁に横溝(4条) あり、底面は白土質で、底 の中心には黒土質の跡が 認められる。	陶製 口径1.5cmの 白色土器	11.0	—	(10.0)	10.0
観測-19	40	107-3	Ⅱa 无纹式	IV群a類復元土器 P040V 111 13	80	—	—	—	—	17	100 高口罐で、口縁に横溝(4条) あり、底面は白土質で、底 の中心には黒土質の跡が 認められる。	陶製	10.0	—	(10.0)	10.1
観測-19	41	103-1	Ⅱa 无纹式	IV群a類復元土器 P040V 111 13	30	—	—	—	—	30	10 高口罐で、口縁に横溝(4条) あり、底面は白土質で、底 の中心には黒土質の跡が 認められる。	陶製 口径1.5cmの 白色土器	11.0	9.0	10.1	10.1
観測-19	43	103-2	Ⅱa 无纹式	IV群a類復元土器 P040V 111 13	21	—	—	—	—	1	10 高口罐で、口縁に横溝(4条) あり、底面は白土質で、底 の中心には黒土質の跡が 認められる。	陶製 口径1~1.5cmの白色土器	10.0	11.0	11.0	—
観測-19	43	103-3	Ⅱa 无纹式	IV群a類復元土器 P040V 111 13	11	—	—	—	—	1	10 高口罐で、口縁に横溝(4条) あり、底面は白土質で、底 の中心には黒土質の跡が 認められる。	陶製 口径1.5cmの 白色土器	11.0	11.0	11.0	—
観測-19	44	103-4	Ⅱa 无纹式	IV群a類復元土器 P040V 111 13	39	—	—	—	—	9	40 高口罐で、口縁に横溝(4条) あり、底面は白土質で、底 の中心には黒土質の跡が 認められる。	陶製 口径1~1.5cmの白色土器	10.0	—	(10.0)	—
観測-19	45	103-1	Ⅱa 无纹式	IV群a類復元土器 P040V 111 13	10	—	—	—	—	30	10 高口罐で、口縁に横溝(4条) あり、底面は白土質で、底 の中心には黒土質の跡が 認められる。	陶製 口径1.5cmの 白色土器	11.0	10.0	11.0	10.0
観測-19	46	103-2	Ⅱa 无纹式	IV群a類復元土器 P040V 111 13	16	—	—	—	—	16	10 高口罐で、口縁に横溝(4条) あり、底面は白土質で、底 の中心には黒土質の跡が 認められる。	陶製 口径1.5cmの 白色土器	11.0	—	(11.1)	11.1
観測-19	47	103-3	Ⅱa 无纹式	IV群a類復元土器 P040V 111 13	27	—	—	—	—	27	10 高口罐で、口縁に横溝(4条) あり、底面は白土質で、底 の中心には黒土質の跡が 認められる。	陶製	11.0	10.0	10.0	—
観測-19	48	103-4	Ⅱa 无纹式	IV群a類復元土器 P040V 111 13	17	—	—	—	—	17	10 高口罐で、口縁に横溝(4条) あり、底面は白土質で、底 の中心には黒土質の跡が 認められる。	陶製 口径1.5cmの 白色土器	11.0	—	(10.1)	10.1
観測-19	49	103-1	Ⅱa 无纹式	IV群a類復元土器 P040V 111 13	24	—	—	—	—	24	10 高口罐で、口縁に横溝(4条) あり、底面は白土質で、底 の中心には黒土質の跡が 認められる。	陶製 口径1.5cmの 白色土器	11.0	10.0	11.0	—
観測-19	51	103-3	Ⅱa 无纹式	IV群a類復元土器 P040V 111 13	18	—	—	—	—	18	10 高口罐で、口縁に横溝(4条) あり、底面は白土質で、底 の中心には黒土質の跡が 認められる。	陶製 口径1.5cmの 白色土器	11.0	11.0	11.0	—

表30-5c 包含層出土土器類観察表 (IV群 a類復元土器)

調査号	編年番号	埋藏層号	土器分類	発見層位(1) 土器の位置	調査層位	土器の位置	出土層位	出土層位	出土層位	出土層位	出土層位	出土層位	出土層位
30-12	32	300-2	煎茶	...	41	...	10	100	...	...	...	...	...
30-12	33	300-4	煎茶	...	43	...	6	70	...	...	...	...	...
30-12	34	300-1	煎茶	...	43	...	40	...	...	...	...	...	...
30-12	35	300-3	煎茶	...	41	...	40	...	...	...	...	...	...
30-12	36	300-3	煎茶	...	43	...	40	...	...	...	...	...	...
30-12	37	300-2	煎茶	...	41	...	40	...	...	...	...	...	...
30-12	38	300-3	煎茶	...	43	...	40	...	...	...	...	...	...
30-12	39	300-1	煎茶	...	43	...	1	30	...	...	...	...	...
30-12	40	300-1	煎茶	...	46	...	1	30	...	...	...	...	...
30-12	41	300-2	煎茶	...	43	...	1	40	...	...	...	...	...
30-12	42	300-1	煎茶	...	46	...	1	30	...	...	...	...	...

表30-5d 包含層出土土器類観察表 (IV群 a類拓影図化破片)

調査号	編年番号	埋藏層号	土器分類	発見層位(1) 土器の位置	調査層位	土器の位置	出土層位	出土層位	出土層位	出土層位	出土層位	出土層位	出土層位
30-14	43	100	煎茶	...	43	...	10	30	...	...	...	...	...
30-14	44	100	煎茶	...	43	...	6	40	...	...	...	...	...
30-14	45	100	煎茶	...	43	...	1	40	...	...	...	...	...
30-14	46	100	煎茶	...	43	...	2	40	...	...	...	...	...
30-14	47	100	煎茶	...	43	...	1	40	...	...	...	...	...
30-14	48	100	煎茶	...	43	...	1	40	...	...	...	...	...
30-14	49	100	煎茶	...	43	...	1	40	...	...	...	...	...
30-14	50	100	煎茶	...	43	...	1	40	...	...	...	...	...
30-14	51	100	煎茶	...	43	...	1	40	...	...	...	...	...
30-14	52	100	煎茶	...	43	...	1	40	...	...	...	...	...
30-14	53	100	煎茶	...	43	...	1	40	...	...	...	...	...
30-14	54	100	煎茶	...	43	...	1	40	...	...	...	...	...
30-14	55	100	煎茶	...	43	...	1	40	...	...	...	...	...
30-14	56	100	煎茶	...	43	...	1	40	...	...	...	...	...
30-14	57	100	煎茶	...	43	...	1	40	...	...	...	...	...
30-14	58	100	煎茶	...	43	...	1	40	...	...	...	...	...
30-14	59	100	煎茶	...	43	...	1	40	...	...	...	...	...
30-14	60	100	煎茶	...	43	...	1	40	...	...	...	...	...







表30-5g 包舍層出土土器類観察表 (IV群a類拓影図化破片・154のみIV群b類)

調査号	編號番号	図面番号	土器分類	形状・寸法		点検	破片数	破片数	備考	出土の状況
				口径(φ)	高さ					
IV群-a	100	100	煎釜	F40V 17.7 × 1	1	1	1	1	1	1
IV群-a	101	101	煎釜・磁器器	F40V 17.7 × 1	1	1	1	1	1	1
IV群-a	102	102	煎釜	F40V 17.7 × 1	1	1	1	1	1	1
IV群-a	103	103	煎釜	F40V 17.7 × 1	1	1	1	1	1	1
IV群-a	104	104	煎釜	F40V 17.7 × 1	1	1	1	1	1	1
IV群-a	105	105	煎釜	F40V 17.7 × 1	1	1	1	1	1	1
IV群-a	106	106	煎釜	F40V 17.7 × 1	1	1	1	1	1	1
IV群-a	107	107	煎釜	F40V 17.7 × 1	1	1	1	1	1	1
IV群-a	108	108	煎釜	F40V 17.7 × 1	1	1	1	1	1	1
IV群-a	109	109	煎釜	F40V 17.7 × 1	1	1	1	1	1	1
IV群-a	110	110	煎釜	F40V 17.7 × 1	1	1	1	1	1	1
IV群-a	111	111	煎釜	F40V 17.7 × 1	1	1	1	1	1	1
IV群-a	112	112	煎釜	F40V 17.7 × 1	1	1	1	1	1	1
IV群-a	113	113	煎釜	F40V 17.7 × 1	1	1	1	1	1	1
IV群-a	114	114	煎釜	F40V 17.7 × 1	1	1	1	1	1	1
IV群-a	115	115	煎釜	F40V 17.7 × 1	1	1	1	1	1	1
IV群-a	116	116	煎釜	F40V 17.7 × 1	1	1	1	1	1	1
IV群-a	117	117	煎釜	F40V 17.7 × 1	1	1	1	1	1	1
IV群-a	118	118	煎釜	F40V 17.7 × 1	1	1	1	1	1	1
IV群-a	119	119	煎釜	F40V 17.7 × 1	1	1	1	1	1	1
IV群-a	120	120	煎釜	F40V 17.7 × 1	1	1	1	1	1	1
IV群-a	121	121	煎釜	F40V 17.7 × 1	1	1	1	1	1	1
IV群-a	122	122	煎釜	F40V 17.7 × 1	1	1	1	1	1	1
IV群-a	123	123	煎釜	F40V 17.7 × 1	1	1	1	1	1	1
IV群-a	124	124	煎釜	F40V 17.7 × 1	1	1	1	1	1	1

表30-6a 包舍層出土土器類観察表 (VI群復元土器)

調査号	編號番号	図面番号	土器分類	形状・寸法		点検	破片数	破片数	備考	出土の状況
				口径(φ)	高さ					
IV群-a	1	102-4	VI・復元土器 高脚杯	F40V 17.7 × 1	1	1	1	1	1	1
IV群-a	2	102-1	VI・復元土器 中脚杯	F40V 17.7 × 1	1	1	1	1	1	1
IV群-a	3	102-1	VI・復元土器 中脚杯	F40V 17.7 × 1	1	1	1	1	1	1
IV群-a	4	102-2	VI・アサヒ・高脚 杯	F40V 17.7 × 1	1	1	1	1	1	1
IV群-a	5	102-3	VI・アサヒ・高脚 杯	F40V 17.7 × 1	1	1	1	1	1	1
IV群-a	6	102-1	VI・アサヒ・高脚 杯	F40V 17.7 × 1	1	1	1	1	1	1

表30-6b 包舍層出土土器類觀察表 (VI群復元土器)

調査号	包舍番号	包舍形状	土器分類	復元土器		数量	復元年	出土の包舍人物	包舍年代	包舍形状		
				復元土器の名称	復元土器の形状							
30-09	7	300-1	特・ア・B・上式・片 復元土器	1. 復元土器の名称 2. 復元土器の形状	1	30	東土縄文 上代型 白磁土 内包層の土器	内包層	310	6.2	316	-
30-09	8	300-1	M・片切片	1. 復元土器の名称 2. 復元土器の形状	3	30	東土縄文 上代型 白磁土 上包層の土器	内包層の土器	310	6.2	316	-
30-09	9	300-1	特・B・C・上式・片 復元土器	1. 復元土器の名称 2. 復元土器の形状	1	37	東土縄文 上代型 白磁土 上包層の土器	内包層の土器	310	6.2	316	-
30-09	10	300-2	特・ア・B・上式・片 復元土器	1. 復元土器の名称 2. 復元土器の形状	1	36	東土縄文 上代型 白磁土 上包層の土器	白色土器	310	6.6	316	-
30-09	11	300-2	特・B・C・上式・片 復元土器	1. 復元土器の名称 2. 復元土器の形状	7	30	東土縄文 上代型 白磁土 上包層の土器	砂粒	310	-	316	-
30-09	12	300-3	特・B・C・上式・片 復元土器	1. 復元土器の名称 2. 復元土器の形状	1	37	東土縄文 上代型 白磁土 上包層の土器	砂粒	-	316	317	-
30-09	13	300-3	特・B・C・上式・片 復元土器	1. 復元土器の名称 2. 復元土器の形状	3	15	東土縄文 上代型 白磁土 上包層の土器	砂粒 陶器片	310	3.7	317	-
30-09	14	300-3	特・B・C・上式・片 復元土器	1. 復元土器の名称 2. 復元土器の形状	41	41	東土縄文 上代型 白磁土 上包層の土器	砂粒 瓦片	310	-	317	-
30-09	15	300-4	特・B・C・上式・片 復元土器	1. 復元土器の名称 2. 復元土器の形状	28	1	東土縄文 上代型 白磁土 上包層の土器	砂粒	311	9.0	318	-
30-09	16	300-1	特・B・C・上式・片 復元土器	1. 復元土器の名称 2. 復元土器の形状	40	40	東土縄文 上代型 白磁土 上包層の土器	砂粒	310	6.8	318	-
30-09	17	300-2	特・B・C・上式・片 復元土器	1. 復元土器の名称 2. 復元土器の形状	100	100	東土縄文 上代型 白磁土 上包層の土器	砂粒	387	10.9	368	-

表30-6c 包舍層出土土器類觀察表 (VI群拓影因化破片)

調査号	包舍番号	包舍形状	土器分類	復元土器		数量	復元年	出土の包舍人物	包舍年代	包舍形状		
				復元土器の名称	復元土器の形状							
30-09	18	170	特・ア・B・上式・片 復元土器	1. 復元土器の名称 2. 復元土器の形状	1	4	東土縄文 上代型 白磁土	陶器片	-	-	-	-
30-09	19	170	特・ア・B・上式・片 復元土器	1. 復元土器の名称 2. 復元土器の形状	7	36	東土縄文 上代型 白磁土 上包層の土器	陶器片 白色土	内包層	白色土	-	-
30-09	20	170	特・B・C・上式・片 復元土器	1. 復元土器の名称 2. 復元土器の形状	1	2	東土縄文 上代型 白磁土 上包層の土器	陶器片 白色土	内包層	白色土	-	-
30-09	21	170	特・ア・B・上式・片 復元土器	1. 復元土器の名称 2. 復元土器の形状	4	4	東土縄文 上代型 白磁土 上包層の土器	陶器片	内包層	-	-	-
30-09	22	170	特・ア・B・上式・片 復元土器	1. 復元土器の名称 2. 復元土器の形状	19	30	東土縄文 上代型 白磁土 上包層の土器	陶器片 瓦片	内包層	瓦片	-	-
30-09	23	170	特・B・C・上式・片 復元土器	1. 復元土器の名称 2. 復元土器の形状	5	30	東土縄文 上代型 白磁土 上包層の土器	砂粒	内包層	-	-	-
30-09	24	170	特・B・C・上式・片 復元土器	1. 復元土器の名称 2. 復元土器の形状	8	1	東土縄文 上代型 白磁土 上包層の土器	砂粒 陶器片 陶器片	内包層	陶器片 陶器片	-	-
30-09	25	170	特・B・C・上式・片 復元土器	1. 復元土器の名称 2. 復元土器の形状	20	40	東土縄文 上代型 白磁土 上包層の土器	陶器片 瓦片	内包層	瓦片	-	-
30-09	26	170	特・B・C・上式・片 復元土器	1. 復元土器の名称 2. 復元土器の形状	3	4	東土縄文 上代型 白磁土 上包層の土器	白色土器	白色土器	-	-	-
30-09	27	170	特・B・C・上式・片 復元土器	1. 復元土器の名称 2. 復元土器の形状	5	40	東土縄文 上代型 白磁土 上包層の土器	砂粒	内包層	-	-	-
30-09	28	170	特・B・C・上式・片 復元土器	1. 復元土器の名称 2. 復元土器の形状	13	10	東土縄文 上代型 白磁土 上包層の土器	瓦片	瓦片	-	-	-
30-09	29	170	特・B・C・上式・片 復元土器	1. 復元土器の名称 2. 復元土器の形状	5	16	東土縄文 上代型 白磁土 上包層の土器	砂粒	砂粒	-	-	-
30-09	30	170	特・B・C・上式・片 復元土器	1. 復元土器の名称 2. 復元土器の形状	8	7	東土縄文 上代型 白磁土 上包層の土器	陶器片 陶器片 瓦片	内包層	陶器片 瓦片	-	-

表30-6d 包含層出土土器類観察表 (VI群拓影図化破片)

調査号	観測番号	図形番号	土器分類	形状・破片						破片数	備考	出土への関係
				表裏(開口)・透影	透視番号	点数	表裏(開口)・透影	透視番号	点数			
観測-00	33	172	特 薄底C~C1式	表裏(開口)・透影			表裏(開口)・透影			1	片上縁欠 薄底丸 縁部欠 口縁欠	観測 内筒形土器類群 片上縁欠
				透視番号			透視番号					
				点数	0	0	点数	0	0			
				表裏(開口)・透影			表裏(開口)・透影					
				透視番号			透視番号					
				点数	0	0	点数	0	0			
観測-00	33	173	特 薄底C1式	表裏(開口)・透影			表裏(開口)・透影			1	片上縁欠 薄底丸 縁部欠 口縁欠	高石
				透視番号			透視番号					
				点数	0	0	点数	0	0			
				表裏(開口)・透影			表裏(開口)・透影					
				透視番号			透視番号					
				点数	0	0	点数	0	0			
観測-00	33	174	特 薄底C1式	表裏(開口)・透影			表裏(開口)・透影			1	口縁部破片より中の薄底丸類に分類可能と思われる。片上縁欠	白色特 薄底丸
				透視番号			透視番号					
				点数	0	0	点数	0	0			
				表裏(開口)・透影			表裏(開口)・透影					
				透視番号			透視番号					
				点数	0	0	点数	0	0			
観測-00	34	175	特 薄底C1式	表裏(開口)・透影			表裏(開口)・透影			1	口縁部破片より中の薄底丸類に分類可能と思われる。片上縁欠	白色特 薄底丸
				透視番号			透視番号					
				点数	0	0	点数	0	0			
				表裏(開口)・透影			表裏(開口)・透影					
				透視番号			透視番号					
				点数	0	0	点数	0	0			
観測-00	35	176	特 薄底C1式	表裏(開口)・透影			表裏(開口)・透影			1	片上縁欠 三角形破片	高石 薄底
				透視番号			透視番号					
				点数	0	0	点数	0	0			
				表裏(開口)・透影			表裏(開口)・透影					
				透視番号			透視番号					
				点数	0	0	点数	0	0			
観測-00	36	177	特 薄底C1式	表裏(開口)・透影			表裏(開口)・透影			1	片上縁欠 C1薄底丸は、口縁部破片より中の薄底丸類に分類可能と思われる。口縁部欠 片上縁欠	白色 薄底
				透視番号			透視番号					
				点数	0	0	点数	0	0			
				表裏(開口)・透影			表裏(開口)・透影					
				透視番号			透視番号					
				点数	0	0	点数	0	0			
観測-00	37	178	特 薄底C1式	表裏(開口)・透影			表裏(開口)・透影			1	片上縁欠 C1薄底丸は、口縁部破片より中の薄底丸類に分類可能と思われる。口縁部欠 片上縁欠	薄底 薄底
				透視番号			透視番号					
				点数	0	0	点数	0	0			
				表裏(開口)・透影			表裏(開口)・透影					
				透視番号			透視番号					
				点数	0	0	点数	0	0			

表30-7 包含層出土土器類観察表 (土製品・特殊器形)

調査号	観測番号	図形番号	土器分類	形状・破片						破片数	備考	出土への関係	形状・破片				
				表裏(開口)・透影	透視番号	点数	表裏(開口)・透影	透視番号	点数				口径	底径	高さ		
観測-01	1	175	黒土製品	表裏(開口)・透影	F40C/a1-1	0	0	表裏(開口)・透影	F40C/a1-1	0	0	2	片上縁欠 薄底丸(片上縁・口縁部欠) 口縁欠 C1薄底丸	陶器(片上縁欠)	—	—	—
観測-01	2	176	黒土製品	表裏(開口)・透影	F40C/a1-1	0	0	表裏(開口)・透影	F40C/a1-1	0	0	1	片上縁欠 薄底丸 縁部欠	陶器 薄底丸類	—	—	4.4
観測-01	3	176	黒土製品	表裏(開口)・透影	F40C/a1-1	0	0	表裏(開口)・透影	F40C/a1-1	0	0	1	片上縁欠 薄底丸	陶器 薄底丸類	—	—	—
観測-01	4	176	黒土製品	表裏(開口)・透影	F40C/a1-1	0	0	表裏(開口)・透影	F40C/a1-1	0	0	1	片上縁欠 薄底丸	陶器 薄底丸類	—	—	—
観測-01	5	176	黒土製品	表裏(開口)・透影	F40C/a1-1	0	0	表裏(開口)・透影	F40C/a1-1	0	0	1	片上縁欠 薄底丸	陶器(片上縁欠)	4.1	5.2	5.1
観測-01	6	176	黒土製品	表裏(開口)・透影	F40C/a1-1	0	0	表裏(開口)・透影	F40C/a1-1	0	0	1	片上縁欠 薄底丸	陶器(片上縁欠)	3.8	5.3	—
観測-01	7	176	黒土製品	表裏(開口)・透影	F40C/a1-1	0	0	表裏(開口)・透影	F40C/a1-1	0	0	1	片上縁欠 薄底丸	陶器(片上縁欠)	—	—	—
観測-01	8	176	黒土製品	表裏(開口)・透影	F40C/a1-1	0	0	表裏(開口)・透影	F40C/a1-1	0	0	1	片上縁欠 薄底丸	陶器(片上縁欠)	—	—	3.2
観測-01	9	176	黒土製品	表裏(開口)・透影	F40C/a1-1	0	0	表裏(開口)・透影	F40C/a1-1	0	0	1	片上縁欠 薄底丸	陶器(片上縁欠)	—	—	4.2
観測-01	10	176	黒土製品	表裏(開口)・透影	F40C/a1-1	0	0	表裏(開口)・透影	F40C/a1-1	0	0	1	片上縁欠 薄底丸	陶器(片上縁欠)	—	—	4.2
観測-01	11	176	黒土製品	表裏(開口)・透影	F40C/a1-1	0	0	表裏(開口)・透影	F40C/a1-1	0	0	1	片上縁欠 薄底丸	陶器(片上縁欠)	—	—	—
観測-01	12	176	黒土製品	表裏(開口)・透影	F40C/a1-1	0	0	表裏(開口)・透影	F40C/a1-1	0	0	1	片上縁欠 薄底丸	陶器(片上縁欠)	—	—	—
観測-01	13	176	黒土製品	表裏(開口)・透影	F40C/a1-1	0	0	表裏(開口)・透影	F40C/a1-1	0	0	1	片上縁欠 薄底丸	陶器(片上縁欠)	—	—	—
観測-01	14	176	黒土製品	表裏(開口)・透影	F40C/a1-1	0	0	表裏(開口)・透影	F40C/a1-1	0	0	1	片上縁欠 薄底丸	陶器(片上縁欠)	—	—	—
観測-01	15	176	黒土製品	表裏(開口)・透影	F40C/a1-1	0	0	表裏(開口)・透影	F40C/a1-1	0	0	1	片上縁欠 薄底丸	陶器(片上縁欠)	—	—	—
観測-01	16	176	黒土製品	表裏(開口)・透影	F40C/a1-1	0	0	表裏(開口)・透影	F40C/a1-1	0	0	1	片上縁欠 薄底丸	陶器(片上縁欠)	—	—	—

表30-8 包含層出土土器類観察表 (再生土製品)

調査号	観測番号	図形番号	土器分類	形状・破片						破片数	備考	出土への関係	備考			
				表裏(開口)・透影	透視番号	点数	表裏(開口)・透影	透視番号	点数							
観測-01	16	180-1	黒土製品(再生土製品)	表裏(開口)・透影	F40C/a1-1	0	0	表裏(開口)・透影	F40C/a1-1	0	0	1	片上縁欠 薄底丸(口縁部欠)	陶器 薄底丸類	片上縁欠	—
観測-01	17	180-1	黒土製品(再生土製品)	表裏(開口)・透影	F40C/a1-1	0	0	表裏(開口)・透影	F40C/a1-1	0	0	1	片上縁欠 薄底丸(口縁部欠)	陶器 薄底丸類	片上縁欠	—
観測-01	18	180-1	黒土製品(再生土製品)	表裏(開口)・透影	F40C/a1-1	0	0	表裏(開口)・透影	F40C/a1-1	0	0	1	片上縁欠 薄底丸(口縁部欠)	陶器 薄底丸類	片上縁欠	—
観測-01	19	180-1	黒土製品(再生土製品)	表裏(開口)・透影	F40C/a1-1	0	0	表裏(開口)・透影	F40C/a1-1	0	0	1	片上縁欠 薄底丸(口縁部欠)	陶器 薄底丸類	片上縁欠	—
観測-01	20	180-1	黒土製品(再生土製品)	表裏(開口)・透影	F40C/a1-1	0	0	表裏(開口)・透影	F40C/a1-1	0	0	1	片上縁欠 薄底丸(口縁部欠)	陶器 薄底丸類	片上縁欠	—
観測-01	21	180-1	黒土製品(再生土製品)	表裏(開口)・透影	F40C/a1-1	0	0	表裏(開口)・透影	F40C/a1-1	0	0	1	片上縁欠 薄底丸(口縁部欠)	陶器 薄底丸類	片上縁欠	—
観測-01	22	180-1	黒土製品(再生土製品)	表裏(開口)・透影	F40C/a1-1	0	0	表裏(開口)・透影	F40C/a1-1	0	0	1	片上縁欠 薄底丸(口縁部欠)	陶器 薄底丸類	片上縁欠	—
観測-01	23	180-1	黒土製品(再生土製品)	表裏(開口)・透影	F40C/a1-1	0	0	表裏(開口)・透影	F40C/a1-1	0	0	1	片上縁欠 薄底丸(口縁部欠)	陶器 薄底丸類	片上縁欠	—

表31 包含層出土剥片石器群観察表

層	遺跡番号	出土エリア	遺物番号	用途	器種	計測値 (cm)			厚	重量	色	形状	残存形態	使用痕	備考
						最大径	最大幅	最大厚							
IV-36	176	P-36C区	1	V 1割	石礫	2.8	1.1	0.3	0.8	0.8	灰褐色	完形	無磨削痕跡・破損?		
		P-40C区	3	V 1割	石礫	5.8	1.6	0.6	0.3	0.8	灰褐色	完形	無磨削痕跡・破損?		
		P-22C区	32	V 1割	石礫	(2.0)	1.6	0.3	0.8	灰褐色	完形	無磨削痕跡・破損?			
		Q-43C区	7	V a割	石礫	3.8	1.1	0.1	1.3	0.4	灰褐色	完形	無磨削痕跡・破損?		
		R-36E区	4	V 3割	石礫	3.5	1.2	0.4	1.2	0.4	灰褐色	完形	無磨削痕跡・破損?		
		S-44E区	23	V 3割	石礫	2.5	1.4	0.4	1.0	めのう	灰白色	(完形)	無磨削痕跡・破損?	付着物(黒～黒褐色)	
		Y-39E区	3	V 2割	石礫	(4.6)	1.9	0.4	3.1	0.4	灰褐色	完形	無磨削痕跡・破損?		
		B-41-d区	4	V a割	石礫	1.7	1.3	0.4	0.5	めのう	灰白色	完形	無磨削痕跡?		
		B-41-d区	7	V a割	石礫	3.8	1.1	0.1	0.6	めのう	(灰白色)	完形	無磨削痕跡・破損?		
		B-45-a区	7	V b割	石礫	(2.9)	1.2	0.4	1.2	0.4	灰褐色	完形	無磨削痕跡・破損?	付着物(黒色)	
		C-45-b区	17	不明	石礫	3.3	1.6	0.4	0.9	0.4	灰褐色	完形	無磨削痕跡・破損?		
		C-45-b区	31	V b割	石礫	2.3	1.3	0.6	1.4	0.4	灰褐色	完形	無磨削痕跡・破損?		
		C-45-b区	3	V a割	石礫	2.1	1.7	0.4	0.4	0.4	灰褐色	完形	無磨削痕跡・破損?		
		D-40-c区	11	V b割	石礫	2.5	1.1	0.5	0.9	0.4	灰褐色	完形	無磨削痕跡・破損?		
		D-44-a区	9	V a割	石礫	2.5	1.3	0.3	0.6	0.4	灰褐色	完形	無磨削痕跡・破損?		
		F-41-c区	8	V b割	石礫	3.4	1.2	0.4	1.7	0.4	灰褐色	完形	無磨削痕跡・破損?		
		F-42-a区	7	V b割	石礫	3.3	1.2	0.5	1.5	0.4	灰褐色	完形	破損・付着物(黒～黒褐色)		
		G-44-c区	9	V 割	石礫	3.9	1.6	0.6	3.3	0.4	灰褐色	完形	無磨削痕跡・破損?		
		H-44-c区	10	V b割	石礫	1.5	1.4	0.6	3.4	0.4	灰褐色	完形	無磨削痕跡・破損?		
		H-43-c区	18	V b割	石礫	4.4	1.2	0.6	2.3	0.4	灰褐色	完形	無磨削痕跡		
		H-44-c区	3	V a割	石礫	2.2	1.5	0.4	0.8	めのう	(灰褐色～灰白色)	完形	無磨削痕跡		
		K-47C区	2	V 割	石礫	(4.3)	2.3	0.6	4.4	0.4	灰褐色	完形	無磨削痕跡・破損?		左右表面割
		K-47-d区	3	V a割	石礫	3.6	1.5	0.5	0.9	0.4	灰褐色	完形	無磨削痕跡・破損?		
		S-49-a区	7	V a割	石礫	3.9	1.9	0.5	3.2	0.4	灰褐色	完形	無磨削痕跡・破損?		
		K-42-d区	13	V b割	石礫	(4.3)	1.5	0.8	4.7	めのう	(灰白色)	完形	無磨削痕跡・破損?		
		T-38-d区	7	V a割	石礫	1.8	0.7	0.1	0.3	0.4	灰褐色	完形	無磨削痕跡		
		T-38-d区	7	V a割	石礫	1.9	0.8	0.2	0.2	0.4	灰褐色	完形	無磨削痕跡		
		M-38-d区	6	不明	石礫	2.6	0.8	0.3	0.3	0.4	灰褐色	完形	無磨削痕跡		
		R-46-b区	7	V b割	石礫	3.3	1.3	0.5	0.9	0.4	灰褐色	完形	無磨削痕跡		
		T-48-c区	15	V a割	石礫	2.1	1.3	0.4	0.6	0.4	灰褐色	完形	無磨削痕跡・破損?		
IV-37	37	C-43-b区	2	無割	石礫・ナイフ	(6.2)	5.0	1.2	36.0	0.4	灰褐色	半形	無磨削痕跡・破損・削痕跡		
		G-43-d区	3	V b割	石礫・ナイフ	8.5	4.8	0.9	19.3	0.4	灰褐色	完形	削痕跡	石面割?	
		J-47C区	15	V 割	石礫・ナイフ	5.5	3.0	0.9	10.6	0.4	灰褐色	完形	無磨削痕跡・破損?		
		H-44-b区	7	V a割	石礫	6.4	1.9	0.6	8.9	0.4	灰褐色	完形	破損? 磨削?	ストレイパー?	
		J-38-b区	3	V b割	石礫	(3.2)	1.2	0.8	4.2	0.4	灰褐色	完形	破損		
		K-44-a区	1	無割	石礫	3.6	2.4	0.7	8.2	0.4	灰白色	完形	無磨削痕跡	ストレイパー?	
		P-46-c区	20	V b割	石礫	(4.0)	1.1	0.7	7.9	0.4	灰褐色	完形	破損・破損	機能上? 上下両面割	
T-41E区	27	V 1割	石礫	(3.2)	3.0	1.3	9.1	0.4	灰褐色	完形	破損・研削				
IV-38	177	F-39-a区	5	V b割	つまみ付ナイフ	6.7	2.8	1.0	10.5	0.4	灰白～灰褐色	完形	無磨削痕跡		
		L-36-a区	1	V b割	つまみ付ナイフ	(10.1)	3.1	1.5	23.7	0.4	灰褐色	完形	無磨削痕跡		
		O-36C区	*	V 1割	つまみ付ナイフ	4.6	(3.9)	1.2	18.7	0.4	灰褐色	完形	無磨削痕跡・破損?		接合
		O-33C区	28	V 2割	つまみ付ナイフ	(7.2)	5.2	1.3	14.9	0.4	灰褐色	半完形	無磨削痕跡		
		P-46-c区	7	V b割	つまみ付ナイフ	5.5	3.2	1.4	20.8	0.4	灰褐色	完形	無磨削痕跡		
		R-43C区	8	V 1割	つまみ付ナイフ	5.1	(4.3)	0.8	11.2	0.4	灰褐色	完形	無磨削痕跡・破損?		
		R-45C区	30	V 3割	つまみ付ナイフ	7.8	3.8	2.2	15.4	0.4	灰褐色	完形	無磨削痕跡		
		S-46-b区	25	V b割	つまみ付ナイフ	6.8	2.1	0.8	8.0	0.4	灰褐色	完形	無磨削痕跡		
		S-46-b区	24	V b割	つまみ付ナイフ	7.3	2.8	1.0	11.1	0.4	灰褐色	完形	無磨削痕跡		
		S-46-b区	29	V b割	つまみ付ナイフ	8.4	3.0	1.3	35.3	0.4	灰褐色	完形	無磨削痕跡		石面?
IV-39	178	S-46-b区	30	V b割	つまみ付ナイフ	7.2	2.6	1.1	16.9	0.4	灰褐色	完形	無磨削痕跡		石礫・ナイフ?
		P-47C区	18	V 割	つまみ付ナイフ	4.9	(3.0)	1.0	11.8	0.4	灰褐色	半完形	無磨削痕跡・破損?		
		A-44-c区	1	無割	ストレイパー	8.9	6.4	1.8	13.2	0.4	灰褐色	完形	無磨削痕跡		3/4ストレイパー?
		C-44-d区	7	V a割	ストレイパー	7.3	5.3	1.8	31.3	0.4	灰褐色	完形	無磨削痕跡		サイドストレイパー
		C-44-c区	8	V b割	ストレイパー	5.7	4.8	1.2	22.2	0.4	灰褐色	完形	無磨削痕跡		サイドストレイパー
		D-43-d区	22	V a割	ストレイパー	7.0	4.5	1.5	43.7	0.4	灰褐色	完形	無磨削痕跡		2/3ストレイパー?
		D-43-d区	23	V b割	ストレイパー	6.3	3.4	2.1	34.7	0.4	灰褐色	完形	無磨削痕跡		サイドストレイパー
		E-44-a区	19	無割	ストレイパー	4.8	4.5	1.6	25.8	0.4	灰褐色	完形	無磨削痕跡		サイドストレイパー
		E-44-c区	14	無割	ストレイパー	7.1	7.3	1.6	63.1	0.4	灰褐色	完形	無磨削痕跡		サイドストレイパー
		F-43-d区	3	V a割	ストレイパー	6.7	3.2	1.4	23.4	めのう	灰褐色	完形	無磨削痕跡・破損?	サイドストレイパー	
G-45-a区	4	V b割	ストレイパー	8.3	6.2	1.5	63.5	めのう	灰褐色	完形	無磨削痕跡		サンド・サイドストレイパー		

区	区番号	区名	出土グリッド	遺物番号	層位	器種	計測値 (cm)			質量 (g)	名物	形状・構造	残存形態	使用度	備考
							最大径	最大幅	最大厚						
IV-40	60		H-42-d区	24	Vb層	スレイバー	4.6	6.8	1.4	30.4	めものう	完形?	無断削痕跡・破損?	エンドスレイバー	
	61		J-43-b区	3	Va層	スレイバー	7.2	6.8	1.4	39.8	貝殻 褐色	完形	無断削痕跡・破損?	サイドスレイバー	
	62		J-38-b区	5	Va層	スレイバー	6.1	5.3	2.4	39.4	貝殻 褐色 溝状凹み	完形	無断削痕跡	エンド・サイドスレイバー	
	63		J-42-d区	16	Va層	スレイバー	4.9	2.4	0.9	5.1	黒色の珪石 溝状凹み	完形	無断削痕跡	サイドスレイバー 石磨? 石撈?	
	64		K-38-d区	4	Vb層	スレイバー	8.2	5.1	1.5	54.8	貝殻 褐色 溝状凹み	完形	無断削痕跡	サイドスレイバー	
	65		L-40-d区	1	Vb層	スレイバー	4.6	4.4	1.3	22.0	珪石 溝状凹み	完形	無断削痕跡	サイドスレイバー	
	66		N-38区	8	V3層	スレイバー	9.5	7.5	1.8	77.4	貝殻 (褐色)	完形	無断削痕跡	サイドスレイバー	
	67		N-40区	3	V1層	スレイバー	(4.9)	4.4	1.0	18.2	珪石の少 量の欠片	単完形?	無断削痕跡・破損	サイドスレイバー	
	68		N-39区	19	Va層	スレイバー	4.5	1.6	0.8	3.9	珪石の少 量の欠片	完形	無断削痕跡	サイドスレイバー	
	69		P-42区	2	Va層	スレイバー	11.5	8.0	2.8	210	珪石 褐色	完形	無断削痕跡	サイドスレイバー	
IV-61	70		P-39区	6	Va層	スレイバー	5.9	2.4	1.2	10.4	珪石+ 褐色	完形	無断削痕跡・破 損?	サイドスレイバー	
	71		Q-42区	43	V2層	スレイバー	6.2	4.3	1.6	36.4	貝殻 褐色	完形?	無断削痕跡・破損?	エンド・サイドス レイバー	
	72		R-43区	16	V1層	スレイバー	11.4	3.8	1.6	49.5	貝殻 褐色	完形	無断削痕跡	サイドスレイバー	
	73		R-46-c区	5	Vb層	スレイバー	(5.2)	3.4	1.4	18.5	貝殻 褐色	完形?	無断削痕跡・破損	サイドスレイバー	
	74		R-48区	2	V層	スレイバー	(5.0)	3.5	1.6	18.7	貝殻+ 石片 褐色	単完形?	無断削痕跡・破損	サイドスレイバー	
	75		S-40区	2	Va層	スレイバー	4.0	(6.1)	2.2	45.7	貝殻 褐色	完形?	無断削痕跡・破損?	エンドスレイバー	
	76		S-50-b区	8	Vb層	スレイバー	7.2	5.2	1.3	43.6	貝殻 褐色	単完形	無断削痕跡・破損	サイドスレイバー	
	77		S-43区	11	V1層	スレイバー	3.7	3.0	1.0	8.7	貝殻 褐色	完形	無断削痕跡	コウダスレイバー	
	78		T-42区	29	V4層	スレイバー	4.6	4.4	1.5	29.5	めものう 灰白色 結 晶化跡?	完形	無断削痕跡	ラウンドスレイ バー	
	79		C-43-c区	11	Va層	スレイバー	8.4	2.9	1.2	31.4	貝殻 褐色	完形	無断削痕跡	サイドスレイバー	
IV-62	80		D-43-d区	6	Va層	スレイバー	8.4	3.9	1.3	31.5	貝殻 褐色	完形	無断削痕跡	サイドスレイバー	
	81		D-43-d区	31	Vb層	スレイバー	7.1	(3.8)	1.6	35.4	貝殻 褐色	単完形	無断削痕跡・破損	サイドスレイバー	
	82		D-43-c区	7	Vb層	スレイバー	7.9	3.3	1.2	38.1	貝殻 褐色	完形	無断削痕跡	サイドスレイバー	
	83		E-42-c区	4	Va層	スレイバー	6.6	4.0	1.1	17.8	貝殻 褐色	完形	無断削痕跡	サイドスレイバー	
	84		H-44-a区	6	Vb層	スレイバー	7.7	3.1	1.0	27.2	貝殻 褐色	単完形	無断削痕跡・破損	サイドスレイバー	
	85		K-38-d区	6	Vb層	スレイバー	6.2	3.2	1.1	16.0	貝殻 褐色	完形	無断削痕跡	サイドスレイバー	
	86		L-36-b区	1	Vb層	スレイバー	8.1	3.7	1.6	33.4	貝殻 褐色	完形	無断削痕跡	サイドスレイバー	
	87		O-34区	9	V7層	スレイバー	3.8	3.0	1.0	11.0	貝殻 褐色	完形	無断削痕跡	サイドスレイバー	
	88		P-44-a区	3	V3層	スレイバー	(6.3)	2.6	1.1	15.2	貝殻 褐色	単完形	無断削痕跡・破損 残けはじけ?	サイドスレイバー	
	89		Q-38区	13	V3層	スレイバー	8.7	3.6	1.3	31.1	貝殻 褐色	完形	無断削痕跡	サイドスレイバー	
IV-63	90		Q-38区	12	V3層	スレイバー	8.0	2.6	1.5	21.5	貝殻 褐色	完形	無断削痕跡	サイドスレイバー	
	91		S-46-b区	11	Vb層	スレイバー	6.5	4.3	1.1	16.5	貝殻 褐色	完形	無断削痕跡	サイドスレイバー	
	92		K-38-d区	5	Va層	スレイバー	5.6	1.5	0.7	4.2	貝殻 褐色	完形	無断削痕跡・破損	石磨? 撈合	
	93		M-38-a区	4	Vb層	スレイバー	(3.5)	1.2	0.8	2.4	貝殻 褐色	単完形	無断削痕跡・破損	石磨?	
	94		P-38区	4	Va層	スレイバー	(3.5)	1.2	0.8	2.4	貝殻 褐色	単完形	無断削痕跡・破損	石磨?	

表32 包含層出土磨製石器群観察表

調査年度	出土グリップ	遺物番号	種別	部位	器種	計測値 (cm)			重量 (g)	石材	形状・色調・表面	残存形状	使用痕	加工痕	備考
						最大長	最大幅	最大厚							
IV-63	R-11-a区	37	V a 類	1	磨製石斧	13.9	4.9	2.2	224	片岩	黄褐色・褐色	半定形	破損	磨製痕	
	E-16a区	3	V b 類	1	磨製石斧	13.9	4.9	2.2	220	片岩	黄褐色・褐色	半定形	破損	磨製痕	
	I-44-a区	8	V b 類	1	磨製石斧	10.9	4.5	2.6	225	凝岩	緑灰色・灰白色	半定形	破損? (使用?)	磨製痕	
	J-45-b区	1	V b 類	1	磨製石斧	(9.6)	4.8	2.2	160	凝岩	黄褐色・褐色	半定形	破損	磨製痕	
	K-35-c区	2	V b 類	1	磨製石斧	(9.0)	7.3	3.0	280	凝岩	灰白色・黄褐色	半定形	破損	磨製痕	
	L-46a区	4	V 類	1	磨製石斧	7.8	4.3	1.4	65.0	凝岩	黄褐色・褐色	変形?	破損	磨製痕	
IV-64	P-45-b区	2	V a 類	1	磨製石斧	14.4	4.3	2.2	180	凝岩	オリーブ色・褐色	*	*	磨打痕 (打ち欠き痕)	研製痕
	P-47区	34	V 類	1	磨製石斧	9.4	4.0	2.3	150	凝岩	緑灰色・褐色	変形	破損? (使用?)	磨製痕	
	P-46-c区	33	V b 類	1	磨製石斧	(5.6)	3.4	1.5	46.8	凝岩	緑灰色	半形	破損	磨製痕 (使用?)	研製痕
	O-42区	32	V 類	1	磨製石斧	9.4	4.1	2.3	120	凝岩	オリーブ色・褐色	変形	鈍角	磨打痕	研製痕
	S-40区	35	V 類	1	磨製石斧	8.3	3.3	1.5	72.0	片岩	黄褐色・褐色	変形	鈍角	磨打痕	研製痕
	Q-42区	37	V 類	1	磨製石斧	8.0	1.9	1.0	13.4	凝岩	黄褐色	変形	鈍角	磨打痕	研製痕
	T-37区	4	V 類	1	磨製石斧	(7.0)	1.8	0.9	30.7	片岩	黄褐色・褐色	半定形	破損	鈍角	研製痕

表33 包含層出土礫石器群観察表

調査年度	出土グリップ	遺物番号	種別	部位	器種	計測値 (cm)			重量 (g)	石材	形状・色調・表面	残存形状	使用痕	加工痕	備考	
						最大長	最大幅	最大厚								
IV-65	R-10a区	8	V 類	1	扁平打製石器	8.2	15.9	3.4	540	安山岩	灰褐色・黄褐色	変形	鈍角	打ち欠き痕	行跡跡	
	T-40-a区	31	V b 類	1	扁平打製石器	9.7	16.7	3.8	850	安山岩	灰褐色	変形	すりばね・鈍角	打ち欠き痕		
	I-42-c区	11	V a 類	1	扁平打製石器	11.2	19.0	3.8	880	安山岩	灰褐色	半定形	すりばね・鈍角	打ち欠き痕		
	I-42-a区	10	V b 類	1	扁平打製石器	7.9	15.4	2.9	610	安山岩	灰褐色	変形	すりばね・鈍角	打ち欠き痕		
	J-42-a区	12	V b 類	1	扁平打製石器	8.5	17.6	3.2	690	安山岩	灰白色	変形	すりばね・鈍角	打ち欠き痕		
	O-41-b区	15	V b 類	1	扁平打製石器	8.0	14.9	3.5	590	安山岩	灰白色	変形	すりばね・鈍角	打ち欠き痕		
	Q-46-c区	19	V b 類	1	扁平打製石器	8.3	14.9	2.2	430	安山岩	緑灰色	変形	鈍角	打ち欠き痕	行跡跡	
	G-43-d区	4	V b 類	1	扁平打製石器	10.0	15.7	2.9	430	安山岩	に白い黄褐色	変形	鈍角・緑褐色・黄褐色・赤褐色・黒褐色 (5/4/3/2/1)	打ち欠き痕	接合 行跡跡	
	G-43区	8	V 類	1	扁平打製石器	8.9	15.4	2.3	510	安山岩	灰褐色	変形	すりばね・鈍角	打ち欠き痕		
	D-41-c区	59	V c 類	1	扁平打製石器	8.5	14.4	2.1	330	角閃石 安山岩	灰白色	変形	すりばね・鈍角	打ち欠き痕		
	L-39-a区	12	V b 類	1	扁平打製石器	8.6	15.4	2.3	350	安山岩	褐色	変形	すりばね・鈍角	打ち欠き痕		
	G-41-a区	11	V b 類	1	扁平打製石器	10.0	15.9	3.1	700	流石部・ 安山岩 (緑褐色)	変形	すりばね・鈍角	打ち欠き痕			
	D-43-a区	59	V b 類	1	扁平打製石器	9.0	16.2	3.2	800	安山岩	(灰色)	変形	すりばね・鈍角	打ち欠き痕		
	IV-66	H-43-d区	14	V b 類	1	扁平打製石器	8.6	14.4	3.7	670	安山岩	灰~緑色	変形	すりばね・鈍角	打ち欠き痕	
H-41-c区		7	V a 類	1	扁平打製石器	8.1	13.7	2.5	330	安山岩	灰~緑色	変形	すりばね・鈍角	打ち欠き痕		
R-10a区		6	V a 類	1	扁平打製石器	8.0	15.2	2.9	630	安山岩	褐色・緑褐色	変形	すりばね・鈍角	打ち欠き痕		
O-42区		27	V 類	1	扁平打製石器	9.3	15.8	3.7	700	安山岩	緑灰色	変形	すりばね・鈍角	打ち欠き痕		
I-44-a区		10	V a 類	1	扁平打製石器	9.9	(13.6)	5.0	800	安山岩	緑灰色	半定形	すりばね・鈍角	打ち欠き痕?	磨打痕	
S-30-b区		13	V b 類	1	扁平打製石器	12.0	16.6	3.2	1,050	安山岩	灰白色・褐色	変形	すりばね・鈍角	打ち欠き痕		
H-42-c区		13	V b 類	1	扁平打製石器	10.6	14.7	4.0	820	安山岩	緑褐色 多孔質	変形	すりばね・鈍角	打ち欠き痕?	磨打痕	
H-41-b区		11	V b 類	1	扁平打製石器	9.4	17.5	4.0	1,030	安山岩	灰褐色	変形	すりばね	打ち欠き痕		
F-43-a区		18	V b 類	1	扁平打製石器	11.3	15.4	3.2	800	安山岩	灰褐色	変形	すりばね・鈍角	打ち欠き痕		
F-43-a区		15	V b 類	1	扁平打製石器	9.3	16.4	3.2	830	安山岩	灰褐色	変形	すりばね・鈍角	打ち欠き痕		
F-42-c区		5	V a 類	1	扁平打製石器	9.3	18.3	2.5	720	安山岩	灰褐色	変形	すりばね・鈍角	打ち欠き痕	磨打痕	
G-43-d区		5	V b 類	1	扁平打製石器	8.5	14.8	3.9	590	安山岩	灰褐色	変形	すりばね・鈍角	打ち欠き痕	磨打痕	
x-43-d区		16	V b 類	1	扁平打製石器	8.0	(11.2)	4.7	540	安山岩	灰白色 多孔質	変形	すりばね・鈍角	打ち欠き痕	磨打痕	
IV-67		K-41-c区	8	V b 類	1	扁平打製石器	11.1	18.2	2.8	800	安山岩	緑灰色	変形	すりばね・鈍角	打ち欠き痕	接合
	L-45-c区	4	V 類	1	扁平打製石器											
	F-42-a区	3	V a 類	1	扁平打製石器	8.5	15.8	4.4	690	安山岩	に白い黄褐色 褐色	変形	すりばね・鈍角	打ち欠き痕	磨打痕	接合
	H-43-c区	18	V b 類	1	扁平打製石器											
	I-40-c区	4	V b 類	1	扁平打製石器	7.7	17.6	2.6	520	安山岩	灰褐色 緑褐色	半定形?	すりばね・鈍角	打ち欠き痕	接合	
	I-41-c区	10	V b 類	1	扁平打製石器											
165	C-40-d区	10	V a 類	1	扁平打製石器	9.7	17.6	4.9	850	安山岩	黄褐色	変形?	すりばね・鈍角	打ち欠き痕	接合	
	F-30-b区	13	V a 類	1	扁平打製石器	7.6	13.2	2.7	290	凝岩?	に白い黄褐色 褐色	変形	すりばね・鈍角	打ち欠き痕	小部品	

掲載番号	図 番号	図例	出土グループ	遺物番号	層位	破片数 小計 合計	器種	計測値 (cm)			重量 (g)	石材 名称 色調・特徴	保存状態	使用痕	加工痕	備考	
								最大長	最大幅	最大厚							
IV-67	32		F-03-b区	11	V b層	1	扁平打製石器	6.8	(12.0)	2.4	280	安山岩	浅黄褐色	変形	すり痕 割落痕・破損	打ち欠き痕 磨削痕	小型品
	33		P-1区	8	新土上	1	扁平打製石器	7.0	13.6	2.6	440	安山岩	灰黄褐色 黄化	変形	すり痕・割落痕	打ち欠き痕 磨削痕	小型品?
	34		N-1区	6	V 1層	1	扁平打製石器	6.7	11.9	2.7	310	安山岩	褐色色	変形	すり痕	*	小型品 石線?
	35		L-01-d区	9	V b層	1	扁平打製石器	7.4	11.1	2.3	260	安山岩	灰黄褐色	変形	すり痕	打ち欠き痕	小型品
	36		T-09-d区	28	V b層	1	扁平打製石器	8.8	(11.7)	3.3	370	角閃石 灰白色	変形	すり痕・割落痕	打ち欠き痕		
IV-68	37		H-05-b区	8	V層	1	扁平打製石器	7.3	12.6	3.6	400	安山岩	こげ茶色 多孔質	変形	すり痕	磨削痕 打ち欠き痕	破損品
	38		P-1区	81	新土上	1	北海道式石刃	9.8	12.9	4.0	630	安山岩	黄褐色	変形	すり痕 割落痕・破損	磨削痕 打ち欠き?	
	39	180	R-1区	23	V 1層	1	北海道式石刃	10.4	(12.2)	6.3	1,230	安山岩	褐色色	準変形	すり痕 割落痕・破損 磨削痕 熱風酸化 緑色(当YR7/4)	磨削痕	
	40		D-03-a区	46	V b層	1	北海道式石刃	9.0	(13.5)	5.8	1,030	閃輝石 灰白色	準変形	すり痕 割落痕・破損	磨削痕	細頭・破損?	
	41		C-03-c区	48	V a層	1	北海道式石刃	10.8	(15.5)	8.8	1,810	安山岩	灰白色	準変形	すり痕 割落痕・破損	磨削痕	
	42		D-01-c区	8	V b層	1	北海道式石刃	9.4	13.6	6.3	1,110	安山岩	褐色色	変形	すり痕・割落痕	磨削痕	
	43		I-01-a区	11	V b層	1	北海道式石刃	11.1	(11.8)	5.9	980	安山岩	褐色色 石線	準変形	すり痕・破損	磨削痕	
	44		Q-06-b区	23	V b層	1	北海道式石刃	12.5	(12.8)	7.9	1,590	安山岩	こげ茶色 多孔質 黄化	準変形	すり痕 割落痕・破損	磨削痕	
	45		P-06-c区	34	V b層	1	北海道式石刃	8.7	(15.1)	4.2	840	安山岩	浅黄褐色	変形	すり痕・割落痕	磨削痕	
	46		K-02-b区	3	V b層	1	北海道式石刃	12.0	(13.1)	5.1	1,180	安山岩	灰褐色	準変形	すり痕 割落痕・破損	磨削痕	
	47		D-02-c区	18	福部木 掘削土	1	北海道式石刃	9.1	(13.1)	6.5	1,040	安山岩	こげ茶色 石線	変形	すり痕・破損	磨削痕	
	48		E-03-c区	19	V層	1	北海道式石刃	9.7	(14.8)	7.3	1,520	安山岩	灰白色	準変形	すり痕 割落痕・破損	磨削痕	
	49		E-03-a区	11	V b層	2	北海道式石刃	12.9	17.3	5.7	1,510	安山岩	黄褐色 多孔質	変形	すり痕・割落痕	磨削痕	(接合)
	50	187	E-20-c区	9	V層	1	北海道式石刃	9.7	(14.2)	5.9	1,230	安山岩	灰白色	準変形	すり痕・割落痕	磨削痕	
	IV-69	51		H-02-c区	3	V b層	1	北海道式石刃	8.6	(13.4)	8.2	1,120	安山岩	黄褐色	準変形	すり痕 割落痕・破損	磨削痕
52			S-08-c区	10	V b層	1	北海道式石刃	9.6	(12.0)	6.0	550	安山岩	灰黄色	変形	すり痕・割落痕	磨削痕	小型品
53			F-06区	21	V層	1	北海道式石刃	10.8	14.2	3.9	830	安山岩	灰白色	変形	すり痕・割落痕?	磨削痕	
54			H-01-b区	8	V層	1	北海道式石刃	7.5	11.6	3.8	440	安山岩	こげ茶色	変形	すり痕・割落痕	磨削痕	
55			E-05-c区	10	V b層	1	北海道式石刃	9.9	(11.5)	5.9	1,030	安山岩	褐色色	準変形	すり痕 割落痕・破損	磨削痕	
56			F-03-d区	14	V b層	1	北海道式石刃	9.4	(14.2)	4.6	700	安山岩	灰白色 多孔質	準変形	すり痕 割落痕・破損	磨削痕	
57			E-05-c区	9	V層	1	北海道式石刃	8.7	12.8	4.6	610	安山岩	褐色色 多孔質	変形	すり痕・割落痕	磨削痕	
58		180	H-02-a区	47	V b層	1	北海道式石刃	9.2	11.5	3.4	710	安山岩	こげ茶色	変形	すり痕・割落痕	磨削痕	
59			H-05-d区	9	V層	1	北海道式石刃	8.7	(13.9)	4.4	630	安山岩	灰白色	準変形	すり痕 割落痕・破損	磨削痕	
60			G-04-c区	4	V b層	1	北海道式石刃	7.7	(10.9)	4.5	390	安山岩	こげ茶色	準変形	すり痕 割落痕・破損	磨削痕	
IV-70	61		L-1区	12	V層	1	北海道式石刃	13.7	(9.1)	(6.5)	530	安山岩	こげ茶色	片	すり痕・破損	磨削痕	
	62		J-20-a区	3	V b層	1	北海道式石刃	11.4	(15.1)	5.7	1,400	安山岩	褐色色	準変形	すり痕 割落痕・破損	磨削痕	接合
	63		J-01-b区	3	V a層	1	北海道式石刃	11.8	14.7	4.5	1,170	角閃石 安山岩	灰黄色 黄化	変形	すり痕 割落痕・破損	磨削痕	接合
	64		A-01-a区	9	V b層	1	北海道式石刃	9.0	15.3	4.9	940	安山岩	灰白色 多孔質	変形	すり痕 割落痕・破損	磨削痕	打ち欠き痕?
	65		D-20-a区	1	V b層	1	北海道式石刃	9.0	15.9	6.7	1,220	安山岩	黄褐色	変形	すり痕 割落痕・破損	磨削痕	接合
	66		G-20-d区	7	V b層	1	北海道式石刃	9.0	15.9	6.7	1,220	安山岩	黄褐色	変形	すり痕 割落痕・破損	磨削痕	接合
	67		E-04-c区	9	V b層	1	北海道式石刃	9.8	13.9	6.7	1,390	安山岩	灰黄色	変形	すり痕 割落痕・破損	磨削痕	接合
	68		F-04-b区	1	V b層	1	北海道式石刃	9.8	13.9	6.7	1,390	安山岩	灰黄色	変形	すり痕 割落痕・破損	磨削痕	接合
	69	180	I-02-d区	12	V b層	1	北海道式石刃	10.0	(12.5)	4.6	650	安山岩	浅黄褐色	準変形	すり痕 割落痕・破損	磨削痕	接合
	70		K-03-d区	9	V b層	1	北海道式石刃	9.6	14.7	7.3	1,240	安山岩	灰白色	変形	すり痕 割落痕・破損	磨削痕	接合
IV-71	71		D-04-d区	26	V b層	1	北海道式石刃	9.6	14.7	7.3	1,240	安山岩	灰白色	変形	すり痕 割落痕・破損	磨削痕	接合
	72		E-00-a区	21	V b層	1	北海道式石刃	9.6	14.7	7.3	1,240	安山岩	灰白色	変形	すり痕 割落痕・破損	磨削痕	接合
	73		H-01-b区	9	V層	1	北海道式石刃	6.8	13.7	4.5	440	安山岩	褐色色 多孔質	変形	すり痕・破損	磨削痕	接合
IV-72	74		I-20-b区	4	V a層	1	北海道式石刃	9.0	15.9	6.7	1,220	安山岩	黄褐色	変形	すり痕 割落痕・破損	磨削痕	接合
	75		Q-3区	5	V 5層	1	石線	11.6	15.2	4.2	1,090	安山岩	灰黄色	変形	*	打ち欠き痕	
	76		F-01-c区	6	V b層	1	石線	11.6	16.3	4.9	1,300	安山岩	灰白色	変形	*	打ち欠き痕	
77		R-1区	26	V 3層	1	石線	11.5	18.6	5.0	1,560	安山岩	灰白色	変形	*	打ち欠き痕 磨削痕		

機軸番号	図	番号	図面	出土グループ	遺物番号	層位	破片数 小計	群種	計測値 (cm)			重量 (g)	石材 名称	色調・模様	保存 形態	使用痕	加工痕	備考		
									最大長	最大幅	最大厚									
IV-72	75			R-43区	27	V 3 層	1	1	石類	10.7	16.9	3.9	1,090	灰山岩	にぶい 黄褐色 酸化	変形	磨滅?	打ち欠き痕 縦行痕?		
	76			D-43-c 区	25	V a 層	1	1	石類	6.4	10.9	2.4	240	灰山岩	にぶい 黄褐色 酸化	変形	*	打ち欠き痕 縦行痕?		
	77			T-46-c 区	17	V b 層	1	1	石類	5.5	7.4	2.7	210	灰山岩	灰黄色	変形	*	打ち欠き痕		
	78			O-43区	21	V 2 層	1	1	石類	7.8	11.9	2.7	350	灰山岩	にぶい 黄褐色 酸化	変形	磨滅	打ち欠き痕		
	77			P-43区	19	V 1 層	1	1	石類	5.7	9.6	2.2	190	灰山岩	にぶい 黄褐色 酸化	変形	すり痕・磨滅	打ち欠き痕	小型品	
IV-75	78			K-43-d 区	4	V b 層	1	1	たたき石	7.3	7.7	5.5	300	灰山岩	にぶい 黄褐色 酸化	変形	たたき痕	*		
	79			Q-43区	28	V 層	1	1	たたき石	(9.2)	3.5	3.8	210	灰山岩	灰色	新形?	たたき痕	*		
	80			C-42-d 区	25	V 層	1	1	たたき石	12.9	5.8	5.0	520	灰山岩	灰色	変形	たたき痕	*		
	81			I-42-d 区	15	V b 層	1	1	たたき石	13.7	5.9	2.9	320	灰山岩	灰黄色	変形	たたき痕	*		
	82			O-43区	18	V 3 層	1	1	たたき石	8.1	5.6	4.6	260	灰山岩	にぶい 黄褐色 酸化	変形	たたき痕	*		
	83			R-43区	78	V 4 層	1	1	たたき石	12.2	5.1	3.0	240	灰山岩	黄褐色	変形	たたき痕	*		
	85	10-1		B-42-b 区	11	V b 層	1	1	磁石	13.2	13.1	4.0	890	磁石	褐色 磁石	新形?	すり痕・破損?	*		
	86	10-2		R-47-a 区	18	V a 層	1	1	磁石	19.0	10.5	4.7	1,240	磁石	褐色 磁石	新形?	すり痕・破損	*		
	84	10-3		B-42-b 区	6	V 層	1	1	陶片石	11.5	8.5	2.7	320	灰山岩	灰黄色 酸化	変形	たたき痕 (断面見出し)	*		
	IV-76	1	10-1		S-46-a 区	1	V b 層	1	1	台石・石組	(24.2)	(19.0)	10.6	6,500	灰山岩	灰黄色	片	すり痕・平酸化面 破損・剥落痕?	*	
2		10-2		F-46-a 区	12	基層	1	1	台石・石組	20.8	(12.5)	7.5	2,500	灰山岩	黄褐色	半形	平酸化面 破損	*		
3		10-3		Q-43区	97	V 4 層	1	1	台石・石組	(23.9)	(15.0)	11.1	4,500	灰山岩	浅黄色	片	平酸化面	縦行痕?		
4		10-4		Q-43区	113	V 3 層	1	1	台石・石組	21.5	17.0	5.5	2,500	灰山岩	黄褐色	変形	平酸化面	*		
5		10-5		C-44-c 区	30	V b 層	1	1	台石・石組	35.2	(29.8)	14.9	22,000	灰山岩	黄褐色	半形	すり痕・平酸化面・ 破損	*		
IV-75	6	10-6		P-40-d 区	7	V b 層	1	1	台石・石組	44.0	28.5	10.8	15,000	角閃石 灰山岩	灰黄色	変形	すり痕・剥落痕	打ち欠き痕?		
	7	10-7		H-45-a 区	8	V b 層	1	1	台石・石組	35.7	37.5	14.3	28,000	灰山岩	浅黄色	変形	平酸化面・剥落痕	*		

表34 包含層出土石製品観察表

機軸番号	図	番号	図面	出土グループ	遺物番号	層位	群種	計測値 (cm)			重量 (g)	石材 名称	色調・模様	保存 形態	使用痕	加工痕	備考	
								最大長	最大幅	最大厚								
IV-76	1			S-43区	V a 層	6	石製品	(3.0)	4.9	1.3	10.7	瀬灰岩	灰白色	変形	磨滅	打ち欠き痕	三層石	
	2			S-41区	V 2 層	35	石製品	4.5	4.7	1.7	10.7	瀬灰岩	灰白色	変形	磨滅	打ち欠き痕	三層石	
	3			P-43区	V 1 層	16	石製品	4.9	6.2	1.5	19.7	瀬灰岩	灰白色	変形	*	打ち欠き痕	三層石	
	4			S-42区	V 3 層	27	石製品	5.4	5.7	1.3	12.7	瀬灰岩	灰白色	変形	磨滅	打ち欠き痕	三層石	
	5			O-43区	V 1 層	17	石製品	4.5	6.5	1.4	12.8	瀬灰岩	灰白色	変形	破損・磨滅	打ち欠き痕	三層石	
	6			Q-42区	V a 層	12	石製品	4.3	5.2	1.4	9.6	瀬灰岩	灰白色	変形	*	打ち欠き痕	三層石	
	7			Q-42区	V 2 層	64	石製品	3.5	4.3	1.2	6.5	瀬灰岩	灰白色	変形	磨滅	打ち欠き痕	三層石	
	8			S-42区	V a 層	7	石製品	2.3	3.0	0.6	1.8	瀬灰岩	灰白色	変形	*	打ち欠き痕	三層石 (小型品)	
	9			P-40区	V 2 層	16	石製品	5.7	2.9	1.6	12.5	瀬灰岩	灰白色	変形	磨滅	打ち欠き痕		
	10			M-44-b 区	V a 層	2	石製品	5.6	5.0	1.5	30.9	瀬灰岩	灰白色	変形	*	打ち欠き痕		
	11			S-38区	V 1 層	5	石製品	4.9	6.0	1.3	36.8	灰山岩・ 灰山岩	灰白色	変形	*	打ち欠き痕		
IV-77	12	10-1		P-39区	V a 層	8	石製品	(1.0)	(0.9)	(0.7)	0.8	凝灰 砂岩	黄褐色 凝灰	半形?	破損	磨滅	玉 彫り痕	
	13			N-44-b 区	V b 層	1	石製品	5.8	4.4	2.8	30.3	浮岩	灰色・黄褐色 多孔質	変形	*		(穿孔) 鉄研痕?	穿孔され た痕
	14			T-46-a 区	V b 層	4	石製品	10.6	6.6	4.0	140	浮岩	黄褐色 多孔質	変形	*		(穿孔) 鉄研痕?	穿孔され た痕
	15			T-38区	V 1 層	12	石製品	5.8	4.1	2.8	35.4	浮岩	灰黄褐色 多孔質	変形	*		(穿孔)	穿孔され た痕
	16			P-45-a 区	重層	5	石製品	6.8	4.5	4.1	170	灰山岩	灰白色	変形	*	縦行痕	北海道式 石	
	17			N-45-b 区	V b 層	8	石製品	6.2	8.8	3.4	240	灰山岩	にぶい 黄褐色 多孔質	変形	すり痕	縦行痕 打ち欠き痕?	磨滅 北海道式 石	
	18			R-41区	V 3 層	67	石製品	11.1	11.7	5.7	670	灰山岩	灰黄色 酸化	変形?	破損?	縦行痕	磨滅 北海道式 石	
	19			P-41区	V 3 層	27	石製品	15.6	14.0	5.3	1,470	灰山岩	灰黄色	変形?	破損?	縦行痕 鉄研痕	磨滅 北海道式 石	



## V 自然科学的分析

### 1 森町三次郎川右岸遺跡の動物遺体

金子浩昌

検出された動物遺体（表V-1）はすべて被熱骨で、強い加熱のために破損し、細片化した状態の骨が多かった。しかし、魚骨などは部分的に原形を止める骨格もあり、種の特徴を観察できることがあった。これらを同定、集計し、重量による比較から動物種間の埋存量の差異をみることにした（図V-2）。その結果、縄文時代中期中葉期、縄文時代後期前葉期、統縄文時代期のそれぞれの時期に特徴のあることが認識できた。

#### I 検出された動物遺体の種名表

脊椎動物門 Phylum VERTEBRATA

軟骨魚綱 Class Chondrichthyes

メジロザメ目 Order Carcharhiniformes

メジロザメ科 Family Carcharhinidae

科目不明 fam. Et gen. indet.

硬骨魚綱 Class Osteichthyes

ニシン目 Order Clupeiformes

ニシン科 Family Clupeidae

ニシン *Clupea pallasii*

サケ目 Order Salmoniformes

サケ科 Family Salmonidae

サケ類 *Oncorhynchus* sp.

カサゴ目 Order Scorpaeniformes

アイナメ科 Family Hexagrammidae

属種不明 gen. et sp. indet.

カレイ目 Order Pleuronectiformes

カレイ科 Family Pleuronectidae

属種不明 gen. et sp. Indet.

鳥綱 Class Aes

種不明 sp. Indet.

哺乳綱 Class Mammalia

ウシ目 Order Artiodactyla

イノシシ科 Family Suidae

イノシシ *Sus scrofa*

シカ科 Family Cervidae

ニホンジカ *Cervus nippon*

## II 時期別にみた動物遺体の検出状況

### 縄文中期中葉期（表V-2-1）

資料の総数は最も少なかった。

魚骨；サケ類椎骨片、棘片

鳥もしくは中形獣類片；わずかにあった。

大形獣類；

シカ、歯片と四肢骨片総重量195（g）

魚獣類をわずかに埋存していた。

### 縄文時代後期前葉（表V-2-2）

資料の総数はもっとも多かった。

魚骨；ネズミザメ類、ニシン、アイナメ類、カレイ類など種類も多かった。

鳥もしくは獣類；大形の水鳥類を含む。四肢骨片が多かった。

大形獣類；

イノシシ、右側下顎骨が1点

シカ、四肢骨破片。重量比によると鳥骨などよりも少なかった。

獣骨よりも魚鳥骨の多いことが特徴のようである。

### 続縄文時代期（表V-2-3）

資料の総数は縄文後期前葉期と比べ、やや少ない程度であった。

魚骨；標本は縄文中期所屬と比べてやや多い程度で、少なかった。鰭棘などの破片のみで魚種を認定する標本は検出できなかった。

鳥もしくは小～中形獣類；相当すると考えられる標本はわずかだった。

大形獣類；

イノシシ、桡側手根骨のほぼ完存する標本1点があった。これについては下顎骨を検出した後期層に由来する疑念もある。

シカ、シカの四肢骨片が多く確認された。近・遠位の骨端の確認された標本もある。

シカ主体の獣骨が主な動物遺体であったことが推測される。

## III 森町三次郎川右岸遺跡の動物遺体

上述したように縄文時代中期中葉期、縄文時代後期前葉期、続縄文時代期の三時期の焼骨を主とする標本があったが、それぞれの内容は同じでなく、時期的な特徴のうかがえたのは注目される。すなわち縄文中期は標本全体が少なかったが、サケ類があり、シカの遺骸を主としていた。後期ではサメ類、ニシン、アイナメ、カレイ類などの海産魚の遺骸があったことは特徴的であり、獣骨にはイノシシとシカがあった。こうした動物遺体差がそれぞれの時期の生業の差違を示すことは考え得ることである。しかし、いっぽうで骨を焼くよう行為が変わりなく続いていることもよみとれ、改めてその目的とするところの意義を考えさせるのである。

## 一特記事項一 三次郎右岸遺跡（北海道茅部郡森町）P-81覆土中位出土のイノシシ

調査したのは破損した2片のイノシシの臼歯片であるが、1点については別にブロックがあるということである。

## 1. 右側下顎第2後臼歯

存標本ではなく臼歯の舌側の第1、2咬頭の部分であって、現状はかなり破損の著しい状態である。別に同じ臼歯の破片とみられる小片が8点あり、もとは完存した臼歯があったものと思われる。

臼歯は大きく、咬耗は進行していない状態である。おそらくエナメル質が咬面で、平滑面をつくる程度で、穿孔するような段階には至っていないと思われる。とすれば、第2大臼歯が萌出した直後位で、生後1歳前後と推定される。

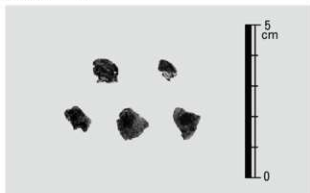
2. 本標本についてはなお別に未補修ブロックがあるので、それとの接合の結果による検討があるが、現状では第3大臼歯の未萌出歯の一部であろう。この歯は歯槽内に完全に埋没した状態であったと思われる。

上記2標本は同一個体と考えられており、1歳前後の個体である。第2大臼歯のサイズは大形で、縄文イノシシに一致するであろう。この段階であると第4乳臼歯が残植していると思われる。

北海道縄文遺跡からのイノシシ遺骸の検出は道南～道央地域の貝塚から知られ（道東にも及ぶ）、最近では内陸部の遺跡からも知られてきた。縄文後、晩期遺跡での検出例が多いことから、本遺跡のイノシシの所属年代が目される（縄文時代後期前葉）。筆者の調査した遺跡で苫小牧市柏原5遺跡（後期）ではM2の未萌出段階からエナメル質咬耗段階という1歳前後の個体と、M3萌出開始期の1.5歳個体があった。乙部町三ツ谷貝塚（晩期）の例ではそれよりも若い第4乳臼歯と第1大臼歯の萌出段階0.5歳の顎骨が目立っていた。全体的に若い個体の目立つのが特徴である。こうしたことからイノシシの飼育を考える見方もあり、それを否定することはできないが、イノシシ遺骸の検出が後晩期の一時期のみのことであることも事実のようである。また本州でもこの頃イノシシ飼育を支持する考古学的な証拠はない。ただイノシシを対象とした祭祀的な行為はいろいろなかたちであった。それらが北海道にまで拡がったという見方はできると思う。

注）図版V-1は同定前に撮影したものである。出土時点で保存状態が極めて悪く、撮影後にさらに破片化した。

図版V-1



P-81出土イノシシ臼歯片

表V-1-1 森町三次郎川右岸 動物遺存体同定結果(1)

同定 金子 浩昌

試料番号	サンプル番号	遺体名	試料名称	層位	時期	動物遺存体保存状態 重量(g)	分類	部位(注1は「又は」の 意味)	部分(鏡片は具体 的な部分からわら ないもの)	数量	重量(g)	備考		
S U 1	1-1	C-44-b区	焼土	縄縄文時代	37,050	シカ	角類	角類/動物骨	鏡片	3	0.012			
								中手骨	鏡片	1	0.187			
								中足骨	近位端鏡片	1	0.692			
								本趾骨	鏡片	1	0.518			
								大趾骨	骨体前面部	1	0.329			
							シカを主とする獣	シカを主とする獣骨の鏡片	鏡片	1130	35,060	鏡鏡片多し		
							鹿	不明	鏡片	2	0.05			
							猪	不明	鏡片	2	0.191			
							鳥類	脚趾骨	鏡片	2	0.509			
							鳥類/中型鏡片	不明	鏡片	25	0.289			
								基節骨	遠位端	1	0.297			
								踵骨の一部	鏡片	1	0.175			
S U 2	1-4	D-44-a区	焼土	縄縄文時代	231,021	シカ	シカ	中手骨	鏡片	2	1.128			
								中足骨	鏡片	1	0.458			
								中手/中足骨	鏡片	3	1.363			
								角	鏡片	2	0.811			
								蹄骨	鏡片	7	0.353			
								蹄骨	鏡片	1	0.228			
								種子骨	鏡片	4	1.025	同様のもの		
									臼歯	歯根鏡片	5	0.102	同一のものの鏡片	
								シカを主とする獣	シカを主とする獣骨の鏡片	鏡片	643	223,472	他に蹄骨多数含む	
								鳥類	脚趾骨/動物骨	鏡片	1	0.061		
								鳥類/中型鏡片	不明	鏡片	29	0.361		
								イノシシ	手鏡骨	鏡骨側	1	0.649		
									中手骨	鏡片	2	0.53		
	手鏡骨	左六骨側	1	1.261										
	中足骨	鏡片	1	0.528										
	蹄骨	鏡片	11	0.117										
	蹄骨	鏡片	25	1.118										
	臼歯	鏡片	1	0.006										
	四枝骨	海綿体部分鏡片	53	0.619										
シカを主とする獣	シカを主とする獣骨の鏡片	鏡片	1520	102,648	他に蹄骨多数含む									
鳥類	脚趾骨/動物骨	鏡片	12	0.148										
シカを主とする獣	シカを主とする獣骨の鏡片	鏡片	3	0.03										
S U 3	11	F-3	A-43-a区	焼土	縄縄文時代	1,297	鳥類	脚趾骨/動物骨	鏡片	3	0.061			
								シカを主とする獣	シカを主とする獣骨の鏡片	鏡片	70	1.296		
S U 4	12	F-4	B-43-b区 西半部	焼土	縄縄文時代	1,781	シカ	種子骨	鏡片	1	0.47			
								シカを主とする獣	シカを主とする獣骨の鏡片	鏡片	113	4.221		
S U 7	13	F-5	B-43-a区	焼土	縄縄文時代	3,873	シカ	中胎骨	鏡片	1	0.411			
								種子骨	鏡片	1	0.4			
シカを主とする獣	シカを主とする獣骨の鏡片	鏡片	133	3.963										
シカ	蹄骨	鏡片	1	0.011										
3U 1a	B-5	F-4	C-43-a区	焼土	縄縄文時代	4,862	シカ	シカを主とする獣	シカを主とする獣骨の鏡片	鏡片	263	2.871		
								蹄骨	鏡片	1	0.362			
3U 1b	B-2	C-43-b区	焼土	縄縄文時代	14,340	シカ	中胎骨	鏡片	1	0.224				
							近位端	鏡片	1	0.324				
シカを主とする獣	シカを主とする獣骨の鏡片	鏡片	461	13,721	他に蹄骨多数含む									
S U 9	17-22	F-1	C-43-c区	焼土	縄縄文時代	64,645	シカ	基節骨	近位端のみ部分	鏡片	1	0.828		
								中手/中足骨	鏡片	1	0.084			
シカを主とする獣	シカを主とする獣骨の鏡片	鏡片	392	63,723	他に蹄骨多数含む									
S U 10	23	F-8	C-44-a区	焼土	縄縄文時代	6,491	シカ	シカを主とする獣	シカを主とする獣骨の鏡片	鏡片	267	8.491		
								中手/中足骨	遠位端鏡片	鏡片	1	0.389		
	鏡片	鏡片	4	2.001										
	種子骨	鏡片	3	1.183										
	本胎骨	鏡片	1	0.429										
シカを主とする獣	脚趾本端鏡片	鏡片	3	0.741										
シカを主とする獣	シカを主とする獣骨の鏡片	鏡片	862	297,177	他に蹄骨多数含む									
S U 12	26-35	C-44-b区 および北側 瓦葺ヤブ区	焼土	縄縄文時代	132,049	シカ	鹿	不明	鏡片	1	0.011			
							鳥類	不明	鏡片	6	0.161			
							猪	不明	鏡片	80	0.868			
							蹄骨	遠位端右側鏡片	鏡片	1	2.018			
							中手骨	鏡片	3	0.896				
							臼歯	鏡片	28	0.418				
							シカを主とする獣	シカを主とする獣骨の鏡片	鏡片	772	127,377			
							シカを主とする獣	シカを主とする獣骨の鏡片	鏡片	200	12,601			
							シカ	角	鏡片	2	1.067			
							鳥類/中型鏡片	不明	鏡片	10	0.109			
							鳥類/小型鏡片	不明	鏡片	1	0.041			
							シカを主とする獣	シカを主とする獣骨の鏡片	鏡片	3	0.08			
S U 14	21	F-10	東1-T-10-3区	焼土	縄縄文/縄縄文	0,090	シカを主とする獣	シカを主とする獣	シカを主とする獣骨の鏡片	鏡片	1	0.112		
								鳥類/中型鏡片	不明	鏡片	1	0.08		
S U 15	20	F-11	特定なし	焼土	縄縄文時代	1,615	シカを主とする獣	シカを主とする獣	シカを主とする獣骨の鏡片	鏡片	108	1,603		
								鳥類	不明	鏡片	2	0.053		
S U 16	25-26	F-12	焼土の浅部	焼土	縄縄文時代	0,180	シカを主とする獣	シカを主とする獣	シカを主とする獣骨の鏡片	鏡片	60	0.16		
								鳥類	不明	鏡片	2	0.053		
S U 17	24	F-23	焼土の浅部	焼土	縄縄文時代	0,025	鳥類	脚趾骨/動物骨	鏡片	2	0.053			
								蹄骨	鏡片	1	0.198			
S U 19	100	F-15	特定なし	焼土	縄縄文時代	0,198	シカを主とする獣	シカを主とする獣	シカを主とする獣骨の鏡片	鏡片	29	0.198		
								中胎骨	不明	鏡片	3	0.075		
	鳥類	不明	鏡片	1	0.042									
	猪	不明	鏡片	4	0.021									
	鳥類	不明	鏡片	6	0.166									
	鹿	不明	鏡片	13	0.271									
	中足骨	鏡片	3	1.011										
	中手骨	鏡片	2	0.425										
	蹄骨	鏡片	3	0.348										
	蹄骨	鏡片	1	0.499										
	蹄骨/蹄骨	鏡片	1	0.813										
	四枝骨	鏡片	147	32,776										
シカを主とする獣	シカを主とする獣骨の鏡片	鏡片	1601	137,077	他に蹄骨多数含む									

表V-1-2 森町三次郎川右岸 動物遺存体同定結果(2) 同定 金子 浩昌

試料番号	サンプリング番号	遺体名	試料名	層位	時期	動物遺存体同定結果(重量(g))	分類	部位(但し「又は」の意味)	部分(骨片は具体的な部分からならぬ)	数量	重量(g)	備考
S-U25	98	II-1	埋藏中の土	仰として掘出し	縄文時代中期	0.004	鳥類	細頸/動物骨	骨片	2	0.001	
S-U32	97	II-1	埋藏中の土	仰として掘出し	縄文時代中期	1.416	鳥類/中型獣	不明	骨片	4	0.403	
S-U33	102	II-9	埋藏中の土	仰として掘出し	縄文時代中期	0.002	鳥類	細頸/動物骨	骨片	94	1.416	
S-U34	75-81	S-1	河内の礫土	仰として掘出し	縄文時代前期	0.005	鳥類	細頸/動物骨	骨片	1	0.001	
S-U35	99	75-81	M-37-c区	仰として掘出し	縄文時代前期	0.002	鳥類	細頸/動物骨	骨片	14	0.003	
S-U43	103	75-81	L-38-c区	仰として掘出し	縄文時代前期	0.006	鳥類	細頸/動物骨	骨片	13	0.002	
S-U47	109 ~ 112	II-17	II-17 F-1	河内の礫土	縄文時代前期	2.065	鳥類	細頸/動物骨	骨片	3	0.003	
S-U48	113 ~ 115	II-18	II-18 F-1	河内の礫土	縄文時代前期	3.382	鳥類	細頸/動物骨	骨片	1	0.001	
S-U51	124 ~ 125	P-73	P-73	礫土	縄文時代前期	2.649	鳥類	不明	骨片	1	0.001	
S-U52	126	P-80	P-80	礫土	縄文時代前期	0.021	鳥類	不明	骨片	1	0.001	
S-U53	127 ~ 128	P-81	P-81	礫土	縄文時代前期	12.473	鳥類	不明	骨片	1	0.001	
S-U54	116 ~ 117	P-16	P-16	礫土	縄文時代	0.002	鳥類	不明	骨片	1	0.001	
S-U55	120 ~ 123	S-4	S-4 河内	河内の礫土	縄文時代前期	3.353	鳥類	不明	骨片	1	0.001	
S-U56	118 ~ 119	S-5	S-5 河内	河内の礫土	縄文時代前期	2.649	鳥類	不明	骨片	1	0.001	

表V-2-1 三次郎川右岸遺跡時期別動物遺存体種類別出土状況 縄文時代中期中葉  
縄文時代中期中葉関連サンプル一覧

試料番号	サンプル番号	遺構名	試料名称	層位	動物遺存体 総重量 (g)
S.U.25	48 + 49	H-1	H-1 H F-1	首原埋没後の遺土	185.459
S.U.26	56	H-1	埋没中の土	砂土と有機物か	0.004
S.U.27	97	H-5	埋没中の土	砂土と有機物か	1.416
S.U.28	102	H-9	埋没中の土	砂土と有機物か	0.0221
合計					187.899

縄文時代中期中葉関連動物遺存体同定結果

分類群	数値	重量 (g)	重量比	合計重量194.8281 (g)
シカ	177	26.145	0.135	
シカを主とする獣	1698	156.495	0.8135	
中型獣	3	0.075	0.000384	
鳥類/中型獣	4	0.003	0.00001539	
鳥類	8	0.046	0.0002361	
魚類	4	0.021	0.0001077	
魚類	4	0.033	0.00016912	

表V-2-2 三次郎川右岸遺跡時期別 動物遺存体種類別出土状況 縄文時代後期前葉  
縄文時代後期前葉関連サンプル一覧

試料番号	サンプル番号	遺構名	試料名称	層位	動物遺存体 総重量 (g)
S.U.47	109-112	H-17	H-17 H F-1	砂内の遺土	2.085
S.U.48	113-115	H-18	H-18 H F-1	砂内の遺土	3.183
S.U.49	131-135	P-73	P-73	遺土	2.448
S.U.52	151	P-80	P-80	遺土	0.021
S.U.53	137-150	P-81	P-81	遺土中位	12.473
S.U.56	15-81	S-1	砂内の遺土、裏割	砂内の遺土	0.035
S.U.55	139-153	S-4	S-4 砂内	砂内の遺土	3.2531
S.U.56	118-119	S-5	S-4 砂内	砂内の遺土	2.449
合計					25.9481

縄文時代後期前葉動物遺存体同定結果

分類群	数値	重量 (g)	重量比	合計重量25.9481 (g)
イノシシ	2708	10.378	0.39995	
シカ	12	0.072	0.00277	
シカを主とする獣	66	1.832	0.0704	
獣	42	0.825	0.03179	
大型の本鳥	13	0.131	0.00504	
鳥類	20	3.809	0.14679	
シカウ	468	0.872	0.03345	
アライグマ	33	0.598	0.02304	
カレイ	10	0.017	0.00065515	
ネズミザメ	1	0.018	0.00069	
ヤブ	41	0.088	0.003391	
蛙	1	0.094	0.003634	
鱧科	10	0.035	0.00134	
魚類	1901 (+砂片多量)	8.4531	0.32811	

表V-2-3 三次郎川右岸遺跡時期別動物遺存体種類別出土状況 続縄文時代  
続縄文時代関連サンプル一覧

試料番号	サンプル番号	遺構名	試料名称	層位	動物遺存体 総重量 (g)
S.U.1	1 + 2	F-1	C-44-b区	遺土	37.050
S.U.2	1 + 4	F-1	D-44-a区	遺土	251.021
S.U.3	7 + 8	F-1	特定なし	遺土	111.879
S.U.4	9	F-2	B-44-b区 曲	遺土	0.056
S.U.5	11	F-2	A-43-a区	遺土	1.897
S.U.6	13	F-4	B-43-b区 砂半分	遺土	64.645
S.U.7	13	F-5	B-43-a区	遺土	3.871
S.U.8 a	14 + 15	F-6	C-43-a区	遺土	4.852
S.U.8 b	16 + 22	F-6	C-43-b区	遺土	14.340
S.U.9	17-23	F-7	C-43-a区	遺土	64.645
S.U.10	25	F-8	C-44-a区	遺土	8.491
S.U.11	34-39	F-8	C-43-d区	遺土	302.812
S.U.12	30-35	F-9	C-44-B区2区 埋没ワラフ	遺土	132.049
S.U.13	36 + 37	F-9	特定なし	遺土	13.767
S.U.16	38 + 39	F-12	遺土の北半分	遺土	0.160
S.U.17	94	F-13	遺土の南半分	遺土	0.055
S.U.19	100	F-15	特定なし	遺土	0.196
合計					928.320

続縄文時代関連動物遺存体同定結果

分類群	数値	重量 (g)	重量比	合計重量928.329 (g)
イノシシ	0.649	0.0037		
シカ	234	28.008	0.03	
シカを主とする獣	6353	897.141	0.9661	
獣	87	0.918	0.000988	
鳥類/中型獣	74	0.772	0.00083	
鳥類	1	0.001	0.000001	
蛙	7	0.012	0.0000129	
魚類	30	0.829	0.000893	

関係不明破片あり

## 2 森町三次郎川右岸遺跡から出土した炭化植物

\* 椿 坂 恭 代

### (1) 遺跡と調査の概要

遺跡の名称：三次郎川右岸遺跡（B-15-37）

遺跡の所在：北海道茅部茅部郡森町字石倉町516ほか

調査の機関：財団法人北海道埋蔵文化財センター

調査期間：平成15年7月14日～10月28日 平成16年5月6日～7月28日

調査面積：4,450㎡

遺跡の立地：遺跡は三次郎川左岸遺跡の対岸に位置し、調査範囲は標高38～43mほどの段丘斜面と43～45mほどの平坦面で構成される。

遺構の年代：縄文時代中期から後期を主体とする集落跡。続縄文時代後半の焼土跡他。

その他の詳細についてはI～IV章を参照していただきたい。

### (2) 扱った資料

分析資料として扱った炭化植物は、続縄文時代後半の焼土（Va層）、縄文時代後期前葉の堅穴住居跡跡内の焼土、配石遺構、土坑、縄文時代中期前葉～後期前葉の遺構から土壌を採取し（表V-6）、フローテーション法で処理後、種子の第一次選別を経て送付されてきた。これらの資料について実体顕微鏡で観察並びに撮影を行った。検出された植物種子の出土表は表V-3に示しておいた。

### (3) 検出された種子

**アカザ属** *Chenopodium* L. (図版V-2-1：H-1の埋没直後の焼土から出土)

縄文時代後期前葉のフレイク集中（M-38-a, b区）からと縄文時代中期中葉の住居埋没直後の焼土（H-1 HF-1）からすべて酸化した状態で5粒検出された。種子は扁平球形。側面には嚙状に突出したヘツがある（写真資料の左上）。北海道ではアカザ *Chenopodium album* var. *centrorubrum* Makino とシロザ *Chenopodium album* L. が分布しているが種子の形態からは種までの分類は困難である。計測値は長さ1.10mm、幅1.20mm、厚さ0.55mm。

**カヤツリグサ科** CYPERACEAE (図版V-2-2：L-38-b区から出土)

縄文時代後期前葉（Ⅲ-Va層）のフレイク集中（L-38-b区）から酸化した状態で1粒検出された。種子は狭楕円状三稜形、カヤツリグサ科の種子は種類が多いうえ、類似する形態が多いため詳細な分類は困難である。計測値は長さ1.65mm、幅0.80mm。

**ウコギ科** ARALIACEAE (図版V-1-3 a：S-1の配石の焼土から出土)

縄文時代後期前葉の配石遺構の焼土（S-1）から1粒出土。種子の腹面は卵形で平。側面から見ると半広楕円形。ハリギリ *Kalopanax pictum* Nakai の形態を示す。計測値は長さ2.10mm、幅1.60mm、厚さ1.35mm。

**マタビ属** *Actinidia* Lindl. (図版V-2-4：H-2床面直上から出土)

続縄文時代後半の焼土（F-1, 9）、縄文時代後期前葉（Ⅲ-Va層）のフレイク集中（M-38-b）と土坑（P-73）、縄文時代中期中葉の住居埋没直後の焼土（H-1 HF-1）、縄文時代中期前葉以前の炭化土層（H-20）から合計7粒検出された。酸化した状態の種子と被熱された種子が混在

する。種子は長楕円形。種皮には凹点による網目模様がある。この仲間にはマタタビ *Actinidia polygama* Planch. et Maxim. とサルナシ *Actinidia arguta* Planch. があるが、両者の種子は形態と表面組織がきわめて良く似ている。しかし粒形の特徴からはサルナシ *Actinidia arguta* Planch. であろう。計測値は長さ2.60mm、幅1.10mm、厚さ0.90mm。

**ニワトコ属** *Sambucus* L. (図版V-2-5 a, b: H-1の住居埋没直後の焼土から出土)

縄文時代後期前葉の竪穴住居跡炉内の焼土(H-17, 18)、配石遺構炉内の焼土(S-4, 5)、土坑の覆土(P-73, 81)からと縄文中期中葉の住居埋没直後の焼土(H-1 HF-1)、土坑の焼土(P-71)、縄文時代中期前葉～後期前葉の焼土(F-16)などから合わせて49粒検出された。種子は狭楕円形。背面は円みがあり、腹面は鈍稜をなす。種皮は皺状に隆起した模様があり粗面である。これらの特徴からニワトコ *Sambucus racemosa* L. と判断される。ただし、日本では本州北部から北海道の林中にエゾニワトコ *S. buergeriana* var. *miquelii* (Nakai) Hara が分布するという。計測値は長さ2.20mm、幅1.10mm、厚さ0.50mm。

**タラノキ属** *Aralia* L. (図版V-2-6: L-38-b区から出土)

縄文時代後半の焼土(F-6)からと縄文時代前期から縄文時代までの可能性がある(Ⅲ～Va層)フレイク集中(M-38-b区, M-38-a区)、縄文時代前期～後期(Vb層)のフレイク集中(K-40-b区)などから合わせて4粒検出された。酸化した状態の種子も混在する。種子は半円形。種子の上方には二本の横溝があり、種皮は凹凸で粗面である。粒形と大きさからタラノキ *Aralia elata* (Miq.) Seemann と判断される。計測値は長さ2.40mm、幅1.65mm、厚さ0.60mm。

**ウルシ属** *Rhus* L. (図版V-2-7: S-1配石中の焼土から出土)

縄文時代後半の焼土(F-6)からと縄文時代後期前葉の配石遺構の焼土(S-1)、竪穴住居跡の焼土(H-17)、土坑の覆土(P-81)、縄文時代中期前葉～後期前葉の焼土(F-16)、縄文時代前期～後期(Ⅲ～Va層)のフレイク集中(H-45-b区)などから合計10粒検出された。種子は歪んだ扁円形でやや扁平、北海道ではこれらと類似した形態を持つ種子としてヤマウルシ *Rhus trichocarpa* Miq. ツタウルシ *Rhusambigua* Lavallee ex Dippel、ヌルデ *Rhus javanica* L. がある。形態の特徴からヤマウルシ *Rhus trichocarpa* Miq. と判断される。計測値は長さ2.30mm、幅2.00mm、厚さ1.70mm。

**ミズキ属** *Cornus* L. (図版V-2-8: P-73の覆土から出土)

縄文時代後期前葉の配石遺構炉内の焼土(S-5)、土坑の覆土(P-73, 81)、縄文時代中期と考えられる焼土(F-11)から合わせて3粒と破片3片が検出された。核は偏球形で浅い縦溝があり、先に穴がある(写真では上部にあたる)。この特徴からミズキ *Cornus controversa* Hemsley と判断される。計測値は長さ3.50mm、幅4.10mm

**キハダ属** *Phellodendron* Rupr. (図版V-2-9・10: S-4の炉の焼土から出土)

縄文時代後半の焼土(F-6, 7, 8)からと縄文時代後期前葉の配石遺構の炉内焼土(S-1, 4, 5)、Ⅲ～Va層のフレイク集中(L-38-b区, M-38-a区)、竪穴住居跡の炉内焼土(H-17)、土坑の覆土(P-73, 81)、縄文時代中期と考えられる焼土(F-11)、縄文時代中期中葉以前の竪穴住居跡の床面直上の炭化物層(H-20)、縄文時代前期～後期(Vb層)のフレイク集中(H-45-b区)などから果実と種子が検出された。果実は球形で中に5の小核があり、各1個の種子を含む。種子は半横広卵形で表皮に浅い凹みによる網目模様がある。これらの特徴からキハダ *Phellodendron amurense* Rupr. と判断される。計測値は9で長さ8.30mm、幅6.50mm。10で長さ3.50mm、幅2.10mm、厚さ1.10mm。



#### ブドウ科 VITIDACEAE (図版V-2-11a : F-1から出土)

統縄文時代後半、縄文時代後期前葉、縄文時代中期中葉の各遺構から20粒と破片が53片検出された。酸化状態の種子が少量混じる。堅果は広倒卵形、背面は円みがあり、倒へら形の凹みがある。腹面の中央に稜をなす。稜の両側に針形の凹みがある。ブドウ属種子で形態の類似した種子にヤマブドウ *Vitis coignetiae* Pulliat, サンカクズル *Vitis flexuosa* Thunb. エビヅル *Vitis ficifolia* Bunge var. *lobata* があるが、サンカクズルとエビヅルの分布域は北海道の南部に限られているという。形態の特徴からはヤマブドウ *Vitis coignetiae* Pulliatに似る。計測値は長さ3.90mm、幅3.10mm、厚さ2.40mm

#### クリ属 *Castanea* Mill. (図版V-3-15a : H-1の住居埋没直後の焼土から出土)

統縄文時代後半の焼土 (F-7)、縄文時代中期前半の配石遺構戸内の焼土 (S-1, 4)、縄文時代中期中葉の住居埋没直後の焼土 (H-1 HF-1) から子葉の破片が合計10片検出された。堅果は三角状楕円形。一側面は円みがあり、反対面は平らな形が多い。子葉部分は両面に縦に深い溝状の模様がある。計測値は長さ9.20mm、幅10.00mm

#### コナラ属 *QUERCUS* L. (図版V-3-16a : F-1から出土)

統縄文時代後半の焼土 (F-1) からと縄文時代中期と考えられる遺構 (F-11) から子葉の破片が2片出土。子葉は長楕円形で表面には縦線がある。このような形態を持つ種類にはミズナラ *Quercus crispula* Blume, コナラ *Quercus serrata* Thunb. カシワ *Quercus dentata* Thunb. などがあるが子葉の形態から詳細な分類をするのは困難である (吉崎・椿坂 2000)。

#### クルミ属 *Juglans* L. (図版V-3-17a : H-3の焼失家屋の炭化物から出土)

統縄文時代後半、縄文時代後期前葉、縄文時代中期前葉～後葉の各遺構から合計78片検出された。すべて内果皮の破片である。核表面には縦に浅い溝状の模様がある。これらの特徴からオニグルミ *Juglans sieboldiana* Maxim と判断される。いずれも破片のため計測はできなかった。

#### 冬芽 (図版V-2-12 : H-1埋塞中の土から出土)

縄文時代中期中葉の堅穴住居跡 (H-1) から1片検出された。現生の比較資料がないので詳細な分類が出来なかった。長さ1.7mm

#### 不明種子1 (図版V-2-13a : F-1から出土, 14 : S-1の配石中の焼土から出土)

13aの資料：統縄文時代後半の焼土 (F-1) からと縄文時代後期前葉の配石遺構の焼土 (S-1) から合わせて2粒検出された。種子は球形で表面に網目状の組織構造は持つが、その一部分に穴が空いている。計測値は長さ1.70mm、幅1.40mm

14の資料：統縄文時代後半の焼土 (F-8) からと縄文時代後期前葉の配石遺構の焼土

(S-1)、土坑の覆土 (P-81)、縄文時代中期前葉～後期前葉の焼土 (F-16) から合わせて4粒検出された。種子は長楕円形で針形で種子の表面はやや粗面である。アサダ *Ostrya japonica* Sarg. 種子の形態に似るが種皮の表面組織が異なるなどから分類することが出来なかった。計測値は長さ3.70mm、幅1.60mm、厚さ1.40mm。

以上述べたもの以外に資料の保存状態がきわめて悪いため分類出来なかったものを不明2として扱った。

#### (4) 若干のコメント

検出された植物種子は統縄文時代後半の屋外遺構の焼土からと、縄文時代中期から後期を主体とする集落跡からのもので、すべて野生植物で栽培植物は検出されなかった。草本種子では縄文時代後期前葉の遺構からアカザ属、カツリグサ科、縄文時代中期中葉の遺構からアカザ属で、いずれの資料

も未炭化の状態で窮めて少量の検出であった。木本類は各時期の遺構からウコギ科、マタタビ属、ニワトコ属、タラノキ属、キハダ属、ブドウ科、ウルシ属、ミズキ属、クリ属、コナラ属、クルミ属などが少量ずつであるが検出された。

今回、抽出できた炭化植物のほとんどが果実・堅果類であり、その組成は縄文時代から近世アイヌ期の遺跡によく見られる可食性あるいは利用可能のものばかりである。

これまでフローテーション法で得られた各時期の野生植物の出土例を見ると、堅果類ではクルミ属、コナラ属、クリ属、果実類ではブドウ属、キハダ属、ニワトコ属、マタタビ属、キイチゴ属などの組成で縄文時代早期～近世アイヌ期まで連続と検出されており、当時の食料として普遍的に利用していたことを示す出土状況である。しかしながらその出土例を検討してみると決して堅果類への依存度が高い出土様相ではないように思う。

かつて山田は北海道の堅果類の出土状況などを検討して縄文時代の重要な食料源になり得たかどうかについて疑問を呈し、堅果類の消費量があまり多くなかったのでは。むしろ堅果類よりも食糧資源として塊茎類の期待度が高いと推定している（山田1993）。確かに、山田が指摘したように北海道においては堅果類の出土量は多くない。その理由についてはいくつか考えられている（吉崎・椿坂2000）。今後の検討課題としてこれまでフローテーションで得られたデータを詳細に分析して出土量の多寡の問題、遺跡の状況、サンプリング箇所などを検討していくことが必要と考える。

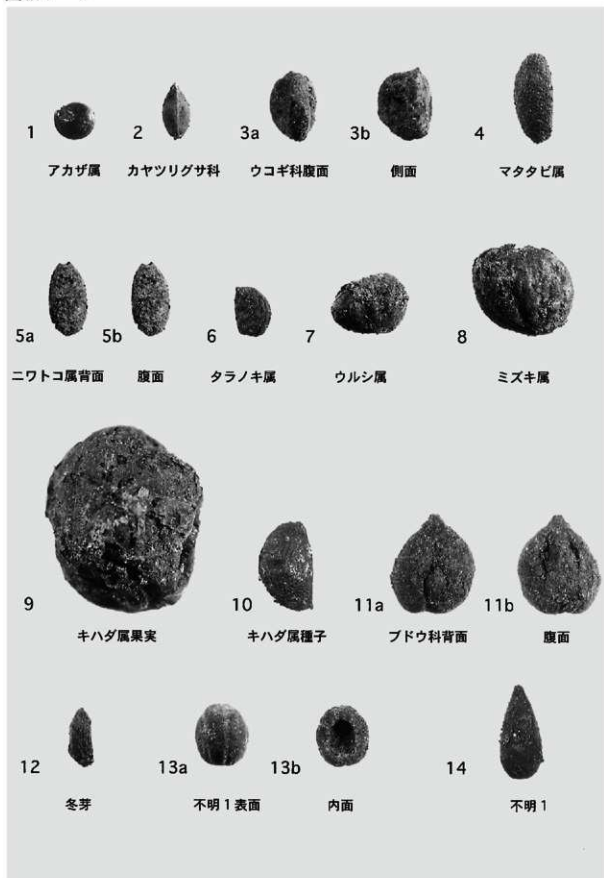
\* 札幌国際大学博物館/客員研究員

#### [引用文献]

山田悟郎（1993）「北海道の遺跡から出土した植物遺体について－堅果類を中心として－」『古代文化』第45巻 第4号 pp.185-194.

吉崎昌一・椿坂恭代（2000）「北海道キウス4遺跡Q地区から出土した縄文時代の植物種子」『千歳市キウス4遺跡（7）』pp.347-352. 北海道埋蔵文化財センター 北埋調報第152集





炭化種子 1 (1~14)



15a

クリ属子葉 表面



15b

内面



16a

コナラ属子葉 表面



16b

内面



17a

クルミ属核片 表面



17b

内面

炭化種子 2 (15~17)

### 3 森町三次郎川右岸遺跡続縄文時代の焼土F-3の放射性年代測定

パレオ・ラボAMS年代測定グループ  
小林絃一・丹生越子・伊藤茂・山形秀樹・  
Zaur Lomtadize・Ineza Jorjoliani

#### (1) はじめに

北海道茅部郡森町・三次郎川右岸遺跡より検出された試料（続縄文時代の焼土と考えられる焼土、F-3の炭化物、フローテーションの残渣より採取）について、加速器質量分析法（AMS法）による放射性炭素年代測定を行った。

#### (2) 試料と方法

測定試料の情報、調整データは表V-4のとおりである。試料は調整後、加速器質量分析計（パレオ・ラボ、コンパクトAMS：NEC製 1.5SDH）を用いて測定した。得られた<sup>14</sup>C濃度について同位体分別効果の補正を行った後、14C年代、暦年代を算出した。

#### (3) 結果

表V-5に、同位体分別効果の補正に用いる炭素同位体比（ $\delta^{13}\text{C}$ ）、同位体分別効果の補正を行った<sup>14</sup>C年代、<sup>13</sup>C年代を暦年代に校正した年代範囲、暦年校正に用いた年代値を、図V-1に暦年校正結果をそれぞれ示す。

<sup>14</sup>C年代はAD1950年を基点にして何年前かを示した年代である。<sup>14</sup>C年代（yrBP）の算出には、<sup>13</sup>Cの半減期としてLibbyの半減期5568年を使用した。また、付記した<sup>14</sup>C年代誤差（ $\pm 1\sigma$ ）は、測定の統計誤差、標準偏差等に基づいて算出され、試料の<sup>14</sup>C年代がその<sup>14</sup>C年代誤差内に入る確率が68.2%であることを示すものである。

なお、暦年校正の詳細は以下の通りである。

#### 暦年校正

暦年校正とは、大気中の<sup>14</sup>C濃度が一定で半減期が5568年として算出された<sup>14</sup>C年代に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の<sup>14</sup>C濃度の変動、及び半減期の違い（<sup>14</sup>Cの半減期5730 $\pm$ 40年）を校正することである。

<sup>14</sup>C年代の暦年校正にはOxCal3.10（校正曲線データ：INTCAL04）を使用した。なお、 $1\sigma$ 暦年年代範囲は、OxCalの確率法を使用して算出された14C年代誤差に相当する68.2%信頼限界の暦年年代範囲であり、同様に $2\sigma$ 暦年年代範囲は95.4%信頼限界の暦年年代範囲である。カッコ内の百分率の値は、その範囲内に暦年代が入る確率を意味する。グラフ中の縦軸上の曲線は<sup>14</sup>C年代の確率分布を示し、二重曲線は暦年校正曲線を示す。それぞれの暦年年代範囲のうち、その確率が最も高い年代範囲については、表中に下線で示してある。

#### (4) 考察

試料について、同位体分別効果の補正及び暦年校正を行った。得られた暦年年代範囲のうち、その確率の最も高い年代範囲に着目すると、それぞれより確かな年代値の範囲が示された。

## [参考文献]

Bronk Ramsey C. (1995) Radiocarbon Calibration and Analysis of Stratigraphy: The OxCal Program, Radiocarbon, 37 (2), pp.425-430.

Bronk Ramsey C. (2001) Development of the Radiocarbon Program OxCal, Radiocarbon, 43 (2A), pp. 355-363.

中村俊夫 (2000) 「放射性炭素年代測定法の基礎」『日本先史時代の14C年代』pp.3-20.

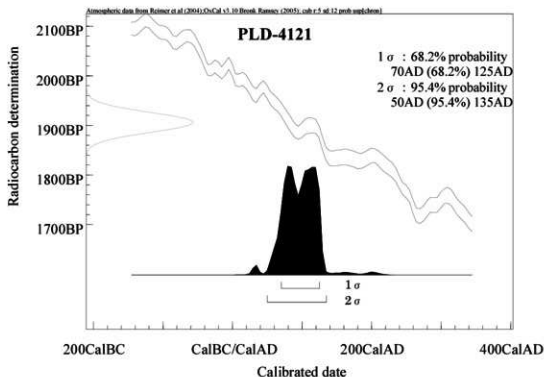
Reimer PJ, MGL Baillie, E Bard, A Bayliss, JW Beck, C Bertrand, PG Blackwell, CE Buck, G Burr, KB Cutler, PE Damon, RL Edwards, RG Fairbanks, M Friedrich, TP Guilderson, KA Hughen, B Kromer, FG McCormac, S Manning, C Bronk Ramsey, RW Reimer, S Remmele, JR Southon, M Stuiver, S Talamo, FW Taylor, J van der Plicht, and CE Weyhenmeyer. (2004) Radiocarbon 46, pp.1029-1058.

表V-4 測定試料及び処理

測定番号	遺跡データ	試料データ	前処理	測定
PLD-4121	遺構：F(焼土)-3	試料の種類：炭化物・材 試料の性状：最外以外年輪 状態：dry カビ：無	超音波煮沸洗浄 酸・アルカリ・微洗浄 (塩酸1.2N, 水酸化ナトリウム 1N, 塩酸1.2N)	PaleoLabo: NEC製コンパクト AMS・1.5SDH

表V-5 放射性炭素年代測定及び暦年校正の結果

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	$^{14}\text{C}$ 年代 (yrBP $\pm 1\sigma$ )	$^{14}\text{C}$ 年代を暦年代に校正した年代範囲		暦年校正用年代 (yrBP $\pm 1\sigma$ )
			1 $\sigma$ 暦年代範囲	2 $\sigma$ 暦年代範囲	
PLD-4121	-27.17 $\pm$ 0.14	1905 $\pm$ 20	70AD (68.2%) 125AD	50AD (95.4%) 135AD	1906 $\pm$ 20



図V-1 暦年校正結果

表V-6-1 森町三次郎川右岸フローテーションサンプリング一覧(1)

調査年度	調査地点番号	調査地点名	河川名称	河川	位置 (緯度 経度)	水深 (m)	流速 (cm/s)	流速 方向 (°)	流速 成分 (%)	流速 成分 (%)	流速 成分 (%)	流速 成分 (%)	人工集積物の種類と数量					
													紙類	繊維物	プラスチック	その他		
2000	SL1	F-1	C-11-3051-1区 川原地区	縦横2次分排水	4250.0	5.6	4.1	6.0	114.6	1	0.005	10.000	8.300	8	20	20	1	4
2000	SL2	F-1	D-11-41-1区	V並みかかったもの	2050.0	20.7	11.5	18.1	55.5	10	0.720	201.001	6.027	15	1	1	1	1
2000	SL3	F-1	土橋ナツル	V並みかかったもの	8120.0	10.6	6.9	10.0	20.1	19	0.260	111.879	12.000	2	1	1	1	1
2000	SL4	F-2	B-41-10C	V並みかかったもの	1000.0	12.9	4.7	22.8	104.2	1	0.001	0.006	1.717	11	1	1	1	1
2000	SL5	F-3	A-01-05	V並みかかったもの	3300.0	3.5	3.5	7.5	65.9	1	0.001	1.297	1.200	3	1	1	1	1
2000	SL6	F-4	B-01-09B区 西半分	V並みかかったもの	600.0	7.9	4.8	22.6	72.1	3	0.006	1.700	2.700	4	1	1	1	1
2000	SL7	F-5	B-01-05	V並みかかったもの	2000.0	6.1	6.7	1.9	35.3	1	0.001	3.673	0.177	4	1	1	1	15
2000	SL8	F-6	C-01-20(11A-10) -10(11B-10)	V並みかかったもの	21120.0	28.6	10.7	22.5	1282.6	5	0.070	19.192	13.206	30	2	20	20	1
2000	SL9	F-7	C-01-05E	V並みかかったもの	4370.0	53.9	11.6	52.2	1197.7	50	0.300	81.645	13.000	57	8	17	17	1
2000	SL10	F-8	C-11-41-1区	V並みかかったもの	3000.0	4.6	1.2	3.7	34.7	1	0.001	6.091	1.700	3	1	1	1	1
2000	SL11	F-8	C-01-01E	V並みかかったもの	3410.0	30.9	17.9	67.7	608.0	21	0.070	202.812	11.200	7	1	1	1	1
2000	SL12	F-9	C-11-03B区	V並みかかったもの	3270.0	40.6	40.0	66.4	671.7	18	0.310	132.669	21.343	67	3	1	1	1
2000	SL13	F-9	土橋ナツル	V並みかかったもの	8650.0	11.8	6.1	13.3	138.7	3	0.010	13.207	0.447	7	1	1	1	1
2000	SL14	F-10	竜上T-10-10B	V並みかかったもの	31.4	4.3	3.2	3.0	134.5	1	0.007	0.060	2.614	96	3	3	3	1
2000	SL15	F-11	土橋ナツル	フローテーション 確認あり	20.6	21.0	2.7	10.3	1029.9	8	0.040	1.206	16	1	20	20	1	1
2000	SL16	F-11	000000 (00-0000)	V並みかかったもの	30.0	12.3	8.2	13.5	100.6	4	0.020	0.180	0.101	4	1	1	1	1
2000	SL17	F-13	010000(010000)	V並みかかったもの	60.8	5.3	1.0	2.5	26.5	1	0.001	0.050	0.318	1	1	1	1	1
2000	SL18	F-14	020000(021000)	V並みかかったもの	6.4	8.2	3.5	2.5	16.2	2	0.010	0.020	3.070	1	1	1	1	1
2000	SL19	F-15	土橋ナツル	V並みかかったもの	11.2	19.7	4.3	31.7	200.8	1	0.001	0.196	2.829	26	26	26	2	2
2000	SL20	F-15	土橋ナツル	V並みかかったもの	2500.0	37.6	4.7	35.6	1316.1	16	0.020	1.127	3.005	1	8	8	3	4
2000	SL21	F-15	土橋ナツル	V並みかかったもの	2200.0	23.9	6.1	22.6	1353.3	10	0.100	8.640	8	6	6	6	1	1
2000	SL22	F-15	土橋ナツル	V並みかかったもの	2150.0	26.0	10.1	20.1	1075.0	10	0.010	100.001	6.900	38	2	1	1	1
2000	SL23	F-15	土橋ナツル	V並みかかったもの	10.3	6.1	6.1	14.8	228.6	4	0.040	0.004	6.007	22	1	1	1	1
2000	SL24	F-15	土橋ナツル	V並みかかったもの	93.0	31.6	6.2	18.1	2095.0	1	0.012	11.867	194	1	1	1	1	1
2000	SL25	F-15	土橋ナツル	V並みかかったもの	460.0	4.7	0.6	4.4	216.7	1	0.001	0.101	0.101	1	1	1	1	1
2000	SL26	F-15	土橋ナツル	V並みかかったもの	0.7	10.1	0.3	22.6	6.0	1	0.001	0.101	0.101	1	1	1	1	1
2000	SL27	F-15	土橋ナツル	V並みかかったもの	3.9	3.5	1.9	5.9	197.2	2	0.020	3.741	0.140	1	1	1	1	1







## VI 成果と課題

### 1 フラスコ状土坑の層位についての考察 (図Ⅲ-62、表Ⅳ-1)

本遺跡の二年度の発掘調査では、フラスコ状土坑が12基確認された。フラスコ状土坑とは、概して、平面はほぼ円形を呈し、深さが約1.5m程度で、坑底面付近の壁がその上位に比べて広がるもので、その断面形態が理科実験器具の「フラスコ」に類似することから、その名称で呼称されていると理解される遺構で、その機能は「貯蔵穴」であると考えられている。一般的にフラスコ状土坑は、堅穴式住居跡や通常みられる土坑等の遺構に比べて深さがあり、このためか土層の堆積状況が複雑な様相を呈する。複雑な状況を示す土層断面の観察にあたっては、やみくもな細分層や、感覚的な認識に依存することは、混乱や矛盾を生じさせる原因となる。それを避けるため、観察基準を設けてこれに従い体系的に分層することを心がけることが適当であると考えている。

ここでは、フラスコ状土坑P-72(Ⅲ章1節(3)参照)を取り上げ、現場で実際に行った土層断面を観察・記録するための体系的な考え方を示し、さらに整理作業段階で検証した内容と土層断面から推測される遺構の構築から埋没に至る過程について述べる。

#### A. 覆土の種類

土層断面の観察では、覆土を以下に示す段階的な流れに従い分類(分層)した。

##### ①色調による大別(二つに大別・アラビア数字)

「覆土第1層」; 黒色土主体の層、主体的な遺物包含層であるⅤ層主体。

「覆土第2層」; 黄～灰色土主体の層、いわゆる地山であるⅧ層主体。

##### ②遺構における垂直位置等による分層(アルファベット大文字)

###### \* 覆土第1層(A～Dの四つに分層)

「覆土第1A層」; 遺構の上位の凹みに位置する層で、いわゆる包含層と理解できうる層

「覆土第1B層」; 遺構の中位付近に位置する層

「覆土第1C層」; 覆土最下層に位置する層(「覆土最下層」=坑底面に接している層のこと)

「覆土第1D層」; 坑底にある土坑状の浅い落ち込みに位置する層

###### \* 覆土第2層(A～Cの三つに分層)

「覆土第2A層」; 遺構の中位付近に位置する層

「覆土第2B層」; 南東側部分下位に位置し、壁の崩落土と考えられる層

「覆土第2C層」; 覆土最下層付近に位置する層

##### ③構成物等の違いにより②の各層について細分(アルファベット小文字)

層位名の後ろに丸括弧付きで示した数字は、土層断面図(図Ⅲ-62)における番号である。

###### (覆土第1層)

###### \* 覆土第1A層; Ⅷ2層(Ng)軽石の混在量の相違により、a・bの二つに細分した。

「覆土第1Aa層」; (1)

「覆土第1Ab層」; (2)

###### \* 覆土第1B層; 色調やⅧ2層の混在の有無等の相違により、a～eの五つに細分した。

「覆土第1Ba層」; (3)

「覆土第1Bb層」; (4)

「覆土第1 Bc層」；(5)

「覆土第1 Bd層」；(6)

「覆土第1 Be層」；(7)

\* 覆土第1 C層；色調と野外土性の相違により、a・bの二つに細分した。

「覆土第1 Ca層」；(8)

「覆土第1 Cb層」；(9)

\* 覆土第1 D層；色調や混在物等に相違が認められず、細分できない。

「覆土第1 D層」；(10)

(覆土第2層)

\* 覆土第2 A層；野外土性、色調、Ⅶ2層(Ng)軽石の混在量の相違により、a～fの六つに細分層した。

「覆土第2 Aa層」；(11)

「覆土第2 Ab層」；(12)

「覆土第2 Ac層」；(13)

「覆土第2 Ad層」；(14)

「覆土第2 Ae層」；(15)

「覆土第2 Af層」；(16)

\* 覆土第2 B層；野外土性、色調、Ⅶ2層(Ng)軽石の混在量の相違により、a～dの四つに細分層した。

「覆土第2 Ba層」；(17)

「覆土第2 Bb層」；(18)

「覆土第2 Bc層」；(19)

「覆土第2 Bd層」；(20)

\* 覆土第2 C層；野外土性、色調、Ⅶ2層(Ng)軽石の混在量の相違により、a・bの二つに細分層した。

「覆土第2 Ca層」；(21)

「覆土第2 Cb層」；(22)

発掘調査においては、上位に堆積した層から、順に番号を付すことが一般的であるが、実際には、出土遺物を随時取り上げ、掘り進めなければならないので、詳細な土層断面の観察を行う前段階で、遺物の出土層位を判断する必要が生じる。このような場合、先に述べた上位層から便宜的に番号を付す方法では、土層断面の記録後に、遺物の出土層位について再整理する必要が生じる。これを避けるため、P-72の調査においては、半截時には色調により分けた「大別層位」に従い出土遺物を取り上げながら掘り進め、半截完了後に、土層断面の詳細な観察を行い、覆土層について細分層した。残り半分の覆土について掘り下げる時には、出土遺物を細分層で取り上げる予定としていたが、実際には、掘り下げながら、詳細に細分層した各覆土層位について、それぞれの平面的な広がり等を明確に把握することが、意外に困難であることが認識され、恣意的な層位判断に陥る可能性を避けるため、最も明確に識別できる大別層単位で取り上げた。

## B. 基本層序各層ごとの土量計算

### 1. 体積

作成した土層断面実測図(素図；1/20 掲載；図Ⅲ-62で1/40)から、このフラスコ状土坑の

構築に伴い、移動された土量を基本層序各層ごとに大まかに算出する。土層断面図において、遺構の左右にみられる層界で同じものを結び、それぞれを円柱に見立て、円柱の底面積に相当する部分は、実測図から正確な算出ができないので、確認面と坑底面の平均値とし、高さは各層位の層厚とする。

\* 底面積：2.05㎡（確認面：2.13㎡ 坑底面：1.96㎡より）

各自然層位の土量は次のように（底面積×高さ）求められる。

Ⅷ 2 層：2.05㎡×0.60m＝約1.23㎡

Ⅷ 1 層：2.05㎡×0.50m＝約1.02㎡

Ⅵ・Ⅶ層：2.05㎡×0.19m＝約0.39㎡

V a・b層：2.05㎡×0.21m＝約0.43㎡

合 計：約3.07㎡

上の式から、遺構土量の合計に対する各層の割合は、次のようになる。

Ⅷ 2層：約40%、Ⅷ 1層：約33%、Ⅵ・Ⅶ層：約13%、V a・b層：約14%

本遺跡のP-72の覆土は、構築に伴い移動された基本層序（自然層位）の各層位により、構成されていると考えられる。

自然層位の各層が様々な割合で混在することで、野外土性や色調、混在物の相違が認められ、これらを手がかりとして分層を行い、遺構の覆土について考古学的な観察・記録がなされている。ある遺構の構築に伴いどの自然層位が、どの程度の量移動されたのかを把握することは、遺構の覆土を観察し理解する上で「前提」となりうる「思考の枠組み」として有効かつ必要であると考えている。

また、実際の遺構調査では、中央付近にベルトを設ける、または、半截する場合が多く、これは平面的な広がりを持つ遺構に対し、ある一部分をその遺構の土層断面として代表させているということに注意を払う必要があり、さらに、遺構調査に着手する前に、その遺跡の自然層位について、体系的な観察を行うことも不可欠である。

## 2. 面積・面積割合

土層断面実測図（素図；1/20 掲載；図Ⅲ-62で1/40）において、細分層した各覆土の表面積を計測し、遺構断面に占める割合を算出（A）し、同様にして、遺構構築に伴い移動したと判断される自然層位の部分についても、層位ごとに表面積を計測、割合を算出（B）し、表IV-1にまとめた。

プランメーターを用い三回の計測の平均値を計測結果とした。両者の差は、測定に伴う誤差と考えておく。

A；2.520㎡ B；2.462㎡

Bから考えられる、遺構構築に伴い移動した土量全体における自然層位各層の割合は、Ⅷ層が約70%、V層及び、Ⅵ・Ⅶ層が約14%をそれぞれ占めると判断され、先に行った精密機器を用いない概算による、体積計算で求めた結果とほぼ同じと考えて差し支えない。

一方、Aから求められる、遺構に埋没した土量全体における自然層位各層の大まかな割合は、V層が約58%、ついでⅧ層が約27%、Ⅵ・Ⅶ層は約15%となる。

- 1)；遺構構築により移動された土量全体における各自然層位が占める割合は、体積計算と表面積のどちらで算出しても、ほぼ同じであった。
- 2)；V層の割合は、構築時は約14%で、埋没時は約58%となり、埋没時には約4倍に増加している。
- 3)；Ⅵ・Ⅶ層の割合は、構築時と埋没時でほぼ等しい。
- 4)；Ⅷ層の割合は、構築時は約70%で、埋没時は約27%となり、埋没時には約4割に減少している。

ここで、2)及び4)となった原因について、少し考えてみる。

・土層断面図を作成した面は遺構においては部分的であり、遺構全体をみた場合、構築時と埋没時の

割合が一致している可能性もある。

- ・土層断面の観察において、V層黒色土はその色調の強さから、多く存在すると誤認させやすい傾向があり、Ⅷ層はその逆であることが考えられる。

- ・V層黒色土は、遺構構築当時の地表面の層であると考えられ、地表にあるため、遺構の内部に流れ込み堆積しやすい層であったと推測される。

### C. 遺構の埋没過程

土層断面図から理解される、本遺構の構築から埋没過程までの流れを述べる。

#### 1. 構築

土層断面では「掘り込み面（＝構築面）」の下限は、本遺構構築に伴う掘り上げ土が流入した層と考えられる覆土第1Ba層（3）の下位の層界に位置するVI～VII層と判断されるが、V層主体の覆土第1A層（1・2）と垂直位置をほぼ同じとするV層中であった可能性も考えられる。当時の地表面から、V、VI・VII層、Ⅷ1層、Ⅷ2層が掘られて本土坑は構築された。また、ほぼ平坦な坑底面にみられる土坑状の浅いくぼみは、人為的に設けられたものと推測される。

#### 2. 埋没過程

はじめに黒色土（VI層と判断）主体の覆土第1D層（10）や覆土第1Ca・b層（8・9）が堆積した。他最下層に位置する層は、覆土第2Ca・b層（17・18）がある。前者は部分な層でⅧ2層主体であり、後者はⅧ層主体である。両者の上位には、覆土第1Bc・2Aa・2Ca層（5・11・17）の部分的な層が認められる。次に堆積したと考えられる層は、図面の左側部分に認められる黄～灰色土の主体の覆土第2Bb・c・d層（20・21・22）である。これらは、遺構の壁となっているⅧ1・2層が崩落し堆積したものと考えられる。黒色土の混在が全く認められないことが傍証であろう。その右側部分には覆土第1Be、2Ae・f層（7・15・16）が堆積し、それぞれ黒色土主体、Ⅷ層主体、Ⅷ層主体の層である。次に覆土第2Ad・e、1Bd層（14・13・6）と部分的な覆土である覆土第2Aa、1Bc層（11・5）が堆積する。この時点で遺構の中位付近までが埋没し、覆土第2Ab・c層の上面で明瞭なくぼみ状を呈していたと推測される。また、覆土第2層と大別した黄～灰色土主体の層は、これより上位部分には堆積が認められない。これの上位には、覆土第1Ba・b層（3・4）が堆積しており、ともに黒色土主体の層である。覆土第1Ba層（3）の上位におけるくぼみの形状はやや緩やかである。その上位にはV層主体でⅧ2層（Ng）軽石を含む覆土第1Aa・b層（1・2）がみられ、さらに上位には、くぼみの形状を留めた状態でIV層（B-Tm）が堆積する。

#### 3. 補足事項

上記の内容をふまえ、若干の補足をしておく

##### ・覆土最下層～中位付近について

覆土最下層付近の覆土（覆土第1C・D、2B、2C）のあり方から認識される事項を述べる。覆土最下層に位置する黒色土主体の層は、遺構廃棄時における当時の地表面の土に由来する可能性があり、覆土第1D層（10）や、1Ca・b層（8・9）がそれである。また、覆土第2B・C層のうち、Ⅷ層主体の覆土第2Bb・c・d（20・21・22）、2Ca（17）層は、これらが本来的な基本層位の序列上で位置する部分から判断すると、壁の崩落土であると考えられる。従って土坑の断面形態は構築時本来の形状を留めていないといえる。また、覆土第2Ba、Cb層（19・18）の両者は、Ⅷ層主体であることから、壁も含む構築面付近からの崩落土であると解釈される。

##### ・中位付近～上位部分について

中位付近よりも上位は、黒色土主体の覆土で占められており、穴の深さが浅くなれば、壁の崩落は

起こりにくくなる可能性が考えられ、Ⅷ層等を主体とする層が認められない。また、遺構内の堆積が進行するにつれて、その上面で形成されるくぼみは浅くゆるやかになる（水平に近づく）と考えられる。上位部分はⅤ層主体土で構成されるが、Ⅷ2層（Ng）軽石が混在する等、基本層序のⅤ層そのものに相当する層は認められない。しかし、この時点での地表面はⅤ層中であると考えられ、これらがⅧ2層等を主体とする掘り上げ土と混在し、くぼみに堆積した可能性も考えられる。また、遺構の上端付近、すなわち構築面と壁の最上位部分は、遺構の埋没の初期段階で、土の崩落が生じやすい部分であると考えられ、この付近も遺構構築時本来の形状を留めていない可能性が高い。

#### D：検証作業の意義

以上述べたように、遺構の覆土について細かく考えてみた。本来この種の思考体系は、一般的には常識的な約束事として認識されている「前提事項」として、改めて主張する性格のものではないであろう。しかし、このような検証・整理は、個々の調査事例に対して、漠然と捉えていた事実が体系的に理解されたり、導かれた調査結果に矛盾事項が含まれていることが判明したりする。

緊急発掘調査という条件のもとであっても、可能な限り埋蔵文化財を考古学的に適切な方法で調査し記録することが重要であることは言うまでもない。また、最終的に「発掘調査報告書」という形で残される調査記録の質や量、遺構・遺物の解釈といった「考古学的な情報」は、調査担当者の能力や資質に大きく左右される性格のものでもあり、個人的な主観により導かれた調査結果に対して、第三者的な視点から体系的に再検証・再整理してから報告することは、発掘調査に公務として携わる埋蔵文化財行政担当者にとって必要不可欠な手続きであろう。（末光正卓）

表Ⅵ-1 P-72覆土・包含層対比表

断面図番号	主体層	層位名称	主体層	現在層	礫（長径2mm以上）				A		B		
					種類	混在割合 %	面積 ㎡	面積割合 %	自然層位	包含層土層断面図			
										面積 ㎡	面積割合 %		
1	黒色土	覆土	1 A a層	V	主体	Ⅷ2 (Ng)軽石	20%	0.216	8.57	V層	0.334	13.57	
2		第1 A層	1 A b層	V	主体	Ⅷ2 (Ng)軽石	7%	0.280	11.11				
3		第1 B層	1 B a層	V	主体	Ⅷ2 (Ng)軽石	5%	0.328	13.02				
4		第1 B層	1 B b層	V >	Ⅷ1 + Ⅷ2	Ⅷ2 (Ng)軽石	5%	0.292	11.59				
5		第1 B層	1 B c層	V	主体	Ⅷa	無	0.212	8.41				
6		第1 B層	1 B d層	V >	Ⅷa	無	0.098	6.74					
7		第1 B層	1 B e層	V +	Ⅷ1 主体	無	0.028	1.11					
小計													
							1.454	57.70					
8	黒色土	覆土	1 C a層	Ⅷ1 +	Ⅷ	無	0.034	1.35	Ⅷ1・Ⅷ層	0.338	13.73		
9		第1 C層	1 C b層	Ⅷ1 >	V + Ⅷ	無	0.032	1.27					
10		第1 D層	1 D層	Ⅷ1 >	V + Ⅷ	無	0.012	0.48					
11	黄～灰色土	覆土	2 A a層	Ⅷ	主体	無	0.020	0.79	Ⅷ1・2層	1.790	72.71		
15		第2 A層	2 A f層	Ⅷ + V	> Ⅷ1	無	0.130	5.16					
16		第2 C層	2 C b層	Ⅷ >	V	無	0.108	4.29					
18		第2 B層	2 B a層	Ⅷ +	Ⅷa	無	0.048	1.90					
小計							0.384	15.23					
12	黄～灰色土	覆土	2 A b層	Ⅷ +	V	Ⅷ2 (Ng)軽石	10%	0.176	6.98	Ⅷ1・2層	1.790	72.71	
13			第2 A層	2 A c層	Ⅷ +	V	Ⅷ2 (Ng)軽石	10～15%	0.166				6.59
14			第2 A層	2 A d層	Ⅷ1 >	Ⅷ + V	無	0.080	3.17				
15		第2 A層	2 A e層	Ⅷ1	主体	無	0.064	2.54					
17		第2 C層	2 C a層	Ⅷ2軽石	主体	Ⅷ2 (Ng) 軽石他	0.014	0.56					
20		第2 B層	2 B b層	Ⅷ2	主体	Ⅷ2 (Ng) 軽石他	0.128	5.08					
21	覆土	第2 B層	2 B c層	Ⅷ2	主体	無	0.024	0.95	Ⅷ1・2層	1.790	72.71		
22		第2 B層	2 B d層	Ⅷ1 +	Ⅷ2 主体	Ⅷ2 (Ng) 軽石他	0.030	1.19					
小計							0.682	27.06					
合計							2.520	100	合計	2.462	100		

## 2. 三次郎川右岸遺跡出土の土器

三次郎川右岸遺跡で出土した土器についてその時期と特性について述べる。

**Ⅱ群b類土器**：図Ⅳ-4-14に示したものは円筒下層d<sub>1</sub>式のうちでも上層式に近い時期のものであり、八雲町栄浜1遺跡166号住居土器出土のものに近いものである。

**Ⅲ群a類土器**：H-3・4・H-4-1（図Ⅲ-83）は円筒上層d<sub>2</sub>式期に北海道の在地色が強い土器が出現する時期を示す。H-11の覆土上部からは円筒上層e式のまとまった資料H-11-1～3（図Ⅲ-89）が得られた。P-29-3（図Ⅲ-102）・図Ⅳ-6-1～6も同じ斜面からの近い位置での出土であり、関連するものである。

**Ⅲ群b-1類**：H-2-1（図Ⅲ-82）は直線構成の文様が胴部にあり、口縁部の渦巻き文が消滅したタイプのもの。頸部で口縁部と胴部を区画する文様の発生と、口唇部の渦巻き文の消滅は同時に進行するものであり、H-8-1（図Ⅲ-86）のように口縁部に渦巻き文を持ち、胴部には渦巻き文がなく頸部に文様を持つものもある。H-9-2（図Ⅲ-86）は頸部に明瞭な区画帯を持ち、口縁を無文とするが口唇部と胴部に渦巻き文が残る。H-15の床面遺物1・2（図Ⅲ-92）については口縁部に渦巻き文様を持つものと沈線文を持たない2単位の波頂部の土器の共伴例があり次段階Ⅲ群b-2類の土器組成につながるものである。H-19-13（図Ⅲ-98）は床面遺物であり、H-16床面遺物と接合した。H-16-1（図Ⅲ-92）とH-19-13は同時期の可能性が高い。頸部に口縁部を区切る文様を持つものと、口唇部に渦巻き文の痕跡を残すものが共伴している。Ⅲ群b-1類の時期には縄文を縦回転して施文する例が増える。H-19-15（図Ⅲ-98）のようにⅢ群b-1類の深鉢の特徴をよく残し、絡条体を縦回転させる地文のもの出現が、今回、三次郎川右岸遺跡のⅢ群b類とした、絡条体地文の土器群（図Ⅳ-20-14～18）、およびF-1-3～5（図Ⅲ-113）のような絡条体地文に沈線文を伴うものへと連続していくと考える。森町石倉2遺跡竅穴住居出土土器群の前段階ともいべき様相である。P-71-1～3（図Ⅲ-105）は覆土6層における共伴遺物である。

**Ⅲ群b類土器**：H-1-1～3（図Ⅲ-82）は1の文様が示す縄文時代中期後半大安在B式期の土器の器種組成を示す良好な資料である。沈線文を持たない土器が併用されており、埋壘H-5-1（図Ⅲ-84）と埋壘H-9-1の（図Ⅲ-87）がこれらに近い時期の可能性が高い。H-9-2（図Ⅲ-87）についても同様であり、この土器は3単位の波頂部に渦巻き文様の痕跡を示す。尚、H-5-7（図Ⅲ-84）は、大きさに違いはあるが、埋壘H-1-1と器形・文様が類似する。

**Ⅳ群a類土器**：H-6-1（図Ⅲ-85）の土器は網目状絡条体を持つ土器である。貼付帯はないが、帯状に縄文が底部際を巡る。図Ⅳ-43-134や八雲町コタン温泉遺跡の例など、主として口縁部に貼付帯を持つものは縄文地文を底部際まで密に施し、大津式およびそれに伴う地文のみの土器のように底部をミガキ調整によって無文とするものと異なる。要因として時期差のほかに、同時期の地域差を反映している可能性が考えられる。現段階において（平成の合併以前の）八雲町内で、明らかな涌元式の出土例が極めて少なく、余市市に類似した貼付帯を持つ土器の出土が多い。徐々に十腰内起源の沈線文が北上していく過程の反映として捉えうる。図Ⅳ-34-63はトリサキ式から大津式への過渡期的様相、図Ⅳ-35-74・75・77は十腰内I式期の文様が地文のみの土器へ表出した在地的様相を示している。

H-7-1～3（図Ⅲ-85）は覆土の遺物であり、口縁部に頸部を持つ深鉢である。1は糸痕による充填文を持つ。深鉢の器形としては頸部を持つ個体で、胴部の最大径が口径より大きいあるいは近いものが多い。その中にはH-8-3（図Ⅲ-86）のように無文のものもある。H-8・14はベンチ構造を持つ縄文時代中期前半の住居の窪みにまとまったⅣ群a類土器の出土があったものである。H-



14についてはS-4・5といった生活痕跡も存在する。

包含層のIV群a類について述べたように、調査区の南西側に、トリサキ式、北東側には大津式の分布が濃い。大津式については、磨消縄文を持つ個体より、条痕による充填文、あるいは刺突による充填文(図Ⅲ-86-H-8-2、図Ⅲ-93-H-16-4)のものが目立つ。充填文以外に、3本一組の沈線文を持つものが多い。これらは、文様構成と器形の特徴から、新道4遺跡のまとめによるところの盛土1類・2類に近い。トリサキ式のうち新しい段階である浜松2遺跡8号住居址に近い文様構成のもの(図Ⅲ-103-P-44-2・図Ⅲ-106-P-73-2・図Ⅳ-24-14)、および3本一組の沈線文のもの(図Ⅲ-104-P-51-2・図Ⅲ-110-P-80-1・3・図Ⅳ-24-11・13・15)は「盛土1類」の範疇であり、充填文を持つ土器については文様構成および胴部の張り出した括れ口縁を持つ「壺形」の器形(先述のH-7・8出土遺物・図Ⅳ-26・27-22~25等)から「盛土2類」に近いものである。ただし「く」や「乙」の字文の連続は見られない。今回出土した大津式は古い段階の一群と判断した。H-16・19の覆土上部出土IV群a類も土器を当期のものであり、H-17・18は当期の住居と考える。S-2についてもS-2-1(図Ⅲ-112)から、この時期の配石という可能性がある。大津式の口縁部形態を持つ地文のみの土器(図Ⅲ-96-H-19-4・5、図Ⅳ-28・29・30-28~30・34~41)もその段階の土器群に含まれると考える。これらの沈線文を持たない土器には、地文の縄文が横走するものや、多段の折り返し口縁を持つものがあり、それらは大津式特有の口縁部形態を持たない地文のみの土器と出土状況に差はない。P-76-1~3(図Ⅲ-107)は大津式の特徴を持つ土器と持たない土器であり、同じ土坑に埋納されていた。森町濁川左岸遺跡の出土状況から涌元式のころには、沈線文を持たない土器のうちで地文の縄文が横走するものや、多段の折り返し口縁を持つものが、沈線文を持つ土器と並存している。今回の出土状況から、地文の縄文が横走するもの、多段の折り返し口縁を持つものが大津式の古段階まで残る可能性がある。地文のみの土器の中にはオオバコ回転文地文の可能性のあるもの(図Ⅲ-106-P-73-7・図Ⅲ-107-P-76-1)がある。

試みとして掘り上げ土(図Ⅲ-2)の上下で時期差について新道4遺跡の盛土1類、2類を目安に確認作業を行ったが、文様による明確な時期差は確認できなかった。盛土1類に近いH-19-3(図Ⅲ-96)と、盛土2類相当で整った条痕のH-19-1(図Ⅲ-95)、盛土2類相当で不整な条痕文の図Ⅳ-25-20・21、縄文地文のみの土器では縄文が縦走するH-19-9(図Ⅲ-97)および縄文が横走するP-80-4(図Ⅲ-110)、斜行縄文の図Ⅳ-31-50、無文地の土器では図Ⅳ-33-56、大津式の特徴を持つ口縁部形態の図Ⅳ-28-28と折り返し口縁を持つH-19-7(図Ⅲ-96)図Ⅳ-33-55といった多様な土器が掘り上げ土の下から出土した。そのうち掘り上げ土中の土器と接合したものは、盛土2類相当で整った条痕のH-19-1、盛土2類相当で粗い条痕の図Ⅳ-25-21、縄文地文のみの土器では縄文が縦走するH-19-9および縄文が横走するP-80-4、斜行縄文の図Ⅳ-31-50、無文地の土器では図Ⅳ-25-56である。ただし盛土1類に近いH-19-3は盛土2類に近いものである。接合関係を調べた中では明らかに掘り上げ土上のもので下のものと接合したものはなかった。ただしこれらに包含層調査の結果を踏まえても今回の調査成果だけでは、大津式の時期差(盛土1類、2類の追認を含めて)を明確に細分することはできなかった。

**VI群土器:** 後北式の出土が目立った。後北B式、後北C<sub>1</sub>式、後北C<sub>2</sub>D式が出土し、主体はC<sub>1</sub>式である。他にアヨロ3式又は漸櫛南川IV群に並行すると思われる縄文地に沈線文を持つ土器(図Ⅳ-46・47-4~8・10・図Ⅳ-48-18~22)、および後北C<sub>1</sub>式に並行すると石本省三(1979、1984)が指摘した聖山K II群に相当する土器(図Ⅳ-49-25)の出土がある。

**VII群土器:** (一個体のみ出土した図Ⅲ-115-1)については土師器に近い形状であり、肩部に段の名残と思われる沈線が巡る。(大泰司)

## 引用参考文献

### 【論文・書籍等】

- 大久保雅弘・藤田至則 1984 『地学ハンドブック・新訂版』 築地書館  
小山正忠・竹原秀雄 1967 『新版標準土色帖』 日本色研事業株式会社  
瀬川秀良 1974 『日本地形誌 北海道地方』 朝倉書店  
石岡憲雄 1994 「摺入文」『縄文文化の研究』5 雄山閣  
石本省三 1979 「聖山遺跡の縄文土器について」『聖山』  
石本省三 1984 「北海道南部の縄文文化」『北海道の研究』第2巻  
大沼忠春 1981 「北海道中央部における縄文時代中期から後期初頭の編年について」『考古学雑誌』66-4  
大沼忠春 1982 「縄文時代型式の編年」『縄文土器大成』5 講談社  
大沼忠春 1986 「道南の縄文前期土器群の編年について(2)」『北海道考古学』第22輯  
大沼忠春 1989 「縄文土器様式」『縄文土器大観』4 小学館  
小笠原忠久 1984 「北海道南西部における縄文時代前・中期の集落」『北海道の研究』第1巻  
葛西 勲 1979 「十腰内I式土器の編年的細分」『北奥羽古代文化』第11号  
葛西 勲 2002 『再葬土器棺墓の研究』—縄文時代の洗骨葬—  
児玉大成 1999 「小牧野遺跡における環状列石の構築時期」『青森県考古学』第11号  
坂本真弓 2002 「沢部型石組炉の現在」『海と考古学とロマン』  
佐原 真 1981 「縄文土器文様の復元」『縄文土器大成3』 講談社  
鈴木克彦 1999 「北海道渡島・松山地域の中期末葉から後期初頭の編年」『北海道考古学』第35輯  
鈴木克彦 2001 『北日本の縄文後期土器編年の研究』 雄山閣  
鈴木 信 2003 「3 道央部における縄文どきの編年」『北海道埋蔵文化財センター「ユカンボシC15遺跡(6)」北埋調報192』  
高橋正勝 1974 「知内町涌元遺跡出土の土器と北海道南西部の縄文時代後期前半について」『北海道の文化・31』  
高橋正勝 1984 「北海道中央部の縄文文化」『北海道の研究』第2巻  
高橋正勝 1994 「北海道南部の土器」『縄文文化の研究』4 雄山閣  
千代 肇 1984 考古学ライブラリー25『縄文文化』 ニュー・サイエンス社  
千代 肇 1994 「道南地方の土器」『縄文文化の研究』6 雄山閣  
成田滋彦 1994 「青森県の土器」『縄文文化の研究』4 雄山閣  
成田滋彦 1989 「入江・十腰内式土器様式」『縄文土器大観』4 小学館  
成田滋彦 2000 「縄文時代住居跡の出入り口」『青森県埋蔵文化財センター紀要』  
成田滋彦編 2003 『東北・北海道の十腰内I式再検討』 海峽土器編年研究会  
成田滋彦編 2004 『東北・北海道の縄文時代中期後葉の諸問題』 海峽土器編年研究会  
成田滋彦編 2005 『東北・北海道の縄文時代前期末葉～中期初頭の諸問題』 海峽土器編年研究会  
三宅徹也 1989 「円筒下層式土器様式」『縄文土器大観』第1巻  
三宅徹也 1989 「円筒上層式土器様式」『縄文土器大観』第1巻  
村越 潔 1984 『増補 円筒土器文化』 雄山閣考古学選書10  
三浦孝一 1984 「第二編 先史時代」『改訂八雲町史 上巻』 八雲町  
吉崎昌一 1965 「1 北海道」『日本の考古学II 縄文時代』 河出書房
- 【団体・組織刊行物】  
江別市役所 1970 『江別市史』  
日本第四紀学会第四紀露頭集編集委員会 1996 『第四紀露頭集—日本のテフラ』 日本第四紀学会  
日本の地質『北海道地方』編集委員会編 1990 『日本の地質1 北海道地方』 共立出版株式会社  
ペドロジスト懇談会 1984 『土壌調査ハンドブック』 博友社  
森町編 1980 『森町史』 森町
- 【埋蔵文化財発掘調査報告書】  
今井富士夫・磯崎正彦 1968 「十腰内遺跡」 岩山山  
大島直行ほか 1979 『知内川中流域の縄文時代遺跡』 知内町教育委員会  
青森市教育委員会 1995 『小牧野遺跡』  
乙部町教育委員会 1976 『元和』  
乙部町教育委員会 1989 『緑町2遺跡』

- 木古内町教育委員会 2003 『泉沢2遺跡 A地点』
- 白老町教育委員会 1992 『アヨロ遺跡』
- 高橋正勝 1980 『アヨロ—恵山文化の幕—』
- 松前町教育委員会 1974 『松前町大津遺跡発掘調査報告書』
- 松前町教育委員会 1976 『松前町原口遺跡発掘調査報告書』
- 松前町教育委員会 1978 『鬼沢B遺跡・棚石遺跡調査報告』
- 松前町教育委員会 1983 『白坂』
- 南茅部教育委員会 1996 『大船C遺跡』
- 森町教育委員会 1975 『鳥崎遺跡』
- 森町教育委員会 1994 『御幸町』
- 森町教育委員会 「鷺ノ木4遺跡・栗ヶ丘1遺跡」 2002
- 森町教育委員会 「鷺ノ木4遺跡」 2004
- 函館市教育委員会 1999 『函館市石倉貝塚』
- 函館市教育委員会 1988 『寺町貝塚』
- 八雲町教育委員会 1980 『山崎遺跡発掘調査報告書』
- 八雲町教育委員会 1982 『栄浜1遺跡発掘調査概報』
- 八雲町教育委員会 1983 『栄浜』
- 八雲町教育委員会 1986 『栄浜1遺跡』
- 八雲町教育委員会 1987 『栄浜1遺跡』
- 八雲町教育委員会 1988 『山越5・6遺跡発掘調査報告書』
- 八雲町教育委員会 1989 『浜松2遺跡』
- 八雲町教育委員会 1991 『浜松2遺跡』
- 八雲町教育委員会 1992 『コタン温泉遺跡』
- 八雲町教育委員会 1995a 『浜松5遺跡』
- 八雲町教育委員会 1995b 『栄浜1遺跡』
- 八雲町教育委員会 1998c 『栄浜1遺跡IV』
- 北海道第四期研究会 1974 『西段』
- 【跡北海道埋蔵文化財センター調査報告書（北埋調報）】**
- 跡北海道埋蔵文化財センター 1985 『上ノ国町小伝遺跡』北埋調報 30
- 跡北海道埋蔵文化財センター 1986 『知内町湯の里3遺跡』北埋調報 32
- 跡北海道埋蔵文化財センター 1986 『上磯町矢不來2遺跡』北埋調報 37
- 跡北海道埋蔵文化財センター 1987 『木古内町建川2・新道4遺跡』北埋調報 43
- 跡北海道埋蔵文化財センター 1988 『木古内町新道4遺跡』北埋調報 52
- 跡北海道埋蔵文化財センター 1997 『千歳市キウス5遺跡（3）』北埋調報 115
- 跡北海道埋蔵文化財センター 2000 『八雲町シラリカ2遺跡』北埋調報 142
- 跡北海道埋蔵文化財センター 2001 『八雲町ボンシラリカ1遺跡・黒岩3遺跡』北埋調報 155
- 跡北海道埋蔵文化財センター 2001 『八雲町山崎4遺跡』北埋調報 162
- 跡北海道埋蔵文化財センター 2002 『八雲町山崎5遺跡』北埋調報 165
- 跡北海道埋蔵文化財センター 2002 『八雲町山越3遺跡・山越4遺跡』北埋調報 166
- 跡北海道埋蔵文化財センター 2002 『八雲町野田生2遺跡』北埋調報 167
- 跡北海道埋蔵文化財センター 2002 『八雲町野田生4遺跡』北埋調報 171
- 跡北海道埋蔵文化財センター 2002 『八雲町栄浜1遺跡』北埋調報 175
- 跡北海道埋蔵文化財センター 2003 『森町本内川右岸遺跡』北埋調報 182
- 跡北海道埋蔵文化財センター 2003 『森町濁川左岸—B地区—』北埋調報 190
- 跡北海道埋蔵文化財センター 2003 『森町南茅部1遺跡』北埋調報 191
- 跡北海道埋蔵文化財センター 2004 『森町倉知川右岸遺跡』北埋調報 196
- 跡北海道埋蔵文化財センター 2004 『森町石倉2遺跡』北埋調報 197
- 跡北海道埋蔵文化財センター 2004 『森町濁川左岸—A地区—』北埋調報 208
- 跡北海道埋蔵文化財センター 2004 『森町石倉3・5遺跡』北埋調報 205
- 跡北海道埋蔵文化財センター 2005 『森町三次郎川左岸遺跡・石倉5遺跡（2）・石倉4遺跡』北埋調報 219



## 報告書抄録

ふりがな	もりまち きんじろうがわうがんいせき							
書名	森町 三次郎川右岸遺跡							
副書名	北海道縦貫自動車道(七飯～長万部)埋蔵文化財発掘調査報告書							
巻次								
シリーズ名	北海道埋蔵文化財センター調査報告書							
シリーズ番号	第233集							
編著者名	末光正卓・大泰司統・田中哲郎・新家水奈・熊谷仁志・鎌田 望							
編集機関	北海道埋蔵文化財センター							
所在地	〒069-0832 北海道江別市西野幌685-1 TEL 011-386-3231							
発行年月日	平成18(西暦2006)年9月29日							
ふりがな	ふりがな	コード	北緯	東経	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因	
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	° ′ ″	° ′ ″			
三次郎川 右岸遺跡	北海道茅部郡 森町石倉町 516ほか	01345	B-15-37	42° 9′ 42″	140° 27′ 55″	20030714 ～20031028  20040506 ～20040728	2,600  1,850	高速度路北 海道縦貫自 動車道(七 飯～長万部) 建設工事に 伴う事前調 査
所収遺跡名	種類	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
三次郎川 右岸遺跡	集落跡	縄文時代前期 縄文時代中期 縄文時代後期 続縄文時代 擦文時代	住居跡 19軒 土抗 83基 焼土 16ヶ所 柱状土の土抗 13基 集石 6ヶ所 図化をした フレイク チップの集中 1ヶ所	縄文土器 円筒土器下層式・円筒土器上層式・サイベ沢Ⅶ式・見晴町式・大安在B式・榎林式・鳥崎式・大津式(大津Ⅶ群)・ウサクマイC式 続縄文土器 アヨロ3式(南川Ⅳ群)・聖山KⅡ群・後北式 擦文土器 土製品 石器等 石鏃・石槍・石錐・つまみ付きナイフ・スクレイパー・扁平打製石器・石核・フレイク・石斧・たたき石・すり石・砥石・石皿・台石・加工痕のある礫・焼成礫・礫など 石製品		縄文時代中期前半～後期前葉の集落・墓域 続縄文時代の焼土群 擦文土器の出土		

財北海道埋蔵文化財センター調査報告書 第233集

**森町 三次郎川右岸遺跡**

—北海道縦貫自動車道（七飯～長万部）埋蔵文化財発掘調査報告書—

発行年月日 平成18年9月29日発行

**編集・発行** 財団法人 北海道埋蔵文化財センター  
〒069-0832 江別市西野幌685番地-1  
TEL (011) 386-3231 FAX (011) 386-3238  
[E-mail] mail@domaibun.or.jp  
[URL] http://www.domaibun.or.jp

**印刷** ㈱データワークス  
〒060-0006 札幌市中央区北6条西14丁目1-1  
TEL (011) 207-7007